初級教科書の語彙分析－動詞編（２）文法的な性質－
コーパスに基づく言語学教育研究資料3

グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
東京外国語大学大学院総合国際学研究院
2012

早津 恵美子（HAYATSU Emiko）（監修）
アクマタリエワ ジャクシルク（AKMATALIEVA Jakshylyk）、
金 俸呈（KIM Bongjung）、辺 純影（BYUN Soonyoung）（著者）

＜本報告の位置づけ＞

本報告は、東京外国語大学大学院 グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」(代表：峰岸真琴)のなかのプロジェクトの一つ「コーパスにもとづく語彙論入門書の作成」(担当：早津恵美子)の成果の一部である。

このプロジェクトの一環として、非母語話者向けの初級日本語教科書を 1 冊とりあげて、そこで提出されている動詞について文法論の観点から詳しく分析した。本報告は、その結果をまとめたものであり、先に、同じ教科書中の動詞について語彙論の観点から分析報告した『初級教科書の語彙分析―動詞編(1) 語彙的な性質―』(2010)と対をなすものである。詳細については、本文「0. はじめに」を参照されたい。

＜作成担当者＞

本報告の編集・執筆にあたったのは次の者である(五十音順)。

編　者：早津 恵美子(大学院総合国際学研究院 教授)
著　者：アクマタリエワ ジャクシルク(大学院博士後期課程)
金 俸呈(大学院博士後期課程)
辺 純影(大学院博士後期課程)

編者・著者に加え、次の者が部分的に作成に関わった(五十音順)。

中山 健一(グローバル COE リサーチフェロー)
李 丹(大学院博士後期課程)

本報告の中心である第 2 章「動詞の統語論的な性質」と第 3 章「動詞の形態論的な性質」は主として著者 3 人が執筆にあたったが、原案の作成にあたっては、中山・李・早津も一部分を担当した。その分担は、次のとおりである。

「2.2. 本報告でとりあげたカテゴリカルな意味」：中山
「2.3. 動詞の構文的な性質－動詞の文型の整理－」：李・早津
「2.4. 文型の面で指導上注意すべき動詞」：金
「3.2. ヴォイス」～「3.10. 形式名詞によるアスペクト」：アクマタリエワ
「3.11. モダリティ」～「3.12. 敬譲」：辺

原案をもとに、編著者 4 人による検討会および、中山・李を加えた 6 人による検討会を数十回にわたって行ない、そのうえで著者 3 人が共同で改稿作業を行なった。したがって、全体については著者 3 人が共同で責任をもつ。

目次

目次 i

表の目次 vi

0. はじめに 1

1. 調査対象・方法 1

1.1.『初級日本語(新装版)』の構成について 2

1.2. 動詞のデータについて 2

2. 動詞の統語論的な性質 6

2.1. 先行研究 6

2.1.1. 動詞の意味の分析について 6

2.1.2. 動詞の基本的な文型の分析について 7

2.2. 本報告でとりあげたカテゴリカルな意味 8

2.3. 動詞の構文論的な性質－動詞の文型の整理－ 9

2.3.1. 人や事物の動きや変化を表わす文型 10

(A) 人の動きや変化や状態 10

(B) 事物の動きや変化や状態 16

2.3.2. 人の働きかけや関わりを表わす文型 21

(A) 物への働きかけ 21

(B) 事への働きかけや関わり 25

(C) 人への働きかけや関わり 28

2.3.3. 教科書内で、2 つ以上の文型で用いられている動詞 32

2.4. 文型の面で指導上注意すべき動詞 38

2.4.1. 動詞の多義と文型 38

2.4.2. 自・他の対をなすもの 39

(A) 提出課および初出順 42

(B) 文型分析 51

2.4.3. 自・他の対をなしていないもの 100

3. 動詞の形態論的な性質 107

3.1. 先行研究と本報告で扱う範囲 107

3.1.1. 先行研究 107

3.1.2. 本報告で扱う範囲 109

3.1.3. 『初級日本語(新装版)』でとりあげられている動詞の形態論的なカテゴリー 116

3.1.4. 各カテゴリーの提出の順序 141
3.2. ヴォイス 143
3.2.1. 受身 144
「サレル」(全 54 例) 144
3.2.2. 使役 146
「サセル」(全 28 例) 146
3.2.3. 可能 147
「デキル」(全 82 例) ／「スルコトガデキル」(全 14 例) 147
3.3. アスペクト 149
(A)「シテイル」(全 248 例) 150
(B)「シテイラッシャル」(全 3 例) 153
(C)「シテオル」(全 7 例) 154
(D)「シテアル」(全 15 例) 154
(E)「シテシマウ」(全 28 例) 155
(F)「シテイク」(全 31 例) 156
(G)「シテマイル」(全 3 例) 158
(H)「シテクル」(全 48 例) 158
(I)「シテイラッシャル」(全 1 例) 160
(J)「シテカエル」(全 2 例) 160
3.4. もくろみ 160
(A)「シテミル」(全 23 例) 160
(B)「シテオク」(全 10 例) ／「シナイデオク」(全 2 例) 161
3.5. やりもらい 162
(A)「シテアゲル」(全 4 例) 162
(B)「シテクレル」(全 11 例) 163
(C)「シテモラウ」(全 15 例) 163
(D)「シテヤル」(全 4 例) 164
(E)「シテクダサル」(全 5 例) 164
(F)「シテイタダク」(全 9 例) 164
3.6. 条件・逆条件 165
3.6.1. 条件 165
(A)「シタラ」(全 25 例) 166
(B)「スルト」(全 21 例) 167
(C)「スルナラ」(全 2 例) ／「シナイナラ」(全 1 例) 167
(D)「スレバ」(全 14 例) 167
3.6.2. 逆条件 168

「シテモ」(全 9 例) ／「シナクテモ」(全 2 例) 168
3.7. 中止 169
(A)「シテ」(全 124 例) ／「シナクテ」(全 1 例) 169
(B)「セズニ」(全 11 例) 171
(C)「シナイデ」(全 5 例) 171
(D)「シ」(全 5 例) 172
3.8. 並列・同時 172
(A)「シタリ」(全 41 例) 172
(B)「シナガラ」(全 9 例) 173
(C)「シタママ」(全 9 例) 174
3.9. 目標達成 174
(A)「スルタメニ」(全 12 例) 175
(B)「スルノニ」(全 7 例) 175
(C)「シニ」(全 26 例) 176
(D)「スルヨウニ」(全 4 例) ／「シナイヨウニ」(全 7 例) 176
(E)「スルヨウニ命ジル」(全 6 例) ／「シナイヨウニ命ジル」(全 2 例) 177
(F)「スルヨウニナル」(全 12 例) 178
3.10. 形式名詞によるアスペクト 178
(A)「スルトコロ」(全 3 例) ／「シテイルトコロ」(全 4 例) ／「シタトコロ」(全 3 例) 178
(B)「シタバカリ」(全 7 例) 179
3.11. モダリティ 180
3.11.1. 希求 181
(A)「シテクダサイ」(全 86 例)／「シナイデクダサイ」(全 19 例) 181
(B)「シテクダサイマセンカ」(全 4 例) 183
(C)「シテイタダケマセンカ」(全 3 例) 184
(D)「シテクレ」(全 2 例) 184
3.11.2. 許容・不許容 185
○ 許容 186
(A)「シテモイイ」(全 8 例)／「シナクテモイイ」(全 4 例) 186
(B)「シテモカマワナイ」(全 5 例)／「シナクテモカマワナイ」(全 2 例) 187
(C)「シタッテイイ」(全 1 例) 188
(D)「シタッテカマワナイ」(全 1 例) 188
○ 不許容 188
(A)「シテハイケナイ」(全 14 例) 188
(B)「シテハダメ」(全 3 例) 189

3.11.3. 当為 189
「シナケレバナラナイ」(全 32 例) 189
3.11.4. 願望 191
(A)「シタイ」(全 51 例) 191
(B)「シタガル」(全 7 例) 192
3.11.5. 誘いかけ 193
(A)「シマショウ(誘いかけ)」(全 71 例) 193
(B)「シマショウカ」(全 5 例) 194
(C)「シマセンカ」(全 12 例) 194
(D)「シヨウ」(全 2 例) 195
3.11.6. 命令 195
「シナサイ」(全 14 例) 195
3.11.7. 様態 196
(A)「シソウダ」(全 10 例) 196
(B)「～ヨウダ」(全 6 例) 197
3.11.8. 推量 198
(A)「～デショウ」(全 24 例) 198
(B)「～ダロウ」(全 7 例) 199
3.11.9. 推定 200
「～ラシイ」(全 3 例) 200
3.11.10. 推論 200
「～ハズダ」(5 例) 200
3.11.11. 確信度 201
「～カモシレナイ」(全 10 例) 201
3.11.12. 意図 202
(A)「シマショウ(意図)」(全 11 例) 202
(B)「シヨウ(ト)」(全 14 例) 203
(C)「～ツモリダ」(全 20 例) 204
3.11.13. 伝聞 204
「～ソウダ」(全 4 例) 204
3.12. 敬譲 205
(A)「～サレル」(全 7 例) 206
(B)「オースル、御ースル、オークダサイ、御ークダサイ、オーイタダク、御ーイタダク、オーニナル、～ナサル」(全 35 例) 206

4. おわりに 211

＜文献＞ 214

資料 1　形態論的な形の提出課 217
資料 2　本動詞の文法的な意味分析データ 227
資料 3　補助動詞の文法的な意味分析データ 341

表の目次

表 1　「文法的な意味分析データ」の見本 3
表 2　グループ別動詞、提示回数、および初出の課 40
表 3　自・他の対をなす動詞の提出の課、および共通の課 43
表 4　対をなす自・他動詞の本教科書での分布 44
表 5　自・他のうち、一方のみ出ている動詞 48
表 6　「あがる」と「あげる」の広く使われる文型および例 51
表 7　「あく」と「あける」の広く使われる文型および例 54
表 8　「あつまる」と「あつめる」の広く使われる文型および例 55
表 9　「おきる」と「おこす」の広く使われる文型および例 57
表 10　「おちる」と「おとす」の広く使われる文型および例 58
表 11　「おりる」と「おろす」の広く使われる文型および例 59
表 12　「おれる」と「おる」の広く使われる文型および例 61
表 13　「かかる」と「かける」の広く使われる文型および例 62
表 14　「かわる」と「かえる」の広く使われる文型および例 64
表 15　「きえる」と「けす」の広く使われる文型および例 65
表 16　「きこえる」と「きく」の広く使われる文型および例 66
表 17　「きれる」と「きる」の広く使われる文型および例 69
表 18　「こわれる」と「こわす」の広く使われる文型および例 70
表 19　「さがる」と「さげる」の広く使われる文型および例 70
表 20　「しまる」と「しめる」の広く使われる文型および例 72
表 21　「そだつ」と「そだてる」の広く使われる文型および例 73
表 22　「つく」と「つける」の広く使われる文型および例 74
表 23　「つづく」と「つづける」の広く使われる文型および例 76
表 24　「でる」と「だす」の広く使われる文型および例 77
表 25　「とまる」と「とめる」[泊]　の広く使われる文型および例 80
表 26　「とまる」と「とめる」[止]　の広く使われる文型および例 81
表 27　「とれる」と「とる」の広く使われる文型および例 83
表 28　「ながれる」と「ながす」の広く使われる文型および例 85
表 29　「のる」と「のせる」の広く使われる文型および例 86
表 30　「はいる」と「いれる」の広く使われる文型および例 88
表 31　「はじまる」と「はじめる」の広く使われる文型および例 91
表 32　「みえる」と「みる」の広く使われる文型および例 92
表 33　「やける」と「やく」の広く使われる文型および例 94
表 34　「やぶれる」と「やぶる」の広く使われる文型および例 96

表 35 「われる」と「わる」の広く使われる文型および例 96
表 36 「すすむ」と「すすめる」の広く使われる文型および例 98
表 37 「たおれる」と「たおす」の広く使われる文型および例 99
表 38 「なおる」と「なおす」の広く使われる文型および例 100
表 39 「いう」の広く使われる文型および例 101
表 40 「おもう」の広く使われる文型および例 103
表 41 「はなす」の広く使われる文型および例 105
表 42 『初級日本語(新装版)』に出ている形態論的なカテゴリーのうち、本報告で扱うものの種類・先行研究での扱いの有無・初出の課など 109
表 43 カテゴリーごとの例文と動詞の一覧 116
表 44 「敬譲」を表わす表現 139
表 45 動詞の形態論的なカテゴリーの提出の順序 141
表 46 「ヴォイス」を表わす表現につく動詞 143
表 47 本教科書で導入されている「受身」の諸タイプ 144
表 48 本教科書で導入されている「使役」の諸タイプ 146
表 49 本教科書で導入されている「可能」の諸タイプ 147
表 50 「アスペクト」の意味を表わす表現につく動詞 149
表 51 「シテイル」につく動詞の課ごとの詳細 150
表 52 本教科書で導入されている「シテイル」の諸タイプ 151
表 53 本教科書で導入されている「シテシマウ」の諸タイプ 155
表 54 本教科書で導入されている「シテイク」の諸タイプ 156
表 55 本教科書で導入されている「シテクル」の諸タイプ 158
表 56 「もくろみ」の意味を表わす表現につく動詞 160
表 57 「やりもらい」の意味を表わす表現につく動詞 162
表 58 「条件」の意味を表わす表現につく動詞 166
表 59 「逆条件」の意味を表わす表現につく動詞 168
表 60 「中止」の意味を表わす表現につく動詞 169
表 61 本教科書で導入されている「シテ」の諸タイプ 170
表 62 「並列・同時」の意味を表わす表現につく動詞 172
表 63 「目標達成」の意味を表わす表現につく動詞 174
表 64 「シニ」の例文の内訳 176
表 65 「形式名詞によるアスペクト」の意味を表わす表現につく動詞 178
表 66 「希求」の意味を表わす表現と動詞 181
表 67 「許容・不許容」の意味を表わす表現と動詞 185
表 68 「当為」の意味を表わす表現と動詞 189
表 69 「願望」を表わす表現と動詞 191

表 70　「誘いかけ」を表わす表現と動詞 193
表 71　「命令」表現と動詞 195
表 72　「様態」を表わす表現と動詞 196
表 73　「推量」を表わす表現と動詞 198
表 74　「推定」を表わす表現と動詞 200
表 75　「推論」を表わす表現と動詞 200
表 76　「確信度」を表わす表現と動詞 201
表 77　「意図」を表わす表現と動詞 202
表 78　「伝聞」を表わす表現と動詞 204
表 79　「敬譲」表現と動詞 205
表 80　語彙的な敬語 209
表 81　形態論的なカテゴリーがとりあげられている課の詳細（前半） 218
表 82　形態論的なカテゴリーがとりあげられている課の詳細（後半） 220
表 83　モーダルな意味を表わす表現がとりあげられている課の詳細 222
表 84　「敬譲」表現がとりあげられている課の詳細 224

0. はじめに

本報告は、グローバル COE プログラム[1]「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」のコーパス言語学班のプロジェクトの一つである「コーパスにもとづく語彙論入門書の作成」の一環として日本語の初級教科書の中で提出されている単語の分析を行なったものであり、『初級教科書の語彙分析―動詞編(1)語彙的な性質―』(2010 :「前報告」とよぶ)と対をなすものである。従来の研究には、一冊の教科書をとりあげてそこに出てくるすべての単語について語彙的・文法的な性質の研究を総合的に行なったものはあまりないように思われる。前報告と本報告は、日本語学習者(日本語非母語話者)向けの初級教科書を一冊対象として、単語(動詞)の語彙的・文法的な性質の分析を網羅的に行なうことを目指した。

前報告と同じく、調査の対象としている教科書は『初級日本語(新装版)』(東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 1994)である[2]。『初級日本語(新装版)』は、日本の大学に進学するため一年の短期集中予備教育を受ける留学生を対象とし、大学進学後の日本語による学習活動もできる能力の習得を意識して作られたものである。この教科書では、日常生活だけではなく、専門分野における知的活動をもできるように「聞く・話す・読む・書く」という四技能の総合的な養成がめざされており、全体の内容と構成が綿密に練りあげられている。巻末には「付表(ふひょう)」[3]も付いており、日本語学習者の勉学を支えていると考えられる。また、『初級日本語(新装版)』は本学の留学生日本語教育センターで刊行され、使われてきているということもあり、前報告に引き続き調査の対象とした。

本プロジェクトにおける初級日本語教科書の語彙についての研究は、『初級日本語(新装版)』で提出されている名詞、動詞、形容詞、副詞の全体について、単語の語彙的な性質・文法的な性質の分析を目指すものであるが、まずは動詞から分析を始め、前報告では動詞の語彙的な性質を報告し、本報告では動詞の文法的な性質(統語論的な性質と形態論的な性質)を報告する。名詞、形容詞、副詞の語彙的な性質・文法的な性質の分析も今後行なっていきたい。

1. 調査対象・方法[4]

『初級日本語(新装版)』は東京外国語大学留学生日本語教育センターによって 1994 年に

---

[1] グローバル COE プログラムは、「平成 14 年度から文部科学省において開始された「21 世紀 COE プログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする事業」(http://www.jsps.go.jp/j-globalcoe/index.html)である。

[2] 『初級日本語(新装版)』は、1990 年に東京外国語大学附属日本語学校編著として刊行された『初級日本語』の新装版である。

[3] 「1.1. 『初級日本語(新装版)』の構成について」を参照していただきたい。

[4] 「1. 調査対象・方法」は、『初級教科書の語彙分析―動詞編(1)語彙的な性質―』の「2. 調査対象・方法」に若干の修正を加えたものである。

刊行された教材である(本調査では 2005 年発行、第 7 刷版を使用)。

1.1.『初級日本語(新装版)』の構成について

『初級日本語(新装版)』(以下、「本教科書」とよぶこともある)は、まず「1 課」から「28 課」の本文があり、それに続いて、「読み物」の「1」から「10」が出され、その後に、「付表(ふひょう)」と「かんじのインデックス」、「ことばのインデックス」の順に構成されている。「1 課」から「28 課」まで各課では、まず一つの場面が設定され、その中での会話文が出されている(本文会話)。その後に「しつもん」、「ぶんけい・ごい」、「あたらしい　ことば」、「あたらしい　かんじ」が載っている。「読み物」の「1」から「10」までは作文や物語、手紙文などの後に、「しつもん」、「あたらしいことば」が続いている。「内容と構成」の説明にも書かれてあるように、「読み物 1〜10」は「1 課〜28 課」の「本文会話」、「文型・ごい」をまとめる形で用意されている(そのため、本報告では 28 課を「最終課」と考える)。具体的には、「読み物 1」は、教科書の 1 課〜6 課、「読み物 2」は 7 課〜11 課、「読み物 3」は 12 課〜13 課、「読み物 4」は 14 課〜16 課、「読み物 5」は 17 課〜19 課、「読み物 6」は 20 課〜21 課、「読み物 7」は 22 課〜23 課、「読み物 8」は 24 課〜25 課、「読み物 9」は 26 課〜27 課、「読み物 10」は 28 課の練習である。「付表(ふひょう)」は「1 課」から「28 課」までの「文型リスト」、「動詞の活用形に続く形」、「動詞の表 270 語」、「形容詞の活用」、「形容詞のひょう 134 語」、「動詞の活用」、「カタカナのことば(125 語)」、「かんじの表(600 字)」で構成されている。さらに、「かんじインデックス(600 字)」と「インデックス(INDEX)あいうえお順」、「よみものインデックス(INDEX)あいうえお順」が載っている。このように学習にあたって様々な配慮がなされているため、学習者にとって学びやすく、教師にとっても指導しやすいという特徴を持っている。このような理由で本教科書を用いて分析を行なうことにした。

1.2. 動詞のデータについて

考察対象とする動詞は、『初級日本語(新装版)』の本文会話、「しつもん」、「ぶんけい・ごい」、「読み物」の所からすべてとりだしたものである。動詞の語数は 3545 例[5]である。これらの内訳は、本動詞として使われているもの(2955 例、異なり 335 語)と補助動詞として使われているもの(590 例、異なり 18 語)である。

本動詞に関しては、「文法的な意味分析データ」という資料を作成した(＜資料 2＞)。一方、補助動詞に関しては、＜資料 2＞の A 欄から I 欄に当たる情報をのせた資料を作成し、＜資料 3＞とした。

[5] 『コーパスに基づく言語学教育研究資料 2　初級教科書の語彙分析—動詞編(1)語彙的な性質—』では、全 3464 例としていたが、数えもれがあり、81 例を追加した。

分析に入る前に、<資料 2>の「文法的な意味分析データ」の見本を示し、それぞれの欄について簡略に述べておく。

表 1「文法的な意味分析データ」の見本

A	B	C	D	E(当該の動詞が使われている文)	F	G	H	I	J(基本的な文型)	K(教科書の中の文型)
ア	あう	会う	五	やまださんの お母さんに 会いましたか。	8	64			《人》が 《人》と／に 会う	《人》が 《人》に 会う
ア	あう	会う	五	マナさんは こうえんで ともだちと会いました。	8	67			《人》が 《人》と／に 会う	《人》は 《人》と 会う
ア	あびる	あびる	上一	わたしは さっき シャワーを あびました。	18	155			慣：シャワーを浴びる	慣:シャワーを浴びる
カ	かう	買う	五	どこへ 行けば、買えるでしょうか。	21	185	デキル	～デショウ	《人》が 《物》を 買う	買う
キ	きえる	消える	下一	部屋の 電気が 消えて います。	25	224	シテイル		《物》が 消える	《物:機器:電気》が 消える
ク	くる	来る	カ変	先生は 明日 ここへ 来られます。	28	249		サレル(尊敬)	《人》が 《場所》から 《場所》に／へ／まで 来る	《人》は 《場所》へ 来る
ス	する	する	サ変	朝 早くから 娘は、食事の 用意をしたり、そうじをしたり して、	Y9	278	シタリ、シテ		《人》が 《事》を する	《人》は 《事:用意》をする

A 欄 :動詞の語頭音(カタカナ)

B 欄 :動詞の辞書形(ひらがな)

C 欄 :教科書本文での表記(辞書形)

当該の動詞が教科書本文で漢字表記されている場合は C 欄に漢字で記してある。

D 欄 :活用の種類

活用の種類は以下のとおりである(丸括弧内は表中での略号)。

五段活用(五)、上一段活用(上一)、下一段活用(下一)、カ行変格活用(カ変)、サ行変格活用(サ変)

E 欄 :当該の動詞が使われている文

E 欄には当該の動詞が使われている文を原則としてそのまま抜き出しているが、文が非常に長い場合は、一部を省略し「……」で示している。なお、教科書では後半の 1／3 の課は分かち書きにしていないが、この欄ではすべて分かち書きにした。

F 欄 :課

当該の動詞が提示されている課を示している。「Y」は「読み物」を指す。

G 欄 :ページ数

当該の動詞が提示されているページ数を示している。

H 欄 :ヴォイス、アスペクト、条件などを表わす形態論的な形 (とりだす形の詳細に関しては、「3.2.」〜「3.10.」を参照していただきたい)

当該の動詞が、「ヴォイス」、「アスペクト」、「条件」などを表わす形態論的な形である場合、その形を示す。2 つ以上の形がある場合もすべて記する。

I 欄 :モーダルな意味(希求、許容など)、謙譲を表わす形態論的な形 (「3.11.」「3.12.」を参照)

当該の動詞が、モーダルな意味(希求、許容など)、謙譲を表わす形態論的な形である場合、その形を示す。H 欄と同様、2 つ以上の形がある場合もすべて記する。

J 欄 :基本的な文型

当該の動詞にとって必須と思われる項(ガ格、ヲ格、ニ格など)をとりだして提示する。「それぞれの項の名詞に関しては、カテゴリカルな意味[6]をとりだし、「《 》」の中に示す。慣用的な表現に関しては、「慣 : 」の後に、固定している組み合わせをそのまま示す。なお、同じ文型が繰り返される場合には、「〃 」という記号で示す。

K 欄 :教科書の中の文型

J 欄の「基本的な文型」をもとにするが、教科書の中に出ている形を尊重して示す。例えば、「は」「も」などの取り立て助詞で表わされている場合には、そのまま示し、J 欄で必

[6] 「カテゴリカルな意味」に関しては、「2.1. 先行研究」および「2.2. 本報告でとりあげたカテゴリカルな意味」を参照していただきたい。

須項として出しているものでも、教科書の中の文に出ていない場合には、出ている項のみを示す。また、それぞれの項の名詞に関しては、J 欄で示した、カテゴリカルな意味を「《　》」の中に記する。ただし、ある程度限定されている、あるいは、指導上注意したほうがよいと思われる名詞が出ている場合には、カテゴリカルな意味の後に、「：」で続け、名詞の下位分類を示す(「《○：○》」)。かなり特殊な名詞に関しては、下位分類、および、本教科書の中の名詞そのものを両方示す場合もある(「《○：○：○》」)。慣用的な表現に関しては、J 欄と同様、「慣：」の後に、固定している組み合わせをそのまま示す。

◆「文法的な意味分析データ」の中の同じ動詞の順序について

J 欄の「基本的な文型」と K 欄の「教科書の中の文型」を優先し、数の多い順で並べる。数が同じである場合には、G 欄の「ページ数」を優先する。J 欄が「慣：」(慣用的な表現)であるものは、最後に、数の多い順で示す。

2. 動詞の統語論的な性質

2.1. 先行研究

2.1.1. 動詞の意味の分析について

本報告では、『初級日本語(新装版)』の本動詞の統語論(構文論)的な性質を考察するために、教科書の中での文型、および、その動詞自体の基本的な文型の分析を行なった。その分析は巻末の＜資料２＞である[7]。

本節では、その動詞の文型分析に主に参考としている先行研究を紹介する。まず、名詞の意味の分析において参考にしている、奥田靖雄(1974)と早津恵美子(2009)(「カテゴリカルな意味」)について述べ、次に、基本的な文型のまとめにおいて参考にしている、『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic Verbs)』と『新明解 国語辞典 第六版』について述べる。

動詞の文型分析の際、組み合わさる名詞は、それらの上位概念をとりだして示す。ただし、同じ名詞であっても、組み合わさる動詞によって、必要な情報のレベルが異なるので、名詞単独ではなく、動詞との組み合わせ全体で考えることに注意する。例えば、名詞を《人》／《物》／《場所》／《事》などの上位概念でまとめるとしても、組み合わさる動詞によってはより具体的な意味のレベルで考える必要のある場合がある。「大学」という名詞を例にして考えてみると、「彼は　毎朝　大学を　とおる。」という文の中では、「駅前をとおる」「住宅街をとおる」の「駅前、住宅街」と同じように“移動する場所”を表わし、ここでの「大学」は《場所》という上位概念で考えることができる。しかし、「彼は　今年　大学を　卒業する。」という文の中では、単なる《場所》という意味ではなく、“全課程の学修を修了する”対象となる機関としての意味をとりださなくてはならず、《組織》といったより具体的な意味レベルで考えることになる。また、「先生」という名詞で考えてみると、「先生が　学生に　本を　渡す。」という文の中では、「渡す」という動作を行なう《人》という上位概念で考えることができる。一方、「彼は　横浜で　先生を　して　いる。」という文の中で「先生」は、仕事としての意味で用いられているため、《人》ではなく、《職業》といった意味レベルをとりだす必要がある。

奥田靖雄(1974)では、このような、他の単語との組み合わせの中でとりだすことのできる単語の意味を「カテゴリカルな意味」と名づけている。本報告では、奥田(1974)を踏まえ、名詞の上位概念をとりだす際、「カテゴリカルな意味」にもとづいて考える。早津(2009)では、奥田(1974、1976、1979、1980-1981)を踏まえて、「カテゴリカルな意味」を次のように規定しており、本報告ではこの規定に従う。

---

[7] ＜資料２＞の中の記号および欄の説明については、「1.　調査対象・方法」「1.2.　動詞のデータについて」を参照していただきたい。

「〈カテゴリカルな意味とは、単語の語彙的な意味のうち、その単語のある文法的な性質(形態論的な性質と構文論的な性質)を規定するものとしてとりだすことのできる側面である。〉」(p.6)

2.1.2. 動詞の基本的な文型の分析について

次に、動詞の基本的な文型の分析の際には、主に、『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic Verbs)』(以下、『IPAL』)と『新明解 国語辞典 第六版』を参考にしている[8]。

『IPAL』は、情報処理振興事業協会(IPA)技術センターによって作成された計算機用の辞書[9]で、基本和語動詞 861 語の文法的な性質(文型、組み合わさる名詞の「意味素性」、名詞句の例、文例、ヴォイス、テンス・アスペクト、ムードなど)が記述されている。『IPAL』は、文型の分類が時に細かすぎるのではないかと思われることがある。例えば、「あがる」という動詞に関しては 18 個の文型を、「とる」に関しては 29 個の文型をとりだしており、非常に類似している文型が 2 つ以上の文型に分けられている場合もある。しかし、文例が豊富で、統語的な環境の中での名詞の「意味素性」が詳しく分析されているという点で非常に参考になる。また、個々の動詞の『分類語彙表』[10]の〔分類番号〕も記載されており、『初級教科書の語彙分析―動詞編(1) 語彙的な性質―』との関連[11]もあるため、本報告でも参考にしている。

学校に	通う	[場所：LOC]	※LOC：location
学校を	建てる	[建物：PRO]	※PRO：products
学校を	休む	[動作：ACT]	※ACT：action
学校が	校則を定める	[組織：ORG]	※ORG：organization

(『IPAL―解説編―』p.30、提示のしかたは筆者が一部改変している)

また、『新明解 国語辞典 第六版』は、動詞に関して、組み合わさる名詞を「どこ」「なに」「だれ」などで表わし、代表的な文型をあげている。例えば、「あがる」という動詞に関しては、①<(どこカラ)どこニ―／どこヲ―>、②<(なにカラなにニ)―>、③<どこニ

---

[8] この 2 つの文献は「2.4. 文型の面で指導上注意すべき動詞」で、個別の動詞をとりだし、それらの「広く使われる文型」をまとめる際にも多く参考にしている。

[9] 動詞編のほか、形容詞編(136 語)と名詞編(1081 語)がある。これらの辞書は、桑畑和佳子・橋本三奈子・村田賢一(1993)によると、機会翻訳、日本語ワードプロセッサ、音声入出力など、様々な応用アプリケーション、また、日本語教育および研究において利用されているという。

・情報処理振興事業協会(1990)『計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL(Basic Adjectives)』

・――――――(1996)『計算機用日本語基本名詞辞書 IPAL(Basic Nouns)』.

[10] 国立国語研究所編(1964)『分類語彙表』秀英出版.

[11] 『初級教科書の語彙分析―動詞編(1)語彙的な性質―』では、「3.1. 語彙的な意味」(pp.7-73)の分析の際、主に『分類語彙表－増補改訂版』(2004)(1964 年(昭和 39 年)に国立国語研究所資料集第 6 として公刊された『分類語彙表』の増補改訂版)を参考にしている。

—>など7個の文型と文例がとりだされている。

以上のような先行研究を踏まえ、文型分析を中心とした動詞の統語論的な性質について詳しく述べる。

2.2. 本報告でとりあげたカテゴリカルな意味

本節では、本報告での動詞の文型分析でとりあげた「名詞のカテゴリカルな意味」について、簡単に述べる。「カテゴリカルな意味」という術語とその規定については「2.1. 先行研究」を参照していただきたい。

本報告では、動詞の文法的な性質を記述することを目的としているが、その1つとして、動詞がどのような名詞と組み合わさるのか、動詞にとって必須と思われる項(ガ格、ヲ格、ニ格など)を分析し、それを「文型」として記述する。例えば「あげる」という動詞では、「友だちに花をあげる」「にんぎょうを子どもにあげる」などさまざまな名詞をとりうるが、その組み合わせの型(文型)を記述するには、その動詞が取りうる名詞に共通する意味を抽象化して、とりだす必要がある。(むろん、多義動詞の場合は、多義それぞれについて、文型をとりだす)。「あげる」の場合、【《人》が　《人》に　《物》を　あげる】という文型をとりだすことができる。この「《　》」で示したものが「名詞のカテゴリカルな意味」である。このように、動詞がどのような語と組み合わさるかという文法的な性質を明らかにする手段として、「カテゴリカルな意味」を使用する。

この際、注意すべきは、動詞の分析に必要な限りにおいての名詞の意味のとりだしを行なうのであって、名詞それ自体を分類するのではないということである。したがって、本報告で提示する名詞のカテゴリカルな意味は、必ずしも名詞分類としての客観性・整合性を求めていない。例えば、「人」は「動物」の一種であり、「動物」が上位概念であるので、「《人》」と「《動物》」とを同じレベルであげるのは、名詞分類としての客観性・整合性の面からいうと疑問があるかもしれない。しかし、上述の「あげる」を例にすれば、「《人》が」「《人》に」という名詞をとることが重要なのであって、動詞の分析をする際には「人」を「動物」の下位に位置づけるのは有益とは言えない。また、以下に示すように、例えば時に関わる名詞を「《時間》」「《時期》」「《時刻》」と他のものよりもやや詳しく分けているが、それは、動詞の文法的な性質を明らかにするために必要と判断したためである。

以下に、本報告で動詞の分析をするにあたり設定した「名詞のカテゴリカルな意味」の一覧をあげる。

《人》: 厳密な意味での人に限らず、人としての捉えて扱っている場合の「にんぎょう」、「ロボット」なども入れる場合がある。

《動物》:「馬」「犬」「魚」など

《乗り物》:「バス」「船」「列車」など
《物》:「にもつ」「食器」「パスポート」など。さらに乗り物・言語作品・身体部位など、さまざまなものを含む。
《組織》:「学校」「会社」など
《事》:「事故」「成績」「温度」など。「V-するの」「V-すること」なども含む。
《イベント》:「パーティー」「試合」など
《現象》:「地震」「音」「火」など
《段階・程度》:「温度を 20 度にあげる」「成績が A にあがる」の場合の「20 度」「A」など
《場所》:「庭」「門のそば」など
《方向》:「こちら」「西」など
《名称》:「田中(と申します)」など
《側面》:「～顔(をする)」「～色(をしている)」など
《職業》:「先生(をしている)など
《時間》:「一年(たつ)」など
《時期》:「おぼん(になる)」など
《時刻》:「8 時(になる)」など
《数量》:「重さ(を計る)」「面積(を計算する)」など
《言語》:「日本語(をききとる)」「英語の文(をほんやくする)」など
《状態》:「いい天気(になる)」など
《内容》: 引用の「～と」。「《人》が《人》に《内容》と言う」の場合など

また、その動詞がどのような意味の名詞をもとることができ、名詞のカテゴリカルな意味のとりだしができない場合は「N」という記号で示す。

2.3. 動詞の構文論的な性質－動詞の文型の整理－

本節では、本教科書に提出されている動詞を、それぞれの動詞にとって基本となる文型によって整理し類型化する。まず、その動詞の表わす動きや変化などにとって必須と思われるものを表わす名詞がどのような格でその動詞と組み合わさるかという観点から各動詞の文型をとらえ「基本的な文型」(巻末の＜資料 2＞の表の「J 欄」に示したもの)とし、それらから同じ文型のものを一つの類としてまとめることにする。ただ、ある名詞項が当該の動詞にとって必須の要素であるかどうかの判断は必ずしも容易ではない。寺村秀夫(1982:82)は、「必須補語」を「あるコトの表現において、言い換えればある述語にとって、それがなければそのコトの描写が不完全であると感じられるような補語」だとし、「そうでないもの」を「副次補語」としているが、両者の間に「準必須補語」をたてている。すなわち、「変化の結果の状態」を表わすニ格名詞は「変エル、決メル、改メル、選ブ、起用ス

ル」などの動詞にとっては必須補語であるが、「増ヤス、減ラス、伸バス、チヂメル、上ゲル、下ゲル、マトメル、アタタメル、ヒヤス、熱スル、冷却スル 、塗ル、割ル、裂ク、格下ゲスル」などの動詞にとっては準必須補語だという。しかし３つに分けたからといって、やはりいずれの類なのかが明瞭に分けられるわけではない。本報告では、奥田靖雄(1968-1972)、宮島達夫(1972)、寺村秀夫(1982)、石綿敏雄・荻野孝野(1983)、成田徹男(1983)、仁田義雄(1986)、森山卓郎(1988)などを参考にして本報告なりに妥当と思われるような判断をした。

なお、慣用的な表現(「電話をかける」「気がつく」「見たことも聞いたこともない」など)や後置詞的な用法(「ニュースによると」)の動詞については文型をたてることになじまないのでここでは扱わない。また、代表的と考えられる類型をたててそれに属する動詞をあげるものであり、教科書中のすべての動詞をどこかに分属してあるわけではない。

以下では、「2.3.1.」節から「2.3.2.」節で、それぞれの文型に属する動詞とそれを含む文の例をあげ、「2.3.3.」節では、本教科書中で 2 つ以上の文型としての使用がみられる動詞について整理する。文型は主として名詞と動詞との組み合わせから成るが、提示に際しては、名詞についてはカテゴリカルな意味によって、《人》、《物》、……と示し、動詞についてはカテゴリカルな意味を「V(生理変化)」「V(除去)」、……のように「V」のあとの括弧内に示す。

それぞれの例文のあとに丸括弧をつけ、提出課とページ数、または、読み物(「Y」と略記)の課とページ数とを示す。

2.3.1. 人や事物の動きや変化を表わす文型

本教科書の動詞の中で、人や事物の動きや変化を表わす文型は、主として「N が　V」という文型であるが、動詞および名詞のカテゴリカルな意味の違いによって、その「N が　V」の表わす構文的な意味がいくつかの類に分けられる。

(A) 人の動きや変化や状態

1【《人》が　V(生理変化)】

生まれる、つかれる、やせる、太る、死ぬ、亡くなる、育つ

・「ことしの　春　女の　あかちゃんが　生まれました。」(8 課 ; 64)
・「わたしは、つかれたので、へやの　中を　かたづけないで、ねました。」(20 課 ; 178)
・「娘は、だんだん　顔色が　わるく　なり、やせて　きましたが、……。」(Y9 ; 277)
・「戦争で　おおぜいの　子どもが　死にました。」(24 課 ; 217)
・「となりの　家の　おじいさんが　亡くなって　しまいました。」(24 課 ; 216)
・「わたしが　育ったのは　タイの　いなかです。」(19 課 ; 163)

2【《人》が (《場所》に) V(生理動作)】

立つ、すわる、動く、起きる、寝る、運動する

・「バスの　中で　たったり　すわったり　しないで　ください。」(12 課 ; 102)
・「あき子ちゃん、ここに　すわりなさい。」(14 課 ; 117)
・「動いては　だめですよ。はい、こちらを　向いて. . . 。」(14 課 ; 117)
・「わたしは　まいあさ　七じごろ　おきます。」(3 課 ; 21)
・「マナさんは、どうも　ゆうべ　おそく　寝た　ようです。」(25 課 ; 221)
・「夕方　たいいくかんで　一じかんぐらい　うんどうしました。」(14 課 ; 116)

3【《人》が　V(動作 - 活動)】

遊ぶ、はたらく、やすむ、おどる、さわぐ、生活する、旅行する、入院する、乾杯する

・「マナさんは　どうも　勉強が　きらいな　ようです。いつも　外で　遊んで　います。」(25 課 ; 224)
・「わたしは、帰国後、新聞社か　放送局で　はたらく　つもりです。」(20 課 ; 176)
・「この　川の　そばで　やすみましょう。」(7 課 ; 56)
・「さあ、わたしたちも　おどりましょう。」(19 課 ; 164)
・「子どもたちが　さわいで　いるのが　聞こえました。」(23 課 ; 205)
・「人間は　陸の　上だけで　生活して　きた。」(Y8 ; 275)
・「わたしは　三日かん　りょこうしました。」(5 課 ; 33)
・「先月　わたしが　にゅういんする　時、母は　とても　心配しました。」(15 課 ; 128)
・「じゃ、お二人の　ために、かんぱいしましょう。」(28 課 ; 247)

4【《人》が (Nに) V(心理変化)】

安心する、喜ぶ、困る、おこる、びっくりする、感心する

・「でも、わたしが　元気に　なった　時、母は　安心するでしょう。」(15 課 ; 128)
・「いもうとも　大学生ですから、日本の　大学の　ことを　知ったら、喜ぶでしょう。」(22 課 ; 194)
・「専門書が　読めなければ、困りますよ。」(21 課 ; 185)
・「わたしは、大きい　声を　出して、友だちを　びっくりさせました。」(27 課 ; 240)
・「ほかの　先生方も　感心なさった　らしいですよ。」(28 課 ; 246)

5【《人》が　V(心理的生理変化)】

なく、わらう、あがる

・「あの　赤ちゃんは　ないたり　わらったり　して　います。」(12 課；102)
・「その　子は　「お母さんが　いなく　なっちゃった。」と　言って、泣いて　います。」(28 課；252)
・「つるは、羽に　けがを　して、苦しそうに　鳴いて　いました。」(Y9；277)
・「田中さんは、じょうだんを　言って、みんなを　わらわせました。」(27 課；240)
・「あの　時は、あがって　しまって、うまく　できませんでした。」(28 課；247)

6【《人》が　V(移動 - 様態型)】

あるく、はしる、とぶ、およぐ

・「人が　おおぜい　あるいて　います。」(11 課；93)
・「マナさんは　小林さんと　同じぐらい　速く　はしれますか。」(8 課；157)
・「じどうしゃが　たくさん　はしって　います。」(11 課；193)
・「鳥が　たくさん　とんで　いますね。」(11 課；91)
・「いつも　川や　プールで　およぎます。」(8 課；67)

7【《人》が　《場所》を　V(移動 - 出発型)】

出る、出発する、降りる

移動動詞のうち出発の側に注目する動詞は、出発点を表わすヲ格の場所名詞(場所-ヲ)と組み合わさる。

・「わたしは　毎あさ　九時ごろ　家を　でます。」(11 課；93)
・「電車は、なん時に　駅を　でて、なんじごろ　かまくら駅に　つきましたか。」(11 課；92)
・「旅行に　出発するのは　十日以前です。」(23 課；207)
・「だいぶつ前の　ていりゅうじょで　バスを　おります。」(11 課；94)

8【《人》が　(《場所》を)　V(移動 - 経過型)】

わたる、通る、下りる、のぼる、流れる、散歩する、回る　〈行く、歩く、走る、とぶ〉　// まがる

・「では、はしを　わたってから、車を　止めましょう。」(17 課；144)
・「あんぜんな　道を　通りましょう。」(17 課；147)

・「マナさんは　かいだんを　下りて　います。」(17 課；147)
・「マナさんは　坂を　上って　います。」(17 課；147)
・「この　川は　せまい　谷を　流れて　います。」(17 課；147)
・「子どもたちは　野原を　さんぽして　います。」(17 課；147)
・「あの　犬は　木の　まわりを　回って　います。」(17 課；147)

・「この　道を　まっすぐ　行くと、信号が　あります。」(19 課；166)
・「歩道を　歩いて　ください。」(17 課；147)
・「車は、今、どの　へんを　はしって　いますか。」(17 課；143)
・「鳥は　空を　とぶ　ことが　できます。」(17 課；147)

※「まがる」の「《場所》を」は、経過する場所というより曲折する位置とでもいうべきものであるが、いちおう経過型にあげておく
・「この　道を　まっすぐ　行って、二番目の　角を　左へ　曲がると、広場に　出ます。」(19 課；163)
・「バスが　角を　曲がる　度に、ゆれます。」(28 課；252)

9【《人》が　(《場所》を)　《場所》から　《場所》へ／に　V(移動)】
行く、来る、参る、帰る、帰国する、出る　〈歩く、走る、泳ぐ〉

・「わたしは　うちから　えきまで　バスで　いきます。」(5 課；37)
・「わたしは　あした　しんじゅくの　こうえんへ　いきます。」(4 課；25)
・「先生は、来週、京都へ　いらっしゃいます。」(28 課；249)
・「ことしの　4 月に　タイの　バンコクから　きました。」(4 課；26)
・「いつ　にほんへ　きましたか。」(4 課；26)
・「すぐ　そちらへ　参ります。」(28 課；250)
・「ジョンさんは　国に　かえって　います。」(13 課；111)
・「たなかさんは　いなかへ　かえる　ことが　ありますか。」(19 課；162)
・「人が　わたしの　いる　へやから　外へ　出て　行きました。」(17 課；148)

※「V-に行く」
・「それで、人々は、しかたなく　都会へ　働きに　行くのです。」(25 課；222)
・「わたしたちは　来月　おおさかの　こうじょうへ　けんがくに　行きます。」(10 課；85)

※「V-テ 行く／くる」

・「アリさんは　うちから　えきまで　あるいて　いきます。」(5 課；37)
・「じゅぎょうに　間に合うように、教室まで　走って　行きました。」(22 課；198)
・「犬が　こちらへ　はしって　来ます。」(17 課；147)

10【《人》が　《場所》に　V(移動 - 到着型)】

着く、うかがう、おまいりする、寄る、おじゃまする、はいる、集まる、留学する　//　乗る

・「もうすぐ　京都に　着きますよ。」(23 課；201)
・「マリアさん、一度、いとう先生の　お宅に　うかがいませんか。」(28 課；246)
・「今度は、近くの　小さな　お寺に　おまいりする　つもりです。」(24 課；211)
・「わたしたちの　乗った　船は、世界一周旅行の　途中で、神戸の　港に　寄りました。」(26 課；233)
・「弟は、へやに　入った　まま、外へ　出て　来ません。」(24 課；216)
・「家の　外では、広場や　学校の　庭などに　人びとが　集まって、よる　おそくまで　にぎやかに　「ぼんおどり」を　します。」(Y5；269)
・「あなたは　外国に　留学する　つもりですか。」(20 課；176)

※「のる」は、【《人》が　《乗り物》に　V】という文型となる。

・「わたしは　しんじゅく駅で　電車に　のります。」(11 課；93)
・「家へ　かえって　来る　時は、足の　速い　馬に　乗ります。」(Y5；268)
・「では、となりの　席に　乗って　ください。」(17 課；143)

11【《人》が　《組織》に　V(所属)】

はいる、つとめる　//　行く

・「おとうとは　来年　しょうがっこうに　入ります。」(11 課；93)
・「いい　条件なら(ば)、その　会社に　つとめます。」(21 課；187)

※「いく」もこの類に準じた文型をとり、そのときには、【《人》が　《組織》に／へ　V(所属)】となることもある。

・「日本では、子どもを　じゅくに　行かせる　親が　多い　そうですが...。」(27 課；238)
・「大学へ　行く　人は　クラスの　十パーセントしか　いません。」(15 課；128)

12【《人》が　《組織》を　V(離脱)】

出る、卒業する

・「いもうとは、きょねん　ちゅうがっこうを　でて、こうとうがっこうに　入りました。」(11 課；94)
・「大学を　卒業してから、どう　する　つもりですか。」(20 課；174)

13【《人》が　《イベント》に　V(事への参与)】

出る、出席する、〈行く〉 //　間に合う、遅れる

・「外国人でも　成人式に　出られるのですか。」(26 課；229)
・「出席するか　どうか、明日までに　返事を　するように　言われました。」(26 課；229)
・「さとうさんも、大学祭に　いっしょに　行きませんか。」(22 課；193)

・「じゅぎょうに　間に合うように、教室まで　走って　行きました。」(22 課；198)
・「会議に　おくれないように、早く　家を　出ましょう。」(22 課；198)

14【《人》が　《人》に　V(対人関係 - 勝敗)】

勝つ、負ける

・「中村さんは、しあいで　友だちに　勝った　らしいです。」(28 課；251)
・「わたしは、けんかを　する　度に、兄に　負けました。」(28 課；252)

15【《人》が　《人》と　V(相互動作 - 1)】

結婚する、別れる

・「あねは　きょねん　おなじ　かいしゃの　ひとと　けっこんしました。」(8 課；64)
・「わたしは　四月に　かぞくと　別れました。」(8 課；66)

16【《人》が　《人》と／に　V(相互動作 - 2)】

会う、相談する

・「よる、人と　会った　時、「こんばんは。」と　あいさつを　します。」(15 課；128)
・「マナさんは　バスの　中で　先生に　会いました。」(8 課；67)
・「わたしは　ともだちと　そうだんしました。」(8 課；67)

・「わたしは　先生に　そうだんしました。」(8 課；67)

17【《場所》に　《人》が　V(存在)】

いる　//　泊まる、住む

・「へやの　外に　アリさんが　います。」(6 課；47)
・「木の　上に　とりが　います。」(6 課；47)
・「うちの　まえに　子どもが　なん人　いますか。」(6 課；47)
・「マナさんは　としょしつに　います。」(6 課；48)

「住む、泊まる」は、存在とはいっても、ある一定期間そこに滞在したり居住したりすることを表わす。

・「ジョンさんは　いま　きょうとに　すんで　います。」(11 課；93)
・「先生は　ここの　ホテルに　泊まってらっしゃいます。」(28 課；253)

・「そこには　一人の　美しい　娘が　立って　いました。」(Y9；277)

18【《人》は　《事》が　V(デキル)】

できる

・「わたしは　車の　運転が　できます。」(16 課；135)
・「図書室は　しずかなので、よく　べんきょうが　できます。」(17 課；148)
・「体が　弱いと、仕事が　できません。」(19 課；166)
・「りゅう学生は　この　りょうに　入る　ことが　できます。」(16 課；135)
・「鳥は　空を　とぶ　ことが　できます。」(17 課；147)

19【《人》は　《物／人／事》が　V(アル)】

・「あの　ひとは　お金が　あります。」(18 課；156)
・「よしださんは　おくさんが　あります。」(19 課；165)
・「アリさん、ばんごはんまで　時間が　ありますから、さんぽに　行きましょうか。」(11 課；91)

(B) 事物の動きや変化や状態

1【《物》が　V(変化)】

物名詞と物の物理的な変化を表わす次のような動詞が組み合わさると、物の変化を表わ

す文型となる。

折れる、こわれる、割れる、切れる、破れる、かわく、凍る、焼ける、
倒れる、ゆれる、止まる、動く、光る、開く、閉まる、なくなる、鳴る
// 咲く

・「細い ぼうが おれそうです。」(23 課 ; 204)
・「買ったばかりの 家具が こわれて しまいました。」(28 課 ; 251)
・「切れそうな ひもや 破れそうな 布は すてて ください。」(23 課 ; 205)
・「シャツが かわくように、火の そばへ 持って 行きました。」(22 課 ; 198)
・「風が つよく ふいたので、木が たおれそうに なりました。」(23 課 ; 205)
・「バスが 角を 曲がる 度に、ゆれます。」(28 課 ; 252)
・「この 時計は 止まった ままです。ずっと 動きません。」(24 課 ; 216)
・「じしんで ガスも 水道も 止まって しまいました。」(24 課 ; 216)
・「星が 光って いるのが 見えます。」(23 課 ; 205)
・「今、戸が 開いて います。」(22 課 ; 198)
・「コーヒーは もう なくなりました。」(15 課 ; 130)
・「あ、発車の ベルが 鳴って いますよ。」(23 課 ; 201)

※「咲く」の主語は《物》といっても、「はな」である。
・「庭に 青い 花が さいて います。」(17 課 ; 147)

2【《場所》が V】

混む

・「おぼんに なると、とても 汽車が こみます。」(19 課 ; 163)

3【《物》が 《物／場所》に V(付着)】

ならぶ、積もる、残る、しずむ

・「例えば、普通の 家の 屋根に 雪が 一メートル 積もると、三十トンぐらいになるのです。」(25 課 ; 222)
・「高い 波が 来たので、船が しずみそうに なりました。」(23 課 ; 205)
・「学生たちは、夕日が しずむのを 見て いました。」(23 課 ; 205)

※テイル形で使われている例が多い。
・「ほら、坂の 両側に 店が 並んで いるのが 見えますね。」(23 課 ; 202)

・「特に　地方には　昔の　行事が　そのまま　残って　います。」(24 課；210)
・「森の　中に　えだが　たくさん　おちて　いました。」(17 課；144)

4【《物》が　《場所》から　《場所》に／へ　V(移動)】

落ちる

・「上から　石が　おちました。」(17 課；146)

5【《物／現象》が　(《場所》に)　V(発生・消滅)】

うまれる、起きる、できる、完成する、はえる、(地震が)おきる、なくなる、消える

・「1962 年に、さんぎょうロボットが　アメリカで　生まれました。」(Y4；266)
・「かなが　生まれてから、日本語の　文は、あたらしい　書き方に　なりました。」(Y3；264)
・「しかし、じしんが　おきても、すぐ　外へ　出ない　方が　安全で　ある。」(Y6；271)
・「その　布が　できたら、町へ　売りに　行って　ください。」(Y9；278)
・「運動場に　草が　生えて　います。」(11 課；147)
・「1500 年ごろ　海から　大きい　つなみが　来て、たてものが　なくなりました。」(Y2；262)
・「この　電気は　ついたり　きえたり　します。」(12 課；102)
・「部屋の　電気が　消えて　います。」(25 課；224)
・「今、火が　消えて　います。」(22 課；198)

6【《事》が　V(変容)】

事名詞と事の進展や変容を表わす次のような動詞が組み合わさるものもある。

向上する、進歩する、進化する、変わる、増える、減る、上がる、下がる

・「わたしたちの　生活は　だんだん　向上して　きました。」(25 課；226)
・「科学は　これからも　どんどん　進歩して　いくでしょう。」(25 課；226)
・「遠い　昔、人間は　海の　中に　いた　動物から　進化したと　言われて　いる。」(Y8；276)
・「これからは、雪国の　生活も　だんだん　変わって　いくでしょう。」(25 課；222)
・「氷が　こおると、体積が　1.1 倍に　増える　ことが　わかりました。」(27 課；237)
・「ニュースで　聞きましたが、最近　交通事故が　減った　ようです。」(25 課；224)

・「来年は　たぶん　物価が　上がるだろうと　思います。」(26 課；233)
・「温度が　もっと　下がって、水が　こおる　はずです。」(27 課；237)

これらの例にうかがえるように、「シテイク」「シテクル」の形で使われている例が多い。

7【《現象／場所》が　V(自然現象)】

降る、ふく、やむ、晴れる、くもる

・「その　日は　雨や　ゆきが　ふりましたか。」(7 課；57)
・「よる　かぜが　ふきました。」(7 課；59)
・「しかし、けさは　雨も　かぜも　やみました。」(7 課；55)
・「けさは　空が　晴れて　います。」(17 課；147)
・「今日は　空が　くもって　います。」(17 課；147)

※【《時間》が　たつ】もここにあげておく。
・「日本へ　来てから　どのぐらい　たちましたか。まだ　三か月しか　たって　いません。」(15 課；124)

8【《事／イベント／現象》が　(《時刻》から《時刻》まで)　V(進行)】

事の進展や変容を表わす動詞と事を表わす名詞とが組み合わさるものもある。

始まる、続く、終わる　//　ある

・「仕事が　はじまりました。」(17 課；146)
・「広場で　ぼんおどりが　始まりましたよ。」(19 課；163)
・「何分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫ですか。」(Y6；272)
・「毎日　暑い　日が　続いて　おりますが、皆様、お元気で　いらっしゃいますか。」(Y10；282)
・「パーティーは　なんじごろ　おわりましたか。」(3 課；18)
・「おぼんが　おわって、家を　出て　行く　時は、足の　おそい　牛に　乗ります。」(Y5；268)

「ある」「行われる」は、【《場所》で　《事／イベント》が　アル】という文型でイベントの進行を表現する。

・「きょうは　うんどうじょうで　たいいくの　じゅぎょうが　ありますね。」(10 課；81)

・「あした　たいしかんで　パーティーが　あります。」(9 課；74)

9【《場所》に　《物》が　V(存在)】

ある

・「はこの　中に　りんごが　あります。」(6 課；47)
・「あの　ビルの　一かいに　いろいろな　みせが　あります。」(6 課；44)

「ある」のこの文型のバリエーションとして次のような文型がある。

【《場所》に　《物／空間／事》が　V(存在)】

・「東京の　ような　都会にも、お宮や　お寺に　おまいりする　しゅうかんが　ありますか。」(24 課；210)

【《事》に　《事》が　V(存在)】

・「日本語にも、おなじ　いみを　あらわす　「みず」と　いう　ことばが　ありました。」(Y3；263)

【《組織》に　《物》が　V】

・「(もし、)わたしの　家に　車が　あったら、便利でしょう。」(16 課；136)

10【《場所》から　《物／現象》が　V(知覚)】

みえる、聞こえる

・「山の　上から　海が　見えます。」(17 課；146)
・「きょうしつから　運動場が　見えます。」(17 課；146)
・「あの　へんから　ふじさんが　きれいに　見えますよ。」(17 課；143)
・「星が　光って　いるのが　見えます。」(23 課；205)
・「草の　間から　虫の　鳴く　声が　きこえます。」(17 課；145)
・「となりの　へやから　マナさんの　声が　きこえます。」(17 課；146)
・「子どもたちが　さわいで　いるのが　聞こえました。」(23 課；205)

11【《時刻／時期／状態》に　V(ナル)】

なる

・「もう　十二じに　なりましたか。」(7 課；56)
・「なつに　なると、日本の　町や　村で　「おぼん」の　行事が　見られます。」(Y5；268)

・「がっこうの　ハイキングの　日は　いい天気に　なりましたか。」(7 課；57)
・「ええ、大人に　なった　ことを　お祝いする　日です。」(26 課；229)

上の文例では、変化して生じた時刻や状態がニ格名詞で表現されているが、が変化した結果の状態を形容詞の連用形が表わすものがある。

・「朝夕　だいぶ　すずしく　なって　まいりましたが、お元気の　ことと　ぞんじます。」(Y10；283)
・「わたしは、息を　する　度に、むねが　痛く　なります。」(28 課；252)
・「わたしも、統計の　べんきょうの　ために、こんな　パソコンが　ほしく　なりました。」(20 課；173)
・「しかし、けさは　しずかに　なりました。」(7 課；58)

12【N が　N と／に　V(異同)】

似る、ちがう

・「ほかの　いなかの　おぼんも、これと　にて　います。」(Y5；268)
・「あなたの　国にも、日本の　おぼんに　にて　いる　行事が　ありますか。」(Y5；270)
・「お母さんは　やまださんと　よく　にて　いますね。」(8 課；64)
・「日本の　しゅうかんは　あなたの　国と　だいぶ　ちがいますか。」(15 課；125)
・「日本の　りょうりは　フィリピンの　りょうりと　ちがいますか。」(8 課；64)

2.3.2. 人の働きかけや関わりを表わす文型

(A) 物への働きかけ

1【《人》が　《物》を　V(変化の引き起こし)】

わる、おる、やく、やぶる、切る、こわす、冷やす、煮る、洗う、直す、みがく、あける、閉める、とじる、変える　//　かたづける

・「この　氷を　わって、半分に　して　ください。」(15 課；128)
・「子どもたちが　さくらの　えだを　おらないように、注意して　ください。」(22 課；198)
・「では、火を　つけて、肉を　やきましょう。」(17 課；144)
・「この　かみを　やぶらないように、気を　つけて　ください。」(22 課；198)
・「わたしは　米を　洗ったり、やさいを　切ったり　します。」(17 課；144)

・「暑いから、マナさんは　戸を　開けました。」(22 課；198)
・「アリさん、へやの　まどを　閉めましたか。」(11 課；91)
・「この　にんぎょうは　目や　口を　開けたり　閉じたり　します。」(12 課；102)

変化を引き起こすために使う道具を表わす名詞がデ格名詞であらわれている例もある。
・「まず、試験管の　水を　氷で　冷やしなさい。」(27 課；237)
・「かわいた　布で　ガラスを　みがいて　ください。」(23 課；207)
・「この　水で　手を　あらいましょう。」(7 課；56)

※「かたづける」は、【《場所》を】だとも考えられるが、ここにあげておく。
・「わたしは、つかれたので、へやの　中を　かたづけないで、ねました。」(20 課；178)

2【《人》が　《物／場所》に　《物》を　V(設置・付着)】

入れる、はる、のせる、まぜる、かざる、しく、おく、かける、しまう、すてる
//　書く、記入する

・「母は　れいぞうこに　卵を　入れました。」(12 課；101)
・「この　のりを　使って　カードに　絵を　はりなさい。」(20 課；177)
・「食堂に　大学祭の　プログラムが　はって　ありますね。」(22 課；193)
・「父は　たんすの　上に　かばんを　のせました。」(12 課；101)
・「マナさん、食料は　もう　車に　のせましたか。」(17 課；143)
・「つぎに、氷の　中に、食塩を　三分の一　ほど　まぜて　みなさい。」(27 課；237)
・「友だちが　来るから、へやに　花を　かざって　おきました。」(22 課；197)
・「帰って、すぐ　ねられるように、へやに　ふとんを　しいて　おきました。」(22 課；198)
・「あなたは　どこに　さいふを　おきましたか。」(12 課；101)
・「わたしは　かべに　とけいを　かけました。」(12 課；101)
・「川に　ごみを　すてては　いけません。」(14 課；120)

※「書く、記入する」は、【《人》が　《物》に　《内容》と　V(書記)】【《人》が　《物》に　《事》を　V(書記)】という文型をとり、この類のバリエーションだと考えられる。
・「この　本には　正月が　大切な　行事だと　書いて　ありますね。」(24 課；210)
・「小林さんの　てがみには　何と　書いて　ありましたか。」(22 課；195)
・「この　カードに　名前と　へやの　番号を　書いて　ください。」(12 課；98)
・「この　ノートに　おきゃくさんの　じゅうしょと　氏名を　記入して　くださいませんか。」(16 課；133)

3【《人》が　《物》を　(《身体》に／から)　V(着脱)】

着る、はく、かぶる　//　脱ぐ

・「よしださんは　どんな　ふくを　着て　いましたか。」(13 課；110)
・「制服を　着た　学生たちが　おみやげを　買って　いますね。」(23 課；202)
・「マリアさんは　ピンクの　スカートを　はいて、黄色い　ハンドバックを　もって　います。」(13 課；111)
・「くつを　かう　前に、ちょっと　はいて　みました。」(14 課；121)
・「タンさんは　みどり色の　ぼうしを　かぶって　います。」(13 課；111)
・「はじめて　りょうへ　来た　時、げんかんで　くつを　ぬがなければ　なりません　でした。」(15 課；125)

4【《人》が　《物》を　V(摂食)】

食べる、飲む、召し上がる、いただく

・「ジョンさんは　ごはんを　たくさん　たべました。」(5 課；38)
・「わたしは、お酒を　のみすぎたので、頭が　いたく　なりました。」(24 課；117)
・「おく様は　コーヒーや　おかしを　召し上がりました。」(28 課；249)
・「先生の　お宅で　コーヒーと　おかしを　いただきました。」(28 課；250)

5【《人》が　《物／場所》から／の　《物》を　V(除去)】

とる、除く

・「その　たなから　テープを　とって　ください。」(12 課；101)
・「でも、最近は、機械で　雪を　除いたり　する　方法も　考えられて　きました。」(25 課；222)

・「部屋の　中では、やせた　つるが　自分の　羽を　一本　一本　取り、それで　布を　作って　いたのです。」(Y9；279)
・「かたかなは、かんじの　いちぶを　とって、つくりました。」(Y3；264)

6【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V(移動の引き起こし)】

おろす、運ぶ、おとす、出す、なげる　//　持っていく、持って来る、持って帰る

・「兄は、母が　あみだなから　荷物を　降ろすのを　てつだいました。」(23 課；205)
・「一人で　この　にもつを　運ばなければ　なりません。」(15 課；127)

・「男の　子が　上から　石を　おとしました。」(17 課；146)
・「わたしは　あの　黒い　はこから　カードを　だしました。」(12 課；101)
・「石を　なげないで　ください。」(10 課；84)

※「持って行く、持って来る、持って帰る」が一単語相当でこの文型をとる。
・「小林さんは　キャンプ場へ　どんな　物を　持って　行きましたか。」(17 課；145)
・「わたしは　母が　くれた　くすりを　日本に　持って　来ました。」(15 課；124)
・「わたしは　来年　国へ　日本の　にんぎょうを　もって　かえります。」(11 課；95)

7【《人》が　《物》を　V(接触 - 1)】

たたく、なぐる、ふむ、押す、ける、かむ、ノックする

・「戸を　たたく　音が　聞こえました。」(Y9；277)
・「弟は　兄に　顔を　なぐられました。」(24 課；214)
・「帰り道では　背中を　押されたり、足を　ふまれたり　しました。」(24 課；211)
・「アリさんは　犬に　手を　かまれました。」(24 課；214)
・「さっき　用事が　あって、何度も　ノックしたのに、返事が　ありませんでした。」(25 課；221)

8【《人》が　《物》に　V(接触 - 2)】

さわる、あたる

・「この　カメラに　さわっては　いけません。」(14 課；120)
・「ボールに　当たらないように、気を　つけた　方が　いいです。」(22 課；198)

9【《人》が　《物》を　(《事》に)　V(利用・操作)】

使う、利用する　//　運転する

・「この　バットを　つかいますか。」(10 課；82)
・「これは、はこの　ような　物ですが、何に　使うのですか。」(23 課；202)
・「そして、陸より　ずっと　広い　海は、魚を　取ったり、しおを　作ったり　するぐらいで、あまり　利用しなかった。」(Y8；275)

「運転する」がとるヲ格の名詞は《乗り物》である。
・「わたしは　車を　運転する　ことが　できます。」(16 課；135)

また、「《事》に」の代わりに、「V-するために/V-するのに」の形をとる場合もある。

・「はさみは、かみを　切る　ために、使います。」(20 課；177)
・「けしゴムは、字を　けす　ために、使います。」(20 課；177)
・「このテープは　録音するのに　使います。」(23 課；206)

10【《人》が　(《物》から／で)　《物》を　V(生産 - 1)】

つくる、わかす

・「女の　子たちが　かわいい　にんぎょうを　作りました。」(17 課；146)
・「牛乳から　チーズや　バターを　作ります。」(23 課；206)
・「ガラスで　びんを　作ります。」(23 課；206)
・「お茶が　のみたいから、おゆを　わかして　おいて　ください。」(22 課；197)

11【《人》が　(《場所》に)　《物》を　V(生産 - 2)】

たてる

・「お寺を　たくさん　たてました。」(Y2；261)
・「三百年ぐらい　前に　その　神社が　建てられました。」(24 課；215)

(B) 事への働きかけや関わり

1【《人》が　《事》を　V(変容の引きおこし)】

上げる、下げる

・「さっき　部屋の　温度を　上げたから、あたたかい　はずです。」(27 課；241)
・「さっき　部屋の　温度を　下げたから、あたたかく　ない　はずです。」(27 課；241)

2【《人》が　《事／イベント》を　V(進行管理)】

はじめる、続ける、ひらく、行う、いたす、やめる、やる、てつだう

・「これから　じゅぎょうを　はじめます。」(10 課；81)
・「わたしは　将来も　ずっと　この　研究を　続けて　いく　つもりです。」(25 課；226)
・「昭和 39 年(1964 年)に　東京で　オリンピックが　開かれました。」(24 課；215)
・「地方では　毎年　いろいろな　古い　行事が　行われて　います。」(24 課；215)
・「向こうに　店が　並んで　いますが、大学祭では、商売も　やるのですか。」(22 課；194)

・「わたしは　毎日　母の　仕事を　てつだって　います。」(15 課；129)

3【《人》が　《物／現象》を　V(発生・消滅の引き起こし)】

つける、消す

・「ガスストーブや　電灯を　つけました。」(24 課；216)
・「まだ、電気を　けさないで　ください。」(10 課；84)
・「この　時、ろうそくに　火を　つけて、花などと　いっしょに　流す　ことも　あります。」(Y5；269)
・「この　マッチを　使って　火を　つけましょう。」(20 課；177)
・「危ないから、わたしは　火を　消しました。」(22 課；198)

4【《人》が　《事》を　V(思考)】

考える、思う、思いだす、心配する、知る、存ずる、理解する、暗記する、覚える、決める、選ぶ、数える、忘れる　//　計算する、計る

・「では、ほかの　りょうりを　かんがえて　みましょう。」(16 課；134)
・「しけんの　時　こたえを　思い出す　ことが　できませんでした。」(16 課；135)
・「ええ、わたしの　体の　ことを　とても　心配しました。」(15 課；124)
・「あなたは　ジョンさんの　じゅうしょを　知って　いますか。」(13 課；111)
・「外国の人に　日本人の　この　しゅうかんを、りかいして　もらうのは、むずかしいかもしれない。」(Y7；273)
・「ながい　文を　暗記する　ことは　たいへんです。」(14 課；120)
・「もう　なつやすみの　よていを　きめましたか。」(16 課；132)
・「わたしの　たんじょう日を　わすれないで　ください。」(10 課；84)

これらのうち「思う、考える」などは、思考の内容を「～と」という形であらわして、**【《人》が　《内容》と　V(思考)】**という文型で用いられることもある。

・「だから、その　下に　ある　石油や　石炭や　金や　ウラニウムなども、陸に　ある　物の　3ばいぐらい　あると　かんがえられて　いる。」(Y8；275)
・「あまり　むずかしく　なかったと　おもいます。」(12 課；99)
・「わたしは、マリアさんが　好きですが、結婚しようとは　思って　いません。」(20 課；176)
・「わたしは、留学したいと　思いましたが、両親に　反対されました。」(24 課；214)
・「朝夕　だいぶ　すずしく　なって　まいりましたが、お元気の　ことと　ぞんじます。」(Y10；283)

※「計算する、計る」は、ヲ格名詞として《数量》をとる。

・「先生は　生徒に　面積や　体積を　計算させました。」(27 課；240)

・「てがみの　重さを　計ります。」(11 課；95)

5【《人》が　N と　N を　V(比較)】

比べる

・「東京と　北海道を　比べて　みましょう。」(18 課；157)

・「他校と　比べて　小さいそうだが、授業の　程度は、大変　高かった。」(27 課；239)

6【《人》が　《人／物／事》を　V(感情的な態度)】

尊敬する、愛する

・「あの　先生は　学生たちに　そんけいされて　います。」(24 課；214)

・「この　歌は　若い　人たちに　愛されて　います。」(24 課；215)

7【《人》が　《物》を　V(知覚的な関わり)】

見る、ご覧になる、見つける、聞く、読む　//　聞きとる、翻訳する

・「いもうとは、こわそうに　大きい　犬を　見て　います。」(23 課；204)

・「あぶない(です)から、右と　左を　よく　みて　ください。」(10 課；86)

・「食事を　しながら、テレビを　見ては　いけません。」(19 課；166)

・「先生は　写真を　御らんになりました。」(28 課；249)

・「若者は　野原で　何を　見つけましたか。」(Y9；281)

・「学生たちは　メモを　とりながら、話を　聞いて　います。」(19 課；166)

・「あなたは　ラジオを　ききますか。」(3 課；20)

・「わたしは　その　本を　よみましたが、よく　わかりませんでした。」(9 課；75)

※「聞きとる、読む」のヲ格名詞は《言語》であり、それぞれ、【《人》が　《言語》を《言語》に　V】、【《人》が　《言語》を　《言語》に　V】という文型である。

・「前は　日本語が　ききとれませんでしたが、今は　ききとれるように　なりました。」(16 課；136)

・「この　えいごの　文を　日本語に　ほんやくしなさい。」(14 課；121)

8【《人》が　《事／場所／組織》を　V(認識)】

見学する、見物する、経験する、みる

・「タンさんは、学校で　どんな　ことを　見学したいと　言って　いますか。」(Y10；284)
・「今日は　第三小学校を　見学した。」(27 課；239)
・「日本に　いる　間に、いろいろな　ことを　経験した　方が　いいですね。」(26 課；229)
・「おぼんの　行事が　見られますよ。」(19 課；163)

9【《人》が　《事》を　V(知的な関わり)】

勉強する、研究する、練習する、予習する、復習する、自習する、実験する、調べる

・「わたしは　日本の　大学で　電気工学を　べんきょうします。」(10 課；85)
・「しかし、ほんとうか　どうか　研究しなければ、わからない　ことが　たくさんある。」(Y6；272)
・「学生たちは　きょうしつで　はつおんを　れんしゅうします。」(10 課；85)
・「学生たちは　部屋で　自習して　いる　ところです。」(25 課；225)
・「学生は、先生の　言う　とおりに、実験しました。」(27 課；241)
・「事故が　あった　場合は、すぐ　原因を　調べなければ　なりません。」(27 課；242)

「～について V 」という文型も使われている。

・「わたしは　いま　この　まちの　れきしに　ついて　しらべて　います。」(12 課；103)
・「今日は、水の　温度と　体積の　関係に　ついて　勉強します。」(27 課；237)

10【《人》が　《イベント・事》を　V(事への非参与)】

休む、欠席する

・「小林さんは　あした　たぶん　じゅぎょうを　休むでしょう。」(9 課；74)
・「わたしは　きのう　小林さんは　がっこうを　休んだと　おもいます。」(12 課；103)
・「先生は　学生に　授業を　欠席しないように(と)　注意しました。」(26 課；232)

(C) 人への働きかけや関わり

1【《人》が　《人》を　V(生理変化の引き起こし)】

起こす、殺す

・「もう　一度　マナさんを　起こして　みましょう。」(25 課；223)

・「動物を　殺しては　いけません。」(14 課 ; 120)

2 【《人》が　《人》を (《場所》に) V(対人関係 - 設置・移動】

泊める、迎える、案内する、追いかける、連れていく、送る、見送る、よぶ

・「その　夜、親切な　若者は　その　娘を　とめて　あげました。」(Y9 ; 278)
・「人びとは　食べ物などを　用意して、先祖を　うちに　むかえるのです。」(Y5 ; 268)
・「先生は　わたしたちを　案内して　くださいました。」(22 課 ; 196)
・「若者が　娘を　追いかけて　外へ　出た　時、鳥の　鳴く　声が　しました。」(Y9 ; 280)
・「わたしも　去年は　親類の　子どもたちを　連れて　行きました。」(24 課 ; 210)
・「では、はくしゅで　マリアさんを　お送りしましょう。」(22 課 ; 195)
・「それでは、会議が　終わったら、すぐ　呼びます。」(21 課 ; 184)

3【《人》が　《人》を 《イベント》に　V(対人関係 - 誘い)】

さそう、まねく、招待する

・「マナさんは　友だちを　音楽会に　さそって　あげました。」(22 課 ; 196)
・「わたしは、マリアさんを　パーティーに　さそう　度に、ことわられて　います。」(28 課 ; 252)
・「こんな　すばらしい　とうろん会に　招いて　いただいて、ありがとう　ございました。」(22 課 ; 195)
・「わたしは　マナさんに　留学生の　パーティーに　招待されました。」(24 課 ; 214)

4【《人》が　《人／事》を　V(人への態度的な動作)】

ほめる、しかる、ゆるす、まつ、助ける

・「先生は　まだ　一度しか　わたしを　ほめた　ことが　ありません。」(19 課 ; 165)
・「母は　まだ　一度も　弟を　しかった　ことが　ありません。」(19 課 ; 165)
・「わたしが　わるかった。許して　くれ。」(Y9 ; 280)
・「母が　買い物を　して　いる　間、父は　車の　中で　待って　いました。」(26 課 ; 233)
・「学生たちは、家族から　手紙が　来るのを　待って　います。」(23 課 ; 205)
・「友だちは　わたしを　助けて　くれました。」(22 課 ; 196)

5【《人》が　《人》に　《物》を　V(授受 - やり)】

あげる、やる、さしあげる、くださる、くれる、かす、売る、送る、出す、払う、渡す、返す

・「マナさんは　友だちに　きれいな　花を　あげました。」(22 課；196)
・「わたしは　弟に　T シャツを　やりました。」(22 課 196)
・「わたしは　先生に　絵はがきを　さしあげました。」(22 課；196)
・「先生は　わたしに　本を　下さいました。」(22 課；196)
・「マナさんは　わたしに　じしょを　くれました。」(8 課；67)

・「先生は　わたしに　本を　かして　くださいました。」(22 課；196)
・「日本人は、どんな　人に　「お中元」や　「おせいぼ」を　おくりますか。」(Y7；274)
・「びょうきに　なった　時、あまり　お金を　払わなくても　いいですよ。」(15 課；125)
・「駅を　出る　時、駅員に　きっぷを　わたします。」(15 課；128)
・「本は　らいしゅう　かえして　くださいね。」(12 課；99)

6【《人》が　《人》から／に　《物》を　V(授受 - もらい)】

もらう、いただく、借りる、買う、盗む

・「マリアさんは　小林さんに　はなを　もらいました。」(8 課；66)
・「マリアさんは　小林さんから　はなを　もらいました。」(8 課；66)
・「わたしは　先生に　本を　いただきました。」(22 課；196)
・「わたしは　先生から　本を　いただきました。」(22 課；196)

・「いすや　テーブルは　キャンプ場で　かりられるでしょう。」(17 課；143)
・「英語を　べんきょうする　ために、この　じしょを　買いました。」(20 課；177)

7【《人》が　《人》に　《事》を／《内容》と　V(言語活動 - 発信)】

言う、おっしゃる、話す、知らせる、連絡する、質問する、注意する、答える、発表する、教える、説明する、約束する、書く、聞く、うかがう

・「会社を　休む　場合は、理由を　言って　ください。」(27 課；142)
・「日本の　若者に　あなたの　意見を　いろいろ　話して　来て　ください。」(22 課；193)
・「やまださんは　よしださんに　でんわで　何を　しらせましたか。」(13 課；110)

・「渡辺さん、実験の　結果を　発表して　ください。」(27 課；237)
・「山本先生は　マナさんに　日本ごを　おしえました。」(8 課；66)
・「あなたは、私の　部屋の　中を　見ないと　約束したのに、見て　しまいましたね。」(Y9；280)
・「マリアさんは　お母さんに　てがみを　かきますか。」(8 課；63)
・「では、中村くんに　都合を　聞いて　みましょう。」(27 課；237)

・「ちょっと　うかがいますが。―はい、何でしょうか。」(13 課；113)
・「学生が　わかるように、れいを　あげて、説明しました。」(22 課；198)

発信する内容は、上の例のように「《事》を」で表わすほかに、引用節「《内容》と」によって表される場合もある。

・「わたしは　先生に　「よく　わかりました。」と　言いました。」(12 課；102)
・「先生は　何と　おっしゃいましたか。」(28 課；249)
・「日本は　工業国だと　言われて　いますが、古い　文化も　大切に　されて　いることが　わかりました。」(24 課；212)

また、「《事》を」や「《内容》と」の代わりに、「V-するように」の形をとる場合もある。

・「姉は　妹に　お金を　おとさないように(と)　言いました。」(26 課；232)
・「先生は　学生に　授業を　欠席しないように(と)　注意しました。」(26 課；232)

※「紹介する」

【《人》が　(《人》に)　《人／場所／事》を　V】

・「わたしは　パーティーで　マリアさんに　しょうかいされました。」(24 課；214)
・「日本の　小学校を　見学したいのですが、どこか　紹介して　くださいませんか。」(27 課；237)
・「つぎに　しょうかいするのは、長野県の　村の　行事ですが、ほかの　いなかの　おぼんも、これと　にて　います。」(Y5；268)

8【《人》が　《人》に　《物／イベント／場所》を　V(発信⇒提示)】

見せる、(気持を)あらわす、案内する

・「みなさんに　かぞくの　しゃしんを　みせましょう。」(8 課；68)
・「「とうろんかいの　後で、大学の　中を　案内して　あげましょう。」と　書いて　ありました。」(22 課；193)
・「その　人に　プレゼントを　おくって、かんしゃの　気持ちを　あらわす　ことが

あるだろう。」(Y7；274)

9【《人》が　《人》から／の　《事》を　V(言語活動 - 受信)】
聞く

・「母は　心配そうに　医者の　話を　聞いて　います。」(23 課；204)
・「アリさんから　あたらしい　本が　たくさん　来たと　ききましたが、ほんとうですか。」(12 課；98)

10【《人》が　《人》から／に　《事》を　V(受信⇒習得)】
習う

・「マナさんは　山本先生から　日本ごを　ならいました。」(8 課；66)
・「マナさんは　山本先生に　日本ごを　ならいました。」(8 課；66)
・「リアさんは　やまださんの　ところで　りょうりを　ならいました。」(8 課；67)

11【《人》が　《人》に　《事》を／V-するようにと　V(要求)】
頼む、命令する、お願いする

・「わたしは　友だちに　荷物を　運ぶように(と)　頼みました。」(26 課；232)
・「小林さんは　ジョンさんに　仕事を　たのまれました。」(24 課；214)
・「社長は　社員に　規則を　守るように(と)　命令しました。」(26 課；232)
・「タンさんは、先生に　電話で　どんな　ことを　お願いしましたか。」(Y10；284)

2.3.3. 教科書内で、2 つ以上の文型で用いられている動詞

「2.3.1.」節、「2.3.2.」節では、本教科書に提出されている動詞について、代表的な文型を整理しグループ化した。最後に、本教科書に出ている動詞のうち、2 つ以上の文型で用いられている動詞について、文型を示しておく。提出動詞 335 語のうち 63 語である。

あう	《人》が《人》と／に　会う
	《人》が《事》に　あう
あがる	《事》が《段階・程度》から《段階・程度》に／まで　上がる
	《人》が　あがる
あげる	《人》が《人》に《物》を　あげる
	《人》が《事》を《段階・程度》から《段階・程度》に／まで　上げる
あつめる	《人》が《物》を《場所》から《場所》に／へ　あつめる

	《人》が 《物》を あつめる
あらわす	《物》が 《事》を あらわす
	《人》が 《人》に 《事》を あらわす
ある	《場所》に 《物》が ある
	《人》に 《物》が ある
	《組織》に 《物》が ある
	《物》に 《物》が ある
	《人》に 《側面》が ある
	《人》に 《側面》が 数値 ある
	《人》が 《事》に 《側面》が ある
	《物》に 《側面》が ある
	《人》が 《人》に 《事》が ある
	《人》に 《事》が ある
	《組織》から 《組織／人》に 《事》が ある
	《場所》に 《事》が ある
	《事》が 《事》と／に 《事》が ある
	《事》に 《事》が ある
	《人》に 《人》が ある
	《場所》に 《現象》が ある
	《イベント》が ある
	《場所》に 《イベント》が ある
	《事》が ある
	《人》が ある
	《場所》が ある
あんないする	《人》が 《人》を 案内する
	《人》が 《人》に 《場所》を 案内する
いう	《人》が 《人》に 《内容》と 言う
	《人》が 《人》に (《内容》と) 《事》を 言う
	(《人》が) 《内容》と 言う
	Nを Nと 言う
	《人/乗り物》が 《場所》を 《場所》から 《場所》に／へ／まで 行く
	《人》が 《場所》から 《場所》に／へ／まで 行く
いく	《人》が 《組織》に／へ 行く
	《人》が 《イベント》に／へ 行く
	《人》が 《場所》に／へ 《事》に 行く // 《人》が 《場所》に／へ V-しに 行く
	《人》が 《場所》を 行く

いただく	《人》が 《物》を いただく
	《人》が 《人》から／に 《物》を いただく
いる	《場所》に 《人》が いる
	《組織》に 《人》が いる
	《人》が いる
いる(要)	《人》に 《物》が 要る
	《事》に 《物》が 要る
いれる	《人》が 《物／場所》に／へ 《物》を 入れる
	《人》に 《人》を 入れる
うかがう	《人》が 《場所》に うかがう
	《人》が 《人》に 《事》を うかがう
うけとる	《人》が 《組織》から／で 《物》を 受け取る
	《人》が 《人》から 《物》を 受け取る
うごく	《物》が 動く
	《人》が 動く
うまれる	《人》が 生まれる
	《物》が 生まれる
おきる	《場所》に 《現象》が おきる
	《人》が 起きる
おくる	《人》が 《人》に 《物》を 送る
	《人》が 《人》を 送る
おくれる	《人》が 《イベント》に おくれる
	《乗り物》が おくれる
おもう	《人》が 《内容》と 思う
	《人》が 《事》を 《内容》と 思う
おりる	《人》が 《乗り物》を／から 降りる
	《人》が 《場所》を 下りる
かく	《人》が 《物》を 書く
	《人》が 《人》に 《物》を 書く
	《人》が 《物》に 《内容》と 書く
かける	《人》が 《場所》に かける
	《人》が 《場所》に 《物》を かける
かりる	《人》が 《人》から／に 《物》を 借りる
	《人》が 《組織》から 《物》を 借りる
かんがえる	《人》が 《事》を 考える
	《人》が 《内容》と 考える

きえる	《物》が 消える
	《現象》が 消える
きく	《人》が 《人》から／の 《事》を 聞く
	《人》が 《物》を 聞く
	《人》が 《人》から 《内容》と 聞く
	《人》が 《人》に 《事》を 聞く
	《人》が 《物》で 《事》を 聞く
くる	《人》が 《場所》から 《場所》に／へ／まで 来る
	《人》が 《場所》に／へ 《事》に 来る
	《場所》から 《物》が 来る
	《現象》が 来る
	《人》から 《人》に 《物》が 来る
けす	《人》が 《物》を 消す
	《人》が 《現象》を 消す
こたえる	《人》が 《事》に 答える
	《人》が 《人》に 答える
しゃべる	《人》が 《事》を しゃべる
	《人》が しゃべる
すすむ	《人》が 《組織》に／へ 進む
	《事》が 進む
する	《人》が 《事》を する
	《人》が 《イベント》を する
	《人》が Nを Nに する
	《人》が 《人》と 《事》を する
	《人》が 《人》に 《事》を する
	《人》が 《物／現象／場所》を Adj-く／に する
	《人》が 《物》を Adj-のに する
	《人》が 《人》を Adj-に する
	《人》が 《職業》を する
	《人》が 《物》を Nに する
	《人》が Adj-く／に する
だす	《人》が 《物》を 《場所》から 《場所》に／へ 出す
	《人》が 《人》に 《物》を 出す
	《人》が 《現象》を 出す
	《人》が 《人》に 《事》を 頼む
	《人》が 《人》に 《内容》と 頼む

ちゅういする	《人》が 《事》に 注意する
	《人》が 《人》に 《内容》と 注意する
つかう	《人》が 《物》を 使う
	《人》が 《物》を 《事》に 使う
つくる	《人》が 《物》を 作る //《人》が 《物》から 《物》を 作る //《人》が 《物》で 《物》を 作る
	《人》が 《場所》に 《物》を 作る
つける	《人》が 《物》を つける
	《人》が 《物》に 《現象》を つける
	《人》が 《物》に 《物》を つける
できる	《人》は 《事》が できる
	《物》が できる
でる	《人》が 《場所》から 《場所》に／へ 出る
	《人／乗り物》が 《場所》から／を 出る
	《人》が 《イベント》に 出る
	《場所》に 《物》が 出る
	《人》が 《組織》を 出る
とぶ	《動物》が 《場所》を とぶ
	《動物》が 《場所》から 《場所》に／へ とぶ
とまる	《物》が 止まる
	《乗り物》が 《場所》に 止まる
とる	《人》が 《場所》から／の 《物》を 取る
	《人》が 《物》から／の 《物》を 取る
なく	《動物》が 鳴く
	《人》が 泣く
なさる	《人》が 《事》を なさる
	《人》が 《物》を Adj-に なさる
ならぶ	《場所》に 《物》が 並ぶ
	《物》が 並ぶ
	《人》が 並ぶ
なる	N が Adj-く／に なる
	《人》が 《状態》に なる
	《時刻／時期》に なる
	《物》が 《状態》に なる
	《状態》に なる
	《人》が 《人》と 《状態》に なる
のせる	《人》が 《場所》に 《物》を のせる

	《人》が 《乗り物》に 《物》を のせる
はいる	《人》が 《場所》に／へ 入る
	《人》が 《組織》に 入る
	《物》が 《場所》に 入る
はなす	《人》が 《人》に／と 《事》を 話す
	《人》が 《事》を 話す
まがる	《人／乗り物》が 《場所》を 曲がる
	《人》が 《場所》を 《方向》へ 曲がる
まもる	《人》が 《事》を 守る
	《物》が 《物》を 《事》から 守る
みえる	《場所》から 《物／事》が 見える
	《物／現象》が Adj-く／に 見える
みえる	《場所》に 《事》が 見える
	《人》が 《人》に 《物》を 見せる
	《人》が 《人》に 《イベント》を 見せる
みる	《人》が 《人／物／場所》を 見る
	《人》が 《イベント／事／現象》を 見る
	《人》が 《人／事》を みる(診る)
むかえる	《人》が 《人》を むかえる
	《人》が 《イベント》を 迎える
	《人》が 《人》を 《場所》に むかえる
	《物》が 《人》を むかえる
もつ	《人》が 《物》を 持つ
	《人》が 《事》を 持つ
	《物》が 《側面》を 持つ
やすむ	《人》が 《組織／イベント》を 休む
	《人》が 休む
やる	《人》が 《事／イベント》を やる
	《人》が 《人》に 《物》を やる
ゆるす	《組織》が 《事》を 許す
	《人》が 《人》を 許す
よぶ	《人》が 《人》を 呼ぶ
	《人》が 《名称》を 呼ぶ
よむ	《人》が 《物》を 読む
	《人》が 《物》を Nと よむ

2.4. 文型の面で指導上注意すべき動詞

2.4.1. 動詞の多義と文型

前節でもみたように、日本語には 1 つの動詞が複数の文型で使われる場合があり、本教科書でも多く扱われている。これらの動詞は、基本的な意味を知っていれば、それ以外の意味で使われた文章に接した場合も、その文の中での意味をおしはかることが可能な場合が多い。しかし、日本語学習者が自ら文を作り出そうとする時に、基本的な意味、あるいは、既習の意味以外の使い方を用いることが難しいものもある。その難しさにはいくつかのタイプがあり、例をあげると次のようなものがある。

例えば、「よむ」の場合である。本教科書で「よむ」という動詞は、「あなたは　なにを　よみますか。」、「わたしは　ざっしを　よみます。」(3 課；20)という文で初めて出てくる。その後、12 課で「この　字は　くんよみでは　「みず」と　よみます。」(12 課；103)という文が出た時、3 課で既習の「よむ」の意味が分かっていれば、この文を解釈することには特に苦労しないと思われる。しかし、後者のような意味で、学習者が自ら文を作り出そうとすると難しく感じる可能性がある。それは、12 課の「よむ」が 3 課の「よむ」と異なる文型で用いられているためで、教師はこの点を意識した上で教える必要があると考えられる(前者の文の文型は【《人》が《物：言語作品》をよむ】、後者は【《人》が《物：字》を N とよむ】)。

また、多義の範囲が違うことによるものもある。例えば、「おきる」という動詞で考えてみると、「わたしは　まいあさ　七じごろ　おきます。」(3 課；21)で初めて学習して、“目がさめる”という意味を学習した後に、読み物 6 で「もし　じしんが　おきたら　どう　したら　いいのか。」(Y6；271)という文に接した時、文の意味は前後の文脈の中で理解できるかもしれない。しかし、学習者が自ら“地震が発生する”ということを表わしたい時、「おきる」という動詞を思い浮かべることは難しいのではないかと考えられる。それは、「おきる」という動詞が多義で、学習者の母語によっては、「人がおきる」と「地震がおきる」の場合とで、全く別の動詞を用いる可能性があるためである。例えば、韓国語では両者とも「ileonata」という 1 つの動詞で表わすが、英語では前者は「get up/wake up」、後者は「occur」などと別々の単語を用いる。また、キルギス語でも前者は「tur-」、後者は「jer(土)　titiroo(ふるえる)」とそれぞれ別の単語で、中国語でも前者は「qichuang(起床)」、後者は「fasheng(発生)」と別の単語で表わす。このように、学習者の母語によっては、それぞれの多義的な意味ごとに異なる文型で用いられるため、このような多義を持つ動詞を指導する際、文の文型に注意して教えることで、より適切に学習を補助できると思われる(前者の文の文型は【《人》がおきる】、後者は【(《場所》に)《現象：地震》がおきる】)。

そして、このような難しさは、自動詞と他動詞とが対応するものにおいてもみられる。自動詞と他動詞とが対応するものは、基本的な動詞が多いため、多義であることが多く、

文型も様々である。それらの基本的な意味を理解していたとしても、それ以外の意味や文型を用いて文を作ることは難しい場合が多い。

1つの動詞が複数の意味を表わすことが目立つのが自・他の対をなす動詞であるということから、本報告ではまず、次節の「2.4.2.」で、自・他の対をなす動詞の文型を中心に考察する。その後、「2.4.3.」では、自・他の対をなしてはいないが、多義的なものについて述べる。なお、これらの動詞の文型分析においては、「2.1.先行研究」で紹介した2つの文献(①『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic Verbs)』、②『新明解 国語辞典 第六版』)を参考にしながら、個々の動詞に対する**「広く使われる文型」**を分析する。本報告でいう「広く使われる文型」とは、留学生である筆者らが日本語を学習してきた経験にもとづいて、日常生活でよく使われると判断した文型をまとめたものである。このような分析をした上で、本教科書の文型を考察する。さらに、本教科書には出ていないが、一緒に指導してよいと考えられる文型についてもふれる。

2.4.2. 自・他の対をなすもの

自・他の対をなす動詞の文型を分析する前に、本節では、まず、自動詞と他動詞とが対をなす動詞にはどのようなものがあるのかみていく。

『新版 日本語教育事典』[12]の「自動詞と他動詞」(執筆者：早津恵美子)では、動詞の形態的な特徴の面に注目して、自・他の対をなす動詞のタイプについて記述されている。ここでは、「日本語の動詞には、形のうえで自動詞と他動詞とが対(つい)をなしているものがある(「まわる」と「まわす」)。基本的な動詞のなかにも比較的多くあり、学習者がその習得に困難を感じることも少なくない。自他の対の形態的な対応関係は、いくつかの型に整理することができるので、ある段階でそれを指導することが役に立つこともある。」(p.81)と述べられている。そして、対をなす自動詞と他動詞を、形態的な特徴にもとづいて 4 つの型に大別して示している。その 4 つの型とは、動詞対の語幹に〔r〕と〔s〕を含むか否かを基準にした分類である。『新版 日本語教育事典』の表 2-8(p.82)をもとに大別と下位分類、動詞の例を簡単に示すと以下のようになる。

《A》自動詞に〔r〕、他動詞に〔s〕を含むもの

(A-1)〔～r-u ― ～s-u〕(ル ― ス) うつる―うつす、かえる―かえす[帰]

(A-2)〔～re-u ― ～s-u〕(レル ― ス) かくれる―かくす、けがれる―けがす

(A-3)〔～r-u ― ～se-ru〕(ル ― セル) のる―のせる、にる―にせる[似]

---

[12] 『新版 日本語教育事典』(2005)は、『日本語教育事典』(初版、1982年)の新版で、「1 音声・音韻」、「2 文法」、「3 語彙・意味」、「4 ことばと運用」、「5 文字・表記」など、11 類に分けられた分野について、それぞれの重要用語の説明がなされている事典である。内容においては、「実際に教えるときに役に立つ」(まえがき、p.ⅲ)という観点から、各分野の専門家により執筆されており、各分野のキーワードが詳細に扱われていることが特徴である。

《B》自動詞に〔r〕を含むもの

(B-1)〔～ar-u ― ～e-ru〕(アル ― エル)　あがる―あげる、あたる―あてる

(B-2)〔～ar-u ― ～-u〕(アル ― ゥ)　くるまる―くるむ、つながる―つなぐ

《C》他動詞に〔s〕を含むもの

(C-1)〔～-u ― ～as-u〕(ゥ ― ァス)　うごく―うごかす、かわく―かわかす

(C-2)〔～er-u ― ～as-u〕(エル ― ァス)　あれる―あらす、かれる―からす

(C-3)〔～ir-u ― ～os-u〕(ィル ― ォス)　おきる―おこす、おちる―おとす

(C-4)〔～ir-u ― ～as-u〕(ィル ― ォス)　いきる―いかす、とじる―とざす

《D》〔r〕も〔s〕を含まないもの

(D-1)〔～er-u ― ～-u〕(エル ― ゥ)　おれる―おる、きれる―きる

(D-2)〔～-u ― ～e-ru〕(ゥ ― エル)　あく―あける、うかぶ―うかべる

(D-3)〔～e-ru ― ～-ru〕　みえる―みる、にえる―にる[煮]

※「～」自動詞・他動詞の始めの共通部分、「-」それぞれの語幹と活用語尾との境界

(『新版 日本語教育事典』p.82、表 2-8 から抜粋)

また、補足として、上の型にはおさまらないが、「語源や歴史的変化をたどることで説明できる」(p.81)動詞対として、「きえる―けす」、「でる―だす」、「ねる―ねかす」、「はいる―いれる」があげられている。

本報告では、『新版 日本語教育事典』「自動詞と他動詞」の分類にならい、考察対象の動詞の文型を考える際、それぞれどのようなグループに分類できるか、その形態的なタイプも一緒に示す。

動詞の文型分析に入る前に、次の＜表 2＞で、本教科書に、自・他動詞の対が両方出ているもの、および一方のみが出ているものについて、グループ別動詞と提示回数(表中の丸括弧内は数値)、初出の課を示しておく。なお、『新版 日本語教育事典』「自動詞と他動詞」では個々の動詞を、ローマ字表記をもとに分類しひらがなで示しているので、本節でもそれにならい、ひらがな表記で示す。

表 2 グループ別動詞、提示回数、および初出の課

大分類	分類基準	下位	形	提出[13]	自動詞(数)―他動詞(数)	初出の課
A	自動詞の語幹に〔r〕、他動詞の語幹に〔s〕	A-1	～r-u―～s-u ル―ス	両方	―	
				片方	かえる―(かえす)[帰]、とおる―(とおす)、なくなる―(なくす)、のこる―(のこす)／(うつる)―うつす、(かえる)―かえす[返]、(な	

[13] 「両方」とは、本教科書に対をなす自・他動詞両方が出ている場合で、「片方」とは、自・他のうち、片方のみ出ている場合である。なお、出ていない片方は括弧の中に示す。

	を含む もの				おる)―なおす	
		A-2	～re-u― ～s-u レル―ス	両方	こわれる(2)―こわす(1)	24 課―24 課
				片方	たおれる―(たおす)／(はずれる)―はずす	
		A-3	～r-u― ～se-ru ル―セル	両方	のる(10)―のせる(4)	11 課―12 課
B	自動詞の 語幹に〔r〕 を含む もの	B-1	～ar-u― ～e-ru アル―エル	両方	あがる(6)―あげる(15)	21 課―8 課
					あつまる(3)―あつめる(3)	19 課―14 課
					かかる(15)―かける(13)	5 課―8 課
					かわる(3)―かえる(2) [変]	21 課―20 課
					さがる(3)―さげる(1)	21 課―27 課
					しまる(2)―しめる(4)	12 課―10 課
					とまる(14)―とめる(2) [泊][14]	11 課―16 課
					とまる(7)―とめる(2) [止]	16 課―17 課
					はじまる(14)―はじめる(3)	3 課―10 課
				片方	あたる―(あてる)、おわる―(おえる)／(うかる)―うける、(きまる)―きめる、(たすかる)―たすける、(まざる)―まぜる、(みつかる)―みつける	
C	他動詞の 語幹に〔s〕 を含む もの	C-1	～-u― ～as-u ウ―アス	両方	―	
				片方	うごく―(うごかす)、かわく―(かわかす)、なる―(ならす)／(わく)―わかす	
		C-2	～er-u― ～as-u エル―アス	両方	ながれる(1)―ながす(2)	17 課―Y5
				片方	ゆれる―(ゆらす)／(あらわれる)―あらわす	
		C-3	～ir-u― ～os-u イル―オス	両方	おきる(14)―おこす(1)	3 課―25 課
					おちる(6)―おとす(2)	17 課―17 課
					おりる(6)―おろす(3)	11 課―23 課
D	〔r〕も〔s〕 を含まな	D-1	～er-u―～-u エル―ウ	両方	おれる(1)―おる(1)	23 課―22 課
					きれる(2)―きる(3)	23 課―17 課

[14]『コーパスに基づく言語学教育研究資料２　初級教科書の語彙分析　動詞編(1)語彙的な性質　』、アクマタリエワ ジャクシルク、金俸呈、辺純影(編著)／早津恵美子(監修)(2010) 東京外国語大学大学院総合国際学研究院．では同音異義語として扱っているが、本報告では多義語として分析する。

	いもの				とれる(1)—とる(24)	23 課—4 課
					やける(2)—やく(2)	17 課—16 課
					やぶれる(1)—やぶる(1)	23 課—22 課
					われる(2)—わる(2)	23 課—14 課
		D-2	～-u— ～e-ru ウ—エル	両方	あく(3)—あける(8)	12 課—10 課
					そだつ(2)—そだてる(2)	19 課—22 課
					つく(2)—つける(13) [付]	12 課—10 課
					つづく(3)—つづける(2)	Y6—21 課
				片方	うまれる—(うむ)、すすむ—(すすめる)、ならぶ—(ならべる)／(かたづく)—かたづける、(たつ)—たてる、(まちがう)—まちがえる	
		D-3	～e-ru— ～-ru	両方	みえる(14)—みる(43)	17 課—3 課
					きこえる(6)—きく(26)	17 課—3 課
その他		「語源や歴史的変化をたどることで説明できる」もの		両方	でる(42)—だす(7)	11 課—8 課
					はいる(34)—いれる(11)	11 課—12 課
					きえる(6)—けす(7)	12 課—10 課
				片方	ふえる—(ふやす)、(ひえる)—ひやす	

本教科書に出ている、自・他の対をなす動詞のうち、対の両方とも扱われているものは、計 29 組(58 語)で、グループ A の 2 組(A-2 : 1 組／A-3 : 1 組)、グループ B の 8 組(B-1)、グループ C の 4 組(C-2 : 1 組／C-3 : 3 組)、グループ D の 12 組(D-1 : 6 組／D-2 : 4 組／D-3 : 2 組)、その他の 3 組である。また、片方のみ扱われているものは、計 30 語で、グループ A の 9 語(A-1 : 7 語／A-2 : 2 語)、グループ B の 7 語(B-1)、グループ C の 6 語(C-1 : 4 語／C-2 : 2 語)、グループ D の 6 語(D-2)、その他の 2 語である。

次節の「(A)」ではまず、これらの動詞の、提出課および初出順(自・他の対をなす動詞が同じ課に出ているものには何があるか、本教科書に自・他の対の片方のみが出ている動詞には何があるかなど)について述べ、「(B)」では個々の動詞の文型について詳しくみていく。

(A) 提出課および初出順

自・他の対をなす動詞で、本教科書に両方とも扱われている動詞 29 組(自・他合わせて計 58 語)のうち、同じ課に同時に出ているものは「あく—あける」(12 課)、「おきる—おこす」(25 課)、「おちる—おとす」(17 課)など 17 組である。また、自動詞が先に出ているものは 2 組であり、他動詞が先に出ているものは 10 組である。分析に入る前に、次の＜表 3＞で、それぞれの動詞が提出されている課、および、共通して提出されている課を示しておく。

表 3 自・他の対をなす動詞の提出の課、および共通の課

No.	自動詞(数)	提出の課	他動詞(数)	提出の課	共通の課	対応の型
1.	あがる(6)	21、25、26、28	あげる(15)	8、13、15、22、27、Y7	―	B-1
2.	あく(3)	12、22	あける(8)	10、12、14、22、24、Y6、Y9	12、22	D-2
3.	あつまる(3)	19、Y5	あつめる(3)	14、17	―	B-1
4.	おきる(14)	3、11、16、25、Y6	おこす(1)	25	25	C-3
5.	おちる(6)	17、Y6	おとす(2)	17、26	17	C-3
6.	おりる(6)	11、17、19、23	おろす(3)	23、25	23	C-3
7.	おれる(1)	23	おる(1)	22	―	D-1
8.	かかる(19)	5、16、23、26、27	かける(13)	8、9、12、13、20、21、27、28	27	B-1
9.	かわる[変] (3)	21、25	かえる[変] (2)	20、Y3	―	B-1
10.	きえる(6)	12、22、25、28、Y9	けす(7)	10、11、20、22、24、Y6	22	その他
11.	きこえる(6)	17、23、Y9	きく(26)	3、10、12、13、14、19、20、23、24、25、26、27、28、Y6、Y9	23、Y9	D-3
12.	きれる(2)	23、24	きる(3)	17、20	―	D-1
13.	こわれる(2)	24、28	こわす(1)	24	24	A-2
14.	さがる(3)	21、27	さげる(1)	27	27	B-1
15.	しまる(2)	12、23	しめる(4)	10、11、24	―	B-1
16.	そだつ(2)	19	そだてる(2)	22	―	D-2
17.	つく[付] (2)	12、25	つける[付] (13)	10、17、20、22、24、27、Y5、Y6、Y9	―	D-2
18.	つづく(3)	Y6、Y10	つづける(2)	21、25	―	D-2
19.	でる(42)	11、15、16、17、18、19、21、22、24、25、26、28、Y5、Y6、Y9	だす(7)	8、12、26、27	26	その他
20.	とまる[泊] (14)	11、16、19、28	とめる[泊] (2)	16、Y9	16	B-1
	とまる[止] (7)	16、17、24	とめる[止] (2)	17	17	

21.	とれる(1)	23	とる(24)	4、10、11、12、15、17、19、22、23、27、Y3、Y8、Y9	23	D-1
22.	ながれる(1)	17	ながす(2)	Y5	—	C-2
23.	のる(10)	11、17、26、28、Y5	のせる(4)	12、17、Y5	17、Y5	A-3
24.	はいる(34)	11、14、15、16、17、20、21、23、24、26、27、Y4、Y6、Y9	いれる(11)	12、17、19、23、27、Y4	17、23、27、Y4	その他
25.	はじまる(14)	3、7、11、13、17、19、22、26、Y2	はじめる(3)	10、17	17	B-1
26.	みえる(14)	17、19、23、Y8、Y9	みる(43)	3、5、10、11、14、19、20、21、22、23、24、25、26、27、Y4、Y5、Y9、Y10	19、23、Y9	D-3
27.	やける(2)	17、24	やく(2)	16、17	17	D-1
28.	やぶれる(1)	23	やぶる(1)	22	—	D-1
29.	われる(2)	23、Y6	わる(2)	14、15	—	D-1

上で示した<表 2>と<表 3>をもとに、対をなす自・他動詞の本教科書での分布をまとめると、次の<表 4>のようになる。

表 4 対をなす自・他動詞の本教科書での分布

項　目	動詞の組(提出の課)		
同じ課に出ているもの(17 組：34 語)	あく—あける(12 課、22 課)	おきる—おこす(25 課)	おちる—おとす(17 課)
	おりる—おろす(23 課)	かかる—かける(27 課)	きえる—けす(22 課)
	きこえる—きく(23 課)	こわれる—こわす(24 課)	さがる—さげる(27 課)
	でる—だす(26 課、Y9)	とまる[泊、止]—とめる(17 課)	とれる—とる(23 課)
	のる—のせる(17 課)	はいる—いれる(17 課、23 課、27 課、Y4)	
	はじまる—はじめる(17 課、Y9)	みえる—みる(19 課、23 課、Y9)	やける—やく(17 課)
別々の課に出ているもの(12 組	自動詞が先に出ているもの(2 組：4 語)	そだつ(19 課)—そだてる(22 課)	ながれる(17 課)—ながす(Y5)
	他動詞が先に出ているもの(10 組：20 語)	あく(12 課)—あける(10 課)	あつまる(19 課)—あつめる(14 課)
		おれる(23 課)—おる(22 課)	かわる[変](21 課)—かえる(20 課)

：24 語)		きれる(23 課)―きる(17 課) つく[付](12 課)―つける(10 課) やぶれる(23 課)―やぶる(22 課)	しまる(12 課)―しめる(10 課) つづく(Y6)―つづける(21 課) われる(23 課)―わる(14 課)
一方のみ出ているもの (30 語)	自動詞のみ (15 語)	あたる(22 課)―(あてる) うまれる(8 課)―(うむ) かえる[帰](4 課)―(かえす) たおれる(23 課)―たおす とおる(17 課)―(とおす) ならぶ(22 課)―(ならべる) のこる(24 課)―(のこす) ゆれる(28 課)―(ゆらす)	うごく(14 課)―(うごかす) おわる(3 課)―(おえる) かわく(18 課)―(かわかす) すすむ(20 課)―(すすめる) なくなる(15 課)―(なくす) なる(23 課)―(ならす) ふえる(25 課)―(ふやす)
	他動詞のみ (15 語)	(あらわれる)―あらわす(Y3) (うつる)―うつす(14 課) (かたづく)―かたづける(20 課) (たすかる)―たすける(22 課) (なおる)―なおす(16 課) (ひえる)―ひやす(27 課) (まちがう)―まちがえる(22 課) (わく)―わかす(22 課)	(うかる)―うける(15 課) (かえる)―かえす[返](10 課) (きまる)―きめる(16 課) (たつ)―たてる(24 課) (はずれる)―はずす(18 課) (まざる)―まぜる(27 課) (みつかる)―みつける(27 課)

以下、対をなす自動詞・他動詞が同じ課に出ているものから順番にみていく。

1)対をなす自・他動詞が同じ課に出ているもの

上で述べたように、自他の対をなす動詞が同じ課に出ているものは、計 17 組と少なくない。これらのうち、次の 4 組は「ぶんけい・ごい」の中に、他動詞・自動詞の順で続けて文を出している。

※12 課、p.102

①あく―あける　(⑤も参照)

「あける」:「この　にんぎょうは　目や　口を　開けたり　閉じたり　します。」

「あく」　:「この　ドアは　開いたり　閉まったり　します。」

※17 課、p.146

②おちる―おとす

「おとす」:「男の　子が　上から　石を　おとしました。」

「おちる」:「上から　石が　おちました。」

③とまる―とめる[止]
「とめる」:「男の　人が　タクシーを　止めました。」
「とまる」:「タクシーが　止まりました。」
④はじまる―はじめる
「はじめる」:「工場の　人たちが　仕事を　はじめました。」
「はじまる」:「仕事が　はじまりました。」

特に、17 課の②-④の動詞は、他動詞のヲ格の名詞と自動詞のガ格の名詞とが対応しており、動詞の自・他対を意識して導入する課だと思われる。17 課の「ぶんけい・ごい」の「3」では、まず、「女の　子たちが　かわいい　にんぎょうを　作りました。」、「かわいい　にんぎょうが　できました。」という対(形態の面においては対応していないが、できあがった 2 つの文が同じ事柄を表わしている)を出して、それに続けて、②-④の文を出している。

このように、自・他動詞が意識的にとりあげられているのは 17 課の「ぶんけい・ごい」であるが、実はそれ以前の課の中で、とくに自・他動詞の対が意識されないまま、自動詞・他動詞の両方がすでに学習されているものがいくつかある。特に、同じ文型の使い方が既習のものには次のような動詞があり、これらは、17 課での指導の際、復習もかねて一緒にあげてもよいと思われる。

きえる―けす
「この　電気は　ついたり　きえたり　します。」(12 課；102)
「まだ、電気を　けさないで　ください。」(10 課；84)

しまる―しめる
「この　ドアは　開いたり　閉まったり　します。」(12 課；102)
「まどを　閉めないで　ください。」(10 課；84)

つく―つける
「この　電気は　ついたり　きえたり　します。」(12 課；102)
「すみませんが、電気を　つけて　ください。」(10 課；84)

とまる―とめる[泊]
「父は　あした　きょうとの　ホテルに　とまります。」(11 課；93)
「なつの　間など　特別な　時だけ、きゃくを　とめる　家の　ことです。」(16 課；133)

教科書の後半である 22 課では、次の⑤と⑥のような文を出し、動詞の自動詞＋シテイル、他動詞＋シテアルという使い分けおよび対応という、文法的な面も意識していることが分

かる[15]。ここでは、自動詞・他動詞の順で続けて出している。

※22 課、p.198

⑤あく―あける

「あく」 :「風が　ふいて、戸が　開きました。今、戸が　開いて　います。」

「あける」:「暑いから、マナさんは　戸を　開けました。今、戸が　開けて　あります。」

⑥きえる―けす

「きえる」:「風が　ふいて、火が　消えました。今、火が　消えて　います。」

「けす」 :「危ないから、わたしは　火を　消しました。今、火が　消して　あります。」

上の①-⑥の 6 組のように「ぶんけい・ごい」で対にして提示されてはいないが、本文会話の中に提出されている動詞に、次の 6 組がある。特に、⑦、⑧、⑨、⑪は構文も対応している。

※16 課、p.133

⑦とまる―とめる[泊]

「とまる」:「民宿だったら、安いですよ。このごろは　外国の　人たちも　とまるように　なりました。」

「とめる」:「「みんしゅく」と　いうのは　何ですか。
なつの　間など　特別な　時だけ、きゃくを　とめる　家の　ことです。」

※17 課、p.143

⑧はいる―いれる

「いれる」:「食器の　はこは　トランクに　入れました。この　いすも　入れますか。」

「はいる」:「それは　大きいから、入らないでしょう。」

※17 課、p.144

⑨やける―やく

「やく」 :「では、火を　つけて、肉を　やきましょう。」

「やける」:「さあ、肉が　やけました。」

※23 課、p.201

⑩おりる―おろす

「おりる」:「降りる　用意を　しましょう。」

「おろす」:「すみませんが、あみだなから　荷物を　降ろすのを　てつだって　ください。」

※25 課

[15] シテイル・シテアルに関しては、「3. 動詞の形態論的な性質」の「3.3. アスペクト」を参照していただきたい。

⑪おきる―おこす

「おきる」:「マナさんは　どうしたのでしょうか。いつも　雪を　見たがって　いたのに、起きて　来ませんね。」(p.221)

「おこす」:「もう　一度　マナさんを　起こして　みましょう。」(p.223)

さらに、次の⑫は、自動詞・他動詞が両方とも「ぶんけい・ごい」に提出されているが、構文的に対応している文ではなく、それぞれ個別的に出されている。

⑫こわれる―こわす

「こわす」:「わたしは　弟に　カメラを　こわされました。」(24 課 ; 214)

「こわれる」:「テレビが　こわれて　しまいました。」(24 課 ; 216)

最後に、「かかる―かける」、「さがる―さげる」(「あげる」との関連で出ている)、「でる―だす」、「とれる―とる」、「のる―のせる」、「みえる―みる」は、同じ課の中に自動詞・他動詞が両方とも出ているが、意識的に提出されているわけではなさそうである。

2)対をなす自・他動詞であるが、本教科書に一方のみ出ているもの

ここでは、自・他の対をなすのに、一方のみが扱われている動詞にはどんなものがあるか、また、対応する自動詞または他動詞を教えてもよいと思われるものなどについて考える。次の<表 5>に、その動詞の詳細や基本的と思われる教科書の例を示す。

表 5　自・他のうち、一方のみ出ている動詞

項　目	動詞[16]	数	例	
自動詞のみ出ているもの (15 語)	あたる―(あてる)	1	ボールに　当たらないように、気をつけた　方が　いいです。(22 課 ; 198)	ボールに　あたる
	うごく―(うごかす)	6	動いては　だめですよ。(14 課 ; 117)	(体が)　うごく
	うまれる―(うむ)	8	ことしの　春　女の　あかちゃんが生まれました。(8 課 ; 64)	あかちゃんが　うまれる
	おわる―(おえる)	12	パーティーは　なんじごろ　おわりましたか。(3 課 ; 18)	パーティーが　おわる
	かえる[帰]―(かえす)	33	アリさんは　もう　うちへ　かえりましたか。(7 課 ; 58)	アリさんが　うちへ　かえる
	かわく―(かわかす)	3	シャツが　かわくように、火の　そばへ　持って　行きました。(22 課 ; 198)	シャツが　かわく

[16] 本教科書に出ていない動詞は、丸括弧に入れて示す。

	たおれる―(たおす)	5	風が　つよく　ふいたので、木が　たおれそうに　なりました。(23 課 ; 205)	木が　たおれる
	すすむ―(すすめる)	7	日本では　じしんの　研究が　進んで　いるので、丈夫な　たてものが多い。(Y6 ; 271)	研究が　すすむ
	とおる―(とおす)	6	車は　さがみ湖の　そばを　通りましたか。(17 課 ; 145)	車が　そばを　とおる
	なくなる―(なくす)	7	となりの　家の　おじいさんが　亡くなって　しまいました。(24 課 ; 216)	おじいさんが　なくなる
	ならぶ―(ならべる)	4	わあ、おいしそうな　おべんとうが並んで　いますね。(23 課 ; 201)	おべんとうが　ならぶ
	なる―(ならす)	1	あ、発車の　ベルが　鳴って　いますよ。(23 課 ; 201)	ベルが　なる
	のこる―(のこす)	4	特に　地方には　昔の　行事が　そのまま　残って　います。(24 課 ; 210)	地方に　行事が　のこる
	ふえる―(ふやす)	4	新聞で　読みましたが、去年　東京の人口は　あまり　増えなかった　ようです。(25 課 ; 224)	人口が　ふえる
	ゆれる―(ゆらす)	1	バスが　角を　曲がる　度に、ゆれます。(28 課 ; 252)	(体が)　ゆれる
他動詞のみ出ているもの (15 語)	(あらわれる)―あらわす	6	その　人に　プレゼントを　おくって、かんしゃの　気持ちを　あらわすことが　あるだろう。(Y7 ; 274)	かんしゃの　気持ちを　あらわす
	(うかる)―うける	1	学生は　毎しゅう　発音の　テストを　受けて　います。(15 課 ; 129)	テストを　うける
	(うつる)―うつす	5	あの　子の　写真を　写したいです。(14 課 ; 116)	写真を　うつす
	(かえる)―かえす [返]	3	お金は　あとで　かえします。(10 課 ; 83)	お金を　かえす
	(かたづく)―かたづける	5	いいえ、もう　おわりましたから、どうぞ。すぐ、この　へんを　かたづけます。(20 課 ; 173)	この　へんを　かたづける
	(きまる)―きめる	4	もう　なつやすみの　よていを　きめましたか。(16 課 ; 132)	よていを　きめる
	(たすかる)―たすける	6	友だちは　わたしを　助けて　くれました。(22 課 ; 196)	友だちが　わたしを　たすける

	(たつ)—たてる	2	三百年ぐらい　前に　その　神社が建てられました。(24 課；215)	神社を　たてる
	(なおる)—なおす	3	マリアさんは、だれに　スピーチを直して　もらいましたか。(22 課；195)	スピーチを　なおす
	(はずれる)—はずす	1	シャツの　ボタンを　外して、台の上に　横に　なって　ください。(18 課；152)	ボタンを　はずす
	(ひえる)—ひやす	1	まず、試験管の　水を　氷で　冷やしなさい。(27 課；237)	水を　ひやす
	(まざる)—まぜる	1	つぎに、氷の　中に、食塩を　三分の一　ほど　まぜて　みなさい。(2 課；237)	食塩を　氷の　中に　まぜる
	(まちがう)—まちがえる	2	まちがえないように、スピーチの　練習を　して　おきたいのです。(22 課；193)	(スピーチを)　まちがえる
	(みつかる)—みつける	3	家に　帰る　途中で、野原の　雪の中に　つるが　たおれて　いるのを見つけました。(Y9；277)	つるが　たおれているのを　みつける
	(わく)—わかす	1	お茶が　のみたいから、おゆを　わかして　おいて　ください。(22 課；197)	おゆを　わかす

自・他の対をなす動詞でありながら、自動詞のみ出ているものが 15 語、他動詞のみ出ているものも 15 語である。中には、「(うかる)—うける」のように、形のうえでは対をなすが、自動詞と他動詞とが、互いにかなり異なる意味を表わすものもある。

・「うける」:「学生は　毎しゅう　発音の　テストを　受けて　います。」(15 課；129)

また、次のように、自動詞の形で用いられた文のみ扱われているものもある。

・「おわる」:「きょうの　じゅぎょうは　これで　おわります。」(10 課；82)

(※先生が　授業を　おえる)

「はじまる—はじまる」の場合は、「学校・授業がはじまる／をはじめる」両方とも出ている。

自動詞のみ扱われているものの中で「ならぶ：おべんとうがならぶ」に関しては「おべんとうをならべる」、「すすむ：研究がすすむ」に関しては「研究をすすめる」という表現も一緒に指導すると学習しやすいと思われる。また、他動詞のみ扱われているものの中では、「わかす：おゆをわかす」という表現に対して、「おゆがわく」など、また、文型は対応していないが、「ひやす」という動詞に対して、「ひえる：体がひえる」のような表現を一緒に教えてもよいと思われる。

(B) 文型分析

ここでは、自・他の対をなす動詞の文型を中心に考察を行なう。まず、「1)」では、自・他の対をなす動詞が両方とも本教科書に出ているものを、次に「2)」では、片方のみ出ているものを中心に述べる。文型の分析においては、「2.1.先行研究」で紹介した 2 つの文献(『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic Verbs)』、『新明解 国語辞典 第六版』)を参考にしながら、個々の動詞の「広く使われる文型[17]」を分析する。その上で、本教科書の文型を考察する。さらに、本教科書には出ていないが、一緒に指導しておいてもよさそうな文型についても述べる。なお、文例の提示においては、参考文献からそのまま引用する場合もある。

以下、動詞の五十音順で述べていくが、表の示し方について、いくつか記しておく。

●自動詞と他動詞とで対応する文型に関しては、表の中に横に並べて示す。

●説明の中で提示する例と組み合わせが非常に類似している例が、別の課に出ている場合があるものについては、元の例文の課・ページを示した後に、「他に 25 課 ; 225」のような形でそのことを示しておく。

●表の中で「☺」の印をつけたものがある。これは、日常生活で頻繁に使われるが、動詞の語彙的な意味の知識だけでは思いつきにくい文型で、留学生である筆者らが、一緒に指導するとよいのではないかと判断したものである。

1)自・他の対が両方とも出ているもの

(1) あがる(6)―あげる(15) (B-1 型)

「あがる」に関しては、次の<表 6>に示す 6 つの文型(ア、イ、エ、カ、キ、ケ)が、「あげる」に関しては、6 つの文型(ア、イ、ウ、オ、カ、ク)が広く使われると思われる。

表 6 「あがる」と「あげる」の広く使われる文型および例

分類		あがる	数	あげる	数
文型	ア	【《人》が 《場所》から 《場所》に／へ 《場所》を V)】 人が 1 階から 2 階に／へ 階段を あがる	―	【《人》が 《場所》に／へ 《物》を V】 人が 棚の上に 荷物を あげる	―
	イ	【《事》が 《段階・程度》から 《段階・程度》に／まで V】	5	【《人》が 《事》を 《段階・程度》から 《段階・程度》に	1

[17] 「「広く使われる文型」とは、留学生である筆者らが日本語を学習してきた経験にもとづいて、日常生活でよく使われると判断した文型をまとめたものである。」(「2.4.1.」の後半を参照していただきたい)。

		成績が　80 点から　90 点に　あがる 室温が　20 度から　30 度に　あがる		／まで　V】 人が　成績を　80 点から　90 点に　あげる 人が　室温を　20 度から　30 度に　あげる	
	ウ			【《人》が　《人》に　《物》を　V】 人が　友達に　花束を　あげる	12
	エ	【《場所》に　《現象》が　V】 競技場に　歓声が　あがる	—		
	オ			【《人》が　《現象》を　V】 人が　悲鳴を　あげる	—
	カ	【《事》が　V】 能率が　あがる	—	【《人》が　《事》を　V】 人が　能率を　あげる	—
	キ	【《現象：自然現象》が　V】 ☺ 雨が　あがる	—		
	ク			【《人》が　《イベント》を　V】 人が　結婚式を　あげる	—
	ケ	【《人》が　V】 人が　あがる	1		
慣用的な表現				例を　あげる	2
合計			6		15

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「あがる」の場合は 2 つ(イ、ケ)、「あげる」の場合は 2 つ(イ、ウ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「あがる」(全 6 例)

イ. 【《事》が　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　V】　(5 例)

例) ①「べんきょうしても、せいせきが　上がらないでしょう。」(21 課；187／他に 25 課；225)

②「来年は　たぶん　物価が　上がるだろうと　思います。」(26 課；233)

ケ. 【《人》が　V】　(1 例)

例) 「あの　時は、あがって　しまって、うまく　できませんでした。」(28 課；247)

「あがる」は、文型イと文型ケ(本報告では広く使われる文型の最後にあげている、“感情が高まる”のような意味の文型)が提出されている。一方、本教科書では、「あがる」の基本的な用法と思われる文型ア(物理的な位置変化を表わす「階段をあがる」のような文型、【《人》が《場所》から《場所》に／へ《場所》をV】)は扱われていない。

◆「あげる」(全15例)

イ.【《人》が　《事》を　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　V】(1例)

例)「さっき　部屋の　温度を　上げたから、あたたかい　はずです。」(27課；247)

ウ.【《人》が　《人》に　《物》を　V】　(12例)

例)①「この　にんぎょうを　おねえさんの　子どもさんに　あげましょう。」(8課；64)

②「外国人の　中には、「日本人は、物を　あげたり、もらったり　するのが　好きな　国民だ。」と　言う　人も　いる。」(Y7；273)

◇慣用的な表現

・例を　あげる　(2例)

例)①「学生が　わかるように、れいを　あげて、説明しました。」(22課；198)

②「いろいろと　例を　あげて　生徒に　考えさせる　やり方だった。」(27課；239)

「あげる」の場合は、広く使われるものとしてとりあげた6つの文型のうち、2つの文型と、1つの慣用的な表現が出ている。文型の中では、授受の意味を表わすウ.【《人》が《人》に《物》をあげる】が最初に提出され、一番多い(全15例中12例)。「あげる」で広く使われる文型イとしたものは、「あがる」の文型イに対応しており、両方とも本教科書で扱われている。ただし、「あがる」では「成績／物価があがる」のような組み合わせが、「あげる」では「湿度をあげる」のような組み合わせが提出されている。また、「例をあげる」という慣用的な表現も教科書の後半に2例出ている。これは、日本語教育の現場ではよく耳にする表現で、組み合わさるヲ格の名詞としては「例」のほかに、「模範解答／単語をあげて説明する」など、見本として具体性を持つものも考えられるが、比較的固定した組み合わせである。

(2)　あく(3)―あける(8)　(D-2型)

「あく」と「あける」の両方とも、次の<表7>に示す4つの文型(ア～エ)が広く使われると思われる。

表 7 「あく」と「あける」の広く使われる文型および例

分類		あく	数	あける	数
文型	ア	【《物：開け閉め可能なもの》が　V】 戸・窓が　あく	3	【《人》が　《物：開け閉め可能なもの》を　V】 人が　戸・窓・チャックを　あける 人が　ワインのふたを　あける	7
	イ	【《人》は　《物：身体部位》が　V】 人は　口が　あく	—	【《人》が　《物：身体部位》を　V】 人が　口を　あける	1
	ウ	【《組織》が　V】 ☺ お店・窓口が　あく	—	【《人／組織》が　《組織》を　V】 彼が　お店を　あける 東京の銀行は　9 時に　窓口を　あける	—
	エ	【《物／場所》に　《空間》が　V】 着物に　穴が　あく 壁に　穴が　あく	—	【《人》が　《物／場所》に　《空間》を　V】 人が　壁・地面に　穴を　あける ねずみが　着物に　穴を　あける	—
慣用的な表現				時間を　あける ☺	—
合計			3		8

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「あく」の場合は 1 つ(ア)、「あける」の場合は 2 つ(ア、イ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「あく」(全 3 例)

ア.【《物：開け閉め可能なもの》が　V】

例) ①「この　ドアは　<u>開いたり</u>　閉まったり　します。」(12 課；102)

②「風が　ふいて、戸が　<u>開きました</u>。」(22 課；198)

「あく」の場合、例文は少ないが、一番基本的だと思われる文型が出ており、組み合わさるガ格の名詞としては、「ドア、戸」のように典型的であり、かつ、日常生活でよく使われるものが出ている。

◆「あける」(全 8 例)

ア.【《人》が　《物：開け閉め可能なもの》を　V】(7 例)

例) ①「すみませんが、戸を　<u>開けて</u>　ください。」(10 課；84／他に 22 課；198、Y9；277)

②「ドアを　<u>開けた</u>　まま、(閉めずに)　外出しました。」(24 課；216)

③「それから、戸や　まどを　開けて、外へ　出る　用意を　した　方が　いい。」(Y6；271)
④「テキストの　十ページを　開けなさい。」(14 課；121)

イ.【《人》が　《物：身体部位》を　V】(1 例)
例)「この　にんぎょうは　目や　口を　開けたり　閉じたり　します。」(12 課；102)

「あける」は、本教科書に 2 つの文型が扱われており、全 8 例中 7 例が「戸をあける」、「ドアをあける」のような、日常生活でよく使われる文型ア.【《人》が《物：開け閉め可能なもの》を V】である。例④のように、「本・テキストをあける」ともいえる、“本の特定のページをひらく”のようなものも、比較的早い段階(14 課)で扱われている。ただし、意味的に反対になる語を考えた場合、「テキストの 10 ページをあける」に対しては、「とじる」であるのに対して、「戸、ドアをあける」に対しては「しめる」が一般的であるという差がある。また、1 例のみではあるが、「にんぎょう(ここでは、人間相当)が自発的に自分の身体部位をひらくこと」を表わす文型イも、比較的早い段階(12 課)で出ている。この場合も、反対語は「目、口をとじる」が考えられる(後述の(15)「しまる―しめる」も参照していただきたい)。

(3)　あつまる(3)―あつめる(3)　(B-1 型)

「あつまる」と「あつめる」の両方とも、次の<表 8>に示す 3 つの文型(ア～ウ)が広く使われると思われる。

表 8「あつまる」と「あつめる」の広く使われる文型および例

分類		あつまる	数	あつめる	数
文型	ア	【《人／物》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人／代表チームが　全世界から　東京にあつまる 支援物資が　全国から　被災地に　あつまる	3	【《人》が　《人／物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人が　全国から　東京に　国語の先生を　あつめる 人が　森から　家に　焚き木を　あつめる	2
	イ	【《人／物／事》に　《事》が　V】 彼に　世間の関心が　あつまる カップヌードルに　人気が　あつまる 殺人事件に　注目が　あつまる	―	【《人／物／事》が　《事》を　V】 彼が　世間の関心を　あつめる カップヌードルが　人気を　あつめる 殺人事件が　注目を　あつめる	―
	ウ	【《物／事》が　V】	―	【《人》が　《物／事》を　V】	1

		切手が　あつまる 殺人事件の証拠が　あつまる		人が　切手を　あつめる 警察が　殺人事件の証拠を　あつめる	
合計			3		3

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「あつまる」の場合は1つ(ア)、「あつめる」の場合は2つ(ア、ウ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「あつまる」(全3例)

ア.【《人》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】

例) ①「家の　外では、広場や　学校の　庭などに　人びとが　集まって、よる　おそくまで　にぎやかに　「ぼんおどり」を　します。」(Y5；269)

②「おぼんは、別れて　いる　かぞくが　集まる　大切な　時なのです。」(19課；163)

「あつまる」の場合、例文は少ないが、一番基本的と思われる文型アが出ている。これらは、“複数の人が離れたところから一定の場所へ移動する”という意味を表わし、カラ格の場所名詞は出ていないが、例①「広場や学校の庭などにあつまる」のようにニ格の場所名詞が出ている例も扱われている。

◆「あつめる」(全3例)

ア.【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】(2例)

例) 「マナさんは　森へ　行って、木の　えだを　あつめて　来て　ください。」(17課；144)

ウ.【《人》が　《物》を　V】(1例)

例) 「わたしの　しゅみは　きってを　あつめる　ことです。」(14課；119)

「あつめる」は、本報告で広く使われる文型としてとりあげているもののうち、2つの文型が扱われている。「(森から)(家に)木のえだをあつめる」のような文型ア.【《人》が《物》を《場所》から《場所》に／へV】が2例で、「きってをあつめる」のような、文型ウ.【《人》が《物》をV】が1例である。先に述べた「あつまる」の場合は(「あつめる」の文型と対応している)文型アのみ扱われているのに対して、「あつめる」は、文型ウも扱われており、かつ、文型アより先に出ている。

(4)　おきる(14)—おこす(1)　(C-3型)

「おきる」に関しては、次の<表9>に示す2つの文型(ア、イ)が、「おこす」に関して

は、3 つの文型(ア、ウ、エ)が広く使われると思われる。

表 9 「おきる」と「おこす」の広く使われる文型および例

分類		おきる	数	おこす	数
文型	ア	【《人》が V】 人が おきる	6	【《人》が 《人》を V】 人が 子供を おこす	1
	イ	【《場所》に 《現象／事》が V】 東京に 地震／連続殺人事件が おきる	8		
	ウ			【《人》が 《事》を V】 子供が 問題を おこす 人が 連続殺人事件を おこす	―
	エ			【《人》が 《物》を V】 人が 倒れた看板を おこす	―
合計			14		1

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「おきる」の場合は 2 つ(ア、イ)、「おこす」の場合は 1 つ(ア)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「おきる」(全 14 例)

ア.【《人》が V】(6 例)

例) ①「わたしは まいあさ 七じごろ おきます。」(3 課 ; 21／他に 11 課 ; 94)

②「いつも 雪を 見たがって いたのに、起きて 来ませんね。」(25 課 ; 221)

イ.【《場所》に 《現象》が V】(8 例)

例) ①「しかし、じしんが おきても、すぐ 外へ 出ない 方が 安全で ある。」(Y6 ; 271)

②「むかしから、動物が うるさく 鳴いたり、ものを 食べなく なったりすれば、じしんが おきると いう 話も ある。」(Y6 ; 272)

「おきる」の場合、本報告で広く使われるものとしてとりあげている 2 つ文型が両方とも出ている。まず、“眠っていた状態の人が目を覚ます”という意味の文型ア.【《人》が V】が早い段階(3 課)から後半(25 例)まで出ている。また、読み物では、(《場所》を表わすニ格の名詞は出ていないが)「東京に地震がおきる」のような文型イ.【《場所》に《現象》が V】が 8 例出ており、ガ格の名詞《現象》としては「地震」のみが出ている。

◆「おこす」(全 1 例)

ア.【《人》が　《人》を　V】

例)「もう　一度　マナさんを　起こして　みましょう。」(25 課 ; 233)

(5)　おちる(6)—おとす(2)　(C-3 型)

「おちる」に関しては、次の<表 10>に示す 5 つの文型(ア、イ、エ、オ、カ)が、「おとす」に関しては、5 つの文型(ア、イ、ウ、オ、カ)が広く使われると思われる。

表 10 「おちる」と「おとす」の広く使われる文型および例

分類		おちる	数	おとす	数
文型	ア	【《人／物》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人が　木から　地面に／へ　おちる 本が　本棚から　床に／へ　おちる	6	【《人》が　《物》を　(《場所》から)《場所》に／へ　V】 人が　本を　本棚から　床に／へ　おとす	2
	イ	【《物》から　《現象：ガ格名詞の部分的性質》が　V】 食器から　汚れが　おちる 【《物》の《現象：ガ格名詞の部分的性質》が　V】 食器の汚れが　おちる	—	【《人》が　《物》から　《現象：ガ格名詞の部分的性質》を　V】 人が　食器から　汚れを　おとす 【《人》が　《物》の《現象：ガ格名詞の部分的性質》を　V】 人が　食器の汚れを　おとす	—
	ウ			【《人》が　《事》を　《段階・程度》から　《段階・程度》に／へ　V】 人が　車のスピードを　100km から　80km に／へ　おとす	—
	エ	【《人》が　《事》に　V】☺ 人が　試験に　おちる	—		
	オ	【《状態・地位》が　V】 評判が　おちる	—	【《人》が　《状態・地位》を　V】 人が　評判を　おとす	—
	カ	【《事》から　《事》が　V】 リストから　彼の名前が　おちる	—	【《人》が　《事》から　《事》を　V】 人が リストから　彼の名前を　おとす	—
合計			6		2

上の表で示した文型のうち、本教科書には「おちる」、「おとす」両方とも、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「おちる」(全 6 例)

ア.【《物》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】

例) ①「上から　石が　おちました。」(17 課；146)

②「森の　中に　えだが　たくさん　おちて　いました。」(17 課；144)

③まどの　ガラスが　われて、おちて　来る　ことが　多いからで　ある。」(Y6；272)

「おちる」の場合、“物理的に上のほうから下のほうへ移動する”の意味の文型ア.【《物》が《場所》から《場所》に／へ V】のみ出ている。《場所》を表わすカラ格とニ／へ格の名詞が 1 つの文の中に同時に出ているものはないが、いずれかが表わされている文が多い(カラ格(2 例)、ニ格(3 例))。

◆「おとす」(全 2 例)

ア.【《人》が　《物》を　(《場所》から)　《場所》に／へ　V】

例) ①「男の　子が　上から　石を　おとしました。」(17 課；146)

②「姉は　妹に　お金を　おとさないように(と)　言いました。」(26 課；232)

「おとす」の場合、例文は 2 例のみであるが、一番基本的と思われる、物理的な移動を表わす文型アが 17 課と 26 課で 1 例ずつ出ている。そのうち、例②は、単なる《物》というより、“貴重品”(本教科書では「お金」)となる名詞と組み合わさり、“紛失する”という意味を表わす。「お金」の他に、「財布・かぎをおとす」などの例も考えられる。

(6) おりる(6)―おろす(3)　(C-3 型)

「おりる」に関しては、次の<表 11>に示す 3 つの文型(ア、ウ、エ)が、「おろす」に関しては、2 つの文型(ア、イ)が広く使われると思われる。

表 11 「おりる」と「おろす」の広く使われる文型および例

分類		おりる	数	おろす	数
文型	ア	【《人／乗り物》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人が　二階から　一階に／へ　おりる 飛行機が　地面に／へ　おりる	―	【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人が　本を　棚の上から　床に／へ　本を　おろす	3
	イ			【《人／乗り物》が　《物／人》を　V】 運転手が　貨物を　おろす ☺	―

				タクシーが　客を　おろす	
	ウ	【《人》が　《場所：上下に長いという空間的な性質を持っている》を　V】 人が　階段を　おりる	2		
	エ	【《人》が　《乗り物》を／から　V】 人が　バスを　おりる	4		
合計			6		3

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「おりる」の場合は 2 つ(ウ、エ)、「おろす」の場合は 1 つ(ア)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「おりる」(全 6 例)

ウ.【《人》が　《場所：上下に長いという空間的な性質を持っている》を　V】　(2 例)

例) ①「マナさんは　かいだんを　下りて　います。」(17 課；147)

②「この　坂を　下りて、はしを　渡ると、海岸に　出ます。」(19 課；166)

エ.【《人》が　《乗り物》を／から　V】　(4 例)

例) ①「……だいぶつ前の　ていりゅうじょで　バスを　おります。」(11 課；90)

②「わたしは　いつも　ぎんざ駅で　電車を　おります。」(11 課；93)

「おりる」の場合、広く使われるものとしてとりあげた 3 つの文型のうち、2 つの文型が出ている。「階段をおりる」のような文型ウ.【《人》が《場所》を V】と「バス、電車、タクシーをおりる」のような文型エ.【《人》が《乗り物》を／から V】であるが、本教科書では、後者(文型エ)が先に出ている。両方とも日常生活で頻繁に使われる表現である。

◆「おろす」(全 3 例)

ア.【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】

例) ①「すみませんが、あみだなから　荷物を　降ろすのを　てつだって　ください。」(23 課；201)

②「屋根の　上に　積もった　雪を　下ろす　仕事です。」(25 課；222)

「おろす」の場合、例文は少ないが、一番基本的と思われる文型が出ている。本教科書では、例①のようにカラ格の名詞(「あみだなから」)が表わされているものも、例②のように表わされてはいないが予想可能な(《場所》：屋根の上から)ものも出ている。

(7) おれる(1)―おる(1) (D-1 型)

「おれる」に関しては、次の<表 12>に示す 3 つの文型(ア、ウ、エ)が、「おる」に関しては、3 つの文型(ア～ウ)が広く使われると思われる。

表 12 「おれる」と「おる」の広く使われる文型および例

分類		おれる	数	おる	数
文型	ア	【《物》が V】 枝が おれる	1	【《人》が 《物》を V】 人が 枝を おる	1
	イ			【《人》が 《物》を 《状態》に V】 人が 千代紙を 鶴の形に おる	―
	ウ	【《人／物》は 《物：身体部位》が V】 人は 骨が おれる 花は 茎が おれる	―	【《人》が 《物：身体部位》を V】 ☺ 人が 骨を おる	―
	エ	【《物》が 《方向》に V】 水管が 下に おれる	―		
合計			1		1

上の表で示した文型のうち、本教科書には「おれる」、「おる」両方とも 1 例のみで、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「おれる」(全 1 例)

ア.【《物》が V】

例) 「細い ぼうが おれそうです。」(23 課；204)

◆「おる」(全 1 例)

ア.【《人》が 《物》を V】

例) 「子どもたちが さくらの えだを おらないように、注意して ください。」(22 課；198)

本教科書では「おれる」、「おる」と組み合わさる名詞として、「ぼう」、「えだ」のように細長いというイメージが浮かびやすい《物》が用いられている。

(8) かかる(19)―かける(13) (B-1 型)

「かかる」に関しては、次の<表 13>に示す 2 つの文型(ア、エ)が、「かける」に関しては、5 つの文型(ア～オ)が広く使われると思われる。

表 13 「かかる」と「かける」の広く使われる文型および例

分類		かかる	数	かける	数
文型	ア	【《場所／物》に　《物》が　V】 壁に　絵が　かかっている ハンガーに　帽子が　かかっている	—	【《人》が　《場所／物》に　《物》を　V】 人が　壁に　絵を　かける 人が　ハンガーに　帽子を　かける	1
	イ			【《人》が　《物》に　《物》を　V】 人が　サラダに　ドレッシングを　かける	—
	ウ			【《人》が　《物／場所》に　《物／事》を　V】☺ 人が　窓に　鍵を　かける 人が　玄関に　安全装置を　かける	—
	エ	【《事》に　《事：時間、費用》が　V】 調査に　時間が　かかる	19	【《人》が　《事》に　《事：時間、費用》を　V】☺ 警察官が　調査に　時間を　かける	—
	オ			【《人》が　《場所》に　V】 人が　椅子に　かける	2
慣用的な表現				電話を　かける	6
				めがねを　かける	4
合計			19		13

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「かかる」の場合は 1 つ(エ)、「かける」の場合は 2 つ(ア、オ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「かかる」(全 19 例)

エ.【《事》に　《事：時間、費用》が　V】

例) ①「そこへ　行くのに　どのぐらい　かかりますか。」(23 課；202)

②「予習に　一時間　かかりました。」(23 課；206)

③「とうきょうから　おおさかまで　ひこうきで　どのぐらい　かかりますか。」(5 課；37)

④「私立大学に　入ったら、お金が　かかる　はずです。」(27 課；241)

「かかる」の場合、「時間がかかる」、「お金がかかる」のような文型エ.【《事》に《事：時間、費用》がV】のみ出ている。例①、②のように《事》を表わすニ格の名詞が出ている場合も、例③、④のように、出ていないが文中の要素から予測可能な場合もある。

◆「かける」(全 13 例)

ア.【《人》が　《場所》に　《物》を　V】　(1 例)

例)「わたしは　かべに　とけいを　かけました。」(12 課；101)

オ.【《人》が　《場所》に　V】　(2 例)

例)「どうぞ　そこに　かけて　ください。」(21 課；188／他に 28 課；246)

◇慣用的な表現

・電話を　かける[18]　(6 例)

例) ①「あした　あなたに　でんわを　かけましょう。」(8 課；68)

②「(わたしは)　あした　母に　こくさい電話を　かけようと　思って　います。」(20 課；176)

・めがねを　かける　(4 例)

例) ①「よしださんは　めがねを　かけて　いますか。」(13 課；110)

②「祖父は、めがねを　かけないで、テレビの　画面の　小さい　字を　見ています。」(20 課；178)

「かける」の場合、「かべにとけいをかける」のような、“どこかに物理的にとめる”という意味の文型ア.【《人》が《場所》に《物》をV】が 1 例出ており(「かかる」の場合は出ていない)、“どこかに座る”という意味の文型オ.【《人》が《場所》にV】が 2 例出ている。また、文型としてはとりあげていないが、慣用的な表現である「電話をかける」、「めがねをかける」という 2 つの表現も出ており、例文数は多くないが、比較的様々なものが扱われていることが分かる。

(9)　かわる(3)―かえる(2)　[変]　(B-1 型)

「かわる」に関しては、次の<表 14>に示す 3 つの文型(ア～ウ)が、「かえる」に関しては、3 つの文型(ア、イ、エ)が広く使われると思われる。

[18] 「電話をとる、電話にでる、電話をきる」のような表現は出ていない。

表 14 「かわる」と「かえる」の広く使われる文型および例

分類		かわる	数	かえる	数
文型	ア	【《人／事》が　V】 人が　かわる 予定が　かわる	3	【《人》が　《物／事》を　V】 人が　お皿の形を　かえる 人が　予定を　かえる	2
	イ	【《物／現象／状態》が　《物／現象／状態》から　《物／現象／状態》に　V】 電力が　火力から　原子力に　かわる みぞれが　雪に　かわる	—	【《人》が　《物／現象／状態》を《物／現象／状態》から　《物／現象／状態》に　V】 人が　電力を　火力から　原子力にかえる	—
	ウ	【《人／物》が　《物／事》が　V】 人は　生活様式が　かわる レストランは　メニューが　かわる	—		
	エ			【《人／物／事》が　《物》を　《物》に　V】 魔術師が　ハンカチを　鶴に　かえる 暖かな太陽が　氷を　水に　かえる	—
合計			3		2

上の表で示した文型のうち、本教科書には「かわる」、「かえる」両方とも、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「かわる」（全 3 例）

ア.【《事》が　V】

例）①「会議の　予定が　<u>変わる</u>　かもしれません。(変わらない　かもしれません)」(21 課；188)

②「これからは、雪国の　生活も　だんだん　<u>変わって</u>　いくでしょう。」(25 課；222)

◆「かえる」（全 2 例）

ア.【《人》が　《物／事》を　V】

例）①「わたしは　専門を　<u>変えない</u>　つもりです。」(20 課；176)

②「ひらがなは、かんじの　ぜんたいの　かたちを　<u>かえて</u>、つくりました。」(Y3；264)

「かわる」も「かえる」も例文は少ないが、一番基本的だと思われる文型が出ている。そ

れぞれ組み合わさるガ格の名詞、ヲ格の名詞としては、「会議の予定、生活」、「専門」(《事》)、「かんじのかたち」(《物》)のように学生の生活でよく使われるものが出ている。

(10) きえる(6)―けす(7) (その他)

「きえる」に関しては、次の<表 15>に示す 2 つの文型(ア～ウ)が、「けす」に関しては、2 つの文型(ア、イ)が広く使われると思われる。

表 15 「きえる」と「けす」の広く使われる文型および例

分類		きえる	数	けす	数
文型	ア	【《物》が V】 電気が きえる	3	【《人》が 《物》を V】 人が 電気／暖房／ラジオを けす 人が 黒板の字を けす	4
	イ	【《現象》が V】 にじが きえる 火が きえる	2	【《人》が 《現象》を V】 人が 火を けす	3
	ウ	【《人／物》が 《場所》から 《場所》に／へ V】 人が 居間から 奥に／へ きえる 富士山が 汽車の窓から きえる	1		
合計			6		7

上の表で示した文型のうち、本教科書には「きえる」、「けす」両方とも、広く使われると思われる文型がすべて出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「きえる」(全 6 例)

ア.【《物：機器》が V】 (3 例)

例) ①「この 電気は ついたり きえたり します。」(12 課；102)

②「部屋の 電気が 消えて います。」(28 課；251)

イ.【《現象：火》が V】 (2 例)

例) 「風が ふいて、火が 消えました。今、火が 消えて います。」(22 課；198)

ウ.【《人：動物》が 《場所》から 《場所》に V】 (1 例)

例) 「夕やけの 赤い 雲の 中に 消えて 行って しまいました。」(Y9；280)

「きえる」の場合、「電気がきえる」のような文型ア.【《物》が V】、「火がきえる」のよう

な文型イ.【《現象》がV】、「(つるが)雲の中にきえる」(《場所》を表わすカラ格は表わされていないが)のような文型ウ.【《人：動物》が《場所》から《場所》にV】が出ている。

◆「けす」(全7例)

ア.【《人》が　《物》を　V】　(4例)

例) ①「まだ、電気を　けさないで　ください。」(10課；84)

②「それから、テレビも　けしました。」(11課；91)

③「けしゴムは、字を　けす　ために、使います。」(20課；177)

イ.【《人》が　《現象：火》を　V】　(3例)

例) ①「危ないから、わたしは　火を　消しました。」(22課；198)

②「火を　使って　いれば、すぐ　その　火を　けさなければ　ならない。」(Y6；271)

「けす」の場合は、2つの文型が出ており、それぞれ組み合わさるヲ格の名詞として、「電気、テレビ、字」《物》、「火」《現象》のように様々なものが出ている。

(11)　きこえる(6)—きく(26)　(D-3型)

「きこえる」に関しては、次の<表16>に示す2つの文型(ア、イ)が、「きく」に関しては、6つの文型(ア、ウ～キ)が広く使われると思われる。

表 16 「きこえる」と「きく」の広く使われる文型および例

分類		きこえる	数	きく	数
文型	ア	【《場所》から　《現象》が　V】 遠くから　小川のせせらぎが　きこえる	6	【《人》が　《現象：音》を　V】 人が　小川のせせらぎを　きく	—
	イ	【《事：内容的》が　《事》に　V】 彼の冗談が　皮肉に　きこえる	—		
	ウ			【《人》が　《物：機器など、内容的》を　V】 人が　ラジオを　きく	6
	エ			【《人》が　《人》から／の　《事：内容的》を　V】 人が　友人から　お話を　きく	7
	オ			【《人》が　《人》から　《内容》と　V】 人が　友達から　スーパーのメロンパンがおいしいと　きく	5

	カ			【《人》が　《物》で　《事：内容的》を V】 人が　ラジオで　天気予報を　きく	2
	キ			【《人》が　《人》に　《事：内容的》を V】 人が　お巡りさんに　道を　きく	5
慣用的な表現				見た　ことも　聞いた　ことも　ない	1
合計			6		26

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「きこえる」の場合は 1 つ(ア)、「きく」の場合は 5 つ(ウ～キ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「きこえる」(全 6 例)

ア.【《場所》から　《現象：音》が　V】

例) ①「草の　間から　虫の　鳴く　声が　きこえます。」(17 課；145)

②「戸を　たたく　音が　聞こえました。」(Y6；277)

「きこえる」の場合、6 例すべて一番基本的と思われる文型が出ている。例①のように場所を表わすカラ格の名詞(「草の間から」)が出ている文も、例②のように出ていない文もある。

◆「きく」(全 26 例)

ウ.【《人》が　《物：機器など、内容的》を　V】　(6 例)

例) ①「あなたは　ラジオを　ききますか。」(3 課；20)

②「何度も　くり返して　テープを　聞いた　方が　いいです。」(20 課；178)

③「兄は、横に　なって　おんがくの　放送を　聞いて　います。」(20 課；178)

エ.【《人》が　《人》から／の　《事：内容的》を　V】　(7 例)

例) ①「学生たちは　眠そうに　先生の　話を　聞いて　います。」(23 課；204)

②「母は　心配そうに　医者の　話を　聞いて　います。」(23 課；204)

③「いとう先生は、なぜ、マリアさんの　話を　聞きたがって　いたのですか。」(28 課；248)

④「学生たちは　メモを　とりながら、話を　聞いて　います。」(19 課；166)

オ.【《人》が　《人》から　《内容》と　V】　(5 例)

例) ①「アリさんから　あたらしい　本が　たくさん　来たと　ききましたが、ほん

とうですか。」(12 課；98)

②「友だちから　その　ニュースは　ほんとうだと　ききました。」(12 課；102)

③「マリアさん、ずっと　びょうきだったと　ききましたが、もう　だいじょうぶですか。」(12 課；99)

カ.【《人》が　《物》で　《事：内容的》を　V】　(2 例)

例) ①「ニュースで　聞きましたが、最近　交通事故が　減った　ようです。」(25 課；224)

②「ラジオで　聞きましたが、明日は　天気が　わるい　らしいです。」(28 課；251)

キ.【《人》が　《人》に　《事：内容的》を　V】　(5 例)

例) ①「パーティーの　けんは　いくらか、父に　(ねだんを)　ききました。」(13 課；111)

②「では、中村くんに　都合を　聞いて　みましょう。」(27 課；237)

◇慣用的な表現

・見た　ことも　聞いた　ことも　ない　(1 例)

例) 「見た　ことも　聞いた　ことも　ない　めずらしい　布だ。」(Y9；279)

「きく」の場合は、「ラジオをきく」のような文型ウ.【《人》が《物：機器など、内容的》をV】から、“うかがう”という意味の文型キ.【《人》が《人》に《事：内容的》をV】、「見たことも聞いたこともない」という固定した組み合わせまで、本報告で広く使われる文型としてとりあげている 6 つの文型のうち 5 つが扱われている。「人から／の話をきく」のような文型エ.【《人》が《人》から／の《事：内容的》をV】が、「きく」の全 26 例中 7 例と一番多いが、19 課以降で扱われている。また、エの例①～③のように、情報の出発点となる人を表わすノ格の名詞が表わされている場合が 4 例と多い。文型ウとしているものも 6 例と多く、早い段階(3 課)から教科書の後半(20 課、Y6)まで出ている。

(12)　きれる(2)—きる(3)　(D-1 型)

「きれる」に関しては、次の＜表 17＞に示す 2 つの文型(ア、イ)が、「きる」に関しては、3 つの文型(ア、ウ、エ)が広く使われると思われる。

表 17 「きれる」と「きる」の広く使われる文型および例

分類		きれる	数	きる	数
文型	ア	【《物》が V】 ひもが きれる	2	【《人》が 《物》を V】 人が ひもを きる	3
	イ	【《物／事：期限》が V】 ☺ ガソリン・薬／賞味期限が きれる	—		
	ウ			【《人》が 《身体部位》を V】 人が 指を きる	—
	エ			【《人》が 《電源》を V】 人が スイッチ・電源・冷房を きる	—
慣用的な表現				電話を きる[19] ☺	—
合計			2		3

上の表で示した文型のうち、本教科書には「きれる」、「きる」両方とも、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「きれる」(全 2 例)

ア.【《物》が V】】

例) ①「切れそうな ひもや 破れそうな 布は すてて ください。」(23 課 ; 205)

②「大風で 電線が 切れました。」(24 課 ; 216)

「きれる」の場合は、例②のように“きれる”状態にさせた原因がデ格で表わされている文を出している。

◆「きる」(全 3 例)

ア.【《人》が 《物》を V】】

例) ①「わたしは 米を 洗ったり、やさいを 切ったり します。」(17 課 ; 144)

②「ナイフと フォークを 使って 肉を 切って ください。」(20 課 ; 177)

「きる」は、広く使われる文型としているもののうち、「ひもをきる」の文型ア.【《人》が《物》を V】が出ている。

[19] 「電話をかける」は 8 課が初出であり、6 例出ている(「(8)かける―かかる」を参照していただきたい)。

(13)　こわれる(2)—こわす(1)　(A-2 型)

「こわれる」と「こわす」に関しては、次の<表 18>に示す 1 つが広く使われると思われる。

表 18 「こわれる」と「こわす」の広く使われる文型および例

分類	こわれる	数	こわす	数
文型	【《物》が　V】 時計が　こわれる	2	【《人》が　《物》を　V】 人が　時計を　こわす	1
慣用的な表現			お腹を　こわす ☺	—
合計		2		1

それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「こわれる」(全 2 例)

【《物》が　V】

例) ①「テレビが　こわれて　しまいました。」(24 課；216)

②「買ったばかりの　家具が　こわれて　しまいました。」(28 課；251)

◆「こわす」(全 1 例)

【《人》が　《物》を　V】

例) 「わたしは　弟に　カメラを　こわされました。」(24 課；214)

「こわれる」も「こわす」も広く使われる文型は多様ではなく、本教科書でも一番基本的と思われるものが出ている。

(14)　さがる(3)—さげる(1)　(B-1 型)

「さがる」と「さげる」の両方とも、次の<表 19>に示す 3 つの文型(ア～ウ)が広く使われると思われる。

表 19 「さがる」と「さげる」の広く使われる文型および例

分類		さがる	数	さげる	数
文型	ア	【《事》が　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　V】 成績が　90 点から　80 点に　さがる	3	【《人》が　《事》を　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　V】	1

		水温が　30 度から　20 度に　さがる		先生が　(学生の)成績を　90 点から　80 点に　さげる 人が　室温を　30 度から　20 度に　さげる	
	イ	【《物》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】 ズボンが　腰から　下に／へ　さがる	―	【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人が　壁時計を　上から　下に／へ　さげる	―
	ウ	【《人》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人が　客間から　奥に／へ　さがる	―	【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】 ☺ 人が　あいたお皿を　食卓から　さげる	―
合計			3		1

上の表で示した文型のうち、本教科書には「さがる」、「さげる」両方とも、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「さがる」(全 3 例)

ア.【《事》が　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　V】

例) ①「来年は　物価が　下がる　かもしれません。(下がらない　かもしれません)」(21 課；188)

②「温度が　もっと　下がって、水が　こおる　はずです。」(27 課；237)

「さがる」は、本報告で広く使われる文型としてとりあげているもののうち、「物価がさがる」、「温度がさがる」のような文型ウ.【《事》が《段階・程度》から《段階・程度》に／まで V】が出ている。ガ格の《事》は、数量・地位を表わすもの(その内容を数字や段階で示すことのできる)である。

◆「さげる」(全 1 例)

ア.【《人》が　《事》を　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　V】

例) 「さっき　部屋の　温度を　下げたから、あたたかく　ない　はずです。」(27 課；241)

「さげる」も(「さがる」の文型に対応している)文型アが出ている。組み合わさるヲ格の名詞としては「温度を下げる」のように、人が意識的に調整可能なものが出ており、ふさわ

しい例が提出されていると思われる。

なお、「さがる―さげる」の場合も、(1)「あがる―あげる」と同様に、「ズボンがさがる」、「壁時計の位置をさげる」のような、物理的な位置変化を表わす文型は扱われていない。

(15)　しまる(2)―しめる(4)　(B-1 型)

「しまる」と「しめる」の両方とも、次の<表 20>に示す 2 つの文型(ア、イ)が広く使われると思われる。

表 20 「しまる」と「しめる」の広く使われる文型および例

分類		しまる	数	しめる	数
文型	ア	【《物：開け閉め可能なもの》が　V】 戸・窓が　しまる	2	【《人》が　《物：開け閉め可能なもの》を　V】 人が　戸・窓を　しめる 人が　ワインのふたを　しめる	4
	イ	【《組織》が　V】 お店・銀行・窓口が　しまっている	―	【《人／組織》が《組織》を　V】 彼が　お店を　しめる 日本が　東京の銀行を　一時的に　しめる 東京の銀行は　15 時に　窓口を　しめる	―
合計			2		4

上の表で示した文型のうち、本教科書には「しまる」、「しめる」両方とも、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「しまる」(全 2 例)

ア.【《物：開け閉め可能なもの》が　V】

例) ①「この　ドアは　開いたり　閉まったり　します。」(12 課；102)

②「ドアが　閉まりそうですよ。」(23 課；201)

◆「しめる」(全 4 例)

ア.【《人》が　《物：開け閉め可能なもの》を　V】

例) ①「まどを　閉めないで　ください。」(10 課；84／他に 11 課；91)

②「ドアを　開けた　まま、(閉めずに)　外出しました。」(24 課；216)

「しまる」も「しめる」も例文は少ないが、一番基本的と思われる文型が出ている。それ

ぞれ組み合わさるガ格の名詞、ヲ格の名詞としては、「ドア、まど」のように典型的でかつ日常生活でよく使われるものが出ている。

(16) そだつ(2)―そだてる(2) (D-2 型)

「そだつ」に関しては、次の<表 21>に示す 1 つの文型(ア)が、「そだてる」に関しては、2 つの文型(ア、イ)が広く使われると思われる。

表 21 「そだつ」と「そだてる」の広く使われる文型および例

分類		そだつ	数	そだてる	数
文型	ア	【《人／植物／動物》が V】 子供が そだつ 植物が そだつ	2	【《人》が 《人／植物／動物》を V】 人が 子供を そだてる	2
	イ			【《人》が 《人：人材》を V】 人が 後継者を そだてる	―
合計			2		2

上の表で示した文型のうち、本教科書には「そだつ」、「そだてる」両方とも、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「そだつ」(全 2 例)

ア.【《人》が V】

例) ①「わたしが 育ったのは タイの いなかです。」(19 課 ; 163)

②「マナさんは どこで 育ちましたか。」(19 課 ; 164)

◆「そだてる」(全 2 例)

ア.【《人》が 《人》を V】

例) ①「祖母は わたしを 育てて くれました。」(19 課 ; 196)

②「わたしは 祖母に 育てて もらいました。」(22 課 ; 197)

「そだつ」も「そだてる」も広く使われる文型はあまり多くなく、本教科書でも一番基本的と思われるものが出ている。「そだつ」の場合は、「どこで・(タイのいなかで)」のように、そだった場所がデ格の名詞で表わされているか、予測可能な例を出している。

(17) つく(2)―つける(13) [付] (D-2 型)

「つく」に関しては、次の<表 22>に示す 3 つの文型(ア～ウ)が、「つける」に関しては、4 つの文型(ア、イ、エ、オ)が広く使われると思われる。

表 22 「つく」と「つける」の広く使われる文型および例

分類		つく	数	つける	数
文型	ア	【《物》に　《物》が　V】 服に　インクが　つく 手に　魚のにおいが　つく 雪に　足跡が　つく 食器セットに　おまけが　ついている	―	【《人》が　《物》に　《物》を　V】 人が　服に　インクを　つける 人が　服に　バッジを　つける 人が　足に　薬を　つける いのししが　雪に　足跡を　つける	1
	イ	【《現象：火》が　V】 火が　つく		【《人》が　《物》に　《現象：火》を　V】 人が　ろうそくに　火を　つける 人が　ごみに　火を　つける	3
	ウ	【《人／物》が／に　《属性》が　V】 子供は／に　英語力が　つく 車に　加速度が　ついてくる	―		
	エ	《物：機器》が　V】 電気が　つく	1	【《人》が　《物：機器》を　V】 人が　(部屋の)電気を　つける 人が　(部屋の)冷房・暖房を　つける	3
	オ			【《人》が　《人／物》に　（《固有名詞・数量》と）　《呼称・値》を　V】 彼が　子供に　太郎と　名前を　つける 彼が　野菜に　(300 円と)　値段を　つける	―
慣用的な表現		気が　つく	1	気を　つける	5
				日記を　つける	1
合計			2		13

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「つく」の場合は 1 つ(エ)、「つける」の場合は 3 つ(ア、イ、エ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「つく」(全 2 例)

エ.【《物：機器》が　V】　(1 例)

例)「この　電気は　ついたり　きえたり　します。」(12 課；102)

◇慣用的な表現

・気が　つく　(1 例)

例)「自習室で　勉強して　いたので、雪には　全然　気が　つきませんでした。」(25 課；221)

本教科書で「つく」は、2 例のみであるが、広く使われる文型の 1 つと慣用的な表現が 1 例ずつ提出されている。ただし、「服にインクがつく」のような、文型ア.【《物》に《物》が V】としてまとめた、物理的に“付着する”という意味の使い方は扱われていない。

◆「つける」(全 13 例)

ア.【《人》が　《物》に　《物》を　V】　(1 例)

例)「若者は、……川の　水で　洗ったり、薬を　つけたり　して、助けて　やりました。」(Y9；277)

イ.【《人》が　《物》に　《現象：火》を　V】　(3 例)

例)「この　時、ろうそくに　火を　つけて、花などと　いっしょに　流す　こともあります。」(Y5；269／他に 17 課；144、20 課；177)

エ.【《人》が　《物：機器》を　V】　(3 例)

例)「すみませんが、電気を　つけて　ください。」(10 課；84／他に 24 課；216)

◇慣用的な表現

・気を　つける　(5 例)

例)①「表の　通りは　危ないから、車に　気を　つけて　帰って　ください。」(20 課；175／他に 20 課；178)

②「ボールに　当たらないように、気を　つけた　方が　いいです。」(22 課；198)

③「外に　いる　時、じしんが　おきたら、どんな　ことに　気を　つけなければ　なりませんか。」(Y6；272)

・日記を　つける　(1 例)

例)「先生は　生徒に　日記を　つけさせました。」(27 課；240)

「つける」の場合は、(「つく」では提出されていなかった)物理的に“付着させる”という意味の「薬をつける」のような、文型ア.【《人》が《物》に《物》を V】から、「気をつける」、「日記をつける」のような慣用的な表現まで、様々なものが出ている。提出順か

らみると、「電気をつける」(“電気をオンにする”の意味)のような、文型エ.【《人》が《物：機器》をつける】が一番早く出ている。「車に気をつける」のような“物・事に注意する”という表現が全 13 例中 5 例と一番多いが、教科書の後半(20 課)から出ている[20]。文型アとした“付着させる”の「つける」に関しては、先の＜表 22＞にも示したように、「服にバッジをつける」のような例を補足してもよいと思われる。

(18)　つづく(3)―つづける(2)　(D-2 型)

「つづく」と「つづける」に関しては、次の＜表 23＞に示す 1 つの文型が広く使われると思われる。

表 23 「つづく」と「つづける」の広く使われる文型および例

分類	つづく	数	つづける	数
文型	【《現象》が　V】 地震が　つづく	3	【《人》が　《事》を　V】 人が　会議を　つづける	2
合計		3		2

それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「つづく」(全 3 例)

【《現象》が　V】

例) ①「1 分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫だから、火や　ガスなどが　安全か　どうか、しらべる。」(Y6；271)

②「毎日　暑い　日が　続いて　おりますが、皆様、お元気で　いらっしゃいますか。」(Y10；282)

「つづく」は読み物(その中でも後半)に 3 例出ている。ガ格の名詞としては「じしんがつづく」、「暑い日がつづく」のような《現象》のみ扱われている。「寒い日／暑い日」のような天気より、「じしんがつづく」の例が先に出ていることが特徴的である((4)「おきる―おこす」の「おきる」:「地震がおきる」も参照していただきたい)。

◆「つづける」(全 2 例)

【《人》が　《事》を　V】

例) ①「でも、少しでも、毎日　書く　練習を　続ければ、覚えられますよ。」(21 課；185)

---

[20]　「注意する」も 10 課から 26 課までに 5 例出ている。
例)　「あぶないから、ボールや　バットに　ちゅういして　ください。」(10 課；82)

②「わたしは　将来も　ずっと　この　研究を　続けて　いく　つもりです。」
(25 課；226)

「つづける」も教科書の後半に出ており、ヲ格の名詞としては「練習をつづける」、「研究をつづける」のような留学生が日常生活でよく使うような《事》が扱われている。

(19)　でる(42)―だす(7)　(その他)

「でる」に関しては、次の<表 24>に示す 9 つの文型(ア、イ、エ、オ、ク～コ、シ、セ)が、「だす」に関しては、8 つの文型(ア、ウ、カ～ク、サ～ス)が広く使われると思われる。

表 24 「でる」と「だす」の広く使われる文型および例

分類		でる	数	だす	数
文型	ア	【《人／物》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人が　部屋から　玄関に　でる 人が　田舎から　都市に　でる 車が　車庫から　通りに　でる	17	【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】 子供が　箱の中から　おもちゃを　だす	4
	イ	【《人／乗り物》が　《場所》を　V】 人が　部屋を　でる 人が　国を　でる 電車が　駅を　でる	13		
	ウ			【《人／物》が　《物：部分》から　《物》を　V】 人が　鼻から　タバコの煙を　だす 浅見山が　噴火口から　煙を　だす	―
	エ	【《人》が　《組織：学校》を　V】 人が　大学を　でる	2		
	オ	【《人》が　《イベント》に　でる】 人が　会議に　でる	7		
	カ			【《人／組織》が　《組織／場所／言語作品》に　《物／事》を　V】 人が　大学に　願書を　だす 人が　新聞に　広告を　だす	―
	キ			【《人／組織》が　《人》に　《物》を　V】 人が　客に　お茶を　だす 会社が　社員に　ボーナスを　だす	1

	ク	【《人／物》は　《事：側面的》が　V】 人は　勇気が　でる 車は　スピードが　でる	—	【《人／組織／物》が　《事：側面的》を　V】 人が　勇気を　だす ☺ 車が　スピードを　だす	—
	ケ	【《場所》に　《人／物／現象》が　V】 牧場に　狼が　でる 空に　太陽が　でる 風が　でる	3		
	コ	【《場所／物》から　《現象》が　V】 隣の家から　火事が　でる スピーカーから　音が　でる	—		
	サ			【《人》が　《現象》を　V】 人が　声を　だす	1
	シ	【《事》が　V】 結論が　でる 新作が　でる	—	【《人／組織》が　《事》を　V】 人が　結論を　だす ☺ 学校が　新しい決定を　だす	—
	ス			【《人／組織》が　《場所》に／へ　《組織：店》を　V】 人が　駅前に　喫茶店を　だす	—
	セ	【《現象》で　《事／人》が　V】 台風で　被害が　でる 地震で　怪我人が　でる	—		
慣用的な表現				手紙を　だす	1
合計			42		7

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「でる」の場合は 5 つ(ア、イ、エ、オ、ケ)、「だす」の場合は 3 つ(ア、キ、サ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「でる」(全 42 例)

ア.【《人》が　《場所》から　《場所》に／へ　V】　(17 例)

例) ①「人が　わたしの　いる　へやから　外へ　出て　行きました。」(17 課 ; 148)

②「弟は、へやに　入った　まま、外へ　出て　来ません。」(24 課；216)
③「若者に　見られたのを　知った　娘は、部屋から　出て　来て、静かに　言いました。」(Y9；279)
④「この　道を　まっすぐ　行って、二番目の　角を　左へ　曲がると、広場に　出ます。」(19 課；163)

イ.【《人／乗り物》が　《場所》を　V】　(13 例)

例) ①「わたしは　毎あさ　九時ごろ　家を　でます。」(11 課;93／他に 22 課;198、Y5；268、270、Y9；281)
②「ニ、三日　早く　東京を　出ましょう。」(19 課；163)
③「電車は、なん時に　駅を　でて、なんじごろ　かまくら駅に　つきましたか。」(11 課；91)

エ.【《人》が　《組織：学校》を　V】　(2 例)

例) ①「いもうとは、きょねん　ちゅうがっこうを　でて、こうとうがっこうに　入りました。」(11 課；94)
②「入学と　いうのは　学校に　入る　ことで、そつぎょうと　いうのは　学校を　出る　ことです。」(16 課；138)

オ.【《人》が　《イベント》に　V】　(7 例)

例) ①「じゅぎょうに　出たら、後で　よく　復習しなさい。」(21 課；188)
②「外国人でも　成人式に　出られるのですか。」(26 課；229)
③「A クラスは、しあいに　出る　度に、一位に　なります。」(28 課；252)

ケ.【《場所》に　《物》が　V】　(3 例)

例) ①「東の　空には　もう　ほしが　出て　います。」(17 課；145)
②「日が　出ると、あつく　なります。」(19 課；166)

「でる」の場合、「へやから外へでる」、「広場にでる」のような、文型ア.【《人》が《場所》から《場所》に／へ V】から「空にほしがでる、あらわれる」のような、文型ケ.【《場所》に《物》が V】(本教科書では、《物》として、自然物のみが出ている)まで非常に様々な文型が扱われている。そのうち、文型アが全 42 例中 17 例と一番多く、次に、「人が家をでる」、「電車が駅をでる」のような文型イ.【《人／乗り物》が《場所》を V】が 13 例出ている。また、“参加する”という意味の「授業・成人式・試合にでる」のような、文型オ.【《人》が《イベント》に V】も 7 例と少なくない。“卒業する”という意味の「学校をでる」のような、文型エ.【《人》が《組織：学校》を V】はも頻繁に使われる表現で、比較的早い段階

(11 課)で扱われている。

◆「だす」(全 7 例)

ア.【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】　(4 例)

例) ①「まだ　れいぞうこから　ビールを　ださないで　ください。」(12 課；101)

②「わたしは　あの　黒い　はこから　カードを　だしました。」(12 課；101)

キ.【《人》が　《人》に　《物》を　V】　(1 例)

例) 「水よう日までに　宿題を　出さなければ　なりません。」(26 課；233)

サ.【《人》が　《現象》を　V】　(1 例)

例) 「わたしは、大きい　声を　出して、友だちを　びっくりさせました。」(27 課；240)

◇慣用的な表現

・手紙を　だす　(1 例)

例) 「わたしは　母に　てがみを　だしました。」(8 課；66)

「だす」は 7 例と多くないが、3 つの文型が出ている。物理的な位置の変化を表わす「れいぞうこからビールをだす」のような、文型ア.【《人》が《場所》から《場所》に《物》を V】が全 7 例中 4 例と一番多い。“与える”という意味の「宿題をだす」のような、文型キ.【《人》が《人》に《物》を V】も、文型サ.【《人》が《現象》を V】の「声をだす」も、1 例ずつではあるが、教科書の後半で出ている。「てがみをだす」とう慣用的な表現が「だす」の例として一番早く、比較的早い段階(8 課)で扱われている。

(20)　とまる(21)—とめる(4)

(20-1)「とまる」(14 例)—「とめる」(2 例)　[泊]

「とまる」と「とめる」に関しては、次の<表 25>に示す 1 つの文型が広く使われると思われる。

表 25 「とまる」と「とめる」[泊] の広く使われる文型および例

分類	とまる	数	とめる	数
文型	【《人》が　《場所》に　V】 人が　ホテルに　とまる	14	【《人》が　《人》を　《場所》に　V】 人が　友達を　家に　とめる	2
合計		14		2

それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「とまる」[泊]（全 14 例）

【《人》が　《場所》に　V】

例) ①「こんばんは　ちかくの　りょかんに　とまって、あした　お寺の　けんぶつに　行きます。」(11 課；90)

②「では、民宿に　とまる　ことに　します。」(16 課；133)

③「しかし、まだ　日本人の　家に　とまった　ことは　ありません。(19 課；165／他に 28 課；252)

「とまる」は、比較的早い段階(11 課)から教科書の後半まで(28 課)出ている。『新明解　国語辞典　第六版』の「泊まる」の項目にも書かれているように、「自分の家以外の所で、夜を過ごす。」(p.1080)という、動作を行なう場所が「自分の家以外の所」という特徴にも注意しながら教える必要があると思われる。本教科書では、ニ格の名詞としては「りょかん／ホテル／民宿／日本人・友だちの家」のように様々なものが出ている。

◆「とめる」[泊]（全 2 例）

【《人》が　《人》を　《場所》に　V】

例) ①「なつの　間など　特別な　時だけ、きゃくを　とめる　家の　ことです。」(16 課；133)

②「その　夜、親切な　若者は　その　娘を　とめて　あげました。」(Y9；278)

「とめる」は 2 例のみで、文中に場所を表わす名詞がニ格で明記されてはいないが、①「民宿に」、②「家に」のように、文脈上予測することができる。

(20-2)「とまる」(7 例)―「とめる」(2 例)　[止]

「とまる」と「とめる」の両方とも、次の＜表 26＞に示す 2 つの文型(ア、イ)が広く使われると思われる。

表 26「とまる」と「とめる」[止] の広く使われる文型および例

分類		とまる	数	とめる	数
文型	ア	【《人／乗り物》が　《場所》に　V】 人が　教室の前に　とまる バスが　市役所の前に　とまる	3	【《人》が　《場所》に　《人／乗り物》を　V】 人が　駅前に　車を　とめる 警察が　彼／車を　とめる	2

	イ	【《物／事》が　V】 モーターが　とまる 水道が　止まる 出血が　とまる	4	【《人》が　《物／事》を　V】 人が　モーターを　とめる 人が　水の流れを　とめる 人が　咳を　とめる	―
合計			7		2

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「とまる」の場合は 2 つ(ア、イ)、「とめる」の場合は 1 つ(ア)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「とまる」[止]（全 7 例）

ア.【《乗り物》が　《場所》に　V】　(3 例)

例) ①「急行電車と　いうのは　小さい　駅に　とまらない、はやい　電車の　ことです。」(16 課；138)

②「向こうに　車が　たくさん　止まって　いますね。」(17 課；143)

③「タクシーが　止まりました。」(17 課；146)

イ.【《物》が　V】　(4 例)

例) ①「この　時計は　止まった　まま、ずっと　動きません。」(24 課；216)

②「じしんで　ガスも　水道も　止まって　しまいました。」(24 課；216)

「とまる」は、本報告で広く使われるとした 2 つの文型がいずれも扱われている。本教科書では、“停車する”のような意味の「電車／車がとまる」の文型ア.【《乗り物》が《場所》に V】が先に出ており、「とまる」場所を表わすニ格の名詞が出ているものも(ア.①「小さい駅に」と②「向こうに」)出ていないものも(③)もある。また、教科書の後半には(24 課)、“動かない、活動しない”のような意味の「時計がとまる」、「ガス・水道がとまる」の文型イ.【《物》が V】が 4 例出ている。

◆「とめる」[止]（全 2 例）

ア.【《人》が　《場所》に　《乗り物》を　V】

例) ①「では、はしを　わたってから、車を　止めましょう。」(17 課；144)

②「男の　人が　タクシーを　止めました。」(17 課；146)

「とめる」は、広く使われる文型としているもののうち、「車／タクシーをとめる」の文型ア.【《人》が《場所》に《乗り物》を V】が出ている。2 例のみであるが、“停車させる”の意味の文(例①)も、“捕まえる”の意味の文(例②)も扱われている。

(21) とれる(1)―とる(24) (D-1 型)

「とれる」に関しては、次の<表 27>に示す 4 つの文型(ア、イ、カ、キ)が、「とる」に関しては、6 つの文型(ア、ウ～キ)が広く使われると思われる。

表 27 「とれる」と「とる」の広く使われる文型および例

分類		とれる[21]	数	とる	数
文型	ア	【《物：全体》から 《物：付着していたもの》が V】 服から ボタンが とれる 【《物：全体》の 《物：付着していたもの》が V】 服の ボタンが とれる	1	【《人》が 《物：全体／場所》から 《物：付着していたもの》を V】 人が 本棚から 本を とる 【《人》が 《物：全体／場所》の 《物：付着していたもの》を V】 人が 本棚の 本を とる	8
	イ	【《場所》から 《物・生産物》が V】 鉱山から 石炭が とれる	―		
	ウ			【《人》が 《物》を 《物：場所性あり》に V】 人が おかずを 皿に とる 人が 手紙を (手に) とる	―
	エ			【《人》が 《人／物／場所》から 《人／物：カラ格名詞の所有物的》を V】 泥棒が 彼／かばんから 財布を とる 彼が 友達から 恋人を とる	―
	オ			【《人》が 《物：栄養》を V】 人が 食事・水分・ビタミンを とる	―
	カ	【《物／場所／事：権利》が V】 チケット／席／予約が とれる ☺	―	【《人》が 《物／場所／事：権利》を V】 人が チケット／席／予約を とる	―
	キ	【《人》が (《物で》) 《現象：よくない現象・ガ格名詞の部分的性質》が V】 ☺ 人は 薬・睡眠で 熱・痛み・疲れ	―	【《人》が (《物で》) 《現象：よくない現象・ガ格名詞の部分的性質》を V】 人が 薬で 痛みを とる 人が 雑巾で 床の汚れを とる	―

[21] 文型カとキの「とれる」は、他動詞「とる」と対をなす自動詞とも、また、「とる」の可能形とも考えられる。

		が　とれた 床の汚れが　とれた			
慣用的な表現				写真を　とる	12
				メモを　とる	2
				ビザを　とる	1
				年を　とる	1
				出席を　とる ☺	―
				責任を　とる	―
合計			1		23

上の表で示した文型のうち、本教科書には「とれる」、「とる」両方とも、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「とれる」(全 1 例)

ア.【《物：全体》の　《物：付着していたもの》が　V】　(1 例)

例)「上着の　ボタンが　取れそうです。」(23 課；204)

「とれる」は、1 例のみで、一番基本的だと思われる文型が出ている。

◆「とる」(全 24 例)

ア.【《人》が　《物：全体／場所》から　《物：付着していたもの》を　V】　(8 例)

例) ①「かたかなは、かんじの　いちぶを　とって、つくりました。」(Y3；264)
②「では、へやへ　カメラを　とりに　行きますから、」(11 課；91)
③「その　たなから　テープを　とって　ください。」(12 課；101)
④「部屋の　中では、やせた　つるが　自分の　羽を　一本　一本　取り、それで　布を　作って　いたのです。」(Y9；279)
⑤「魚を　とるのに　丈夫な　あみが　要ります。(23 課；206／他に Y8；275)

◇慣用的な表現

・写真を　とる　(12 例)

例) ①「あそこで　しゃしんを　とりましょう。」(4 課；26／他に 11 課；91)
②「写真を　とる　ことは　ほんとうに　たのしいですね。」(14 課；115)
③「この　あたらしい　カメラで　小林さんの　写真を　とりたいと　おもいますが、」(14 課；116)

・メモを　とる　(2 例)

例)「じゅぎょうの　時、メモを　とっても　いいです。」(14 課；120)

・ビザを　とる　(1 例)

例)「ビザを　とる　時、大使館に　行かなければ　なりません。」(15 課；128)

・年を　とる　(1 例)

例)「この　村では　年を　とった　人たちが　農業を　やって　います。」(23 課；207)

本教科書では、文型ア.【《人》が《物／場所》から《物》を V】が、「とる」の全 23 例中 8 例出ているが、その他に「写真をとる」「メモをとる」「ビザをとる」「年をとる」という 4 つの慣用的な表現が扱われている。慣用的な表現の「写真をとる」が最初(4 課)に提出され、一番多く出ている(全 24 例中 12 例)。「メモ・記録をとる」のような表現も 2 例出ている。「ビザをとる」「年をとる」も、日常生活・留学生活の中で頻繁に使われる表現で、1 例ずつではあるが、扱われている。

(22) ながれる(1)―ながす(2)　(C-2 型)

「ながれる」に関しては、次の＜表 28＞に示す 4 つの文型(ア～エ)が、「ながす」に関しては、3 つの文型(ア～ウ)が広く使われると思われる。

表 28 「ながれる」と「ながす」の広く使われる文型および例

分類		ながれる	数	ながす	数
文型	ア	【《物》が　《場所》を　V】 水が　パイプの中を　ながれる	1	【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】 人が　汚水を　川に／へ　ながす	2
	イ	【《現象：音》が　《場所》に　V】 音楽が　会場に　ながれる	―	【《人》が　《場所》に　《現象：音》を　V】 人が　会場に　音楽を　ながす	―
	ウ	【《身体部位》に　《生産物》が　V】 頬・首に　涙・血が　ながれる	―	【《人》が　《身体部位》に　《生産物》を　V】 ☺ 人が　頬・首に　涙・血を　ながす	―
	エ	【《時》が　V】 年月が　ながれる	―		
合計			1		2

＜表 28＞で示した文型のうち、本教科書には「ながれる」、「ながす」両方とも、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「ながれる」（全 1 例）

ア.【《物》が　《場所》を　V】

例）「この　川は　せまい　谷を　流れて　います。」(17 課；147)

◆「ながす」（全 2 例）

ア.【《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　V】

例）①「人びとは、おかしや　花を　川へ　持って　行って、流します。」(Y5；269)

②「この　時、ろうそくに　火を　つけて、花などと　いっしょに　流す　こと　も　あります。」(Y5；269)

「ながれる」も「ながす」も例文は少ないが、一番基本的と思われる文型が出ている。「ながす」の場合は、場所を表わすニ／ヘ格の名詞は表わされていないが、例①は「川へ」のように、文脈の中で想像することができる。

(23)　のる(10)—のせる(4)　(A-3 型)

「のる」と「のせる」の両方とも、次の＜表 29＞に示す 3 つの文型(ア～ウ)が広く使われると思われる。

表 29 「のる」と「のせる」の広く使われる文型および例

分類		のる	数	のせる	数
文型	ア	【《人》が　《乗り物》に　V】 人が　電車に　のる 人が　馬に　のる	10	【《人》が　《乗り物》に　《人／物》を　V】 運転手が　車に　客を　のせる 人が　馬に　荷物を　のせる	2
	イ	【《人／物》が　《物：場所性あり／場所》に　V】 人が　踏み台に　のる 本が　棚に　のっている	—	【《人》が　《物：場所性あり／場所》に　《物》を　V】 人が　棚に　本を　のせる 人が　机の上に　本を　のせる	2
	ウ	【《物／事》が　《物：言語作品》に　V】 先生の論文が　雑誌に　のる 事件が　新聞に　のる	—	【《人／組織》が　《物：言語作品》に　《物／事》を　V】 先生が　雑誌に　論文を　のせる 企業が　新聞に　広告を　のせる	—

慣用的な表現	相談に　のる ☺	―		
合計		10		4

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「のる」の場合は、一番広く使われると思われる文型ア、「のせる」の場合は、2 つ(ア、イ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「のる」(全 10 例)

ア.【《人》が　《乗り物》に　V】

例) ①「この　電車に　のって、かまくら駅まで　行きます。」(11 課 ; 90)

②「どうぞ　この　車に　お乗りください。」(28 課 ; 250)

③「家へ　かえって　来る　時は、足の　速い　馬に　乗ります。」(Y5 ; 268)

④「おぼんが　おわって、家を　出て　行く　時は、足の　おそい　牛に　乗ります。」(Y5 ; 268／他に Y9 ; 270)

⑤「では、となりの　席に　乗って　ください。」(17 課 ; 143)

「のる」の場合、一番広く使われると思われる文型アが出ている。“移動するために利用する”という意味の「電車・車／馬・牛にのる」の文型ア.【《人》が《乗り物》に V】で、比較的早い段階(11 課)から後半(28 課)および読み物にも出ている。ニ格の名詞としては《乗り物》だけではなく、乗り物としての動物も扱われている。また、1 例のみであるが、例⑤のようなものもある。「席」は乗り物を表わす名詞ではないが、「席に乗る」といえるのは乗り物内の席だけなので、乗り物に準ずるものと考えられ、文型イとは異なる。

◆「のせる」(全 4 例)

ア.【《人》が　《乗り物》に　《物》を　V】　(2 例)

例) 「マナさん、食料は　もう　車に　のせましたか。」(17 課 ; 143)

イ.【《人》が　《場所》に　《物》を　V】　(2 例)

例) 「父は　たんすの　上に　かばんを　のせました。」(12 課 ; 101)

「のせる」も、広く使われるものとしてとりあげた 3 つの文型のうち、2 つの文型が出ている。「のせる」の文型アは「のる」の文型と対応しているが、「のる」の文型アが表わす“移動するために利用する”というよりは、“物理的に物の上に付着させる”という意味が強いと思われる。

(24)　はいる(34)—いれる(11)　(その他)

「はいる」に関しては、次の<表 30>に示す 9 つの文型(ア～オ、キ～コ)が、「いれる」に関しては、7 つの文型(ウ、オ、キ～ケ、サ)が広く使われると思われる。

表 30 「はいる」と「いれる」の広く使われる文型および例

分類		はいる	数	いれる	数
文型	ア	【《人／乗り物》が　(《場所》から)　《場所》に／へ　V】 泥棒が　窓から　部屋に　はいる	—		
	イ	【《人／乗り物》が　《場所》に　V】 人が　お店に　はいる 船が　港に　はいる	11		
	ウ	【《物》が　《物：場所性あり／場所》に　V】 りんごが　冷蔵庫に　はいっている この　コーヒーには　砂糖が　はいっている	1	【《人》が　《物：場所性あり／場所》に／へ　《物》を　V】 人が　冷蔵庫に　りんごを　いれる 人が　コーヒーに　砂糖を　いれる	10
	エ	【《人／物》が　《物：場所性あり／場所》に　(《数量》)　V】 この　会場には　観客が　50 万人はいる この　おりには　ライオンが　5 匹はいる この　かばんには　A4 サイズの紙が　はいる	—		
	オ	【《人》が　《組織》に　V】 人が　大学院・サークルに　はいる 社長の息子が　会社に　はいる	10	【《人》が　《人》を　《組織》に／へ　V】 社長が　息子を　会社に　いれる	—
	カ			【《人》が　(《人》に)　《飲み物》を　V】 人が　お客さんに　コーヒー・お茶を　いれる	—
	キ	【《物：機器》に　《電源》が　V】 パソコンに　電源が　はいっている	—	【《人》が　《物：機器》に　《電源》を　V】[22] ☺ 人が　パソコンに　電源を　いれる	—

[22] “電源をオンにする”の意味である。「(17)つく—つける」の「つける」：「電気をつける」も参照していただきたい。

	ク	【《場所》に　《物》が　V】 部屋に　冷房・照明が　はいる	―	【《人》が　《場所》に　《物》を　V】 人が　部屋に　冷房・照明を　いれる	―
	ケ	【《人／組織》から　《人／組織》に／へ　《事：内容的》が　V】 家族から　彼に　電話が　はいる 警察から　容疑者に　明日来て下さいというお知らせが　はいる	―	【《人／組織》が　《人／組織》に／へ　《事：内容的》を　V】 彼が　家族に　電話を　いれる 警察が　容疑者に　明日来て下さいというお知らせを　いれる	―
	コ	【《時期》に　V】 ☺ 戦闘状態に　はいる、梅雨に　はいる、真冬に　はいる	―		
	サ			【《人／物：グループ》に　《人／物：個別》を　V】 参加者は　先生を　入れて　10人だ この商品は　消費税を　入れて　1500円だ	1
慣用的な表現		保険に　はいる	10		
		お風呂に　はいる	2		
合計			34		11

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「はいる」の場合は3つ(イ、ウ、オ)、「いれる」の場合は2つ(ウ、サ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「はいる」(全34例)

イ.【《人》が　《場所》に　V】　(11例)

例) ①「しばふに　入っても　いいですか。」(14課；116)

②「娘は、部屋に　入った　まま、ずっと　中で　仕事を　して　いました。」(Y9；278)

ウ.【《物》が　《場所》に　V】　(1例)

例) 「それは　大きいから、入らないでしょう。」(17課；143)

オ.【《人》が　《組織》に　V】　(10例)

例) ①「おとうとは　来年　しょうがっこうに　入ります。」(11課；93)

②「国立大学に　入ったら、お金が　そんなに　かからない　はずです。」(27課；241)

③「りゅう学生は　この　りょうに　入る　ことが　できます。」(16 課；135)
④「もし、あなたが　商社に　入ったら、また　日本へ　来る　ことが　あるでしょうね。」(20 課；174)

◇慣用的な表現

・保険に　はいる　(10 例)

例) ①「マナさんは　けんこうほけんに　入って　いますか。」(15 課；125)
②「学生は　けんこうほけんに　入っても　入らなくても　(どちらでも)　いいです。」(15 課；127)

・お風呂に　はいる　(2 例)

例) 「父は、いつも　おふろに　入ってから、ねます。」(11 課；94)

「はいる」は、物理的な場所の移動を表わす「部屋にはいる」のような、文型イ.【《人》が《場所》に V】から、慣用的な表現の「ほけんにはいる」(“加入する”)、「お風呂にはいる」まで、様々なものが出ている。文型イのようなものが全 36 例中 11 例と一番多いが、“入学する、入社する”のようにある組織の一員となることを表わす「学校にはいる」、「会社にはいる」という表現も比較的早い段階(11 課)から 10 例出ている。「お風呂にはいる」という慣用的な表現は 2 例のみではあるが、11 課で、「けんこうほけんにはいる」という表現は 10 例すべて 15 課で扱われている。これらは、日常生活・留学生活の中で頻繁に使われる表現である。

◆「いれる」(全 11 例)

ウ.【《人》が　《物：場所性あり／場所》に　《物》を　V】　(10 例)

例) ①「母は　れいぞうこに　卵を　入れました。」(12 課；101)
②「荷物は　ロッカーに　入れて　おきましょう。」(23 課；202)
③「ほそい　パイプの　中には、人間の　手は　入れられませんが、」(Y4；266)

サ.【《人》に　《人》を　V】　(1 例)

例) 「わたしを　入れて　三人です。」(19 課；162)

本教科書の「いれる」は、「冷蔵庫に卵をいれる」という一番基本的と思われる文型ウ.【《人》が《物／場所》に《物》を V】が全 11 例中 10 例とほとんどを占めている。また、1 例のみではあるが、文型サとしている「《人》に《人》を入れて数量」のような「～入れて」という表現も扱われている。

(25) はじまる(14)―はじめる(3) (B-1 型)

「はじまる」と「はじめる」に関しては、次の<表 31>に示す 1 つの文型が広く使われると思われる。

表 31 「はじまる」と「はじめる」の広く使われる文型および例

分類	はじまる	数	はじめる	数
文型	【《事／イベント》が V】 授業が はじまる 競技が はじまる	14	【《人／組織》が 《事／イベント》を V】 先生が 授業を はじめる 銀行が 営業を はじめる 選手たちが 競技を はじめる	3
合計		14		3

それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「はじまる」(全 14 例)

【《事／イベント》が V】

例) ①「いまから 800 年ぐらい 前に、ここで さむらいの せいじが はじまりました。」(Y2 ; 261)

②「パーティーは きのうの ゆうがた 四じに はじまりました。」(3 課 ; 21 ／他に 13 課 ; 111)

③「しょくどうは よる なんじに はじまりますか。」(3 課 ; 17)

④「がっこうは、八時半に はじまって、四時に おわります。」(11 課 ; 94)

⑤「広場で ぼんおどりが 始まりましたよ。」(19 課 ; 163)

⑥「でも、もうすぐ とうろん会が 始まりますよ。」(22 課 ; 194)

「はじまる」は教科書の前半(3 課)から後半(26 課)にかけて、また読み物にも出ている。ガ格の名詞としては、「せいじ、食堂(の営業)、学校(の授業)」(《事》)、「ぼんおどり、とうろん会、パーティー、(成人)式」(《イベント》)、など、様々なものが出ている。

◆「はじめる」(全 3 例)

【《人》が 《事》を V】

例) ①「さあ、夕食の 用意を はじめましょう。」(17 課 ; 144)

②「工場の 人たちが 仕事を はじめました。」(17 課 ; 146)

③「これから じゅぎょうを はじめます。」(10 課 ; 81)

「はじめる」の場合も、「夕食の用意、仕事、じゅぎょう」のように、初級の段階でもよく

耳にする《事》がヲ格として用いられている。

(26) みえる(14)—みる(43) (その他)

「みえる」に関しては、次の<表 32>に示す 4 つの文型(ア～エ)が、「みる」に関しては、3 つの文型(ア、オ、カ)が広く使われると思われる。

表 32 「みえる」と「みる」の広く使われる文型および例

分類		みえる	数	みる	数
文型	ア	【《場所》から 《物／事／現象》が V】 窓から 富士山が みえる	8	【《人》が 《人／物／場所》を V】 人が 東京タワーを みる 人が 海を みる 人が 後ろを みる	33
	イ	【《場所》に 《物／事》が V】 向こうに 公園が みえる 店の前に 人々が 並んでいるのが みえる	1		
	ウ	【《物／現象》が adj-く／に V】 富士山が きれいに みえる 月が出るのが 美しく みえる	5		
	エ	【《人／物》が adj-く／に／N に V】 彼は 年より 若く みえる 彼は 学生に みえる	—		
	オ			【《人》が 《イベント／事／現象》を V】 人が 野球の試合を みる 人が 花が咲いているのを みる	7
	カ			【《人：医者》が 《人／事：病気》を V】 医者が 患者を みる 医者が 病気を みる	2
慣用的な表現				見た こも 聞いた こも ない	1
合計			14		43

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「みえる」の場合は3つ(ア～ウ)、「みる」の場合は 3 つすべて(ア、オ、カ)である。それぞれの具体例は次のようである。

◆「みえる」(全 14 例)

ア.【《場所》から　《物／事／現象》が　V】　(8 例)

例) ①「山の　上から　海が　見えます。」(17 課 ; 146)

②「きょうしつから　運動場が　見えます。」(17 課 ; 146)

③「星が　光って　いるのが　見えます。」(23 課 ; 205)

④「夕方の　空を　白い　つるが　とんで　いるのが　見えました。」(Y9 ; 280)

イ.【《場所》に　《事》が　V】　(1 例)

例) 「ほら、坂の　両側に　店が　並んで　いるのが　見えますね。」(23 課 ; 202)

ウ.【《物／現象》が　adj-く／に　V】　(5 例)

例) ①「今日は　ふじさんが　きれいに　見えます。」(17 課 ; 148)

②「天気が　いいと、この　へんから　ふじさんが　よく　見えます。」(19 課 ; 166)

③「その　日は　夕やけが　きれいに　見えましたか。」(17 課 ; 145)

「みえる」は、一番基本的と思われる文型アが全 14 例中 8 例と多く出ている。「みえる」対象となるものを表わすガ格の名詞としては、「海」《物 : 自然物》、「運動場」《物》、形式名詞ノにかかる句である「V-しているの」《事》のように様々なものが扱われている。文型イ.【《場所》に《事》が V】も 1 例出ており、ガ格の《事》としては、「V-しているの」が表わされている。また、“どのような感覚でうけとめているのか”を表わす「adj-く／に」という要素が出ている、文型ウ.【《物／現象》が adj-に／く V】も 5 例出ている。

◆「みる」(全 43 例)

ア.【《人》が　《人／物／場所》を　V】　(33 例)

例) ①「いもうとは、こわそうに　大きい　犬を　見て　います。」(23 課 ; 204)

②「弟は、おかしを　見ると、いつも　欲しがります。」(25 課 ; 225)

③「古い　お寺などを　みました。」(5 課 ; 34)

④「マナさんが　日本の　いなかを　見たいのは　なぜですか。」(19 課 ; 194)

⑤「あぶない(です)から、右と　左を　よく　みて　ください。」(10 課 ; 86)

オ.【《人》が　《イベント／事／現象》を　V】　(7 例)

例) ①「おぼんの　行事が　見られますよ。」(19 課 ; 163)

②「主に　理科の　授業を　見た。」(27 課 ; 239)

③「あんな　美しい　花火は　初めて　見ました。」(Y10 ; 282)

④「若者に　見られたのを　知った　娘は、部屋から　出て　来て、静かに　言

いました。」(Y9；279)

⑤「学生たちは、夕日が　しずむのを　見て　いました。」(23；205)

カ.【《人：医者》が　《人／事：病気》を　V】　(2 例)

例) ①「病気が　わるく　ならないように、医者に　みて　もらいました。」(22 課；198)

②「薬を　飲んでも、だめな　場合は、医者に　みて　もらった　方が　いいでしょう。」(27 課；242)

◇慣用的な表現

・見た　ことも　聞いた　ことも　ない　(1 例)

例) 「見た　ことも　聞いた　ことも　ない　めずらしい　布だ。」(Y9；279)

「みる」の場合、広く使われる文型と思われる 3 つがすべて出ている。「大きい犬をみる」、「お寺をみる」のように“目で形や雰囲気などを感じる”ということを表わす、文型ア.【《人》が《人／物／場所》を V】が全 43 例中 33 例と一番多く出ている。次に、「行事、授業、花火をみる」(《イベント》)、「(つるが働いているのを)みる」(《事》)、「夕日がしずむのをみる」(《現象》)などのヲ格の名詞と組み合わさり、(ただ目でうけとるという意味より)“鑑賞する、観覧する”のような意味の、文型カ.【《人》が《イベント／事／現象》を V】も 7 例出ている。また、2 例のみではあるが、日常生活でよく使われる“診察する”という意味の「医者が患者をみる」のような文型カも扱われている。「(11)きこえる―きく」でもとりあげた「見たことも聞いたこともない」という固定した組み合わせも 1 例ある。

(27)　やける(2)―やく(2)　(D-1 型)

「やける」に関しては、次の＜表 33＞に示す 3 つの文型(ア～ウ)が、「やく」に関しては、2 つの文型(ア、イ)が広く使われると思われる。

表 33 「やける」と「やく」の広く使われる文型および例

分類		やける	数	やく	数
	ア	【《物》が　V】 建物が　やける	1	【《人》が　《物》を　V】 人が　ごみを　やく	―
	イ	【《物：食べ物》が　adj-く／に　V】 パンが　おいしく　やける	1	【《人》が　《物：食べ物》を　adj-く／に　V】 人が　さんまを　こんがり　やく	2
	ウ	【《物：身体部位》が　《現象：日》に　V】	―		

		顔が　日に　やける ☺			
合計			2		2

上の表で示した文型のうち、本教科書に出ている文型は、「やける」の場合は 2 つ(ア、イ)、「やく」の場合は 1 つ(イ)である。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「やける」(全 2 例)

ア.【《物》が　V】　(1 例)

例)「火事で　たくさんの　旅館が　やけました。」(24 課；217)

イ.【《物：食べ物》が　adj-く/に　V】　(1 例)

例)「さあ、肉が　やけました。」(17 課；144)

「やける」の場合、2 例のみであるが、本報告で広く使われる文型としているもののうち、2 つが出ている。「建物がやける」のような“物が燃える”という意味の文型ア.【《物》が V】と「パンがきつね色にやける」のような“火が通って物の性質が変わる、あるいは、食べ物ができあがる”という意味の文型イ.【《物：食べ物》が adj-く／に V】が扱われている。なお、「ステーキ／目玉焼きがやけた。」のように、できあがったものと組み合わさることもできるが[23]、本教科書には出ていない。

◆「やく」(全 2 例)

イ.【《人》が　《物：食べ物》を　adj-く／に　V】

例) ①「では、火を　つけて、肉を　やきましょう。」(17 課；144)

②「にたり、やいたり　したら、食べられますが。」(16 課；133)

「やく」の場合、2 例とも、“火を通して物(食べ物)の性質を変える”という意味の文型イ.【《人》が《物：食べ物》を adj-く／に V】が扱われている。「やける」の文型イと同じく、“どのように性質を変えるのか”を表わす「adj-く／に」という要素は出ていない。

(28)　やぶれる(1)―やぶる(1)　(D-1 型)

「やぶれる」に関しては、次の<表 34>に示す 3 つの文型(ア、イ、エ)が、「やぶる」に関しては、3 つの文型(ア、ウ、エ)が広く使われると思われる。

[23] 「わかす」の「おゆをわかす」もできあがったもの(生産物)との組み合わせで、本教科書の 22 課で扱われている。例えば次のような文である。「お茶が　のみたいから、おゆを　わかして　おいて　ください。」(22 課；197)。ただし、「みずをわかす」のような組み合わせは出ていない。

表 34 「やぶれる」と「やぶる」の広く使われる文型および例

分類		やぶれる	数	やぶる	数
文型	ア	【《物》が　V】 紙が　やぶれる	1	【《人》が　《物》を　V】 人が　紙を　やぶる	1
	イ	【《事》が　V】 夢が　やぶれる	—		
	ウ			【《人／組織》が　《事》を　V】 人が　(友達との)約束を　やぶる ☺ 会社が　(社員との)契約を　やぶる	—
	エ	【《人／組織》が　V】 Aチームが　Bチームに　やぶれる	—	【《人／組織》が　《人／組織》を　V】 Bチームが　Aチームを　やぶる	—
合計			1		1

上の表で示した文型のうち、本教科書には「やぶれる」、「やぶる」両方とも1例のみで、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「やぶれる」(全1例)

ア.【《物》が　V】

例)「切れそうな　ひもや　破れそうな　布は　すてて　ください。」(23課；205)

◆「やぶる」(全1例)

ア.【《人》が　《物》を　V】

例)「この　かみを　やぶらないように、気を　つけて　ください。」(22課；198)

(29)　われる(2)—わる(2)　(D-1型)

「われる」に関しては、次の<表 35>に示す1つの文型(ア)が、「わる」に関しては、2つの文型(ア、イ)が広く使われると思われる。

表 35 「われる」と「わる」の広く使われる文型および例

分類		われる	数	わる	数
文型	ア	【《物》が　V】 窓ガラスが　われる	2	【《人》が　《物》を　V】 人が　窓ガラスを　わる	2

	イ			【《人》が 《事:量的な性質／数量》を 《数量》で V】 ☺ 人が かかった費用を 人数で わる 人が 60を 3で わる	―
合計			2		2

上の表で示した文型のうち、本教科書には「われる」、「わる」両方とも 2 例のみで、一番広く使われると思われる文型アが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「われる」(全 2 例)

ア.【《物》が V】

例) ①「割れそうな、古い 茶わんは 使わない 方が いいでしょう。」(23 課 ; 205)

②「まどの ガラスが われて、おちて 来る ことが 多いからで ある。」(Y6 ; 272)

◆「わる」(全 2 例)

ア.【《人》が 《物》を V】

例) ①「ガラスを わっては いけません。」(14 課 ; 120)

②「この 氷を わって、半分に して ください。」(15 課 ; 128)

以上、自動詞と他動詞とが対をなすもので、本教科書に両方とも扱われている動詞を対象とし、個々の動詞の広く使われる文型、および教科書の中の文型を分析した。分析においては、どのような文型が教科書の中に多く出ているのか、日常生活の中で頻繁に使われる表現には何があるのか、教科書では扱われていないが、初級の段階でもよく使う表現で、一緒に指導しておくと学習者にとって役に立つものには何があるのか、などの点を中心に述べた。「あがる―あげる」と「さがる―さげる」、「あく―あける」と「しまる―しめる」などの反対語にも注意しながら指導すると、理解を深められると考えられる。

以上の考察により、本教科書では、多くの動詞において、その動詞における広く使われる文型が適切に提出されていること、また様々な文型が、学生という立場からよく使うような名詞との組み合わせで提出されていることが分かった。

2)自・他の対のうち片方のみ出ているもの

「2.4.2.(A)」の<表 4>でみたように、自・他の対をなす動詞で、かつ、本教科書に出て

いるものは、自動詞のみの場合も、他動詞のみの場合も 15 語ずつである。

ここでは、文型の面で興味深いものとして選んだ、「すすむ—(すすめる)」、「たおれる—(たおす)」、「(なおる)—なおす」の 3 組について述べる。

(1) すすむ(7)—すすめる (D-2 型)

「すすむ」に関しては、次の＜表 36＞に示す 3 つの文型(ア～ウ)が、「すすめる」に関しては、2 つの文型(ア、ウ)が広く使われると思われる。

表 36 「すすむ」と「すすめる」の広く使われる文型および例

分類		すすむ	数	すすめる
文型	ア	【《人／乗り物》が 《場所》を V】 人が 坂道を すすむ 船が 太平洋を すすむ	—	【《人》が 《乗り物》を V】 人が 船を すすめる
	イ	【《人》が 《組織》に／へ V】 人が 高校に／へ すすむ	4	
	ウ	【《事》が V】 人口知能の研究が すすむ	3	【《人》が 《事》を V】 人が 人口知能の研究を すすめる
合計			7	

上の表で示した文型のうち、本教科書には「すすむ」の文型イとウが出ている。具体例は次のようなものである。

◆「すすむ」(全 7 例)

イ.【《人》が 《組織》に V】 (4 例)

例) 「アリさんは、大学院に 進む つもりですか。」(20 課；175)

ウ.【《事》が V】 (3 例)

例) ①「カメラの 技術は ずいぶん 進んで きました。」(25 課；226)

②「日本では じしんの 研究が 進んで いるので、丈夫な たてものが 多い。」(Y6；271)

本教科書には、本報告で文型のアとしている、物理的な移動、動きを表わすようなものは扱われていないが、広く使われる 3 つの文型のうち、2 つが提出されている。

(2) たおれる(5)—たおす (A-2 型)

「たおれる」に関しては、次の＜表 37＞に示す 2 つの文型(ア、イ)が、「たおす」に関し

ては、2 つの文型(ア、ウ)が広く使われると思われる。

表 37 「たおれる」と「たおす」の広く使われる文型および例

分類		たおれる	数	たおす
文型	ア	【《物》が V】 塀が たおれる	5	【《人》が 《物》を V】 人が 塀を たおす
	イ	【《人》が 《事》で V】 ☺ 人が 過労で たおれる	–	
	ウ			【《人／組織》が 《人／組織》を V】 人が 敵を たおす 民衆が 独裁政権を たおす
合計			5	

上の表で示した文型のうち、本教科書には「たおれる」の文型アが出ている。具体例は次のようなものである。

◆「たおれる」(全 5 例)

ア.【《物》が V】

例) ①「風が つよく ふいたので、木が たおれそうに なりました。」(23 課 ; 205)

②「家に 帰る 途中で、野原の 雪の 中に つるが たおれて いるのを 見つけました。」(Y9 ; 277)

組み合わさるガ格の名詞としては、「木、建物」の以外に、「つる」(例②)も出ているが、“立っているものが横になる”のような意味で、《物》としてとらえられる。一方、生物が“病気などが原因で床につく”のような意味の文型イは扱われていない。

(3) なおる―なおす(3) (A-1 型)

「なおる」に関しては、次の<表 38>に示す 2 つの文型(ア、ウ)が、「なおす」に関しては、3 つの文型(ア～ウ)が広く使われると思われる。

表 38 「なおる」と「なおす」の広く使われる文型および例

分類		なおる	なおす	数
文型	ア	【《物》が　V】 壊れたテレビが　なおる	【《人》が　《物》を　V】 ☺ 人が　壊れたテレビを　なおす	—
	イ		【《人》が　《物／事》を　V】 人が　ネクタイを　なおす 人が　かけ時計の位置を　なおす	3
	ウ	【《現象》が　V】 ☺ 病気が　なおる	【《人》が　《現象》を　V】 人が　病気を　なおす	—
合計				3

上の表で示した文型のうち、本教科書には「なおす」の文型エが出ている。具体例は次のようなものである。

◆「なおす」(全 3 例)

イ.【《人》が　《物》を　V】

例) ①「この　作文は　みじかいから、十分ぐらいで　なおせるでしょう。」(16 課；138)

②「マリアさんは、だれに　スピーチを　直して　もらいましたか。」(22 課；195)

本教科書には、「作文、スピーチ」(《物：言語作品》)を“添削する、訂正する”のような意味の文が扱われている。ただし、本報告で「なおす」の広く使われる文型アとしている“物理的に修理する”のような文型は出ていない。

2.4.3. 自・他の対をなしていないもの

前節では、自・他の対をなす動詞の文型を中心に考察を行なった。ここでは、自・他の対はなしていないものの、多義的であり、本教科書で複数の文型で用いられている 3 つの動詞(「いう」、「おもう」、「はなす」)をとりあげ、「広く使われる文型」および、本教科書に出ている文型について述べる。

(1)　いう　(全 95 例)

「いう」に関しては、次の＜表 39＞に示す 4 つの文型(ア～エ)が広く使われると思われる。

表 39 「いう」の広く使われる文型および例

分類		いう	数
文型	ア	【《人》が　《人》に　《内容》と　V】 先生が　生徒に　テストは明日だと　いう	36
	イ	【《人》が　《人》に　《内容》と　《事》を　V】 彼女が　弟に　早く結婚しなさいと　意見を　いう 彼女が　先生に　欠席の理由を　いう	4
	ウ	【(《人》が)　《内容》と　V】 この湖には恐竜がいると　いう	4
	エ	【《物》が　V】 戸が　がたがた　いう かぜが　ぴゅうぴゅうと　いう	―
慣用的な表現		Nという　N	18
		Nというのは／ことは	16
		Nを　Nと　いう	13
		うそを　いう	3
		冗談を　いう	1
合計			95

上の表で示した文型のうち、本教科書には文型 3 つ(ア～ウ)と慣用的な表現の 5 つが出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「いう」(全 95 例)

ア.【《人》が　《人》に　《内容》と　V】　(36 例)

例) ①「わたしは　先生に　「よく　わかりました。」と　言いました。」(12 課；102)

②「姉は　妹に　お金を　おとさないように(と)　言いました。」(26 課；232)

③「すみませんが、先生に　言って　ください。」(10 課；81)

④「お医者さんが　良くなったと　言いましたから、もう　だいじょうぶだとおもいます。」(12 課；99)

⑤「マナさんは　昼ごろ　来るって　言いました。」(28 課；252)

イ.【《人》が　《人》に　(《内容》と)　《事》を　V】　(4 例)

例) ①「いもうとたちが　心配するから、父の　病気の　ことは　言わないで　おき

ます。」(22 課；197)

②「会社を　休む　場合は、理由を　言って　ください。」(27 課；242)

③「友だちに　「ありがとう。」と　おれいを　言います。」(12 課；102)

ウ.【(《人》が)　《内容》と　V】　(4 例)

例) ①「日本は　工業国だと　言われて　いますが、古い　文化も　大切に　されている　ことが　わかりました。」(24 課；212)

②「石油や　石炭も、いつか　なくなると　言われて　いる。」(Y8；275)

③「遠い　昔、人間は　海の　中に　いた　動物から　進化したと　言われている。」(Y8；276)

④「ニュースで　言って　いましたが、きのうは　地下鉄が　不通だった　ようです。」(25 課；224)

本教科書では、ある人に向かって言葉で内容を伝達するという意味の、文型ア.【《人》が《人》に《内容》と V)】が「いう」の全 95 例中 36 例と一番多く出ている。アの例①~③のように、発話の向かう相手が出ているものも(①・③「先生に」、②「妹に」)、例④と⑤のように出ていないものもある。また、例③のように、ト引用節が出ていないものも 4 例あり、「いう」の例として最初(10 課)に出ている。また、ト引用節がヲ格の《事》で表わされている、文型イ.【《人》が《人》に(《内容》と)《事》を V】も 4 例出ている。例えば例①「父の病気のことをいう」、②「会社を休む理由をいう」、③「友だちに「ありがとう」とおれいをいう」である。さらに、教科書の後半では、“一般の人々にそのように判断されている”のような意味を表わす、文型ウ.【(《人》が)《内容》と V】も 4 例出ており、そのうち 3 例(①～③)は、受身の形で提出されている。

さらに、次のような、慣用的な表現も 5 つ、扱われている。

◇慣用的な表現

・Nという　N　(18 例)

例) ①「あれは　「パンダ」と　いう　動物です。」(13 課；112)

②「みどり色と　いう　色は　きれいです。」(13 課；112)

③「日本語にも、おなじ　いみを　あらわす　「みず」と　いう　ことばが　ありました。」(Y3；263)

④「わたしも、「アジアの　みどりを　守ろう」と　いう　題で　話を　する　予定です。」(22 課；193)

・Nというのは／ことは　(16 例)

例) ①「「みんしゅく」と　いうのは　何ですか。」(16 課；133)

②「入学と　いうのは　学校に　入る　ことで、そつぎょうと　いうのは　学校を　出る　ことです。」(16 課；138)
③「雪下ろしと　いうのは　何ですか。」(25 課；222)
④「人間が　将来、また　海の　中で　生活するように　なる　かもしれないと　いう　ことは、おもしろい　ことである。」(Y8；276)

・Nを　Nと　いう　(13 例)
例) ①「これを　「むかえ火」と　いいます。」(Y5；268)
②「年の　終わりに　あげる　物を　何と　いいますか。」(Y7；274)
③「"Good　morning" は　日本語で　「おはよう　ございます」と　言います。」(12 課；103)

・うそを　いう　(3 例)
例) ①「兄は　うそを　言って、弟を　おこらせました。」(27 課；240)
②「うそを　言っちゃ　だめです。」(28 課；252)

・冗談を　いう　(1 例)
例) 「田中さんは、じょうだんを　言って、みんなを　わらわせました。」(27 課；240)

「NというN」、「Nというのは／ことは」、「NをNという」という表現の"N"の位置には、《人》／《物》／《事》など、名詞のカテゴリカルな意味に制限なく、様々なものがあらわれ得る。「N_1というN_2」と「N_1をN_2という」の場合、「N_1」と「N_2」とが同じものを指し、「Nというのは／ことは」の場合は、その後に続く述語が、Nの性質(内容)を表わしている。なお、「うそをいう」「冗談をいう」のような慣用的な表現も教科書の後半で出ており、「いう」は、日常生活の中でよく使われる様々な表現が扱われていることが分かる。

(2) おもう (全 51 例)

「おもう」に関しては、次の<表 40>に示す 6 つの文型(ア～カ)が広く使われると思われる。

表 40 「おもう」の広く使われる文型および例

分類		おもう	数
文型	ア	【《人》が　《内容》と　V】 人が　漢字をおぼえるのはむずかしいと　おもう	27

	イ	【《人》が　V-しようと　V】 人が　大学にいこうと　おもう	14
	ウ	【《人》が　V-したいと　V】 人が　近いうちに引っ越したいと　おもう	9
	エ	【《人》が　《事》を　《内容》と　V】 人が　彼を　まじめな人だと　おもう	1
	オ	【《人》が　《人／物／事》を　(adj-く／に)　V】 人が　彼を　あまり　よく　おもわない 人が　面接の結果を　不満に　おもう 人が　彼女の心遣いを　ありがたく　おもう	—
	カ	【《人》が　《事》を　V】 人が　自分の将来を　おもう	—
合計			51

上の表で示した文型のうち、本教科書には 4 つの文型(ア～エ)が出ている。それぞれの具体例は次のようなものである。

◆「おもう」(全 51 例)

ア. 【《人》が　《内容》と　V】　(27 例)

例) ①「きのう　小林さんは　がっこうへ　行かなかったと　おもいます。」(12 課；103)

②「アリさんは　つりに　行くと　思いますか。」(16 課；134)

③「わたしも、去年、行って　よかったと　思って　います。」(26 課；229)

④「マナさんは　日本語が　上手な　方だと　思います。」(27 課；242)

イ. 【《人》が　V-しようと　V】　(14 例)

例) ①「アリさんは、どんな　所に　つとめようと　思って　いますか。」(20 課；175)

②「(わたしは)来年　また　日本へ　来ようと　思って　います。」(20 課；176)

③「この　本は　弟にでも　やろうかと　思って　います。」(28 課；252)

ウ. 【《人》が　V-したいと　V】　(9 例)

例) ①「今、あたらしい　カメラを　かいたいと　おもって　います。」(14 課；115)

②「らいしゅう、北海道へ　行きたいと　思って　います。」(21 課；188)

③「わたしは、留学したいと　思いましたが、両親に　反対されました。」(24 課；214)

④「授業や　クラブ活動などを　見せて　いただけたらと　思って　おります。」(Y10；283)

エ. 【《人》が　《事》を　《内容》と　V】　(1 例)

例) 「あなたは　ピカソに　ついて　どう　おもいますか。」(14 課；115)

本教科書では、ガ格の《人》の判断内容がト引用節に表わされているもののみ出ているが、文型ア～エのような様々な使い方が扱われている。文型ア.【《人》が《内容》と V】が「おもう」の全 51 例中 27 例と一番多く、12 課から 28 課／Y9、Y10 に出ている。また、文型イ.【《人》が V-しようと V】、ウ.【《人》が V-したいと V】という形で主語の意志が表わされている場合もある。文型ウは「シタイ」の形が導入される 14 課で扱われている。なお、語彙的な意味が類似している動詞の 1 つである「かんがえる」は、16 課から(16 課、20 課、25 課、27 課／Y4、Y5、Y8)8 例出ているのみであるが、「おもう」は、12 課～28 課／Y9、Y10 にかけて 51 例も出ている。

(3) はなす (全 15 例)

「はなす」に関しては、次の＜表 41＞に示す 2 つの文型(ア、イ)が広く使われると思われる。

表 41 「はなす」の広く使われる文型および例

分類		はなす	数
文型	ア	【《人》が　《人》に／と　《事》を　V】 彼が　私に　用件を　はなす 人が　春の新作について　はなす	11
	イ	【《人》が　《事》を　V】 人が　タイ語を　うまく　はなす	4
合計			15

上の表で示した文型のうち、本教科書には文型 2 つすべてが出ている。具体例は次のようなものである。

◆「はなす」(全 15 例)

ア. 【《人》が　《人》に／と　《事》を　V】　(11 例)

例) ①「日本の　若者に　あなたの　意見を　いろいろ　話して　来て　ください。」(22 課；193)

②「先生は　クラスで　学生に　はなしました。」(8 課；67)

③「おとうとは　でんわで　兄と　はなしました。」(8 課；67)
④「日本の　文学に　ついて　いろいろ　はなしましょう。」(12 課；99)
⑤「あなたの　国の　けいざいに　ついて　はなして　ください。」(12 課；103)
⑥「雪国の　生活の　きびしさに　ついて　話して　ください。」(25 課；223)

イ.【《人》が　《事：言語》を　V】　(2 例)

例) ①「アリさんの　友だちは　日本語が　話せますか。」(16 課；134)
②「わたしは、小林さんのように　上手に　外国語を　話したいです。」(20 課；178)

“相手にある内容を伝える”という意味のア.【《人》が《人》に／と《事》を V】と、ある言語を用いて発話することを表わす文型イ.【《人》が《事：言語》を V】が扱われている。文型アの場合、発話が向かう相手がニ格で表されているもの(例①、②)も、ト格で表されているもの(例③)も、相手が出ていないもの(例④～⑥)もある。また、発話内容となるヲ格の《事》が出ているものは、例①のみで、例④～⑥のような 3 例は、「《事》についてはなす」という形で出ている。「はなす」は、「いう」という動詞と、発話を表わすという点では共通しているが、「いう」とは異なり、ト引用節を伴う文は扱われていない。

3. 動詞の形態論的な性質

本章では、『初級日本語(新装版)』で使われている動詞の形態論的なカテゴリーについての分析を行なう。まず、「3.1.」では先行研究と本報告で扱う範囲について述べ、その次に、「3.2.」からは、本教科書でとりあげられている動詞の形態論的な各カテゴリーの実際の分析に入る。なお、これらの分析は、巻末の＜資料 2＞と＜資料 3＞のデータを用いて行なったものである[24]。

3.1. 先行研究と本報告で扱う範囲

3.1.1. 先行研究

本節では動詞の持つ文法的な性質のうち動詞の形の表わす文法的な性質、つまり形態論的な性質についてみていく。まず先行研究ではどのようなものを動詞の文法的な性質として考えているのかを調べた。これに関連する先行研究として今回調べたのは鈴木重幸(1972)、工藤浩(2002)、村木新次郎(1991)である。

鈴木(1972)は文法的なカテゴリーについて「いくつかの文法的な意味を統一する一般的な文法的な意味を文法的なカテゴリーという。」と述べ、「現在＝未来形」と「過去形」のもつ文法的な意味を統一する一般的な意味、つまり「とき」が文法的なカテゴリーであると説明している(pp.37-38)。この本で動詞のもつ文法的なカテゴリーには「派生によってあらわされる」もの、「補助的な単語との組み合わせによってあらわされる」もの、「語尾のとりかえによって作られる」ものがあるとして、次のようなものをあげている。

(1) [25]「派生によってあらわされる」もの：

「たちば[26]〔サレル[27]、サセル、デキル〕」、「みとめ方〔スル、シナイ〕」、「ていねいさ」

(2)「補助的な単語との組み合わせによってあらわされる」もの

「すがた〔シテイル、シテシマウ、シテアル、シテクル、シテイク〕」、「もくろみ」、「やりもらい」

(3)「語尾のとりかえによって作られる」もの

「きもち〔シヨウ、シロ〕」、「とき」、「なかどめ」、「条件」、「逆条件」、「ならべたて〔シタリスル〕」、「禁止」、「義務」、「許可」、「すすめ〔スルトヨイ〕」、「ねがい〔ス

---

[24] それぞれの資料の詳しい説明については、「1. 調査対象・方法」「1.1. 動詞のデータについて」を参照していただきたい。

[25] 番号は便宜上筆者がつける。

[26] 文法的なカテゴリーとして考えているものの用語は先行研究のまま示す。

[27]〔　〕で括られてカタカナで書かれているものは、先行研究で紹介されている定義の理解を助けるために一部補ったものである。これらは先行研究にはひらがな(「れる／られる」、「ます」)、あるいはローマ字(「-are-ru／-rare-ru」、「-mas-u」)で書かれている。

レバヨイ〕」

続いて工藤(2002)があげている動詞の文法的なカテゴリーをみていく。工藤(2002)は文を四段階に分けており、「語彙文法的な(ことがら的な)性格が強い」ものを「A 段階」、「述語性〈認定性〉が強まる」ものを「B 段階」、「modal な性格が相当こまかく決まってくる」ものを「C 段階」、「〈相手〉の段階」を「D 段階」としている。その詳細を次に紹介する。

(1)「A 段階」:「修飾句(並行ーながら、つつ、て)」、「ヴォイス」、「やりもらい」、「もくろみ」、「敬称(お〜になる、お〜する)」

(2)「B 段階」:「条件節〜契機・継起節(ば、なら、と、たら、て)」、「因果節(ので、のに、逆接ーながら 、原因ーて)」、「ていねいさ」、「テンス」、「アスペクト」、「みとめかた」、「可能・能力」、「願望」、「意図」、「必要・義務」、「不可避」、「適切・勧め」、「許容・許可」、「不許可〜不適切」、「推定〜様態」、「確かさ」、「伝聞」

(3)「C 段階」:「推量」、「説明〔スルノダ、スルワケダ〕」、「回顧〔シタモノダ〕」、「当為〔スルモノダ〕」

(4)「D 段階」:「決意・勧誘」、「命令・禁止」、「疑問・質問」、「叙述の種々相〔ワ、ゾなど」、「後略形〔ダッテ、シタラナァなど〕」

最後に、村木(1991)は日本語の動詞の形態論的なカテゴリーとして大きく「肯定否定」、「アスペクト」、「ヴォイス」、「接続」、「待遇」、「テンス」、「ムード」の 7 つをあげている。

(1)「肯定否定」

(2)「アスペクト」

(3)「ヴォイス」:「受動」、「相互」、「使役」、「再帰」、「可能」、「自発」

(4)「接続」:「連体用法」、「連用用法:例示〔タリ〕、条件、譲歩〔シテモ、シタッテ〕、同時性〔シナガラ、シツツ〕」

(5)「待遇」:〔オースル、〜サレル〕

(6)「テンス」

(7)「ムード」:「推量」、「断定」、「命令」、「依頼」、「指示〔シタラ〕」、「意志」、「勧誘」

以上の先行研究であげられているもののうち「みとめ方(肯定否定)」、「ていねいさ」、「とき(テンス)」、「質問」、「説明」、「叙述の種々相」など、動詞全般に該当する共通的な特徴であるものは本報告では分析の対象としない。また、村木(1991)の言っている、動詞の語形上の対立ではない「相互」、「再帰」も本報告の考察の対象ではない。これらの先行研究であげられているもの以外にも本報告で動詞の形態論的な性質であると考えているものもあり、<表 42>にその詳細が示されている。<表 42>から確認できるように、各々の先行研究で扱われているものには「○」をつけており、どの研究でも言及されていないもの(主に本報

告の 3.9「目標達成」、3.10「形式名詞によるアスペクト」、3.12「敬譲」の一部など)もある。しかしこれらも動詞の語形の持つ文法的なものであると考えられるので考察の対象とする。

3.1.2. 本報告で扱う範囲

以下の<表 42>は本教科書に出ている形態論的なカテゴリーのうち、本報告で扱うものの種類・先行研究での扱いの有無・初出の課などを示したものである。

表 42 『初級日本語(新装版)』に出ている形態論的なカテゴリーのうち、本報告で扱うものの種類・先行研究での扱いの有無・初出の課など

	<資料 2>の H、I 欄に入っている分類項目	先行研究での扱いの有無			初出の課	教科書に出ている最初の例文	<資料 2>の H、I 欄における表記
		鈴木 1972	工藤 2009	村木 1991			
話さ	セル	○	○	○	27	「今日は　見学させて　くださって、ありがとう　ございました。」(27 課 ; 238)	サセル
	レル(受身)	○	○	○	24	「この　本は、……、日本の　若い　人たちにも　よく　読まれて　います。」(24 課 ; 210)	サレル
	レル(敬譲)			○	28	「先生は、月末に　東南アジアの　方へ行かれるので、」(28 課 ; 246)	サレル
	ズニ				20	「わたしは、あまり　数学を　べんきょうせずに、日本へ　来たので、今　ちょっと　こまって　います。」(20 課 ; 174)	セズニ
	ナイデ				20	「コンピュータを　使わないで　資料を　作ると、とても　大変なのです。」(20 課 ; 173)	シナイデ
	ナイデオク				22	「今晩　パーティーが　あるから、昼ご飯は　あまり　食べないで　おきましょう。」(22 課 ; 197)	シナイデオク
	ナイヨウニ				22	「まちがえないように、スピーチの　練習を　して　おきたいのです。」(22 課 ; 193)	シナイヨウニ
	ナイデクダサイ				10	「だから、つかわないで　ください。」(10 課 ; 82)	シナイデクダサイ

	ナクテモ	○			15	「でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。」(15 課 ; 126)	シナクテモ
	ナクテモイイ	○			15	「いいえ、食事は　作らなくても　いいです。」(15 課 ; 124)	シナクテモイイ
	ナクテモカマワナイ	○			15	「でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。」(15 課 ; 126)	シナクテモカマワナイ
	ナケレバナラナイ	○	○		15	「ここでは　いろいろな　ことを　自分で　やらなければ　なりませんから、こまりました。」(15 課 ; 124)	シナケレバナラナイ
話し	Ø(シ)(なかどめ)	○			Y7	「おぼんに　おくる　物を　「お中元」と　いい、年の　終わりに　おくる　物を　「おせいぼ」と　いう。」(Y7 ; 273)	シ
	ナガラ		○	○	19	「ほら、あそこで　うたを　うたいながら、おどって　います。」(19 課 ; 164)	シナガラ
	ニ				10	「じむしつへ　なにを　しに　行きましたか。」(10 課 ; 81)	シニ
	タラ	○	○	○	16	「おきられたら、行って　みましょう。」(16 課 ; 134)	シタラ
	タリ	○		○	12	「毎日　くすりを　のんだり、ちゅうしゃを　したり　しました。」(12 課 ; 99)	シタリ
	タイ		○		14	「今、あたらしい　カメラを　かいたいと　おもって　います。」(14 課 ; 115)	シタイ
	タガル				25	「いつも　雪を　見たがって　いたのに、起きて　来ませんね。」(25 課 ; 221)	シタガル
	マショウ(誘いかけ)				4	「あしたの　あさ　九じごろ　いきましょう。」(4 課 ; 25)	シマショウ
	マショウ(意図)				8	「この　にんぎょうを　おねえさんの子どもさんに　あげましょう。」(8 課 ; 64)	シマショウ(意図)
	マショウカ				11	「さんぽに　行きましょうか。」(11 課 ; 91)	シマショウカ
	マセンカ				19	「八月に　わたしの　いなかへ　いっしょに　行きませんか。」(19 課 ; 163)	シマセンカ

	ソウダ		○		23	「ドアが　閉まりそうですよ。」(23 課；201)	シソウダ
	ナサイ	○	○	○	14	「あき子ちゃん、ここに　すわりなさい。」(14 課；117)	シナサイ
	(敬譲)オースル		○	○	4	「カメラの　シャッターを　おねがいします。」(4 課；26)	オースル
	(敬譲)御ースル				28	「すぐ　結果を　御れんらくします。」(28 課；250)	御ースル
	(敬譲)オークダサイ				28	「どうぞ　そこに　おかけください。」(28 課；246)	オークダサイ
	(敬譲)御ークダサイ				28	「すぐ　御れんらくください。」(28 課；250)	御ークダサイ
	(敬譲)オーイタダク				Y10	「御都合の　よい　日を　お知らせいただけませんでしょうか。」(Y10；283)	オーイタダク
	(敬譲)御ーイタダク				Y10	「先日は　花火見物に　御招待いただきまして、ありがとう　ございました。」(Y10；282)	御ーイタダク
	(敬譲)オーニナル		○		28	「こんなに　たくさん、おく様が　お作りになったんですか。」(28 課；247)	オーニナル
	(敬譲)ナサル[28]				28	「ほかの　先生方も　感心なさったらしいですよ。」(28 課；246)	ナサル
話して	Ø(シテ)(なかどめ)	○			11	「この　電車に　のって、かまくら駅まで　行きます。」(11 課；90)	シテ
	イル	○	○	○	8	「お母さんは　やまださんと　よくにて　いますね。」(8 課；64)	シテイル
	イラッシャル	○	○		28	「みんな　ほめてらっしゃいました。」(28 課；246)	シテイラッシャル
	オル	○			28	「両親は　東京に　住んで　おります。」(28 課；250)	シテオル

28 「ナサル」は他の敬譲と共に「話し」のところに入れているが、活用形は異なる。

アル	○	○	○	22	「食堂に　大学祭の　プログラムがはって　ありますね。」(22 課；193)	シテアル
イク	○		○	5	「アリさんは　うちから　えきまであるいて　いきます。」(5 課；37)	シテイク
クル	○		○	11	「かまくらの　地図を　もって　来ましたか。」(11 課；90)	シテクル
マイル	○			28	「地図を　持って　まいりました。」(28 課；250)	シテマイル
カエル	○			11	「わたしは　来年　国へ　日本の　にんぎょうを　もって　かえります。」(11 課；95)	シテカエル
クレル	○	○		22	「だれが　送って　くれたのですか。」(22 課；193)	シテクレル
クダサル	○	○		22	「先生は　わたしに　本を　かして　くださいました。」(22 課；196)	シテクダサル
アゲル	○	○		22	「「とうろんかいの　後で、大学の　中を　案内して　あげましょう。」と　書いて　ありました。」(22 課；193)	シテアゲル
ヤル	○	○		22	「では、写真を　とって　いもうとに送って　やります。」(22 課；194)	シテヤル
モラウ	○	○	○モライタイ[29]	22	「この間、さとうさんに　てつだってもらって、練習しました。」(22 課；194)	シテモラウ
イタダク	○	○	○イタダキタイ	22	「こんな　すばらしい　とうろん会に招いて　いただいて、ありがとう　ございました。」(22 課；195)	シテイタダク
オク	○	○	○	22	「あれは、わたしが　はって　おいたのです。」(22 課；193)	シテオク
シマウ	○	○	○	24	「一日で　全部　読んで　しまいました。」(24 課；210)	シテシマウ
ミル	○	○		14	「ちかくに　いい　店が　ありますが、行って　みますか。」(14 課；115)	シテミル

[29] 村木(1991)では「話し手の聞き手に対する態度を特徴づけたもの」として「-Te moraitai」、「-Te itadakitai」があげられていて、その中に「シテモラウ」、「シテイタダク」が含まれている。(p.129)

	クダサイ		○	○	10	「すみませんが、先生に　言って　ください。」(10 課；81)	シテクダサイ
	クダサイマセンカ				16	「この　ノートに　おきゃくさんのじゅうしょと　氏名を　記入して　くださいませんか。」(16 課；133)	シテクダサイマセンカ
	イタダケマセンカ				22	「ちょっと　直して　いただけませんか。」(22 課；193)	シテイタダケマセンカ
	クレ		○	○	Y9	「わたしが　わるかった。許して　くれ。」(Y9；280)	シテクレ
	ハイケナイ	○	○		14	「でも、しばふの　上で　運動したりしては　いけません。」(14 課；116)	シテハイケナイ
	ハダメ				14	「動いては　だめですよ。」(14 課；117)	シテハダメ
	モ	○			15	「でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。」(15 課；126)	シテモ
	モイイ	○	○		14	「しばふに　入っても　いいですか。」(14 課；116)	シテモイイ
	モカマワナイ		○		14	「公園の　しばふに　入って、写真をとっても　かまいませんか。」(14 課；116)	シテモカマワナイ
話した	トコロ				25	「わたしは、今、食事を　した　ところです。」(25 課；225)	シタトコロ
	バカリ				28	「日本に　来たばかりの　時は、ホームシックに　なりましたけど。」(28 課；246)	シタバカリ
	ママ				24	「長い間　ずっと　立った　ままでした。」(24 課；211)	シタママ
	ッテイイ	○			28	「明日は　休んだって　いいんです。」(28 課；253)	シタッテイイ
	ッテカマワナイ	○	○		28	「外では　たばこを　吸ったって　かまいません。」(28 課；253)	シタッテカマワナイ
話す	ト	○	○	○	19	「おぼんに　なると、とても　汽車がこみます。」(19 課；163)	スルト

	ナラ	○	○	○	21	「将来、大学でも　使うなら、くわしいのが　いいですね。」(21 課；185)	スルナラ
	ヨウニ				16	「学生が　わかるように、れいを　あげて、説明しました。」(22 課；198)	スルヨウニ
	タメニ				20	「統計の　資料を　作る　ために、使うのです。」(20 課；173)	スルタメニ
	ノニ				23	「そこへ　行くのに　どのぐらい　かかりますか。」(23 課；202)	スルノニ
	トコロ				25	「わたしは　これから　外出する　ところです。」(25 課；225)	スルトコロ
話せ	バ	○	○	○	21	「でも、もし、会議が　早く　終われば、時間が　ある　かもしれません。」(21 課；184)	スレバ
話そう	ト			○	20	「これから、いっしょうけんめいに　やろうと　思って　います。」(20 課；174)	ショウ(ト)
	(ヨウ)	○	○	○	22	「わたしも、「アジアの　みどりを　守ろう」と　いう　題で　話を　する　予定です。」(22 課；193)	ショウ
可能	デキル	○	○	○	16	「わたしは　車が　運転できます。」(16 課；135)	デキル
	レル	○	○	○	16	「東京から　何時間ぐらいで　行けますか。」(16 課；132)	デキル
	ラレル	○	○	○	16	「おきられたら、行って　みましょう。」(16 課；134)	デキル
	コトガデキル		○		16	「車で　行く　ことも　できますよ。」(16 課；32)	コトガデキル
文相当	～ツモリダ		○		20	「アリさんは、特に　どんな　ことを　べんきょうする　つもりですか。」(20 課；175)	～ツモリダ
	～デショウ		○	○	9	「たぶん　七月の　十日ごろ　あるでしょう。」(9 課；72)	～デショウ
	～ダロウ		○	○	26	「わたしの　父も　そう　言うだろうと　思います。」(26 課；230)	～ダロウ
	～ハズダ		○		27	「そこなら、いつでも　見学できる　はずです。」(27 課；237)	～ハズダ

～ラシイ		○	○	28	「ほかの　先生方も　感心なさったらしいですよ。」(28 課；246)	～ラシイ
～ヨウダ		○		25	「マナさんは、どうも　ゆうべ　おそく寝た　ようです。」(25 課；221)	～ヨウダ
～ソウダ		○		26	「事務室の　人の　話では、学校にも市役所から　れんらくが　あった　そうです。」(26 課；229)	～ソウダ
～カモシレナイ		○	○	21	「でも、もし、会議が　早く　終われば、時間が　ある　かもしれません。」(21 課；184)	～カモシレナイ

3.1.3. 『初級日本語(新装版)』でとりあげられている動詞の形態論的なカテゴリー

本章では、『初級日本語(新装版)』でとりあげられている動詞の形態論的なカテゴリーをまとめる。本教科書では、ヴォイス、アスペクト、もくろみ、やりもらい、条件・逆条件、中止、並列・同時、目標達成、形式名詞によるアスペクト、モダリティ、敬譲のような形態論的なカテゴリーが扱われている。

以下の<表 43>、<表 44>は、これらのカテゴリーの種類とその初出の課、初出の課に出ている動詞の詳細、教科書全体に出ている当該の動詞をまとめたものである。

表 43　カテゴリーごとの例文と動詞の一覧

形態論的なカテゴリー	文法的な意味	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞[30]	教科書全体に出ている動詞
ヴォイス	受身	サレル	24	「マナさんは　先生に　しかられました。」(24 課；214) 「弟は　兄に　顔をなぐられました。」(24 課；214) 「わたしたちは　雨に　降られました。」(24 課；215)	愛する、言う、行う、追いかける、押す、かむ、聞く、ける、こわす、さそう、しかる、死ぬ、しょうかいする、招待する、する、そんけいする、たたく、たのむ、泣く、なぐる、ぬすむ、はつばいする、ふむ、ほめる、開く、建てる、呼ぶ、降る、読む、入院する、発表する、反対する、放送する (異なり語数 33 語、計 39 例)	愛する、言う、追いかける、行う、押す、かむ、考える、聞く、ける、ことわる、こわす、さそう、しかる、する、しょうかいする、招待する、たのむ、読む、放送する、呼ぶ、死ぬ、そんけいする、たたく、建てる、泣く、なぐる、入院する、ぬすむ、はつばいする、発表する、反対する、開く、ふむ、降る、ほめる、みる、ゆるす (異なり語数 37 語、計 53 例)

[30] 以下に上げる動詞の順序は五十音順による。<表 43>、<表 44>では個々の動詞があらわれる語数は特に示さない。

						おく※[31] (異なり語数 1 語、計 1 例)
	使役	サセル	27	「母は　弟を　病院へ　行かせました。」(27 課 ; 240) 「両親は　子どもたちに　自由に　専攻を　えらばせました。」(27 課;240) 「今日は　見学させて　くださって、ありがとう　ございました。」(27 課 ; 238)	遊ぶ、行く、えらぶ、おこる、かける、考える、計算する、見学する、しゃべる、する、立つ、使う、つける、てつだう、休む、びっくりする、勉強する、わらう (異なり語数 18 語、計 24 例)	遊ぶ、行く、えらぶ、おこる、かける、考える、計算する、見学する、しゃべる、する、使う、てつだう、立つ、つける、休む、働く、びっくりする、勉強する、わらう (異なり語数 19 語、計 27 例)
					来る※ (異なり語数 1 語、計 1 例)	来る※ (異なり語数 1 語、計 1 例)
	可能	デキル	16	「東京から　何時間ぐらいで　行けますか。」(16 課 ; 132) 「しけんの　時　こたえが　思い出せませんでした。」(16 課 ; 135) 「わたしたちは　二人とも　生の　魚は食べられません。」(16 課 ; 133) 「もう　いちど　日本へ　来られますか。」(16 課 ; 135)	行く、運転する、おきる、買う、かぞえる、ききとる、来る、こたえる、思い出す、食べる、なおす、運ぶ、話す、入る (異なり語数 14 語、計 28 例)	会う、あつめる、歩く、行く、入れる、運転する、思い出す、覚える、おきる、買う、かぞえる、かりる、ききとる、着る、来る、見学する、こたえる、しゃべる、食べる、出る、着く、通る、見る、使う、飲む、なおす、ねる、入る、はしる、運ぶ、話す、ひく、なる、まいる、もらう、読む、忘れる (異なり語数 37 語、計 77 例)

[31] 「行く※」のように、動詞の後ろに「※」をつけたものは補助動詞として用いられる場合をさす。

						いただく※、いく※、くる※ (異なり語数 3 語、計 5 例)
		スルコトガデキル	16	「りゅう学生は　この　りょうに　入ることが　できます。」(16 課；135)	行く、運転する、思い出す、おきる、来る、食べる、入る (異なり語数 7 語、計 7 例)	行く、いる、運転する、思い出す、おきる、来る、する、食べる、つくる、とぶ、入る、やる (異なり語数 12 語、計 14 例)

形態論的なカテゴリー	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
アスペクト	シティル	8	「お母さんは　やまださんと　よく　にて　いますね。」(8課；64) 「いま、雨が　ふって　います。」(11課；93) 「兄は　タイに　行って　います。今、タイに　います。」(13課；111) 「山の　上に　月が出て　います。」(17課；147) 「もみじの　葉は赤い　色を　しています。」(23課；204)	似る (異なり語数1語、計1例)	愛する、開く、遊ぶ、歩く、言う、行く、受ける、売る、送る、行う、教える、おちる、おっしゃる、おどる、おもう、泳ぐ、下りる、買う、かえる、かく、かける、かぶる、かんがえる、消える、聞く、きめる、着る、くもる、来る、けっこんする、ことわる、こまる、さがす、さく、さわぐ、さんぽする、しかる、自習する、しらべる、知る、進む、住む、する、すわる、そんけいする、たおれる、立つ、食べる、使う、作る、続く、つとめる、できる、てつだう、出る、通る、とぶ、止まる、流れる、泣く、鳴く、なくなる、なまける、並ぶ、なる、鳴る、似る、ぬぐ、寝る、残る、上る、登る、入る、生える、はしる、働く、晴れる、光る、ふく、太る、降る、勉強する、まちがえる、待つ、回る、見る、むかえる、もつ、やせる、やる、

					読む、喜ぶ、わかる、別れる (異なり語数 94 語、計 248 例)
	シテイラッシャル	28	「みんな　ほめてらっしゃいました。」(28 課；246)	泊まる、話す、ほめる (異なり語数 3 語、計 3 例)	泊まる、話す、ほめる (異なり語数 3 語、計 3 例)
	シテオル	28	「両親は　東京に　住んで　おります。」(28 課；250)	住む (異なり語数 1 語、計 1 例)	言う、思い出す、思う、住む、続く (異なり語数 4 語、計 7 例)
	シテアル	22	「パーティーの　ために、おいしい　料理が　用意して　あります。」(22 課；198) 「暑いから、マナさんは　戸を　開けました。今、戸が　開けて　あります。」(22 課；198)	開ける、書く、かざる、消す、しく、はる、用意する (異なり語数 7 語、計 10 例)	開ける、書く、かざる、消す、しく、はる、用意する (異なり語数 7 語、計 15 例)
	シテシマウ	24	「一日で　全部　読んで　しまいました。」(24 課；210) 「タクシーの　後ろの　席に　忘れ物をして　しまいました。」(24 課；215)	あう、書く、かたづける、困る、こわれる、すてる、する、止まる、亡くなる、まよう、読む、忘れる (異なり語数 12 語、計 15 例)	あう、あがる、書く、かたづける、困る、こわれる、する、なる、すてる、止まる、亡くなる、飲む、ひく、びっくりする、まよう、みる、読む、忘れる (異なり語数 18 語、計 26 例) いく※(2) (異なり語数 1 語、計 2 例)
	シテイク	5	「アリさんは　うちから　えきまで　あるいて　いきます。」	歩く (異なり語数 1 語、計 1 例)	あるく、おく、開発する、変わる、消える、進歩する、続ける、連

			(5課；37) 「これからは、雪国の　生活も　だんだん　変わって　いくでしょう。」(25課；222)		れる、出る、とぶ、入る、走る、乗る、持つ、休む (異なり語数15語、計31例)
	シテマイル	28	「地図を　持って　まいりました。」(28課；250)	持つ (異なり語数1語、計1例)	なる、持つ (異なり語数2語、計3例)
	シテクル	11	「かまくらの　地図を　もって　来ましたか。」(11課；90) 「わたしたちの　生活は　だんだん　向上して　きました。」(25課；226)	持つ (異なり語数1語、計4例)	あつめる、行く、起きる、送る、おちる、買う、帰る、考える、向上する、する、生活する、進む、戦う、出る、なる、はしる、話す、増える、降る、ならう、持つ、やせる (異なり語数22語、計48例)
	シテイラッシャル	28	「先生は　ここへ　新聞を　持って　いらっしゃいました。」(28課；249)	待つ (異なり語数1語、計1例)	待つ (異なり語数1語、計1例)
	シテカエル	11	「わたしは　来年　国へ　日本の　にんぎょうを　もって　かえります。」(11課；95)	持つ (異なり語数1語、計1例)	買う、持つ (異なり語数2語、計2例)

形態論的なカテゴリー	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
もくろみ	シテミル	14	「ちかくに　いい店が　ありますが、行って　みますか。」(14 課；115)	行く、きく、たのむ、はく (異なり語数 4 語、計 6 例)	開ける、行く、起す、かんがえる、かける、聞く、比べる、住む、相談する、たのむ、食べる、出る、はく、まぜる (異なり語数 14 語、計 23 例)
	シテオク	22	「あれは、わたしがはって　おいたのです。」(22 課；193)	買う、かざる、しく、しまう、する、はる、わかす (異なり語数 7 語、計 8 例)	いれる、買う、かざる、しく、しまう、する、はる、わかす (異なり語数 8 語、計 10 例)
	シナイデオク	22	「今晩　パーティーが　あるから、昼ご飯は　あまり　食べないで　おきましょう。」(22 課；197)	言う、食べる (異なり語数 2 語、計 2 例)	言う、食べる (異なり語数 2 語、計 2 例)

形態論的なカテゴリー	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
やりもらい	シテアゲル	22	「「とうろんかいの後で、大学の　中を案内して　あげましょう。」と　書いてありました。」(22課；193)	案内する、さそう、作る (異なり語数3語、計3例)	案内する、さそう、作る、とめる (異なり語数4語、計4例)
	シテクレル	22	「だれが　送ってくれたのですか。」(22課；193)	送る、育てる、助ける、見せる (異なり語数4語、計6例)	送る、買う、かえす、育てる、助ける、手伝う、使う、見せる (異なり語数8語、計11例)
	シテモラウ	22	「この間、さとうさんに　てつだって　もらって、練習しました。」(22課；194)	買う、育てる、助ける、食べる、直す、見せる、みる、練習する (異なり語数8語、計8例)	買う、かす、来る、する、育てる、助ける、食べる、直す、見せる、みる、理解する、練習する (異なり語数12語、計15例)
	シテヤル	22	「では、写真を　とって　いもうとに　送って　やります。」(22課；194)	送る、教える、ほめる (異なり語数3語、計3例)	送る、教える、たすける、ほめる (異なり語数4語、計4例)
	シテクダサル	22	「先生は　わたしに本を　かして　くださいました。」(22課；196)	案内する、かす (異なり語数2語、計2例)	案内する、かす、見学する、する、休む (異なり語数5語、計5例)
	シテイタダク	22	「こんな　すばらしい　とうろん会に招いて　いただいて、ありがとう　ございました。」(22課；195)	案内する、送る、かす、招く (異なり語数4語、計4例)	案内する、送る、かす、する、たすける、まねく、みせる (異なり語数7語、計9例)

形態論的なカテゴリー	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
条件・逆条件	シタラ	16	「おきられたら、行って　みましょう。」(16 課；134)	ある、おきる、ふる (異なり語数 3 語、計 4 例)	ある、行く、おきる、おわる、かりる、しる、する、できる、でる、つかう、なる、はいる、ふる (異なり語数 13 語、計 22 例) いく※、いただく※、くる※ (異なり語数 3 語、計 3 例)
	スルト	19	「おぼんに　なると、とても　汽車がこみます。」(19 課；163)	行く、出る、なる、曲がる、渡る (異なり語数 5 語、計 6 例)	いく、きく、こおる、すう、つくる、つもる、でる、なる、まがる、みる、わたる (異なり語数 11 語、計 21 例)
	スルナラ	21	「将来、大学でも使うなら、くわしいのが　いいですね。」(21 課；185)	行く、帰る、使う (異なり語数 3 語、計 3 例)	行く、帰る、使う (異なり語数 3 語、計 3 例)
	スレバ	21	「でも、もし、会議が　早く　終われば、時間が　あるかもしれません。」(21 課；184)	行く、覚える、終わる、相談する、続ける、話す、読む (異なり語数 7 語、計 9 例)	いく、おぼえる、おわる、する、そうだんする、たつ、つづける、はなす、よむ (異なり語数 9 語、計 12 例)
	シテモ	15	「でも、学生証はもって　いても、いなくても　かまいません。」(15 課；126)	いる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)	ある、おきる、のむ、はいる、べんきょうする、読む (異なり語数 6 語、計 6 例)

					いる※(3) (異なり語数 1 語、計 3 例)
	シナクテモ	15	「でも、学生証は もって いても、いなくても かまいません。」(15 課 ; 126)	いる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)	べんきょうする (異なり語数 1 語、計 1 例)
					いる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)

形態論的なカテゴリー	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
中止	シテ	11	「この　電車に　のって、かまくら駅まで　行きます。」(11課；90) 「この　マッチを使って　火を　つけましょう。」(20課；177) 「風が　ふいて、火が　消えました。今、火が　消えて　います。」(22課；198) 「あなたに　会えて、うれしいです。」(24課；217)	あらう、あるく、おきる、おりる、する、そる、でる、とまる、のりかえる、のる、はじまる、みがく (異なり語数12語、計15例)	会う、開ける、あげる、集まる、あつめる、あらう、ある、あるく、言う、行く、急ぐ、入れる、生まれる、追いかける、おきる、おくる、思う、下りる、おわる、帰る、かける、かんがえる、がんばる、聞く、帰国する、組む、比べる、くり返す、来る、下がる、さそう、招待する、吸う、する、そる、出す、ちがう、使う、つくる、つける、でる、とまる、とる、なる、のりかえる、乗る、入る、はく、はじまる、外す、増える、ふく、間に合う、みがく、見つける、見る、持つ、やめる、用意する、呼ぶ、読む、寄る、喜ぶ、わかる、わる、われる (異なり語数66語、計112例) いく※、いただく※、いる※、くださる※、くる※、しまう※、もらう※ (異なり語数7語、計12例)

	シナクテ	24	「マナさんに　会えなくて、ざんねんでした。」(24課；217)	会う (異なり語数1語、計1例)	会う (異なり語数1語、計1例)
	セズニ	20	「わたしは、あまり数学を　べんきょうせずに、日本へ　来たので、今　ちょっと　こまって　います。」(20課；174)	かける、かたづける、さす、進む、ねる、勉強する (異なり語数6語、計6例)	かける、かたづける、けす、さす、進む、しめる、すわる、たおれる、ねる、勉強する (異なり語数10語、計11例)
	シナイデ	20	「コンピュータを使わないで　資料を作ると、とても　大変なのです。」(20課；173)	かける、かたづける、さす、使う、ねる (異なり語数5語、計5例)	かける、かたづける、さす、使う、ねる (異なり語数5語、計5例)
	シ	Y7	「おぼんに　おくる物を　「お中元」といい、年の　終わりに　おくる　物を「おせいぼ」と　いう。」(Y7課；273)	いう、する (異なり語数2語、計2例)	いう、する、とる、なる (異なり語数4語、計5例)

形態論的なカテゴリー	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
並列・同時	シタリ	12	「毎日　くすりをのんだり、ちゅうしゃを　したり　しました。」(12 課；99)	開く、開ける、うたう、きえる、閉まる、する、座る、たつ、つく、閉じる、なく、飲む、ひく、よむ、わらう (異なり語数 15 語、計 16 例)	開く、開ける、あげる、洗う、うたう、運動する、押す、買う、かんがえる、きえる、切る、閉まる、する、座る、たつ、つく、つける、作る、閉じる、取る、泣く、鳴く、なる、にる、除く、飲む、はたらく、ひく、ふむ、もらう、よむ、やく、わかる、わらう (異なり語数 34 語、計 41 例)
	シナガラ	19	「ほら、あそこでうたを　うたいながら、おどって　います。」(19 課；164)	歌う、聞く、する、とる、のむ (異なり語数 5 語、計 5 例)	歌う、思い出す、思う、聞く、する、とる、泣く、鳴く、のむ (異なり語数 9 語、計 9 例)
	シタママ	24	「長い間　ずっと立った　ままでした。」(24 課；211)	開ける、借りる、立つ、つける、止まる、入る (異なり語数 6 語、計 8 例)	あける、かりる、たつ、つける、とまる、はいる (異なり語数 6 語、計 9 例)

形態論的なカテゴリー	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
目標達成	スルタメニ	20	「統計の　資料を作る　ために、使うのです。」(20課;173)	書く、切る、経営する、けす、研究する、食べる、作る、べんきょうする、まもる、れんしゅうする (異なり語数10語、計11例)	かく、きる、けいえいする、けす、けんきゅうする、たべる、つくる、べんきょうする、まもる、れんしゅうする、よむ (異なり語数11語、計12例)
	スルノニ	23	「そこへ　行くのにどのぐらい　かかりますか。」(23課;202)	かざる、かりる、作る、とる、入る、予習する、録音する (異なり語数7語、計7例)	かざる、かりる、作る、とる、入る、予習する、録音する (異なり語数7語、計7例)
	シニ	10	「じむしつへ　なにを　しに　行きましたか。」(10課;81) 「アリさんは　わたしの　ところへ　お金を　かりに　来ました。」(10課;85) 「わたしは　来年国へ　かぞくに　会いに　かえります。」(10課;85)	会う、かりる、する、とる、べんきょうする、みおくる、むかえる (異なり語数7語、計9例)	会う、あそぶ、、うる、およぐ、かう、かりる、する、とる、はたらく、べんきょうする、みおくる、みる、むかえる (異なり語数13語、計26例)
	スルヨウニ	22	「じゅぎょうに　間に合うように、教室まで　走って　行きました。」 (22課;198)	かわく、まにあう、ねる、わかる (異なり語数4語、計4例)	かわく、まにあう、ねる、わかる (異なり語数4語、計4例)
	シナイヨウニ	22	「この　かみを　やぶらないように、気を　つけて　くださ	あたる、おくれる、おる、なる、まちがえる、やぶる、わす	あたる、おくれる、おる、なる、まちがえる、やぶる、わすれる

			い。」(22 課；198)	れる (異なり語数 7 語、計 7 例)	(異なり語数 7 語、計 7 例)
	スルヨウニ命ジル	26	「わたしは　友だちに　荷物を　運ぶように(と)　頼みました。」(26 課；232)	する、まもる、はこぶ、やる (異なり語数 4 語、計 4 例)	さしあげる、する、まもる、はこぶ、やる (異なり語数 5 語、計 5 例) くださる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)
	シナイヨウニ命ジル	26	「姉は　妹に　お金を　おとさないように(と)　言いました。」(26 課；232)	おとす、けっせきする (異なり語数 2 語、計 2 例)	おとす、けっせきする (異なり語数 2 語、計 2 例)
	スルヨウニナル	16	「このごろは　外国の　人たちも　とまるように　なりました。」(16 課；133)	かぞえる、ききとる、できる、とまる (異なり語数 4 語、計 4 例)	いる、かぞえる、ききとる、せいかつする、できる、とまる、のむ、はたらく、ゆるす (異なり語数 9 語、計 12 例)

形態論的なカテゴリー	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
形式名詞によるアスペクト	スルトコロ	25	「わたしは　これから　外出する　ところです。」(25課;225)	外出する、する (異なり語数2語、計2例)	行く、外出する、する (異なり語数3語、計3例)
	シテイルトコロ	25	「学生たちは　部屋で　自習して　いるところです。」(25課;225)	自習する、する (異なり語数2語、計2例)	自習する、する (異なり語数2語、計2例)
				いる※ (異なり語数1語、計2例)	いる※ (異なり語数1語、計2例)
	シタトコロ	25	「わたしは、今、食事を　した　ところです。」(25課;225)	する、できる、降る (異なり語数3語、計3例)	する、できる、降る (異なり語数3語、計3例)
	シタバカリ	28	「わたしは、今、家へ　帰って　来たばかりです。」(28課;251)	受け取る、生まれる、買う、来る (異なり語数4語、計6例)	来る、うけとる、うまれる、かう (異なり語数4語、計6例)
				くる※ (異なり語数1語、計1例)	くる※ (異なり語数1語、計1例)

形態論的なカテゴリー	文法的な意味	文法的な形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
モダリティ	希求	シテクダサイ	10	「すみませんが、先生に　言って　ください。」(10 課；81) 「表の　通りは　危ないから、車に　気を　つけて　帰ってください。」(20 課；175) 「苦しくても、がんばって　ください。」(21 課；185)	開ける、言う、おしえる、おぼえる、かす、する、ちゅういする、つかう、つける、のむ、まつ、みる、休む (異なり語数 13 語、計 36 例)	開ける、あらう、歩く、行く、言う、入れる、教える、おぼえる、かえす、帰る、書く、かける、かす、がんばる、決める、切る、来る、さそう、実験する、知らせる、すてる、する、だす、食べる、注意する、使う、つくる、つける、てつだう、とる、なさる、なる、のむ、乗る、発表する、話す、曲がる、まつ、みがく、見せる、みる、召し上がる、休む、やる (異なり語数 44 語、計 75 例) 行く※、いる※、おく※、来る※、しまう※、みる※ (異なり語数 6 語、計 11 例)
		シナイデクダサイ	10	「だから、つかわないで　ください[32]。」(10 課；82) 「心配しないで　く	かえる、けす、閉める、すう、つかう、なげる、のむ、わすれる	歩く、行く、かえる、けす、さわる、閉める、心配する、すう、すわる、だす、たつ、つか

[32] 本報告では「シナイデクダサイ」という文の補助動詞「くださる」の形態的な形は「シテクダサイ」と書いている。

				ださい。」(22 課;198)	(異なり語数 8 語、計 9 例)	う、なげる、のむ、入る、見る、わすれる (異なり語数 17 語、計 19 例)
		シテクダサイマセンカ	16	「この　ノートにおきゃくさんの　じゅうしょと　氏名を記入して　くださいませんか。」(16 課;133)	記入する (異なり語数 1 語、1 例)	記入する、紹介する、休む (異なり語数 3 語、計 4 例)
		シテイタダケマセンカ	22	「ちょっと　直していただけませんか。」(22 課;193)	直す、見せる (異なり語数 2 語、計 2 例)	知らせる[33]、直す、見せる (異なり語数 3 語、計 3 例)
		シテクレ	Y9	「わたしが　わるかった。許して　くれ。」(Y9;280)	いる、許す (異なり語数 2 語、計 2 例)	いる、許す (異なり語数 2 語、計 2 例)
	許容	**シテモイイ**	14	「しばふに　入っても　いいですか。」(14 課;116)	写す、使う、とる、入る (異なり語数 4 語、計 7 例)	写す、使う、とる、入る (異なり語数 4 語、計 8 例)
		シナクテモイイ	15	「いいえ、食事は作らなくても　いいです。」(15 課;124)	作る、入る、払う (異なり語数 3 語、計 4 例)	作る、入る、払う (異なり語数 3 語、計 4 例)
		シテモカマワナイ	14	「公園の　しばふに入って、写真を　とっても　かまいませんか。」(14 課;116) 「でも、学生証はもって　いても、いなくても　かまいません。」(25 課;126)	使う、とる (異なり語数 2 語、計 2 例)	行く、使う、とる、見る (異なり語数 4 語、計 4 例) いる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)
			15	「いいえ、入らなくても　かまいませ	入る (異なり語数 1 語、計	入る (異なり語数 1 語、計 1

[33] 「御都合の　よい　日を　お知らせいただけませんでしょうか。」(Y10;283)この例では「イタダク※」は個別にとっていない。

		シナクテモカマワナイ		ん。」(15 課；127) 「でも、学生証はもって　いても、いなくても　かまいません。」(15 課；126)	1 例) いる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)	例) いる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)
		シタッテイイ	28	「明日は　休んだって　いいんです。」(28 課；253)	休む (異なり語数 1 語、計 1 例)	休む (異なり語数 1 語、計 1 例)
		シタッテカマワナイ	28	「外では　たばこを吸ったって　かまいません。」(28 課；253)	吸う (異なり語数 1 語、計 1 例)	吸う (異なり語数 1 語、計 1 例)
	不許容	シテハイケナイ	14	「でも、しばふの上で　運動したりしては　いけません。」(14 課；116)	運動する、殺す、さわる、すてる、する、わる (異なり語数 6 語、計 6 例)	運動する、書く、殺す、さわぐ、さわる、すてる、する、出る、とる、飲む、見る、わたる、わる (異なり語数 13 語、計 14 例)
		シテハダメ	14	「動いては　だめですよ。」(14 課；117)	動く、すてる (異なり語数 2 語、計 2 例)	言う、動く、すてる (異なり語数 3 語、計 3 例)
	当為	シナケレバナラナイ	15	「ここでは　いろいろな　ことを　自分で　やらなければなりませんから、こまりました。」(15 課；124) 「外国人登録証明書は　もって　いなければ　なりません。」(15 課；126)	行く、する、ちゅういする、作る、ぬぐ、入る、運ぶ、やる (異なり語数 8 語、計 10 例) 行く※、いる※ (異なり語数 2 語、計 4 例)	行く、覚える、けす、研究する、調べる、する、出す、ちゅういする、作る、つける、ぬぐ、のむ、入る、運ぶ、勉強する、守る、やめる、やる、用意する (異なり語数 19 語、計 27 例) 行く※、いる※ (異なり語数 2 語、計 5 例)
	願望	シタイ	14	「今、あたらしいカメラを　かいたいと　おもって　いま	写す、かう、かえる、とる、なる、べんきょうする、りょこう	行く、うかがう、写す、買う、帰る、聞く、来る、見学する、さしあ

				す。」(14 課；115) 「いつか　外国へ行って　みたいです。」(14 課；121)	する (異なり語数 7 語、計 11 例)	げる、しつもんする、進む、する、相談する、とる、なる、のむ、話す、べんきょうする、見る、やる、留学する、りょこうする (異なり語数 22 語、計 46 例)
					みる※ (異なり語数 1 語、計 2 例)	いただく※、おく※、みる※ (異なり語数 3 語、計 5 例)
		シタガル	25	「地方から　出て来た　若者は、国へは　帰りたがらないようですね。」(25 課；222)	行く、買う、帰る、見る (異なり語数 4 語、計 5 例)	行く、買う、帰る、聞く、見る、やる (異なり語数 6 語、計 7 例)
	誘いかけ	シマショウ	4	「あしたの　あさ九じごろ　いきましょう。」(4 課；25) 「では、写真は　後に　しましょう。」(22 課；194) 「荷物は　ロッカーに　入れて　おきましょう。」(23 課；202)	いく、かえる、する、とる (異なり語数 4 語、計 5 例)	会う、あらう、歩く、行く、送る、おどる、かえる、かたづける、かんぱいする、きく、出発する、する、食べる、つける、出る、通る、止める、とる、のむ、入る、はじめる、はなす、みせる、やく、やすむ (異なり語数 25 語、計 56 例)
						いく※、おく※、しまう※、みる※ (異なり語数 4 語、計 15 例)
		シマショウカ	11	「あしたは　新宿へでも　行きましょうか。。」(28 課；252)	行く (異なり語数 1 語、計 2 例)	行く、おじゃまする、とる (異なり語数 3 語、計 5 例)

		シマセンカ	19	「八月に　わたしのいなかへ　いっしょに　行きませんか。」(19 課；163) 「わたしたちも　外へ　出て　みませんか。」(25 課；23)	行く、する (異なり語数 2 語、計 4 例)	行く、うかがう、する、飲む (異なり語数 4 語、計 10 例) みる※ (異なり語数 1 語、計 2 例)
		シヨウ	22	「わたしも、「アジアの　みどりを　守ろう」と　いう　題で話を　する　予定です。」(22 課；193) 「この　次には、うちにも　来て　もらおうね。」(28 課；248)	守る (異なり語数 1 語、計 1 例)	守る (異なり語数 1 語、計 1 例) もらう※ (異なり語数 1 語、計 1 例)
	命令	シナサイ	14	「あき子ちゃん、ここに　すわりなさい。」(14 課；117) 「ハイキングの　時は、何か　食べ物をもって　行きなさい。」(14 課；121)	開ける、すわる、ひろう、ほんやくする、見る (異なり語数 5 語、計 5 例) 行く※ (異なり語数 1 語、計 1 例)	開ける、入れる、書く、すわる、はる、冷やす、ひろう、復習する、べんきょうする、ほんやくする、見る (異なり語数 11 語、計 12 例) 行く※、みる※ (異なり語数 2 語、計 2 例)
	様態	シソウダ	23	「ドアが　閉まりそうですよ。」(23 課；201)	おれる、切れる、しずむ、閉まる、たおれる、取れる、降る、破れる、割れる (異なり語数 9 語、計 9 例)	おれる、切れる、しずむ、閉まる、たおれる、取れる、始まる、降る、破れる、割れる (異なり語数 10 語、計 10 例)
		～ヨウダ	25	「マナさんは、どうも　ゆうべ　おそく寝た　ようです。」(25 課；221)	ある、帰る、寝る、増える、減る (異なり語数 5 語、計 5 例)	ある、帰る、寝る、増える、減る (異なり語数 5 語、計 5 例)

			「ええ、少し　寒気が　します。どうもかぜを　ひいて　しまった　ようです。」(25 課；224)	しまう※ (異なり語数 1 語、計 1 例)	しまう※ (異なり語数 1 語、計 1 例)
推量	～デショウ	9	「たぶん　七月の十日ごろ　あるでしょう。」(9 課；72) 「科学は　これからも　どんどん　進歩して　いくでしょう。」(25 課；226)	ある、行く、来る、休む (異なり語数 4 語、計 4 例)	上がる、ある、安心する、行く、買う、かりる、来る、心配する、つく、なおす、なさる、なる、入る、見る、休む、喜ぶ (異なり語数 16 語、計 22 例) いく※ (異なり語数 1 語、計 2 例)
	～ダロウ	26	「わたしの　父もそう　言うだろうと思います。」(26 課；230)	上がる、言う (異なり語数 2 語、計 2 例)	ある、上がる、言う、できる、見る、忘れる (異なり語数 6 語、計 7 例)
推定	～ラシイ	28	「ほかの　先生方も感心なさった　らしいですよ。」(28 課；246)	いる、勝つ、感心する (異なり語数 3 語、計 3 例)	いる、勝つ、感心する (異なり語数 3 語、計 3 例)
推論	～ハズダ	27	「そこなら、いつでも　見学できる　はずです。」(27 課;237) 「町の　人々は、めずらしがって、高く買って　くれる　はずです。」(Y9；278)	かかる、見学する、こおる (異なり語数 3 語、計 4 例)	かかる、見学する、こおる (異なり語数 3 語、計 4 例) くれる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)
確信度	～カモシレナイ	21	「でも、もし、会議が　早く　終われば、時間が　あるかもしれません。」(21 課；184)	ある、変わる、来る、下がる、なる (異なり語数 5 語、計 8 例)	ある、変わる、来る、下がる、なる、やめる (異なり語数 6 語、計 10 例)

	意図	シマショウ	8	「この　にんぎょうを　おねえさんの子どもさんに　あげましょう。」(8 課 ; 64) 「では、中村くんに都合を　聞いて　みましょう。」(27 課 ; 237)	あげる、かける、みせる (異なり語数 3 語、計 4 例)	あげる、送る、書く、かける、知らせる、見せる、持つ (異なり語数 7 語、計 9 例) あげる※、みる※ (異なり語数 2 語、計 2 例)
		シヨウ(ト)	20	「これから、いっしょうけんめいに　やろうと　思って　います。」(20 課 ; 174)	書く、かける、来る、結婚する、つとめる、なる、べんきょうする、やる (異なり語数 8 語、計 9 例)	書く、かける、来る、結婚する、する、つとめる、なる、働く、べんきょうする、やる、渡す (異なり語数 11 語、計 14 例)
		～ツモリダ	20	「アリさんは、特にどんな　ことを　べんきょうする　つもりですか。」(20 課 ; 175) 「あした　この　本を　読んで　しまうつもりです。」(24 課 ; 215)	買う、変える、進む、する、はたらく、べんきょうする、留学する (異なり語数 7 語、計 14 例)	買う、帰る、変える、進む、する、はたらく、勉強する、おまいりする、留学する (異なり語数 9 語、計 18 例) いく※、しまう※ (異なり語数 2 語、計 2 例)
	伝聞	～ソウダ	26	「事務室の　人の話では、学校にも市役所から　れんらくが　あった　そうです。」(26 課 ; 229) 「ニュースに　よると、未成年者の　交通事故が　増えてきた　そうです。」(26 課 ; 232)	ある、着る (異なり語数 2 語、計 2 例) くる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)	ある、着る、やる (異なり語数 3 語、計 3 例) くる※ (異なり語数 1 語、計 1 例)

表 44 「敬譲」を表わす表現

形態論的なカテゴリー	敬譲表現を表わす形	初出の課	教科書に出ている例文	初出の課に出ている動詞	教科書全体に出ている動詞
敬譲	～サレル	28	「先生は、来月、国へ　帰られます。」(28 課；249) 「先生は　もう　論文を　書いて　しまわれました。」(28 課；249)	行く、帰る、来る、する、喜ぶ (異なり語数 5 語、計 5 例) おく※、しまう※ (異なり語数 2 語、計 2 例)	行く、帰る、来る、する、喜ぶ (異なり語数 5 語、計 5 例) おく※、しまう※ (異なり語数 2 語、計 2 例)
	オースル	4	「カメラの　シャッターを　おねがいします。」(4 課；26) 「この　にもつを送って　いただきたいのですが。はい、お送りしましょう。」(22 課；197)	お願いする (異なり語数 1 語、計 1 例)	会う、祝う、うかがう、送る、知らせる、てつだう、お願いする、おまいりする、見せる、持つ、渡す (異なり語数 11 語、計 21 例)
	御ースル	28	「すぐ　結果を　御れんらくします。」(28 課；250)	相談する、れんらくする (異なり語数 2 語、計 2 例)	相談する、れんらくする (異なり語数 2 語、計 2 例)
	オークダサイ	28	「どうぞ　そこにおかけください。」(28 課；246)	かける、使う、乗る (異なり語数 3 語、計 3 例)	かける、使う、乗る (異なり語数 3 語、計 3 例)
	御ークダサイ	28	「すぐ　御れんらくください。」(28 課；250)	安心する、れんらくする (異なり語数 2 語、計 2 例)	安心する、れんらくする (異なり語数 2 語、計 2 例)
	オーイタダク	Y10	「御都合の　よい日を　お知らせいただけませんでしょうか。」(Y10；283)	知らせる (異なり語数 1 語、計 1 例)	知らせる (異なり語数 1 語、計 1 例)

	御ーイタダク	Y 10	「先日は　花火見物に　御招待いただきまして、ありがとうございました。」(Y10；282)	招待する (異なり語数 1 語、計 1 例)	招待する (異なり語数 1 語、計 1 例)
	オーニナル	28	「こんなに　たくさん、おく様が　お作りになったんですか。」(28 課；247)	帰る、作る、喜ぶ (異なり語数 3 語、計 3 例)	帰る、作る、喜ぶ (異なり語数 3 語、計 3 例)
	〜ナサル	28	「ほかの　先生方も感心なさった　らしいですよ。」(28 課；246)	感心する、さんぽする (異なり語数 2 語、計 2 例)	感心する、さんぽする (異なり語数 2 語、計 2 例)

3.1.4. 各カテゴリーの提出の順序

本節では、本教科書において動詞の形態論的なカテゴリーがどのような順序で導入されているのかを次の＜表 45＞で示す。

表 45　動詞の形態論的なカテゴリーの提出の順序[34]

課	形態論的なカテゴリーの詳細(文法的な意味を表わす形)
4	〔誘いかけ〕の「シマショウ」
5	〔アスペクト〕の「シテイク」
8	〔意図〕の「シマショウ」
9	〔推量〕の「～デショウ」
10	〔目標達成〕の「シニ」、〔希求〕の「シテクダサイ」・「シナイデクダサイ」
11	〔アスペクト〕の「シテイル」・「シテイク」・「シテクル」・「シテカエル」、〔中止〕の「シテ」、〔誘いかけ〕の「シマショウカ」
12	〔並列・同時〕の「シタリ」
13	〔アスペクト〕の「シテイル」
14	〔もくろみ〕の「シテミル」、〔許容〕の「シテモイイ」・「シテモカマワナイ」、〔不許容〕の「シテハイケナイ」・「シテハダメ」、〔願望〕の「シタイ」、〔命令〕の「シナサイ」
15	〔逆条件〕の「シテモ」・「シナクテモ」、〔許容〕の「シナクテモイイ」・「シナクテモカマワナイ」、〔当為〕の「シナケレバナラナイ」
16	〔可能〕の「デキル」・「スルコトガデキル」、〔条件〕の「シタラ」、〔目標達成〕の「スルヨウニナル」
17	〔アスペクト〕の「シテイル」・「シテイク」・「シテクル」・「シテカエル」
19	〔条件〕の「スルト」、〔並列・同時〕の「シナガラ」、〔誘いかけ〕の「シマセンカ」
20	〔中止〕の「シテ」・「セズニ」・「シナイデ」、〔目標達成〕の「スルタメニ」、〔意図〕の「ショウ(ト)」・「～ツモリダ」
21	〔条件〕の「スルナラ」・「シナイナラ」・「スレバ」、〔確信度〕の「～カモシレナイ」
22	〔アスペクト〕の「シテアル」、〔もくろみ〕の「シテオク」・「シナイデオク」、〔やりもらい〕の「シテアゲル」・「シテクレル」・「シテモラウ」・「シテヤル」・「シテクダサル」・「シテイタダク」、〔目標達成〕の「スルヨウニ」・「シナイヨウニ」、〔希求〕の「シテイタダケマセンカ」、〔意図〕の「シマショウ」、〔敬譲〕の「オースル」
23	〔アスペクト〕の「シテイル」、〔目標達成〕の「スルノニ」、〔様態〕の「シソウダ」

[34] 本教科書において「ぶんけい・ごい」で文法事項として教えていると考えられる形態論的なカテゴリーの提出順序である。

24	〔ヴォイス(受身)〕の「サレル」、〔アスペクト〕の「シテシマウ」、〔中止〕の「シテ」・「シナクテ」、〔並列・同時〕の「シタママ」
25	〔アスペクト〕の「シテイク」・「シテクル」、〔形式名詞によるアスペクト〕の「スルトコロ」・「シテイルトコロ」・「シタトコロ」、〔願望〕の「シタガル」、〔様態〕の「～ヨウダ」
26	〔目標達成〕の「スルヨウニ命ジル」・「シナイヨウニ命ジル」、〔推量〕の「～ダロウ」、〔伝聞〕の「～ソウダ」
27	〔ヴォイス(使役)〕の「サセル」、〔希求〕の「シテクダサイマセンカ」、〔推論〕の「～ハズダ」
28	〔アスペクト〕の「シテイラッシャル(「シテイル」／「シテクル」の意味)」・「シテオル」・「シテシマウ」・「シテマイル」、〔形式名詞によるアスペクト〕の「シタバカリ」、〔許容〕の「シタッテイイ」・「シタッテカマワナイ」、〔不許容〕の「シテハイケナイ(「シチャイケナイ」の形)」・「シテハダメ(「シチャダメ」の形)」、〔推定〕の「～ラシイ」、〔敬譲〕の「～サレル」・「オークダサイ」・「御ークダサイ」・「オースル」・「御ースル」、「オーニナル」・「～ナサル」

以上、＜表 45＞では動詞の形態論的なカテゴリーの提出の順序をみた。3.2.～3.12.では本教科書でとりあげられている動詞の文法的なものにどのようなものがあるか述べる。この教科書での文法事項として考えられるのはいろいろあるが、動詞についていうと、動詞の語形の持つ文法的なものがある。本報告ではこれを動詞の形態論的なカテゴリーをまとめることで示す。教科書の p.291 には【動詞の活用形に続く形】という表があり、文法的な意味を表わす形が動詞のどのような活用形ごとに続くのかが整理されている。本報告では文法的な意味を形態論的なカテゴリーとしてグループ化し、それぞれの類の文法的な形をみていく。

3.2. ヴォイス

本教科書ではヴォイスとして受身、使役、可能が出されている。<表 46>はヴォイスを表わす表現につく動詞を示したものである。

表 46 「ヴォイス」を表わす表現につく動詞

ヴォイスを表わす表現		初出の課	ヴォイスを表わす表現につく動詞[35]	動詞の異なり語数	例文の数
受身	サレル	24	言う(6)、しかる(3)、たのむ(3)、読む(3)、考える(2)、招待する(2)、する(2)、放送する(2)、呼ぶ(2)、愛する、開く、追いかける、行う、押す、かむ、聞く、ける、ことわる、こわす、さそう、死ぬ、しょうかいする、そんけいする、たたく、建てる、泣く、なぐる、入院する、ぬすむ、はつばいする、発表する、反対する、ふむ、降る、ほめる、みる、ゆるす	37	53
		28	おく※	1	1
使役	サセル	27	行く(3)、休む(3)、する(2)、使う(2)、てつだう(2)、びっくりする(2)、遊ぶ、えらぶ、おこる、かける、考える、計算する、見学する、しゃべる、立つ、つける、働く、勉強する、わらう	19	27
		27	来る※	1	1
可能	デキル	16	買う(7)、行く(6)、食べる(6)、こたえる(4)、会う(3)、かぞえる(3)、出る(3)、はしる(3)、話す(3)、見る(3)、読む(3)、歩く(2)、入れる(2)、おきる(2)、覚える(2)、ききとる(2)、使う(2)、飲む(2)、あつめる、運転する、思い出す、かりる、着る、見学する、来る、しゃべる、着く、通る、なおす、なる、ねる、入る、運ぶ、ひく、まいる、もらう、忘れる	37	77
		Y4	いただく※(3)、いく※、くる※	3	5
	スルコトガデキル	16	行く(2)、する(2)、いる、運転する、おきる、思い出す、来る、食べる、つくる、とぶ、入る、やる	12	14
計				110 語	178 例

[35] 動詞は語数の多い順に示し、語数が同じである場合は、五十音順に並べる。補助動詞は本動詞の次に同じ基準で示す。( )内は各動詞の語数である。

3.2.1. 受身

「サレル」(全 54 例)

受身は 24 課で導入され、39 例出されている。他にも 25 課、26 課、28 課でも出されており、読み物 8、読み物 9、読み物 10 でもあがっている。

本教科書では、受身は 24 課で初めて導入されており、その「ぶんけい・ごい」では、受身の 6 つの意味が導入されている。まず、<表 47>でそれぞれの諸タイプと参考例文を示す。

表 47　本教科書で導入されている「受身」の諸タイプ

	「ぶんけい・ごい」の例文を中心に
1	①「マナさんは　先生に　しかられました。」(24 課 ; 214) ②「わたしは　先生に　ほめられました。」(24 課 ; 214)
2	①「小林さんは　ジョンさんに　仕事を　たのまれました。」(24 課 ; 214) ②「わたしは　母に　「べんきょうしなさい。」と　いつも　言われます。」(24 課 ; 214)
3	①「弟は　兄に　顔を　なぐられました。」(24 課 ; 214) ②「母は　どろぼうに　財布を　ぬすまれました。」(24 課 ; 214)
4	①「わたしたちは　雨に　降られました。(かぜを　ひきました。)」(24 課 ; 215) ②「わたしは、小さい　時、父に　死なれました。(生活が　苦しくなりました。)」(24 課 ; 215)
5	①「この歌は　若い人たちに　愛されて　います。」(24 課 ; 215) ②「この新聞は　地方の　人たちに　読まれて　います。」(24 課 ; 215)
6	①「せんしゅう、会議で　新しい　予定が　発表されました。」(24 課 ; 215) ②「昭和 39 年(1964 年)に　東京で　オリンピックが　開かれました。」(24 課 ; 215)

この表から分かるように、本教科書では、受身の様々な用法が教えられている。

まず、1 は、もとになる動きの直接対象を主語にして述べる受身文である。

例) ①「アリさんは　先生に　呼ばれました。」(24 課 ; 214)
②「わたしは　先生に　ほめられました。」(24 課 ; 214)
③「わたしは　マナさんに　留学生の　パーティーに　招待されました。」(24 課 ; 214)

2 は、もとになる動きの相手を主語にして述べる受身文である。

例) ①「小林さんは　ジョンさんに　仕事を　たのまれました。」(24 課 ; 214)
②「わたしは　母に　「べんきょうしなさい。」と　いつも　言われます。」(24 課 ; 214)

そして、3 は、もとになる動きの対象の持ち主を主語として表わす受身文である。ここでは、例文の種類が工夫されており、「体の部分(顔、手など)」を指す例と「持ち物(財布、カメラなど)」を表わす例のいずれも出されている。

例) ①「アリさんは　犬に　手を　かまれました。」(24 課 ; 214)
②「わたしは　弟に　カメラを　こわされました。」(24 課 ; 214)

4 では、もとになる動詞によって迷惑を受ける第三者を主語として表わす受身文が教えられている。このような受身文は、悪い状況やマイナスな結果が出る時に用いられる。本教科書でこのような受身文の提出に工夫がされており、例文を示した後に、括弧の中にその悪い状況を表わす例が示されている。例えば、次の例文では、受身文の後に、「(かぜをひきました)」、「(とても　困りました)」と示されている。

例) ①「わたしたちは　雨に　降られました。(かぜを　ひきました。)」(24 課 ; 215)
②「わたしたちは　母に　入院されました。(とても　困りました。)」(24 課 ; 215)

以上の 1～4 では、基本的に人が主語になる受身文が教えられている。これらは、それぞれ鈴木(1972)のいう「直接対象のうけみ」「あい手のうけみ」「もちぬしのうけみ」「第三者のうけみ」に該当するものである。次の 5 と 6 はこれらと異なる種類の受身文である。これらの受身文は、人ではないものが主語になる受身文である。主に新聞やテレビのニュースなどややあらたまった場面でよく使われる文型である。

まず、5 は、動作主が複数、或いは不特定の場合の受身文である。このような受身文は、事柄に視点を置きたい時、視点を置くものを主語にして用いられる。本教科書では、このような受身文は、「シテイル」の形で出されている。

例) ①「この歌は　若い人たちに　愛されて　います。」(24 課 ; 215)
②「その　国の　古い　文化は　国民に　大切に　されて　います。」(24 課 ; 215)

次の 6 では、動作主がはっきりしない受身文が教えられている。

例) ①「地方では　毎年　いろいろな　古い　行事が　行われて　います。」(24 課 ; 215)
②「三百年ぐらい　前に　その　神社が　建てられました。」(24 課 ; 215)

3.2.2. 使役

「サセル」(全 28 例)

使役は、27 課で導入され、25 例出されている。その他、28 課で 1 例、読み物 9 で 2 例出されている。

導入される 27 課の「ぶんけい・ごい」では、使役の 4 つの意味が教えられている。まず、＜表 48＞でそれぞれの諸タイプと参考例文を示す。

表 48　本教科書で導入されている「使役」の諸タイプ

	「ぶんけい・ごい」の例文を中心に
1	①「母は　弟を　病院へ　行かせました。」(27 課；240) ②「社長は　社員に　電話を　かけさせました。」(27 課；240) ③「父は　妹に　新聞を　持って　来させました。」(27 課；240)
2	①「先生は　生徒たちに　好きな　所へ　行かせました。」(27 課；240)
3	①「わたしは、大きい　声を　出して、友だちを　びっくりさせました。」(27 課；240)
4	①「あしたは　休ませて　くださいませんか。」(27 課；240) ②「田中さんは　わたしに　電話を　使わせて　くれました。」(27 課；240)

この表から分かるように、本教科書では、使役のいくつかの用法が教えられている。

まず、1 は、もっとも典型的な、動作主に何かの行動や役目をさせるという意味で使われる使役文である。

例) ①「母は　弟を　病院へ　行かせました。」(27 課；240)
②「社長は　社員に　電話を　かけさせました。」(27 課；240)
③「父は　妹に　新聞を　持って　来させました。」(27 課；240)

このような使役文の導入の際に、動詞の活用の種類が意識されており、五段動詞、一段動詞、不規則動詞の例文がそれぞれ出されている。

次の 2 は、使役主体が動作主の動作を妨げない、或いはその行為を許可することを表わす例である。

例) ①「先生は　生徒たちに　好きな　所へ　行かせました。」(27 課；240)
②「父親と　母親は　子どもたちに　自由に　意見を　しゃべらせました。」(27 課；240)

このような使役文の場合に、「好きな所へ」、「自由に」などの単語と共起することがあり、本教科書でもそのような例文が提出されている。

また、1 と 2 の例では、「母→弟」、「社長→社員」、「先生→生徒」などのように上下関係を意識させるような例文が提出されている。

3は、主語が原因を表わして、その結果として、人の何らかの感情をひきおこすことを表わす使役文である。

例) ①「田中さんは、じょうだんを　言って、みんなを　わらわせました。」(27課；240)

②「わたしは、大きい　声を　出して、友だちを　びっくりさせました。」(27課；240)

そして、4は、「サセテクレル、サセテクダサル」という使役を使ったやりもらい動詞の例である。

例) ①「田中さんは　わたしに　電話を　使わせて　くれました。」(27課；240)

②「すみませんが、ちょっと　休ませて　くださいませんか。」(Y9；278)

③「今日は　見学させて　くださって、ありがとう　ございました。」(27課；238)

以上、受身と使役の提出されている例文とその提出手順などをみてきた。本教科書では、受身や使役の様々な用法を教えることを心がけていることがうかがえる。そして、受身文にしても、使役文にしても、全体的にそれぞれの形態論的なカテゴリーについて典型的な例が提出されていると思われる。

3.2.3. 可能

可能表現として「デキル」と「スルコトガデキル」の形式が提出されている。以下、それぞれについてみる。

「デキル」(全82例)／「スルコトガデキル」(全14例)

可能の「デキル」、「スルコトガデキル」の形式は、16課を中心に導入され、「デキル」は28例、「スルコトガデキル」は、7例出されている。「ぶんけい・ごい」では、可能表現の4つの用法が導入されている。まず、<表49>でそれぞれの諸タイプと参考例文を示す。

表 49　本教科書で導入されている「可能」の諸タイプ

	「ぶんけい・ごい」の例文を中心に
1	①「りゅう学生は　この　りょうに　入る　ことが　できます。」(16課；135) ②「りゅう学生は　この　りょうに　入れます。」(16課；135)
2	①「わたしは　車を　運転する　ことが　できます。」(16課；135) ②「わたしは　車の　運転が　できます。」(16課；135) ③「わたしは　車が　運転できます。」(16課；135)
3	①「その　人は　日本語が　話せますか。」(16課；132)
4	①「おとうとは　きょねんは　かずが　かぞえられませんでしたが、今年は　かぞえられるように　なりました。」(16課；136)

まず、1 では、「デキル」と「スルコトガデキル」の形式がペアで教えられている。

例) ①「りゅう学生は　この　りょうに　入る　ことが　できます。」(16 課；135)

②「りゅう学生は　この　りょうに　入れます。」(16 課；135)

そして、ここでは、動詞の活用の種類が意識されており、五段動詞、一段動詞、不規則動詞の例文がいずれも出されている。これは、可能表現を習得する上で、形式が重要だと考えられるからであろう。

例) ①「しけんの　時　こたえが　思い出せませんでした。」(16 課；135)

②「アリさんは　さしみが　食べられますか。」(16 課；135)

③「わたしは　けさ　五時に　おきられませんでした。」(16 課；135)

④「もう　いちど　日本へ　来られますか。」(16 課；135)

次の 2〜4 では、学習者が習得しにくいと思われる可能表現の格構造の違いを意識させるような例文が出されている。

例) ①「わたしは　車の　運転が　できます。」(16 課；135)

②「わたしは　車が　運転できます。」(16 課；135)

③「ジョンさんは　中国語が　できます。」(16 課；135)

④「おとうとは　きょねんは　かずが　かぞえられませんでしたが、今年は　かぞえられるように　なりました。」(16 課；136)

これらの他に、「スルコトモデキル」という形式で教えられる例もみられる。

例) 「車で　行く　ことも　できますよ。」(16 課；132)

また、可能の「デキル」の形は他の形態論的なカテゴリーが紹介される際にも使われている。

○条件＋デキル

例)「(もし、)金持ちだったら、高い　物が　買えます。」(16 課；136)

○やりもらい＋デキル

例)「ちょっと　直して　いただけませんか。」(22 課；193)

○デキル＋スルヨウニ

例)「帰って、すぐ　ねられるように、へやに　ふとんを　しいて　おきました。」(22 課；198)

○デキル＋シテ

例)「あなたに　会えて、うれしいです。」(24 課；217)

以上、可能の意味を表わす形式の例文とその提出手順などをみてきた。本教科書では、可能表現は導入された課だけではなく、他の課でも数多く出されている。このように可能表現の形を繰り返し練習することによって、学習者の習得が早まると思われる。

3.3. アスペクト

ここでは、本教科書でとりあげられているアスペクト的な意味を表わす形態論的なカテゴリーの「シテイル／シテイラッシャル、シテオル、シテアル、シテシマウ、シテイク／シテマイル、シテクル／シテイラッシャル、シテカエル」について考察する。<表 50>はアスペクト的な意味を表わす表現につく動詞を網羅的に示したものである。

表 50　「アスペクト」の意味を表わす表現につく動詞

アスペクトを表わす表現	初出の課	アスペクトの意味を表わす表現につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シテイル	8	する(28)、おもう(16)、言う(12)、見る(8)、知る(7)、使う(7)、もつ(7)、聞く(6)、勉強する(5)、待つ(5)、読む(5)、住む(4)、並ぶ(4)、寝る(4)、残る(4)、やる(4)、歩く(3)、行く(3)、おちる(3)、かんがえる(3)、消える(3)、着る(3)、けっこんする(3)、来る(3)、食べる(3)、立つ(3)、作る(3)、とぶ(3)、似る(3)、入る(3)、太る(3)、遊ぶ(2)、教える(2)、泳ぐ(2)、かぶる(2)、きめる(2)、さがす(2)、さわぐ(2)、続く(2)、つとめる(2)、出る(2)、なる(2)、働く(2)、はしる(2)、降る(2)、愛する、開く、受ける、売る、送る、行う、おっしゃる、おどる、下りる、買う、かえる、かく、かける、くもる、ことわる、こまる、さく、さんぽする、しかる、自習する、しらべる、進む、すわる、そんけいする、たおれる、てつだう、できる、通る、止まる、流れる、泣く、鳴く、なくなる、なまける、鳴る、ぬぐ、登る、上る、生える、晴れる、光る、ふく、まちがえる、回る、むかえる、やせる、喜ぶ、わかる、別れる	94	248
(B)シテイラッシャル	28	泊まる、話す、ほめる	3	3

(C)シテオル	28	思う(3)、言う、思い出す、住む、続く	4	7
(D)シテアル	22	書く(6)、はる(4)、開ける、かざる、しく、消す、用意する	7	15
(E)シテシマウ	24	読む(3)、書く(2)、こわれる(2)、する(2)、なる(2)、まよう(2)、忘れる(2)、あう、あがる、かたづける、困る、すてる、止まる、亡くなる、飲む、ひく、びっくりする、みる	18	26
	Y9	いく※	1	2
(F)シテイク	5	持つ(9)、出る(5)、おく(2)、連れる(2)、入る(2)、走る(2)、あるく、開発する、変わる、消える、進歩する、続ける、とぶ、乗る、休む	15	31
(G)シテマイル	28	持つ(2)、なる	2	3
(H)シテクル	11	帰る(7)、出る(7)、持つ(6)、行く(3)、する(3)、おちる(2)、戦う(2)、なる(2)、はしる(2)、降る(2)、あつめる、起きる、送る、買う、考える、向上する、生活する、進む、ならう、話す、増える、やせる	22	48
(I)シテイラッシャル	28	持つ	1	1
(J)シテカエル	11	買う、持つ	2	2
計			169 語	386 例

(A)「シテイル」(全 248 例)

＜表 50＞から分かるように「シテイル」は、アスペクトの中でもっとも多く、全部で 248 例提出されている。次の＜表 51＞では「シテイル」がどういう動詞と導入されているかを課ごとに示しておく。

表 51　「シテイル」につく動詞の課ごとの詳細

課[36]	「シテイル」につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
8	似る	1	1
11-12	する(3)、泳ぐ(2)、とぶ(2)、あるく、かく、しらべる、すむ、はしる、ふく、ふる、まつ、やる	12	16

[36] 四角で囲まれているもの(例；11)は、「シテイル」が導入されている課であることを表わす。

13	知る(5)、かぶる(2)、着る(2)、来る(2)、さがす(2)、つとめる(2)、もつ(2)、行く、売る、かえる、かける、すむ、立つ	13	23
14-16	言う(5)、もつ(4)、おもう(3)、きめる(2)、する(2)、食べる(2)、入る(3)、受ける、送る、来る、たつ、てつだう、なくなる、登る、使う	15	29
17	おちる(3)、出る(2)、下りる、くもる、さく、さんぽする、する、通る、止まる、流れる、上る、生える、はしる、晴れる、回る	15	18
18-22	思う(10)、けっこんする(3)、する(3)、べんきょうする(3)、歩く(2)、聞く(2)、太る(2)、見る(2)、開く、行く、おどる、かんがえる、消える、着る、こまる、知る、住む、作る、並ぶ、ねる、待つ、やせる、やる、別れる	24	43
23	する(8)、並ぶ(3)、聞く(2)、さわぐ(2)、見る(2)、買う、すわる、鳴る、光る、待つ、やる	11	23
24-28	する(8)、読む(5)、見る(4)、言う(3)、思う(3)、ねる(3)、遊ぶ(2)、教える(2)、消える(2)、聞く(2)、残る(2)、勉強する(2)、待つ(2)、愛する、行く、おっしゃる、行う、ことわる、しかる、知る、自習する、そんけいする、食べる、作る、泣く、なまける、ぬぐ、太る、降る、まちがえる、やる、喜ぶ	32	59
Y2-10	使う(6)、言う(4)、する(3)、かんがえる(2)、続く(2)、なる(2)、にる(2)、のこる(2)、働く(2)、住む、たおれる、立つ、作る、できる、とぶ、鳴く、むかえる、もつ、わかる、進む	20	36
		143 語	**248 例**

本教科書では、「シテイル」は、主に 4 つの課で導入されている。次の＜表 52＞でそれぞれの諸タイプと参考例文を示す。

表 52　本教科書で導入されている「シテイル」の諸タイプ

	「ぶんけい・ごい」の例文を中心に
1	「今、雨が　ふって　います。」(11 課；193)
2	「兄は　タイに　行って　います。」(13 課；111)
3	「けさは　空が　晴れて　います。」(17 課；147)
4	「もみじの　葉は　赤い　色を　して　います。」(23 課；204)

まず、11 課では、「シテイル」の「動作の継続」を表わす意味が教えられている。

例) ①「いま、雨が　ふって　います。」(11 課；93)

②「じどうしゃが　たくさん　はしって　います。」(11 課；93)

③「小鳥が　とんで　います。」(11 課；93)

④「子どもたちが　やきゅうを　やって　います。」(11 課；93)

ここでは、自然現象や物の動き、動物や人の動作を表わす例文が出されており、例文の提出に工夫がされている。また、＜表 51＞から分かる通り、人や動物の動作を表わす動詞「あるく」、「泳ぐ」、「かく」、「しらべる」、「すむ」、「する」、「まつ」、「やる」、「とぶ」、「はしる」や自然現象の動きを表わす動詞「ふく」、「ふる」などが提出されている。また、これらの動詞と少し異なる性質をもつ「すむ」という動詞の例も紹介されている。

例)「ジョンさんは　いま　きょうとに　すんで　います。」(11 課；93)

次に、13 課で「シテイル」の「変化の結果の継続」を表わす意味が教えられている。

例) ①「兄は　タイに　行って　います。今、タイに　います。」(13 課；111)

②「マナさんは　日本に　来て　います。今、日本に　います。」(13 課；111)

ここでは 11 課で学んだ「動作の継続」を表わす「シテイル」と異なって、「変化の結果の継続」を表わす「シテイル」を理解させるための例文が出されている。例えば、「行く」を用いた「兄は　タイに　行って　います。」は、タイへ行く途中なのではなく、「今、タイに　いる」ということを表わす。「変化の結果の継続」であることを理解させるために、「シテイル」の例に続いて、「今、どこにいる」かが示されている。

また、移動動詞の例文のみではなく、知的活動動詞「知る」の例文も提出されている。

例)「あなたは　ジョンさんの　じゅうしょを　知って　いますか。

いいえ、知りません。」(13 課；111)

ここでは、「知っていますか」に対して、「知っています」ではなく、「知りません」という答が望ましいことを練習させる為にセットで出されていると思われる。

その他に、再帰動詞の例文も提出されている。

例) ①「よしださんは　どんな　ふくを　着て　いましたか。」(13 課；110)

②「よしださんは　めがねを　かけて　いますか。」(13 課；110)

再帰動詞の使い方にも配慮しており、「服を着ています」、「ぼうしをかぶっています」、「スカートをはいています」などのように、「シテイル」の練習とともに、動詞の使い方の練習にもなっている。このように 13 課では、主に人の動作を表わす動詞を中心に例文が提出されている。

17 課では、「物の変化を表わす動詞」が提出されている。従って、ここでは、「シテイル」が「動作の継続」ではなく、「変化の結果の継続」を表わす意味が導入されている。

例) ①「けさは　空が　晴れて　います。」(17 課；147)

②「道に　さいふが　おちて　います。」(17 課；147)

③「庭に　青い　花が　さいて　います。」(17 課；147)

この課では主に「おちる」、「くもる」、「さく」、「出る」、「止まる」、「生える」、「晴れる」などのような物事の変化を表わす動詞が提出されている。

そして、23 課で〈adj 色／adj 形をしています〉、〈adj 顔をしています〉というような決まった形式であらわれる「シテイル」の例も教えられている。

例) ①「もみじの　葉は　赤い　色を　して　います。」(23 課；204)
②「この　お皿は　丸い　形を　して　います。」(23 課；204)
③「あの　人は、はずかしそうな　顔を　して　います。」(23 課；204)

以上のように、11 課、13 課、17 課、23 課では、「シテイル」の様々な文法的な意味や用法が導入されている。これらの他に、「シテイル」の次のような用法も 8 課で 1 例出されており、比較的早い段階で紹介されている。しかし、このような「シテイル」の用法は、会話文の中に出されており、諸タイプとしては導入されていない。

例)「お母さんは　やまださんと　よく　にて　いますね。」(8 課；64)

本教科書では、それぞれの課で「シテイル」を紹介する際に、動詞の性質にも気を配られており、バランスが考えられている。また、「シテイル」は、11 課～28 課までのすべての課で出ている。このように「シテイル」の例文がたくさん出されることによって、「シテイル」の用法の区別がつき、学習者の習得が早まると思われる。

○シテル

なお、後半の 28 課では、縮約的な形が教えられる時に、「シテイル」の縮約的な形「シテル」が教えられている。

例) ①「父は　新聞を　読んでるし、母は　料理を　作ってます。」(28 課；253)
②「ここで　待ってて　ください。」(28 課；253)

(B)「シテイラッシャル」(全 3 例)

「シテイル」の尊敬の形である「シテイラッシャル」は、28 課で導入されており、全部で 3 例出されている。

例)「先生方は　あの　部屋で　話して　いらっしゃいます。」(28 課；249)

○シテラッシャル

28 課で縮約的な形が教えられる時に、「シテイラッシャル」の縮約的な形「シテラッシャル」が 2 例教えられている。

例) ①「みんな　ほめてらっしゃいました。」(28 課；246)
②「先生は　ここの　ホテルに　泊まってらっしゃいます。」(28 課；253)

これらのいずれの例においても「先生」と「学習者」の会話であることが分かる。学習者に「先生」のみではなく、目上の人、全般に使えることを加えて、練習することもできる。

(C)「シテオル」(全 7 例)

「シテイル」の謙譲の形である「シテオル」は、28 課で導入され、1 例出されている。

例)「両親は　東京に　住んで　おります。」(28 課 ; 250)

この他、読み物 10 で 6 例出されている。いずれも「シテオリマス」という丁寧形である。

例) ①「お渡ししようと　思って　おります。」(Y10 ; 282)

②「楽しかった　ことを　いろいろ　思い出して　おります。」(Y10 ; 282)

③「毎日　暑い　日が　続いて　おりますが、皆様、お元気で　いらっしゃいますか。」(Y10 ; 282)

(D)「シテアル」(全 15 例)

「シテアル」は初めて 22 課で導入され、10 例出されている。そして、「シテアル」の 2 つの意味が導入されている。

まず、準備のためにある行為を行って、その準備が完了したことを表わす意味が教えられている。

例) ①「パーティーの　ために、おいしい　料理が　用意して　あります。」(22 課 ; 197)

②「友だちの　ために、きれいな　花が　かざって　あります。」(22 課 ; 197)

次に、「シテアル」が「変化の結果の継続」の意味を表わす例が出されている。

例) ①「かべには　かんじの　表が　はって　あります。」(22 課 ; 198)

②「へやには　新しい　たたみが　しいて　あります。」(22 課 ; 198)

また、「シテアル」の用法は、次のように自動詞とセットで提出されている。

○あく―あける

例) ①「風が　ふいて、戸が　開きました。今、戸が　開いて　います。」(22 課 ; 198)

②「暑いから、マナさんは　戸を　開けました。今、戸が　開けて　あります。」(22 課 ; 198)

○消える―消す

例) ①「風が　ふいて、火が　消えました。今、火が　消えて　います。」(22 課 ; 198)

②「危ないから、わたしは　火を　消しました。今、火が　消して　あります。」(22 課；198)

後半の 27 課で「～とおりに」が導入される際に、「シテアル」の形で 3 例出されている。

例)「地図に　書いて　ある　とおりに、歩きましょう。」(27 課；241)

(E)「シテシマウ」(全 28 例)

「シテシマウ」は、24 課で導入され、15 例出されている。本教科書では、「シテシマウ」の 3 つの意味が教えられている。

表 53　本教科書で導入されている「シテシマウ」の諸タイプ

	「ぶんけい・ごい」の例文を中心に
1	「論文を　全部　書いて　しまいました。」(24 課；215)
2	「タクシーの　後ろの　席に　忘れ物を　して　しまいました。(困りました。)」(24 課；215)
3	「交通事故で　けがを　して　しまいました。」(24 課；216)

まず、「シテシマウ」は「物事の完了」の意味を表わす例が導入されている。

例)①「一日で　全部　読んで　しまいました。」(24 課；210)

②「論文を　全部　書いて　しまいました。」(24 課；215)

このような「シテシマウ」の場合は、「読む」、「書く」のような継続動詞がくることが典型的である。そして、「全部、完全に、すべて」などのような副詞を伴うことが多いのが特徴的である。教科書の例をみると、「全部」と共にあらわれる例が出されている。また、本教科書の 28 課では、完了の意味を表わす「シテシマウ」の尊敬表現も出されている。

例)「先生は　もう　論文を　書いて　しまわれました。」(28 課；249)

次に、「シテシマウ」が「悪い状況や残念な気持ち」を表わす場合の例が導入されている。本教科書でこのような「シテシマウ」の例文提出に工夫がされており、例文を示した後に、括弧中にその悪い状況や気持ちを表わす表現も示されている。例えば、次の例文①、②では、「シテシマウ」の後に、括弧内に「(困りました)」、「(疲れました)」という表現が示されている。

例)①「タクシーの　後ろの　席に　忘れ物を　して　しまいました。(困りました。)」(24 課；215)

②「道に　まよって　しまいました。(疲れました。)」(24 課；215)

次の例文では、残念な気持ちを表わす「(ざんねんです)」、「(悲しいです)」などの表現も示されている。

例) ①「テレビが　こわれて　しまいました。(ざんねんです。)」(24 課；216)
②「となりの　家の　おじいさんが　亡くなって　しまいました。(悲しいです。)」(24 課；216)

そして、文脈から考えても悪い状況であることが分かるような例文が出されている。

例) ①「交通事故で　けがを　して　しまいました。」(24 課；216)
②「じしんで　ガスも　水道も　止まって　しまいました。」(24 課；216)
③「大きな　神社へ　行ったのですが、ひどい　目に　あって　しまいました。」(24 課；210)

○シチャウ、ジャウ

後半の 28 課では、縮約的な形が教えられる時に、「シテシマウ」の縮約的な形「シチャウ、ジャウ」がそれぞれ 1 例ずつあげられている。

例) ①「その　子は　「お母さんが　いなく　なっちゃった。」と　言って、」(28 課；252)
②「ジュースは　全部　飲んじゃいました。」(28 課；252)

(F)「シテイク」(全 31 例)

本教科書では、「シテイク」は主に 3 つの意味が導入されている。まず、＜表 54 ＞でそれぞれの諸タイプと参考例文を示す。

表 54　本教科書で導入されている「シテイク」の諸タイプ

	「ぶんけい・ごい」の例文を中心に
1	①「アリさんは　うちから　えきまで　あるいて　いきます。」(5 課；37) ②「わたしは　りょこうの　時、いつも　地図を　もって　行きます。」(11 課；95)
2	①「犬が　あちらへ　はしって　行きます。」(17 課；147) ②「人が　わたしの　いる　へやから　外へ　出て　行きました。」(17 課；148)
3	①「科学は　これからも　どんどん　進歩して　いくでしょう。」(25 課；226) ②「わたしは　将来も　ずっと　この　研究を　続けて　いく　つもりです。」(25 課；226)

まず、「移動」を表わす意味で用いられる「シテイク」の例文が、5 課で 1 例導入されている。

例) 「アリさんは　うちから　えきまで　あるいて　いきます。」(5 課；37)

この他にも 11 課、14 課、15 課でも例文が提示されている。その中で「持っていく」が

一番多く 9 例出されている。

例) ①「わたしは　りょこうの　時、いつも　地図を　もって　行きます。」(11 課；95)

②「ハイキングの　時は、何か　食べ物を　もって　行きなさい。」(14 課；121)

次に、17 課で「シテイク」が「単なる移動」ではなく、「移動の方向」を表わす用法が導入されている。

例) ①「犬が　あちらへ　はしって　行きます。」(17 課；147)

②「人が　わたしの　いる　へやから　外へ　出て　行きました。」(17 課；148)

③「山の　向こうへ　とんで　行きました。」(Y9；277)

その後、後半の 25 課では、「シテイク」の「徐々に変化すること」を表わすアスペクト的な意味が導入されている。

例) ①「これからは、雪国の　生活も　だんだん　変わって　いくでしょう。」(25 課；222)

②「科学は　これからも　どんどん　進歩して　いくでしょう。」(25 課；226)

③「わたしは　将来も　ずっと　この　研究を　続けて　いく　つもりです。」(25 課；226)

④「これからは　人間の　将来の　ために、この　海を　開発して　いかなければ　ならない。」(Y8；275)

このようなアスペクト的な意味を表わす場合に、「変わる、進歩する、続く、開発する」などのような動詞がくる。また、「だんだん、どんどん、ずっと」などのような副詞と共に使用される場合が多い。本教科書の例をみると、これらの副詞と共にあらわれる例が出されている。

これらの他、読み物の 9 では、「シテイク」の次の例のような「存在していたものがなくなる」という意味も 1 例紹介されている。

例) 「つるは、悲しそうに　高い　声で　鳴きながら、夕やけの　赤い　雲の　中に　消えて　行って　しまいました。」(Y9；280)

なお、「シテイク」の表記についていえば、諸タイプの 1、2 の場合、漢字とひらがなで表記されているのに対して、3 の場合は、ひらがなのみで表記されている。

(G)「シテマイル」(全 3 例)

「シテイク、シテクル」の謙譲の形である「シテマイル」は、28 課で導入され、1 例出されている。その他、読み物 10 で 2 例あがっている。

まず、「移動」の意味を表わすものが 2 例出されている。いずれも、「持ってまいる」の形である。

例) ①「地図を　持って　まいりました。」(28 課 ; 250)
②「国の　絵はがきを　持って　まいりましたが、」(Y10 ; 282)

次に、「シテマイル」はアスペクト的な意味「徐々に変化すること」表わす例が読み物の方で 1 例提出されている。ここでは、「シテクル」の謙譲語として出されている。

例) 「朝夕　だいぶ　すずしく　なって　まいりましたが、お元気の　ことと
ぞんじます。」(Y10 ; 283)

(H)「シテクル」(全 48 例)

本教科書では、「シテクル」の 3 つの課で導入されている。まず、<表 55>でそれぞれの諸タイプと参考例文を示す。

表 55　本教科書で導入されている「シテクル」の諸タイプ

	「ぶんけい・ごい」の例文を中心に
1	①「わたしは　日本へ　かぞくの　しゃしんを　もって　来ました。」(11 課 ; 95)
2	①「犬が　こちらへ　はしって　来ます。」(17 課 ; 147) ②「父は　外国で　おみやげを　買って　来ました。」(17 課 ; 148)
3	①「カメラの　技術は　ずいぶん　進んで　きました。」(25 課 ; 226) ②「人々は　昔から　自然と　戦って　きました。」(25 課 ; 226) ③「雨が　降って　きました。」(25 課 ; 226)

まず、「シテクル」は、11 課で導入され、4 例出されている。これらの例文は「持ってくる」という形で教えられている。

例) ①「かまくらの　地図を　もって　来ましたか。」(11 課 ; 90)
②「わたしは　日本へ　かぞくの　しゃしんを　もって　来ました。」(11 課 ; 95)

次に、17 課で「シテクル」の 2 つの種類の例文が出されている。

(1) 移動の方向を示す「へ・二・カラ」格があらわれる場合。

例) ①「川を　わたってから、西の　方へ　はしって　来ましたね。」(17 課 ; 143)
②「人が　へやの　中から　こちらへ　出て　来ました。」(17 課 ; 148)

③「地方から　出て　来た　若者は、なぜ、国へ　帰りたがらないのですか。」(25 課；223)

④「もし、上から　何か　おちて　来たら、危ないから、つくえや　ベットなどの　下に　入る。」(Y6；271)

(2) 場所を示す「デ」格があらわれる場合。

例) ①「父は　外国で　おみやげを　買って　来ました。」(17 課；148)

②「アリさんは　国で　日本語を　ならって　来ました。」(17 課；148)

そして、後半の 25 課では、「シテクル」の 3 つの意味が紹介されている。

一つ目は、「徐々に変化すること」を表わすアスペクト的な意味である。

例) ①「わたしたちの　生活は　だんだん　向上して　きました。」(25 課；226)

②「カメラの　技術は　ずいぶん　進んで　きました。」(25 課；226)

③「ニュースに　よると、未成年者の　交通事故が　増えて　きた　そうです。」(26 課；232)

④「娘は、だんだん　顔色が　わるく　なり、やせて　きましたが、」(Y9；279)

これらの例からわかる通り、「シテクル」は、「徐々に変化すること」を表わして、補助動詞として使われている。このようなアスペクト的な意味を表わす場合に、「向上する、進む、増える、やせる」などのように変化を表わす動詞がくる。また、このような場合に「だんだん、ずいぶん」などのような副詞と共に使用されるが多い。本教科書の例をみると、これらの副詞と共にあらわれる例が出されている。

二つ目は、動作がある時から長期間続いてきたことを表わす例が教えられている。

例) ①「人々は　昔から　自然と　戦って　きました。」(25 課；226)

②「人間は　陸の　上だけで　生活して　きた。」(Y8；275)

三つ目は、「動作の開始」を表わすアスペクト的な意味である。このような場合に、主に自然現象の動きの開始を表わす例文が出されている。

例) ①「タンさん、雪が　降って　きましたよ。」(25 課；221)

②「いい　においが　して　きました。」(25 課；221)

③「寒気が　して　きました。」(25 課；226)

また、「シテクル」の表記についていえば、諸タイプの 1、2 の場合、すべての例文で「クル」は、漢字で表記されているのに対して、3 の「アスペクト的な意味」を表わす場合は、ひらがなのみで表記されているのが特徴的である。

(I)「シテイラッシャル」(全 1 例)

「シテクル」の尊敬の形である「シテイラッシャル」は、28 課で導入され、1 例出されている。

例)「先生は　ここへ　新聞を　持って　いらっしゃいました。」(28 課；249)

この形は、「シテイル」の尊敬の形と同じではあるが、この文では場所格(「ここへ」)がついているので、「シテクル」の尊敬の形であることが分かるようになっている。

(J)「シテカエル」(全 2 例)

「シテカエル」は、11 課で導入され、1 例出されている。その他、17 課で 1 例ずつ出されている。

例) ①「わたしは　来年　国へ　日本の　にんぎょうを　もって　かえります。」(11 課；95)

②「わたしは　日本で　おみやげを　買って　かえります。」(17 課；148)

「シテカエル」の場合、移動を表わす意味は教えられているが、アスペクト的な意味を表わす例はみられなかった。

3.4. もくろみ

もくろみには、基本的に次の「シテミル、シテオク、シナイデオク」が入る。<表 56>はもくろみの意味を表わす表現につく動詞を網羅的に示したものである。

表 56　「もくろみ」の意味を表わす表現につく動詞

もくろみを表わす表現		初出の課	もくろみの意味を表わす表現につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シテミル		14	行く(8)、聞く(2)、たのむ(2)、開ける、起す、かんがえる、かける、比べる、住む、相談する、食べる、出る、はく、まぜる	14	23
(B)	シテオク	22	かざる(2)、する(2)、いれる、買う、しく、しまう、はる、わかす	8	10
	シナイデオク	22	言う、食べる	2	2
計				24 語	35 例

(A)「シテミル」(全 23 例)

もくろみを表わす表現の中で本教科書で一番最初に導入されているのは、「シテミル」である。「シテミル」は、14 課で導入され、6 例出されている。

例) ①「ちかくに　いい　店が　ありますが、行って　みますか。」(14 課 ; 115)
②「あの　子の　お母さんに　たのんで　みて　ください。」(14 課 ; 116)

この他に 16 課から 28 課まで少しずつ提出されている。

例) ①「では、ほかの　りょうりを　かんがえて　みましょう。」(16 課 ; 134)
②「わたしは、京都の　ような　古い　町に　住んで　みたいです。」(20 課 ; 178)
③「わたしたちも　外へ　出て　みませんか。」(25 課 ; 223)
④「つぎに、氷の　中に、食塩を　三分の一　ほど　まぜて　みなさい。」(27 課 ; 237)

これらの例をみて分かる通り、14 課以降にもいくつかの課で提出されている。そして、「シテミル」の形に注目してみると、「シテミル」という単純な形のみではなくて、「シテミマショウ、シテミタイ、シテミマセンカ、シテミテクダサイ、シテミナサイ」のような様々な形で教えられており、工夫がうかがえる。これらの形の中でも「シテミマショウ」が 11 例出されており、他の形と比べると、圧倒的に多い。

(B)「シテオク」(全 10 例) ／「シナイデオク」(全 2 例)

「シテオク」は、22 課で導入され、8 例出されている。その他、23 課で 1 例、28 課で 1 例教えられている。そして、「シテオク」は、「シテアル」を意識して導入されている。

例) ①「友だちが　来るから、へやに　花を　かざって　おきました。」(22 課 ; 197)
②「友だちの　ために、きれいな　花が　かざって　あります。」(22 課 ; 197)

「シテオク」は、主に「～ように、～ために、～から」などと共起して提出されている。

例) ①「まちがえないように、スピーチの　練習を　して　おきたいのです。」(22 課 ; 193)
②「旅行の　ために、新しい　かばんを　買って　おきました。」(22 課 ; 197)
③「お茶が　のみたいから、おゆを　わかして　おいて　ください。」(22 課 ; 197)

また、後半の 28 課で出されている 1 例は、「飾っておく」の尊敬の形である。

例) 「あの　方は　花を　かざって　おかれました。」(28 課 ; 249)

「シテオク」の否定の形「シナイデオク」は、22 課で導入されており、次の 2 例出されている。どちらも、理由を表わす表現「～から」と共に出されている。

例) ①「いもうとたちが　心配するから、父の　病気の　ことは　言わないで　おきます。」(22 課；197)

②「今晩　パーティーが　あるから、昼ご飯は　あまり　食べないで　おきましょう。」(22 課；197)

3.5. やりもらい

やりもらいとして「シテアゲル、シテクレル、シテモラウ、シテヤル、シテクダサル、シテイタダク」が提出されている[37]。いずれも 22 課で導入されている。<表 57>はやりもらいの意味を表わす表現につく動詞を示したものである。

表 57　「やりもらい」の意味を表わす表現につく動詞

やりもらいを表わす表現	初出の課	やりもらいにつく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シテアゲル	22	案内する、さそう、作る、とめる	4	4
(B)シテクレル	22	送る(3)、手伝う(2)、買う、かえす、育てる、助ける、使う、見せる	8	11
(C)シテモラウ	22	する(2)、助ける(2)、みる(2)、買う、かす、来る、育てる、食べる、見せる、直す、理解する、練習する	12	15
(D)シテヤル	22	送る、教える、たすける、ほめる	4	4
(E)シテクダサル	22	案内する、かす、見学する、する、休む	5	5
(F)シテイタダク	22	かす(2)、たすける(2)、案内する、送る、する、まねく、みせる	7	9
計			40 語	48 例

(A)「シテアゲル」(全 4 例)

「シテアゲル」は、22 課で導入され、3 例出されている。その他、読み物 9 で 1 例出されている。

例) ①「「とうろんかいの　後で、大学の　中を　案内して　あげましょう。」と　書いて　ありました。」(22 課；193)

②「マナさんは　友だちを　音楽会に　さそって　あげました。」(22 課；196)

---

[37] なお、本動詞としての「あげる」「くれる」「もらう」などは 8 課で導入されている。
例) ①「小林さんは　だれに　はなを　あげましたか。」(8 課；66)
②「マリアさんは　小林さんから　はなを　もらいました。」(8 課；66)
③「お母さんも　てがみを　くれますか。」(8 課；63)

③「わたしは　友だちに　国の　料理を　作って　あげました。」(22 課 ; 196)
④「その　夜、親切な　若者は　その　娘を　とめて　あげました。」(Y9 ; 278)

「シテアゲル」は、自分と対等の関係にある人に対して用いられることが理解できるように、例文に「友だち」などの単語が使われている。

(B)「シテクレル」(全 11 例)

「シテクレル」は、22 課で導入され、6 例出されている。その他に、24 課、25 課、27 課、読み物 9 でとりあげられている。

例) ①「友だちは　わたしを　助けて　くれました。」(22 課 ; 196)
②「あの　人は　ひまなのに、この　仕事を　てつだって　くれません。」(22 課 ; 226)
③「町の　人々は、めずらしがって、高く　買って　くれる　はずです。」(Y9 ; 278)

また、使役の形に「シテクレル」が加わって使われる表現が 1 例あがっている。

例) 「田中さんは　わたしに　電話を　使わせて　くれました。」(27 課 ; 240)

これらの他に、「シテクレル」が「シテクレ」[38]の形で用いられ、文末にくる場合も教えられ、2 例出されている。

例) ①「わたしの　そばに　いて　くれ。」(22 課 ; 196)
②「わたしが　わるかった。許して　くれ。」(22 課 ; 196)

(C)「シテモラウ」(全 15 例)

本教科書ではやりもらいの中でもっとも多く提出されているのは「シテモラウ」である。「シテモラウ」は、22 課で導入され、8 例出されている。その他、27 課、28 課、読み物 7 でとりあげられている。

例) ①「この間、さとうさんに　てつだって　もらって、練習しました。」(22 課 ; 194)
②「マナさんは　友だちに　助けて　もらいました。」(22 課 ; 197)
③「この　次は、うちにも　来て　もらおうね。」(28 課 ; 248)
④「ええ。来た　人に　料理を　食べて　もらったり、作品を　買って　もらったり　して、サークル活動の　お金を　作るのです。」(22 課 ; 194)

このように、「シテモラウ」が様々な形で出されている。ところで、「シテモラウ」の可能を表わす形である「シテモラエル」が出されていない。後述する「シテイタダク」の場

38　これらの例文は、モダリティの「希求」の「シテクレ」でもとりあげる。

合、「シテイタダケル」の形が紹介されている。

(D)「シテヤル」(全 4 例)

「シテヤル」は、22 課で導入され、3 例出されている。その他、読み物 9 で 1 例出されている。「シテアゲル」の導入の後に、「シテヤル」が紹介されている。

例) ①「では、写真を　とって　いもうとに　送って　やります。」(22 課 ; 194)
②「わたしは　弟に　テニスを　教えて　やりました。」(22 課 ; 196)
③「わたしは　弟を　ほめて　やりました。」(22 課 ; 196)

「シテヤル」は、自分より目下の人に対して使われることが理解できるように、例文に「妹、弟」などの単語が使われている。

なお、「シテヤル」は、動物(以下の例で「つる」をさす)のために、何かの行為をする時にも用いられる用法も 1 例出されている。

例) 「若者は、‥‥‥川の　水で　洗ったり、薬を　つけたり　して、助けて
やりました。」(Y9 ; 277)

(E)「シテクダサル」(全 5 例)

「シテクダサル」は、22 課で導入され、2 例出されている。その他、読み物 7 に出ている。「シテクレル」の導入の後に、「シテクダサル」が紹介されている。

例) ①「先生は　わたしたちを　案内して　くださいました。」(22 課 ; 196)
②「先生は　わたしに　本を　かして　くださいました。」(22 課 ; 296)

この他に、後半の 27 課では、使役の形がさらに「シテクダサル」の形になったものが 2 例出されている。

例) ①「今日は　見学させて　くださって、ありがとう　ございました。」(27 課 ; 238)
②「先生は　わたしを　休ませて　くださいました。」(27 課 ; 240)

(F)「シテイタダク」(全 9 例)

「シテイタダク」は、22 課で導入され、4 例出されている。本教科書で「シテイタダク」のいくつかの用法が教えれらている。

まず、目上の人に対して使われる丁寧な形が紹介されている。

例) ①「わたしは　先生に　本を　かして　いただきました。」(22 課 ; 197)
②「わたしたちは　先生に　案内して　いただきました。」(22 課 ; 197)

次に、相手に対してお礼を言う場合に用いられる「〜していただいて、ありがとうござ

いました」というやや定型的な表現が 3 例教えられている。

例) ①「本を　かして　いただいて、ありがとう　ございました。」(24 課 ; 210)
②「御親切に　して　いただきまして、ありがとう　ございました。」(28 課 ; 251)

そして、「シテイタダキタイ」の形で用いられ、相手になにかをしてほしいという希望を述べるのに使う用法が 1 例出されている。

例) 「この　にもつを　送って　いただきたいのですが。
はい、お送りしましょう。」(22 課 ; 197)

これらの他に、「シテイタダク」の可能を表わす形である「シテイタダケル」を用いて、丁寧な依頼を表わす用法も出されている[39]。

例) ①「ちょっと　直して　いただけませんか。」(22 課 ; 193)
②「その　記念切手を　見せて　いただけませんか。
はい、お見せしましょう。」(22 課 ; 197)

このように、「やりもらい」の表現は、もっとも典型的な例が提出されていると思われる。教える順として「シテアゲル」、「シテクレル」、「シテモラウ」のうち、「シテクレル」の性質が少し異なるので、三つの表現を同時に教えるとかえって混乱させてしまう可能性も考えられるので、教師がどのような順序で教えるかも考慮する必要があるだろう。

また、「シテアゲル」「シテクレル」「シテモラウ」の理解が十分に定着してから、「シテヤル」「シテクダサル」「シテイタダク」などの表現を教えるという方法もあるだろう。

3.6. 条件・逆条件

本教科書では、条件の意味を表わすものとして「シタラ、スルト、スルナラ、スレバ」、そして、逆条件の意味を表わすものとして「シテモ、シナクテモ」の形式が教えられている。以下、それぞれについてみていく。

3.6.1. 条件

本教科書では、条件の意味を表わす「シタラ、スルト、スルナラ、スレバ」という四つの形式が教えられている。＜表 58＞は条件の意味を表わす表現につく動詞を示したものである。

[39] これらの例文は、モダリティの「希求」の「シテイタダケマセンカ」でもとりあげる。

表 58　「条件」の意味を表わす表現につく動詞

条件を表わす表現		初出の課	条件の意味を表わす表現につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シタラ		16	おきる(4)、できる(3)、はいる(3)、する(2)、ふる(2)、ある、行く、おわる、かりる、しる、つかう、でる、なる	13	22
		Y4	いく※、いただく※、くる※	3	3
(B)スルト		19	なる(9)、いく(2)、つもる(2)、きく、こおる、すう、つくる、でる、まがる、みる、わたる	11	21
(C)	スルナラ	21	行く、使う	2	2
	シナイナラ	21	帰る	1	1
(D)スレバ		21	たつ(2)、おぼえる(2)、はなす(2)、いく、おわる、する、そうだんする、つづける、よむ	9	12
計				40 語	61 例

(A)「シタラ」(全 25 例)

「シタラ」は、16 課で導入され、4 例出されている。そして、「シタラ」を導入する際に、次の例文のように、否定の形とセットで教えられている。

例) ①「もし、あした　雨が　ふったら、ハイキングに　行きません。」(16 課 ; 136)
②「(もし、)あした　雨が　ふらなかったら、ハイキングに　行きます。」(16 課 ; 136)

「シタラ」が導入される際に、動詞だけではなく、形容詞などの例文も出されている。以下の例文の他に、名詞やナ形容詞などと共に教えられている。

例) ①「(もし、)わたしの　家に　車が　あったら、便利でしょう。」(16 課 ; 136)
②「(もし、)わたしの　家に　車が　なかったら、不便でしょう。」(16 課 ; 136)

また、21 課でも、「シタラ」が教えられており、主節に命令・依頼・誘いなどがくる例も出されている。

例) ①「四時に　なったら、わたしの　所へ　来て　ください。」(21 課 ; 188)
②「じゅぎょうに　出たら、後で　よく　復習しなさい。」(21 課 ; 188)
③「料理が　できたら、すぐ　食べましょう。」(21 課 ; 188)

これらの他に、尊敬の形が教えられる際にも、「シタラ」の形が紹介されている。

例) ①「おきられたら、行って　みましょう。」(16 課 ; 134)

②「授業や　クラブ活動などを　見せて　いただけたらと　思って　おります。」(Y10；283)

(B)「スルト」(全 21 例)

「シタラ」が 16 課で教えられた後、19 課で「スルト」が導入されている。「スルト」は 19 課で 6 例導入されている。

例) ①「日が　出ると、あつく　なります。」(19 課；166)
②「この　道を　まっすぐ　行くと、信号が　あります。」(19 課；166)
③「おぼんに　なると、とても　汽車が　こみます。」(19 課；163)

「スルト」は、基本的に二つの事柄が自然なむすびつきをなしている時に用いられる。本教科書でも、〈A が起きる〉と〈自然に B が起きる〉ことをうかがわせるような例が提出されている。また、「スルト」の後には、「日があつくなる」、「信号がある」、「汽車がこむ」などのように、事物に変化が生じることを表わす表現がきている。

「スルト」の場合も「シタラ」と同様に、名詞や形容詞などの例も教えられている。

例) ①「体が　弱いと、仕事が　できません。」(19 課；166)
②「いい 天気だと、気持ちが　いいです。」(19 課；166)

(C)「スルナラ」(全 2 例)／「シナイナラ」(全 1 例)

「シタラ」が 16 課で、「スルト」が 19 課で教えられてから、同じく条件を表わす「スルナラ」と「スレバ」が 21 課で導入されている。「スルナラ」は 2 例出されている。そして、「スルナラ」の後には、評価的な表現や誘いの表現などが出されている。

例) ①「将来、大学でも　使うなら、くわしいのが　いいですね。」(21 課；185)
②「北海道へ　行くなら、ひこうきが　便利ですよ。」(21 課；188)

否定表現の「シナイナラ」も 21 課で導入され、次の 1 例があがっている。

例)「国へ　帰らないなら、わたしの　家へ　あそびに　来て　ください。」(21 課；188)

(D)「スレバ」(全 14 例)

「スレバ」は、「スルナラ」と同じ 21 課で導入され、9 例出されている。そして、その他に読み物 6、読み物 8 にも出されている。「スレバ」を導入する際に、否定の形とセットで教えられている。

例) ①「ゆっくり　話せば、わかります。」(21 課；187)
②「ゆっくり　話さなければ、わかりません。」(21 課；187)
③「千五百字ぐらい　覚えれば、十分でしょう。」(21 課；184)

「スレバ」の場合も、名詞や形容詞などの例が出されている。

例) ①「その道が　安全なら(ば)、通ります。」(21 課；185)
②「専門書が　読めなければ、困りますよ。」(21 課；185)

3.6.2. 逆条件

本教科書では、逆条件の意味を表わす「シテモ、シナクテモ」の二つの形式が教えられている。<表 59>は逆条件の意味を表わす表現につく動詞を示したものである。

表 59　「逆条件」の意味を表わす表現につく動詞

逆条件を表わす表現	初出の課	逆条件の意味を表わす表現につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
シテモ	21	ある、おきる、のむ、はいる、べんきょうする、読む	6	6
	15	いる※(3)	1	3
シナクテモ	21	べんきょうする	1	1
	15	いる※	1	1
計			9 語	11 例

「シテモ」(全 9 例) ／「シナクテモ」(全 2 例)

「シテモ」は 15 課で導入され、1 例出されている。その他、21 課、27 課、読み物 6 で教えられている。

例) ①「でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。」(15 課；126)
②「べんきょうしても、せいせきが　上がらないでしょう。」(21 課；187)
③「何分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫ですか。」(Y6；271)

否定表現の逆条件の「シナクテモ」は、15 課で導入され、1 例出されている。その他、21 課で 1 例あがっている。

例) ①「でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。」(15 課；126)
②「べんきょうしなくても、せいせきが　上がるでしょう。」(21 課；187)

3.7. 中止

本教科書では、中止の意味を表わす表現として「シテ、シナクテ、セズニ、シナイデ、シ」が教えられている。<表 60>は中止の意味を表わす表現につく動詞を示したものである。

表 60 「中止」の意味を表わす表現につく動詞

中止を表わす表現		初出の課	中止の意味を表わす表現につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)	シテ	11	言う(6)、する(6)、使う(6)、行く(4)、見つける(4)、ある(3)、思う(3)、つける(3)、でる(3)、持つ(3)、なる(3)、乗る(3)、会う(2)、開ける(2)、集まる(2)、下りる(2)、来る(2)、帰る(2)、つくる(2)、とる(2)、入る(2)、ふく(2)、用意する(2)、あげる、あつめる、あらう、あるく、急ぐ、入れる、生まれる、追いかける、おきる、おくる、おわる、かける、かんがえる、がんばる、帰国する、組む、比べる、くり返す、聞く、下がる、さそう、招待する、吸う、そる、ちがう、とまる、のりかえる、はじまる、みがく、出す、はく、外す、増える、間に合う、見る、やめる、呼ぶ、読む、寄る、喜ぶ、わかる、わる、われる	66	112
		Y5	いただく※(3)、いく※(2)、いる※(2)、くださる※(2)、くる※、しまう※、もらう※	7	12
	シナクテ	24	会う	1	1
(B)セズニ		20	勉強する(2)、かける、かたづける、けす、さす、しめる、進む、すわる、たおれる、ねる	10	11
(C)シナイデ		20	かける、かたづける、さす、使う、ねる	5	5
(D)シ		Y7	なる(2)、いう、する、とる	4	5
計				93 語	146 例

(A)「シテ」(全 124 例)／「シナクテ」(全 1 例)

本教科書で「シテ」は、主に 3 つの課で導入されている。まず、<表 61>でそれぞれの諸タイプと参考例文を示す。

表 61　本教科書で導入されている「シテ」の諸タイプ

	「ぶんけい・ごい」の例文を中心に
1	①「がっこうは、八時半に　はじまって、四時に　おわります。」(11 課；94) ②「ていりゅうじょから　だいぶつまで　あるいて　二、三分です。」(11 課；90)
2	①「ナイフと　フォークを　使って　肉を　切って　ください。」(20 課；176) ②「弟は、うでを　組んで　かんがえて　います。」(20 課；178)
3	①「あなたに　会えて、うれしいです。」(24 課；216) ②「マナさんに　会えなくて、ざんねんでした。」(24 課；217)

「シテ」は、初めの 11 課で 15 例教えられている。いずれも、次のように、「時間的な順序」を表わす文である。

例) ①「がっこうは、八時半に　はじまって、四時に　おわります。」(11 課；94)
②「父は、毎あさ　七時ごろ　おきて、かおを　あらって、はを　みがいて、ひげを　そって、シャワーを　あびます。」(11 課；94)
③「この　きしゃに　のって、きょうと駅で　おりて、タクシーで　家まで　行きます。」(11 課；94)

同じく 11 課で中止形の後に、〈数量を表わす名詞＋デス〉という述語がくる例も教えられている。このような使い方は他にも 19 課でも出されている。

例) ①「ていりゅうじょから　だいぶつまで　あるいて　二、三分です。」(11 課；90)
②「わたしを　入れて　三人です。」(19 課；162)

そして、20 課では、「シテ」の二つの意味が導入されている。
まず、「手段」を表わす意味が導入されている。

例) ①「ナイフと　フォークを　使って　肉を　切って　ください。」(20 課；177)
②「この　マッチを　使って　火を　つけましょう。」(20 課；177)
③「かみと　糸を　使って　にんぎょうを　作りました。」(20 課；178)

次に、「二つの動作が同時に行われること」を表わす意味が導入されている。

例) ①「弟は、うでを　組んで　かんがえて　います。」(20 課；178)
②「兄は、横に　なって　おんがくの　放送を　聞いて　います。」(20 課；178)

24 課では、「理由・原因」を表わす「シテ」が教えられている。ここでは、「シナクテ」という否定の形も 1 例出ている。

例) ①「あなたに　会えて、うれしいです。」(24 課；217)

②「マナさんに　会えなくて、ざんねんでした。」(24 課；217)

このような「シテ」の場合、「うれしい」、「ざんねん」などのような気持ちを表わす表現が出されている。なお、このような「シテ」は、形容詞のテ形、〈形容動詞＋デ〉の形と共に教えられている。

例) ①「眠くて、べんきょうできません。」(24 課；217)

②「心配で、ご飯が　食べられませんでした。」(24 課；217)

これらの他にも、22 課で「シテ」が原因的な意味を表わす例が出されている。これは、「シテイル」を導入する際に、出ている。

例) ①「風が　ふいて、火が　消えました。今、火が　消えて　います。」(22 課；198)

②「風が　ふいて、戸が　開きました。今、戸が　開いて　います。」(22 課；198)

(B)「セズニ」(全 11 例)

「シナイデ」のややかたい表現である。「セズニ」は、20 課で導入され、6 例出されている。その他に、24 課、25 課、読み物 6 でも出されている。

例) ①「大学院には　進まずに、帰国して、商社の　ような　所に　つとめようと　思って　います。」(20 課；174)

②「消さずに、そのまま、ねました。」(24 課；216)

③「弟は、勉強せずに、遊んでばかり　います。」(25 課；224)

④「お寺や　大仏など、むかしの　古い　物も　たおれずに、たくさん　のこって　いる。」(Y6；271)

(C)「シナイデ」(全 5 例)

「シナイデ」は、20 課で導入され、5 例出されている。そして、二つの項目に分けられて、教えられている。

まず、「手段」の意味を表わす「シナイデ」が教えられている。

例) ①「コンピュータを　使わないで　資料を　作ると、とても　大変なのです。」(20 課；173)

②「祖父は、めがねを　かけないで、テレビの　画面の　小さい　字を　見ています。」(20 課；178)

次に、ある動作を行わないでそのまま他の動作を行なうという意味の例が出されている。

例) ①「わたしは、つかれたので、へやの　中を　かたづけないで、ねました。」(20 課；178)

②「あの　人は、かさを　ささないで　歩いて　います。」(20 課；178)
③「ゆうべ、アリさんは、ねないで、べんきょうしました。」(20 課；178)

(D)「シ」(全 5 例)

「シ」は「ぶんぽう・ごい」では、文法事項としてはとりあげられていない。「シ」は、主に読み物に出ており、読み物 7 で 2 例、読み物 9 で 3 例出されている。

例) ①「おぼんに　おくる　物を　「お中元」と　いい、年の　終わりに　おくる物を　「おせいぼ」と　いう。」(Y7；273)
②「部屋の　中では、やせた　つるが　自分の　羽を　一本　一本　取り、それで　布を　作って　いたのです。」(Y9；279)

3.8. 並列・同時

本教科書では、並列・同時の意味を表わす表現として「シタリ、シナガラ、シタママ」が教えられている。＜表 62＞は並列・同時の意味を表わす表現につく動詞を示したものである。

表 62　「並列・同時」の意味を表わす表現につく動詞

並列・同時を表わす表現	初出の課	並列・同時の意味を表わす表現につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シタリ	12	する(5)、もらう(3)、洗う(2)、開く、開ける、あげる、うたう、運動する、押す、買う、かんがえる、きえる、切る、座る、閉まる、たつ、つく、作る、つける、閉じる、取る、ひく、泣く、鳴く、なる、にる、除く、飲む、はたらく、ふむ、やく、よむ、わかる、わらう	34	41
(B)シナガラ	19	歌う、思い出す、思う、聞く、する、とる、泣く、鳴く、のむ	9	9
(C)シタママ	24	たつ(2)、とまる(2)、はいる(2)、あける、かりる、つける	6	9
計			49 語	59 例

(A)「シタリ」(全 41 例)

「シタリ」は、＜表 62＞から分かる通り、一番多く 41 例提出されている。本教科書では、「シタリ」は 12 課で導入されており、その「ぶんけい・ごい」で 2 つの意味が教えられている。

まず、「シタリ」は、「～シタリ、～シタリ　スル」という形式で使用され、動作を列挙することを表わす。

例) ①「わたしは　日よう日に　さんぽを　したり、本を　よんだり　します。」(12課；101)

②「学生たちは　いま　ギターを　ひいたり、うたったり　して　います。」(12課；101)

次は、2つの動作が対になっていることを表わす。

例) ①「この　ドアは　開いたり　閉まったり　します。」(12課；102)

②「この　電気は　ついたり　きえたり　します。」(12課；102)

③「バスの　中で　たったり　すわったり　しないで　ください。」(12課；102)

これらの他に、文法事項としてはとりあげられていないが、「シタリ」の形が一つだけ使用される例も出ている。このような場合に、他の動作を暗示させる意味をもつ。

例) ①「本を　よんだり　します。」(12課；101)

②「うたったり　して　います。」(12課；101)

③「でも、しばふの　上で　運動したり　しては　いけません。」(14課；116)

④「でも、最近は、機械で　雪を　除いたり　する　方法も　考えられて　きました。」(25課；222)

なお、「～サレタリ～サレタリ　スル」の形でも1例あがっている。

例) 「帰り道では　背中を　押されたり、足を　ふまれたり　しました。」(24課；211)

本教科書では、「～シタリ　～シナカッタリ　スル」という一方が否定形の文が一例も出されていないが、例えば、「見たり、見なかったり　する」のような文を教えることも可能だろう。

(B)「シナガラ」(全9例)

「シナガラ」は、19課で導入され、5例出されている。その他、読み物5、読み物9でとりあげられている。「シナガラ」を導入する際に、主節にくる文のバランスが考えられており、「シテイル、シマショウ、シテハイケマセン」などのように様々な形が出されている。

例) ①「弟は　いつも　音楽を　聞きながら、べんきょうします。」(19課；166)

②「学生たちは　メモを　とりながら、話を　聞いて　います。」(19課；166)

③「お茶を　のみながら、話を　しましょう。」(19課；166)

④「食事を　しながら、テレビを　見ては　いけません。」(19課；166)

(C)「シタママ」(全 9 例)

「シタママ」は、24 課で導入され、8 例出されている。基本的にこの課を中心に教えられている。その他、読み物 9 で 1 例出されている。

例) ①「この　時計は　止まった　ままです。ずっと　動きません。」(24 課 ; 216)
②「この　時計は　止まった　まま、ずっと　動きません。」(24 課 ; 216)

このように、「シタママ」は、文末であらわれる例と、文中にあらわれる例が両方とも出されている。

「シタママ」を導入する際に、学習者の理解の助けになるために、括弧中に「(閉めずに)」、「(すわらずに)」などのように状況を表わす表現が示されている。

例) ①「ドアを　開けた　まま、(閉めずに)　外出しました。」(24 課 ; 216)
②「立った　まま、(すわらずに)　ご飯を　食べて　います。」(24 課 ; 216)

3.9. 目標達成

本教科書では、目標達成の意味を表わす表現として「スルタメニ、スルノニ、シニ」「スルヨウニ／シナイヨウニ、スルヨウニナル、スルヨウニ命ジル」が教えられている。<表 63>は目標達成の意味を表わす表現につく動詞を示したものである。

表 63　「目標達成」の意味を表わす表現につく動詞

目標達成を表わす表現		初出の課	目標達成の意味を表わす表現につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)スルタメニ		20	つくる(2)、かく、きる、けいえいする、けす、けんきゅうする、たべる、べんきょうする、まもる、れんしゅうする、よむ	11	12
(B)スルノニ		23	かりる、かざる、作る、とる、入る、予習する、録音する	7	7
(C)シニ		10	あそぶ(4)、する(4)、とる(3)、みる(3)、むかえる(3)、はたらく(2)、会う、うる、およぐ、かう、かりる、べんきょうする、みおくる	13	26
(D)	スルヨウニ	22	かわく、まにあう、ねる、わかる	4	4
	シナイヨウニ	22	あたる、おくれる、おる、なる、まちがえる、やぶる、わすれる	7	7
(E)	スルヨウニ命ジル	26	さしあげる、する、まもる、はこぶ、やる	5	5
		Y10	くださる※	1	1

	シナイヨウニ命ジル	26	おとす、けっせきする	2	2
(F)スルヨウニナル		16	できる(4)、いる、かぞえる、ききとる、せいかつする、とまる、のむ、はたらく、ゆるす	9	12
計				59 語	76 例

(A)「スルタメニ」(全 12 例)

「スルタメニ」は、20 課で導入され、11 例出されている。そして、基本的にこの課を中心に教えられている。その他、21 課で 1 例出されている。

例) ①「卒業論文を　書く　ために、買いました。」(20 課 ; 173)
②「サングラスは、目を　まもる　ために、使います。」(20 課 ; 177)
③「はしや　スプーンは、ご飯を　食べる　ために、使います。」(20 課 ; 177)

「スルタメニ」が目的を表わすことを学習者に理解させるために、「～スルタメニ、買う」、「～スルタメニ、使う」などのような分かりやすい例が出されている。

また、動詞と名詞の場合の使い方を区別するために、次のような例がセットで提示されている。

例) ①「英語を　べんきょうする　ために、この　じしょを　買いました。」(20 課 ; 177)
②「英語の　べんきょうの　ために、この　じしょを　買いました。」(20 課 ; 177)

(B)「スルノニ」(全 7 例)

「スルノニ」は、23 課で導入され、7 例出されている。基本的にこの課を中心に教えられている。

例) ①「花を　かざるのに　使うのです。」(23 課 ; 202)
②「この　料理を　作るのに　油を　たくさん　使います。」(23 課 ; 206)
③「魚を　とるのに　丈夫な　あみが　要ります。」(23 課 ; 206)
④「大学に　入るのに　高校の　卒業証明書が　必要です。」(23 課 ; 206)
⑤「予習するのに　一時間　かかりました。」(23 課 ; 206)

「スルノニ」は、動詞の辞書形に「ノニ」が後続し、目的を表わす。同じく目的を表わす「スルタメニ」に言い換えられそうに感じられるが、「スルノニ」の例をみると、後ろに続く動詞が「使う」、「必要だ」、「要る」などに限られている。「スルノニ」は「スルタメニ」ほど自由な使い方はしないことがうかがえるようになっている。

(C)「シニ」(全 26 例)

「シニ」は、10 課で導入され、9 例出されている。その後も他の課でしばしばとりあげられている。

例) ①「じむしつへ　なにを　しに　行きましたか。」(10 課；81)
②「アリさんは　わたしの　ところへ　お金を　かりに　来ました。」(10 課；85)
③「わたしは　来年　国へ　かぞくに　会いに　かえります。」(10 課；85)

また、21 課でも、「シニ」が教えられており、主節に命令・依頼・誘いなどがくる例も出されている。

例) ①「国へ　帰らないなら、わたしの　家へ　あそびに　来て　ください。」(21 課；188)
②「じゅぎょうが　ないなら、いっしょに　映画を　見に　行きましょう。」(21 課；188)

なお、本教科書では、「シニ」に後続する動詞は、ほとんど移動の意味を表わす動詞であり、そのうち多く出されているのは、「V-シニ　行く」である。次の＜表 64＞では、「シニ」の例文の内訳を示しておく。

表 64　「シニ」の例文の内訳

シニの形	例の数
V-シニ　行く	21
V-シニ　来る	4
V-シニ　帰る	1
計	26 例

(D)「スルヨウニ」(全 4 例)／「シナイヨウニ」(全 7 例)

「スルヨウニ」は、あることを目標にして動作を行なうことを表わす。本教科書で、このような「スルヨウニ」は、22 課で導入され、4 例出されている。

まず、「ヨウニ」の前には、人の意志に関わらない無意志的な行為を表わす動詞がくる。本教科書でも「間に合う、わかる、かわく」という無意志動詞の例が出されている。

例) ①「じゅぎょうに　間に合うように、教室まで　走って　行きました。」(22 課；198)
②「学生が　わかるように、れいを　あげて、説明しました。」(22 課；198)

③「シャツが　かわくように、火の　そばへ　持って　行きました。」(22 課；198)

次に、可能を表わす〈V-られる＋ヨウニ〉という形式の例文も紹介されている。

例)「帰って、すぐ　ねられるように、へやに　ふとんを　しいて　おきました。」(22 課；198)

「スルヨウニ」の否定の形「シナイヨウニ」は、7 例提出されており、すべて 22 課で導入されている。「シナイヨウニ」の例をみると、相手に対して忠告や注意などをする時に用いられる文が教えられている。

例) ①「むずかしい　ことばを　わすれないように、メモを　して　おきました。」(22 課；194)

②「この　かみを　やぶらないように、気を　つけて　ください。」(22 課；198)

(E)「スルヨウニ命ジル」(全 6 例)／「シナイヨウニ命ジル」(全 2 例)

「スルヨウニ命ジル」は依頼する時や命令する時に用いられる。本教科書でこのような「スルヨウニ命ジル」は、26 課で導入され、5 例出されている。

例) ①「わたしは　友だちに　荷物を　運ぶように(と)　頼みました。」(26 課；232)

②「社長は　社員に　規則を　守るように(と)　命令しました。」(26 課；232)

このように、引用表現であることを想定するために、文中に「(と)」が明示されている。また、次のように受身の形であらわれる例文も出されている。

例)「出席するか　どうか、明日までに　返事を　するように　言われました。」(26 課；229)

「スルヨウニ命ジル」の否定の形「シナイヨウニ命ジル」は、26 課で 2 例提出されており、いずれも、文中に「(と)」が明示されている。

例) ①「姉は　妹に　お金を　おとさないように(と)　言いました。」(26 課；232)

②「先生は　学生に　授業を　欠席しないように(と)　注意しました。」(26 課；232)

○祈願の意味

本教科書では、「ヨウニ」が文末にくる例文も教えられている。これは、自分や他人にとって、望ましいことを祈ったり、望んだりする時に用いられる表現である。

例)「どうぞ　お体を　大切に　なさって　くださいますように。」(Y10；282)

(F)「スルヨウニナル」(全 12 例)

「スルヨウニナル」は、ある状態から別の状態に変化することを表わす。本教科書でこのような「スルヨウニナル」は、16 課で導入され、4 例出されている。「スルヨウニナル」は、可能表現が導入される際に、紹介されている。

例) ①「おとうとは　きょねんは　かずが　かぞえられませんでしたが、今年は　かぞえられるように　なりました。」(16 課 ; 136)

②「前は　日本語が　ききとれませんでしたが、今は　ききとれるように　なりました。」(16 課 ; 136)

また、受身、使役の動詞が「スルヨウニナル」の形であらわれる例文も教えられている。

例) ①「いろいろな　ことが　法律で　許されるように　なるのですね。」(26 課 ; 230)

②「若者は、・・・・・・娘を　働かせるように　なりました。」(Y9 ; 278)

3.10. 形式名詞によるアスペクト

本教科書では、形式名詞によるアスペクトの意味を表わす表現として「スルトコロ／シテイルトコロ／シタトコロ、シタバカリ」が教えられている。<表 65>は形式名詞によるアスペクトの意味を表わす表現につく動詞を示したものである。

表 65　「形式名詞によるアスペクト」の意味を表わす表現につく動詞

形式名詞によるアスペクトを表わす表現		初出の課	形式名詞によるアスペクトの意味を表わす表現につく動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)	スルトコロ	25	行く、外出する、する	3	3
	シテイルトコロ	25	自習する、する	2	2
		25	いる※(2)	1	2
	シタトコロ	25	する、できる、降る	3	3
(B)シタバカリ		28	くる(3)、うけとる、うまれる、かう	4	6
		28	くる※	1	1
計				14 語	17 例

(A)「スルトコロ」(全 3 例) ／「シテイルトコロ」(全 4 例) ／「シタトコロ」(全 3 例)

本教科書では、「スルトコロ」、「シタトコロ」、「シテイルトコロ」は 25 課で導入され、この課を中心に教えられている。基本的にこれらの形式は、アスペクト的な意味を持っている。動詞の辞書形やテイル形やタ形に後接し、直前、継続、直後などのアスペクトを表

わす。

「スルトコロ」は、ある動作が始まる直前であることを表わす。

例) ①「わたしは　これから　外出する　ところです。」(25 課 ; 225)

②「わたしは　これから　食事を　する　ところです。」(25 課 ; 225)

③「私は、しんるいの　家へ　行く　ところですが、途中で、道に　まよって　しまいました。」(Y9 ; 278)

「シテイルトコロ」は、ある動作が継続していることを表わす。

例) ①「学生たちは　部屋で　自習して　いる　ところです。」(25 課 ; 225)

②「わたしは、今、食事を　して　いる　ところです。」(25 課 ; 225)

「シタトコロ」は、ある動作が終わって、その動作が終わった直後であることを表わす。「ちょうど」という副詞と共に使われることが多い。本教科書でも「ちょうど」と共に出されている。

例) ①「今、ちょうど　降り始めた　ところですよ。」(25 課 ; 221)

②「ちょうど　おかしが　できた　ところです。」(25 課 ; 225)

③「わたしは、今、食事を　した　ところです。」(25 課 ; 225)

(B)「シタバカリ」(全 7 例)

「シタバカリ」は、28 課で導入され、7 例出されている。「シタバカリ」は、動作が完了してから、あまり時間がたっていないことを表わす。

例) ①「わたしは、今、家へ　帰って　来たばかりです。」(28 課 ; 251)

②「この　手紙は、受け取ったばかりですから、まだ　読んで　いません。」(28 課 ; 251)

③「生まれたばかりの　赤ちゃんは　しゃべれません。」(28 課 ; 251)

「シタバカリ」を導入する際に、主節の述語になる例文(①)、従属の述語になる例文(②)、連体修飾になる例文(③)も出されており、文の種類の提出に工夫がされている。

3.11. モダリティ

本教科書で扱われているモーダルな意味を表わす文法的な形は次のようなものがある。以下で順次にみていく。

3.11.1.「希求」:「シテクダサイ」／「シナイデクダサイ」、「シテクダサイマセンカ」、「シテイタダケマセンカ」、「シテクレ」

3.11.2.「許容・不許容」:「シテモイイ」／「シナクテモイイ」、「シテモカマワナイ」／「シナクテモカマワナイ」、「シタッテイイ」、「シタッテカマワナイ」、「シテハイケナイ」、「シテハダメ」

3.11.3.「当為」:「シナケレバナラナイ」

3.11.4.「願望」:「シタイ」、「シタガル」

3.11.5.「誘いかけ」:「シマショウ(誘いかけ)」、「シマショウカ」、「シマセンカ」、「シヨウ」

3.11.6.「命令」:「シナサイ」

3.11.7.「様態」:「シソウダ」、「～ヨウダ」

3.11.8.「推量」:「～デショウ」、「～ダロウ」

3.11.9.「推定」:「～ラシイ」

3.11.10.「推論」:「～ハズダ」

3.11.11.「確信度」:「～カモシレナイ」

3.11.12.「意図」:「シマショウ(意図)」、「シヨウ(ト)」、「～ツモリダ」

3.11.13.「伝聞」:「～ソウダ」

3.11.1. 希求

『初級日本語(新装版)』では「希求」の意味を表わす表現として「シテクダサイ」／「シナイデクダサイ」、「シテクダサイマセンカ」、「シテイタダケマセンカ」、「シテクレ」が出されている。＜表 66＞は希求の意味を表わす表現と当該の表現がつく動詞を示したものである。

表 66 「希求」の意味を表わす表現と動詞

「希求」表現		初出の課	動詞のそれぞれの語数[40]	動詞の異なり語数	例文の数
(A)	シテクダサイ	10	する(5)、教える(4)、来る(4)、使う(4)、のむ(4)、言う(3)、書く(3)、注意する(3)、話す(3)、歩く(2)、行く(2)、かす(2)、食べる(2)、つける(2)、なる(2)、まつ(2)、開ける、あらう、入れる、おぼえる、かえす、帰る、かける、がんばる、決める、切る、さそう、実験する、知らせる、すてる、だす、つくる、てつだう、とる、なさる、のる、発表する、曲がる、みがく、見せる、みる、召し上がる、休む、やる	44	75
		11	いる※(3)、行く※(2)、来る※(2)、みる※(2)、おく※、しまう※	6	11
	シナイデクダサイ	10	心配する(2)、つかう(2)、歩く、行く、かえる、けす、さわる、閉める、すう、すわる、だす、たつ、なげる、のむ、入る、見る、わすれる	17	19
(B)シテクダサイマセンカ		16	休む(休ませる)(2)、記入する、紹介する	3	4
(C)シテイタダケマセンカ		22	知らせる、直す、見せる	3	3
(D)シテクレ		Y9	いる、許す	2	2
計				75 語	114 例

(A)「シテクダサイ」(全 86 例)／「シナイデクダサイ」(全 19 例)

「シテクダサイ」は、本教科書の中でも一番頻繁にとりあげられている表現で、10 課で導入されてから 10 課以後のすべての課で出ている。初出の課である 10 課での、「シテクダサイ」の「クダサイ」につく動詞はすべてが本動詞である。この表現を構成する補助動詞

[40] 動詞は語数の多い順に示し、語数が同じである場合は五十音順で示す。補助動詞は本動詞の次に同じ基準で示す。( )内は動詞それぞれの語数である。

「くださる」のような補助動詞が導入されているのも 10 課であり、11 課からはそれ以外の補助動詞もとりあげられている[41]。10 課の「ぶんけい・ごい」では次のような「指示」表現や「依頼」表現、「勧誘」表現がそれぞれ 2 例ずつ紹介されていいる。

例) ①「この　くすりを　のんで　ください。」(10 課 ; 84)
②「すみませんが、戸を　開けて　ください。」(10 課 ; 84)
③「どうぞ　わたしの　へやで　休んで　ください。」(10 課 ; 84)

10 課以降の課では「シテクダサイ」だけを単独でとりあげているのではなく、別の形態的な形と関係づけながら紹介したり、あるいは文脈の流れで用いたりしている。例えば、10 課、17 課などでは例)④のように否定形の「シナイデクダサイ」と関係づけながら、21 課では例)⑤のように条件形と共に用いられる例をまとめて出している。

例) ④「もっと　速く　歩いて　ください。ゆっくり　歩かないで　ください。」(17 課 ; 148)
⑤「四時に　なったら、わたしの　所へ　来て　ください。」(21 課 ; 188)

＜表 66＞から分かるように、「シテクダサイ」は基本的に、多くの意志動詞に後接することができる形であるが、本報告では先行する動詞の特徴については特にとりあげない。しかし、使われる場面によってその意味・機能が細分化しており、本教科書でもそれを念頭において例文を出しているようである。例えば例)⑥のように指示[42]という機能を果す場合がもっとも多く見られ、例)⑦のような相手に依頼する表現や、例)⑧のような勧誘表現も多く紹介されている。また、例)⑨のように相手に注意するように促す表現もあらわれている。しかし、例)⑩のような直接的な「命令」表現は少なく、直接的な命令表現は後述する 3.11.4「命令」の「シナサイ」で積極的に教えている。例)⑪のような表現は願望の意味を含めた命令であると考えられるが、例)⑩に比べ「命令」としての意味はそれほど強くない。また、相手を励ます例)⑫ような例文も出されている。

例) ⑥「病気の　時は、おかゆの　ような　やわらかい　物を　食べて　ください。」(20 課 ; 178)
⑦「その　店は　どこに　あるか、場所を　おしえて　ください。」(13 課 ; 108)
⑧「どうぞ　わたしの　じしょを　つかって　ください。」(10 課 ; 84)
⑨「マナさんも　けんこうに　ちゅういして　ください。」(15 課 ; 125)
⑩「学生たちは　部屋で　自習して　いる　ところです。静かに　して　ください。」(25 課 ; 225)
⑪「お幸せに　なって　ください。」(28 課 ; 251)

41　例えば、補助動詞「いる」、「くる」、「みる」など。(下線は筆者が付した)
「いま、雨が　ふって　<u>います</u>。」(11 課 ; 93)、「小林先生に　相談して　<u>みて</u>　<u>ください</u>。」(21 課 ; 189)

42　「この　氷を　わって、半分に　して　ください。」(15 課 ; 128)のようなものにも「命令」の意味は含まれているが、「指示」という意味が強い。

⑫「苦しくても、がんばって　ください。」(21 課；185)

10 課では「シテクダサイ」とともに「シナイデクダサイ」も導入されている。直前の 9 課で否定形が教えられているので形としては難しくない表現であろう。「シナイデクダサイ」は例⑬のように行動の禁止というモーダルな意味を表わす働きが強く、10 課の「ぶんけい・ごい」でも「石を　なげる」、「まどを　閉める」、「電気を　けす」、「おさけを　のむ」のような、人の具体的な動作を禁止するという例が多く紹介されている。また、例⑭のように「覚えてください」という意味を伝えるために否定形で用いられる場合もあげられていて、これは直接的な表現を避ける効果もあるように感じ取れるものである。例⑭と⑮のように人の具体的な動作ではない、知的活動にかかわる動詞につく例も 3 例出ている。

例) ⑬「石を　なげないで　ください。」(10 課；84)
⑭「わたしの　たんじょう日を　わすれないで　ください。」(10 課；84)
⑮「心配しないで　ください。」(22 課；198)
⑯「でも、私が　仕事を　して　いる　時は、部屋の　中を　見ないで　ください。」(Y9；278)

「シナイデクダサイ」は 10 課で 9 例がとりあげられてから教科書の後半まで「シテクダサイ」と関連するものとして、または文脈の流れの中で少しずつ紹介されている。

(B)「シテクダサイマセンカ」(全 4 例)

否定疑問形の「希求」表現である「シテクダサイマセンカ」は 16 課で初めて教えられ、27 課で 2 例、読み物 9 で 1 例が教えられている。「記入する、紹介する、休む(休ませる)」という動詞につく例文が出されている。例①のように動作主体は話者自身で、動作が行なわれることによって話者に何らかのプラス的な要素が加わることが期待される、許可を求める表現と、例②、③のように動作主体は相手で、その人に何かを指示・頼む表現が紹介されている。例①では、本表現がつく動詞は使役形で用いられており、相手にその結論を委ねる形式になっている。「シテクダサイマセンカ」が「ぶんけい・ごい」でとりあげられているのは 27 課で、同じ希求表現の「シテクダサイ」と本報告の「3.5.」で述べている「やりもらい」表現の「シテクダサル」[43]と関係づけながら例文を出している。

例) ①「あしたは　休ませて　くださいませんか。」(27 課；240)
②「この　ノートに　おきゃくさんの　じゅうしょと　氏名を　記入して　くださいませんか。」(16 課；133)
③「日本の　小学校を　見学したいのですが、どこか　紹介して　くださいませんか。」(27 課；237)

---

[43] 一緒に紹介されている「希求」表現の「シテクダサイ」を含む例文：「この　電話を　使わせて　ください。」(27 課；240)
「やりもらい」表現の「シテクダサル」を含む例文：「先生は　わたしを　休ませて　くだいました。」(27 課；240)

(C)「シテイタダケマセンカ」(全 3 例)

「シテイタダケマセンカ」は 22 課からとりあげられているが、22 課では「いただく」の本動詞としての用法と補助動詞としての用法がともに初めて教えられており、その続きとして「希求」表現としての「シテイタダケマセンカ」も出している。22 課では様々な授受表現を教えているが、この「シテイタダケマセンカ」という表現は単なる授受表現とは区別してモーダルな意味が含まれている「シテイタダキタイ[44]」という表現と一緒に「ぶんけい・ごい」でとりあげている[45]。例)①や②のように、それぞれ「〜直して　ください」、「〜見せて　ください」という意志をより丁寧に伝達する働きをするものを先に 2 例出し、例)③のように「オーイタダク」という「敬譲」表現と複合した「オーイタダケマセンカ」という表現も読み物 10 で紹介している。例)③は「デショウカ」を使うことによって相手により丁寧にお願いする表現となっている。

例) ①「ちょっと　直して　いただけませんか。」(22 課 ; 193)

②「その　記念切手を　見せて　いただけませんか。はい、お見せしましょう。」(22 課 ; 197)

③「御都合の　よい　日を　お知らせいただけませんでしょうか。」(Y10 ; 283)

かなり近い意味を表わす「シテクダサイマセンカ」は(B)で述べたように 16、27 課、読み物 9 でとりあげられているが、「シテイタダケマセンカ」があらわれる 22 課では紹介されていない。

(D)「シテクレ」(全 2 例)

10 課で「シテクダサイ」が教えられており、「シテクダサイ」よりくだけた表現である「シテクレ」は教科書の後半の部分である読み物 9 で出している。自分より立場上目下の人に使う「シテクレ」にも多様な働きがあるが、本教科書では「依頼」表現としての例文を 2 例出しているのみである。この表現は男性がよく使う表現としての性格が強く、初級日本語学習者が日常であまり使うことはないと考えられるためか、本教科書に出ている例文も非常に少ない。

例) ①「わたしの　そばに　いて　くれ。」(Y9 ; 280)

②「わたしが　わるかった。許して　くれ。」(Y9 ; 280)

以上でみたように、本教科書では「希求」表現として 5 つの形が教えられている。10 課で「シテクダサイ」／「シナイデクダサイ」が教えられた後、丁寧な表現である「シテクダサイマセンカ」や「シテイタダケマセンカ」がそれぞれ 16 課、22 課で紹介されている。

---

[44] 本報告では「シテイタダキタイ」を、3.5「やりもらい」表現の「シテイタダク」と 3.11.4.「願望」の「シタイ」としてとりあげている。

[45] 例)②と一緒にあげている「シテイタダキタイ」を含む例は「この　にもつを　送って　いただきたいのですが。はい、お送りしましょう。」(22 課 ; 197)である。

また、読み物 9 では直接的な「命令」表現である「シテクレ」が教えられている。本教科書には出ていないが、同じ希求表現で会話でよく使われる「シテクレル」[46]、「シテクレナイ」、「シテモラエマセンカ」などもある。

作例) ①「わたしの　そばに　いて　くれる。」
②「明日　家に　来て　くれない。」
③「この　本を　貸して　もらえませんか。」

3.11.2. 許容・不許容

本教科書では「許容」の意味を表わす表現として「シテモイイ」／「シナクテモイイ」、「シテモカマワナイ」／「シナクテモカマワナイ」、「シタッテイイ」、「シタッテカマワナイ」が、「不許容」の意味を表わす表現として「シテハイケナイ」、「シテハダメ」が出されている。<表 67>に「許容・不許容」の意味を表わす表現と当該の表現がつく動詞を示す。

表 67　「許容・不許容」の意味を表わす表現と動詞

「許容・不許容」の表現			初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
許容	(A)	シテモイイ	14	入る(3)、写す(2)、使う(2)、とる	4	8
		シナクテモイイ	15	入る(2)、作る、払う	3	4
	(B)	シテモカマワナイ	14	行く、使う、とる、見る	4	4
			15	いる※	1	1
		シナクテモカマワナイ	15	入る	1	1
			15	いる※	1	1
	(C)シタッテイイ		28	休む	1	1
	(D)シタッテカマワナイ		28	吸う	1	1
不許容	(A)シテハイケナイ		14	飲む(2)、運動する、書く、殺す、さわぐ、さわる、すてる、する、出る、とる、見る、わたる、わる	13	14
	(B)シテハダメ		14	言う、動く、すてる	3	3
計					32 語	38 例

[46] 疑問形で用いられる場合を言う。授受表現としての「シテクレル」や「シテクレナイ」は 22 課からあらわれている。

○ 許容

(A)「シテモイイ」(全８例)／「シナクテモイイ」(全４例)

「シテモイイ」は全８例中７例が 14 課で出ている。動作性の強い動作動詞「入る」を用いて「人が　場所に　入る」という文型で「動作の許可を求める」ものや「聞き手の行為を許可する」もの「例)①[47]」が最初に教えられ、続いて「写真を　写す」、「メモを　とる」、「電話を　使う」のようなものが教えられている。14 課では同じ疑問形でも例)②のように、より丁寧に相手に許可を求める「シテモイイデショウカ」という表現も取り入れている。

例) ①「しばふに　入っても　いいですか。　―　ええ、入っても　いいです。」(14 課；116)

②「写しても　いいでしょうか。」(14 課；117)

③「じゅぎょうの　時、メモを　とっても　いいです。」(14 課；120)

＜表 67＞からも分かるように、14 課では多くの「許容」、「不許容」表現を教え始めており、「ぶんけい・ごい」では「許容」表現の「シテモイイ」と「シテモカマワナイ」を共にあげて近い意味を表わす二つの表現を同時に学習させようとしている。全 8 例中残りの 1 例は 15 課で教えており、その例は動作性が明確ではない「ほけんに　入る」の例である。例)④は、同じく「許容」表現である「シナクテモイイ」と一緒に用いられる「シテモ　シナクテモ　イイ」という表現を教えている例である。

例) ④「学生は　けんこうほけんに　入っても　入らなくても　(どちらでも)　いいです。」(15 課；127)

日本語記述文法研究会(2003)は、「てもいい」の多様な用法について例)①の答えの部分のような「聞き手の行為を許可する」ものと、例)①の質問の部分や例)②のような「話し手が聞き手に行為の許可を求める」ものの他、平叙文で用いられ「自分自身がその行為を行なうことを許容する」という話し手の意向を表わすもの「参考例)①」、許容される行為が実現しなかったことに対する後悔や不満を表わすもの「参考例)②」、客観的な許容を表わすもの「参考例)③」などがあると述べている。日常でよく用いられる以下のような例は出ていない。

参考例) ①「君は忙しそうだから、今日の夕食は僕が作ってもいいよ。」

②「どうせ私にもパソコンが必要になるんだったら、君が買った時に、思い切って買ってもよかったなあ。」

③「日本では、20 歳になったらたばこを吸ってもよい。」

(日本語記述文法研究会(2003)pp.118-119)

「シテモイイ」が 14 課で導入され、続いて「シナクテモイイ」は 15 課で「食事を　作

[47] 応答表現の質問の部分である「しばふに　入っても　いいですか。」が「動作の許可を求める」部分で、答えの部分である「ええ、入っても　いいです。」が「聞き手に行為の許可を求める」部分である。

る」、「お金を　払う」、「保険に　入る」という表現で紹介されている。例)⑥のように(B)で述べる「許容」の「シナクテモカマワナイ」という表現と一緒に用いられているものと、「シテモイイ」で先述した例)④のような、「シテモ　シナクテモ　イイ」という表現が共起するものが「ぶんけい・ごい」であげられている。例)⑥は「当為」表現である「シナケレバナラナイ」を含む疑問文の、否定の答えとしてあらわれ得る「シナクテモイイ」の例であり、このように本教科書ではすでに学習している、あるいはそれぞれに関係のある文法的な表現をまとめてあげようとしていることがうかがえる。このように本教科書は一つの文法的な表現だけではなくその周辺のものも同時に練習できる構成になっている。

例) ⑤「いえ、食事は　作らなくても　いいです。」(15 課；124)

⑥「学生は　けんこうほけんに　入らなければ　なりませんか。　―　いいえ、入らなくても　いいです。(いいえ、入らなくても　かまいません。)」(15 課；127)

(B)「シテモカマワナイ」(全 5 例)／「シナクテモカマワナイ」(全 2 例)

14 課の「ぶんけい・ごい」では、「シテモイイ」と関連する「許容」表現として「シテモカマワナイ」が初めて紹介され「例)②」、それ以後 15 課、19 課、読み物 9 で数例が出されている。本表現がつく動詞も「写真を　とる」、「でんわを　使う」、「(人が)　行く」のような具体的な動作のものが出ている。また、例)③のように補助動詞「いる」を用いた表現は 15 課で 1 例が教えられており、「シテイテモ、イナクテモ　カマワナイ」という新しい表現の練習も兼ねている。

例) ①「公園の　しばふに　入って、写真を　とっても　かまいませんか。」(14 課；117)

②「この　でんわを　使っても　いいです。／この　でんわを　使っても　かまいません。」(14 課；120)

③「でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。」(15 課；126)

④「行っても　かまいませんか。」(19 課；163)

14 課の「シテモカマワナイ」に続いて 15 課では同じく「許容」表現である「シナクテモカマワナイ」が導入されている。「シテモカマワナイ」でも述べたように補助動詞が先行して、「シテイテモ、イナクテモ　カマワナイ」という表現の中で教えられているものと「例)③」、(A)「シナクテモイイ」でも述べたように、「シナクテモイイ」と関連するものとして例)⑤が「ぶんけい・ごい」であげられている。

例) ⑤「学生は　けんこうほけんに　入らなければ　なりませんか。―　いいえ、入らなくても　いいです。(いいえ、入らなくても　かまいません。)」(15 課；127)

(C)「シタッテイイ」(全 1 例)

「シテモイイ」と同じ意味で会話で用いられる「シタッテイイ」は本文会話の最終課である 28 課で 1 例が紹介されている。

例)「明日は　休んだって　いいんです。」(28 課 ; 253)

28 課では主に尊敬語の学習に重点をおいているが、話しことばとしてよく用いられるその他の表現として文体や場面など位相の違いによることば遣いの変移の学習にも力を入れている。その一つが「シタッテイイ」である。また、「シタッテイイ」以外に、短縮形の「シテル」、「シテマシタ」、「シタッテカマワナイ」、「シチャッタ」、「シチャイケナイ」、「シチャダメ」、「シテテクダサイ」などのような表現も一緒にとりあげている。しかし、「シナクテモイイ」と関連する「シナクタッテイイ」は出されていない。

(D)「シタッテカマワナイ」(全 1 例)

「シテモカマワナイ」と関係のあるこの表現は(C)で述べた「シタッテイイ」と同様、本文会話の最終課である 28 課で 1 例が紹介されているのみで、否定形の「シナクタッテカマワナイ」は出されていない。

例)「外では　たばこを　吸ったって　かまいません。」(28 課 ; 253)

○ 不許容

(A)「シテハイケナイ」(全 14 例)

本表現は 14 課で導入されており、「ぶんけい・ごい」で「許容」表現の「シテモイイ」、「シテモカマワナイ」などに対する「不許容」表現としてとりあげられている。不許容表現は「シテハイケナイ」と次の(B)で述べる「シテハダメ」の二種類に限られており、許容表現よりバリエーションが少ない。例)①のように「書く、さわる、すてる」のような他動詞と組み合わさる場合が多く(14 例中 11 例)、人の動作について直接的に不許容の意味を伝えるこのような表現も少しずつ教えられている。14 課で 6 例が集中的に紹介されており、それから 28 課まで数例ずつ出ている。

例) ①「川に　ごみを　すててはー　いけません。」(14 課 ; 120)
　　②「字を　大きく　書きなさい。小さく　書いては　いけません。」(17 課 ; 148)

「シテハイケナイ」の位相の違いによるものである「シチャイケナイ」は 28 課で 1 例が紹介されている。

例) ③「病院の　中で　さわいじゃ　いけません。」(28 課 ; 252)

本教科書では例)①や③のような一般的な常識としての「不許容」を表わすものが多く見られる。日本語記述文法研究会(2003)で述べられている、「許容されない事態が実現したこ

とに対する後悔や不満を表わす」表現「参考例)①」や「事態の実現を危惧する文として機能する」表現「参考例)②」は出ていない。

参考例) ①「今こんあにお金に困るんだったら、あの時調子に乗って CD を買ってはいけなかったなあ。」

②「洗濯物がぬれちゃいけない。今日は部屋に干しておこう。」 (p.130)

(B)「シテハダメ」(全 3 例)

「シテハイケナイ」という表現より目下の人に使う禁止表現として「シテハダメ」(「シチャダメ」も含めて)もとりあげられている。ただし本教科書で紹介されているのは次の 3 例のみである。

例) ①「動いては　だめですよ。はい、こちらを　向いて...。」(14 課 ; 117)

②「川に　ごみを　すててはだめです。」(14 課 ; 120)

③「うそを　言っちゃ　だめです。」(28 課 ; 252)

3.11.3. 当為

「シナケレバナラナイ」(全 32 例)

「当為」表現としては「シナケレバナラナイ」のみが 15 課から紹介されている。<表 68>は「当為」の意味を表わす「シナケレバナラナイ」がつく動詞を示したものである。

表 68　「当為」の意味を表わす表現と動詞

「当為」表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
シナケレバナラナイ	15	する(5)、作る(2)、つける(2)、勉強する(2)、やる(2)、行く、覚える、けす、研究する、調べる、出す、ちゅういする、ぬぐ、のむ、入る、運ぶ、守る、やめる、用意する	19	27
	15	いる※(3)、行く※(2)	2	5
計			21 語	32 例

この表現は 15 課で初めて紹介されているが、ほぼ半数に当る 14 例が 15 課に集中しており、その後少しずつとりあげられいる。15 課の「ぶんけい・ごい」では動詞や名詞、形容詞に続く当為表現として多くの例があげられており、また、「許容」表現の「シナクテモイイ」・「シナクテモカマワナイ」と関連づけながら教えている。例)①は「質問－応答」の形式でこれらの表現を同時に紹介しているものである。

例) ①「学生は　けんこうほけんに　入らなければ　なりませんか。」／「いいえ、

入らなくても　いいです。(いいえ、入らなくても　かまいません。)」(15課；127)

②「外国旅行の　時、パスポートを　もって　行かなければ　なりません。」(15課；127)

③「なぜ、海洋開発を　しなければ　ならないのですか。」(Y8；276)

森山卓郎・仁田義雄・工藤浩(2000)では「当為評価のモダリティ」として「ナケレバナラナイ」、「ベキダ」、「(セ)ザルヲエナイ」、「(スル／シタ)ホウガイイ」、「(シテモ)イイ」をあげているが、本教科書では、本報告で許容表現として分類している「シテモイイ」以外は「シナケレバナラナイ」のみが教えられている。「スルベキダ」や「シタホウガイイ」という表現は「シナケレバナラナイ」とまったく同じ場面、同じ意味で用いられるわけではないが、次の例)④のように「スルベキダ」、「シタホウガイイ」を用いても自然な場合があることも紹介できる。

例) ④「水よう日までに　宿題を　出さなければ　なりません。」(26課；233)

＜表68＞から確認できるように、「シナケレバナラナイ」には主に意志動詞が先行して人が意図的に行なう動作における当為を表わす場合が多い。しかし、次の例)⑤のような場合は動作主体が特定の人ではないことから直接的な行動の当為表現ではなく、「シナケレバナラナイ」を用いて「雪国の生活の性質」を述べている文である。例)⑤は「スルベキダ」・「シタホウガイイ」という表現には置き換えられないものである。

例) ⑤「たいていの　家では、雪下ろしを　しなければ　なりません。」(25課；221)

また、「ぶんけい・ごい」のところで例)①のように、質問に対する答えとして「いいえ、入らなても　いいです。(いいえ、入らなくても　かまいません。)[48]」という表現が教えられているが、ここで「はい、入らなければ　なりません。」という肯定表現も一緒に紹介することもできる。英語などを母語とする日本語学習者の場合、質問が否定形の場合その答えが日本語の場合とは逆になるので、否定の質問に対する肯定の答えも一緒に教えると効果的であろう。

[48]「外出する　時、これを　もって　いなければ　なりませんか。」／「外国人登録証明書は　もって　いなければ　なりません。」(15課；126)という文は「本文会話」に1例出ている。

3.11.4. 願望

「願望」を表わす表現として「シタイ」、「シタガル」が出ている。＜表 69＞に「願望」を表わす表現と当該の表現がつく動詞を示す。

表 69 「願望」を表わす表現と動詞

「願望」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シタイ	14	行く(9)、買う(7)、見る(4)、見学する(3)、写す(2)、帰る(2)、する(2) 、とる(2)、やる(2) 、うかがう、聞く、来る、さしあげる、しつもんする、進む、相談する、なる、のむ、話す、べんきょうする、留学する、りょこうする	22	46
	14	みる※(3)、いただく※、おく※	3	5
(B)シタガル	25	帰る(2) 、行く、買う、聞く、見る、やる	6	7
計			31 語	58 例

(A)「シタイ」(全 51 例)

「願望」を表わす「シタイ」は 14 課で初めて教えられており、それ以後 28 課までのほとんどの課で本表現を含む例文が出ている。また読み物 9 と 10 でそれぞれ 3 例、4 例があげられている。例)①のように、主語が 1 人称で、主語自身の「願望」の意味を表わすものが 51 例中 39 例で最も多い。また、例)②のような、聞き手に質問する形で相手の願望を尋ねる表現や例)③のような、引用の形式を用いた 3 人称主語の願望を表わす表現も 14 課から一緒に教えている。

例) ①「今、あたらしい　カメラを　かいたいと　おもって　います。」(14 課 ; 115)
②「どんな　カメラが　かいたいですか。」(14 課 ; 115)
③「ジョンさんは　国へ　かえりたいと　言って　います。」(14 課 ; 118)

14 課の「ぶんけい・ごい」では例)④のような、1 人称主語で比較的簡単な「シタイ」表現を先にあげ、続けて例)⑤、⑥のような例をあげている。「シタイ」を含む文では格助詞「が／を」の交代が可能であることも同時に教えている。その次に例)③のような引用形式の中で用いられる「シタイ」をあげている。

例) ④「わたしは　外交官に　なりたいです。」(14 課 ; 118)
⑤「わたしは　テープレコーダーが　かいたいです。」(14 課 ; 118)
⑥「わたしは　テープレコーダーを　かいたいです。」(14 課 ; 118)

読み物 9 では、物語の中の地の文において 3 人称主語の願望を話し手の感情を含めずに説明する文も見られる。

例) ⑦「ある　日、若者は　娘の　部屋の　中を　見たく　なりました。」(Y9 ; 279)

3 人称主語の願望を述べる場合、例)⑦のような、説明の形を取る文以外は「シタガル」が用いられる場合も多いが、次の(B)で述べる「シタガル」は 25 課で初めてとりあげられていて、最初の段階では例)③のように引用の形式を用いた表現を教えているのが分かる。また、15 課と 21 課では「～シタイ　コトガ　アル」という慣用的な表現を用いた願望の表現も教えている。

例) ⑧「やまださん、一つ　しつもんしたい　ことが　あります。」(15 課 ; 126)

(B)「シタガル」(全 7 例)

「シタガル」は 25 課と 28 課で教えられている。(A)の「シタイ」は 3 人称主語には用いられないのに対し、「シタガル」は 3 人称主語の願望を表わす表現として引用の形式を取らずにそのまま述語に用いられる形である。本教科書では「シタガル」の肯定表現や否定表現、補助動詞のついたそれぞれの表現を意識的に教えているようである。

例) ①「いもうとは、デパートへ　行くと、いつも　おかしを　買いたがります。」(25 課 ; 225)

②「地方から　出て　来た　若者は、なぜ、国へ　帰りたがらないのですか。」(25 課 ; 223)

③「いとう先生は、なぜ、マリアさんの　話を　聞きたがって　いたのですか。」(28 課 ; 248)

一見簡単に使えそうな「シタガル」が教科書本文の最後の方でとりあげられているのは「シタイ」に接尾辞「 - ガル」がついた形式は初級日本語学習者には比較的馴染みにくいということ、(A)でみたように日常会話の中では「シタイと　思う／言う」などのような引用形式が頻繁に使われることによるのではないだろうか。

3.11.5. 誘いかけ

「誘いかけ」を表わす表現として「シマショウ(誘いかけ)」、「シマショウカ」、「シマセンカ」、「シヨウ」が出ている。<表 70>に「誘いかけ」を表わす表現と当該の表現がつく動詞を示す。

表 70 「誘いかけ」を表わす表現と動詞

「誘いかけ」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シマショウ(誘いかけ)	4	行く(14)、する(9)、食べる(4)、会う(3)、とる(3)、歩く(2)、出る(2)、やすむ(2)、あらう、送る、おどる、かえる、かたづける、かんぱいする、きく、出発する、つける、通る、止める、のむ、入る、はじめる、はなす、みせる、やく	25	56
	14	みる※(10)、行く※(2)、おく※(2)、しまう※	4	15
(B)シマショウカ	11	行く(3)、おじゃまする、とる	3	5
(C)シマセンカ	19	行く(7)、うかがう、する、飲む	4	10
	25	みる※(2)	1	2
(D)シヨウ	22	守る	1	1
	28	もらう※	1	1
計			39 語	90 例

(A)「シマショウ(誘いかけ)」(全 71 例)

「シマショウ」という表現には本節でとりあげている「誘いかけ」の意味と「3.11.12.「意図」」でとりあげる話し手の「意図」を表わす意味がある。誘いかけを表わす「シマショウ」は 4 課で最初にとりあげられ、それ以後 28 課までのほとんどの課で頻繁に出ている。本教科書の中で一番最初に出ているモーダルな意味を表わす形でもあり、初級学習者が早い段階から習得しておくべき表現として重要視されていると言える。本教科書では動作性が強い「行く、食べる、(写真を)とる」のような動詞や「人が　事を　する」のような文型の中で用いられる「する」につくものが多く紹介されている。また、補助動詞「みる」が先行して「シテミマショウ」という形で相手に誘いかける表現が目立つ。

例) ①「あしたの　あさ　九じごろ　いきましょう。」(4 課；25)
②「あの　木の　下で　ひるごはんを　たべましょう。」(7 課；56)
③「降りる　用意を　しましょう。」(23 課；201)
④「ちょっと　湖の　方へ　行って　みましょう。」(17 課；144)

また、単独で紹介されている次の例)⑤のようなものの場合、相手に誘いかける表現であるのか、指示表現であるのか明確ではない物も出ている。これは「皮の　まま、豆を　食べてください。」という表現と似ているが、「ぶんけい・ごい」で紹介され、前後の文脈がないため初級学習者が理解しにくい表現であると思われる。

例) ⑤「皮の　まま、豆を　食べましょう。」(24 課 ; 216)

なお、例)⑥のように積極的な動作の勧誘を表わす表現ではないものもみられ、未来のことについて「シマショウ」という意志形を用いて表わしている。

例) ⑥「では、十二月に　会いましょう。」(9 課 ; 73)

(B)「シマショウカ」(全 5 例)

疑問形の「誘いかけ」の表現である「シマショウカ」は 11 課で最初に出て、その後 14 課と 28 課であらわれている。「シマショウカ」がつく動詞も動作性が強い「行く、おじゃまする(「訪ねる」の意味)、(写真を)とる」である。

例) ①「さんぽに　行きましょうか。」(11 課 ; 91)
②「じゃ、来週でも　おじゃましましょうか。」(28 課 ; 246)
③「あしたは　新宿へでも　行きましょうか。」(28 課 ; 252)

(C)「シマセンカ」(全 12 例)

否定疑問形の「誘いかけ」の表現である「シマセンカ」は 19 課で最初にとりあげられ、22 課、23 課、25 課、28 課でそれぞれ数例ずつあらわれている。結論を相手に委ねる本表現は主に教科書の後半であらわれており、すでに紹介している(B)「シマショウカ」と関連づけてその意味の相違点や共通点を教えることもできる。本表現も「行く、うかがう」のような動作性の強い動詞につく例が多く紹介されている。

例) ①「いっしょに　食事を　しませんか。」(19 課 ; 168)
②「いっしょに　映画を　見に　行きませんか。」(19 課 ; 168)
③「マリアさん、一度、いとう先生の　お宅に　うかがいませんか。」(28 課 ; 246)
④「わたしたちも　外へ　出て　みませんか。」(25 課 ; 223)

また、「誘いかけ」の本表現と関連して一緒に教えることもできる、単なる質問の「シマセンカ」の例も出ている。例)⑤、⑥のようなものは文脈からみて単なる質問であることが分かる場合で、応答表現の答えがあらわれない場合は誘いかけの表現とも考えられる。

例) ⑤「ちゅうごくごも　べんきょうしませんか。／はい、ちゅうごくごも　べんきょうしません。」(9 課 ; 71)

⑥「きょうとへも　行きませんか。／いいえ、きょうとへは　いきます。」(9 課；76)

(D)「シヨウ」(全 2 例)

本教科書では「3.11.12.」で述べる「意図」の意味を表わす「シヨウ(ト)[49]」とは別に「シマショウ」の普通体である「誘いかけ」の「シヨウ」も紹介している。「シマショウ」が 4 課から教え始め、教科書の全体で多くの場面で用いられているのに対し、「シヨウ」は 22 課と 28 課で 1 例ずつ紹介されているのみである。例)①は伝聞の形式の中の普通体であり、例)②は中級に入る前の一番最終課である 28 課の会話の中で補助動詞に後接するものである。28 課は敬語の学習を主な目的としている課であるが、本文会話の最後の方で兄弟同士の会話をとりあげて会話の中で用いられる普通体も教えていて、例)②はその一例である。

例 ①「わたしも、「アジアの　みどりを　守ろう」と　いう　題で　話を　する　予定です。」(22 課；193)

②「この　次には、うちにも　来て　もらおうね。」(28 課；248)

3.11.6. 命令

「シナサイ」(全 14 例)

本教科書では「命令」表現として「シナサイ」が出ている。「シロ」という、動詞の活用形としての命令形と「禁止」の意味を持つ否定命令表現「スルナ」は出ていない。＜表 71＞に本教科書に出ている「命令」表現と当該の表現がつく動詞を示す。

表 71 「命令」表現と動詞

「命令」表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
シナサイ	14	入れる(2)、開ける、書く、すわる、はる、冷やす、ひろう、復習する、べんきょうする、ほんやくする、見る	11	12
	14	行く※、みる※	2	2
計			13 語	14 例

＜表 71＞からも分かるように、「シナサイ」がつく動詞は人が意志的に行なう動作であり、その動作を行なうように命令する表現である。「減る、切れる、閉まる」のように無意志的に行なわれる動作については用いられない。「3.11.1.「希求」(A)」で、「シテクダサイ」の

[49] 本教科書では「意図」を表わす「シヨウ」は次の例のように引用の形式を用いた「シヨウト」の例のみ出しているが、文末で話し手(語り手)の「意図」を表わす場合は「シヨウ」の形も取り得るので、学習者にも両者の用法の違いを教えるといいだろう。「例)「アリさんは、どんな　所に　つとめようと　思っていますか。」(20 課；175)」

例に直接的な命令表現が少なかったことはすでに述べたが、直接命令する場合は主に「シナサイ」という表現を用いている。「ぶんけい・ごい」で「シナサイ」という表現を単独でとりあげているのは 14 課で、動詞の活用形を意識したもの(「開ける、ほんやくする、ひろう」につくも「例)①」)と補助動詞に「シナサイ」がついたもの「例)②」があげられている。14 課で 6 例が紹介されてから 17 課、20 課、21 課、24 課で 1 例ずつ、また 27 課で 4 例が出ている。

例) ①「テキストの　十ページを　開けなさい。」(14 課 ; 121)
②「ハイキングの　時は、何か　食べ物を　もって　行きなさい。」(14 課 ; 121)
③「わたしは　母に　「べんきょうしなさい。」と　いつも　言われます。」(24 課 ; 214)
④「つぎに、氷の　中に、食塩を　三分の一　ほど　まぜて　みなさい。」(27 課 ; 237)

3.11.7. 様態

「様態」を表わす表現としては「シソウダ」、「～ヨウダ」がとりあげられており、<表 72>に「様態」を表わす表現と当該の表現がつく動詞を示す。

表 72 「様態」を表わす表現と動詞

「様態」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シソウダ	23	おれる、切れる、しずむ、閉まる、たおれる、取れる、始まる、降る、破れる、割れる	10	10
(B)～ヨウダ	25	ある、帰る、寝る、増える、減る	5	5
	25	しまう※	1	1
計			16 語	16 例

(A)「シソウダ」(全 10 例)

「シソウダ」は動詞の連用形に後接し、まだ動作が行なわれていない時点でのその動作の「様態」を表わす働きをする。本教科書に出ている「シソウダ」の全 10 例中 9 例は 23 課に、1 例は 26 課に出ている。23 課では形容詞の様態を表わす「形容詞の語幹[50]＋ソウダ」、名詞の様態を表わす「名詞＋の＋ヨウダ」という表現とともに、それに関連して動詞の様態を表わす「シソウダ」が教えられている。<表 72>から分かるように、本教科書では「おれる、降る、割れる」のような、無意志的な動作が行なわれる動詞の例のみ教えている。

[50] 「良さそうだ」、「なさそうだ」のような例外も含む。

このような動詞の他に、「出発する」、「泣く」のように意志的な動作を表わす動詞の例もあげることができる(作例)⑤、⑥)。

例) ①「雨が　降りそうだから、かさは　持って　行きましょう。」(23 課 ; 202)
②「細かい　ぼうが　おれそうです。」(23 課 ; 204)
③「切れそうな　ひもや　破れそうな　布は　すてて　ください。」(23 課 ; 205)
④「風が　つよく　ふいたので、木が　たおれそうに　なりました。」(23 課 ; 205)
⑤「もうすぐ　電車が　出発しそうだ」(作例)
⑥「子供が　泣きそうな　顔を　して　いる」(作例)

本教科書には以上の例)①から④のように、文中での成分によって様々なタイプの「シソウダ」があげられている。例)①は状況語として働くもので本文会話の中で紹介されている。23 課の「ぶんけい・ごい」では例)②から④のように、述語として働くもの、連体修飾語として働くもの、補語として働くものの順にあげられている。

(B)「～ヨウダ」(全 6 例)

「様態」を表わす「～ヨウダ」は状況をみて判断した内容を述べる働きをしており、本教科書では例)①のように動詞の辞書形につくもの、例)②、③のように過去形(例)②は補助動詞の過去形)につくもの、④のように否定過去形につくものを出している。「～ヨウダ」の全例は 25 課で教えられており、この課では形容詞の様態の用法も数例一緒に教えている。とりあげられている動詞には意志動詞、無意志動詞両方とも含まれている。

例) ①「熱が　ある　ようですね。顔が　赤いですよ。」(25 課 ; 224)
②「ええ、少し　寒気が　します。どうも　かぜを　ひいて　しまった　ようです。」(25 課 ; 224)
③「ニュースで　聞きましたが、最近　交通事故が　減った　ようです。」(25 課 ; 224)
④「新聞で　読みましたが、去年　東京の　人口は　あまり　増えなかった　ようです。」(25 課 ; 224)

「ぶんけい・ごい」では以上のように、動詞の活用形を意識したものを出しており、さらに例)①、②のように直感的に見たり感じたりして述べるものや例)③、④のように「ニュース」、「新聞」のような、客観的な媒体を通じて分かった情報を元に様態を述べるものが 2 例ずつあげられている。

3.11.8. 推量

「推量」を表わす表現として「～デショウ」、「～ダロウ」が出ており、<表 73>にこれらの表現と当該の表現がつく動詞を示す。

表 73 「推量」を表わす表現と動詞

「推量」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)～デショウ	9	行く(3)、喜ぶ(3)、上がる(2)、ある(2)、安心する、買う、かりる、来る、心配する、つく、なおす、なさる、なる、入る、見る、休む	16	22
	25	いく※(2)	1	2
(B)～ダロウ	26	できる(2)、上がる、ある、言う、見る、忘れる	6	7
計			23 語	31 例

(A)「～デショウ」(全 24 例)

「推量」の意味を表わす「～デショウ」は 9 課から教えられており、その後、教科書の全般に渡って数例ずつ紹介されている。最初に教えられている 9 課では例)①、②のように、副詞「たぶん」と共起する例を中心に教えており、9 課以後の課ではこのような共起はみられない。また、「たぶん」以外の副詞「きっと」、「たしかに」のような副詞と共起する例もあらわれていないが、例)③、④のように、「きっと」のような副詞が省略されていると思われる例はあらわれている。また、補助動詞に「～デショウ」がつく例)⑤のようなものは 25 課で 2 例がとりあげられている。「～デショウ」がつく動詞は多様で、その種類に偏った傾向はみられない。しかし、教科書に出ている例文の、動詞の形態的な特徴はみられ、例)①、③、⑤のように肯定の非過去形で用いられるものが 19 例、例)②のような否定の非過去形が 3 例、例)④のような過去形が 1 例という分布を成している。最初に導入されている課である 9 課の「ぶんけい・ごい」では動詞の辞書形と否定形の例を 1 例ずつあげている。

例) ①「小林さんは　あした　たぶん　じゅぎょうを　休むでしょう。」(9 課；74)
②「たぶん　がっこうへ　行かないでしょう。」(9 課；74)
③「いもうとも　大学生ですから、日本の　大学の　ことを　知ったら、喜ぶでしょう。」(22 課；194)
④「では、あなたが　日本へ　来る　時、お母さんは　心配したでしょうね。」(15 課；124)
⑤「科学は　これからも　どんどん　進歩して　いくでしょう。」(25 課；226)

また、21 課では疑問形が 1 例出ていて、「～デショウ」を用いて相手に答えを求める例)

⑥のようなものも紹介されている。このような場合、話者が求めている答えを必ずしも相手が知っているとは限らないが、相手の推量の意味を含んだ答えが戻ってくると考えられる場合である。直接的に質問することを避ける効果もあるこのような例も出ているのが分かる。

例) ⑥「どこへ　行けば、買えるでしょうか。」(21 課 ; 185)

(B)「～ダロウ」(全 7 例)

「推量」を表わすもう一つの表現として普通体の「～ダロウ」が紹介されている。「～デショウ」が本文の 9 課から広い範囲に渡って教えられているのに対し、「～ダロウ」は 26 課で初めて教えられ、その後は読み物の後半で少しずつ紹介されている。「～ダロウ」は「～デショウ」と違って例)①、③のように引用形式「ト」に前接することができる表現で、このような例も 3 例出している。丁寧形の文末においては「～ダロウ」は用いられないが、引用形式の中では「～ダロウ」が用いられることが教えられている。

例) ①「来年は　たぶん　物価が　上がるだろうと　思います。」(26 課 ; 233)
②「ちょっとだけなら　見ても　かまわないだろう。」(Y9 ; 279)
③「いつまでも　忘れられないだろうと　思います。」(Y10 ; 282)

また、例)④のように、「～ダロウ」、「～デショウ」は疑問辞をつけずに推量の意味を含んだ疑問文を作ることができる形であるが、このような例も読み物の後半で 1 例紹介されている。

例) ④「どうして、あんな　美しい　布が　できるのだろう。」(Y9 ; 279)

森山卓郎・仁田義雄・工藤浩(2000)では推量形式として判断系と状況把握系に分けて考えており、本報告での分類とは異なるが、判断系として「かもしれない、に違いない、に決まっている／はずだ」を、状況把握系として「らしい、ようだ」[51]などをあげている。しかし「だろう[52]」は他の推量の助動詞とは区別して考えており、他と大きく異なる点として、「だろう疑問文」と「だろうの確認用法の問題[53]」をあげている。「～ダロウ」は森山卓郎・仁田義雄・工藤浩(前掲)でも言っているように疑問文を作ることができる推量を表わす助動詞で、本教科書では聞き手に情報を求めない例)④のような疑問文が紹介されている。

なお、「～デショウ」と同様、本教科書に出ている「～ダロウ」に先行する動詞の種類から特に偏った傾向はみられないが、辞書形でつくものが多くあげられている。

---

[51] ＜表 43＞から分かるように、『(新装版)初級日本語』には「に違いない、に決まっている」はとりあげられていない。また、本報告では「～カモシレナイ」は「確信度」として、「～ハズダ」は「推論」、「～ラシイ」は「推定」、「～ヨウダ」は「様態」として分類している。

[52] 「でしょう」も含む。

[53] 「(高価なおもちゃをねだるとき)「このまえ買ってあげたでしょ.」と言われて…」森山卓郎・仁田義雄・工藤浩(2000)(p.63)

3.11.9. 推定

「～ラシイ」(全 3 例)

「推定」を表わす表現としては「～ラシイ」があらわれている。<表 74>に「～ラシイ」がつく動詞を示す。

表 74 「推定」を表わす表現と動詞

「推定」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
～ラシイ	28	いる、勝つ、感心する	3	3
計			3 語	3 例

「推定」の意味を持つ「～ラシイ」が動詞につく例は教科書の最終課である 28 課で 3 例のみ教えられており、初級学習者にとっては比較的難しい表現として扱われているようである。「3.11.7.「様態」」で述べた「シソウダ」、「～ヨウダ」や教科書には出ていない「～ミタイダ」などとも意味的に似ている部分があり、初級学習者にとってその使い分けは難しいとされる。

例) ①「ほかの　先生方も　感心なさった　らしいですよ。」(28 課 ; 246)
②「中村さんは、しあいで　友だちに　勝った　らしいです。」(28 課 ; 251)
③「あの　人は、どうも　部屋に　いない　らしいです。」(28 課 ; 251)

25 課の「ぶんけい・ごい」では「～ラシイ」が動詞につくものとして以上の例)②、③があげられており、肯定形と否定形のものを 1 例ずつ出している。教科書の「ぶんけい・ごい」で続けてあげているイ形容詞、ナ形容詞の例も同じく肯定形・否定形の例が順に挙がっている。

3.11.10. 推論

「～ハズダ」(5 例)

「推論」を表わす表現としては「～ハズダ」があらわれている。<表 75>に「～ハズダ」がつく動詞を示す。

表 75 「推論」を表わす表現と動詞

「推論」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
～ハズダ	27	かかる(2)、見学する、こおる	3	4
	Y9	くれる※	1	1
計			4 語	5 例

「推論」の意味を表わす「～ハズダ」は 27 課で 4 例、読み物 9 で 1 例が紹介されている。本教科書には例)①から④のようにまだ行なわれていない事象に対して確信の意味を含んだ推論を表わす表現がとりあげられている。例)⑤(作例)のような過去のことに対しての何らかの根拠に基づいた推論を述べるものや例)⑥(作例)のような「確認・強調」という用法として用いられるものは出ていない。

例) ①「そこなら、いつでも　見学できる　はずです。」(27 課 ; 237)
②「私立大学に　入ったら、お金が　かかる　はずです。」(27 課 ; 241)
③「国立大学に　入ったら、お金が　そんなに　かからない　はずです。」(27 課 ; 241)
④「町の　人々は、めずらしがって、高く　買って　くれる　はずです。」(Y9 ; 278)
⑤「簡単な　問題だから　答えを　出すのに　時間は　あまり　かからなかった　はずです。」(作例)
⑥「今日の　約束時間に　ついては　先週　言った　はずです。」(作例)

3.11.11. 確信度
「～カモシレナイ」(全 10 例)

「確信度」を表わす表現「～カモシレナイ」が紹介されている。<表 76>に「～カモシレナイ」がつく動詞を示す。

表 76 「確信度」を表わす表現と動詞

「確信度」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
～カモシレナイ	21	変わる(2)、来る(2)、下がる(2)、なる(2)、ある、やめる	6	10
計			6 語	10 例

「～カモシレナイ」は 21 課で集中的に教えられており、その後 27 課と読み物 10 で各 1 例ずつ出ている。「～ハズダ」より確信度は落ちるが、何らかの根拠に基づいた、あるいはある条件の元で起こり得る(起こり得た)事象を表現するものである。21 課では「～タラ、～ナラ、～レバ」という条件表現をとりあげており、このような条件表現と一緒によく用いられる「～カモシレナイ」も同じ課で意図的に教えているようである。本教科書では「3.10.「推論」」の「～ハズダ」の場合と同様、例)①～③のように未来における起こり得る事象について述べる文のみ紹介されており、過去のできごとについての「過去形＋カモシレナイ」のような文は紹介されていない。例)④(作例)のような例を参考としてあげることもできよう。

例) ①「でも、もし、会議が　早く　終われば、時間が　ある　かもしれません。」(21 課；184)
②「会議の　予定が　変わる　かもしれません。(変わらない　かもしれません)」(21 課；188)
③「風が　強い　場合は、工事を　やめる　かもしれません。」(27 課；242)
④「太郎は　もう　国に　帰った　かもしれません。」(作例)

21 課の「ぶんけい・ごい」では例)②のように肯定形が先行するものとそれの否定形の例を一緒にあげている。「～カモシレナイ」に先行する動詞の特徴をみると、「変わる、なる、下がる」のような非意図的な動作を表わす動詞が多くあらわれている。あることがきっかけ(原因)になって起こり得る事象を表現する働きが強いことが分かるが、例)③のように、意図的に行なう動作についての例も 1 例紹介されている。

3.11.12. 意図

「意図」を表わす表現として「シマショウ(意図)」、「ショウ(ト)」、「～ツモリダ」があらわれている。＜表 77＞に「意図」を表わす表現と当該の表現がつく動詞を示す。

表 77　「意図」を表わす表現と動詞

「意図」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)シマショウ(意図)	8	あげる(2)、見せる(2)、送る、書く、かける、知らせる、持つ	7	9
	22	あげる※、みる※	2	2
(B)ショウ(ト)	20	する(2)、つとめる(2)、やる(2)、書く、かける、来る、結婚する、なる、働く、べんきょうする、渡す	11	14
(C)～ツモリダ	20	勉強する(5)、買う(3)、する(3)、進む(2)、帰る、変える、はたらく、おまいりする、留学する	9	18
	24	いく※、しまう※	2	2
計			31 語	45 例

(A)「シマショウ(意図)」(全 11 例)

「シマショウ」は「3.11.5.」で述べた「誘いかけ」を表わす用法以外に、「意図」を表わす用法も持っている。誘いかけの「シマショウ」は本教科書の中で一番最初に教えられているモーダルな意味を表わす表現で、教科書全般に渡って多くとりあげられているが、意図を表わす「シマショウ」は 8 課から教えられており、その後 13 課、22 課、27 課、28 課

で少しずつ紹介されている。

例) ①「あした　あなたに　でんわを　かけましょう。」(8 課 ; 68)

②「「とうろんかいの　後で、大学の　中を　案内して　あげましょう。」と　書いて　ありました。」(22 課 ; 193)

③「お荷物を　お持ちしましょう。」(28 課 ; 250)

誘いかけの「シマショウ」の場合、<表 77>に示したように、「行く、する、食べる、みる※」のような動作を一緒に行なうように相手に誘いかける文が多くあらわれ、また、一人ではなく二人以上の複数の人の動作によって成り立つ「会う、かんぱいする」のような動詞につくものがみられた。本節の「シマショウ」の場合、動作主体の意図を表わす表現であり、動作主体自身が一人である動作を意図的に行なう例があげられている。この時の動詞は「あげる、見せる、送る」のような他動詞が中心となる。

(B)「ショウ(ト)」(全 14 例)

「意図」を表わす「ショウ(ト)」は 20 課で集中的に教えられており、その後 28 課や読み物 9、10 で数例があらわれている。「3.11.5.」で先述したように「ショウ」は「誘いかけ」を表わす用法と「意図」を表わす用法を持っている。本節の「ショウ(ト)」は動作主体の意志的な動作を表わす表現で、本教科書に紹介されている例は例)①～④のように、すべて引用の形式で文中にあらわれている。文末にあらわれる「ショウ」は誘いかけの場合だけではなく、「今日は　早く　寝よう。(作例)」のように意図を表わす場合にも用いられるが教科書には出ていない。

例) ①「これから、いっしょうけんめいに　やろうと　思って　います。」(20 課 ; 174)

②「(わたしは)あした　母に　こくさい電話を　かけようと　思って　います。」(20 課 ; 176)

③「わたしは、こくさい　もんだいに　ついて　論文を　書こうと　思って　います。」(20 課 ; 176)

④「娘は、何を　しようと　思って、若者の　家に　来たのですか。」(Y9 ; 281)

「ショウ(ト)」が意図を表わすのは基本的には「する、べんきょうする」のような意志的な動作を表わす場合である。動詞「なる」は必ずしも意志的な動作を表わすわけではないが、例)⑤のように「ショウ(ト)」の形で引用節の述語となっている場合は意志的な動作を表わす。

例) ⑤「わたしは、英語を　べんきょうして　いますが、通訳に　なろうとは　思って　いません。」(20 課 ; 176)

20 課の「ぶんけい・ごい」では 6 例を出しているが、例)②、③、⑤のように動詞の活用形が異なるものを意識的に出している。

(C)「～ツモリダ」(全 20 例)

「意図」を表わす「～ツモリダ」は(B)「ショウ(ト)」と一緒に 20 課で多くとりあげられているが、例)①、②のような肯定形の場合両者の交替が可能になるものが多く(例) ①′、②′)、意味的な類似点・相違点を教える際に有効である。「～ツモリダ」がつく動詞も「勉強する、買う、進む」などのような意志的な動作を表わす動詞が中心となる。

例) ①「アリさんは、大学院に　進む　つもりですか。」(20 課；175)
①′「アリさんは、大学院に　進もうと　思って　いますか。」
②「経営学を　専門に　べんきょうする　つもりです。」(20 課；174)
②′「経営学を　専門に　べんきょうしようと　思って　います。」

20 課の「ぶんけい・ごい」では例③、④のような、動詞が肯定形であるものと否定形であるもの、⑤のような疑問文を出している。

例) ③「わたしは　大学院で　東洋史を　専門に　べんきょうする　つもりです。」(20 課；176)
④「わたしは　大学院には　進まない　つもりです。」(20 課；176)
⑤「あなたは　外国に　留学する　つもりですか。」(20 課；176)

3.11.13. 伝聞

「～ソウダ」(全 4 例)

「伝聞」を表わす表現として「～ソウダ」があらわれている。<表 78>に「～ソウダ」がつく動詞を示す。

表 78 「伝聞」を表わす表現と動詞

「伝聞」を表わす表現	初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
～ソウダ	26	ある、着る、やる	3	3
	26	くる※	1	1
計			4 語	4 例

「伝聞」を表わす「～ソウダ」は教科書の後半で数例があげられており、26 課で 3 例、27 例で 1 例が出ている。本教科書には例)①、②のように伝聞の根拠となる情報源がはっきり示されているものが 3 例、例)③のように情報源が示されていないものが 1 例出ている。26 課の例はすべてが情報源が示されているもので、「～によると／～の話では／～の説明では　～ソウダ」という使い方を教えている。

例) ①「ニュースに　よると、未成年者の　交通事故が　増えて　きた　そうです。」(26 課；232)

②「山田さんの　説明では、ちかごろ　若い　女性は　一人で　和服を　着られない　そうです。」(26 課；232)

③「実験などは、クラブ活動でも　やる　そうですが、この　学校の　場合はいかがですか。」(27 課；238)

26 課の「ぶんけい・ごい」では例)①、②のように、動詞の肯定形につくものや否定形につくものをあげており、続いてイ形容詞やナ形容詞、名詞の例も同様なあげ方をしている。

3.12. 敬譲

本教科書に紹介されている「敬譲」表現は、尊敬表現の助動詞「～サレル」、動詞連用形に「オ、御」のような接頭辞や「スル、クダサイ、イタダク、ニナル」をつけて尊敬表現を作る「オースル、御ースル、オークダサイ、御ークダサイ、オーイタダク、御ーイタダク、オーニナル」、サ行変格活用動詞の「スル」を「ナサル」に変えて作る「～ナサル」である。

＜表 79＞に「敬譲」表現と当該の表現がつく動詞を示す。

表 79 「敬譲」表現と動詞

「敬譲」表現		初出の課	動詞のそれぞれの語数	動詞の異なり語数	例文の数
(A)	～サレル	28	行く、帰る、来る、する、喜ぶ	5	5
		28	おく※、しまう※	2	2
(B)	オースル	4	お願いする(4)、おまいりする(4)、会う(2)、祝う(2)、送る(2)、渡す(2)、うかがう、知らせる、てつだう、見せる、持つ	11	21
	御ースル	28	相談する、れんらくする	2	2
	オークダサイ	28	かける、使う、乗る	3	3
	御ークダサイ	28	安心する、れんらくする	2	2
	オーイタダク	Y10	知らせる	1	1
	御ーイタダク	Y10	招待する	1	1
	オーニナル	28	帰る、作る、喜ぶ	3	3
	～ナサル	28	感心する、さんぽする	2	2
計				32 語	42 例

(A)「～サレル」(全 7 例)

動詞の未然形に助動詞「～サレル」をつけて「敬譲」表現を作るものがある。本教科書では 28 課で 7 例がとりあげられている。<表 79>からも確認できるように 28 課では本表現を含めて多様な敬譲表現が紹介されていて、「ぶんけい・ごい」でも多くの敬譲表現をとりあげている。「～サレル」は例)①、②のように本動詞として用いられる場合が 5 例、例)③のように補助動詞として用いられる場合が 2 例出ている。全 7 例中 6 例が「ぶんけい・ごい」であげられており、動詞の活用形が異なるものや本動詞・補助動詞として用いられるものを意識してあげている。しかし五段動詞、カ行変格動詞、サ行変格動詞の例があげられているが、例)④、⑤のような一段動詞の例は出ていない。

例) ①「あの　方は　喜ばれるでしょう。」(28 課；249)
②「先生は　毎朝　さんぽを　されます。」(28 課；249)
③「先生は　もう　論文を　書いて　しまわれました。」(28 課；249)
④「博物館の　中は　もう　見られましたか。」(作例)
⑤「この　スーツも　着て　みられますか。」(作例)

(B)「オースル、御ースル、オークダサイ、御ークダサイ、オーイタダク、御ーイタダク、オーニナル、～ナサル」(全 35 例)

動詞に「オ、御」のような接頭辞や「スル、クダサイ、イタダク、ニナル」をつけて「オースル、御ースル、オークダサイ、御ークダサイ、オーイタダク、御ーイタダク、オーニナル」という「敬譲」表現を作るものがある。また、サ行変格活用動詞の「スル」を「ナサル」に変えて作る「～ナサル」があり、本節ではこれらの敬譲表現についてみていく。

以上の敬譲表現のうち、「謙譲」表現である「オースル」は例)①が 4 課で最初にとりあげられていて、その後 16 課、22 課、24 課、26 課、28 課、読み物 10 で計 21 例が紹介されている。4 課で例)①をあげているのは「おねがいします」[54]という表現から元々の動詞「願う」をとりだし「願う」の敬譲表現として教えることを意図しているのではなく、日常で頻繁に用いられる「おねがいします」という決まった表現を初級の早い段階から教えることを意図していると思われる。なお、例)①の「おねがいします」は挨拶表現ではなく、「カメラのシャッターを押してほしい」という、相手に具体的なある動作を行なうように頼む表現である。4 課でこのような表現が紹介されてから 15 課までこの表現はあらわれておらず、再び 16 課で同じ「おねがいします」が 1 例紹介されている。その後、22 課から「てつだう、会う、知らせる」のような動詞を用いた「オースル」が教えられている。例)③の

[54] 4 課では例)①以外に、「すみません。おねがいします。――はい。」(4 課；29)という表現の中で単独で用いられる「おねがいします」も紹介されているが、前後の文脈がない為本報告ではこれを「挨拶表現」として分類している。なお、「挨拶表現」についてはアクマタリエワ　ジャクシルク・金俸呈・辺純影(編著)、早津恵美子(監修)(2010)の<資料 2>「動詞を含む挨拶ことば」を参照していただきたい。

「おまいりする」は「おねがいする」のようにそれ自体決まった表現として定着されており、例)④、⑤のような動詞の「敬譲」表現とはその性質が異なることも重要である。28 課の「ぶんけい・ごい」では以下の例)④、⑤の二つの例があげられており、動詞の活用形が異なる二つの例をあげている。

例) ①「カメラの　シャッターを　おねがいします。」(4 課 ; 26)
②「ねんれいと　こくせきも　おねがいします。」(16 課 ; 133)
③「お正月に　いっしょに　おまいりできて、楽しかったですね。」(26 課 ; 229)
④「すぐ　結果を　お知らせします。」(28 課 ; 250)
⑤「お荷物を　お持ちしましょう。」(28 課 ; 250)

「オースル」という敬譲表現を作りにくい動詞もあり、教える側は注意する必要がある。例えば、「帰る、喜ぶ、泣く、感じる、見る、驚く」のような動詞は「オースル」という敬譲表現を作りにくい動詞としてあげることができる。「おねがいする」や「おまいりする」は特別なものとして除外して、「オースル」という敬譲表現を作ることができる動詞は主に、動作の相手が存在しているか、相手と一緒に行なう動作を表わす動詞である。

和語動詞と組み合わさり敬譲表現を作る「オースル」とは別に、漢語動詞と組み合わさる「御ースル」も紹介されている。「御ースル」は 28 課の「ぶんけい・ごい」で紹介されている 2 例のみで、次の例)⑥、⑦である。

例) ⑥「先生に　御相談します。」(28 課 ; 250)
⑦「すぐ　結果を　御れんらくします。」(28 課 ; 250)

「御ースル」を作ることができない動詞も「オースル」の場合と似ており、「案内する、説明する」のような動詞とは組み合わさるが、動作主の単独の動作である場合の「注意する、安心する、生活する」のような動詞とは組み合わさらない。

続いて、「尊敬」を表わす敬譲表現の「オークダサイ」、「御ークダサイ」をみると、すべての例が 28 課でとりあげられている。「オークダサイ」の場合、相手にある動作を行なうように勧める表現が 3 例紹介されていて、例)⑪(作例)のような依頼表現や例)⑫(作例)のような指示という性格が強い表現は出ていない。

例) ⑧「どうぞ　そこに　おかけください。」(28 課 ; 246)
⑨「どうぞ　この　電話を　お使いください。」(28 課 ; 250)
⑩「どうぞ　この　車に　お乗りください。」(28 課 ; 250)
⑪「マナーさんから　連絡が　きたら　私にも　お知らせください。」(作例)
⑫「もう　夜 10 時です。早く　お帰りください。」(作例)

「御ークダサイ」の例は次のような 2 例があらわれており、例)⑬のように願望の意味が含まれている指示表現や例)⑭のような依頼表現が紹介されている。

例）⑬「どうぞ　御安心ください。」(28 課；250)
⑭「すぐ　御れんらくください。」(28 課；250)

また、「オーイタダク」、「御ーイタダク」という「尊敬」表現は読み物 10 で各 1 例ずつ出ている。「オーイタダク」は「シテイタダケマセンカ」という希求表現と重なって用いられている例文があげられている。また「御ーイタダク」は漢語サ変動詞「招待する」からの漢語名詞と組み合わさった、日常でよく耳にすることができる表現が紹介されている。これらは非常に丁寧度が高い尊敬表現であり、教科書の中で一番最後の方で教えられている。

例）⑮「御都合の　よい　日を　お知らせいただけませんでしょうか。」(Y10；283)
⑯「先日は　花火見物に　御招待いただきまして、ありがとう　ございました。」(Y10；282)

次に、同じく「尊敬」を表わす敬譲表現「オーニナル」は次の例⑰、⑱、⑲のような例が出ていて、これらもすべて 28 課に出ている。すべての例には動作主体があらわれていて、相手の動作に対する尊敬表現であることが分かりやすく示されている。

例）⑰「こんなに　たくさん、おく様が　お作りになったんですか。」(28 課；247)
⑱「あの　方は　お喜びになるでしょう。」(28 課；249)
⑲「先生は、来月、国へ　お帰りになります。」(28 課；249)

最後に、もう一つの敬譲表現「～ナサル」に入り、教科書には漢語サ変動詞「感心する、さんぽする」の 2 例が 28 課で紹介されている。これらの動詞の「スル」を「ナサル」に変えて尊敬表現を作っており、教科書にはこれらの動詞以外にも同じく敬譲表現を作ることができる数多くの動詞が存在する。例えば教科書に出ている 2 字漢語サ変動詞「案内する、出席する、翻訳する」なども同じく「～ナサル」表現を作ることができる。しかし、1 字漢語動詞「愛する、存ずる」のようなものは用いられないことも紹介できる。

例）⑳「ほかの　先生方も　感心なさった　らしいですよ。」(28 課；246)
㉑「あの　方は　いつも　この　道を　さんぽなさいます。」(28 課；249)

以上で述べてきた「敬譲」表現は形態的なカテゴリーとしての敬譲表現である。動詞の形態的な形ではなく、動詞自体が敬譲表現として働く、「語彙的な敬語」も存在する。本教科書でも「語彙的な敬語」が複数紹介されており、その多くが 28 課で導入され、形態的なカテゴリーとしての敬譲表現と同じ課で教えられている。＜表 80＞にその動詞と初出の課、教科書に出ている例文を示す。

本報告では「語彙的な敬語」については＜表 80＞で簡単に紹介するに留める。

表 80 語彙的な敬語

語彙的な敬語	敬語の動詞	初出の課	普通の動詞との関係	例文の数	教科書に出ている例文
尊敬語	イラッシャル[55]	16	「行く」の尊敬語	3	「先生は、来週、京都へ　いらっしゃいます。」(28 課；249)
		20	「来る」の尊敬語	3	「あ、アリさん。よく　いらっしゃいました。」(20 課；173)
		19	「いる」の尊敬語	2	「ごかぞくは　どちらに　いらっしゃいますか。」(19 課；162)
	オッシャル	28	「言う」の尊敬語	2	「先生は　何と　おっしゃいましたか。」(28 課；249)
	ゴランニナル	28	「見る」の尊敬語	1	「先生は　写真を　御らんになりました。」(28 課；249)
	ナサル	28	「する」、「なす」の尊敬語	2	「どうぞ　お体を　大切に　なさって　くださいますように。」(Y10；282)
	メシアガル	28	「食べる」、「飲む」の尊敬語	2	「何も　ありませんが、召し上がって　ください。」(28 課；247)
謙譲語	イタス	28	「する」の謙譲語	1	「皆で　かんぱいを　いたしました。」(28 課；250)
	イタダク	28	「食べる」、「飲む」の謙譲語	3	「先生の　お宅で　コーヒーとおかしを　いただきました。」(28 課；250)
		22	「もらう」の謙譲語	2	「わたしは　先生から　本を　いただきました。」(22 課；196)
	ウカガウ	28	「訪ねる」の謙譲語	5	「マリアさん、一度、いとう先生のお宅に　うかがいませんか。」(28 課；246)
		13	「聞く」の謙譲語	2	「ちょっと　うかがいますが。」(13 課；109)
	オル	28	「いる」の謙譲語	1	「ずっと　ここに　おります。」(28 課；250)

[55] 補助動詞として用いられるものは示していない。以下の、他の動詞も同様。

	サシアゲル	22	「あげる」の謙譲語	3	「わたしは　先生に　絵はがきをさしあげました。」(22 課；196)
	ゾンズル	Y10	「思う」、「考える」の謙譲語	1	「朝夕　だいぶ　すずしく　なって　まいりましたが、お元気の　ことと　ぞんじます。」(Y10；283)
	マイル	28	「行く」の謙譲語	1	「すぐ　そちらへ　参ります。」(28 課；250)
		28	「来る」の謙譲語	1	「さっき　こちらへ　参りました。」(28 課；250)
	モウス	28	「言う」の謙譲語	1	「私は　田中と　申します。」(28 課；250)
計				36 例	

4. おわりに

本報告は、『初級日本語(新装版)』において、動詞の文法的な性質(すなわち統語論的な性質と形態論的な性質)がどのように指導あるいは提出されているかを、できるだけ網羅的に調査した報告である。先に、『初級教科書の語彙分析―動詞編(1)語彙的な性質―』(2010:「前報告」とよぶ)においては、同じ教科書を対象として動詞の語彙的な性質を調査して報告した。両報告は、単語は、語彙的な性質と文法的な性質とをあわせもったもの、すなわち言語における、語彙・文法的な単位であるという立場にたって動詞の語彙的な性質と文法的な性質とをそれぞれ分析したものであり、対をなしている。以下に述べることは、前報告の「おわりに」の内容と重なる点もあるがあらためて述べることにする。

前報告でも、あるいは本報告の「はじめに」でも述べたように、1冊の初級日本語教科書について、そこに提出されている動詞を網羅的にとりあげてそれについて語彙論的・文法論的な観点から分析を行なった研究・調査はこれまでになされたことがないように思われ、日本語教育の分野において初の試みではないかと思う。

以下に、本報告作成担当者らの考える本報告の具体的な意義をまとめる。

①『初級日本語(新装版)』の利用を想定したときの意義

直接的な利便の点では、この教科書を使って教える際に役に立つ資料となる。

初級教科書のすべてがいわゆる文法シラバスにもとづいて作られているわけではないが、初級段階で指導すべき文法事項が設定され、それらを適切な順序に配置して順に導入していくというかたちになっている教科書も少なくない。そういった構成をとることによって、日本語の文法的な性質を体系的に習得できるよう工夫されている。文法は、単語を使って文を組み立てるときの決まりの総体であり、単語をどのような形に整えて(形態論的)、それをどのように組み立てるか(統語論的)ということである。日本語では、形態論的な性質が豊かであり、とりわけ動詞は様々な形をとって多様な文法的な意味を表わす。したがって日本語教育においても、動詞の形態論的な形(テ形、受身形、使役形、否定形、可能形、意向形、条件形、など)の指導が文法指導において重要となる。また、動詞と名詞を使って文をつくるとき、名詞のどのような格形式(ガ格、ヲ格、ニ格、デ格、など)と組み合わせるのかは動詞の種類ごとに決まっており、それを習得することも大切なことである。前者が形態論的な性質、後者が統語論的な性質であって、それらの指導は日本語教育において常に行われていることである。

文法事項を指導するときには、もちろん、具体的な単語を使って、どのような形がどのような文法的な意味を表わすのかが指導され、一方で、どのような単語を組み合わせて文をつくるのかが指導される。その際に、実際にどの単語を使って文法事項を導入・指導するかは、1冊の教科書のなかで、体系的に厳密に決められているわけではおそらくない。

とくに初級段階では、一定の文法事項を習得させることを優先させざるを得ないので、それはむしろ当然のことといえる。しかし、ある文法事項の導入にあたってどんな単語が使われているのか、あるいは、その文法事項の定着のための練習として、教科書に導入文として使われている単語以外にどのような単語(とくに当該の課までに既習の単語)を使うことができるのか、といったことを教師の側が意識しておくことは必要なことである。そのためには、その教科書の中でどのような単語がどのような文法カテゴリーを表わすものとして使われているのかが整理されていると便利である。本報告はそういった役目をはたせることを目指している。実際の教育現場では、教師個人の経験や、あるいは学校・学科といった単位の教師グループの蓄積にもとづいてこういったことがなされているのだと思われる。それらが重要であることは勿論だが、意識的に文法論的な観点から教科書全体の動詞をみわたして単語の文法的な性質を分析整理した結果があれば、より適切に過不足なく文法事項の導入や練習の案を作ることができる。

②『初級日本語』の利用を想定しないときの意義

本報告は、あくまで『初級日本語』という一つの教科書のみを対象とするものである。そのため、この教科書を使わない教師に、「①」であげたような、直接的な利便を提供するものにはならないかもしれない。

このプロジェクトをすすめる方向として、教育現場でひろく使われている、様々な日本語初級教科書を、いわば「ひろく浅く」分析するという方法もありえた。また、そのほうが、「現場ですぐ使える」報告が可能であったかもしれない。しかし、そうではなく、まず一つの教科書を、徹底的に分析するという方法を採用した。理由は、以下の 2 点にある。

一つは、これまで、文法論に依拠し可能な限り客観的に、教科書に提出されているすべての単語を分析するということがあまりなされていないとすれば、まず、信頼できる分析のモデルケース・ひな形を提供する必要があると考えたからである。今後、この報告を足がかりに、われわれプロジェクトグループが他の教科書を分析することが可能である。同時に、この報告をご覧になった方が、自分の使用している初級教科書を分析するさいに参考にしていただけるのではないかと思う。

もう一つは、教科書を問わず、文法を教える際に問題となる点を見いだそうとする際にも、そういった一般的な問題は、ある個別の分析対象(この場合、教科書)を、経験や主観ではなく理論的な(言語学的な)観点から詳細に丁寧に分析することによってのみ、浮かび上がってくるものであると考えたからである。むろん、一つの教科書で十分、というわけではないが、多くの教科書を個人の経験や主観によって「ひろく浅く」見たのでは気づかない知見を見いだすことができたと考える。

こういった「教科書分析のモデルケース・ひな形の提供」、「一般的な問題を見いだす手段としての、理論的な観点からの個別事象の詳細な分析」という 2 点において、本報告は、『初級日本語(新装版)』を使用しない教師に対しても貢献しうると考える。

以上、私たちは『初級日本語(新装版)』の分析を行ない、本報告を作成した。今回の調査のデータが今後、初級日本語教材を選択する際や、日本語を教える際に少しでも参考になれば幸いである。

＜文献＞

調査対象

東京外国語大学留学生日本語教育センター編著(1994)『初級日本語(新装版)』, 凡人社.

参考文献

アクマタリエワ　ジャクシルク・金俸呈・辺純影(編著), 早津恵美子(監修)(2010)『初級教科書の語彙分析－動詞編(1)語彙的な性質－』(コーパスに基づく言語学教育研究資料 2), 東京外国語大学大学院総合国際学研究院.

奥田靖雄(1968-1972)「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」『教育国語』12, 13, 15, 20, 21, 23, 25, 26, 28, 教育科学研究会国語部会(再録：言語学研究会編(1983)『日本語文法・連語論(資料編)』pp.21-149, むぎ書房).

———(1984)『ことばの研究・序説』, むぎ書房(「言語における形式」(1973) pp.31-40,「単語をめぐって」(1974) pp.41-51, 「言語の単位としての連語」(1976) pp.67-84,「意味と機能」(1979) pp.159-169, 「言語の体系性」(1980-1981) pp.189-226, を所収).

柏崎雅世(1991)「「(て)下さい」について－行動要求表現における機能分析」『日本語学科年報』13, pp.81-95, 東京外国語大学.

教科研・群馬国語部会・語い研究サークル(1977)『にっぽんご 6 語い』, むぎ書房.

教科研東京国語部会・言語教育研究サークル(1964)『語彙教育 その内容と方法』, 麦書房.

工藤浩(2002)「日本語構文論入門 2002－ 第三章。文の階層性。3.2 文の四段階と文法的カテゴリー」,《三鷹日本語研究所》. 以下のホームページ参照.
http://www.ab.cyberhome.ne.jp/~kudohiro/syntax02.html

桑畑和佳子・橋本三奈子・村田賢一(1993)「計算機用日本語辞書の開発」『情報処理学会研究報告』93(42), pp.27-34, 社団法人情報処理学会.

国際交流基金(2002)『日本語能力試験　出題基準[改訂版]』, 凡人社.

国立国語研究所(2004)『分類語彙表－増補改訂版－』, 大日本図書.

情報処理振興事業協会技術センター(1987)『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic Verbs)』辞書編, 解説編, 情報処理振興事業協会技術センター.

須賀一好・早津恵美子編(1995)『動詞の自他』, ひつじ書房.

鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』, むぎ書房.

田中章夫(1989)「語彙」宮地裕編『講座 日本語と日本語教育 1 日本語学要説』, pp.120-146, 明治書院.

日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』, くろしお出版.

早津恵美子(2009)「語彙と文法との関わり—カテゴリカルな意味—」『政大日本研究【第六號】』, pp.1-70, (台湾)国立政治大學日本語文學系.

早津恵美子・アクマタリエワ　ジャクシルク・金俸呈・陳尚希・辺純影(2009)「『初級日本語』の動詞の語彙論的な性質」『コーパスに基づく言語学教育研究報告 3 フィールド調査、言語コーパス、言語情報学』, 峰岸真琴・川口裕司編, pp.155－181, 東京外国語大学大学院総合国際学研究院.
前田広幸(1990)「「～て下さい」と「お～下さい」」『日本語学』5 月号, pp.43-53. 明治書院.
村木新次郎(1991)『日本語動詞の諸相』, ひつじ書房.
森山卓郎・仁田義雄・工藤浩(2000)『日本語の文法 3　モダリティ』, 岩波書店.
日本学術振興会ホームページ　http://www.jsps.go.jp/j-globalcoe/index.html

辞典

大野晋・浜西正人著(2002)『類語国語辞典　第 15 版』, 角川書店. (初版 1985 年).
小泉保・船城道雄・本田畠治・仁田義雄・塚本秀樹編(1989)『日本語基本動詞用法辞典』, 大修館書店.
国語学会・『国語学辞典』編集委員会編(1963)『国語学辞典　訂正 10 版』, 東京堂. (初版 1955 年).
柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄編(2005)『新明解 国語辞典 第六版』, 三省堂. (初版 1972 年).
徳川宗賢・宮島達夫編(1972)『類義語辞典　再版』, 東京堂出版. (初版 1972 年).
日本語教育学会編(2005)『新版 日本語教育事典』, 大修館書店.
久松潜一(1982)『新潮国語辞典 －現代語・古語－　新装改訂』, 新潮社. (初版 1965 年).
松村明・山口明穂他編(1992)『旺文社国語辞典　第 8 版』, 旺文社. (初版 1960 年).
米川明彦・大谷伊都子編(2005)『日本語慣用句辞典』, 東京堂出版.

資料１　形態論的な形の提出課

＜表 81～84＞は各々の文法的な意味を表わす形が出ている課を記号で示したものである。表の中の記号「●」、「◫」、「◨」、「◧」が表わす意味は以下のとおりである。

＜表 81～84＞における記号について

●：当該のカテゴリーが、指導事項としてとりあげられている課
◫：当該のカテゴリーが、本文と「ぶんけい・ごい」でともに用いられている課
◨：当該のカテゴリーが、本文中で用いられている課
◧：当該のカテゴリーが、「ぶんけい・ごい」の例文で用いられている課

なお、本教科書の１課、2 課には動詞が提示されていないので、表には示さない。

表 81　形態論的なカテゴリーがとりあげられている課の詳細（前半）

形態論的なカテゴリー／課			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ヴォイス	受身	サレル																
	使役	サセル																
	可能	デキル													◫	◧		●
		スルコトガデキル													◫			●
アスペクト		シテイル						◨			●	◧	●	◫	◫	●	◫	◨
		シテイラッシャル[56]																
		シテオル																
		シテアル																
		シテシマウ																
		シテイク			●						●			◫	◧	●		
		シテマイル																
		シテクル									●				◨	●	◨	
		シテイラッシャル[57]																
		シテカエル									●					●		
もくろみ		シテミル												●		◨	◧	◫
		シテオク																
		シナイデオク																
やりもらい		シテアゲル																
		シテクレル																
		シテモラウ																
		シテヤル																
		シテクダサル																
		シテイタダク																

56 「シテイル」の意味の場合である。
57 「シテクル」の意味の場合である。

19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5	Y6	Y7	Y8	Y9	Y10
					●	◨	◨		◧								◨	◨	◨
								●	◨								◨		
◫	◧	◫	◫	◨	◧	◧	◫	◨	◧				◨	◨			◨		◨
													◨					◨	
◫	◫	◫	◫	●	◫	◫	◫	◫	◫	◨	◨	◨	◨	◨	◨	◨	◨	◨	◨
									●										
									●										◨
			●	◨	◨			◫											
					●	◧			●									◨	◨
			◧	◨	◨	●							◨	◨			◨	◨	
									●										◨
			◨		◧	●	◧	◧	◧					◨	◨		◨	◨	
									●										
	◧	◫		◨		◫		◨	◧									◨	
			●	◨					◨										
			●																
			●															◨	
			●															◨	
			●		◧	◧												◨	
			●					◧	◨							◨			
			●															◨	
			●					◧								◨			
			●		◨				◧							◨		◨	◨

表 82 形態論的なカテゴリーがとりあげられている課の詳細(後半)

形態論的なカテゴリー／課		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
条件・逆条件	シタラ																●
	スルト																
	スルナラ																
	シナイナラ																
	スレバ																
	シテモ													●			
	シナクテモ													●			
中止	シテ									●		◫	◨	◧	◨	◨	
	シナクテ																
	セズニ																
	シナイデ																
	シ																
並列・同時	シタリ										●		◨	◨	◨		◨
	シナガラ																
	シタママ																
目標達成	スルタメニ																
	スルノニ																
	シニ								●	◨	◨					◧	◨
	スルヨウニ																
	シナイヨウニ																
	スルヨウニ命ジル																
	シナイヨウニ命ジル																
	スルヨウニナル																●
形式名詞によるアスペクト	スルトコロ																
	シテイルトコロ																
	シタトコロ																
	シタバカリ																

19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5	Y6	Y7	Y8	Y9	Y10
	◨	◫	◨					◧					◨		◨			◨	◨
●	◨					◫	◨	◨						◨	◨	◨			
		●																	
		●																	
		●													◨		◨		
		◫						◧							◨				
		◧																	
◨	●		◫		●	◨	◨	◫	◫		◨	◨	◨	◨	◨	◨	◨	◨	◨
					●														
	●				◧	◧									◧				
	●																		
																◨		◨	
	◨		◨		◨	◨							◨		◨	◨	◨	◨	
●														◨				◨	
					●													◨	
	●	◨																	
				●															
◧	◨	◧		◨		◨													
			●																
			●																
							●												◨
							●												
							◨										◨	◨	◨
						●												◨	
						●													
						●													
									●										

表 83　モーダルな意味を表わす表現がとりあげられている課の詳細

形態論的なカテゴリー＼課		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
希求	シテクダサイ								●	◫	◫	◫	◨	◫	◧	◫
	シナイデクダサイ								●		◧				◧	◧
	シテクダサイマセンカ														◨	
	シテイタダケマセンカ															
	シテクレ															
許容	シテモイイ												●	◧		
	シナクテモイイ													●		
	シテモカマワナイ												●	◨		
	シナクテモカマワナイ													●		
	シタッテイイ															
	シタッテカマワナイ															
不許容	シテハイケナイ												●	◧		◧
	シテハダメ												●			
当為	シナケレバナラナイ													●		
願望	シタイ												●	◫	◨	◨
	シタガル															
誘いかけ	シマショウ		●		◨	◨	◨	◨	◫	◫	◨	◧	◧	◧	◫	◫
	シマショウカ									●			◨			
	シマセンカ															
	ショウ															
命令	シナサイ												●			◧
様態	シソウダ															
	～ヨウダ															
推量	～デショウ							●		◨				◫	◫	◨
	～ダロウ															
推定	～ラシイ															
推論	～ハズダ															
確信度	～カモシレナイ															
意図	シマショウ						●					◨				
	ショウ(ト)															
	～ツモリダ															
伝聞	～ソウダ															

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5	Y6	Y7	Y8	Y9	Y10
◨	◨	◫	◫	◫	◫	◫	◫	◧	◫	◫									◨	◨
		◧		◧		◧													◨	
									●										◨	
				●																◨
																			◨	
	◨																		◨	
										●										
										●										
	◧	◧				◧			◧	●										
										●										
		◧	◨		◧	◧	◨	◧	◧						◨	◨		◨		
	◫	◧	◫	◫		◧		◫	◫	◨									◨	◨
							●			◨										
◫	◫	◧	◫	◫	◨	◫	◨	◫	◧	◫										
										◫										
	●			◨	◨		◫			◫										
				◨						◨										
		◧	◧			◧			◧											
					●			◨												
							●													
		◨	◫	◨	◨		◫			◧										
								●									◨	◨	◨	◨
										●										
									●										◨	
			●						◧										◨	
				●					◨	◧										
		●								◧									◨	◨
		●	◫			◫	◧	◧												
								●	◨											

表 84 「敬譲」表現がとりあげられている課の詳細

形態論的なカテゴリー＼課		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
敬譲	～サレル															
	オークダサイ															
	御ークダサイ															
	オーイタダク															
	御ーイタダク															
	オースル		◨												◨	
	御ースル															
	オーニナル															
	～ナサル															

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5	Y6	Y7	Y8	Y9	Y10
										●										
										●										
										●										
																				◨
																				◨
				●		◨		◨		●										◨
										●										
										●										
										●										

資料 2　本動詞の文法的な意味分析データ

＜資料 2＞の欄の説明
(本文の＜表 1＞の下の説明と同様)

A 欄　:動詞の語頭音(カタカナ)

B 欄　:動詞の辞書形(ひらがな)

C 欄　:教科書本文での表記(辞書形)

当該の動詞が教科書本文で漢字表記されている場合は C 欄に漢字で記してある。

D 欄　:活用の種類

活用の種類は以下のとおりである(丸括弧内は表中での略号)。

五段活用(五)、上一段活用(上一)、下一段活用(下一)、カ行変格活用(カ変)、サ行変格活用(サ変)

E 欄　:当該の動詞が使われている文

E 欄には当該の動詞が使われている文を原則としてそのまま抜き出しているが、文が非常に長い場合は、一部を省略し「……」で示している。なお、教科書では後半の 1／3 の課は分かち書きにしていないが、この欄ではすべて分かち書きにした。

F 欄　:課

当該の動詞が提示されている課を示している。「Y」は「読み物」を指す。

G 欄　:ページ数

当該の動詞が提示されているページ数を示している。

H 欄　:ヴォイス、アスペクト、条件などを表わす形態論的な形

当該の動詞が、「ヴォイス」、「アスペクト」、「条件」などを表わす形態論的な形である場合、その形を示す。2 つ以上の形がある場合もすべて記する。

I 欄　:モーダルな意味(希求、許容など)、謙譲を表わす形態論的な形

当該の動詞が、モーダルな意味(希求、許容など)、謙譲を表わす形態論的な形である場合、その形を示す。H 欄と同様、2 つ以上の形がある場合もすべて記する。

J 欄　:基本的な文型

当該の動詞にとって必須と思われる項(ガ格、ヲ格、ニ格など)をとりだして提示する。「それぞれの項の名詞に関しては、カテゴリカルな意味をとりだし、「《　》」の中に示す。慣用的な表現に関しては、「慣：」の後に、固定している組み合わせをそのまま示す。なお、同じ文型が繰り返される場合には、「〃」という記号で示す。

K 欄　:教科書の中の文型

J 欄の「基本的な文型」をもとにするが、教科書の中に出ている形を尊重して示す。例えば、「は」「も」などの取り立て助詞で表わされている場合には、そのまま示し、J 欄で必須項として出しているものでも、教科書の中の文に出ていない場合には、出ている項のみを示す。また、それぞれの項の名詞に関しては、J 欄で示した、カテゴリカルな意味を「《　》」の中に記する。ただし、ある程度限定されている、あるいは、指導上注意したほうがよいと思われる名詞が出ている場合には、カテゴリカルな意味の後に、「：」で続け、名詞の下位分類を示す(「《○：○》」)。かなり特殊な名詞に関しては、下位分類、および、本教科書の中の名詞そのものを両方示す場合もある(「《○：○：○》」)。慣用的な表現に関しては、J 欄と同様、「慣：」の後に、固定している組み合わせをそのまま示す。

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1	ア	あいする	愛する	サ変	この　歌は　若い　人たちに　愛されて　います。	24	215	サレル、シテイル		《人》が　《人／物／事》を　愛する	《人》が　《物：歌》を　愛する
2	ア	あう	会う	五	では、十二月に　会いましょう。	9	73		シマショウ(誘いかけ)	《人》が　《人》と／に　会う	会う
3	ア	あう	会う	五	いつか　ひまな　時、会いましょう。	13	112		シマショウ(誘いかけ)	〃	会う
4	ア	あう	会う	五	小林さんは　仕事中なので、会えません。	20	179	デキル		〃	会う
5	ア	あう	会う	五	三学期に、また　会いましょう。	24	212		シマショウ(誘いかけ)	〃	会う
6	ア	あう	会う	五	去年、大学祭で　お会いした　時、うかがう　約束を　しましたね。	28	246		オ-スル	〃	会う
7	ア	あう	会う	五	この　次に　お会いした　時、お渡ししようと　思って　おります。	Y10	282		オ-スル	〃	会う
8	ア	あう	会う	五	やまださんの　お母さんに　会いましたか。	8	64			〃	《人》に　会う
9	ア	あう	会う	五	あなたに　会えて、うれしいです。	24	217	デキル、シテ		〃	《人》に　会う
10	ア	あう	会う	五	マナさんに　会えなくて、ざんねんでした。	24	217	デキル、シテ		〃	《人》に　会う
11	ア	あう	会う	五	マリアさんにも　会ったの。	28	248			〃	《人》に　会う
12	ア	あう	会う	五	マナさんは　バスの　中で　先生に　会いました。	8	67			〃	《人》は　《人》に　会う
13	ア	あう	会う	五	わたしは　来年　国へ　かぞくに　会いに　かえります。	10	85	シニ		〃	《人》は　《人》に　会う
14	ア	あう	会う	五	マナさんは　こうえんで　ともだちと　会いました。	8	67			〃	《人》は　《人》と　会う
15	ア	あう	会う	五	よる、人と　会った　時、「こんばんは。」と　あいさつを　します。	15	128			〃	《人》と　会う
16	ア	あう	あう	五	学校へ　行く　途中で、事故に　あいました。	26	233			《人》が　《事》に　あう	《事：事故》に　あう
17	ア	あう	あう	五	大きな　神社へ　行ったのですが、ひどい　目に　あって　しまいました。	24	210	シテシマウ		慣：ひどい　目に　あう	慣：ひどい　目に　あう
18	ア	あう	あう	五	去年、やまださんは、神社に　おまいりに　行った　時、ひどい　目に　あいました。	24	213			〃	慣：ひどい　目に　あう
19	ア	あがる	上がる	五	べんきょうしても、せいせきが　上がらないでしょう。	21	187		～デショウ	《事》が　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　上がる	《事：成績》が　上がる
20	ア	あがる	上がる	五	べんきょうしなくても、せいせきが　上がるでしょう。	21	187		～デショウ	〃	《事：成績》が　上がる
21	ア	あがる	上がる	五	弟は　よく　勉強しました。それなのに、せいせきが　上がりませんでした。	25	225			〃	《事：成績》が　上がる
22	ア	あがる	上がる	五	弟は、よく　勉強したのに、せいせきが　上がりませんでした。	25	225			〃	《事：成績》が　上がる
23	ア	あがる	上がる	五	来年は　たぶん　物価が　上がるだろうと　思います。	26	233		～ダロウ	〃	《事：物価》が　上がる
24	ア	あがる	あがる	五	あの　時は、あがって　しまって、うまく　できませんでした。	28	247	シテシマウ		《人》が　あがる	あがる
25	ア	あく	開く	五	風が　ふいて、戸が　開きました。今、戸が　開いて　います。	22	198	シテイル		《物》が　開く	《物：戸》が　開く
26	ア	あく	開く	五	風が　ふいて、戸が　開きました。今、戸が　開いて　います。	22	198			〃	《物：戸》が　開く
27	ア	あく	開く	五	この　ドアは　開いたり　閉まったり　します。	12	102	シタリ		〃	《物：ドア》は　開く
28	ア	あける	開ける	下一	すみませんが、戸を　開けて　ください。	10	84		シテクダサイ	《人》が　《物》を　開ける	《物：戸》を　開ける
29	ア	あける	開ける	下一	暑いから、マナさんは　戸を　開けました。今、戸が　開けて　あります。	22	198			〃	《物：戸》を　開ける

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
30	ア	あける	開ける	下一	ドアを　開けた　まま、(閉めずに）外出しました。	24	216	シタママ		〃	《物:ドア》を　開ける
31	ア	あける	開ける	下一	それから、戸や　まどを　開けて、外へ　出る　用意を　した　方がいい。	Y6	271	シテ		〃	《物:戸・窓》を　開ける
32	ア	あける	開ける	下一	暑いから、マナさんは　戸を　開けました。今、戸が　開けて　あります。	22	198			〃	《人》は　《物:戸》を　開ける
33	ア	あける	開ける	下一	そう　思いながら、若者は　戸を　開けて　みました。	Y9	277	シテミル		〃	《人》は　《物:戸》を　開ける
34	ア	あける	開ける	下一	テキストの　十ページを　開けなさい。	14	121		シナサイ	〃	《物:ページ》を　開ける
35	ア	あける	開ける	下一	この　にんぎょうは　目や　口を　開けたり　閉じたり　します。	12	102	シタリ		《人》が　《物:身体部位》を　開ける	《人》は　《物:身体部位:目・口》を開ける
36	ア	あげる	あげる	下一	この　にんぎょうを　おねえさんの　子どもさんに　あげましょう。	8	64		シマショウ(意図)	《人》が　《人》に　《物》を　あげる	《人》に　《物》を　あげる
37	ア	あげる	あげる	下一	あなたに　この　にんぎょうを　あげましょう。	8	68		シマショウ(意図)	〃	《人》に　《物》を　あげる
38	ア	あげる	あげる	下一	今、友だちに　あげる　物を　さがして　います。	13	108			〃	《人》に　《物》を　あげる
39	ア	あげる	あげる	下一	これは　友だちに　あげる　おみやげです。	13	111			〃	《人》に　《物》を　あげる
40	ア	あげる	あげる	下一	小林さんは　だれに　はなを　あげましたか。	8	66			〃	《人》は　《人》に　《物》を　あげる
41	ア	あげる	あげる	下一	小林さんは　マリアさんに　はなを　あげました。	8	66			〃	《人》は　《人》に　《物》を　あげる
42	ア	あげる	あげる	下一	マナさんは　友だちに　きれいな　花を　あげました。	22	196			〃	《人》は　《人》に　《物》を　あげる
43	ア	あげる	あげる	下一	ともだちの　たんじょう日に　いつも　どんな　ものを　あげますか。	8	67			〃	《物》を　あげる
44	ア	あげる	あげる	下一	はなや　おかしを　あげます。	8	67			〃	《物》を　あげる
45	ア	あげる	あげる	下一	年の　終わりに　あげる　物を　何と　いいますか。	Y7	274			〃	《物》を　あげる
46	ア	あげる	あげる	下一	友だちが　びょうきに　なった　時、あげました。	15	125			〃	あげる
47	ア	あげる	あげる	下一	外国人の　中には、「日本人は、物を　あげたり、もらったり　するのが　好きな　国民だ。」と　言う　人も　いる。	Y7	273	シタリ		〃	《人》は　《物》を　あげる
48	ア	あげる	上げる	下一	さっき　部屋の　温度を　上げたから、あたたかい　はずです。	27	241			《人》が　《事》を　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　上げる	《事:温度》を　上げる
49	ア	あげる	あげる	下一	学生が　わかるように、れいを　あげて、説明しました。	22	198	シテ		慣:例を　あげる	慣:例を　あげる
50	ア	あげる	あげる	下一	いろいろと　例を　あげて　生徒に　考えさせる　やり方だった。	27	239	シテ		〃	慣:例を　あげる
51	ア	あそぶ	あそぶ	五	どんな　ところで　あそびましたか。	8	63			《人》が　遊ぶ	遊ぶ
52	ア	あそぶ	あそぶ	五	こうえんや　みちで　あそびました。	8	63			〃	遊ぶ
53	ア	あそぶ	あそぶ	五	どうぞ、また　あそびに　来て　ください。	20	175	シニ		〃	遊ぶ
54	ア	あそぶ	あそぶ	五	国へ　帰らないなら、わたしの　家へ　あそびに　来て　ください。	21	188	シニ		〃	遊ぶ
55	ア	あそぶ	あそぶ	五	それなら、わたしの　家へ　あそびに　来て　ください。	21	188	シニ		〃	遊ぶ
56	ア	あそぶ	遊ぶ	五	マナさんは　どうも　勉強が　きらいな　ようです。いつも　外で　遊んで　います。	25	224	シテイル		〃	遊ぶ
57	ア	あそぶ	あそぶ	五	やまださんは、子どもの　時、だれと、どんな　ところで　いっしょにあそびましたか。	8	65			〃	《人》は　《人》と　遊ぶ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
58	ア	あそぶ	あそぶ	五	わたしは　おとうとと　いっしょに　あそびました。	8	68			〃	《人》は《人》と　遊ぶ
59	ア	あそぶ	あそぶ	五	わたしは　おとうとと　あそびました。	8	68			〃	《人》は《人》と　遊ぶ
60	ア	あそぶ	あそぶ	五	マナさんは　子どもと　あそぶ　ことが　大好きです。	14	119			〃	《人》は《人》と　遊ぶ
61	ア	あそぶ	あそぶ	五	マナさんは　小さい　子どもと　あそぶ　ことが　上手です。	14	119			〃	《人》は《人》と　遊ぶ
62	ア	あそぶ	あそぶ	五	雪が　積もると、子どもたちは、どんな　ことを　して　あそびますか。	25	223			〃	《人》は　遊ぶ
63	ア	あそぶ	遊ぶ	五	弟は、勉強せずに、遊んでばかり　います。	25	224	シテイル		〃	《人》は　遊ぶ
64	ア	あそぶ	遊ぶ	五	でも、子どもは　自由に　遊ばせた　方が　いいと　思います。	27	238	サセル		〃	《人》は　遊ぶ
65	ア	あそぶ	あそぶ	五	まいにち　おとうとや　いもうとと　いっしょに　あそびました。	8	63			〃	《人》と　遊ぶ
66	ア	あそぶ	あそぶ	五	人が　おおぜい　あそびに　行きます。	Y2	262	シニ		〃	《人》が　遊ぶ
67	ア	あそぶ	あそぶ	五	いもうとは　一人で　あそびました。	8	68			〃	《人》は　一人で　遊ぶ
68	ア	あたる	当たる	五	ボールに　当たらないように、気を　つけた　方が　いいです。	22	198	シナイヨウニ		《人》が《物》に　当たる	《物》に　当たる
69	ア	あつまる	集まる	五	おぼんは、別れて　いる　かぞくが　集まる　大切な　時なのです。	19	163			《人／物》が《場所》から《場所》に／へ　集まる	《人》が　集まる
70	ア	あつまる	集まる	五	その　よるは、かぞくや　しんるいの　人びとが　集まって、なくなった　人たちの　ことを　思い出しながら、いろいろな　話を　します。	Y5	269	シテ		〃	《人》が　集まる
71	ア	あつまる	集まる	五	家の　外では、広場や　学校の　庭などに　人びとが　集まって、よる　おそくまで　にぎやかに「ぼんおどり」を　します。	Y5	269	シテ		〃	《人》が《場所》に　集まる
72	ア	あつめる	あつめる	下一	マナさんは　森へ　行って、木の　えだを　あつめて　来て　ください。	17	144	シテ、シテクル		《人》が《人／物》を《場所》から《場所》に／へ　あつめる	《人》は《物》を　あつめる
73	ア	あつめる	あつめる	下一	それで、らくに　あつめられました。	17	144	デキル		〃	あつめる
74	ア	あつめる	あつめる	下一	わたしの　しゅみは　きってを　あつめる　ことです。	14	119			《人》が《物／事》を　あつめる	《物》を　あつめる
75	ア	あびる	あびる	上一	父は、毎あさ　七時ごろ　おきて、かおを　あらって、はを　みがいて、ひげを　そって、シャワーを　あびます。	11	94			慣：シャワーを　あびる	慣：シャワーを　あびる
76	ア	あびる	あびる	上一	わたしは　さっき　シャワーを　あびました。	18	155			〃	慣：シャワーを　あびる
77	ア	あらう	あらう	五	父は、毎あさ　七時ごろ　おきて、かおを　あらって、はを　みがいて、ひげを　そって、シャワーを　あびます。	11	94	シテ		《人》が《物》を　洗う	《人》は《物：身体部位：顔》を洗う
78	ア	あらう	洗う	五	若者は、けがを　した　ところを　川の　水で　洗ったり、薬を　つけたり　して、助けて　やしました。	Y9	277	シタリ		〃	《人》は《物：身体部位：けがをしたところ》を　洗う
79	ア	あらう	あらう	五	この　水で　手を　あらいましょう。	7	56		シマショウ(誘いかけ)	〃	《物：身体部位：手》を　洗う
80	ア	あらう	あらう	五	しょくじの　前に、手を　あらって　ください。	11	94		シテクダサイ	〃	《物：身体部位：手》を　洗う
81	ア	あらう	洗う	五	わたしは　米を　洗ったり、やさいを　切ったり　します。	17	144	シタリ		〃	《人》は《物》を　洗う
82	ア	あらわす	あらわす	五	かなは、ことばの　音を　あらわします。	Y3	263			《物》が《事》を　あらわす	《物：字：仮名》は《事：音》を　あらわす

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
83	ア	あらわす	あらわす	五	かんじは、かなと ちがって、いみも あらわします。	Y3	263			〃	《物:字:漢字》は 《事:意味》を あらわす
84	ア	あらわす	あらわす	五	かなは、ことばの 何を あらわしますか。	Y3	265			〃	《物:字:仮名》は 《事》を あらわす
85	ア	あらわす	あらわす	五	かんじは、ことばの 何と 何を あらわしますか。	Y3	265			〃	《物:字:漢字》は 《事》を あらわす
86	ア	あらわす	あらわす	五	日本語にも、おなじ いみを あらわす 「みず」と いう ことばが ありました。	Y3	263			〃	《物:ことば》が 《事:意味》を あらわす
87	ア	あらわす	あらわす	五	その 人に プレゼントを おくって、かんしゃの 気持ちを あらわす ことが あるだろう。	Y7	274			《人》が 《人》に 《事》を あらわす	《事:気持ち》を あらわす
88	ア	ある	ある	五	あの ビルの 一かいに いろいろな みせが あります。	6	44			《場所》に 《物》が ある	《場所》に 《物:店》が ある
89	ア	ある	ある	五	中に ボールが いくつ ありますか。	6	45			〃	《場所》に 《物》が ある
90	ア	ある	ある	五	門の そばに 池が ありますね。	6	45			〃	《場所》に 《物:池》が ある
91	ア	ある	ある	五	ビルの 一かいに みせが ありますか。	6	46			〃	《場所》に 《物:店》が ある
92	ア	ある	ある	五	はこの 中に なにが ありますか。	6	47			〃	《場所》に 《物》が ある
93	ア	ある	ある	五	はこの 中に りんごが あります。	6	47			〃	《場所》に 《物》が ある
94	ア	ある	ある	五	ふくろの 中に みかんが いくつ ありますか。	6	47			〃	《場所》に 《物》が ある
95	ア	ある	ある	五	ふくろの 中に みかんが 三つ あります。	6	47			〃	《場所》に 《物》が ある
96	ア	ある	ある	五	いすと つくえの 間に なにか ありますか。	6	49			〃	《場所》に 《物》が ある
97	ア	ある	ある	五	としょしつには でんわが ありませんが、じむしつには あります。	9	75			〃	《場所》に 《物》が ある
98	ア	ある	ある	五	きょうとには 古い お寺が たくさん あります。	9	76			〃	《場所》に 《物:お寺》が ある
99	ア	ある	ある	五	ぎんざに ある 店は どうですか。	13	108			〃	《場所》に 《物:店》が ある
100	ア	ある	ある	五	ここに ぎんざの 地図が あります。	13	108			〃	《場所》に 《物》が ある
101	ア	ある	ある	五	この 地図に 店が ある 場所を 書きましょう。	13	108			〃	《場所》に 《物:店》が ある
102	ア	ある	ある	五	ぎんざに ある 店には だれの 友だちが つとめて いますか。	13	110			〃	《場所》に 《物:店》が ある
103	ア	ある	ある	五	ここは テレビが ある へやです。	13	111			〃	《場所》に 《物:店》が ある
104	ア	ある	ある	五	ここは テレビの ある へやです。	13	111			〃	《場所》に 《物:店》が ある
105	ア	ある	ある	五	ちかくに いい 店が ありますが、行って みますか。	14	115			〃	《場所》に 《物:店》が ある
106	ア	ある	ある	五	へやには コンピュータが 五だい あります。	16	137			〃	《場所》に 《物》が ある
107	ア	ある	ある	五	京都には ホテルとか りょかんとか とまる 所が たくさん あります。	16	138			〃	《場所》に 《物:泊まる所》が ある
108	ア	ある	ある	五	この 近所には いい 病院が ありませんか。	18	151			〃	《場所》に 《物:病院》が ある
109	ア	ある	ある	五	日本には 古い まちが たくさん あります。	Y2	261			〃	《場所》に 《物:古い町》が ある
110	ア	ある	ある	五	だから、いまも、かまくらには 古い お寺が たくさん あります。	Y2	261			〃	《場所》に 《物:お寺》が ある
111	ア	ある	ある	五	かまくらには 古い だいぶつが あります。	Y2	262			〃	《場所》に 《物》が ある

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
112	ア	ある	ある	五	日本には　文字が　ありませんでした。	Y3	263			〃	《場所》に《物：文字》が　ある
113	ア	ある	ある	五	日本人が　かんじを　知る　前に、日本には　文字が　ありましたか。	Y3	265			〃	《場所》に《物：文字》が　ある
114	ア	ある	ある	五	だから、その　下に　ある　石油や　石炭や　金や　ウラニウムなども、陸に　ある　物の　3ぱいぐらい　あると　かんがえられている。	Y8	275			〃	《場所》に《物》が　ある
115	ア	ある	ある	五	だから、その　下に　ある　石油や　石炭や　金や　ウラニウムなども、陸に　ある　物の　3ぱいぐらい　あると　かんがえられている。	Y8	275			〃	《場所》に《物》が　ある
116	ア	ある	ある	五	だから、その　下に　ある　石油や　石炭や　金や　ウラニウムなども、陸に　ある　物の　3ぱいぐらい　あると　かんがえられている。	Y8	275			〃	《場所》に《物》が　ある
117	ア	ある	ある	五	まちの　北と　東と　西には　山が　あって、南には　海が　あります。	Y2	261	シテ		〃	《場所：方向：西》に《物：山》がある
118	ア	ある	ある	五	まちの　北と　東と　西には　山が　あって、南には　海が　あります。	Y2	261			〃	《場所：方向：南》に《物：海》がある
119	ア	ある	ある	五	スポーツシャツは　どこに　ありますか。	6	44			〃	《物》は《場所》に　ある
120	ア	ある	ある	五	りんごは　たなの　上に　あります。	6	48			〃	《物》は《場所》に　ある
121	ア	ある	ある	五	バナナは　つくえの　上に　あります。	6	48			〃	《物》は《場所》に　ある
122	ア	ある	ある	五	アリさんの　かさは　どこに　ありますか。	6	48			〃	《物》は《場所》に　ある
123	ア	ある	ある	五	アリさんの　かさは　たなの　上に　あります。	6	48			〃	《物》は《場所》に　ある
124	ア	ある	ある	五	その　店は　どこに　あるか、場所を　おしえて　ください。	13	108			〃	《物：店》は《場所》に　ある
125	ア	ある	ある	五	でんわは　じむ室にしか　ありません。	15	129			〃	《物》は《場所》に　ある
126	ア	ある	ある	五	東京二十三区とは　東京に　ある　二十三の　区の　ことです。	16	138			〃	《物：二十三区》は《場所》に　ある
127	ア	ある	ある	五	スーパーマーケットは（東京にも　おおさかにも）どこにも　あります。	26	232			〃	《物：スーパーマーケット》は《場所》に　ある
128	ア	ある	ある	五	日本ごがっこうは、ふちゅうに　あります。	Y1	259			〃	《物：学校》は《場所》に　ある
129	ア	ある	ある	五	りょうは、がっこうの　そばに　あります。	Y1	259			〃	《物：寮》は《場所》に　ある
130	ア	ある	ある	五	マナさんの　がっこうは、どこに　ありますか。	Y1	260			〃	《物：学校》は《場所》に　ある
131	ア	ある	ある	五	かまくらは、とうきょうの　南、50キロぐらいの　ところに　あります。	Y2	261			〃	《物：鎌倉》は《場所：方向：東京の南、50キロくらいのところ》にある
132	ア	ある	ある	五	ながい　間、日本の　せいじの　ちゅうしんは、西日本に　ありましたが、	Y2	261			〃	《物：政治の中心》は《場所：西日本》に　ある
133	ア	ある	ある	五	いまも、だいぶつは、たてものの　中には　ありません。	Y2	262			〃	《物》は《場所》に　ある
134	ア	ある	ある	五	かまくらは、どこに　ありますか。	Y2	262			〃	《物：鎌倉》は《場所》に　ある
135	ア	ある	ある	五	いま、かまくらの　だいぶつは、たてものの　中に　ありますか。	Y2	262			〃	《物》は《場所》に　ある

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
136	ア	ある	ある	五	みせが　たくさん　ありますね。	6	44			〃	《物：店》が　ある
137	ア	ある	ある	五	りんごが　あります。	6	47			〃	《物》が　ある
138	ア	ある	ある	五	バナナと　りんごが　あります。	6	48			〃	《物》が　ある
139	ア	ある	ある	五	いいえ、なにも　ありません。	6	49			〃	《物》が　ある
140	ア	ある	ある	五	あ、かとう病院が　あります。	18	151			〃	《物：病院》が　ある
141	ア	ある	ある	五	この　道を　まっすぐ　行くと、信号が　あります。	19	166			〃	《物：信号》が　ある
142	ア	ある	ある	五	本が　二さつ　あります。	19	166			〃	《物》が　ある
143	ア	ある	ある	五	あ、新しい　コンピュータが　ありますね。	20	173			〃	《物》が　ある
144	ア	ある	ある	五	めずらしい　物が　たくさん　ありますね。	23	202			〃	《物》が　ある
145	ア	ある	ある	五	山のように　ごみが　あります。	23	205			〃	《物》が　ある
146	ア	ある	ある	五	さあ、何も　ありませんが、召し上がって　ください。	28	247			〃	《物》が　ある
147	ア	ある	ある	五	木や　はなが　たくさん　あって、しずかで、きれいな　まちです。	Y2	261	シテ		〃	《物》が　ある
148	ア	ある	ある	五	日本ごの　本は　たくさん　ありますか。	6	48			〃	《物》は　ある
149	ア	ある	ある	五	いいえ、日本ごの　本は　一さつも　ありません。	6	48			〃	《物》は　ある
150	ア	ある	ある	五	何か　いい　物は　ありませんか。	13	108			〃	《物》は　ある
151	ア	ある	ある	五	ジュースは　ありませんが、水なら　あります。	27	241			〃	《物》は　ある
152	ア	ある	ある	五	ジュースは　ありませんが、水なら　あります。	27	241			〃	《物》は　ある
153	ア	ある	ある	五	あおいのも　あります。	6	44			〃	《物》も　ある
154	ア	ある	ある	五	みかんも　あります。	6	47			〃	《物》も　ある
155	ア	ある	ある	五	としょしつには　でんわが　ありませんが、じむしつには　あります。	9	75			〃	《場所》に　ある
156	ア	ある	ある	五	しょくどうにも　あります。	9	75			〃	《場所》に　ある
157	ア	ある	ある	五	どこに　ありますか。	12	98			〃	《場所》に　ある
158	ア	ある	ある	五	ほかの　へやには　ありません。	15	129			〃	《場所》に　ある
159	ア	ある	ある	五	前は　お寺の　たてものの　中に　ありましたが、	Y2	262			〃	《場所》に　ある
160	ア	ある	ある	五	家の　前が　明るいと、どこに　あるか、よく　わかって、先祖がまっすぐ　かえって　来られるのです。	Y5	268			〃	《場所》に　ある
161	ア	ある	ある	五	六つ　あります。	6	45			〃	ある
162	ア	ある	ある	五	いいえ、もう　ありません。	15	125			〃	ある
163	ア	ある	ある	五	もう　ありません。	15	130			〃	ある
164	ア	ある	ある	五	まだ　あります。	15	130			〃	ある
165	ア	ある	ある	五	お金は　たくさん　ありますか。	6	49			《人》に　《物》が　ある	《物》は　ある
166	ア	ある	ある	五	いいえ、お金は　すこしも　ありません。	6	49			〃	《物》は　ある
167	ア	ある	ある	五	ほしい　物は　たくさん　ありますが、お金は　少ししか　ありません。	15	128			〃	《物》は　ある
168	ア	ある	ある	五	ほしい　物は　たくさん　ありますが、お金は　少ししか　ありません。	15	128			〃	《物》は　ある
169	ア	ある	ある	五	いま、お金が　ありません。	10	83			〃	《物》が　ある

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
170	ア	ある	ある	五	その くすりは まだ ありますか。	15	124			〃	《物》が ある
171	ア	ある	ある	五	あの ひとは お金が あります。	18	156			〃	《人》は 《物》が ある
172	ア	ある	ある	五	(もし、)わたしの 家に 車が あったら、便利でしょう。	16	136	シタラ		《組織》に 《物》が ある	《組織:家》に 《物》が ある
173	ア	ある	ある	五	日本語にも、おなじ いみを あらわす 「みず」と いう ことばが ありました。	Y3	263			《物》に 《物》が ある	《物:言語》に 《物:ことば》が ある
174	ア	ある	ある	五	アリさん、ばんごはんまで 時間が ありますから、さんぽに 行きましょうか。	11	91			《人》に 《側面》が ある	《側面:時間》が ある
175	ア	ある	ある	五	でも、もし、会議が 早く 終われば、時間が ある かもしれません。	21	184		～カモシレナイ	〃	《側面:時間》が ある
176	ア	ある	ある	五	ひまが ありません。	18	156			〃	《側面:ひま》が ある
177	ア	ある	ある	五	今年、ひまが ある 間に、一度 国へ 帰りたいです。	26	233			〃	《側面:ひま》が ある
178	ア	ある	ある	五	熱が ある ようですね。顔が 赤いですよ。	25	224		～ヨウダ	〃	《側面:熱》が ある
179	ア	ある	ある	五	今週は また 休みが ありますね。	26	229			〃	《側面:休み》が ある
180	ア	ある	ある	五	マナさんは 熱が 何度 ありましたか。	18	154			〃	《人》は 《側面:熱》が ある
181	ア	ある	ある	五	わたしは 熱が 三十八度 五分 あります。	18	156			〃	《人》は 《側面:熱》が ある
182	ア	ある	ある	五	父は 用事が あります。	18	156			〃	《人》は 《側面:用事》が ある
183	ア	ある	ある	五	兄は 力が あります。	18	156			〃	《人》は 《側面:力》が ある
184	ア	ある	ある	五	さっき 計りましたが、三十八度 五分も ありました。	18	151			〃	数値 ある
185	ア	ある	ある	五	小林さんは 身長が 1メートル 70センチ あります。	18	156			《人》に 《側面》が 数値 ある	《人》は 《側面:身長》が 数値 ある
186	ア	ある	ある	五	小林さんは 体重が 60キロ あります。	18	156			〃	《人》は 《側面:体重》が 数値 ある
187	ア	ある	ある	五	でも、日本語には あまり 自信が ありません。	22	193			《人》が 《事》に 《側面》が ある	《事:言語》に 《側面:自信》が ある
188	ア	ある	ある	五	どこかに まちがいが ありますか。いいえ、どこにも ありません。	9	77			《物》に 《側面》が ある	《物》に 《側面:間違い》が ある
189	ア	ある	ある	五	日本人が 毎日 つかって いる 文字には、かんじと、ひらがなと、かたかなが あります。	Y3	263			〃	《物:文字》に 《側面:漢字、ひらがな、カタカナ》が ある
190	ア	ある	ある	五	「水」には よみ方が 二つ あります。	Y3	263			〃	《物:文字》に 《側面:読み方》が ある
191	ア	ある	ある	五	この ような おくり物には、「・・・・・・」と いう 意味が あるのである。	Y7	274			〃	《物》に 《側面:意味》が ある
192	ア	ある	ある	五	ぎゅうにゅうは こうちゃより えいようが あります。	18	156			〃	《物》は 《側面:栄養》が ある
193	ア	ある	ある	五	肉と 魚(と) では どちらが えいようが ありますか。	18	157			〃	《物》が 《側面:栄養》が ある
194	ア	ある	ある	五	どちらも えいようが あります。	18	157			〃	《物》も 《側面:栄養》が ある
195	ア	ある	ある	五	たとえば、「木」は 「き」という 音を もって いますが、「・・・・・・」と いう いみも あります。	Y3	263			〃	《側面:意味》が ある

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
196	ア	ある	ある	五	日本人が 毎日 つかって いる 文字には、かんじと、ひらがなと、かたかなが あります。ローマ字も ありますが、文の 中では あまり つかいません。	Y3	263			〃	《側面：ローマ字》も ある
197	ア	ある	ある	五	どこかに まちがいが ありますか。いいえ、どこにも ありません。	9	77			〃	《物》に ある
198	ア	ある	ある	五	やまださん、ちょっと そうだんが ありますが、いいですか。	13	108			《人》が 《人》に 《事》が ある	《事：相談》が ある
199	ア	ある	ある	五	ちょっと そうだんが ありますが、いいですか。	13	112			〃	《事：相談》が ある
200	ア	ある	ある	五	ざんねんながら、その 日は ちょっと 用事が あるのです。	22	193			〃	《事：用事》が ある
201	ア	ある	ある	五	さっき 用事が あって、何度も ノックしたのに、返事が ありませんでした。	25	221			〃	《事：用事》が ある
202	ア	ある	ある	五	さっき 用事が あって、何度も ノックしたのに、返事が ありませんでした。	25	221			〃	《事：返事》が ある
203	ア	ある	ある	五	どんな ことが あったのですか。	24	211			《人》に 《事》が ある	《事》が ある
204	ア	ある	ある	五	どんな ことが ありましたか。	24	213			〃	《事》が ある
205	ア	ある	ある	五	事務室の 人の 話では、学校にも 市役所から れんらくが あった そうです。	26	229		～ソウダ	《組織》から 《組織／人》に 《事》が ある	《組織》から 《組織》に 《事：連絡》が ある
206	ア	ある	ある	五	成人式に 出る 人は、どこから れんらくが ありますか。	26	231			〃	《組織》から 《事：連絡》が ある
207	ア	ある	ある	五	東京の ような 都会にも、お宮や お寺に おまいりする しゅうかんが ありますか。	24	210			《場所》に 《事》が ある	《場所》に 《事：習慣》が ある
208	ア	ある	ある	五	公立の 小学校には 給食制度が あって、先生も 生徒も 共に食事を する。	27	239	シテ		〃	《場所》に 《事：制度》が ある
209	ア	ある	ある	五	日本には、おぼんや 正月が 近く なると、世話に なった 人や 目上の 人などに 物を おくる しゅうかんが ある。	Y7	273			〃	《場所》に 《事：習慣》が ある
210	ア	ある	ある	五	できたら、将来も 日本に かんけいの ある 仕事を する つもりです。	20	174			《事》が 《事》と／に 《事》が ある	《事》に 《事：関係》が ある
211	ア	ある	ある	五	これは、むかし、おぼんや 正月に 先祖の 祭りを した 行事に かんけいが ある。	Y7	273			〃	《事》は 《事：行事》に 《事：関係》が ある
212	ア	ある	ある	五	(キリスト教でも イスラム教でも 仏教でも) どの 宗教でも 政治や 文化と 深い 関係が あります。	26	232			〃	《事：宗教》が 《事：政治や文化》と 《事：関係》が ある
213	ア	ある	ある	五	しゅくだいは 日本ごだけですか。いいえ、日本ごだけでは ありません。えいごも あります。	6	50			《事》に 《事》が ある	《事：英語の宿題》が ある
214	ア	ある	ある	五	たなかさんは 兄弟が 何人 ありますか。	19	162			《人》に 《人》が ある	《人》は 《人：兄弟》が ある
215	ア	ある	ある	五	わたしは 兄が 二人 あります。	19	165			〃	《人》は 《人：兄》が ある
216	ア	ある	ある	五	よしださんは おくさんが あります。	19	165			〃	《人》は 《人：奥さん》が ある
217	ア	ある	ある	五	上に 兄と あねが あります。	19	162			〃	《人：兄と姉》が ある
218	ア	ある	ある	五	もう けっこんして いて、子どもが あります。	19	162			〃	《人：子供》が ある
219	ア	ある	ある	五	だから、じしんが あっても たてものが たおれる ことは あまりないのである。	Y6	271	シテモ		《場所》に 《現象》が ある	《現象：地震》が ある

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
220	ア	ある	ある	五	大きい じしんが あった 時は、ラジオや テレビで 放送するから、よく 聞いて、正しい ニュースを 知る ことが 大切である。	Y6	271			〃	《現象：地震》が ある
221	ア	ある	ある	五	日本は じしんの 多い 国である。1年間に 千回ぐらい ある。	Y6	271			〃	ある
222	ア	ある	ある	五	あした たいしかんで なにが ありますか。	9	74			《イベント》が ある	《イベント》が ある
223	ア	ある	ある	五	あした たいしかんで パーティーが あります。	9	74			〃	《イベント：パーティー》が ある
224	ア	ある	ある	五	きょう うんどうじょうで テニスの しあいが あります。	9	75			〃	《イベント：試合》が ある
225	ア	ある	ある	五	きのう りょうで えいがの 会が ありました。	9	75			〃	《イベント：映画の会》が ある
226	ア	ある	ある	五	きょうは うんどうじょうで たいいくの じゅぎょうが ありますね。	10	81			〃	《イベント：授業》が ある
227	ア	ある	ある	五	たいいくの じゅぎょうは どこで ありますか。	10	83			〃	《イベント：授業》は ある
228	ア	ある	ある	五	四年に 一度 オリンピックが あります。	18	159			〃	《イベント：オリンピック》が ある
229	ア	ある	ある	五	今晩 パーティーが あるから、昼ご飯は あまり 食べないで おきましょう。	22	197			〃	《イベント：パーティー》が ある
230	ア	ある	ある	五	正月は 古い 行事が いろいろ ありますか。	24	210			〃	《イベント：行事》が ある
231	ア	ある	ある	五	たぶん 七月の 十日ごろ あるでしょう。	9	72		～デショウ	〃	ある
232	ア	ある	ある	五	らいしゅう しけんが あるか ないか、わかりません。	9	74			〃	《イベント：試験》が ある
233	ア	ある	ある	五	らいしゅう しけんが あるか どうか、わかりません。	9	74			〃	《イベント：試験》が ある
234	ア	ある	ある	五	あした しけんが あります。	9	77			〃	《イベント：試験》が ある
235	ア	ある	ある	五	午後は 会議が ありますね。	21	184			〃	《イベント：会議》が ある
236	ア	ある	ある	五	午後は じゅぎょうが ありません。	21	188			〃	《イベント：授業》が ある
237	ア	ある	ある	五	日本ごがっこうでは いつ しけんが ありますか。	9	72			〃	《イベント：試験》が ある
238	ア	ある	ある	五	タンさんの がっこうでは どんな しけんが ありますか。	9	73			〃	《イベント：試験》が ある
239	ア	ある	ある	五	がっこうでは まいにち かんじの しけんが あります。	9	76			〃	《イベント：試験》が ある
240	ア	ある	ある	五	あなたの 国にも、日本の おぼんに にて いる 行事が ありますか。	Y5	270			《場所》に 《イベント》が ある	《場所》に 《イベント：行事》が ある
241	ア	ある	ある	五	しけんの かもくが たくさん あります。	9	72			《事》が ある	《事：科目》が ある
242	ア	ある	ある	五	行く 方法は いろいろ あります。	16	132			〃	《事：方法》が ある
243	ア	ある	ある	五	事故が あった 場合は、すぐ 原因を 調べなければ なりません。	27	242			〃	《事：事故》が ある
244	ア	ある	ある	五	むかしから、動物が うるさく 鳴いたり、ものを 食べなく なったり すれば、じしんが おきると いう 話も ある。	Y6	272			〃	《事：内容という話》が ある
245	ア	ある	ある	五	しかし、ほんとうか どうか 研究しなければ、わからない ことが たくさん ある。	Y6	272			〃	《事》が ある
246	ア	ある	ある	五	少し 前までは、かんがえたり、人間の ことばが わかったりする ロボットは ありませんでした。	Y4	266			《人》が ある	《人》は ある
247	ア	ある	ある	五	話が できる ロボットが ありますか。	Y4	267			〃	《人》が ある
248	ア	ある	ある	五	7月に する 地方も ありますが、いなかでは、たいてい 8月13日から 15日ごろに します。	Y5	268			《場所》が ある	《場所：地方》が ある

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
249	ア	ある	ある	五	マナさんは 日本の いなかへ 行った ことが ありますか。	19	163			《人》が V-した ことが ある	《人》は V-した ことが ある
250	ア	ある	ある	五	兄は 一度 けがを して、手術を した ことが あります。	19	165			〃	《人》は V-した ことが ある
251	ア	ある	ある	五	弟は 何度も 重い 病気を した ことが あります。	19	165			〃	《人》は V-した ことが ある
252	ア	ある	ある	五	マナさんは 日本へ 来てから、一度だけ けいさつへ 行った ことが あります。	19	165			〃	《人》は V-した ことが ある
253	ア	ある	ある	五	先生は まだ 一度しか わたしを ほめた ことが ありません。	19	165			〃	《人》は V-した ことが ある
254	ア	ある	ある	五	母は まだ 一度も 弟を しかった ことが ありません。	19	165			〃	《人》は V-した ことが ある
255	ア	ある	ある	五	わたしは さしみを 食べた ことが あります。	19	165			〃	《人》は V-した ことが ある
256	ア	ある	ある	五	テレビでは 何度も 見た ことが ありますが、まだ 一度も 行った ことが ありません。	19	163			〃	V-した ことが ある
257	ア	ある	ある	五	テレビでは 何度も 見た ことが ありますが、まだ 一度も 行った ことが ありません。	19	163			〃	V-した ことが ある
258	ア	ある	ある	五	日本の おさけを のんだ ことも あります。	19	165			〃	V-した ことが ある
259	ア	ある	ある	五	しかし、まだ 日本人の 家に とまった ことは ありません。	19	165			〃	V-した ことが ある
260	ア	ある	ある	五	たなかさんは いなかへ かえる ことが ありますか。	19	162			《人／乗り物》が V-する ことが ある	《人》は V-する ことが ある
261	ア	ある	ある	五	わたしは ときどき かぜを ひく ことが あります。	19	165			〃	《人》は V-する ことが ある
262	ア	ある	ある	五	弟は 朝ねぼうを する ことが あります。	19	165			〃	《人》は V-する ことが ある
263	ア	ある	ある	五	もし、あなたが 商社に 入ったら、また 日本へ 来る ことが あるでしょうね。	20	174		～デショウ	〃	《人》が V-する ことが ある
264	ア	ある	ある	五	ときどき、おもしろい テーマを 見つけて、わたしたち 教師を びっくりさせる ことも あります。	27	238			〃	V-する ことが ある
265	ア	ある	ある	五	この 時、ろうそくに 火を つけて、花などと いっしょに 流す ことも あります。	Y5	269			〃	V-する ことが ある
266	ア	ある	ある	五	その 人に プレゼントを おくって、かんしゃの 気持ちを あらわす ことが あるだろう。	Y7	274		～ダロウ	〃	V-する ことが ある
267	ア	ある	ある	五	それから、大雪で 列車が 不通に なる ことも あります。	25	222			〃	《乗り物》が V-する ことが ある
268	ア	ある	ある	五	兄は いそがしいので、ときどき かえらない ことが あります。	19	162			《人》が V-しない ことが ある	《人》は V-しない ことが ある
269	ア	ある	ある	五	マナさんは このごろ 学校へ 来ない ことが あります。	19	165			〃	《人》は V-しない ことが ある
270	ア	ある	ある	五	タンさんは ときどき 朝ご飯を 食べない ことが あります。	19	165			〃	《人》は V-しない ことが ある
271	ア	ある	ある	五	やまださん、一つ しつもんしたい ことが あります。	15	126			《人》が V-したい ことが ある	V-したい ことが ある
272	ア	ある	ある	五	先生、べんきょうの ことで 相談したい ことが あるのですが、今日の 午後は いかがでしょうか。	21	184			〃	V-したい ことが ある
273	ア	あるく	歩く	五	歩道を 歩いて ください。	17	147		シテクダサイ	《人》が 《場所》を 《場所》から 《場所》に／へ／まで 歩く	《場所》を 歩く
274	ア	あるく	歩く	五	外に いる 時、ししんが おきたら、たてものの そばを 歩かない 方が いい。	Y6	271			〃	《場所》を 歩く
275	ア	あるく	歩く	五	月の 上を 歩ける 宇宙服は できたが、	Y8	275	デキル		〃	《場所》を 歩く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
276	ア	あるく	歩く	五	しかし、ふかい 海の 中を 歩ける 服は まだ できて いない。	Y8	275	デキル		〃	《場所》を 歩く
277	ア	あるく	歩く	五	もっと 速く 歩いて ください。	17	148		シテクダサイ	〃	歩く
278	ア	あるく	歩く	五	ゆっくり 歩かないで ください。	17	148		シナイデクダサイ	〃	歩く
279	ア	あるく	歩く	五	地図に 書いて ある とおりに、歩きましょう。	27	241		シマショウ(誘いかけ)	〃	歩く
280	ア	あるく	歩く	五	地図の とおりに、歩きましょう。	27	241		シマショウ(誘いかけ)	〃	歩く
281	ア	あるく	歩く	五	あの 人は、かさを ささないで 歩いて います。	20	178	シテイル		〃	《人》は 歩く
282	ア	あるく	歩く	五	あの 人は、かさを ささずに 歩いて います。	20	178	シテイル		〃	《人》は 歩く
283	ア	あるく	あるく	五	人が おおぜい あるいて います。	11	93	シテイル		〃	《人》が 歩く
284	ア	あるく	あるく	五	アリさんは うちから えきまで あるいて いきます。	5	37	シテイク		〃	《人》は 《場所》から 《場所》まで 歩く
285	ア	あるく	あるく	五	ていりゅうじょから だいぶつまで あるいて 二、三分です。	11	90	シテ		〃	《場所》から 《場所》まで 歩く
286	ア	あんきする	暗記する	サ変	ながい 文を 暗記する ことは たいへんです。	14	120			《人》が 《事》を 暗記する	《事：文》を 暗記する
287	ア	あんしんする	安心する	サ変	でも、わたしが 元気に なった 時、母は 安心するでしょう。	15	128		～デショウ	《人》が 安心する	《人》は 安心する
288	ア	あんしんする	安心する	サ変	どうぞ 御安心ください。	28	250		御-クダサイ	〃	安心する
289	ア	あんないする	案内する	サ変	先生は わたしたちを 案内して くださいました。	22	196	シテクダサル		《人》が 《人》を 案内する	《人》は 《人》を 案内する
290	ア	あんないする	案内する	サ変	わたしたちは 先生に 案内して いただきました。	22	197	シテイタダク		〃	《人》が 《人》を 案内する
291	ア	あんないする	案内する	サ変	「とうろんかいの 後で、大学の 中を 案内して あげましょう。」と 書いて ありました。	22	193	シテアゲル		《人》が 《人》に 《場所》を 案内する	《場所》を 案内する
292	イ	いう	言う	五	マリアさんは 漱石の 本は むずかしいと 言いましたか。	12	100			《人》が 《人》に 《内容》と 言う	《人》は 《内容》と 言う
293	イ	いう	言う	五	父は あした きょうとへ 行くと 言いました。	12	102			〃	《人》は 《内容》と 言う
294	イ	いう	言う	五	父は あした うちに いないと 言いました。	12	102			〃	《人》は 《内容》と 言う
295	イ	いう	言う	五	タンさんは 日本語は やさしいと 言いました。	12	102			〃	《人》は 《内容》と 言う
296	イ	いう	言う	五	タンさんは 日本語は むずかしく ないと 言いました。	12	102			〃	《人》は 《内容》と 言う
297	イ	いう	言う	五	おとうとは 外国の 大学で べんきょうしたいと 言って います。	14	118	シテイル		〃	《人》は 《内容》と 言う
298	イ	いう	言う	五	ジョンさんは 国へ かえりたいと 言って います。	14	118	シテイル		〃	《人》は 《内容》と 言う
299	イ	いう	言う	五	あの 男の 子は 何か つめたい のみ物が ほしいと 言っています。	14	118	シテイル		〃	《人》は 《内容》と 言う
300	イ	いう	言う	五	ジョンさんは じゆうな 時間が ほしいと 言って います。	14	118	シテイル		〃	《人》は 《内容》と 言う
301	イ	いう	言う	五	マナさんは おなかが いたいと 言って、ねて います。	18	151	シテ		〃	《人》は 《内容》と 言う

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
302	イ	いう	言う	五	マナさんは、きのうと 今日とでは どちらが おなかが いたいと 言いましたか。	18	154			〃	《人》は 《内容》と 言う
303	イ	いう	言う	五	山本先生は、どうすれば 漢字が 覚えられると 言いましたか。	21	186			〃	《人》は 《内容》と 言う
304	イ	いう	言う	五	マナさんは 昼ごろ 来るって 言いました。	28	252			〃	《人》は 《内容》と 言う
305	イ	いう	言う	五	その 子は 「お母さんが いなく なっちゃった。」と 言って、泣いて います。	28	252	シテ		〃	《人》は 《内容》と 言う
306	イ	いう	言う	五	タンさんは、いつ 先生の 学校へ 行きたいと 言って いますか。	Y10	284	シテイル		〃	《人》は 《内容》と 言う
307	イ	いう	言う	五	タンさんは、学校で どんな ことを 見学したいと 言って いますか。	Y10	284	シテイル		〃	《人》は 《内容》と 言う
308	イ	いう	言う	五	お医者さんが 良くなったと 言いましたから、もう だいじょうぶだと おもいます。	12	99			〃	《人》が 《内容》と 言う
309	イ	いう	言う	五	外国人の 中には、「日本人は、物を あげたり、もらったり するのが 好きな 国民だ。」と 言う 人も いる。	Y7	273			〃	《人》が 《内容》と 言う
310	イ	いう	言う	五	わたしの 父も そう 言うだろうと 思います。	26	230		～ダロウ	〃	《人》も 《内容》と 言う
311	イ	いう	言う	五	ニュージーランドの 友だちも 見学したいと 言って おりますので、	Y10	283	シテオル		〃	《人》も 《内容》と 言う
312	イ	いう	言う	五	あなたは 先生に なんと 言いましたか。	12	102			〃	《人》は 《人》に 《内容》と 言う
313	イ	いう	言う	五	わたしは 先生に 「よく わかりました。」と 言いました。	12	102			〃	《人》は 《人》に 《内容》と 言う
314	イ	いう	言う	五	わたしは 母に 「べんきょうしなさい。」と いつも 言われます。	24	214	サレル		〃	《人》は 《人》に 《内容》と 言う
315	イ	いう	言う	五	姉は 妹に お金を おとさないように(と) 言いました。	26	232			〃	《人》は 《人》に 《内容》と 言う
316	イ	いう	言う	五	お子さんの 写真を 写したいと 言って います。	14	117	シテイル		〃	《内容》と 言う
317	イ	いう	言う	五	出席するか どうか、明日までに 返事を するように 言われました。	26	229	サレル		〃	《内容》と 言う
318	イ	いう	言う	五	これからは 何でも 責任を 持って やるように 言われました。	26	230	サレル		〃	《内容》と 言う
319	イ	いう	言う	五	「……こういう すばらしい 布なら、高くても 買いたい。」と 言って、高い ねだんで 買いました。	Y9	279	シテ		〃	《内容》と 言う
320	イ	いう	言う	五	お医者さんは マリアさんの びょうきに ついて なんと 言いましたか。	12	100			〃	《人》は 《事》について 《内容》と言う
321	イ	いう	言う	五	すみませんが、先生に 言って ください。	10	81		シテクダサイ	〃	《人》に 言う
322	イ	いう	言う	五	すみませんが、先生に 言って ください。—はい、わかりました。	10	86		シテクダサイ	〃	《人》に 言う
323	イ	いう	言う	五	ある 日、娘は 若者に 言いました。	Y9	278			〃	《人》は 《人》に 言う
324	イ	いう	言う	五	部屋から 出て 来て、静かに 言いました。	Y9	279			〃	言う
325	イ	いう	言う	五	生徒も、先生の 言う とおりに、熱心に 勉強して いた。	27	239			〃	《人》の 言う とおり
326	イ	いう	言う	五	学生は、先生の 言う とおりに、実験しました。	27	241			〃	《人》の 言う とおり

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
327	イ	いう	言う	五	いや、小林くんの　言う　とおり、すばらしかったです。	28	247			〃	《人》の　言う　とおり
328	イ	いう	言う	五	友だちに「ありがとう。」と　おれいを　言います。	12	102			《人》が《人》に《《内容》と《事》を　言う	《人》に《内容》と《事：お礼》を　言う
329	イ	いう	言う	五	いもうとたちが　心配するから、父の　病気の　ことは　言わないで　おきます。	22	197	シナイデオク		〃	《事》を　言う
330	イ	いう	言う	五	会社を　休む　場合は、理由を　言って　ください。	27	242		シテクダサイ	〃	《事：理由》を　言う
331	イ	いう	言う	五	あの　人の　言って　いる　ことは　うそばかりです。	25	224	シテイル		〃	《人》が《事》を　言う
332	イ	いう	言う	五	日本は　工業国だと　言われて　いますが、古い　文化も　大切にされて　いる　ことが　わかりました。	24	212	サレル、シテイル		《《人》が》《内容》と　言う	《内容》と　言う
333	イ	いう	言う	五	石油や　石炭も、いつか　なくなると　言われて　いる。	Y8	275	サレル、シテイル		〃	《内容》と　言う
334	イ	いう	言う	五	遠い　昔、人間は　海の　中に　いた　動物から　進化したと　言われて　いる。	Y8	276	サレル、シテイル		〃	《内容》と　言う
335	イ	いう	言う	五	ニュースで　言って　いましたが、きのうは　地下鉄が　不通だった　ようです。	25	224	シテイル		〃	《物：言語作品：ニュース》で　言う
336	イ	いう	いう	五	あれは　何と　いう　動物ですか。	13	112			Nと　いう　N	Nと　いう　N
337	イ	いう	いう	五	あれは「パンダ」と　いう　動物です。	13	112			〃	Nと　いう　N
338	イ	いう	いう	五	竹と　いう　しょくぶつは　つよいです。	13	112			〃	Nと　いう　N
339	イ	いう	いう	五	さくらと　いう　木は　どれですか。	13	112			〃	Nと　いう　N
340	イ	いう	いう	五	モノレールと　いう　のり物は　あんぜんですか。	13	112			〃	Nと　いう　N
341	イ	いう	いう	五	みどり色と　いう　色は　きれいです。	13	112			〃	Nと　いう　N
342	イ	いう	いう	五	日本では「四」と　いう　すうじは　いい　すうじでは　ありません。	13	112			〃	Nと　いう　N
343	イ	いう	いう	五	「さようなら。」と　いう　日本語の　ことばを　知って　いますか。	13	112			〃	Nと　いう　N
344	イ	いう	いう	五	兄は　すみよし町　五丁目　十番地と　いう　所に　すんで　います。	13	112			〃	Nと　いう　N
345	イ	いう	いう	五	わたしも、「アジアの　みどりを　守ろう」と　いう　題で　話を　する予定です。	22	193			〃	Nと　いう　N
346	イ	いう	いう	五	たとえば、「まど」の「ま」と　いう　音は、「まえ」の「ま」と　おなじです。	Y3	263			〃	Nと　いう　N
347	イ	いう	いう	五	たとえば、「木」は「き」という　音を　もって　いますが、「・・・」という　いみも　あります。	Y3	263			〃	Nと　いう　N
348	イ	いう	いう	五	たとえば、「木」は「き」という　音を　もって　いますが、「・・・」という　いみも　あります。	Y3	263			〃	Nと　いう　N
349	イ	いう	いう	五	日本語にも、おなじ　いみを　あらわす「みず」と　いう　ことばが　ありました。	Y3	263			〃	Nと　いう　N
350	イ	いう	いう	五	「すい」と　いう　よみ方は、音よみと　いって、「みず」と　いう　よみ方は、くんよみと　いいます。	Y3	263			〃	Nと　いう　N
351	イ	いう	いう	五	「すい」と　いう　よみ方は、音よみと　いって、「みず」と　いう　よみ方は、くんよみと　いいます。	Y3	263			〃	Nと　いう　N

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
352	イ	いう	いう	五	むかしから、動物が うるさく 鳴いたり、ものを 食べなく なったり すれば、じしんが おきると いう 話も ある。	Y6	272			〃	Nと いう N
353	イ	いう	いう	五	この ような おくり物には、「・・・・・・」と いう 意味が あるのである。	Y7	274			〃	Nと いう N
354	イ	いう	いう	五	「みんしゅく」と いうのは 何ですか。	16	133			Nと いうのは／ことは	Nと いうのは
355	イ	いう	いう	五	「みんしゅく」と いうのは 何ですか。	16	134			〃	Nと いうのは
356	イ	いう	いう	五	国王と いうのは その 国の 王さまの ことです。	16	137			〃	Nと いうのは
357	イ	いう	いう	五	急行電車と いうのは 小さい 駅に とまらない、はやい 電車の ことです。	16	138			〃	Nと いうのは
358	イ	いう	いう	五	入学と いうのは 学校に 入る ことで、そつぎょうと いうのは 学校を 出る ことです。	16	138			〃	Nと いうのは
359	イ	いう	いう	五	入学と いうのは 学校に 入る ことで、そつぎょうと いうのは 学校を 出る ことです。	16	138			〃	Nと いうのは
360	イ	いう	いう	五	和紙と いうのは 何から 作りますか。	23	203			〃	Nと いうのは
361	イ	いう	いう	五	雪下ろしと いうのは 何ですか。	25	222			〃	Nと いうのは
362	イ	いう	いう	五	雪下ろしと いうのは 何ですか。	25	223			〃	Nと いうのは
363	イ	いう	いう	五	成人の日と いうのは どんな 日ですか。	26	231			〃	Nと いうのは
364	イ	いう	いう	五	ホームシックと いうのは どんな ことですか。	28	248			〃	Nと いうのは
365	イ	いう	いう	五	さんぎょう ロボットと いうのは・・・・・・いろいろな 物を 作る ロボットの ことです。	Y4	266			〃	Nと いうのは
366	イ	いう	いう	五	さんぎょう ロボットと いうのは、どんな ロボットですか。	Y4	267			〃	Nと いうのは
367	イ	いう	いう	五	おぼんと いうのは、年中行事の 一つです。	Y5	268			〃	Nと いうのは
368	イ	いう	いう	五	「むかえ火」と いうのは 何ですか。	Y5	270			〃	Nと いうのは
369	イ	いう	いう	五	人間が 将来、また 海の 中で 生活するように なる かもしれないと いう ことは、おもしろい ことである。	Y8	276			〃	Nと いう ことは
370	イ	いう	言う	五	“Good morning”は 日本語で なんと 言いますか。	12	103			Nを Nと 言う	Nは Nと 言う
371	イ	いう	言う	五	“Good morning”は 日本語で 「おはよう ございます」と 言います。	12	103			〃	Nは Nと 言う
372	イ	いう	いう	五	私は シンガポールから 来た タンと いいますが。	13	109			〃	Nは Nと 言う
373	イ	いう	いう	五	その 人は 何と いいますか。	13	110			〃	Nは Nと 言う
374	イ	いう	いう	五	あの 動物は 何と いいますか。	13	112			〃	Nは Nと 言う
375	イ	いう	いう	五	あの 動物は 「パンダ」と いいます。	13	112			〃	Nは Nと 言う
376	イ	いう	いう	五	十五日の 日は 「成人の日」と いうのですか。	26	229			〃	Nは Nと 言う
377	イ	いう	いう	五	「すい」と いう よみ方は、音よみと いって、「みず」と いう よみ方は、くんよみと いいます。	Y3	263	シテ		〃	Nは Nと 言う
378	イ	いう	いう	五	「すい」と いう よみ方は、音よみと いって、「みず」と いう よみ方は、くんよみと いいます。	Y3	263			〃	Nは Nと 言う
379	イ	いう	いう	五	これを 「むかえ火」と いいます。	Y5	268			〃	Nを Nと 言う

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
380	イ	いう	いう	五	おぼんに おくる 物を 「お中元」と いい、年の 終わりに おくる 物を 「おせいぼ」と いう。	Y7	273			〃	Nを Nと 言う
381	イ	いう	いう	五	おぼんに おくる 物を 「お中元」と いい、年の 終わりに おくる 物を 「おせいぼ」と いう。	Y7	273			〃	Nを Nと 言う
382	イ	いう	いう	五	年の 終わりに あげる 物を 何と いいますか。	Y7	274			〃	Nを Nと 言う
383	イ	いう	言う	五	マナさんは 「わたしは びょうきです。」と うそを 言いました。	12	102			慣:うそを 言う	慣:うそを 言う
384	イ	いう	言う	五	兄は うそを 言って、弟を おこらせました。	27	240	シテ		〃	慣:うそを 言う
385	イ	いう	言う	五	うそを 言っちゃ だめです。	28	252		シテハダメ	〃	慣:うそを 言う
386	イ	いう	言う	五	田中さんは、じょうだんを 言って、みんなを わらわせました。	27	240	シテ		慣:冗談を 言う	慣:冗談を 言う
387	イ	いく	いく	五	いっしょに あの みせへ いきましょう。	4	29		シマショウ(誘いかけ)	《人／乗り物》が 《場所》を 《場所》から 《場所》に／へ／まで 行く	《場所》へ 行く
388	イ	いく	いく	五	どこへ いきましたか。	5	33			〃	《場所》へ 行く
389	イ	いく	いく	五	きょうとへ いきました。	5	33			〃	《場所》へ 行く
390	イ	いく	行く	五	なつ休みには どこかへ 行きますか。	9	72			〃	《場所》へ 行く
391	イ	いく	行く	五	いいえ、どこへも 行きません。	9	72			〃	《場所》へ 行く
392	イ	いく	行く	五	冬休みには そちらへ 行きます。	9	72			〃	《場所》へ 行く
393	イ	いく	行く	五	たぶん がっこうへ 行かないでしょう。	9	74		～デショウ	〃	《場所》へ 行く
394	イ	いく	行く	五	ぎんこうへも 行きます。	9	75			〃	《場所》へ 行く
395	イ	いく	行く	五	おおさかへ 行きませんか。	9	76		(シマセンカ:単なる質問)	〃	《場所》へ 行く
396	イ	いく	行く	五	はい、おおさかへは 行きません。	9	76			〃	《場所》へ 行く
397	イ	いく	行く	五	きょうとへも 行きませんか。	9	76		(シマセンカ:単なる質問)	〃	《場所》へ 行く
398	イ	いく	行く	五	いいえ、きょうとへは 行きます。	9	76			〃	《場所》へ 行く
399	イ	いく	行く	五	休みの 日に どこかへ 行きますか。	9	77			〃	《場所》へ 行く
400	イ	いく	行く	五	いいえ、どこへも 行きません。	9	77			〃	《場所》へ 行く
401	イ	いく	行く	五	じむしつへ 行きました。	10	81			〃	《場所》へ 行く
402	イ	いく	行く	五	さとうさんの 家へは どう 行きますか。	11	94			〃	《場所》へ 行く
403	イ	いく	行く	五	どこか しずかな 所へ 行きましょう。	13	112		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》へ 行く
404	イ	いく	行く	五	いつか 外国へ 行って みたいです。	14	121	シテミル		〃	《場所》へ 行く
405	イ	いく	行く	五	すぐ 病院へ 行った 方が いいですね。	18	151			〃	《場所》へ 行く
406	イ	いく	行く	五	では、かとう病院へ 行きましょう。	18	152		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》へ 行く
407	イ	いく	行く	五	あしたも 学校へ 行かない 方が いいでしょうか。	18	153			〃	《場所》へ 行く
408	イ	いく	行く	五	外国へ 行く 時、パスポートが いります。	18	158			〃	《場所》へ 行く
409	イ	いく	行く	五	外国へ 行く 時、いる 物は パスポートです。	18	158			〃	《場所》へ 行く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
410	イ	いく	行く	五	どこかへ　行くのですか。	18	158			〃	《場所》へ　行く
411	イ	いく	行く	五	八月に　わたしの　いなかへ　いっしょに　行きませんか。	19	163		シマセンカ	〃	《場所》へ　行く
412	イ	いく	行く	五	広場へは　どのように　行くのですか。	19	163			〃	《場所》へ　行く
413	イ	いく	行く	五	京都へ　行きたいのは　なぜですか。	19	168		シタイ	〃	《場所》へ　行く
414	イ	いく	行く	五	京都へ　行きたいのは　古い　お寺が　多いからです。	19	168		シタイ	〃	《場所》へ　行く
415	イ	いく	行く	五	どこへ　行けば、買えるでしょうか。	21	185	スレバ		〃	《場所》へ　行く
416	イ	いく	行く	五	らいしゅう、北海道へ　行きたいと　思って　います。	21	188		シタイ	〃	《場所》へ　行く
417	イ	いく	行く	五	北海道へ　行くなら、ひこうきが　便利ですよ。	21	188	スルナラ		〃	《場所》へ　行く
418	イ	いく	行く	五	初めに　どちらへ　行きますか。	23	202			〃	《場所》へ　行く
419	イ	いく	行く	五	清水寺へ　行きませんか。	23	202		シマセンカ	〃	《場所》へ　行く
420	イ	いく	行く	五	そこへ　行くのに　どのぐらい　かかりますか。	23	202	スルノニ		〃	《場所》へ　行く
421	イ	いく	行く	五	初めに　どこへ　行きましたか。	23	203			〃	《場所》へ　行く
422	イ	いく	行く	五	大きな　神社へ　行ったのですが、	24	210			〃	《場所》へ　行く
423	イ	いく	行く	五	駅へ　行く　途中で、店に　寄って、フィルムを　買いたいのですが．．．。	26	230			〃	《場所》へ　行く
424	イ	いく	行く	五	駅へ　行きます。	26	233			〃	《場所》へ　行く
425	イ	いく	行く	五	駅へ　行く　途中で、銀行に　寄ります。	26	233			〃	《場所》へ　行く
426	イ	いく	行く	五	学校へ　行く　途中で、事故に　あいました。	26	233			〃	《場所》へ　行く
427	イ	いく	行く	五	ほかの　所へ　行きたく　ありませんが、	27	241		シタイ	〃	《場所》へ　行く
428	イ	いく	行く	五	京都へ　なら　行きたいです。	27	241		シタイ	〃	《場所》へ　行く
429	イ	いく	行く	五	あしたは　新宿へでも　行きましょうか。	28	252		シマショウカ	〃	《場所》へ　行く
430	イ	いく	行く	五	人間の　行けない　所へも、行く　ことが　できます。	Y4	266	コトガデキル		〃	《場所》へ　行く
431	イ	いく	行く	五	娘の　働いて　いる　部屋へ　行って　みました。	Y9	279	シテミル		〃	《場所》へ　行く
432	イ	いく	行く	五	ビザを　とる　時、大使館に　行かなければ　なりません。	15	128		シナケレバナラナイ	〃	《場所》に　行く
433	イ	いく	行く	五	マナさん、十時までに　会場に　行きましょう。	26	230		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》に　行く
434	イ	いく	いく	五	わたしは　あした　しんじゅくの　こうえんへ　いきます。	4	25			〃	《人》は《場所》へ　行く
435	イ	いく	いく	五	マナさんと　さとうさんは　五月　五日に　どこへ　いきましたか。	4	27			〃	《人》は《場所》へ　行く
436	イ	いく	いく	五	あなたは　きのう　どこへ　いきましたか。	4	28			〃	《人》は《場所》へ　行く
437	イ	いく	いく	五	わたしは　きのう　ほんやへ　いきました。	4	28			〃	《人》は《場所》へ　行く
438	イ	いく	いく	五	あなたは　いつ　きょうとへ　いきますか。	4	28			〃	《人》は《場所》へ　行く
439	イ	いく	いく	五	わたしは　四月　五日に　きょうとへ　いきます。	4	28			〃	《人》は《場所》へ　行く
440	イ	いく	行く	五	やまださんは　やすみに　どこへ　行きましたか。	5	35			〃	《人》は《場所》へ　行く
441	イ	いく	いく	五	わたしは　せんしゅう　きょうとへ　いきました。	5	38			〃	《人》は《場所》へ　行く
442	イ	いく	行く	五	タンさんは　なつ休みに　どこかへ　行きますか。	9	73			〃	《人》は《場所》へ　行く
443	イ	いく	行く	五	わたしは　本やへは　行きませんが、ゆうびんきょくへは　行きます。	9	75			〃	《人》は《場所》へ　行く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
444	イ	いく	行く	五	わたしは　本やへは　行きませんが、ゆうびんきょくへは　行きます。	9	75			〃	《人》は《場所》へ　行く
445	イ	いく	行く	五	たいいくの　じゅぎょうの　時、アリさんは　どこへ　行きましたか。	10	83			〃	《人》は《場所》へ　行く
446	イ	いく	行く	五	アリさんと　小林さんは　どこへ　行きましたか。	11	92			〃	《人》は《場所》へ　行く
447	イ	いく	行く	五	父は　あした　きょうとへ　行くと　言いました。	12	102			〃	《人》は《場所》へ　行く
448	イ	いく	行く	五	きのう　小林さんは　がっこうへ　行かなかったと　おもいます。	12	103			〃	《人》は《場所》へ　行く
449	イ	いく	行く	五	マナさんは　森へ　行って、木の　えだを　あつめて　来て　ください。	17	144	シテ		〃	《人》は《場所》へ　行く
450	イ	いく	行く	五	マナさんは　森へ　行って、何を　して　来ましたか。	17	145	シテ		〃	《人》は《場所》へ　行く
451	イ	いく	行く	五	マナさんは　どちらの　病院へ　行きましたか。	18	154			〃	《人》は《場所》へ　行く
452	イ	いく	行く	五	マナさんは　日本の　いなかへ　行った　ことが　ありますか。	19	163			〃	《人》は《場所》へ　行く
453	イ	いく	行く	五	マナさんは　日本へ　来てから、一度だけ　けいさつへ　行った　ことが　あります。	19	165			〃	《人》は《場所》へ　行く
454	イ	いく	行く	五	兄は　外国へ　行きたがって　います。	25	225	シテイル	シタガル	〃	《人》は《場所》へ　行く
455	イ	いく	行く	五	いもうとは、デパートへ　行くと、いつも　おかしを　買いたがります。	25	225	スルト		〃	《人》は《場所》へ　行く
456	イ	いく	行く	五	わたしは、昼休みの　間に、銀行へ　行って　来ました。	26	233	シテクル		〃	《人》は《場所》へ　行く
457	イ	いく	行く	五	兄は、京都へ　行く　度に、友だちの　家に　泊まります。	28	252			〃	《人》は《場所》へ　行く
458	イ	いく	行く	五	私は、しんるいの　家へ　行く　ところですが、途中で、道に　まよって　しまいました。	Y9	278	スルトコロ		〃	《人》は《場所》へ　行く
459	イ	いく	行く	五	タンさんは、いつ　先生の　学校へ　行きたいと　言って　いますか。	Y10	284		シタイ	〃	《人》は《場所》へ　行く
460	イ	いく	いく	五	マナさんは　先生の　ところへ　いきました。	8	67			〃	《人》は《場所：人のところ》へ　行く
461	イ	いく	いく	五	わたしは　でんわの　ところへ　いきました。	8	67			〃	《人》は《場所：物のところ》へ　行く
462	イ	いく	行く	五	先生は、月末に　東南アジアの　方へ　行かれるので、	28	246		サレル(敬譲)	〃	《人》は《場所：東南アジアの方》へ　行く
463	イ	いく	行く	五	兄は　タイに　行って　います。今、タイに　います。	13	111	シテイル		〃	《人》は《場所》に　行く
464	イ	いく	行く	五	タンさんが　よしださんの　店へ　行った　日に、よしださんは　どんな　ふくを　着て　いましたか。	13	110			〃	《人》が《場所》へ　行く
465	イ	いく	行く	五	母は　弟を　病院へ　行かせました。	27	240	サセル		〃	《人》が《場所》へ　行く
466	イ	いく	行く	五	先生は　生徒たちに　好きな　所へ　行かせました。	27	240	サセル		〃	《人》が《場所》へ　行く
467	イ	いく	行く	五	人間の　行けない　所へも、行く　ことが　できます。	Y4	266			〃	《人》が《場所》へ　行く
468	イ	いく	いく	五	おととい　やまださんの　ところへ　いきました。	8	64			〃	《場所：人のところ》へ　行く
469	イ	いく	行く	五	びょうきですから、お医者さんの　ところへ　行きます。	10	81			〃	《場所：人のところ》へ　行く
470	イ	いく	行く	五	では、すぐ　お医者さんの　所へ　行った　方が　いいですね。	18	158			〃	《場所：人のところ》へ　行く
471	イ	いく	行く	五	かまくらの　だいぶつの　ところへは　どう　行きますか。	11	90			〃	《場所：物のところ》へ　行く
472	イ	いく	行く	五	ちょっと　湖の　方へ　行って　みましょう。	17	144	シテミル		〃	《場所：湖の方》へ　行く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
473	イ	いく	いく	五	はい、いきます。	4	25			〃	行く
474	イ	いく	いく	五	なんじごろ　いきますか。	4	25			〃	行く
475	イ	いく	いく	五	あしたの　あさ　九じごろ　いきましょう。	4	25		シマショウ(誘いかけ)	〃	行く
476	イ	いく	いく	五	だれと　いっしょに　いきましたか。	8	64			〃	行く
477	イ	いく	いく	五	一人で　いきました。	8	64			〃	行く
478	イ	いく	行く	五	ばんごはんを　たべてから、行きましたか。	11	92			〃	行く
479	イ	いく	行く	五	ばんごはんを　たべる　前に、行きましたか。	11	92			〃	行く
480	イ	いく	行く	五	ちかくに　いい　店が　ありますが、行って　みますか。	14	115	シテミル		〃	行く
481	イ	いく	行く	五	行って　みたいですね。	14	116	シテミル		〃	行く
482	イ	いく	行く	五	特急電車だったら、二時間ぐらいで　行けるでしょう。	16	132	デキル	～デショウ	〃	行く
483	イ	いく	行く	五	行く　方法は　いろいろ　あります。	16	132			〃	行く
484	イ	いく	行く	五	何人で　行きますか。	16	132			〃	行く
485	イ	いく	行く	五	国の　友だちと　二人で　行きます。	16	132			〃	行く
486	イ	いく	行く	五	おきられたら、行って　みましょう。	16	134	シテミル		〃	行く
487	イ	いく	行く	五	東京から　しもだまで　特急電車だったら　何時間で　行けますか。	16	134	デキル		〃	行く
488	イ	いく	行く	五	行って　みましょう。	16	138	シテミル		〃	行く
489	イ	いく	行く	五	では、行って　来ます。	17	144	シテクル		〃	行く
490	イ	いく	行く	五	行っても　かまいませんか。	19	163		シテモカマワナイ	〃	行く
491	イ	いく	行く	五	さあ、行きましょう。	19	163		シマショウ(誘いかけ)	〃	行く
492	イ	いく	行く	五	テレビでは　何度も　見た　ことが　ありますが、まだ　一度も行った　ことが　ありません。	19	163			〃	行く
493	イ	いく	行く	五	いいですね。行きましょう。	19	168		シマショウ(誘いかけ)	〃	行く
494	イ	いく	行く	五	いっしょに　行きませんか。	19	168		シマセンカ	〃	行く
495	イ	いく	行く	五	ええ、行きましょう。	23	201		シマショウ(誘いかけ)	〃	行く
496	イ	いく	行く	五	ここから　三十分　以内で　行けるでしょう。	23	202	デキル	～デショウ	〃	行く
497	イ	いく	行く	五	いっしょに　行きませんか。	25	225		シマセンカ	〃	行く
498	イ	いく	行く	五	では、急いで　行きましょう。	26	230		シマショウ(誘いかけ)	〃	行く
499	イ	いく	いく	五	あなたも　いっしょに　いきますか。	4	25			〃	《人》も　行く
500	イ	いく	行く	五	わたしも　行きたいのですが、ざんねんながら、その　日はちょっと　用事が　あるのです。	22	193		シタイ	〃	《人》も　行く
501	イ	いく	行く	五	わたしたちも　行って　みましょう。	23	202	シテミル		〃	《人》も　行く
502	イ	いく	行く	五	あなたの　行く　日を　でんわで　知らせましょう。	13	108			〃	《人》が　行く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
503	イ	いく	行く	五	これは　ホンコンへ　行く　船です。	13	111			〃	《乗り物》は《場所》へ　行く
504	イ	いく	いく	五	なんで　いきましたか。	5	33			《人》が《場所》から《場所》に／へ／まで　行く	《乗り物》で　行く
505	イ	いく	いく	五	バスで　いきました。	5	34			〃	《乗り物》で　行く
506	イ	いく	いく	五	なんで　いきましたか。	5	35			〃	《乗り物》で　行く
507	イ	いく	行く	五	車で　行く　ことも　できますよ。	16	132	コトガデキル		〃	《乗り物》で　行く
508	イ	いく	行く	五	でも、道が　よく　わからないから、電車で　行きたいですね。	16	132		シタイ	〃	《乗り物》で　行く
509	イ	いく	いく	五	それから、うちまで　でんしゃで　いきます。	5	38			〃	《場所》まで《乗り物》で　行く
510	イ	いく	行く	五	車で　駅まで　行きましょう。	11	94		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》まで《乗り物》で　行く
511	イ	いく	行く	五	この　きしゃに　のって、きょうと駅で　おりて、タクシーで　家まで行きます。	11	94			〃	《場所》まで《乗り物》で　行く
512	イ	いく	行く	五	かまくら駅からは　どう　行きましたか。	11	92			〃	《場所》から《乗り物》で　行く
513	イ	いく	いく	五	あなたは　うちから　えきまで　なんで　いきますか。	5	37			〃	《人》は《場所》から《場所》まで《乗り物》で　行く
514	イ	いく	いく	五	わたしは　うちから　えきまで　バスで　いきます。	5	37			〃	《人》は《場所》から《場所》まで《乗り物》で　行く
515	イ	いく	いく	五	さとうさんは　おおさかまで　ふねで　いきます。	5	38			〃	《人》は《場所》まで《乗り物》で行く
516	イ	いく	行く	五	この　電車に　のって、かまくら駅まで　行きます。	11	90			〃	《場所》まで　行く
517	イ	いく	行く	五	あそこまで　行きましょう。	11	92		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》まで　行く
518	イ	いく	行く	五	東京から　何時間ぐらいで　行けますか。	16	132	デキル		〃	《場所》から　行く
519	イ	いく	行く	五	大学へ　行く　人は　クラスの　十パーセントしか　いません。	15	128			《人》が《組織》に／へ　行く	《組織：学校》へ　行く
520	イ	いく	いく	五	らいねんの　4月に　大学へ　いきます。	Y1	260			〃	《組織：学校》へ　行く
521	イ	いく	行く	五	日本では、子どもを　じゅくに　行かせる　親が　多い　そうですが．．．。	27	238	サセル		〃	《人》が《組織：塾》に　行く
522	イ	いく	いく	五	マナさんは、いつ　大学へ　いきますか。	Y1	260			〃	《人》は《組織：学校》へ　行く
523	イ	いく	行く	五	さとうさんも、大学祭に　いっしょに　行きませんか。	22	193		シマセンカ	《人》が《イベント》に／へ　行く	《人》も《イベント：大学祭》に　行く
524	イ	いく	行く	五	さとうさんが　大学祭に　行けないのは、どうしてですか。	22	195	デキル		〃	《人》が《イベント：大学祭》に　行く
525	イ	いく	行く	五	これから　パーティーへ　行くのです。	18	158			〃	《イベント：パーティー》へ　行く
526	イ	いく	行く	五	ぜひ　式に　出た　方が　いいですよ。わたしも、去年、行って　よかったと　思って　います。	26	229	シテ		〃	行く
527	イ	いく	行く	五	あした　お寺の　けんぶつに　行きます。	11	90			《人》が《場所》に／へ《事》に行く	《事：見物》に　行く
528	イ	いく	行く	五	さんぽに　行きましょうか。	11	91		シマショウカ	〃	《事：散歩》に　行く
529	イ	いく	行く	五	さんぽに　行きましょうか。	11	95		シマショウカ	〃	《事：散歩》に　行く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
530	イ	いく	行く	五	それから、もし、あした　天気が　良かったら、あさ　五時ごろ　船で　つりに　行きます。	16	134			〃	《事：つり》に　行く
531	イ	いく	行く	五	(もし、)あした　雨が　ふったら、ハイキングに　行きません。	16	136			〃	《事：ハイキング》に　行く
532	イ	いく	行く	五	(もし、)あした　雨が　ふらなかったら、ハイキングに　行きます。	16	136			〃	《事：ハイキング》に　行く
533	イ	いく	行く	五	(もし、)あした　天気が　良かったら、買い物に　行って　ください。	16	136		シテクダサイ	〃	《事：買い物》に　行く
534	イ	いく	行く	五	(もし、)あした　天気が　良く　なかったら、買い物に　行かないでください。	16	136		シナイデクダサイ	〃	《事：買い物》に　行く
535	イ	いく	行く	五	りょこうに　行く　日は　いつに　しますか。	16	137			〃	《事：旅行》に　行く
536	イ	いく	行く	五	りょこうに　行く　日は　来月の　十日に　します。	16	137			〃	《事：旅行》に　行く
537	イ	いく	行く	五	来月の　十日に　りょこうに　行く　ことに　します。	16	137			〃	《事：旅行》に　行く
538	イ	いく	行く	五	りょこうには　行かない　ことに　します。	16	137			〃	《事：旅行》に　行く
539	イ	いく	行く	五	いい　天気でも、さんぽに　行きません。	21	187			〃	《事：散歩》に　行く
540	イ	いく	行く	五	いい　天気で　なくても、さんぽに　行きます。	21	187			〃	《事：散歩》に　行く
541	イ	いく	行く	五	りょこうに　行けないのは　ざんねんです。	21	189	デキル		〃	《事：旅行》に　行く
542	イ	いく	行く	五	おまいりに　行って　来ました。	24	212	シテクル		〃	《事：お参り》に　行く
543	イ	いく	行く	五	二人は　いつ　さんぽに　行きましたか。	11	92			〃	《人》は《事：散歩》に　行く
544	イ	いく	行く	五	アリさんは、さんぽに　行く　前に、	11	92			〃	《人》は《事：散歩》に　行く
545	イ	いく	行く	五	アリさんは　つりに　行くと　思いますか。	16	134			〃	《人》は《事：つり》に　行く
546	イ	いく	行く	五	タンさんは　一人で　見学に　行きますか。	Y10	284			〃	《人》は《事：見学》に　行く
547	イ	いく	行く	五	タンさんが　見学に　行った　時、生徒たちは　どんな　実験を　して　いましたか。	27	239			〃	《人》が《事：見学》に　行く
548	イ	いく	行く	五	春や　秋に　若い　人たちが　ハイキングに　行きます。	Y2	261			〃	《人》が《事：ハイキング》に　行く
549	イ	いく	行く	五	日本人も、外国人も、おおぜい　けんぶつに　行きます。	Y2	261			〃	《人》も《事：見物》に　行く
550	イ	いく	行く	五	わたしたちは　来月　おおさかの　こうじょうへ　けんがくに　行きます。	10	85			〃	《人》は《場所》へ《事；見学》に行く
551	イ	いく	行く	五	ローラさんは、どんな　ことで　山本先生の　所へ　相談に　行きましたか。	21	186			〃	《人》は《場所：人のところ》へ《事：相談》に　行く
552	イ	いく	行く	五	去年、やまださんは、神社に　おまいりに　行った　時、ひどい　目に　あいました。	24	213			〃	《人》は《場所》に《事：お参り》に　行く
553	イ	いく	行く	五	こうえんへ　さんぽに　行きましょう。	10	85		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》へ《事：散歩》に　行く
554	イ	いく	行く	五	じむしつへ　なにを　しに　行きましたか。	10	81			《人》が《場所》に／へ　V-しに行く	《場所》へ　V-しに　行く
555	イ	いく	行く	五	ひこうじょうへ　友だちを　むかえに　行きますから、休みます。	10	85			〃	《場所》へ　V-しに　行く
556	イ	いく	行く	五	では、へやへ　カメラを　とりに　行きますから、	11	91			〃	《場所》へ　V-しに　行く
557	イ	いく	行く	五	へやへ　なにを　しに　行きましたか。	11	92			〃	《場所》へ　V-しに　行く
558	イ	いく	行く	五	ローラさん、売店へ　おべんとうを　買いに　行きませんか。	23	201		シマセンカ	〃	《場所》へ　V-しに　行く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
559	イ	いく	行く	五	ある　日、いつもと　同じように、山へ　木を　取りに　行きました。	Y9	277			〃	《場所》へ　V-しに　行く
560	イ	いく	行く	五	その　布が　できたら、町へ　売りに　行って　ください。	Y9	278		シテクダサイ	〃	《場所》へ　V-しに　行く
561	イ	いく	行く	五	てがみを　とりに　行きました。	10	81			〃	V-しに　行く
562	イ	いく	行く	五	泳ぎに　行きたいと　思いますが、どこか　いい　所を　知りませんか。	16	132		シタイ	〃	V-しに　行く
563	イ	いく	行く	五	なりたまで　友だちを　むかえに　行って　いるのです。	18	159	シテイル		〃	V-しに　行く
564	イ	いく	行く	五	いっしょに　映画を　見に　行きませんか。	19	168		シマセンカ	〃	V-しに　行く
565	イ	いく	行く	五	じゅぎょうが　ないなら、いっしょに　映画を　見に　行きましょう。	21	188		シマショウ(誘いかけ)	〃	V-しに　行く
566	イ	いく	行く	五	それなら、いっしょに　映画を　見に　行きましょう。	21	188		シマショウ(誘いかけ)	〃	V-しに　行く
567	イ	いく	行く	五	わたしは　あした　ひこうじょうへ　友だちを　むかえに　行きます。	10	85			〃	《人》は《場所》へ　V-しに　行く
568	イ	いく	行く	五	わたしは　あした　ていりゅうじょうへ　友だちを　みおくりに　行きます。	10	85			〃	《人》は《場所》へ　V-しに　行く
569	イ	いく	行く	五	それで、人々は、しかたなく　都会へ　働きに　行くのです。	25	222			〃	《人》は《場所》へ　V-しに　行く
570	イ	いく	行く	五	冬の　間、雪国の　人々が　都会へ　働きに　行くのは　どうしてですか。	25	223			〃	《人》が《場所》へ　V-しに　行く
571	イ	いく	行く	五	アリさんは　なにを　しに　行きましたか。	10	83			〃	《人》は　V-しに　行く
572	イ	いく	行く	五	人が　おおぜい　あそびに　行きます。	Y2	262			〃	《人》が　V-しに　行く
573	イ	いく	行く	五	この　道を　まっすぐ　行って、二番目の　角を　左へ　曲がると、広場に　出ます。	19	163	シテ		《人》が《場所》を　行く	《場所:道》を　行く
574	イ	いく	行く	五	この　道を　まっすぐ　行くと、信号が　あります。	19	166	スルト		〃	《場所:道》を　行く
575	イ	いそぐ	急ぐ	五	では、急いで　行きましょう。	26	230	シテ		《人》が　急ぐ	急ぐ
576	イ	いたす	いたす	五	皆で　かんぱいを　いたしました。	28	250		敬譲	《人》が《事》を　いたす	《人》が《事:乾杯》を　いたす
577	イ	いただく	いただく	五	いとう先生の　お宅で　マリアさんたちが　いただいた　料理は、どなたが　作りましたか。	28	248		敬譲	《人》が《物》を　いただく	《人》が《物:食べ物》を　いただく
578	イ	いただく	いただく	五	先生の　お宅で　コーヒーと　おかしを　いただきました。	28	250		敬譲	〃	《物:食べ物》を　いただく
579	イ	いただく	いただく	五	十分　いただきました。	28	247		敬譲	〃	いただく
580	イ	いただく	いただく	五	わたしは　先生に　本を　いただきました。	22	196		敬譲	《人》が《人》から／に《物》をいただく	《人》は《人》に《物》を　いただく
581	イ	いただく	いただく	五	わたしは　先生から　本を　いただきました。	22	196		敬譲	〃	《人》は《人》から《物》を　いただく
582	イ	いらっしゃる	いらっしゃる	五	もし、あした　天気が　良かったら、あさ　五時ごろ　船で　つりに行きます。どうですか。いっしょに　いらっしゃいますか。	16	134		敬譲	《人》が《場所》に／へ　いらっしゃる	いらっしゃる
583	イ	いらっしゃる	いらっしゃる	五	どうですか。いらっしゃいますか。―― いいですね。行って　みましょう。	16	138		敬譲	〃	いらっしゃる
584	イ	いらっしゃる	いらっしゃる	五	あ、アリさん。よく　いらっしゃいました。	20	173		敬譲	〃	いらっしゃる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
585	イ	いらっしゃる	いらっしゃる	五	よく いらっしゃいました。	20	179		敬譲	〃	いらっしゃる
586	イ	いらっしゃる	いらっしゃる	五	先生は、来週、京都へ いらっしゃいます。	28	249		敬譲	〃	《人》は 《場所》へ いらっしゃる
587	イ	いらっしゃる	いらっしゃる	五	お客様は もうすぐ ここへ いらっしゃいます。	28	249		敬譲	〃	《人》は 《場所》へ いらっしゃる
588	イ	いらっしゃる	いらっしゃる	五	ごかぞくは どちらに いらっしゃいますか。	19	162		敬譲	〃	《人》は 《場所》に いらっしゃる
589	イ	いらっしゃる	いらっしゃる	五	先生は、今、ここに いらっしゃいます。	28	249		敬譲	〃	《人》は 《場所》に いらっしゃる
590	イ	いる	いる	上一	へやの 外に アリさんが います。	6	47			《場所》に 《人》が いる	《場所》に 《人》が いる
591	イ	いる	いる	上一	へやの 外に だれが いますか。	6	47			〃	《場所》に 《人》が いる
592	イ	いる	いる	上一	うちの まえに 子どもが なん人 いますか。	6	47			〃	《場所》に 《人》が いる
593	イ	いる	いる	上一	うちの まえに 子どもが 二人 います。	6	47			〃	《場所》に 《人》が いる
594	イ	いる	いる	上一	すずきさんの よこに だれか いますか。	6	49			〃	《場所》に 《人》が いる
595	イ	いる	いる	上一	この へやには あかちゃんが います。	10	86			〃	《場所》に 《人》が いる
596	イ	いる	いる	上一	小林さん、あの バラの 前に かわいい 女の 子が いますね。	14	116			〃	《場所》に 《人》が いる
597	イ	いる	いる	上一	きょうしつには ジョンさんしか いません。	15	129			〃	《場所》に 《人》が いる
598	イ	いる	いる	上一	人が わたしの いる へやから 外へ 出て 行きました。	17	148			〃	《場所》に 《人》が いる
599	イ	いる	いる	上一	あ、あそこに あねが います。	19	164			〃	《場所》に 《人》が いる
600	イ	いる	いる	上一	外には もう 娘は いませんでした。	Y9	280			〃	《場所》に 《人》は いる
601	イ	いる	いる	上一	あの たなの うしろに います。	6	44			〃	《場所》に いる
602	イ	いる	いる	上一	兄は タイに 行って います。今、タイに います。	13	111			〃	《場所》に いる
603	イ	いる	いる	上一	マナさんは 日本に 来て います。今、日本に います。	13	111			〃	《場所》に いる
604	イ	いる	いる	上一	今、国に います。	13	111			〃	《場所》に いる
605	イ	いる	いる	上一	国に いた 時、家では 自分の へやの そうじしか しませんでしたから。	15	124			〃	《場所》に いる
606	イ	いる	いる	上一	日本に いる 間に、いろいろな ことを 経験した 方が いいですね。	26	229			〃	《場所》に いる
607	イ	いる	いる	上一	外に いる 時、じしんが おきたら、たてものの そばを 歩かない 方が いい。	Y6	271			〃	《場所》に いる
608	イ	いる	いる	上一	外に いる 時、じしんが おきたら、どんな ことに 気を つけなければ なりませんか。	Y6	272			〃	《場所》に いる
609	イ	いる	いる	上一	わたしの そばに いて くれ。	Y9	280		シテクレ	〃	《場所》に いる
610	イ	いる	いる	上一	みせの 人は どこに いますか。	6	44			〃	《人》は 《場所》に いる
611	イ	いる	いる	上一	マナさんは どこに いますか。	6	48			〃	《人》は 《場所》に いる
612	イ	いる	いる	上一	マナさんは としょしつに います。	6	48			〃	《人》は 《場所》に いる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
613	イ	いる	いる	上一	父は あした うちに いないと 言いました。	12	102			〃	《人》は《場所》に いる
614	イ	いる	いる	上一	マナさんは 国に いた 時、自分の へやの そうじを しましたか。	15	126			〃	《人》は《場所》に いる
615	イ	いる	いる	上一	あの 人は、どうも 部屋に いない らしいです。	28	251		～ラシイ	〃	《人》は《場所》に いる
616	イ	いる	いる	上一	学生は、みんな この りょうに います。	Y1	259			〃	《人》は《場所》に いる
617	イ	いる	いる	上一	その 日から 娘は ずっと 若者の 家に いるように なりました。	Y9	278	スルヨウニナル		〃	《人》は《場所》に いる
618	イ	いる	いる	上一	かいものきゃくは 一人も いません。	6	44			〃	《人》は いる
619	イ	いる	いる	上一	かいものきゃくは おおぜい いますか。	6	49			〃	《人》は いる
620	イ	いる	いる	上一	いいえ、かいものきゃくは 一人も いません。	6	49			〃	《人》は いる
621	イ	いる	いる	上一	アリさんは いませんか。	9	75			〃	《人》は いる
622	イ	いる	いる	上一	はい、アリさんは いません。	9	75			〃	《人》は いる
623	イ	いる	いる	上一	いいえ、マナさんは います。	9	76			〃	《人》は いる
624	イ	いる	いる	上一	アリさんは いませんか。	10	81			〃	《人》は いる
625	イ	いる	いる	上一	ほかの 人は いません。	15	129			〃	《人》は いる
626	イ	いる	いる	上一	いいえ、だれも いません。	6	49			〃	《人》が いる
627	イ	いる	いる	上一	マナさんが いませんね。	18	159			〃	《人》が いる
628	イ	いる	いる	上一	人が いっぱい いますね。	19	164			〃	《人》が いる
629	イ	いる	いる	上一	その 子は「お母さんが いなく なっちゃった。」と 言って、泣いて います。	28	252			〃	《人》が いる
630	イ	いる	いる	上一	がいこくじんも います。	6	50			〃	《人》も いる
631	イ	いる	いる	上一	マナさんも いませんか。	9	76			〃	《人》も いる
632	イ	いる	いる	上一	はい、いません。	10	81			〃	いる
633	イ	いる	いる	上一	どうして いないのですか。	18	159			〃	いる
634	イ	いる	いる	上一	でも、あなたが 約束を 守らなかったので、もう いっしょに いることが できません。	Y9	280	コトガデキル		〃	いる
635	イ	いる	いる	上一	池の 中に なにか いますか。	6	45			〃	《場所》に《人：動物》が いる
636	イ	いる	いる	上一	こうえんの いけの 中に なにが いますか。	6	46			〃	《場所》に《人：動物》が いる
637	イ	いる	いる	上一	木の 上に なにが いますか。	6	47			〃	《場所》に《人：動物》が いる
638	イ	いる	いる	上一	木の 上に とりが います。	6	47			〃	《場所》に《人：動物》が いる
639	イ	いる	いる	上一	木の 下に ねこが なんびき いますか。	6	47			〃	《場所》に《人：動物》が いる
640	イ	いる	いる	上一	木の 下に ねこが 三びき います。	6	47			〃	《場所》に《人：動物》が いる
641	イ	いる	いる	上一	池の むこうに なにか いますか。	6	49			〃	《場所》に《人：動物》が いる
642	イ	いる	いる	上一	遠い 昔、人間は 海の 中に いた 動物から 進化したと 言われて いる。	Y8	276			〃	《場所》に《人：動物》が いる
643	イ	いる	いる	上一	犬は 木の 下に います。	6	48			〃	《人：動物》は《場所》に いる
644	イ	いる	いる	上一	ねこは 木の 上に います。	6	48			〃	《人：動物》は《場所》に いる
645	イ	いる	いる	上一	ジョンさんの 犬は どこに いますか。	6	48			〃	《人：動物》は《場所》に いる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
646	イ	いる	いる	上一	ジョンさんの　犬は　にわに　います。	6	48			〃	《人:動物》は《場所》に　いる
647	イ	いる	いる	上一	なにが　いますか。	6	45			〃	《人:動物》が　いる
648	イ	いる	いる	上一	小さい　さかなが　たくさん　います。	6	45			〃	《人:動物》が　いる
649	イ	いる	いる	上一	馬が　います。	6	47			〃	《人:動物》が　いる
650	イ	いる	いる	上一	犬と　ねこが　います。	6	48			〃	《人:動物》が　いる
651	イ	いる	いる	上一	いいえ、なにも　いません。	6	49			〃	《人:動物》が　いる
652	イ	いる	いる	上一	さかなは　たくさん　いますか。	6	49			〃	《人:動物》は　いる
653	イ	いる	いる	上一	いいえ、さかなは　一ぴきも　いません。	6	49			〃	《人:動物》は　いる
654	イ	いる	いる	上一	牛も　います。	6	47			〃	《人:動物》も　いる
655	イ	いる	いる	上一	はい、います。	6	45			〃	いる
656	イ	いる	いる	上一	大学には　りゅう学生が　おおぜい　いますか。	9	71			《組織》に《人》が　いる	《組織:学校》に《人:留学生》が　いる
657	イ	いる	いる	上一	すずきさんの　うちには　子どもが　十人も　います。	15	129			〃	《組織:家》に《人:子供》が　いる
658	イ	いる	いる	上一	学生は、ぜんぶで　60人ぐらい　います。	Y1	259			〃	《人》は　いる
659	イ	いる	いる	上一	学生は、ぜんぶで　なん人ぐらい　いますか。	Y1	260			〃	《人》は　いる
660	イ	いる	いる	上一	インドネシアの　学生も　います。	Y1	259			〃	《人》も　いる
661	イ	いる	いる	上一	メキシコの　学生も　います。	Y1	259			〃	《人》も　いる
662	イ	いる	いる	上一	いろいろな　くにの　学生が　います。	Y1	259			〃	《人》が　いる
663	イ	いる	いる	上一	だれか　じしょを　もって　いる　人は　いませんか。	13	112			《人》が　いる	《人》は　いる
664	イ	いる	いる	上一	大学へ　行く　人は　クラスの　十パーセントしか　いません。	15	128			〃	《人》は　いる
665	イ	いる	いる	上一	今年、成人式を　迎える　人は、全国で　どのくらい　いますか。	26	231			〃	《人》は　いる
666	イ	いる	いる	上一	でも、政府の　仕事を　したり、国の　研究所で　はたらいたり　する　人も　おおぜい　います。	20	174			〃	《人》も　いる
667	イ	いる	いる	上一	外国人の　中には、「日本人は、物を　あげたり、もらったり　するのが　好きな　国民だ。」と　言う　人も　いる。	Y7	273			〃	《人》も　いる
668	イ	いる	いる	上一	日本人の　中には、しんせつに　して　もらった　時だけで　なく、おぼんや　年の　終わりにも　おくり物を　する　人が　いるのである。	Y7	274			〃	《人》が　いる
669	イ	いる	いる	五	外国へ　行く　時、パスポートが　いります。	18	158			《人》に《物》が　要る	《物》が　要る
670	イ	いる	いる	五	先祖が　家へ　かえって　来る　時は、乗り物が　いるから、	Y5	268			〃	《物》が　要る
671	イ	いる	いる	五	外国へ　行く　時、いる　物は　パスポートです。	18	158			〃	《物》は　要る
672	イ	いる	要る	五	魚を　とるのに　丈夫な　あみが　要ります。	23	206			《事》に《物》が　要る	《事:V-するの》に《物》が　要る
673	イ	いる	いる	五	でも、心配は　いりませんよ。	18	153			慣:心配は　いらない	慣:心配は　いらない
674	イ	いる	いる	五	心配は　いりません。	18	159			〃	慣:心配は　いらない
675	イ	いれる	入れる	下一	カードは　どこに　入れますか。	12	99			《人》が《物／場所》に／へ 《物》を　入れる	《物》は《場所》に　入れる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
676	イ	いれる	入れる	下一	食器の はこは トランクに 入れました。	17	143			〃	《物》は 《場所》に 入れる
677	イ	いれる	入れる	下一	荷物は ロッカーに 入れて おきましょう。	23	202	シテオク		〃	《物》は 《場所》に 入れる
678	イ	いれる	入れる	下一	母は れいぞうこに 卵を 入れました。	12	101			〃	《人》は 《場所》に 《物》を 入れる
679	イ	いれる	入れる	下一	ほそい パイプの 中には、人間の 手は 入れられませんが、ロボットの 手は 入れられます。	Y4	266	デキル		〃	《場所》に 《物：身体部位：手》を 入れる
680	イ	いれる	入れる	下一	ほそい パイプの 中には、人間の 手は 入れられませんが、ロボットの 手は 入れられます。	Y4	266	デキル		〃	《場所》に 《物：身体部位：手》を 入れる
681	イ	いれる	入れる	下一	その はこの 中に 入れて ください。	12	99		シテクダサイ	〃	《場所》に 入れる
682	イ	いれる	入れる	下一	この いすも 入れますか。	17	143			〃	《物》も 入れる
683	イ	いれる	入れる	下一	料理の 本に 書いて ある とおりに、塩や さとうを 入れなさい。	27	242		シナサイ	〃	《物》を 入れる
684	イ	いれる	入れる	下一	料理の 本の とおりに、塩や さとうを 入れなさい。	27	242		シナサイ	〃	《物》を 入れる
685	イ	いれる	入れる	下一	わたしを 入れて 三人です。	19	162	シテ		《人》に 《人》を 入れる	《人》を 入れて 数量
686	イ	いわう	祝う	五	ええ、大人に なった ことを お祝いする 日です。	26	229		オ-スル	《人》が 《事》を 祝う	《事》を 祝う
687	イ	いわう	祝う	五	その 人たちと いっしょに お祝いするのですね。	26	229		オ-スル	〃	祝う
688	ウ	うかがう	うかがう	五	ええ、去年、大学祭で お会いした 時、うかがう 約束を しましたね。	28	246		敬譲	《人》が 《場所》に うかがう	うかがう
689	ウ	うかがう	うかがう	五	先日 おうかがいした 時、国の 絵はがきを 持って まいりましたが、お渡しするのを 忘れて しまいました。	Y10	282		オ-スル、敬譲	〃	うかがう
690	ウ	うかがう	うかがう	五	もし、よろしければ、いっしょに うかがいたいと 思って おります。	Y10	283		シタイ、敬譲	〃	うかがう
691	ウ	うかがう	うかがう	五	マリアさん、一度、いとう先生の お宅に うかがいませんか。	28	246		シマセンカ、敬譲	〃	《場所》に うかがう
692	ウ	うかがう	うかがう	五	先週、田中さんの お姉さんの お宅に うかがいました。	28	250		敬譲	〃	《場所》に うかがう
693	ウ	うかがう	うかがう	五	ちょっと うかがいますが。	13	109		敬譲	《人》が 《人》に 《事》を うかがう	うかがう
694	ウ	うかがう	うかがう	五	ちょっと うかがいますが。—はい、何でしょうか。	13	113		敬譲	〃	うかがう
695	ウ	うけとる	受けとる	五	せんしゅう じむ室で 学生証を 受けとりました。	15	126			《人》が 《物》を 受け取る	《物》を 受け取る
696	ウ	うけとる	受け取る	五	この 手紙は、受け取ったばかりですから、まだ 読んで いません。	28	251	シタバカリ		《人》が 《人》から 《物》を 受け取る	《物》を 受け取る
697	ウ	うける	受ける	下一	学生は 毎しゅう 発音の テストを 受けて います。	15	129	シテイル		《人》が 《イベント》を 受ける	《人》が 《イベント：テスト》を 受ける
698	ウ	うごく	動く	五	この 時計は 止まった ままです。ずっと 動きません。	24	216			《物》が 動く	動く
699	ウ	うごく	動く	五	そのまま、ずっと 動きません。	24	216			〃	動く
700	ウ	うごく	動く	五	この 機械は どうも 古い ようです。あまり 動きません。	25	224			〃	動く
701	ウ	うごく	動く	五	この 時計は 止まった まま、ずっと 動きません。	24	216			〃	《物》は 動く
702	ウ	うごく	動く	五	動いては だめですよ。はい、こちらを 向いて. . . 。	14	117		シテハダメ	《人》が 動く	動く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
703	ウ	うごく	動く	五	動かない　方が　いいでしょう。	18	158			〃	動く
704	ウ	うたう	うたう	五	にほんの　うたを　うたいました。	3	18			《人》が《物》を　うたう	《物:歌》を　うたう
705	ウ	うたう	うたう	五	ほら、あそこで　うたを　うたいながら、おどって　います。	19	164	シナガラ		〃	《物:歌》を　うたう
706	ウ	うたう	うたう	五	うたったり　して　います。	12	101	シタリ		〃	うたう
707	ウ	うつ	うつ	五	わたしは　父に　でんぽうを　うちました。	8	66			慣:でんぽうを　打つ	慣:でんぽうを　打つ
708	ウ	うつ	打つ	五	ワープロを　打つ　ことは　むずかしいです。	14	120			慣:ワープロを　打つ	慣:ワープロを　打つ
709	ウ	うつす	写す	五	あの　子の　写真を　写したいです。	14	116		シタイ	《人》が《物》を　写す	《物:写真》を　写す
710	ウ	うつす	写す	五	お子さんの　写真を　写したいと　言って　います。	14	117		シタイ	〃	《物:写真》を　写す
711	ウ	うつす	写す	五	この　工場では　写真を　写しても　いいです。	14	120		シテモイイ	〃	《物:写真》を　写す
712	ウ	うつす	写す	五	写しても　いいでしょうか。	14	117		シテモイイ	〃	写す
713	ウ	うつす	写す	五	ローラさんは　バラの　花の　前で　だれの　写真を　写しましたか。	14	117			〃	《人》は《物:写真》を　写す
714	ウ	うまれる	生まれる	下一	ことしの　春　女の　あかちゃんが　生まれました。	8	64			《人》が　生まれる	《人》が　生まれる
715	ウ	うまれる	生まれる	下一	生まれたばかりの　赤ちゃんは　しゃべれません。	28	251	シタバカリ		〃	《人》が　生まれる
716	ウ	うまれる	生まれる	下一	1962年に、さんぎょうロボットが　アメリカで　生まれました。	Y4	266			〃	《人》が　生まれる
717	ウ	うまれる	生まれる	下一	ふくざつな　ロボットが　たくさん　生まれて、人びとの　生活は、もっと　らくに　なるでしょう。	Y4	267	シテ		〃	《人》が　生まれる
718	ウ	うまれる	生まれる	下一	わたしは、雪国で　生まれたから、その　きびしさを　よく　知っています。	25	221			〃	《人》は　生まれる
719	ウ	うまれる	生まれる	下一	中国で　生まれた　古い　文字です。	Y3	263			《物》が　生まれる	《物:文字》が　生まれる
720	ウ	うまれる	生まれる	下一	かなが　生まれてから、日本語の　文は、あたらしい　書き方になりました。	Y3	264			〃	《物:文字》が　生まれる
721	ウ	うまれる	生まれる	下一	かんじは、どこの　国で　生まれた　文字ですか。	Y3	265			〃	《物:文字》は　生まれる
722	ウ	うる	売る	五	安くて、いい　時計を　売って　いる　店を　知って　いますか。	13	108	シテイル		《人》が《人》に《物》を　売る	《物》を　売る
723	ウ	うる	売る	五	その　布が　できたら、町へ　売りに　行って　ください。	Y9	278	シニ		〃	売る
724	ウ	うる	売る	五	若者は、その　布を　町へ　持って　行って、売りました。	Y9	278			〃	《人》は《物》を　売る
725	ウ	うんてんする	運転する	サ変	わたしは　車を　運転する　ことが　できます。	16	135	デキル		《人》が《乗り物》を　運転する	《人》は《乗り物:車》を　運転する
726	ウ	うんてんする	運転する	サ変	わたしは　車が　運転できます。	16	135	コトガデキル		〃	《人》は《乗り物:車》を　運転する
727	ウ	うんどうする	うんどうする	サ変	夕方　たいいくかんで　一じかんぐらい　うんどうしました。	5	33			《人》が　運動する	運動する
728	ウ	うんどうする	運動する	サ変	でも、しばふの　上で　運動したり　しては　いけません。	14	116	シタリ	シテハイケナイ	〃	運動する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
729	エ	えらぶ	えらぶ	五	いい 題を えらびましたね。	22	193			《人》が 《事》を 選ぶ	《事:題》を 選ぶ
730	エ	えらぶ	えらぶ	五	両親は 子どもたちに 自由に 専攻を えらばせました。	27	240	サセル		〃	《人》が 《事:専攻》を 選ぶ
731	オ	おいかける	追いかける	下一	その どろぼうは、けいさつかんに 追いかけられました。	24	214	サレル		《人》が 《人》を 追いかける	《人》が 《人》を 追いかける
732	オ	おいかける	追いかける	下一	若者が 娘を 追いかけて 外へ 出た 時、鳥の 鳴く 声が しました。	Y9	280	シテ		〃	《人》が 《人》を 追いかける
733	オ	おきる	おきる	上一	もし じしんが おきたら どう したら いいのか。	Y6	271	シタラ		《場所》に 《現象》が おきる	《現象:地震》が おきる
734	オ	おきる	おきる	上一	しかし、じしんが おきても、すぐ 外へ 出ない 方が 安全である。	Y6	271	シテモ		〃	《現象:地震》が おきる
735	オ	おきる	おきる	上一	外に いる 時、じしんが おきたら、たてものの そばを 歩かない 方が いい。	Y6	271	シタラ		〃	《現象:地震》が おきる
736	オ	おきる	おきる	上一	むかしから、動物が うるさく 鳴いたり、ものを 食べなく なったり すれば、じしんが おきると いう 話も ある。	Y6	272			〃	《現象:地震》が おきる
737	オ	おきる	おきる	上一	じしんが いつ おきるのか、知る ことは まだ むずかしい。	Y6	272			〃	《現象:地震》が おきる
738	オ	おきる	おきる	上一	じしんが おきた 時、火を 使って いれば、どう しなければ なりませんか。	Y6	272			〃	《現象:地震》が おきる
739	オ	おきる	おきる	上一	じしんが おきたら、すぐ 外へ 出た 方が いいですか。	Y6	272	シタラ		〃	《現象:地震》が おきる
740	オ	おきる	おきる	上一	外に いる 時、じしんが おきたら、どんな ことに 気を つけなければ なりませんか。	Y6	272	シタラ		〃	《現象:地震》が おきる
741	オ	おきる	おきる	上一	わたしは まいあさ 七じごろ おきます。	3	21			《人》が 起きる	《人》は 起きる
742	オ	おきる	おきる	上一	父は、毎あさ 七時ごろ おきて、かおを あらって、はを みがいて、ひげを そって、シャワーを あびます。	11	94	シテ		〃	《人》は 起きる
743	オ	おきる	おきる	上一	わたしは けさ 五時に おきる ことが できませんでした。	16	135	コトガデキル		〃	《人》は 起きる
744	オ	おきる	おきる	上一	わたしは けさ 五時に おきられませんでした。	16	135	デキル		〃	《人》は 起きる
745	オ	おきる	おきる	上一	おきられたら、行って みましょう。	16	134	デキル、シタラ		〃	起きる
746	オ	おきる	起きる	上一	いつも 雪を 見たがって いたのに、起きて 来ませんね。	25	221	シテクル		〃	起きる
747	オ	おく	おく	五	あなたは どこに さいふを おきましたか。	12	101			《人》が 《場所》に 《物》を おく	《人》は 《場所》に 《物》を おく
748	オ	おく	おく	五	わたしは つくえの 上に さいふを おきました。	12	101			〃	《人》は 《場所》に 《物》を おく
749	オ	おく	おく	五	ここに にもつを おいて 行きましょう。	17	148	シテイク		〃	《場所》に 《物》を おく
750	オ	おく	おく	五	おいて 行きます。	17	143	シテイク		〃	おく
751	オ	おくる	送る	五	にもつは もう 送りましたか。	15	129			《人》が 《人》に 《物》を 送る	《物》を 送る
752	オ	おくる	送る	五	この にもつを 送って いただきたいのですが。はい、お送りしましょう。	22	197	シテイタダク		〃	《物》を 送る
753	オ	おくる	おくる	五	おぼんに おくる 物を 「お中元」と いい、年の 終わりに おくる 物を 「おせいぼ」と いう。	Y7	273			〃	《物》を 送る
754	オ	おくる	おくる	五	おぼんに おくる 物を 「お中元」と いい、年の 終わりに おくる 物を 「おせいぼ」と いう。	Y7	273			〃	《物》を 送る
755	オ	おくる	おくる	五	むかしは 生活に 必要な 物、たとえば、米や 魚などを おくる ことが 多かった。	Y7	273			〃	《物》を 送る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
756	オ	おくる	おくる	五	その しゅうかんは、今も のこって いて、食料品を おくる ことが 一番 多い。	Y7	273			〃	《物》を 送る
757	オ	おくる	おくる	五	私の お礼の 気持ちを この プレゼントと いっしょに おくります。	Y7	274			〃	《物》を 送る
758	オ	おくる	おくる	五	あした こうくうびんで これを あねに おくります。	8	65			〃	《人》に 《物》を 送る
759	オ	おくる	送る	五	では、写真を とって いもうとに 送って やります。	22	194	シテヤル		〃	《人》に 《物》を 送る
760	オ	おくる	おくる	五	世話に なった 人や 目上の 人などに 物を おくる しゅうかんが ある。	Y7	273			〃	《人》に 《物》を 送る
761	オ	おくる	おくる	五	その 人に プレゼントを おくって、かんしゃの 気持ちを あらわす ことが あるだろう。	Y7	274	シテ		〃	《人》に 《物》を 送る
762	オ	おくる	送る	五	いいえ、まだ 送って いません。	15	129	シテイル		〃	送る
763	オ	おくる	送る	五	この にもつを 送って いただきたいのですが。はい、お送りしましょう。	22	197		オ-スル、シマショウ(意図)	〃	送る
764	オ	おくる	送る	五	お金が 必要な 場合は、知らせて ください。すぐ 送ります。	27	242			〃	送る
765	オ	おくる	送る	五	国の 母から、さしあげるようにと 送って 来た ものですので、	Y10	282	シテクル		〃	送る
766	オ	おくる	送る	五	だれが 送って くれたのですか。	22	193	シテクレル		〃	《人》が 送る
767	オ	おくる	送る	五	小林さんが 送って くれたのです。	22	193	シテクレル		〃	《人》が 送る
768	オ	おくる	おくる	五	マリアさんは それを だれに おくりますか。	8	65			〃	《人》が 《人》に 《物》を 送る
769	オ	おくる	おくる	五	日本人は、どんな 人に 「お中元」や 「おせいぼ」を おくりますか。	Y7	274			〃	《人》は 《人》に 《物》を 送る
770	オ	おくる	送る	五	それは、だれが 送って くれたのですか。	22	195	シテクレル		〃	《人》が 《物》を 送る
771	オ	おくる	おくる	五	どんな 時、日本人は、「お中元」や 「おせいぼ」を おくりますか。	Y7	274			〃	《人》は 《物》を 送る
772	オ	おくる	送る	五	では、はくしゅで マリアさんを お送りしましょう。	22	195		オ-スル、シマショウ(誘いかけ)	《人》が 《人》を 送る	《人》を 送る
773	オ	おくる	送る	五	8月16日は、先祖を 送る 日です。	Y5	269			〃	《人》を 送る
774	オ	おくれる	おくれる	下一	会議に おくれないように、早く 家を 出ましょう。	22	198	シナイヨウニ		《人》が 《イベント》に おくれる	《イベント:会議》に おくれる
775	オ	おくれる	おくれる	下一	大雨で 電車が おくれたので、じゅぎょうに 間に合いませんでした。	24	217			《乗り物》が おくれる	《乗り物:電車》が おくれる
776	オ	おこす	起こす	五	もう 一度 マナさんを 起こして みましょう。	25	223	シテミル		《人》が 《人》を 起こす	《人》を 起こす
777	オ	おこなう	行う	五	地方では 毎年 いろいろな 古い 行事が 行われて います。	24	215	サレル、シテイル		《人》が 《イベント》を 行う	《イベント:行事》を 行う
778	オ	おこる	おこる	五	兄は、うそを 言って、弟を おこらせました。	27	240	サセル		《人》が おこる	《人》が おこる
779	オ	おしえる	おしえる	下一	わたしは お母さんに くにの りょうりを おしえました。	8	64			《人》が 《人》に 《事》を 教える	《人》は 《人》に 《事:料理》を 教える
780	オ	おしえる	おしえる	下一	山本先生は マナさんに 日本ごを おしえました。	8	66			〃	《人》は 《人》に 《事:言語》を 教える
781	オ	おしえる	教える	下一	わたしは 弟に テニスを 教えて やりました。	22	196	シテヤル		〃	《人》は 《人》に 《事:スポーツ》を 教える
782	オ	おしえる	おしえる	下一	この じしょの つかい方を おしえて ください。	10	84		シテクダサイ	〃	《事:仕方》を 教える

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
783	オ	おしえる	おしえる	下一	その　店は　どこに　あるか、場所を　おしえて　ください。	13	108		シテクダサイ	〃	《事：場所》を　教える
784	オ	おしえる	おしえる	下一	パーティーは　何時に　はじまるか、(時間を）おしえて　ください。	13	111		シテクダサイ	〃	《事：時間》を　教える
785	オ	おしえる	教える	下一	どこへ　行けば、買えるでしょうか。教えて　ください。	21	185		シテクダサイ	〃	教える
786	オ	おしえる	教える	下一	友だちの　中村くんが　母校で　教えて　います。	27	237	シテイル		〃	《人》が　教える
787	オ	おしえる	教える	下一	兄は　母校の　東京大学で　教えて　います。	27	242	シテイル		〃	《人》は　教える
788	オ	おじゃまする	おじゃまする	サ変	じゃ、来週でも　おじゃましましょうか。	28	246		シマショウカ	《人》が　《場所》に　おじゃまする	おじゃまする
789	オ	おす	押す	五	帰り道では　背中を　押されたり、足を　ふまれたり　しました。	24	211	サレル、シタリ		《人》が　《物》を　押す	《物》を　押す
790	オ	おちる	おちる	上一	森の　中に　えだが　たくさん　おちて　いました。	17	144	シテイル		《物》が　《場所》から　《場所》に／へ　おちる	《場所》に　《物》が　おちる
791	オ	おちる	おちる	上一	森の　中に　えだが　おちて　いましたか。	17	145	シテイル		〃	《場所》に　《物》が　おちる
792	オ	おちる	おちる	上一	道に　さいふが　おちて　います。	17	147	シテイル		〃	《場所》に　《物》が　おちる
793	オ	おちる	おちる	上一	上から　石が　おちました。	17	146			〃	《場所》から　《物》が　おちる
794	オ	おちる	おちる	上一	もし、上から　何か　おちて　来たら、危ないから、つくえや　ベットなどの　下に　入る。	Y6	271	シテクル		〃	《場所》から《物》が　おちる
795	オ	おちる	おちる	上一	まどの　ガラスが　われて、おちて　来る　ことが　多いからで　ある。	Y6	272	シテクル		〃	《物》が　おちる
796	オ	おっしゃる	おっしゃる	五	先生は・・・・・・マリアさんの　話を　聞きたいって　おっしゃってましたよ。	28	246	シテイル	敬譲	《人》が　《人》に　《内容》と　おっしゃる	《人》は　《内容》と　おっしゃる
797	オ	おっしゃる	おっしゃる	五	先生は　何と　おっしゃいましたか。	28	249		敬譲	〃	《人》は　《内容》と　おっしゃる
798	オ	おとす	おとす	五	男の　子が　上から　石を　おとしました。	17	146			《人》が　《物》を　(《場所》から)《場所》に／へ　おとす	《人》が　《場所》から　《物》を　おとす
799	オ	おとす	おとす	五	姉は　妹に　お金を　おとさないように(と）　言いました。	26	232	シナイヨウニ命ジル		〃	《物：お金》を　おとす
800	オ	おどる	おどる	五	ほら、あそこで　うたを　うたいながら、おどって　います。	19	164	シテイル		《人》が　おどる	おどる
801	オ	おどる	おどる	五	さあ、わたしたちも　おどりましょう。	19	164		シマショウ(誘いかけ）	〃	《人》も　おどる
802	オ	おぼえる	おぼえる	下一	この　かんじは　たいせつですから、おぼえて　ください。	10	86		シテクダサイ	《人》が　《事》を　覚える	《事：文字》を　覚える
803	オ	おぼえる	覚える	下一	何字ぐらい　覚えれば、十分なのですか。	21	184	スレバ		〃	《事：文字》を　覚える
804	オ	おぼえる	覚える	下一	千五百字ぐらい　覚えれば、十分でしょう。	21	184	スレバ		〃	《事：文字》を　覚える
805	オ	おぼえる	覚える	下一	山本先生は、どうすれば　漢字が　覚えられると　言いましたか。	21	186	デキル		〃	《事：文字》を　覚える
806	オ	おぼえる	覚える	下一	一年で　そんなに　覚えるのは　大変ですね。	21	184			〃	覚える

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
807	オ	おぼえる	覚える	下一	でも、少しでも、毎日　書く　練習を　続ければ、覚えられますよ。	21	185	デキル		〃	覚える
808	オ	おぼえる	覚える	下一	ローラさんは、新聞を　読むために、これから　何字ぐらい　覚えなければ　なりませんか。	21	186		シナケレバナラナイ	〃	《人》は《事：文字》を　覚える
809	オ	おもいだす	思い出す	五	しけんの　時　こたえが　思い出せませんでした。	16	135	デキル		《人》が《事》を　思い出す	《事》を　思い出す
810	オ	おもいだす	思い出す	五	しけんの　時　こたえを　思い出す　ことが　できませんでした。	16	135	コトガデキル		〃	《事》を　思い出す
811	オ	おもいだす	思い出す	五	なくなった　人たちの　ことを　思い出しながら、	Y5	269	シナガラ		〃	《事》を　思い出す
812	オ	おもいだす	思い出す	五	楽しかった　ことを　いろいろ　思い出して　おります。	Y10	282	シテオル		〃	《事》を　思い出す
813	オ	おもう	おもう	五	「明暗」は　小説の　名前だと　おもいますが．．．。	12	98			《人》が《内容》と　思う	《内容》と　思う
814	オ	おもう	おもう	五	もう　だいじょうぶだと　おもいます。	12	99			〃	《内容》と　思う
815	オ	おもう	おもう	五	あまり　むずかしく　なかったと　おもいます。	12	99			〃	《内容》と　思う
816	オ	おもう	おもう	五	きのう　小林さんは　がっこうへ　行かなかったと　おもいます。	12	103			〃	《内容》と　思う
817	オ	おもう	おもう	五	きのうの　テストは　やさしかったと　おもいます。	12	103			〃	《内容》と　思う
818	オ	おもう	おもう	五	きのうの　テストは　むずかしく　なかったと　おもいます。	12	103			〃	《内容》と　思う
819	オ	おもう	おもう	五	小林さんは　ずっと　元気だったと　おもいます。	12	103			〃	《内容》と　思う
820	オ	おもう	おもう	五	小林さんは　ずっと　びょうきでは　なかったと　おもいます。	12	103			〃	《内容》と　思う
821	オ	おもう	おもう	五	ピカソは　すばらしい　画家だと　おもいます。	14	115			〃	《内容》と　思う
822	オ	おもう	おもう	五	その　時は、ちょっと　へんだと　おもいましたが、今は　いい　しゅうかんだと　おもって　います。	15	125			〃	《内容》と　思う
823	オ	おもう	おもう	五	その　時は、ちょっと　へんだと　おもいましたが、今は　いい　しゅうかんだと　おもって　います。	15	125	シテイル		〃	《内容》と　思う
824	オ	おもう	思う	五	アリさんは　つりに　行くと　思いますか。	16	134			〃	《内容》と　思う
825	オ	おもう	思う	五	わたしの　父も　そう　言うだろうと　思います。	26	230			〃	《内容》と　思う
826	オ	おもう	思う	五	来年は　たぶん　物価が　上がるだろうと　思います。	26	233			〃	《内容》と　思う
827	オ	おもう	思う	五	雪国の　生活は　きびしいだろうと　思います。	26	233			〃	《内容》と　思う
828	オ	おもう	思う	五	日本語で　レポートを　書くのは　大変だろうと　思います。	26	233			〃	《内容》と　思う
829	オ	おもう	思う	五	でも、子どもは　自由に　遊ばせた　方が　いいと　思います。	27	238			〃	《内容》と　思う
830	オ	おもう	思う	五	これは　いい　制度だと　思う。	27	239			〃	《内容》と　思う
831	オ	おもう	思う	五	マナさんは　日本語が　上手な　方だと　思います。	27	242			〃	《内容》と　思う
832	オ	おもう	思う	五	でも、今は　みんな　いい　経験だったと　思ってます。	28	246	シテイル		〃	《内容》と　思う
833	オ	おもう	思う	五	そう　思いながら、若者は　戸を　開けて　みました。	Y9	277	シナガラ		〃	《内容》と　思う
834	オ	おもう	思う	五	「‥‥‥ちょっとだけなら　見ても　かまわないだろう。」と　思って、娘の　働いて　いる　部屋へ　行って　みました。	Y9	279	シテ		〃	《内容》と　思う
835	オ	おもう	思う	五	いつまでも　忘れられないだろうと　思います。	Y10	282			〃	《内容》と　思う

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
836	オ	おもう	おもう	五	ええ、わたしも もっと 体を じょうぶに しなければ ならないと おもって います。	15	125	シテイル		〃	《人》も《内容》と 思う
837	オ	おもう	思う	五	日本語は むずかしいでしょう。(あなたも そう 思いませんか。)	17	149			〃	《人》も《内容》と 思う
838	オ	おもう	思う	五	わたしも、去年、行って よかったと 思って います。	26	229	シテイル		〃	《人》も《内容》と 思う
839	オ	おもう	おもう	五	わたしは きのう 小林さんは がっこうを 休んだと おもいます。	12	103			〃	《人》は《内容》と 思う
840	オ	おもう	思う	五	アリさんは、どんな 所に つとめようと 思って いますか。	20	175	シテイル		《人》が V-しようと 思う	《人》は V-しようと 思う
841	オ	おもう	思う	五	わたしは、こくさいもんだいに ついて 論文を 書こうと 思って います。	20	176	シテイル		〃	《人》は V-しようと 思う
842	オ	おもう	思う	五	(わたしは)あした 母に こくさい電話を かけようと 思って います。	20	176	シテイル		〃	《人》は V-しようと 思う
843	オ	おもう	思う	五	(わたしは)大学院で 西洋史を 専門に べんきょうしようと 思って います。	20	176	シテイル		〃	《人》は V-しようと 思う
844	オ	おもう	思う	五	(わたしは)来年 また 日本へ 来ようと 思って います。	20	176	シテイル		〃	《人》は V-しようと 思う
845	オ	おもう	思う	五	わたしは、英語を べんきょうして いますが、通訳に なろうとは 思って いません。	20	176	シテイル		〃	《人》は V-しようと 思う
846	オ	おもう	思う	五	わたしは、マリアさんが 好きですが、結婚しようとは 思って いません。	20	176	シテイル		〃	《人》は V-しようと 思う
847	オ	おもう	思う	五	娘は、何を しようと 思って、若者の 家に 来たのですか。	Y9	281	シテ		〃	《人》は V-しようと 思う
848	オ	おもう	思う	五	これから、いっしょうけんめいに やろうと 思って います。	20	174	シテイル		〃	V-しようと 思う
849	オ	おもう	思う	五	大学院には 進まずに、帰国して、商社の ような 所に つとめようと 思って います。	20	174	シテイル		〃	V-しようと 思う
850	オ	おもう	思う	五	この 本は 弟にでも やろうかと 思って います。	28	252	シテイル		〃	V-しようと 思う
851	オ	おもう	思う	五	あなたの ために、働こうと 思って、この 家に 来ました。	Y9	280	シテ		〃	V-しようと 思う
852	オ	おもう	思う	五	なぜ、そう しようと 思ったのですか。	Y9	281			〃	V-しようと 思う
853	オ	おもう	思う	五	お渡ししようと 思って おります。	Y10	282	シテオル		〃	V-しようと 思う
854	オ	おもう	おもう	五	今、あたらしい カメラを かいたいと おもって います。	14	115	シテイル		《人》が V-したいと 思う	V-したいと 思う
855	オ	おもう	おもう	五	この あたらしい カメラで 小林さんの 写真を とりたいと おもいますが、	14	116			〃	V-したいと 思う
856	オ	おもう	思う	五	泳ぎに 行きたいと 思いますが、どこか いい 所を 知りませんか。	16	132			〃	V-したいと 思う
857	オ	おもう	思う	五	便利なら、高くても、買いたいと 思います。	21	185			〃	V-したいと 思う
858	オ	おもう	思う	五	らいしゅう、北海道へ 行きたいと 思って います。	21	188	シテイル		〃	V-したいと 思う
859	オ	おもう	思う	五	とうろん会の 記念の Tシャツを 作りましたから、マリアさんに さしあげたいと 思います。	22	195			〃	V-したいと 思う
860	オ	おもう	思う	五	もし、よろしければ、いっしょに うかがいたいと 思って おります。	Y10	283	シテオル		〃	V-したいと 思う

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
861	オ	おもう	思う	五	わたしは、留学したいと 思いましたが、両親に 反対されました。	24	214			〃	《人》は V-したいと 思う
862	オ	おもう	思う	五	授業や クラブ活動などを 見せて いただけたらと 思って おります。	Y10	283	シテオル		〃	V-たらと 思う
863	オ	おもう	おもう	五	あなたは ピカソに ついて どう おもいますか。	14	115			《人》が 《事》を 《内容》と 思う	《人》は 《事》について 《内容》と思う
864	オ	およぐ	およぐ	五	いつも 川や プールで およぎます。	8	67			《人》が 泳ぐ	泳ぐ
865	オ	およぐ	泳ぐ	五	泳ぎに 行きたいと 思いますが、どこか いい 所を 知りませんか。	16	132	シニ		〃	泳ぐ
866	オ	およぐ	泳ぐ	五	なみが 高い 時、海で 泳ぐのは 危険です。	21	189			〃	泳ぐ
867	オ	およぐ	泳ぐ	五	なつには 海で 泳ぎます。	Y2	261			〃	泳ぐ
868	オ	およぐ	およぐ	五	子どもたちは いつも どんな ところで およぎますか。	8	67			〃	《人》は 泳ぐ
869	オ	およぐ	泳ぐ	五	ここは 岩が 多いから、だれも 泳いで いませんね。	11	92	シテイル		〃	《人》も 泳ぐ
870	オ	およぐ	およぐ	五	海では だれか およいで いましたか。	11	92	シテイル		〃	《人》が 泳ぐ
871	オ	おりる	おりる	上一	この きしゃに のって、きょうと駅で おりて、タクシーで 家まで行きます。	11	94	シテ		《人》が 《乗り物》を／から 降りる	降りる
872	オ	おりる	降りる	上一	降りる 用意を しましょう。	23	201			〃	降りる
873	オ	おりる	おりる	上一	・・・・・・だいぶつ前の ていりゅうじょで バスを おります。	11	90			〃	《乗り物》を 降りる
874	オ	おりる	おりる	上一	わたしは いつも ぎんざ駅で 電車を おります。	11	93			〃	《人》は 《乗り物》を 降りる
875	オ	おりる	下りる	上一	マナさんは かいだんを 下りて います。	17	147	シテイル		《人》が 《場所》を 下りる	《人》は 《場所：階段》を 下りる
876	オ	おりる	下りる	上一	この 坂を 下りて、はしを 渡ると、海岸に 出ます。	19	166	シテ		〃	《場所：坂》を 下りる
877	オ	おる	おる	五	ずっと ここに おります。	28	250		敬譲	《人》が 《場所》に おる	《場所》に おる
878	オ	おる	おる	五	子どもたちが さくらの えだを おらないように、注意して ください。	22	198	シナイヨウニ		《人》が 《物》を おる	《人》が 《物》を おる
879	オ	おれる	おれる	下一	細い ぼうが おれそうです。	23	204		シソウダ	《物》が おれる	《物》が おれる
880	オ	おろす	降ろす	五	すみませんが、あみだなから 荷物を 降ろすのを てつだってください。	23	201			《人》が 《物》を 《場所》から 《場所》に／へ 降ろす	《場所》から 《物》を 降ろす
881	オ	おろす	降ろす	五	兄は、母が あみだなから 荷物を 降ろすのを てつだいました。	23	205			〃	《人》は 《場所》から 《物》を 降ろす
882	オ	おろす	下ろす	五	屋根の 上に 積もった 雪を 下ろす 仕事です。	25	222			〃	《物》を 下ろす
883	オ	おわる	おわる	五	パーティーは なんじごろ おわりましたか。	3	18			《事／イベント》が 終わる	《イベント：パーディー》は 終わる
884	オ	おわる	おわる	五	パーティーは なんじごろ おわりましたか。	3	19			〃	《イベント：パーディー》は 終わる
885	オ	おわる	終わる	五	でも、もし、会議が 早く 終われば、時間が ある かもしれません。	21	184	スレバ		〃	《イベント：会議》が 終わる
886	オ	おわる	終わる	五	それでは、会議が 終わったら、すぐ 呼びます。	21	184	シタラ		〃	《イベント：会議》が 終わる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
887	オ	おわる	おわる	五	おぼんが　おわって、家を　出て　行く　時は、足の　おそい　牛に乗ります。	Y5	268	シテ		〃	《イベント：おぼん》が　終わる
888	オ	おわる	おわる	五	きょうの　じゅぎょうは　これで　おわります。	10	82			〃	《イベント：授業》は　終わる
889	オ	おわる	おわる	五	がっこうは、八時半に　はじまって、四時に　おわります。	11	94			〃	《イベント：学校》は　終わる
890	オ	おわる	おわる	五	十じごろ　おわりました。	3	19			〃	終わる
891	オ	おわる	おわる	五	そして、九じに　おわりました。	3	21			〃	終わる
892	オ	おわる	おわる	五	これで　おわります。	10	86			〃	終わる
893	オ	おわる	おわる	五	いいえ、もう　おわりましたから、どうぞ。すぐ、この　へんを　かたづけます。	20	173			〃	終わる
894	オ	おわる	終わる	五	午前中に　終わります。	26	229			〃	終わる
895	ガ	がいしゅつする	外出する	サ変	外出する　時、これを　もって　いなければ　なりませんか。	15	126			《人》が　外出する	外出する
896	ガ	がいしゅつする	外出する	サ変	ドアを　開けた　まま、(閉めずに）外出しました。	24	216			〃	外出する
897	ガ	がいしゅつする	外出する	サ変	外国人は、外出する　時、何を　もって　いなければ　なりませんか。	15	126			〃	《人》は　外出する
898	ガ	がいしゅつする	外出する	サ変	わたしは　これから　外出する　ところです。	25	225	スルトコロ		〃	《人》は　外出する
899	カ	かいはつする	開発する	サ変	これからは　人間の　将来の　ために、この　海を　開発して　いかなければ　ならない。	Y8	275	シテイク		《人》が《場所》を　開発する	《場所：海》を　開発する
900	カ	かう	かう	五	どこで　けんを　かいますか。	4	25			《人》が《物》を　買う	《物》を　買う
901	カ	かう	かう	五	ピンポンの　ボールを　いくつ　かいましたか。	6	46			〃	《物》を　買う
902	カ	かう	かう	五	この　デパートで　なにか　かいますか。	6	49			〃	《物》を　買う
903	カ	かう	かう	五	いいえ、なにも　かいません。	6	49			〃	《物》を　買う
904	カ	かう	かう	五	今、あたらしい　カメラを　かいたいと　おもって　います。	14	115		シタイ	〃	《物》を　買う
905	カ	かう	かう	五	どんな　カメラが　かいたいですか。	14	115		シタイ	〃	《物》を　買う
906	カ	かう	かう	五	くつを　かう　前に、ちょっと　はいて　みました。	14	121			〃	《物》を　買う
907	カ	かう	買う	五	ていけんを　買ったり　する　時、使います。	15	126	シタリ		〃	《物》を　買う
908	カ	かう	かう	五	高い　物は　かいません。	15	129			〃	《物》を　買う
909	カ	かう	買う	五	(もし、)金持ちだったら、高い　物が　買えます。	16	136	デキル		〃	《物》を　買う
910	カ	かう	買う	五	(もし、)金持ちで　なかったら、高い　物が　買えません。	16	136	デキル		〃	《物》を　買う
911	カ	かう	買う	五	にんぎょうを　買う　ことに　します。	16	137			〃	《物》を　買う
912	カ	かう	買う	五	にんぎょうは　買わない　ことに　します。	16	137			〃	《物》を　買う
913	カ	かう	かう	五	はい、両方とも　かいました。	16	137			〃	《物》を　買う
914	カ	かう	買う	五	この　ざっしは　安いから、百円で　買えます。	16	138	デキル		〃	《物》を　買う
915	カ	かう	買う	五	何の　ために、コンピュータを　買いましたか。	20	176			〃	《物》を　買う
916	カ	かう	買う	五	英語を　べんきょうする　ために、この　じしょを　買いました。	20	177			〃	《物》を　買う
917	カ	かう	買う	五	英語の　べんきょうの　ために、この　じしょを　買いました。	20	177			〃	《物》を　買う

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
918	カ	かう	買う	五	発音を　れんしゅうする　ために、テープレコーダーを　買う　つもりです。	20	177		～ツモリダ	〃	《物》を　買う
919	カ	かう	買う	五	発音の　れんしゅうの　ために、テープレコーダーを　買う　つもりです。	20	177		～ツモリダ	〃	《物》を　買う
920	カ	かう	買う	五	だれの　ために、この　洋服を　買いましたか。	20	177			〃	《物》を　買う
921	カ	かう	買う	五	むすめの　ために、この　洋服を　買いました。	20	177			〃	《物》を　買う
922	カ	かう	買う	五	ええ、来た　人に　料理を　食べて　もらったり、作品を　買ってもらったり　して、サークル活動の　お金を　作るのです。	22	194	シテモラウ		〃	《物》を　買う
923	カ	かう	買う	五	旅行の　ために、新しい　かばんを　買って　おきました。	22	197	シテオク		〃	《物》を　買う
924	カ	かう	買う	五	ローラさん、売店へ　おべんとうを　買いに　行きませんか。	23	201	シニ		〃	《物》を　買う
925	カ	かう	買う	五	では、これを　買う　ことに　します。	23	203			〃	《物》を　買う
926	カ	かう	買う	五	駅へ　行く　途中で、店に　寄って、フィルムを　買いたいのですが．．．。	26	230		シタイ	〃	《物》を　買う
927	カ	かう	買う	五	定期けんを　買う　時は、学生証が　必要な　はずです。	27	241			〃	《物》を　買う
928	カ	かう	買う	五	普通の　きっぷを　買う　時は、学生証が　必要では　ない　はずです。	27	241			〃	《物》を　買う
929	カ	かう	買う	五	買ったばかりの　家具が　こわれて　しまいました。	28	251	シタバカリ		〃	《物》を　買う
930	カ	かう	買う	五	こういう　すばらしい　布なら、高くても　買いたい。	Y9	279		シタイ	〃	《物》を　買う
931	カ	かう	かう	五	ノートと　えんぴつは　もう　かいましたか。	16	137			〃	《物》は　買う
932	カ	かう	かう	五	わたしは　ほんと　ノートと　えんぴつを　かいます。	5	39			〃	《人》は《物》を　買う
933	カ	かう	かう	五	わたしは　ほんや　ノートなどを　かいます。	5	39			〃	《人》は《物》を　買う
934	カ	かう	かう	五	わたしは　ほんか　ノートを　かいます。	5	39			〃	《人》は《物》を　買う
935	カ	かう	かう	五	いいえ、わたしは　なにも　かいません。	6	45			〃	《人》は《物》を　買う
936	カ	かう	かう	五	アリさんは　みせで　どんな　シャツを　かいましたか。	6	46			〃	《人》は《物》を　買う
937	カ	かう	かう	五	アリさんは　シャツを　なんまい　かいましたか。	6	46			〃	《人》は《物》を　買う
938	カ	かう	かう	五	マナさんは　りょこうの　前に、とけいを　かいました。	11	94			〃	《人》は《物》を　買う
939	カ	かう	かう	五	わたしは　テープレコーダーが　かいたいです。	14	118		シタイ	〃	《人》は《物》を　買う
940	カ	かう	かう	五	わたしは　テープレコーダーを　かいたいです。	14	118		シタイ	〃	《人》は《物》を　買う
941	カ	かう	かう	五	わたしは　安い　物しか　かいません。	15	129			〃	《人》は《物》を　買う
942	カ	かう	買う	五	わたしたちは　二人とも　びんぼうですから、家が　買えません。	16	137	デキル		〃	《人》は《物》を　買う
943	カ	かう	買う	五	父は　外国で　おみやげを　買って　来ました。	17	148	シテクル		〃	《人》は《物》を　買う
944	カ	かう	買う	五	わたしは　日本で　おみやげを　買って　かえります。	17	148	シテカエル		〃	《人》は《物》を　買う
945	カ	かう	買う	五	兄は　きのう　しぶやで　本を　買いました。	19	167			〃	《人》は《物》を　買う
946	カ	かう	買う	五	小林さんは、なんの　ために、コンピュータを　買いましたか。	20	175			〃	《人》は《物》を　買う
947	カ	かう	買う	五	ローラさんは、その　じしょが　高かったら、買わない　つもりでしたか。	21	186		～ツモリダ	〃	《人》は《物》を　買う
948	カ	かう	買う	五	小林さんと　ローラさんは、どこで　おべんとうを　買いましたか。	23	203			〃	《人》は《物》を　買う
949	カ	かう	買う	五	ローラさんは　そこで　何を　買いましたか。	23	203			〃	《人》は《物》を　買う

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
950	カ	かう	買う	五	いもうとは、デパートへ　行くと、いつも　おかしを　買いたがります。	25	225		シタガル	〃	《人》は《物》を　買う
951	カ	かう	買う	五	いいえ、兄が　本を　買った　所は　しぶやです。	19	167			〃	《人》が《物》を　買う
952	カ	かう	買う	五	兄が　しぶやで　本を　買ったのは　きのうです。	19	167			〃	《人》が《物》を　買う
953	カ	かう	買う	五	兄が　しぶやで　買ったのは　本です。	19	167			〃	《人》が《物》を　買う
954	カ	かう	買う	五	兄が　本を　買ったのは　しぶやです。	19	167			〃	《人》が《物》を　買う
955	カ	かう	買う	五	制服を　着た　学生たちが　おみやげを　買って　いますね。	23	202	シテイル		〃	《人》が《物》を　買う
956	カ	かう	かう	五	さとうさんも　ここで　なにか　かいますか。	6	45			〃	《人》も《物》を　買う
957	カ	かう	かう	五	さとうさんも　そこで　なにか　かいましたか。	6	46			〃	《人》も《物》を　買う
958	カ	かう	かう	五	あそこで　かいます。	4	25			〃	買う
959	カ	かう	買う	五	スーパーマーケットと　デパート(と)　では　どちらが　安く　買えますか。	18	157	デキル		〃	買う
960	カ	かう	買う	五	スーパーマーケットの　方が　安く　買えます。	18	157	デキル		〃	買う
961	カ	かう	買う	五	卒業論文を　書く　ために、買いました。	20	173			〃	買う
962	カ	かう	買う	五	統計の　資料を　作る　ために、買いました。	20	176			〃	買う
963	カ	かう	買う	五	便利なら、高くても、買いたいと　思います。	21	185		シタイ	〃	買う
964	カ	かう	買う	五	どこへ　行けば、買えるでしょうか。	21	185	デキル	～デショウ	〃	買う
965	カ	かう	買う	五	高く　なければ、買います。	21	187			〃	買う
966	カ	かう	買う	五	高ければ、買いません。	21	187			〃	買う
967	カ	かう	買う	五	町の　人々は、めずらしがって、高く　買って　くれる　はずです。	Y9	278	シテクレル		〃	買う
968	カ	かう	買う	五	「……高くても　買いたい。」と　言って、高い　ねだんで　買いました。	Y9	279			〃	買う
969	カ	かえす	かえす	五	お金は　あとで　かえします。	10	83			《人》が《人》に《物》を　返す	《物：お金》は　返す
970	カ	かえす	かえす	五	本は　らいしゅう　かえして　くださいね。	12	99		シテクダサイ	〃	《物》は　返す
971	カ	かえす	返す	五	小林さんは、お金を　借りた　まま、返して　くれません。	24	216	シテクレル		〃	《人》は《物：お金》を　返す
972	カ	かえる	かえる	五	アリさんは　もう　うちへ　かえりましたか。	7	58			《人》が《場所》から《場所》に／へ　帰る	《人》は《場所》へ　帰る
973	カ	かえる	かえる	五	いいえ、アリさんは　まだ　うちへ　かえりません。	7	58			〃	《人》は《場所》へ　帰る
974	カ	かえる	かえる	五	わたしは　冬休みには　くにへ　かえりませんが、なつ休みには　かえります。	9	75			〃	《人》は《場所》へ　帰る
975	カ	かえる	かえる	五	わたしは　冬休みには　くにへ　かえりませんが、なつ休みには　かえります。	9	75			〃	《人》は《場所》へ　帰る
976	カ	かえる	かえる	五	わたしは　来年　国へ　かぞくに　会いに　かえります。	10	85			〃	《人》は《場所》へ　帰る
977	カ	かえる	かえる	五	ジョンさんは　国へ　かえりたいと　言って　います。	14	118		シタイ	〃	《人》は《場所》へ　帰る
978	カ	かえる	かえる	五	たなかさんは　いなかへ　かえる　ことが　ありますか。	19	162			〃	《人》は《場所》へ　帰る
979	カ	かえる	かえる	五	たなかさんは　どんな　時、いなかへ　かえりますか。	19	164			〃	《人》は《場所》へ　帰る
980	カ	かえる	帰る	五	地方から　出て　来た　若者は、国へは　帰りたがらない　ようですね。	25	222		シタガル、～ヨウダ	〃	《人》は《場所》へ　帰る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
981	カ	かえる	帰る	五	地方から 出て 来た 若者は、なぜ、国へ 帰りたがらないのですか。	25	223		シタガル	〃	《人》は 《場所》へ 帰る
982	カ	かえる	帰る	五	先生は、来月、国へ お帰りになります。	28	249		オ-ニナル	〃	《人》は 《場所》へ 帰る
983	カ	かえる	帰る	五	先生は、来月、国へ 帰られます。	28	249		サレル(敬譲)	〃	《人》は 《場所》へ 帰る
984	カ	かえる	帰る	五	わたしは、今、家へ 帰って 来たばかりです。	28	251	シテクル		〃	《人》は 《場所》へ 帰る
985	カ	かえる	かえる	五	人びとは、おぼんに なると、なくなった かぞくや 先祖が うちへ かえって 来ると かんがえて います。	Y5	268	シテクル		〃	《人》は 《場所》へ 帰る
986	カ	かえる	かえる	五	都会の 人たちが いなかへ かえるからです。	19	163			〃	《人》が 《場所》へ 帰る
987	カ	かえる	かえる	五	先祖が 家へ かえって 来る 時は、乗り物が いるから、	Y5	268	シテクル		〃	《人》が 《場所》へ 帰る
988	カ	かえる	かえる	五	いっしょに りょうへ かえりましょう。	4	29		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》へ 帰る
989	カ	かえる	帰る	五	夏休みには 国へ 帰らない つもりです。	21	188		～ツモリダ	〃	《場所》へ 帰る
990	カ	かえる	帰る	五	国へ 帰らないなら、わたしの 家へ あそびに 来て ください。	21	188	シナイナラ		〃	《場所》へ 帰る
991	カ	かえる	帰る	五	今年、ひまが ある 間に、一度 国へ 帰りたいです。	26	233		シタイ	〃	《場所》へ 帰る
992	カ	かえる	かえる	五	家へ かえって 来る 時は、足の 速い 馬に 乗ります。	Y5	268	シテクル		〃	《場所》へ 帰る
993	カ	かえる	かえる	五	家の 前が 明るいと、どこに あるか、よく わかって、先祖が まっすぐ かえって 来られるのです。	Y5	268	シテクル		〃	《人》が 帰る
994	カ	かえる	帰る	五	若者が お金を たくさん 持って、喜んで 帰って 来たので、娘も うれしそうな 顔を しました。	Y9	279	シテクル		〃	《人》が 帰る
995	カ	かえる	かえる	五	兄は いそがしいので、ときどき かえらない ことが あります。	19	162			〃	《人》は 帰る
996	カ	かえる	かえる	五	先祖は、どんな 乗り物に 乗って、かえって 来ますか。	Y5	270	シテクル		〃	《人》は 帰る
997	カ	かえる	かえる	五	お兄さんも かえりますか。	19	162			〃	《人》も 帰る
998	カ	かえる	かえる	五	春休みにも かえります。	9	75			〃	帰る
999	カ	かえる	かえる	五	あ、まだ かえらないで ください。	10	82		シナイデクダサイ	〃	帰る
1000	カ	かえる	かえる	五	ええ、おぼんや 正月には たいてい かえります。	19	162			〃	帰る
1001	カ	かえる	帰る	五	表の 通りは 危ないから、車に 気を つけて 帰って ください。	20	175		シテクダサイ	〃	帰る
1002	カ	かえる	帰る	五	帰って、すぐ ねられるように、へやに ふとんを しいて おきました。	22	198	シテ		〃	帰る
1003	カ	かえる	かえる	五	ジョンさんは 国に かえって います。	13	111	シテイル		〃	《人》が 《場所》に 帰る
1004	カ	かえる	帰る	五	家に 帰る 途中で、野原の 雪の 中に つるが たおれて いるのを 見つけました。	Y9	277			〃	《場所》に 帰る
1005	カ	かえる	変える	下一	わたしは 専門を 変えない つもりです。	20	176		～ツモリダ	《人》が 《物／事》を 変える	《人》は 《事：専門》を 変える
1006	カ	かえる	かえる	下一	ひらがなは、かんじの ぜんたいの かたちを かえて、つくりました。	Y3	264	シテ		〃	《物：字の形》を 変える
1007	カ	かかる	かかる	五	とうきょうから きょうとまで どのぐらい かかりますか。	5	34			《事》に 《事》が かかる	《事：時間》が かかる
1008	カ	かかる	かかる	五	六じかんか 七じかんぐらい かかります。	5	34			〃	《事：時間》が かかる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1009	カ	かかる	かかる	五	とうきょうから きょうとまで なんじかんぐらい かかりますか。	5	35			〃	《事：時間》が かかる
1010	カ	かかる	かかる	五	とうきょうから おおさかまで ひこうきで なんじかんぐらい かかりますか。	5	37			〃	《事：時間》が かかる
1011	カ	かかる	かかる	五	とうきょうから おおさかまで ひこうきで どのぐらい かかりますか。	5	37			〃	《事：時間》が かかる
1012	カ	かかる	かかる	五	とうきょうから おおさかまで ひこうきで 一じかんぐらい かかります。	5	37			〃	《事：時間》が かかる
1013	カ	かかる	かかる	五	そこへ 行くのに どのぐらい かかりますか。	23	202			〃	《事：V-の》に 《事：時間》が かかる
1014	カ	かかる	かかる	五	予習するのに 一時間 かかりました。	23	206			〃	《事：V-の》に 《事：時間》が かかる
1015	カ	かかる	かかる	五	予習に 一時間 かかりました。	23	206			〃	《事》に 《事：時間》が かかる
1016	カ	かかる	かかる	五	式は 長く かかりますか。	26	229			〃	《事：式》は かかる
1017	カ	かかる	かかる	五	式は 長く かかりますか。	26	234			〃	《事：式》は かかる
1018	カ	かかる	かかる	五	とうきょうから おおさかまで ひこうきで いくらぐらい かかりますか。	5	37			〃	《事：費用》が かかる
1019	カ	かかる	かかる	五	とうきょうから おおさかまで ひこうきで どのぐらい かかりますか。	5	37			〃	《事：費用》が かかる
1020	カ	かかる	かかる	五	とうきょうから おおさかまで ひこうきで 一万五千円ぐらい かかります。	5	37			〃	《事：費用》が かかる
1021	カ	かかる	かかる	五	食事代も あまり かかりません。	16	133			〃	《事：費用》が かかる
1022	カ	かかる	かかる	五	私立大学に 入ったら、お金が かかる はずです。	27	241		～ハズダ	〃	《事：費用》が かかる
1023	カ	かかる	かかる	五	国立大学に 入ったら、お金が そんなに かからない はずです。	27	241		～ハズダ	〃	《事：費用》が かかる
1024	カ	かかる	かかる	五	いいえ、そんなに かかりません。	26	229			〃	かかる
1025	カ	かかる	かかる	五	いいえ、そんなに 長く かかりません。	26	234			〃	かかる
1026	カ	かく	書く	五	「明暗」は だれが 書きましたか。	12	100			《人》が 《物／事》を 書く	《人》が 《物：言語作品》を 書く
1027	カ	かく	書く	五	学生たちは、見学を した あとで、さくぶんを 書きます。	12	101			〃	《人》は 《物：言語作品：作文》を 書く
1028	カ	かく	書く	五	学生たちは 見学の あとで、さくぶんを 書きます。	12	101			〃	《人》は 《物：言語作品：作文》を 書く
1029	カ	かく	書く	五	日本人は、はじめ、かんじだけで 文を 書きました。	Y3	264			〃	《人》は 《物：言語作品：文》を 書く
1030	カ	かく	書く	五	先生は もう 論文を 書いて しまわれました。	28	249	シテシマウ		〃	《人》は 《物：言語作品：論文》を 書く
1031	カ	かく	書く	五	卒業論文を 書く ために、買いました。	20	173	スルタメニ		〃	《物：言語作品：卒業論文》を 書く
1032	カ	かく	書く	五	論文を 全部 書いて しまいました。	24	215	シテシマウ		〃	《物：言語作品：論文》を 書く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1033	カ	かく	書く	五	日本語で レポートを 書くのは 大変だろうと 思います。	26	233			〃	《物：言語作品：レポート》を 書く
1034	カ	かく	書く	五	作文は 四百字以上 六百字以内で 書いて ください。	23	207		シテクダサイ	〃	《物：言語作品：作文》は 書く
1035	カ	かく	書く	五	あなたは なにに ついて さくぶんを 書きましたか。	12	103			〃	《人》は 《事》について 《物：言語作品：作文》を 書く
1036	カ	かく	書く	五	わたしは 日本の りょうりに ついて さくぶんを 書きました。	12	103			〃	《人》は 《事》について 《物：言語作品：作文》を 書く
1037	カ	かく	書く	五	わたしは、こくさい もんだいに ついて 論文を 書こうと 思っています。	20	176		シヨウト	〃	《人》は 《事》について 《物：言語作品：論文》を 書く
1038	カ	かく	書く	五	工業とか 商業とか 日本の 産業に ついて 書いて ください。	16	138		シテクダサイ	〃	《事》について 書く
1039	カ	かく	かく	五	アリさんが かんじを かきました。	10	84			〃	《人》が 《事：字》を 書く
1040	カ	かく	書く	五	字を 大きく 書きなさい。小さく 書いては いけません。	17	148		シナサイ	〃	《事：字》を 書く
1041	カ	かく	書く	五	字を 大きく 書きなさい。小さく 書いては いけません。	17	148		シテハイケナイ	〃	《事：字》を 書く
1042	カ	かく	かく	五	いま、子どもたちが だいぶつの 前で えを かいて います。	11	91	シテイル		〃	《人》が 《事：絵》を 書く
1043	カ	かく	かく	五	これは わたしが かいた えです。	13	112			〃	《人》が 《事：絵》を 書く
1044	カ	かく	かく	五	これは わたしの かいた えです。	13	112			〃	《人》が 《事：絵》を 書く
1045	カ	かく	かく	五	わたしは えを かく ことが 大好きです。	14	115			〃	《人》は 《事：絵》を 書く
1046	カ	かく	かく	五	わたしは えを かく ことが 好きです。	14	119			〃	《人》は 《事：絵》を 書く
1047	カ	かく	かく	五	これは 先月 かまくらで かいた えです。	14	115			〃	《事：絵》を 書く
1048	カ	かく	書く	五	書いた あとで、見せて ください。	12	98			〃	書く
1049	カ	かく	書く	五	はい、書きました。	12	98			〃	書く
1050	カ	かく	書く	五	でも、少しでも、毎日 書く 練習を 続ければ、覚えられますよ。	21	185			〃	書く
1051	カ	かく	かく	五	マリアさんは お母さんに てがみを かきますか。	8	63			《人》が 《人》に 《物》を 書く	《人》は 《人》に 《物：言語作品：手紙》を 書く
1052	カ	かく	かく	五	マリアさんは まいしゅう だれに てがみを かきますか。	8	65			〃	《人》は 《人》に 《物：言語作品：手紙》を 書く
1053	カ	かく	かく	五	わたしは まいにち へやで てがみを かきました。	3	21			〃	《人》は 《物：言語作品：手紙》を 書く
1054	カ	かく	かく	五	マナさんは ときどき へやで てがみを かきました。	3	21			〃	《人》は 《物：言語作品：手紙》を 書く
1055	カ	かく	書く	五	わたしは てがみを 書く ことが 下手です。	14	119			〃	《人》は 《物：言語作品：手紙》を 書く
1056	カ	かく	書く	五	一しゅうかんに 二回か 三回 かぞくに てがみを 書きます。	18	159			〃	《人》に 《物：言語作品：手紙》を 書く
1057	カ	かく	書く	五	いそがしくても、かぞくに てがみを 書きます。	21	187			〃	《人》に 《物：言語作品：手紙》を 書く
1058	カ	かく	書く	五	いそがしく なくても、かぞくに てがみを 書きません。	21	187			〃	《人》に 《物：言語作品：手紙》を 書く
1059	カ	かく	かく	五	まいしゅう かきます。	8	63			〃	書く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1060	カ	かく	書く	五	小林さんの てがみには 何と 書いて ありましたか。	22	195	シテアル		《人》が 《物》に 《内容》と 書く	《物:言語作品:手紙》に 《内容》と 書く
1061	カ	かく	書く	五	この 本には 正月が 大切な 行事だと 書いて ありますね。	24	210	シテアル		〃	《物:言語作品:本》に 《内容》と 書く
1062	カ	かく	書く	五	教科書に 書いて ある とおりに なりましたね。	27	237	シテアル		〃	《物:言語作品:本》に 書く
1063	カ	かく	書く	五	料理の 本に 書いて ある とおりに、塩や さとうを 入れなさい。	27	242	シテアル		〃	《物:言語作品:本》に 書く
1064	カ	かく	書く	五	地図に 書いて ある とおりに、歩きましょう。	27	241	シテアル		〃	《物:地図》に 書く
1065	カ	かく	書く	五	「とうろんかいの 後で、大学の 中を 案内して あげましょう。」と 書いて ありました。	22	193	シテアル		〃	《内容》と 書く
1066	カ	かく	書く	五	この カードに 名前と へやの 番号を 書いて ください。	12	98		シテクダサイ	《人》が 《物》に 《事》を 書く	《物》に 《事:字》を 書く
1067	カ	かく	書く	五	マリアさんは 図書室の カードに なんと なにを 書きましたか。	12	100			〃	《人》は 《物》に 《事:字》を 書く
1068	カ	かく	書く	五	先生は 黒板に かんじを 書きました。	12	101			〃	《人》は 《物》に 《事:字》を 書く
1069	カ	かく	書く	五	この 地図に 店が ある 場所を 書きましょう。	13	108		シマショウ(意図)	〃	《物》に 《事:場所》を 書く
1070	カ	かける	かける	下一	どうぞ そこに かけて ください。	21	184		シテクダサイ	《人》が 《場所》に かける	《場所》に かける
1071	カ	かける	かける	下一	どうぞ そこに おかけください。	28	246		オ-クダサイ	〃	《場所》に かける
1072	カ	かける	かける	下一	わたしは かべに とけいを かけました。	12	101			《人》が 《場所》に 《物》を かける	《人》は 《場所》に 《物》を かける
1073	カ	かける	かける	下一	わたしは ときどき くにに こくさいでんわも かけます。	8	63			慣:電話を かける	慣:電話を かける
1074	カ	かける	かける	下一	あした あなたに でんわを かけましょう。	8	68		シマショウ(意図)	〃	慣:電話を かける
1075	カ	かける	かける	下一	タンさんは だれに でんわを かけましたか。	9	73			〃	慣:電話を かける
1076	カ	かける	かける	下一	(わたしは) あした 母に こくさい電話を かけようと 思って います。	20	176		シヨウト	〃	慣:電話を かける
1077	カ	かける	かける	下一	明日でも 小林さんの 家に 電話を かけて みましょう。	28	252	シテミル		〃	慣:電話を かける
1078	カ	かける	かける	下一	社長は 社員に 電話を かけさせました。	27	240	サセル		〃	慣:電話を かける
1079	カ	かける	かける	下一	あの、めがねを かけて、茶色の 上着を 着て いる 方ですか。	13	109	シテ		慣:めがねを かける	慣:めがねを かける
1080	カ	かける	かける	下一	よしださんは めがねを かけて いますか。	13	110	シテイル		〃	慣:めがねを かける
1081	カ	かける	かける	下一	祖父は、めがねを かけないで、テレビの 画面の 小さい 字を 見て います。	20	178	シナイデ		〃	慣:めがねを かける
1082	カ	かける	かける	下一	祖父は、めがねを かけずに、テレビの 画面の 小さい 字を 見て います。	20	178	セズニ		〃	慣:めがねを かける
1083	カ	かざる	かざる	五	友だちの ために、きれいな 花が かざって あります。	22	197	シテアル		《人》が 《場所》に 《物》を かざる	《物》を かざる
1084	カ	かざる	かざる	五	花を かざるのに 使うのです。	23	202	スルノニ		〃	《物》を かざる
1085	カ	かざる	かざる	五	友だちが 来るから、へやに 花を かざって おきました。	22	197	シテオク		〃	《場所》に 《物》を かざる
1086	カ	かざる	かざる	五	あの 方は 花を かざって おかれました。	28	249	シテオク		〃	《人》は 《物》を かざる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1087	カ	かす	かす	五	アリさんは しょくどうで タンさんに お金を かりましたか、かしましたか。	10	83			《人》が 《人》に 《物》を かす	《人》は 《人》に 《物》を かす
1088	カ	かす	かす	五	先生は わたしに 本を かして くださいました。	22	196	シテクダサル		〃	《人》は 《人》に 《物》を かす
1089	カ	かす	かす	五	わたしは 先生に 本を かして いただきました。	22	197	シテイタダク		〃	《人》が 《人》に 《物》を かす
1090	カ	かす	かす	五	すみませんが、これを かして ください。	10	86		シテクダサイ	〃	《物》を かす
1091	カ	かす	かす	五	本を かして いただいて、ありがとう ございました。	24	210	シテイタダク		〃	《物》を かす
1092	カ	かす	かす	五	お金が 無い 場合は、友だちに かして もらいます。	27	242	シテモラウ		〃	《人》に 《物》を かす
1093	カ	かす	かす	五	すみませんが、かして ください。	10	83		シテクダサイ	〃	かす
1094	カ	かぞえる	かぞえる	下一	おとうとは きょねんは かずが かぞえられませんでしたが、今年は かぞえられるように なりました。	16	136	デキル、スルヨウニナル		《人》が 《事》を 数える	《人》は 《事：数》を 数える
1095	カ	かぞえる	かぞえる	下一	おとうとは きょねんは かずが かぞえられませんでしたが、今年は かぞえられるように なりました。	16	136	デキル		〃	《人》は 《事：数》を 数える
1096	カ	かぞえる	数える	下一	数が 多いので、数えられません。	17	145	デキル		〃	《事：数》を 数える
1097	カ	かたづける	かたづける	下一	いいえ、もう おわりましたから、どうぞ。すぐ、この へんを かたづけます。	20	173			《人》が 《場所》を かたづける	《場所》を かたづける
1098	カ	かたづける	かたづける	下一	早く 二階の へやを かたづけて しまいましょう。	24	215	シテシマウ		〃	《場所》を かたづける
1099	カ	かたづける	かたづける	下一	赤ちゃんが 寝て いる 間に、この 辺を かたづけましょう。	26	233		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》を かたづける
1100	カ	かたづける	かたづける	下一	わたしは、つかれたので、へやの 中を かたづけないで、ねました。	20	178	シナイデ		〃	《人》は 《場所》を かたづける
1101	カ	かたづける	かたづける	下一	わたしは、つかれたので、へやの 中を かたづけずに、ねました。	20	178	セズニ		〃	《人》は 《場所》を かたづける
1102	カ	かつ	勝つ	五	中村さんは、しあいで 友だちに 勝った らしいです。	28	251		～ラシイ	《人》が 《人》に 勝つ	《人》が 《人》に 勝つ
1103	カ	かぶる	かぶる	五	タンさんは 何色の ぼうしを かぶって いますか。	13	111	シテイル		《人》が 《物》を かぶる	《人》は 《物：ぼうし》を かぶる
1104	カ	かぶる	かぶる	五	タンさんは みどり色の ぼうしを かぶって います。	13	111	シテイル		〃	《人》は 《物：ぼうし》を かぶる
1105	カ	かむ	かむ	五	アリさんは 犬に 手を かまれました。	24	214	サレル		《動物》が 《物》を かむ	《動物》が 《物》を かむ
1106	カ	かりる	かりる	上一	アリさんは しょくどうで タンさんに お金を かりましたか、かしましたか。	10	83			《人》が 《人》から／に 《物》を 借りる	《人》は 《人》に 《物》を 借りる
1107	カ	かりる	かりる	上一	マナさんは、やまださんに かりた 本を 何日で 読んで しまいましたか。	24	213			〃	《人》は 《人》に 《物》を 借りる
1108	カ	かりる	かりる	上一	アリさんは わたしの ところへ お金を かりに 来ました。	10	85	シニ		〃	《人》は 《人》に 《物》を 借りる
1109	カ	かりる	借りる	上一	小林さんは、お金を 借りた まま、返して くれません。	24	216	シタママ		〃	《人》は 《物》を 借りる
1110	カ	かりる	かりる	上一	この 本を かります。	12	98			《人》が 《組織》から 《物》を 借りる	《物》を 借りる
1111	カ	かりる	かりる	上一	いすや テーブルは キャンプ場で かりられるでしょう。	17	143	デキル	～デショウ	〃	《物》を 借りる
1112	カ	かりる	借りる	上一	じむ室から 借りたら いいでしょう。	21	189	シタラ		〃	《組織》から 借りる
1113	カ	かわく	かわく	五	シャツが かわくように、火の そばへ 持って 行きました。	22	198	スルヨウニ		《物》が かわく	《物》が かわく

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1114	カ	かわく	かわく	五	かわいた　布で　ガラスを　みがいて　ください。	23	207			〃	《物》が　かわく
1115	カ	かわく	かわく	五	わたしは　のどが　かわきました。	18	156			慣:喉が　かわく	慣:喉が　かわく
1116	カ	かわる	変わる	五	会議の　予定が　変わる　かもしれません。（変わらない　かもしれません。）	21	188		～カモシレナイ	《事》が　変わる	《事:予定》が　変わる
1117	カ	かわる	変わる	五	会議の　予定が　変わる　かもしれません。（変わらない　かもしれません。）	21	188		～カモシレナイ	〃	変わる
1118	カ	かわる	変わる	五	これからは、雪国の　生活も　だんだん　変わって　いくでしょう。	25	222	シテイク		〃	《事:生活》も　変わる
1119	カ	かんがえる	かんがえる	下一	弟は、うでを　組んで　かんがえて　います。	20	178	シテイル		《人》が《事》を　考える	《人》は　考える
1120	カ	かんがえる	考える	下一	いろいろと　例を　あげて　生徒に　考えさせる　やり方だった。	27	239	サセル		〃	《人》が　考える
1121	カ	かんがえる	かんがえる	下一	少し　前までは、かんがえたり、人間の　ことばが　わかったり　する　ロボットは　ありませんでした。	Y4	266	シタリ		〃	《人》が　考える
1122	カ	かんがえる	かんがえる	下一	では、ほかの　りょうりを　かんがえて　みましょう。	16	134	シテミル		〃	《事:料理》を　考える
1123	カ	かんがえる	考える	下一	最近は、機械で　雪を　除いたり　する　方法も　考えられて　きました。	25	222	サレル、シテクル		〃	《事:方法》も　考える
1124	カ	かんがえる	かんがえる	下一	この　ごろは、目で　物を　見て、やり方を　かんがえて、仕事をする　ロボットや、話が　できる　ロボットが　多く　なりました。	Y4	266	シテ		〃	《人》が《事:やり方》を　考える
1125	カ	かんがえる	かんがえる	下一	人びとは、おぼんに　なると、なくなった　かぞくや　先祖が　うちへ　かえって　来ると　かんがえて　います。	Y5	268	シテイル		《人》が《内容》と　考える	《人》は《内容》と　考える
1126	カ	かんがえる	かんがえる	下一	だから、その　下に　ある　石油や　石炭や　金や　ウラニウムなども、陸に　ある　物の　3ばいぐらい　あると　かんがえられている。	Y8	275	サレル、シテイル		〃	《内容》と　考える
1127	カ	かんしんする	感心する	サ変	ほかの　先生方も　感心なさった　らしいですよ。	28	246		ナサル、～ラシイ	《人》が　Nに　感心する	《人》も　感心する
1128	カ	かんせいする	完成する	サ変	来年までに　橋の　工事が　完成する　予定です。	26	233			《事》が　完成する	《事:工事》が　完成する
1129	カ	かんぱいする	かんぱいする	サ変	じゃ、お二人の　ために、かんぱいしましょう。	28	247		シマショウ（誘いかけ）	《人》が　かんぱいする	かんぱいする
1130	ガ	がんばる	がんばる	五	これからも、その　つもりで、がんばります。	20	174			《人》が　がんばる	がんばる
1131	ガ	がんばる	がんばる	五	苦しくても、がんばって　ください。	21	185		シテクダサイ	〃	がんばる
1132	ガ	がんばる	がんばる	五	わたしは、マナさんのように　がんばって　仕事を　する　つもりです。	20	178	シテ		〃	《人》が　がんばる
1133	キ	きえる	きえる	下一	この　電気は　ついたり　きえたり　します。	12	102	シタリ		《物》が　消える	《物:機器:電気》が　消える
1134	キ	きえる	消える	下一	部屋の　電気が　消えて　います。	25	224	シテイル		〃	《物:機器:電気》が　消える
1135	キ	きえる	消える	下一	電気が　消えて　います。	28	251	シテイル		〃	《物:機器:電気》が　消える

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1136	キ	きえる	消える	下一	風が　ふいて、火が　消えました。今、火が　消えて　います。	22	198	シテイル		《現象》が　消える	《現象：火》が　消える
1137	キ	きえる	消える	下一	風が　ふいて、火が　消えました。今、火が　消えて　います。	22	198			〃	《現象：火》が　消える
1138	キ	きえる	消える	下一	つるは、悲しそうに　高い　声で　鳴きながら、夕やけの　赤い　雲の　中に　消えて　行って　しまいました。	Y9	280	シテイク		《人》が《場所》から《場所》に／へ　消える	《人：動物》は《場所》に　消える
1139	キ	ききとる	ききとる	五	前は　日本語が　ききとれませんでしたが、今は　ききとれるように　なりました。	16	136	デキル、スルヨウニナル		《人》が《言語》を　ききとる	《言語》を　ききとる
1140	キ	ききとる	ききとる	五	前は　日本語が　ききとれませんでしたが、今は　ききとれるように　なりました。	16	136	デキル		〃	《言語》を　ききとる
1141	キ	きく	聞く	五	学生たちは　眠そうに　先生の　話を　聞いて　います。	23	204	シテイル		《人》が《人》から／の《事》を聞く	《人》は《人》の《事：話》を　聞く
1142	キ	きく	聞く	五	母は　心配そうに　医者の　話を　聞いて　います。	23	204	シテイル		〃	《人》は《人》の《事：話》を　聞く
1143	キ	きく	聞く	五	先生は・・・・・・マリアさんの　話を　聞きたいって　おっしゃってましたよ。	28	246		シタイ	〃	《人》は《人》の《事：話》を　聞く
1144	キ	きく	聞く	五	いとう先生は、なぜ、マリアさんの　話を　聞きたがって　いたのですか。	28	248	シテイル	シタガル	〃	《人》は《人》の《事：話》を　聞く
1145	キ	きく	聞く	五	この　回数を　聞くと、外国人は　たいてい　びっくりする。	Y6	271	スルト		〃	《人》が《事：回数》を　聞く
1146	キ	きく	聞く	五	学生たちは　メモを　とりながら、話を　聞いて　います。	19	166	シテイル		〃	《人》は《事：話》を　聞く
1147	キ	きく	聞く	五	わたしは、話を　聞いて　いる　間、とても　眠かったです。	26	233	シテイル			《人》は《事：話》を　聞く
1148	キ	きく	きく	五	あなたは　ラジオを　ききますか。	3	20			《人》が《物》を　聞く	《人》は《物：機器：ラジオ》を　聞く
1149	キ	きく	きく	五	はい、わたしは　ラジオを　ききます。	3	20			〃	《人》は《物：機器：ラジオ》を　聞く
1150	キ	きく	聞く	五	弟は　いつも　音楽を　聞きながら、べんきょうします。	19	166	シナガラ		〃	《人》は《物：音声作品：音楽》を聞く
1151	キ	きく	聞く	五	兄は、横に　なって　おんがくの　放送を　聞いて　います。	20	178	シテイル		〃	《人》は《物：音声作品：音楽の放送》を　聞く
1152	キ	きく	聞く	五	何度も　くり返して　テープを　聞いた　方が　いいです。	20	178			〃	《物：音声作品：テープ》を　聞く
1153	キ	きく	聞く	五	大きい　じしんが　あった　時は、ラジオや　テレビで　放送するから、よく　聞いて、正しい　ニュースを　知る　ことが　大切である。	Y6	271	シテ			聞く
1154	キ	きく	きく	五	アリさんから　あたらしい　本が　たくさん　来たと　ききましたが、ほんとうですか。	12	98			《人》が《人》から《内容》と　聞く	《人》から《内容》と　聞く
1155	キ	きく	きく	五	友だちから　その　ニュースは　ほんとうだと　ききました。	12	102			〃	《人》から《内容》と　聞く
1156	キ	きく	きく	五	友だちから　その　ニュースは　うそでは　ないと　ききました。	12	102			〃	《人》から《内容》と　聞く
1157	キ	きく	きく	五	マリアさん、ずっと　びょうきだったと　ききましたが、もう　だいじょうぶですか。	12	99			〃	《内容》と　聞く
1158	キ	きく	聞く	五	アリさんから　聞きましたが、テストは　むずかしく　なかった　ようです。	25	224			〃	《人》から　聞く
1159	キ	きく	聞く	五	では、中村くんに　都合を　聞いて　みましょう。	27	237	シテミル		《人》が《人》に《事》を　聞く	《人》に《事：都合》を　聞く

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1160	キ	きく	きく	五	パーティーの　けんは　いくらか、父に（ねだんを）　ききました。	13	111			〃	《人》に《事:値段》を　聞く
1161	キ	きく	きく	五	よく　わかりませんから、もう　いちど　先生に　ききましょう。	10	86		シマショウ(誘いかけ)	〃	《人》に　聞く
1162	キ	きく	きく	五	先生に　きいて　みましょう。	14	121	シテミル		〃	《人》に　聞く
1163	キ	きく	聞く	五	アリさんは　けいさつかんに　住所と　名前を　聞かれました。	24	214	サレル		〃	《人》が《人》に《事:住所と名前》を　聞く
1164	キ	きく	聞く	五	ニュースで　聞きましたが、最近　交通事故が　減った　ようです。	25	224			《人》が《物》で《事》を　聞く	《物:音声作品:ニュース》で　聞く
1165	キ	きく	聞く	五	ラジオで　聞きましたが、明日は　天気が　わるい　らしいです。	28	251			〃	《物:機器:ラジオ》で　聞く
1166	キ	きく	聞く	五	見た　ことも　聞いた　ことも　ない　めずらしい　布だ。	Y9	279			慣:見た　ことも　聞いた　ことも　ない	慣:見た　ことも　聞いた　ことも　ない
1167	キ	きこえる	きこえる	下一	草の　間から　虫の　鳴く　声が　きこえます。	17	145			《場所》から《現象》が　聞こえる	《場所》から《現象:声》が　聞こえる
1168	キ	きこえる	きこえる	下一	となりの　へやから　マナさんの　声が　きこえます。	17	146			〃	《場所》から《現象:声》が　聞こえる
1169	キ	きこえる	きこえる	下一	道の　方から　自動車の　はしる　音が　きこえます。	17	146			〃	《場所》から《現象:音》が　聞こえる
1170	キ	きこえる	きこえる	下一	草の　間から　何が　きこえましたか。	17	145			〃	《場所》から《現象》が　聞こえる
1171	キ	きこえる	聞こえる	下一	戸を　たたく　音が　聞こえました。	Y9	277			〃	《現象:音》が　聞こえる
1172	キ	きこえる	聞こえる	下一	子どもたちが　さわいで　いるのが　聞こえました。	23	205			〃	《現象:V-の》が　聞こえる
1173	キ	きこくする	帰国する	サ変	大学院には　進まずに、帰国して、商社の　ような　所に　つとめようと　思って　います。	20	174	シテ		《人》が《場所》から《場所》に／へ　帰国する	帰国する
1174	キ	きにゅうする	記入する	サ変	この　ノートに　おきゃくさんの　じゅうしょと　氏名を　記入して　くださいませんか。	16	133		シテクダサイマセンカ	《人》が《物》に《事》を　記入する	《物》に《事:住所と氏名》を　記入する
1175	キ	きめる	きめる	下一	もう　なつやすみの　よていを　きめましたか。	16	132			《人》が《事》を　決める	《事:予定》を　決める
1176	キ	きめる	決める	下一	今月の　末までに　とうろん会の　委員を　決めて　ください。	26	233		シテクダサイ	〃	《事:委員》を　決める
1177	キ	きめる	きめる	下一	いいえ、まだ　きめて　いません。	16	132	シテイル		〃	決める
1178	キ	きめる	きめる	下一	まだ　きめて　いませんが、もし　りょうきんが　安かったら、りょかんに　します。	16	133	シテイル		〃	決める
1179	キ	きる	着る	上一	茶色の　上着を　着て　いる　方ですか。	13	109	シテイル		《人》が《物》を　着る	《人》が《物:服》を　着る
1180	キ	きる	着る	上一	よしださんは　どんな　ふくを　着て　いましたか。	13	110	シテイル		〃	《人》は《物:服》を　着る
1181	キ	きる	着る	上一	制服を　着た　学生たちが　おみやげを　買って　いますね。	23	202			〃	《人》が《物:服》を　着る
1182	キ	きる	着る	上一	門の　前に　制服を　着た　けいさつかんが　並んで　います。	23	207			〃	《人》が《物:服》を　着る
1183	キ	きる	着る	上一	和服を　着た　女性が　多いですね。	26	231			〃	《人》が《物:服》を　着る
1184	キ	きる	着る	上一	山田さんの　説明では、ちかごろ　若い　女性は　一人で　和服を　着られない　そうです。	26	232	デキル	～ソウダ	〃	《人》が《物:服》を　着る
1185	キ	きる	着る	上一	きれいな　ようふくを　着て　いますね。	18	158	シテイル		〃	《物:服》を　着る
1186	キ	きる	切る	五	はさみは、かみを　切る　ために、使います。	20	177	スルタメニ		《人》が《物》を　切る	《物》を　切る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1187	キ	きる	切る	五	ナイフと フォークを 使って 肉を 切って ください。	20	177		シテクダサイ	〃	《物》を 切る
1188	キ	きる	切る	五	わたしは 米を 洗ったり、やさいを 切ったり します。	17	144	シタリ		〃	《人》が 《物》を 切る
1189	キ	きれる	切れる	下一	切れそうな ひもや 破れそうな 布は すてて ください。	23	205		シソウダ	《物》が 切れる	《物》が 切れる
1190	キ	きれる	切れる	下一	大風で 電線が 切れました。	24	216			〃	《物》が 切れる
1191	ク	くださる	くださる	五	では、あおいのを 一まいと 白いのを 二まい ください。	6	45			《人》が 《人》に 《物》を 下さる	《物》を 下さい
1192	ク	くださる	くださる	五	きっぷを 一まい ください。	6	50			〃	《物》を 下さい
1193	ク	くださる	くださる	五	お金を 千円 ください。	6	50			〃	《物》を 下さい
1194	ク	くださる	くださる	五	ジュースを すこし ください。	6	50			〃	《物》を 下さい
1195	ク	くださる	くださる	五	では、それも ください。	6	45			〃	《物》も 下さい
1196	ク	くださる	下さる	五	先生は わたしに 本を 下さいました。	22	196			〃	《人》が 《人》に 《物》を 下さる
1197	ク	くむ	組む	五	弟は、うでを 組んで かんがえて います。	20	178	シテ		《人》が 《物》を 組む	《人》は 《物:身体部位:腕》を 組む
1198	ク	くもる	くもる	五	今日は 空が くもって います。	17	147	シテイル		《場所》が くもる	《場所:空》が くもる
1199	ク	くらべる	比べる	下一	東京と 北海道を 比べて みましょう。	18	157	シテミル		《人》が Nと Nを 比べる	《N:物》と 《N:物》を 比べる
1200	ク	くらべる	比べる	下一	他校と 比べて 小さいそうだが、授業の 程度は、大変 高かった。	27	239	シテ		〃	《N:物》と 比べる
1201	ク	くりかえす	くり返す	五	何度も くり返して テープを 聞いた 方が いいです。	20	178	シテ		《人》が 《事》を くり返す	くり返して
1202	ク	くる	くる	カ変	マナさんは いつ にほんへ きましたか。	4	27			《人》が 《場所》から 《場所》に／へ／まで 来る	《人》は 《場所》へ 来る
1203	ク	くる	くる	カ変	マナさんは いつ とうきょうへ きましたか。	4	28			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1204	ク	くる	くる	カ変	マナさんは 二十日ごろ とうきょうへ きました。	4	28			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1205	ク	くる	来る	カ変	ゴーさんは いつ こちらへ 来ますか。	9	72			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1206	ク	くる	来る	カ変	マナさんは、一年間 日本ごを べんきょうしてから、日本へ 来ました。	11	94			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1207	ク	くる	来る	カ変	マナさんは、日本へ 来る 前に、一年間 日本ごを べんきょうしました。	11	94			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1208	ク	くる	来る	カ変	マナさんは 日本へ 来てから、一度だけ けいさつへ 行ったことが あります。	19	165			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1209	ク	くる	来る	カ変	マナさんは このごろ 学校へ 来ない ことが あります。	19	165			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1210	ク	くる	来る	カ変	わたしは、あまり 数学を べんきょうせずに、日本へ 来たので、今 ちょっと こまって います。	20	174			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1211	ク	くる	来る	カ変	アリさんは、数学を よく べんきょうしてから、日本へ 来ましたか。	20	175			〃	《人》は 《場所》へ 来る
1212	ク	くる	来る	カ変	(わたしは)来年 また 日本へ 来ようと 思って います。	20	176		シヨウト	〃	《人》は 《場所》へ 来る
1213	ク	くる	来る	カ変	マリアさんは、日本へ 来たばかりの 時と 今とでは、どのようにちがいますか。	28	248	シタバカリ		〃	《人》は 《場所》へ 来る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1214	ク	くる	来る	カ変	先生は 明日 ここへ 来られます。	28	249		サレル(敬譲)	〃	《人》は 《場所》へ 来る
1215	ク	くる	くる	カ変	いつ にほんへ きましたか。	4	26			〃	《場所》へ 来る
1216	ク	くる	来る	カ変	日本へ 来てから どのぐらい たちましたか。	15	124			〃	《場所》へ 来る
1217	ク	くる	来る	カ変	日本へ 来てから ずっと 元気でしたか。	15	124			〃	《場所》へ 来る
1218	ク	くる	来る	カ変	はじめて りょうへ 来た 時、げんかんで くつを ぬがなければなりませんか。	15	125			〃	《場所》へ 来る
1219	ク	くる	来る	カ変	日本へ 来てから、もう 一年も たちました。	15	129			〃	《場所》へ 来る
1220	ク	くる	来る	カ変	もう いちど 日本へ 来る ことが できますか。	16	135	コトガデキル		〃	《場所》へ 来る
1221	ク	くる	来る	カ変	もう いちど 日本へ 来られますか。	16	135	デキル		〃	《場所》へ 来る
1222	ク	くる	来る	カ変	学校へ 来たく なかったからでは ありません。	19	168		シタイ	〃	《場所》へ 来る
1223	ク	くる	来る	カ変	四時に なったら、わたしの 所へ 来て ください。	21	188		シテクダサイ	〃	《場所》へ 来る
1224	ク	くる	来る	カ変	さあ、火の そばへ 来て、あたたかい 物を 食べて ください。	Y9	278	シテ		〃	《場所》へ 来る
1225	ク	くる	くる	カ変	ことしの 四月に バンコクから きました。	4	26			〃	《場所》から 来る
1226	ク	くる	くる	カ変	ことしの 4月に タイの バンコクから きました。	Y1	259			〃	《場所》から 来る
1227	ク	くる	来る	カ変	日本に 来たばかりの 時は、ホームシックに なりましたけど。	28	246	シタバカリ		〃	《場所》に 来る
1228	ク	くる	来る	カ変	この 次は、うちにも 来て もらおうね。	28	248	シテモラウ		〃	《場所》に 来る
1229	ク	くる	来る	カ変	日本に 来たばかりの 時、ホームシックに なって しまいました。	28	251	シタバカリ		〃	《場所》に 来る
1230	ク	くる	来る	カ変	あなたの ために、働こうと 思って、この 家に 来ました。	Y9	280			〃	《場所》に 来る
1231	ク	くる	くる	カ変	だれと だれが きませんか。	7	55			〃	《人》が 来る
1232	ク	くる	くる	カ変	いいえ、まだ 二人 きません。	7	55			〃	《人》が 来る
1233	ク	くる	くる	カ変	マナさんと アリさんが きません。	7	55			〃	《人》が 来る
1234	ク	くる	くる	カ変	アリさんが きました。	7	59			〃	《人》が 来る
1235	ク	くる	くる	カ変	だれが きましたか。	7	59			〃	《人》が 来る
1236	ク	くる	来る	カ変	ええ。来た 人に 料理を 食べて もらったり、作品を 買ってもらったり して、サークル活動の お金を 作るのです。	22	194			〃	《人》が 来る
1237	ク	くる	来る	カ変	友だちが 来るから、へやに 花を かざって おきましょう。	22	197			〃	《人》が 来る
1238	ク	くる	くる	カ変	Aクラスの 学生は きませんでした。	5	38			〃	《人》は 来る
1239	ク	くる	くる	カ変	学生は もう みんな きましたか。	7	55			〃	《人》は 来る
1240	ク	くる	来る	カ変	マナさんは もう 来ましたか。	15	129			〃	《人》は 来る
1241	ク	くる	来る	カ変	マナさんは 昼ごろ 来るって 言いました。	28	252			〃	《人》は 来る
1242	ク	くる	来る	カ変	わたしも 少し 前に 来ました。	11	90			〃	《人》も 来る
1243	ク	くる	くる	カ変	マナさんは どこから きましたか。	4	28			〃	《人》は 《場所》から 来る
1244	ク	くる	くる	カ変	マナさんは タイから きました。	4	28			〃	《人》は 《場所》から 来る
1245	ク	くる	来る	カ変	私は シンガポールから 来た タンと いいますが。	13	109			〃	《人》は 《場所》から 来る
1246	ク	くる	来る	カ変	この 人は、オーストラリアから 来た りゅう学生ですが、	14	117			〃	《人》は 《場所》から 来る
1247	ク	くる	来る	カ変	ローラさんは どこの 国から 来た 学生ですか。	14	117			〃	《人》は 《場所》から 来る
1248	ク	くる	くる	カ変	マナさんは、どこの くにから きましたか。	Y1	260			〃	《人》は 《場所》から 来る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1249	ク	くる	くる	カ変	あ、あちらから　マナさんたちが　きました。	7	55			〃	《人》が《場所》から　来る
1250	ク	くる	来る	カ変	冬やすみには　きょうとからも　おおさかからも　せんぱいが　おおぜい　来るでしょう。	9	72		～デショウ	〃	《人》が《場所》から　来る
1251	ク	くる	来る	カ変	せんしゅうから　友だちが　日本に　来て　います。	13	108	シテイル		〃	《人》が《場所》に　来る
1252	ク	くる	来る	カ変	マナさんは　日本に　来て　います。今、日本に　います。	13	111	シテイル		〃	《人》は《場所》に　来る
1253	ク	くる	来る	カ変	娘は、何を　しようと　思って、若者の　家に　来たのですか。	Y9	281			〃	《人》は《場所》に　来る
1254	ク	くる	来る	カ変	では、あなたが　日本へ　来る　時、お母さんは　心配したでしょうね。	15	124			〃	《人》が《場所》へ　来る
1255	ク	くる	来る	カ変	もし、あなたが　商社に　入ったら、また　日本へ　来る　ことがあるでしょうね。	20	174			〃	《人》が《場所》へ　来る
1256	ク	くる	来る	カ変	冬休みには　だれが　どこから　日本ごがっこうへ　来ますか。	9	73			〃	《人》が《場所》から《場所》へ　来る
1257	ク	くる	来る	カ変	いいえ、まだ　来て　いません。	15	129	シテイル		〃	来る
1258	ク	くる	来る	カ変	アリさんは　わたしの　ところへ　お金を　かりに　来ました。	10	85			《人》が《場所》に／へ　V-しに　来る	《人》は《場所》へ　V-しに　来る
1259	ク	くる	来る	カ変	わたしは　日本へ　文学を　べんきょうしに　来ました。	10	85			〃	《人》は《場所》へ　V-しに　来る
1260	ク	くる	来る	カ変	マリアさんは　図書室へ　なにを　しに　来ましたか。	12	100			〃	《人》は《場所》へ　V-しに　来る
1261	ク	くる	来る	カ変	国へ　帰らないなら、わたしの　家へ　あそびに　来て　ください。	21	188		シテクダサイ	〃	《場所》へ　V-しに　来る
1262	ク	くる	来る	カ変	それなら、わたしの　家へ　あそびに　来て　ください。	21	188		シテクダサイ	〃	《場所》へ　V-しに　来る
1263	ク	くる	来る	カ変	どうぞ、また　あそびに　来て　ください。	20	175		シテクダサイ	〃	V-しに　来る
1264	ク	くる	来る	カ変	わたしは　日本へ　文学の　べんきょうに　来ました。	10	85			《人》が《場所》に／へ《事》に　来る	《人》は《場所》へ《事》に　来る
1265	ク	くる	来る	カ変	どこかから　てがみが　来ましたか。	9	77			《場所》から《物》が　来る	《場所》から《物》が　来る
1266	ク	くる	来る	カ変	いいえ、どこからも　来ませんでした。	9	77				《場所》から　来る
1267	ク	くる	来る	カ変	アリさんから　あたらしい　本が　たくさん　来たと　ききましたが、ほんとうですか。	12	98			〃	《物》が　来る
1268	ク	くる	来る	カ変	おととい　百さつぐらい　来ました。	12	98			〃	来る
1269	ク	くる	来る	カ変	1500年ごろ　海から　大きい　つなみが　来て、たてものが　なくなりました。	Y2	262	シテ		《現象》が　来る	《現象：つなみ》が　来る
1270	ク	くる	来る	カ変	あしたは　台風が　来る　かもしれません。（来ない　かもしれません。）	21	188		～カモシレナイ	〃	《現象：台風》が　来る
1271	ク	くる	来る	カ変	あしたは　台風が　来る　かもしれません。（来ない　かもしれません。）	21	188		～カモシレナイ	〃	《現象：台風》が　来る
1272	ク	くる	来る	カ変	高い　波が　来たので、船が　しずみそうに　なりました。	23	205			〃	《現象：波》が　来る
1273	ク	くる	来る	カ変	学生たちは、家族から　手紙が　来るのを　待って　います。	23	205			《人》から《人》に《物》が　来る	《人》から《物》が　来る
1274	ク	くる	来る	カ変	タンさんは、家族から　手紙が　来ないので、さびしがって　います。	25	225			〃	《人》から《物》が　来る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1275	ク	くれる	くれる	下一	マナさんは　あなたに　なにを　くれましたか。	8	67			《人》が　《人》に　《物》を　くれる	《人》は　《人》に　《物》を　くれる
1276	ク	くれる	くれる	下一	マナさんは　わたしに　じしょを　くれました。	8	67			〃	《人》は　《人》に　《物》を　くれる
1277	ク	くれる	くれる	下一	わたしは　母が　くれた　くすりを　日本に　持って　来ました。	15	124			〃	《人》は　《人》に　《物》を　くれる
1278	ク	くれる	くれる	下一	こいびとは　わたしに　指輪を　くれました。	22	196			〃	《人》は　《人》に　《物》を　くれる
1279	ク	くれる	くれる	下一	だれが　この　じじょを　くれましたか。	8	67			〃	《人》が　《物》を　くれる
1280	ク	くれる	くれる	下一	マナさんが　この　じしょを　くれました。	8	67			〃	《人》が　《物》を　くれる
1281	ク	くれる	くれる	下一	お母さんも　てがみを　くれますか。	8	63			〃	《人》も　《物》を　くれる
1282	ク	くれる	くれる	下一	はい、よく　くれます。	8	63			〃	くれる
1283	ケ	けいえいする	経営する	サ変	わたしは、父の　会社を　経営する　ために、経営学を　べんきょうしなければ　なりません。	20	177	スルタメニ		《人》が　《組織》を　経営する	《人》は　《組織：会社》を　経営する
1284	ケ	けいけんする	経験する	サ変	日本に　いる　間に、いろいろな　ことを　経験した　方が　いいですね。	26	229			《人》が　《事》を　経験する	《事》を　経験する
1285	ケ	けいさんする	計算する	サ変	先生は　生徒に　面積や　体積を　計算させました。	27	240	サセル		《人》が　《数量》を　計算する	《人》は　《数量：面積や体積》を計算する
1286	ケ	けす	けす	五	まだ、電気を　けさないで　ください。	10	84		シナイデクダサイ	《人》が　《物》を　消す	《物：機器：電気》を　消す
1287	ケ	けす	けす	五	それから、テレビも　けしました。	11	91			〃	《物：機器：テレビ》を　消す
1288	ケ	けす	消す	五	消さずに、そのまま、ねました。	24	216	セズニ		〃	消す
1289	ケ	けす	けす	五	けしゴムは、字を　けす　ために、使います。	20	177	スルタメニ		〃	《物：字》を　消す
1290	ケ	けす	消す	五	危ないから、わたしは　火を　消しました。今、火が　消して　あります。	22	198			《人》が　《現象》を　消す	《現象：火》を　消す
1291	ケ	けす	消す	五	危ないから、わたしは　火を　消しました。今、火が　消して　あります。	22	198	シテアル		〃	《現象：火》を　消す
1292	ケ	けす	けす	五	火を　使って　いれば、すぐ　その　火を　けさなければ　ならない。	Y6	271		シナケレバナラナイ	〃	《現象：火》を　消す
1293	ケ	けっこんする	けっこんする	サ変	あねは　きょねん　おなじ　かいしゃの　ひとと　けっこんしました。	8	64			《人》が　《人》と　結婚する	《人》は　《人》と　結婚する
1294	ケ	けっこんする	けっこんする	サ変	マリアさんの　おねえさんは、いつ、どんな　人と　けっこんしましたか。	8	65			〃	《人》は　《人》と　結婚する
1295	ケ	けっこんする	けっこんする	サ変	わたしは　同じ　国の　人としか　けっこんしません。	15	129			〃	《人》は　《人》と　結婚する
1296	ケ	けっこんする	けっこんする	サ変	二人は　けっこんして　いますか。	19	164	シテイル		〃	《人》は　結婚する
1297	ケ	けっこんする	結婚する	サ変	わたしは、マリアさんが　好きですが、結婚しようとは　思って　いません。	20	176		シヨウト	〃	《人》は　結婚する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1298	ケ	けっこんする	けっこんする	サ変	お兄さんも　けっこんして　いますか。	19	162	シテイル		〃	《人》も　結婚する
1299	ケ	けっこんする	けっこんする	サ変	外国人とは　けっこんしません。	15	129			〃	《人》と　結婚する
1300	ケ	けっこんする	けっこんする	サ変	もう　けっこんして　いて、子どもが　あります。	19	162	シテイル		〃	結婚する
1301	ケ	けっせきする	欠席する	サ変	先生は　学生に　授業を　欠席しないように(と)　注意しました。	26	232	シナイヨウニ命ジル		《人》が　《イベント》を　欠席する	《人》が　《イベント:授業》を　欠席する
1302	ケ	ける	ける	五	弟は　兄に　足を　けられました。	24	214	サレル		《人》が　《物》を　ける	《人》が　《物:身体部位》を　ける
1303	ケ	けんがくする	見学する	サ変	日本の　小学校を　見学したいのですが、どこか　紹介して　くださいませんか。	27	237		シタイ	《人》が　《組織／事》を　見学する	《組織:学校》を　見学する
1304	ケ	けんがくする	見学する	サ変	今日は　第三小学校を　見学した。	27	239			〃	《組織:学校》を　見学する
1305	ケ	けんがくする	見学する	サ変	そこなら、いつでも　見学できる　はずです。	27	237	デキル	～ハズダ	〃	見学する
1306	ケ	けんがくする	見学する	サ変	今日は　見学させて　くださって、ありがとう　ございました。	27	238	サセル、シテクダサル		〃	見学する
1307	ケ	けんがくする	見学する	サ変	タンさんは、だれの　紹介で、どこの　学校を　見学しましたか。	27	239			〃	《人》は　《組織:学校》を　見学する
1308	ケ	けんがくする	見学する	サ変	ニュージーランドの　友だちも　見学したいと　言って　おりますので、	Y10	283		シタイ	〃	《人》が　見学する
1309	ケ	けんがくする	見学する	サ変	タンさんは、学校で　どんな　ことを　見学したいと　言って　いますか。	Y10	284		シタイ	〃	《人》は　《事》を　見学する
1310	ケ	けんきゅうする	研究する	サ変	アリさんは、人口もんだいに　ついて　研究する　ために、来日しました。	20	177	スルタメニ		《人》が　《事》を　研究する	《人》は　《事:人口問題》について研究する
1311	ケ	けんきゅうする	研究する	サ変	しかし、ほんとうか　どうか　研究しなければ、わからない　ことが　たくさん　ある。	Y6	272			〃	《事》を　研究する
1312	ケ	けんぶつする	けんぶつする	サ変	ならを　けんぶつしました。	5	34			《人》が　《場所》を　けんぶつする	《場所》を　けんぶつする
1313	ケ	けんぶつする	けんぶつする	サ変	しかし、けんぶつしませでした。	5	38			〃	けんぶつする
1314	コ	こうじょうする	向上する	サ変	わたしたちの　生活は　だんだん　向上して　きました。	25	226	シテクル		《事》が　向上する	《事:生活》は　向上する
1315	コ	こおる	こおる	五	温度が　もっと　下がって、水が　こおる　はずです。	27	237		～ハズダ	《物》が　こおる	《物:水》が　こおる
1316	コ	こおる	こおる	五	氷が　こおると、体積が　1.1倍に　増える　ことが　わかりました。	27	237	スルト		〃	《物:氷》が　こおる
1317	コ	こたえる	こたえる	下一	(もし、)その　もんだいが　ふくざつだったら、こたえられません。	16	136	デキル		《人》が　《事》に　答える	答える
1318	コ	こたえる	こたえる	下一	(もし、)その　もんだいが　ふくざつで　なかったら、こたえられます。	16	136	デキル		〃	答える

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1319	コ	こたえる	答える	下一	この　問題は　ふくざつすぎます。みんな　答えられません。	24	217	デキル		〃	《人》が　答える
1320	コ	こたえる	答える	下一	この　問題は　かんたんでは　ない　ようです。だれも　答えられません。	25	224	デキル		〃	《人》も　答える
1321	コ	こたえる	こたえる	下一	学生は　先生に　こたえます。	8	66			《人》が　《人》に　答える	《人》は　《人》に　答える
1322	コ	ことわる	ことわる	五	わたしは、マリアさんを　パーティーに　さそう　度に、ことわられています。	28	252	サレル、シテイル		《人》が　《人》に　《事》を　ことわる	《人》が　《事》を　ことわる
1323	コ	こまる	こまる	五	ここでは　いろいろな　ことを　自分で　やらなければ　なりませんから、こまりました。	15	124			《人》が　困る	困る
1324	コ	こまる	困る	五	専門書が　読めなければ、困りますよ。	21	185			〃	困る
1325	コ	こまる	困る	五	大学では　専門書が　読めなくても、困りませんか。	21	186			〃	困る
1326	コ	こまる	困る	五	ほんとうに　困って　しまいました。	24	211	シテシマウ		〃	困る
1327	コ	こまる	困る	五	わたしたちは　母に　入院されました。（とても　困りました。）	24	215			〃	困る
1328	コ	こまる	困る	五	タクシーの　後ろの　席に　忘れ物を　して　しまいました。（困りました。）	24	215			〃	困る
1329	コ	こまる	困る	五	それは　困りますね。	25	222			〃	困る
1330	コ	こまる	こまる	五	わたしは、あまり　数学を　べんきょうせずに、日本へ　来たので、今、ちょっと　こまって　います。	20	174	シテイル		〃	《人》は　困る
1331	コ	こむ	こむ	五	おぼんに　なると、とても　汽車が　こみます。	19	163			《場所》が　こむ	《場所：汽車》が　こむ
1332	コ	こむ	こむ	五	なぜ、おぼんには　汽車が　こむのですか。	19	163			〃	《場所：汽車》が　こむ
1333	ゴ	ごらんになる	御らんになる	五	先生は　写真を　御らんになりました。	28	249		敬譲	《人》が　《物》を　御らんになる	《人》は　《物》を　御らんになる
1334	コ	ころす	殺す	五	動物を　殺しては　いけません。	14	120		シテハイケナイ	《人》が　《動物》を　殺す	《動物》を　殺す
1335	コ	こわす	こわす	五	わたしは　弟に　カメラを　こわされました。	24	214	サレル		《人》が　《物》を　こわす	《人》が　《物》を　こわす
1336	コ	こわれる	こわれる	下一	テレビが　こわれて　しまいました。	24	216	シテシマウ		《物》が　こわれる	《物》が　こわれる
1337	コ	こわれる	こわれる	下一	買ったばかりの　家具が　こわれて　しまいました。	28	251	シテシマウ		〃	《物》が　こわれる
1338	サ	さがす	さがす	五	今、友だちに　あげる　物を　さがして　います。	13	108	シテイル		《人》が　《物》を　さがす	《物》を　さがす
1339	サ	さがす	さがす	五	タンさんは、今、何を　さがして　いますか。	13	110	シテイル		〃	《人》は　《物 》を　さがす
1340	サ	さがる	下がる	五	来年は　物価が　下がる　かもしれません。（下がらない　かもしれません。）	21	188		～カモシレナイ	《事》が　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　下がる	《事：物価》が　下がる
1341	サ	さがる	下がる	五	来年は　物価が　下がる　かもしれません。（下がらない　かもしれません。）	21	188		～カモシレナイ	〃	下がる
1342	サ	さがる	下がる	五	温度が　もっと　下がって、水が　こおる　はずです。	27	237	シテ		〃	《事：温度》が　下がる
1343	サ	さく	さく	五	庭に　青い　花が　さいて　います。	17	147	シテイル		《物》が　さく	《物：花》が　さく
1344	サ	さげる	下げる	下一	さっき　部屋の　温度を　下げたから、あたたかく　ない　はずです。	27	241			《人》が　《事》を　《段階・程度》から　《段階・程度》に／まで　下げる	《事：温度》を　下げる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1345	サ	さしあげる	さしあげる	下一	とうろん会の　記念の　Tシャツを　作りましたから、マリアさんに　さしあげたいと　思います。	22	195		シタイ、敬譲	《人》が《人》に《物》を　さしあげる	《人》に《物》を　さしあげる
1346	サ	さしあげる	さしあげる	下一	わたしは　先生に　絵はがきを　さしあげました。	22	196		敬譲	〃	《人》が《人》に《物》を　さしあげる
1347	サ	さしあげる	さしあげる	下一	国の　母から、さしあげるようにと　送って　来た　ものですので、	Y10	282	スルヨウニ命ジル	敬譲	〃	《物》を　さしあげる
1348	サ	さす	さす	五	あの　人は、かさを　ささないで　歩いて　います。	20	178	シナイデ		慣：傘を　さす	慣：傘を　さす
1349	サ	さす	さす	五	あの　人は、かさを　ささずに　歩いて　います。	20	178	セズニ		〃	慣：傘を　さす
1350	サ	さそう	さそう	五	マナさんは　友だちを　音楽会に　さそって　あげました。	22	196	シテアゲル		《人》が《人》を《イベント／事》に　さそう	《人》は《人》を《イベント：音楽会》に　さそう
1351	サ	さそう	さそう	五	わたしは、マリアさんを　パーティーに　さそう　度に、ことわられています。	28	252			〃	《人》は《人》を《イベント：パーティー》に　さそう
1352	サ	さそう	さそう	五	今朝、私は　山田さんに　さそわれて、おまいりに　行って　来ました。	24	212	サレル、シテ		〃	《人》が《人》を　さそう
1353	サ	さそう	さそう	五	ぜひ　さそって　ください。	24	211		シテクダサイ	〃	さそう
1354	サ	さわぐ	さわぐ	五	まるで　子どものように　さわいで　いますね。	23	201	シテイル		《人》が　さわぐ	さわぐ
1355	サ	さわぐ	さわぐ	五	病院の　中で　さわいじゃ　いけません。	28	252		シテハイケナイ	〃	さわぐ
1356	サ	さわぐ	さわぐ	五	子どもたちが　さわいで　いるのが　聞こえました。	23	205	シテイル		〃	《人》が　さわぐ
1357	サ	さわる	さわる	五	この　カメラに　さわっては　いけません。	14	120		シテハイケナイ	《人》が《物》に　さわる	《物》に　さわる
1358	サ	さわる	さわる	五	使用中の　コンピュータに　さわらないで　ください。	20	179		シナイデクダサイ	〃	《物》に　さわる
1359	サ	さんぽする	さんぽする	サ変	子どもたちは　野原を　さんぽして　います。	17	147	シテイル		《人》が《場所》を　さんぽする	《人》は《場所》を　さんぽする
1360	サ	さんぽする	さんぽする	サ変	あの　方は　いつも　この　道を　さんぽなさいます。	28	249		ナサル	〃	《人》は《場所》を　さんぽする
1361	シ	しかる	しかる	五	母は　まだ　一度も　弟を　しかった　ことが　ありません。	19	165			《人》が《人》を　しかる	《人》は《人》を　しかる
1362	シ	しかる	しかる	五	わたしは、いつも　母に　しかられてばかり　います。	25	225	サレル、シテイル		〃	《人》は《人》を　しかる
1363	シ	しかる	しかる	五	マナさんは　先生に　しかられました。	24	214	サレル		〃	《人》が《人》を　しかる
1364	シ	しかる	しかる	五	たばこを　吸って、医者に　しかられたから、やめなければ　なりません。	24	217	サレル		〃	《人》が　しかる
1365	シ	しく	しく	五	帰って、すぐ　ねられるように、へやに　ふとんを　しいて　おきました。	22	198	シテオク		《人》が《場所》に《物》を　しく	《場所》に《物》を　しく
1366	シ	しく	しく	五	へやには　新しい　たたみが　しいて　あります。	22	198	シテアル		〃	《場所》には《物》を　しく
1367	ジ	じしゅうする	自習する	サ変	学生たちは　部屋で　自習して　いる　ところです。	25	225	シテイル、シテイルトコロ		《人》が《事》を　自習する	《人》は　自習する
1368	シ	しずむ	しずむ	五	高い　波が　来たので、船が　しずみそうに　なりました。	23	205		シソウダ	《物》が《場所》に　しずむ	《物》が　しずむ
1369	シ	しずむ	しずむ	五	学生たちは、夕日が　しずむのを　見て　いました。	23	205			〃	《物：夕日》が　しずむ
1370	ジ	じっけんする	実験する	サ変	順番に　実験して　ください。	27	237		シテクダサイ	《人》が《事》を　実験する	実験する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1371	ジ	じっけんする	実験する	サ変	学生は、先生の　言う　とおりに、実験しました。	27	241			〃	《人》は　実験する
1372	シ	しつもんする	しつもんする	サ変	先生は　学生に　しつもんします。	8	66			《人》が《人》に《事》を　質問する	《人》は《人》に　質問する
1373	シ	しつもんする	質問する	サ変	先生は　私にばかり　質問します。	25	224			〃	《人》は《人》に　質問する
1374	シ	しつもんする	しつもんする	サ変	やまださん、一つ　しつもんしたい　ことが　あります。	15	126		シタイ	〃	質問する
1375	シ	しぬ	死ぬ	五	わたしは、小さい　時、父に　死なれました。（生活が　苦しく　なりました。）	24	215	サレル		《人》が　死ぬ	《人》が　死ぬ
1376	シ	しぬ	死ぬ	五	戦争で　おおぜいの　子どもが　死にました。	24	217			〃	《人》が　死ぬ
1377	シ	しぬ	死ぬ	五	父は　死にましたが、母は　げんきです。	9	75			〃	《人》は　死ぬ
1378	シ	しまう	しまう	五	財布や　パスポートは、いつも　引き出しに　しまって　おきます。	22	197	シテオク		《人》が《場所》に《物》を　しまう	《物》は《場所》に　しまう
1379	シ	しまる	閉まる	五	この　ドアは　開いたり　閉まったり　します。	12	102	シタリ		《物》が　閉まる	《物:ドア》は　閉まる
1380	シ	しまる	閉まる	五	ドアが　閉まりそうですよ。	23	201		シソウダ	〃	《物:ドア》が　閉まる
1381	シ	しめる	閉める	下一	まどを　閉めないで　ください。	10	84		シナイデクダサイ	《人》が《物》を　閉める	《物:窓》を　閉める
1382	シ	しめる	閉める	下一	アリさん、へやの　まどを　閉めましたか。	11	91			〃	《物:窓》を　閉める
1383	シ	しめる	閉める	下一	ドアを　開けた　まま、（閉めずに）外出しました。	24	216	セズニ		〃	《物:ドア》を　閉める
1384	シ	しめる	閉める	下一	はい、へやを　でる　前に　閉めました。	11	91			〃	閉める
1385	シ	しゃべる	しゃべる	五	父親と　母親は　子どもたちに　自由に　意見を　しゃべらせました。	27	240	サセル		《人》が《事》を　しゃべる	《人》が《事:意見》を　しゃべる
1386	シ	しゃべる	しゃべる	五	生まれたばかりの　赤ちゃんは　しゃべれません。	28	251	デキル		《人》が　しゃべる	《人》が　しゃべる
1387	シ	しゅっせきする	出席する	サ変	出席するか　どうか、明日までに　返事を　するように　言われました。	26	229			《人》が《イベント》に　出席する	出席する
1388	シ	しゅっぱつする	出発する	サ変	旅行に　出発するのは　十日以前です。	23	207			《人》が《場所》を　出発する	出発する
1389	シ	しゅっぱつする	出発する	サ変	出発しましょう。	17	143		シマショウ(誘いかけ)	〃	出発する
1390	シ	しょうかいする	しょうかいする	サ変	わたしは　パーティーで　マリアさんに　しょうかいされました。	24	214	サレル		《人》が《人》に《人／場所／事》を　紹介する	《人》に《人》を　紹介する
1391	シ	しょうかいする	紹介する	サ変	日本の　小学校を　見学したいのですが、どこか　紹介して　くださいませんか。	27	237		シテクダサイマセンカ	〃	《場所:どこか》を　紹介する
1392	シ	しょうかいする	しょうかいする	サ変	つぎに　しょうかいするのは、長野県の　村の　行事ですが、ほかの　いなかの　おぼんも、これと　にて　います。	Y5	268			〃	紹介する
1393	シ	しょうたいする	招待する	サ変	わたしは　マナさんに　留学生の　パーティーに　招待されました。	24	214	サレル		《人》が《人》を《イベント》に　招待する	《人》が《人》を《イベント:パーティー》に　招待する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1394	シ	しょうたいする	招待する	サ変	先日は　花火見物に　御招待いただきまして、ありがとう　ございました。	Y10	282	シテ	御-イタダク	〃	《イベント:花火見物》に　招待する
1395	シ	しょうたいする	招待する	サ変	マリアさんは、どんな　ことに　招待されましたか。	Y10	284	サレル		〃	《人》を《イベント》に　招待する
1396	シ	しらせる	知らせる	下一	あなたの　行く　日を　でんわで　知らせましょう。	13	108		シマショウ(意図)	《人》が《人》に《事》を　知らせる	《事:行く日》を　知らせる
1397	シ	しらせる	知らせる	下一	すぐ　結果を　お知らせします。	28	250		オ-スル	〃	《事:結果》を　知らせる
1398	シ	しらせる	知らせる	下一	御都合の　よい　日を　お知らせいただけませんでしょうか。	Y10	283		オ-イタダク、シテイタダケマセンカ	〃	《事:都合のよい日》を　知らせる
1399	シ	しらせる	しらせる	下一	やまださんは　よしださんに　でんわで　何を　しらせましたか。	13	110			〃	《人》は《人》に《事》を　知らせる
1400	シ	しらせる	知らせる	下一	お金が　必要な　場合は、知らせて　ください。	27	242		シテクダサイ	〃	知らせる
1401	シ	しらべる	しらべる	下一	わたしは　いま　この　まちの　れきしに　ついて　しらべて　います。	12	103	シテイル		《人》が《事》を　調べる	《人》は《事:歴史》について　調べる
1402	シ	しらべる	調べる	下一	事故が　あった　場合は、すぐ　原因を　調べなければ　なりません。	27	242		シナケレバナラナイ	〃	《事:原因》を　調べる
1403	シ	しらべる	しらべる	下一	1分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫だから、火や　ガスなどが　安全か　どうか、しらべる。	Y6	271			〃	調べる
1404	シ	しる	知る	五	安くて、いい　時計を　売って　いる　店を　知って　いますか。	13	108	シテイル		《人》が《事》を　知る	《事:店》を　知る
1405	シ	しる	知る	五	あなたは　ジョンさんの　じゅうしょを　知って　いますか。いいえ、知りません。	13	111	シテイル		〃	《事:住所》を　知る
1406	シ	しる	知る	五	パーティーは　どこで　やるか、(場所を)　知って　います。	13	111	シテイル		〃	《事:パーティーの場所》を　知る
1407	シ	しる	知る	五	「さようなら。」と　いう　日本語の　ことばを　知って　いますか。	13	112	シテイル		〃	《事:ことば》を　知る
1408	シ	しる	知る	五	泳ぎに　行きたいと　思いますが、どこか　いい　所を　知りませんか。	16	132			〃	《事:いい所》を　知る
1409	シ	しる	知る	五	知って　いる　書店に　たのんで　みましょう。	21	185	シテイル		〃	《事》を　知る
1410	シ	しる	知る	五	いもうとも　大学生ですから、日本の　大学の　ことを　知ったら、喜ぶでしょう。	22	194	シタラ		〃	《事:大学のこと》を　知る
1411	シ	しる	知る	五	かんじを　知る　前に、日本には　文字が　ありませんでした。	Y3	263			〃	《事:文字》を　知る
1412	シ	しる	知る	五	大きい　じしんが　あった　時は、ラジオや　テレビで　放送するから、よく　聞いて、正しい　ニュースを　知る　ことが　大切で　ある。	Y6	271			〃	《事:ニュース》を　知る
1413	シ	しる	知る	五	じしんが　いつ　おきるのか、知る　ことは　まだ　むずかしい。	Y6	272			〃	《事:V-するのか》を　知る
1414	シ	しる	知る	五	せんもんの　店は　知りませんが、デパートは　知って　います。	13	108			〃	《事:店》は　知る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1415	シ	しる	知る	五	せんもんの　店は　知りませんが、デパートは　知って　います。	13	108	シテイル		〃	《事:店》は　知る
1416	シ	しる	知る	五	わたしは、雪国で　生まれたから、その　きびしさを　よく　知っています。	25	221	シテイル		〃	《人》は《事》を　知る
1417	シ	しる	知る	五	日本人は、1700年ぐらい　前に、かんじを　知りました。	Y3	263			〃	《人》は《事:文字》を　知る
1418	シ	しる	知る	五	日本人が　かんじを　知る　前に、日本には　文字が　ありましたか。	Y3	265			〃	《人》が《事:文字》を　知る
1419	シ	しる	知る	五	若者に　見られたのを　知った　娘は、部屋から　出て　来て、静かに　言いました。	Y9	279			〃	《人》が《事:V-したの》を　知る
1420	シ	しる	知る	五	あなたは　ジョンさんの　じゅうしょを　知って　いますか。いいえ、知りません。	13	111			〃	知る
1421	シ	しる	知る	五	そんなに　重いのですか。知りませんでした。	25	222			〃	知る
1422	シ	しんかする	進化する	サ変	遠い　昔、人間は　海の　中に　いた　動物から　進化したと　言われて　いる。	Y8	276			《人》が　進化する	《人》が《物:動物》から　進化する
1423	シ	しんぱいする	心配する	サ変	では、あなたが　日本へ　来る　時、お母さんは　心配したでしょうね。	15	124		～デショウ	《人》が《事》を　心配する	《人》は　心配する
1424	シ	しんぱいする	心配する	サ変	先月　わたしが　にゅういんする　時、母は　とても　心配しました。	15	128			〃	《人》は　心配する
1425	シ	しんぱいする	心配する	サ変	しかし、日本人は　ちいさい　じしんなら、あまり　心配しない。	Y6	271			〃	《人》は　心配する
1426	シ	しんぱいする	心配する	サ変	いもうとたちが　心配するから、父の　病気の　ことは　言わないで　おきます。	22	197			〃	《人》が　心配する
1427	シ	しんぱいする	心配する	サ変	心配しないで　ください。	20	179		シナイデクダサイ		心配する
1428	シ	しんぱいする	心配する	サ変	心配しないで　ください。	22	198		シナイデクダサイ	〃	心配する
1429	シ	しんぱいする	心配する	サ変	ええ、わたしの　体の　ことを　とても　心配しました。	15	124			〃	《事》を　心配する
1430	シ	しんぽする	進歩する	サ変	科学は　これからも　どんどん　進歩して　いくでしょう。	25	226	シテイク		《事》が　進歩する	《事:科学》は　進歩する
1431	ス	すう	すう	五	だから、たばこを　すわないで　ください。	10	86		シナイデクダサイ	慣:たばこを　吸う	慣:たばこを　吸う
1432	ス	すう	吸う	五	たばこを　吸って、医者に　しかられたから、	24	217	シテ		〃	慣:たばこを　吸う
1433	ス	すう	吸う	五	いもうとは、父が　たばこを　吸うと、いやがります。	25	225	スルト		〃	慣:たばこを　吸う
1434	ス	すう	吸う	五	外では　たばこを　吸ったって　かまいません。	28	253		シタッテカマワナイ	〃	慣:たばこを　吸う
1435	ス	すく	すく	五	わたしは　おなかが　すきました。	18	156			慣:おなかが　すく	慣:おなかが　すく
1436	ス	すすむ	進む	五	大学院には　進まずに、帰国して、商社の　ような　所に　つとめようと　思って　います。	20	174	セズニ		《人》が《組織》に／へ　進む	《組織:学校》に　進む

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1437	ス	すすむ	進む	五	理科系の 大学に 進みたいのですが、どなたに 相談すればいいですか。	21	189		シタイ	〃	《組織:学校》に 進む
1438	ス	すすむ	進む	五	アリさんは、大学院に 進む つもりですか。	20	175		～ツモリダ	〃	《人》は 《組織:学校》に 進む
1439	ス	すすむ	進む	五	わたしは 大学院には 進まない つもりです。	20	176		～ツモリダ	〃	《人》は 《組織:学校》には 進む
1440	ス	すすむ	進む	五	カメラの 技術は ずいぶん 進んで きました。	25	226	シテクル		《事》が 進む	《事:技術》は 進む
1441	ス	すすむ	進む	五	科学は 進んだが、じしんの 予知は、まだ むずかしい もんだいである。	Y6	272			〃	《事:科学》は 進む
1442	ス	すすむ	進む	五	日本では じしんの 研究が 進んで いるので、丈夫な たてものが 多い。	Y6	271	シテイル		〃	《事:研究》が 進む
1443	ス	すてる	すてる	下一	川に ごみを すてては いけません。	14	120		シテハイケナイ	《人》が 《物／場所》に 《物》を すてる	《場所》に 《物》を すてる
1444	ス	すてる	すてる	下一	川に ごみを すてては だめです。	14	120		シテハダメ	〃	《場所》に 《物》を すてる
1445	ス	すてる	すてる	下一	この ごみを 全部 すてて しまって ください。	24	215		シテクダサイ	〃	《物》を すてる
1446	ス	すてる	すてる	下一	切れそうな ひもや 破れそうな 布は すてて ください。	23	205	シテシマウ		〃	《物》は すてる
1447	ス	すむ	すむ	五	ジョンさんは いま きょうとに すんで います。	11	93	シテイル		《人》が 《場所》に 住む	《人》は 《場所》に 住む
1448	ス	すむ	すむ	五	兄は すみよし町 五丁目 十番地と いう 所に すんで います。	13	112	シテイル		〃	《人》は 《場所》に 住む
1449	ス	すむ	住む	五	あねは となりの 村に 住んで います。	19	162	シテイル		〃	《人》は 《場所》に 住む
1450	ス	すむ	住む	五	わたしは、京都の ような 古い 町に 住んで みたいです。	20	178	シテミル		〃	《人》は 《場所》に 住む
1451	ス	すむ	住む	五	両親は 東京に 住んで おります。	28	250	シテオル		〃	《人》は 《場所》に 住む
1452	ス	すむ	住む	五	昔、ある 村に 一人の ぴんぼうな 若者が 住んで いました。	Y9	277	シテイル		〃	《人》が 《場所》に 住む
1453	ス	すむ	住む	五	しかし、人間が どんどん 増えて、住む 所は せまく なった。	Y8	275			〃	《場所》に 住む
1454	ス	する	する	サ変	わたしは かいしゃで しごとを しました。	4	25			《人》が 《事》を する	《人》は 《事:仕事》を する
1455	ス	する	する	サ変	あなたは きのう なんじから なんじまで しごとを しましたか。	5	36			〃	《人》は 《事:仕事》を する
1456	ス	する	する	サ変	わたしは きのう ごぜん 十じから ごご 四じまで しごとを しました。	5	36			〃	《人》は 《事:仕事》を する
1457	ス	する	する	サ変	アリさんは あさ 早くから よる おそくまで しごとを しました。	5	36			〃	《人》は 《事:仕事》を する
1458	ス	する	する	サ変	あなたは まいにち なんじかんぐらい しごとを しますか。	5	36			〃	《人》は 《事:仕事》を する
1459	ス	する	する	サ変	わたしは まいにち 六じかんはんぐらい しごとを します。	5	36			〃	《人》は 《事:仕事》を する
1460	ス	する	する	サ変	その 家の 人は、ふつうは、のうぎょうとか 漁業とか ほかの仕事を して います。	16	133	シテイル		〃	《人》は 《事:仕事》を する
1461	ス	する	する	サ変	わたしは、マナさんのように がんばって 仕事を する つもりです。	20	178		～ツモリダ	〃	《人》は 《事:仕事》を する
1462	ス	する	する	サ変	ロボットは、ながい 時間、仕事を する ことが できます。	Y4	266	コトガデキル		〃	《人:ロボット》は 《事:仕事》をする
1463	ス	する	する	サ変	娘は、部屋に 入った まま、ずっと 中で 仕事を して いました。	Y9	278	シテイル		〃	《人》は 《事:仕事》を する
1464	ス	する	する	サ変	あなたは テニスを しますか。	3	20			〃	《人》は 《事:スポーツ》を する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1465	ス	する	する	サ変	いいえ、わたしは テニスを しません。	3	20			〃	《人》は 《事：スポーツ》を する
1466	ス	する	する	サ変	やまださんは きのう ピンポンを しました。	3	20			〃	《人》は 《事：スポーツ》を する
1467	ス	する	する	サ変	わたしは あした ピンポンを します。	3	20			〃	《人》は 《事：スポーツ》を する
1468	ス	する	する	サ変	あなたは なんよう日に バドミントンを しましたか。	3	21			〃	《人》は 《事：スポーツ》を する
1469	ス	する	する	サ変	わたしは 日よう日に バドミントンを しました。	3	21			〃	《人》は 《事：スポーツ》を する
1470	ス	する	する	サ変	マリアさんは 日よう日に どこで しょくじを しますか。	3	19			〃	《人》は 《事：食事》を する
1471	ス	する	する	サ変	わたしは きのう しんじゅくで しょくじを しました。	3	20			〃	《人》は 《事：食事》を する
1472	ス	する	する	サ変	わたしは これから 食事を する ところです。	25	225	スルトコロ		〃	《人》は 《事：食事》を する
1473	ス	する	する	サ変	わたしは、今、食事を して いる ところです。	25	225	シテイル、シテイルトコロ		〃	《人》は 《事：食事》を する
1474	ス	する	する	サ変	わたしは、今、食事を した ところです。	25	225	シタトコロ		〃	《人》は 《事：食事》を する
1475	ス	する	する	サ変	学生は うんどうじょうで なんの れんしゅうを しましたか。	10	83			〃	《人》は 《事：練習》を する
1476	ス	する	する	サ変	学生たちは きょうしつで はつおんの れんしゅうを します。	10	85			〃	《人》は 《事：練習》を する
1477	ス	する	する	サ変	わたしは 日本の 大学で 電気工学の べんきょうを します。	10	85			〃	《人》は 《事：勉強》を する
1478	ス	する	する	サ変	さむらいたちは、中国の ぶっきょうの べんきょうを して、	Y2	261	シテ		〃	《人》は 《事：勉強》を する
1479	ス	する	する	サ変	わたしは 日よう日に さんぽを したり、本を よんだり します。	12	101	シタリ		〃	《人》は 《事：散歩》を する
1480	ス	する	する	サ変	先生は 毎朝 さんぽを されます。	28	249		サレル(敬譲)	〃	《人》は 《事：散歩》を する
1481	ス	する	する	サ変	マナさんは 国に いた 時、自分の へやの そうじを しましたか。	15	126			〃	《人》は 《事：掃除》を する
1482	ス	する	する	サ変	朝 早くから 娘は、食事の 用意を したり、そうじを したり して、	Y9	278	シタリ		〃	《人》は 《事：掃除》を する
1483	ス	する	する	サ変	おぼんが 近く なると、人びとは どんな 用意を しますか。	Y5	270			〃	《人》は 《事：用意》を する
1484	ス	する	する	サ変	朝 早くから 娘は、食事の 用意を したり、そうじを したり して、	Y9	278	シタリ、シテ		〃	《人》は 《事：用意》を する
1485	ス	する	する	サ変	学生たちは 見学を した あとで、さくぶんを 書きます。	12	101			〃	《人》は 《事：見学》を する
1486	ス	する	する	サ変	弟は 朝ねぼうを する ことが あります。	19	165			〃	《人》は 《事：朝ねぼう》を する
1487	ス	する	する	サ変	新聞に よると、去年、海外旅行を した 人は 全国で 約九百万人だ そうです。	26	232			〃	《人》は 《事：旅行》を する
1488	ス	する	する	サ変	あなたは なにを しましたか。	3	18			〃	《人》は 《事》を する
1489	ス	する	する	サ変	マリアさんたちは せんしゅうの 土よう日に なにを しましたか。	3	19			〃	《人》は 《事》を する
1490	ス	する	する	サ変	マナさんは パーティーで なにを しましたか。	3	19			〃	《人》は 《事》を する
1491	ス	する	する	サ変	あなたは きのう しんじゅくで なにを しましたか。	3	20			〃	《人》は 《事》を する
1492	ス	する	する	サ変	マナさんは 川の 水で なにを しましたか。	7	57			〃	《人》は 《事》を する
1493	ス	する	する	サ変	やまださんは、子どもの 時、どんな ことを しましたか。	8	63			〃	《人》は 《事》を する
1494	ス	する	する	サ変	マリアさんは やまださんの ところで どんな ことを しましたか。	8	65			〃	《人》は 《事》を する
1495	ス	する	する	サ変	アリさんは なにを しに 行きましたか。	10	83	シニ		〃	《人》は 《事》を する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1496	ス	する	する	サ変	マリアさんは　図書室へ　なにを　しに　来ましたか。	12	100	シニ		〃	《人》は《事》を　する
1497	ス	する	する	サ変	マナさんは　森へ　行って、何を　して　来ましたか。	17	145	シテクル		〃	《人》は《事》を　する
1498	ス	する	する	サ変	小林さんは　夕食の　前に、どんな　ことを　しましたか。	17	145			〃	《人》は《事》を　する
1499	ス	する	する	サ変	学生たちは　自由に　好きな　ことを　して　います。	17	148	シテイル		〃	《人》は《事》を　する
1500	ス	する	する	サ変	お兄さんと　おねえさんは　何を　して　いますか。	19	164	シテイル		〃	《人》は《事》を　する
1501	ス	する	する	サ変	ごりょうしんは　どこで　何を　して　いますか。	19	164	シテイル		〃	《人》は《事》を　する
1502	ス	する	する	サ変	マリアさんは、大学祭で　何を　する　予定ですか。	22	195			〃	《人》は《事》を　する
1503	ス	する	する	サ変	雪が　積もると、子どもたちは、どんな　ことを　して　あそびますか。	25	223	シテ		〃	《人》は《事》を　する
1504	ス	する	する	サ変	マナさんたちは、たいいくかんで　なにを　しますか。	Y1	260			〃	《人》は《事》を　する
1505	ス	する	する	サ変	人びとは、かまくらで　どんな　ことを　しますか。	Y2	262			〃	《人》は《事》を　する
1506	ス	する	する	サ変	娘は、何を　しようと　思って、若者の　家に　来たのですか。	Y9	281		シヨウト	〃	《人》は《事》を　する
1507	シ	する	する	サ変	マリアさんは、お母さんに　頼まれた　とおりに　しましたか。	Y10	284			〃	《人》は《事》を　する
1508	ス	する	する	サ変	あの　人は　いつも　人の　まねばかり　して　います。	25	224	シテイル		〃	《人》は《事：まね》を　する
1509	ス	する	する	サ変	雪の　降る　夜、若者が　家の　中で　仕事を　して　いる　時、	Y9	277	シテイル		〃	《人》が《事：仕事》を　する
1510	ス	する	する	サ変	でも、私が　仕事を　して　いる　時は、部屋の　中を　見ないでください。	Y9	278	シテイル		〃	《人》が《事：仕事》を　する
1511	ス	する	する	サ変	この　ごろは、目で　物を　見て、やり方を　かんがえて、仕事をする　ロボットや、話が　できる　ロボットが　多く　なりました。	Y4	266			〃	《人：ロボット》が《事：仕事》をする
1512	ス	する	する	サ変	タンさんが　見学に　行った　時、生徒たちは　どんな　実験を　して　いましたか。	27	239	シテイル		〃	《人》が《事：実験》を　する
1513	ス	する	する	サ変	みんなで　うんどうじょうの　そうじを　して　ください。	10	82		シテクダサイ	〃	《人》が《事：掃除》を　する
1514	ス	する	する	サ変	あの　とおくの　岩の　上で　だれか　つりを　して　います。	11	92	シテイル		〃	《人》が《事：つり》を　する
1515	ス	する	する	サ変	だいぶつの　前で　子どもたちが　なにを　して　いましたか。	11	92	シテイル		〃	《人》が《事》を　する
1516	ス	する	する	サ変	でも、政府の　仕事を　したり、国の　研究所で　はたらいたり　する　人も　おおぜい　います。	20	174	シタリ		〃	《人》が《事》を　する
1517	ス	する	する	サ変	わたしも、「アジアの　みどりを　守ろう」と　いう　題で　話を　する予定です。	22	193			〃	《人》も《事：話》を　する
1518	ス	する	する	サ変	公立の　小学校には　給食制度が　あって、先生も　生徒も　共に食事を　する。	27	239			〃	《人》も《事：食事》を　する
1519	ス	する	する	サ変	しんじゅくの　こうえんで　なにを　しましたか。	4	27			〃	《事》を　する
1520	ス	する	する	サ変	しゅくだいを　たくさん　しました。	5	33			〃	《事》を　する
1521	ス	する	する	サ変	きょうとで　なにを　しましたか。	5	34			〃	《事》を　する
1522	ス	する	する	サ変	夕方から　なにを　しましたか。	5	35			〃	《事》を　する
1523	ス	する	する	サ変	きょうとで　なにを　しましたか。	5	35			〃	《事》を　する
1524	ス	する	する	サ変	やまださんの　ところで　どんな　ことを　しましたか。	8	64			〃	《事》を　する
1525	ス	する	する	サ変	日よう日に　どんな　ことを　しますか。	8	68			〃	《事》を　する
1526	ス	する	する	サ変	じむしつへ　なにを　しに　行きましたか。	10	81	シニ		〃	《事》を　する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1527	ス	する	する	サ変	へやへ なにを しに 行きましたか。	11	92	シニ		〃	《事》を する
1528	ス	する	する	サ変	コンピュータを 使って どんな ことを するのですか。	20	173			〃	《事》を する
1529	ス	する	する	サ変	レストランで しょくじを します。	3	18			〃	《事：食事》を する
1530	ス	する	する	サ変	しょくじを した あとで、この くすりを のんで ください。	12	101			〃	《事：食事》を する
1531	ス	する	する	サ変	食事を しながら、テレビを 見ては いけません。	19	166	シナガラ		〃	《事：食事》を する
1532	ス	する	する	サ変	いっしょに 食事を しませんか。	19	168		シマセンカ	〃	《事：食事》を する
1533	ス	する	する	サ変	おもしろくて、食事を するのも 忘れて しまいました。	24	210			〃	《事：食事》を する
1534	ス	する	する	サ変	どんな 時、さんぽを しますか。	8	68			〃	《事：散歩》を する
1535	ス	する	する	サ変	あたたかい 時、さんぽを します。	8	68			〃	《事：散歩》を する
1536	ス	する	する	サ変	ひまな 時、さんぽを します。	8	68			〃	《事：散歩》を する
1537	ス	する	する	サ変	やすみの 時、さんぽを します。	8	68			〃	《事：散歩》を する
1538	ス	する	する	サ変	先生、きょうは なんの れんしゅうを しますか。	10	82			〃	《事：練習》を する
1539	ス	する	する	サ変	やきゅうの れんしゅうを します。	10	82			〃	《事：練習》を する
1540	ス	する	する	サ変	きょうは ボールの なげ方や うち方の れんしゅうを します。	10	82			〃	《事：練習》を する
1541	ス	する	する	サ変	まちがえないように、スピーチの 練習を して おきたいのです。	22	193	シテオク		〃	《事：練習》を する
1542	ス	する	する	サ変	ピンポンや バドミントンを します。	8	68			〃	《事：スポーツ》を する
1543	ス	する	する	サ変	休みの 日には ゴルフとか テニスとか いろいろ 運動を します。	16	138			〃	《事：スポーツ》を する
1544	ス	する	する	サ変	たいいくかんで バドミントンや ピンポンを します。	Y1	259			〃	《事：スポーツ》を する
1545	ス	する	する	サ変	降りる 用意を しましょう。	23	201		シマショウ(誘いかけ)	〃	《事：用意》を する
1546	ス	する	する	サ変	それから、戸や まどを 開けて、外へ 出る 用意を した 方がいい。	Y6	271			〃	《事：用意》を する
1547	ス	する	する	サ変	いっしょうけんめいに 家の 中の 用事を しました。	Y9	278			〃	《事：用意》を する
1548	ス	する	する	サ変	お茶を のみながら、話を しましょう。	19	166		シマショウ(誘いかけ)	〃	《事：話》を する
1549	ス	する	する	サ変	なくなった 人たちの ことを 思い出しながら、いろいろな 話をします。	Y5	269			〃	《事：話》を する
1550	ス	する	する	サ変	しかし、宇宙開発に 使うのと 同じ ぐらいの お金を 使って 海洋開発を すれば、できる だろう。	Y8	276	スレバ		〃	《事：開発》を する
1551	ス	する	する	サ変	なぜ、海洋開発を しなければ ならないのですか。	Y8	276		シナケレバナラナイ	〃	《事：開発》を する
1552	ス	する	する	サ変	できたら、将来も 日本に かんけいの ある 仕事を する つもりです。	20	174		～ツモリダ	〃	《事：仕事》を する
1553	ス	する	する	サ変	一か月に 一度ぐらいしか そうじを しません。	18	159			〃	《事：掃除》を する
1554	ス	する	する	サ変	宿題は 毎日 させて いますか。	27	238	サセル、シテイル		〃	《事：宿題》を する
1555	ス	する	する	サ変	六十点以下の 学生は もう一度 テストを します。	23	207			〃	《事：テスト》を する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1556	ス	する	する	サ変	大学で　れきしの　べんきょうを　して　います。	11	93	シテイル		〃	《事:勉強》を　する
1557	ス	する	する	サ変	たいていの　家では、雪下ろしを　しなければ　なりません。	25	221		シナケレバナラナイ	〃	《事:雪下ろし》を　する
1558	ス	する	する	サ変	毎日　じゅぎょうの　予習を　するのは　大変です。	21	189			〃	《事:予習》を　する
1559	ス	する	する	サ変	つりも　します。	Y2	261			〃	《事:つり》も　する
1560	ス	する	する	サ変	しょくどうで　しました。	3	18			〃	する
1561	ス	する	する	サ変	あまり　させて　いません。	27	238	サセル、シテイル		〃	する
1562	ス	する	する	サ変	人間が　する　時間の　二分の　一、三分の　一で　いろいろな物を　作る　ことも　できます。	Y4	267	コトガデキル		〃	《人》が　する
1563	ス	する	する	サ変	元気に　なった　つるは、何度も　おじぎを　して、空へ　とび上がりました。	Y9	277	シテ		〃	《人:動物》は　《事:おじぎ》を　する
1564	ス	する	する	サ変	わたしたちは　せんしゅうの　土よう日に　パーティーを　しました。	3	18			《人》が　《イベント》を　する	《人》は　《イベント:パーティー》をする
1565	ス	する	する	サ変	わたしたちは　あさっても　パーティーを　します。	3	19			〃	《人》は　《イベント:パーティー》をする
1566	ス	する	する	サ変	こんばん　わたしたちは　パーティーを　しました。	5	38			〃	《人》は　《イベント:パーティー》をする
1567	ス	する	する	サ変	小林さんの　クラスの　人たちは、どんな　テーマで　とうろん会をしますか。	22	195			〃	《人》は　《イベント:とうろん会》をする
1568	ス	する	する	サ変	・・・・・・小林さんの　クラスの　人たちが　「公害と　自然」と　いうテーマで、とうろん会を　します。	22	193			〃	《人》が　《イベント:とうろん会》をする
1569	ス	する	する	サ変	家の　外では、広場や　学校の　庭などに　人びとが　集まって、よる　おそくまで　にぎやかに　「ぼんおどり」を　します。	Y5	269			〃	《人》が　《イベント:ぼんおどり》をする
1570	ス	する	する	サ変	ほら、アリさんたちも、楽しそうに　ゲームを　して　いますよ。	23	201	シテイル		〃	《人》も　《イベント:ゲーム》を　する
1571	ス	する	する	サ変	どこで　パーティーを　しましたか。	3	18			〃	《イベント:パーティー》を　する
1572	ス	する	する	サ変	あした　パーティーを　します。	8	68			〃	《イベント:パーティー》を　する
1573	ス	する	する	サ変	これから　パーティーを　したいのですが、いすが　足りません。	21	189		シタイ	〃	《イベント:パーティー》を　する
1574	ス	する	する	サ変	これは、むかし、おぼんや　正月に　先祖の　祭りを　した　行事に　かんけいが　ある。	Y7	273			〃	《イベント:祭り》を　する
1575	ス	する	する	サ変	りょこうに　行く　日は　いつに　しますか。	16	137			《人》が　Nを　Nに　する	Nを　Nに　する
1576	ス	する	する	サ変	りょこうに　行く　日は　来月の　十日に　します。	16	137			〃	Nを　Nに　する
1577	ス	する	する	サ変	とまる　所は　どこに　しますか。	16	132			〃	Nを　Nに　する
1578	ス	する	する	サ変	とまる　所は　どこに　しますか。	16	137			〃	Nを　Nに　する
1579	ス	する	する	サ変	とまる　所は　民宿に　します。	16	137			〃	Nを　Nに　する
1580	ス	する	する	サ変	おみやげは　何に　しますか。	16	137			〃	Nを　Nに　する
1581	ス	する	する	サ変	おみやげは　にんぎょうに　します。	16	137			〃	Nを　Nに　する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1582	ス	する	する	サ変	では、写真は 後に しましょう。	22	194		シマショウ(誘いかけ)	〃	《N:事:写真》は N:後に する
1583	ス	する	する	サ変	まだ きめて いませんが、もし りょうきんが 安かったら、りょかんに します。	16	133			〃	Nに する
1584	ス	する	する	サ変	あの 真ん中のが 良さそうですね。あれに しましょう。	23	201		シマショウ(誘いかけ)	〃	Nに する
1585	ス	する	する	サ変	では、民宿に とまる ことに します。	16	133			《人》が V-する／しない ことにする	V-する ことに する
1586	ス	する	する	サ変	来月の 十日に りょこうに 行く ことに します。	16	137			〃	V-する ことに する
1587	ス	する	する	サ変	民宿に とまる ことに します。	16	137			〃	V-する ことに する
1588	ス	する	する	サ変	にんぎょうを 買う ことに します。	16	137			〃	V-する ことに する
1589	ス	する	する	サ変	では、これを 買う ことに します。	23	203			〃	V-する ことに する
1590	ス	する	する	サ変	アリさんは、どこに とまる ことに しましたか。	16	134			〃	《人》は V-する ことに する
1591	ス	する	する	サ変	りょこうには 行かない ことに します。	16	137			〃	V-しない ことに する
1592	ス	する	する	サ変	民宿には とまらない ことに します。	16	137			〃	V-しない ことに する
1593	ス	する	する	サ変	にんぎょうは 買わない ことに します。	16	137			〃	V-しない ことに する
1594	ス	する	する	サ変	その くには がいこくと せんそうを しました。	8	66			《人》が 《人》と 《事》を する	《人》は 《人》と 《事:戦争》を する
1595	ス	する	する	サ変	Aクラスは Bクラスと テニスの しあいを しました。	8	66			〃	《人》は 《人》と 《事:試合》を する
1596	ス	する	する	サ変	去年の 大学祭で、マリアさんは いとう先生と どんな 約束をしたのですか。	28	248			〃	《人》は 《人》と 《事:約束》を する
1597	ス	する	する	サ変	若者は、娘と どんな 約束を しましたか。	Y9	281			〃	《人》は 《人》と 《事:約束》を する
1598	ス	する	する	サ変	よく けんかも しました。	8	63			〃	《事:けんか》を する
1599	ス	する	する	サ変	ええ、去年、大学祭で お会いした 時、うかがう 約束を しましたね。	28	246			〃	《事:約束》を する
1600	ス	する	する	サ変	しけんの 時、友だちと はなしを しては いけません。	14	120		シテハイケナイ	〃	《人》と 《事:話》を する
1601	ス	する	する	サ変	わたしは、けんかを する 度に、兄に 負けました。	28	252			〃	《人》は 《事:けんか》を する
1602	ス	する	する	サ変	へんじを して ください。	10	81		シテクダサイ	《人》が 《人》に 《事》を する	《事:返事》を する
1603	ス	する	する	サ変	出席するか どうか、明日までに 返事を するように 言われました。	26	229	スルヨウニ命ジル		〃	《事:返事》を する
1604	ス	する	する	サ変	欠席の 場合は、早く 返事を して ください。	27	242		シテクダサイ	〃	《事:返事》を する
1605	ス	する	する	サ変	日本では あさ「おはようございます。」と あいさつを します。	12	102			〃	《事:挨拶》を する
1606	ス	する	する	サ変	よる、人と 会った 時、「こんばんは。」と あいさつを します。	15	128			〃	《事:挨拶》を する
1607	ス	する	する	サ変	世話に なった 人や 目上の 人に あいさつを し、おくり物をしたのが、この 「お中元」や 「おせいぼ」の 始まりである。	Y7	273				《人》に 《事:挨拶》を する
1608	ス	する	する	サ変	ええ、わたしも もっと 体を じょうぶに しなければ ならないとおもって います。	15	125		シナケレバナラナイ	《人》が 《物／現象／場所》を Adj-く／に する	《人》も 《物:身体部位》を Adj-に する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1609	ス	する	する	サ変	わたしは もっと 体を じょうぶに したいです。	15	128		シタイ	〃	《人》は 《物:身体部位》を Adj-に する
1610	ス	する	する	サ変	日本は・・・・・・古い 文化も 大切に されて いる ことが わかりました。	24	212	サレル、シテイル		〃	《人》は 《物:文化》を Adj-に する
1611	ス	する	する	サ変	その 国の 古い 文化は 国民に 大切に されて います。	24	215	サレル、シテイル		〃	《人》が 《物:文化》を Adj-に する
1612	ス	する	する	サ変	みんなで せかいを 平和に しなければ なりません。	15	128		シナケレバナラナイ	〃	《人》が 《物:世界》を Adj-に する
1613	ス	する	する	サ変	JRも ほかの 私鉄も 学生の ていきの りょうきんを 四十パーセントも 安く して います。	15	126	シテイル		〃	《人》も 《物:料金》を Adj-く する
1614	ス	する	する	サ変	うるさいから、ラジオの 音を 小さく します。	15	128			〃	《現象:音》を Adj-く する
1615	ス	する	する	サ変	明るいから、電気の 光を よわく します。	15	128			〃	《現象:光》を Adj-く する
1616	ス	する	する	サ変	13日の 夕方、門の ところで 火を 用意して、家の 前を 明るく します。	Y5	268			〃	《場所》を Adj-く する
1617	ス	する	する	サ変	この かべの 色を もっと 明るいのに しましょう。	15	128		シマショウ(誘いかけ)	《人》が 《物》を Adj-のに する	《物:色》を Adj-のに する
1618	ス	する	する	サ変	御親切に して いただきまして、ありがとう ございました。	28	251	シテイタダク		《人》が 《人》を Adj-に する	Adj-に する
1619	ス	する	する	サ変	しんせつに して くださって、ありがとう ございました。	Y7	273	シテクダサル		〃	Adj-に する
1620	ス	する	する	サ変	外国でも、しんせつに して もらった 時や 助けて もらった 時に、	Y7	274	シテモラウ		〃	Adj-に する
1621	ス	する	する	サ変	日本人の 中には、しんせつに して もらった 時だけで なく、	Y7	274	シテモラウ		〃	Adj-に する
1622	ス	する	する	サ変	先祖を 大切に するのと 同じ 気持ちで、世話に なった 人や目上の 人に あいさつを し、・・・。	Y7	273			〃	《人》を Adj-に する
1623	ス	する	する	サ変	ほかの 人たちも、うれしそうな 顔を して いますね。	23	201	シテイル		《人》が Adj-そうな 《側面》を する	《人》も Adj-そうな 《側面:顔》をする
1624	ス	する	する	サ変	あの 人は、はずかしそうな 顔を して います。	23	204	シテイル		〃	《人》は Adj-そうな 《側面:顔》をする
1625	ス	する	する	サ変	弟は、薬を のまなければ ならないので、いやそうな 顔を しています。	23	204	シテイル		〃	《人》は Adj-そうな 《側面:顔》をする
1626	ス	する	する	サ変	若者が お金を たくさん 持って、喜んで 帰って 来たので、娘も うれしそうな 顔を しました。	Y9	279			〃	《人》も Adj-そうな 《側面:顔》をする
1627	ス	する	する	サ変	マリアさんは 青い 顔を して います。	23	204	シテイル		《人／物》が Adj 《側面》を する	《人》は Adj 《側面:顔》を する
1628	ス	する	する	サ変	もみじの 葉は 赤い 色を して います。	23	204	シテイル		〃	《物》は Adj 《側面:色》を する
1629	ス	する	する	サ変	この お皿は 丸い 形を して います。	23	204	シテイル		〃	《物》は Adj 《側面:形》を する
1630	ス	する	する	サ変	あの 雲は おかしの ような 形を して います。	23	205	シテイル		《物》が Nのような 《側面》を する	《物》は Nのような 《側面:形》をする

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1631	ス	する	する	サ変	7月に する 地方も ありますが、いなかでは、たいてい 8月13日から 15日ごろに します。	Y5	268			《人》が 《イベント》を する	する
1632	ス	する	する	サ変	7月に する 地方も ありますが、いなかでは、たいてい 8月13日から 15日ごろに します。	Y5	268			〃	する
1633	ス	する	する	サ変	兄は まだ 独身で、横浜で 先生を して います。	19	162	シテイル		《人》が 《職業》を する	《人》は 《職業:先生》を する
1634	ス	する	する	サ変	この 氷を わって、半分に して ください。	15	128		シテクダサイ	《人》が 《物》を Nに する	Nに する
1635	ス	する	する	サ変	学生たちは 部屋で 自習して いる ところです。静かに してください。	25	225		シテクダサイ	《人》が Adj-く／に する	Adj-に する
1636	ス	する	する	サ変	そう しましょう。	4	26		シマショウ(誘いかけ)	Adv する	Adv する
1637	ス	する	する	サ変	だいぶつを みてから どう しますか。	11	90			〃	Adv する
1638	ス	する	する	サ変	そう しましょう。	11	91		シマショウ(誘いかけ)	〃	Adv する
1639	ス	する	する	サ変	二人は、だいぶつを みてから、どう しましたか。	11	92			〃	Adv する
1640	ス	する	する	サ変	はい、そう しましょう。	11	95		シマショウ(誘いかけ)	〃	Adv する
1641	ス	する	する	サ変	マナさんは どうか したのですか。	18	151			〃	Adv する
1642	ス	する	する	サ変	どう しました。	18	152			〃	Adv する
1643	ス	する	する	サ変	おぼんに なると、都会の 人は どう しますか。	19	164			〃	Adv する
1644	ス	する	する	サ変	大学を 卒業してから、どう する つもりですか。	20	174		～ツモリダ	〃	Adv する
1645	ス	する	する	サ変	どう したら いいでしょうか。	21	185	シタラ		〃	Adv する
1646	ス	する	する	サ変	京都駅に 着いた 時、荷物は どう しましたか。	23	203			〃	Adv する
1647	ス	する	する	サ変	かさは どう しましたか。	23	203			〃	Adv する
1648	ス	する	する	サ変	マナさんは どう したのでしょうか。	25	221			〃	Adv する
1649	ス	する	する	サ変	もし じしんが おきたら どう したら いいのか。	Y6	271	シタラ		〃	Adv する
1650	ス	する	する	サ変	じしんが おきた 時、火を 使って いれば、どう しなければ なりませんか。	Y6	272		シナケレバナラナイ	〃	Adv する
1651	ス	する	する	サ変	若者は 野原で 何を 見つけましたか。そして、どう しましたか。	Y9	281			〃	Adv する
1652	ス	する	する	サ変	なぜ、そう しようと 思ったのですか。	Y9	281		シヨウト	〃	Adv する
1653	ス	する	する	サ変	わたしは 寒気が します。	18	155			慣:寒気が する	慣:寒気が する
1654	ス	する	する	サ変	わたしは 寒気が します。	18	158			〃	慣:寒気が する
1655	ス	する	する	サ変	わたしは 寒気も するし、はき気も します。	18	158			〃	慣:寒気が する
1656	ス	する	する	サ変	ええ、少し 寒気が します。	25	224			〃	慣:寒気が する
1657	ス	する	する	サ変	寒気が して きました。	25	226	シテクル		〃	慣:寒気が する
1658	ス	する	する	サ変	どこで かいものを しますか。	6	44			慣:買い物を する	慣:買い物を する
1659	ス	する	する	サ変	あそこで かいものを しましょう。	6	44		シマショウ(誘いかけ)	〃	慣:買い物を する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1660	ス	する	する	サ変	あしたは 十時ごろ ホテルを でて、ちかくの みせで かいものを して、車で 駅まで 行きましょう。	11	94	シテ		〃	慣:買い物を する
1661	ス	する	する	サ変	母が 買い物を して いる 間、父は 車の 中で 待って いました。	26	233	シテイル		〃	慣:買い物を する
1662	ス	する	する	サ変	わあ、ほんとうに いい においが しますね。	17	144			慣:匂いが する	慣:匂いが する
1663	ス	する	する	サ変	バラの 花は いい においが します。	17	146			〃	慣:匂いが する
1664	ス	する	する	サ変	あの きたない 川は くさい においが します。	17	146			〃	慣:匂いが する
1665	ス	する	する	サ変	いい においが して きました。	25	226	シテクル		〃	慣:匂いが する
1666	ス	する	する	サ変	兄は 一度 けがを して、手術を した ことが あります。	19	165			慣:けがを する	慣:けがを する
1667	ス	する	する	サ変	交通事故で けがを して しまいました。	24	216	シテシマウ		〃	慣:けがを する
1668	ス	する	する	サ変	つるは、羽に けがを して、苦しそうに 鳴いて いました。	Y9	277	シテ		〃	慣:けがを する
1669	ス	する	する	サ変	若者は、けがを した ところを 川の 水で 洗ったり、	Y9	277			〃	慣:けがを する
1670	ス	する	する	サ変	あたらしい ピアノは いい 音が します。	17	146			慣:音が する	慣:音が する
1671	ス	する	する	サ変	この レコードは だいぶ 古いです。それで、いい 音が しません。	17	148			〃	慣:音が する
1672	ス	する	する	サ変	この レコードは だいぶ 古いので、いい 音が しません。	17	148			〃	慣:音が する
1673	ス	する	する	サ変	この スープは 少し へんな 味が します。	17	146			慣:味が する	慣:味が する
1674	ス	する	する	サ変	その 時、少し 変な 味が しました。	18	152			〃	慣:味が する
1675	ス	する	する	サ変	マナさんが きのう 食べた サンドイッチは、どんな 味が しましたか。	18	154			〃	慣:味が する
1676	ス	する	する	サ変	でも、体も だるいし、少し 目まいも します。	18	152			慣:目眩が する	慣:目眩が する
1677	ス	する	する	サ変	わたしは 目まいが します。	18	155			〃	慣:目眩が する
1678	ス	する	する	サ変	わたしは 目まいが します。	18	158			〃	慣:目眩が する
1679	ス	する	する	サ変	わたしは はき気が します。	18	155			慣:吐き気が する	慣:吐き気が する
1680	ス	する	する	サ変	それに、はき気も します。	18	158			〃	慣:吐き気が する
1681	ス	する	する	サ変	わたしは 寒気も するし、はき気も します。	18	158			〃	慣:吐き気が する
1682	ス	する	する	サ変	世話に なった 人や 目上の 人に あいさつを し、おくり物をしたのが、この 「お中元」や 「おせいぼ」の 始まりである。	Y7	273	シ		慣:おくり物を する	慣:おくり物を する
1683	ス	する	する	サ変	おぼんや 年の 終わりにも おくり物を する 人が いるのである。	Y7	274			〃	慣:おくり物を する
1684	ス	する	する	サ変	毎日 くすりを のんだり、ちゅうしゃを したり しました。	12	99	シタリ		慣:注射を する	慣:注射を する
1685	ス	する	する	サ変	兄は 一度 けがを して、手術を した ことが あります。	19	165			慣:手術を する	慣:手術を する
1686	ス	する	する	サ変	弟は 何度も 重い 病気を した ことが あります。	19	165			慣:病気を する	慣:病気を する
1687	ス	する	する	サ変	むずかしい ことばを わすれないように、メモを して おきました。	22	194	シテオク		慣:メモを する	慣:メモを する
1688	ス	する	する	サ変	タクシーの 後ろの 席に 忘れ物を して しまいました。	24	215	シテシマウ		慣:忘れ物を する	慣:忘れ物を する
1689	ス	する	する	サ変	わたしは、息を する 度に、むねが 痛く なります。	28	252			慣:息を する	慣:息を する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1690	ス	する	する	サ変	若者が 娘を 追いかけて 外へ 出た 時、鳥の 鳴く 声が しました。	Y9	280			慣:声が する	慣:声が する
1691	ス	すわる	すわる	五	バスの 中で たったり すわったり しないで ください。	12	102	シタリ	シナイデクダサイ	《人》が 《場所》に すわる	すわる
1692	ス	すわる	すわる	五	立った まま、(すわらずに) ご飯を 食べて います。	24	216	セズニ		〃	すわる
1693	ス	すわる	すわる	五	あき子ちゃん、ここに すわりなさい。	14	117		シナサイ	〃	《場所》に すわる
1694	ス	すわる	すわる	五	あの 人は、さびしそうに 一人で すわって います。	23	204	シテイル		〃	《人》は すわる
1695	セ	せいかつする	生活する	サ変	人間は 陸の 上だけで 生活して きた。	Y8	275	シテクル		《人》が 生活する	《人》は 生活する
1696	セ	せいかつする	生活する	サ変	人間が 将来、また 海の 中で 生活するように なる かもしれないと いう ことは、おもしろい ことである。	Y8	276	スルヨウニナル		〃	《人》が 生活する
1697	セ	せつめいする	説明する	サ変	学生が わかるように、れいを あげて、説明しました。	22	198			《人》が 《人》に 《事》を 説明する	説明する
1698	ソ	そうじする	そうじする	サ変	国に いた 時、家では 自分の へやの そうじしか しませんでしたから。	15	124			《人》が 《場所》を そうじする	そうじする
1699	ソ	そうだんする	相談する	サ変	理科系の 大学に 進みたいのですが、どなたに 相談すれば いいですか。	21	189	スレバ		《人》が 《人》と／に 相談する	《人》に 相談する
1700	ソ	そうだんする	相談する	サ変	小林先生に 相談して みて ください。	21	189	シテミル		〃	《人》に 相談する
1701	ソ	そうだんする	相談する	サ変	先生に 御相談します。	28	250		御-スル	〃	《人》に 相談する
1702	ソ	そうだんする	そうだんする	サ変	わたしは 先生に そうだんしました。	8	67			〃	《人》は 《人》に 相談する
1703	ソ	そうだんする	そうだんする	サ変	だれかと そうだんしましたか。	9	77			〃	《人》と 相談する
1704	ソ	そうだんする	そうだんする	サ変	いいえ、だれとも そうだんしませんでした。	9	77			〃	《人》と 相談する
1705	ソ	そうだんする	そうだんする	サ変	わたしは ともだちと そうだんしました。	8	67			〃	《人》は 《人》と 相談する
1706	ソ	そうだんする	相談する	サ変	先生、べんきょうの ことで 相談したい ことが あるのですが、今日の 午後は いかがでしょうか。	21	184		シタイ	〃	相談する
1707	ソ	そだつ	育つ	五	わたしが 育ったのは タイの いなかです。	19	163			《人》が 育つ	《人》が 育つ
1708	ソ	そだつ	育つ	五	マナさんは どこで 育ちましたか。	19	164			〃	《人》が 育つ
1709	ソ	そだてる	育てる	下一	祖母は わたしを 育てて くれました。	22	196	シテクレル		《人》が 《人》を 育てる	《人》が 《人》を 育てる
1710	ソ	そだてる	育てる	下一	わたしは 祖母に 育てて もらいました。	22	197	シテモラウ		〃	《人》が 《人》を 育てる
1711	ソ	そつぎょうする	卒業する	サ変	大学を 卒業してから、どう する つもりですか。	20	174			《人》が 《組織》を 卒業する	《組織:学校》を 卒業する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1712	ソ	そる	そる	五	父は、毎あさ　七時ごろ　おきて、かおを　あらって、はを　みがいて、ひげを　そって、シャワーを　あびます。	11	94	シテ		慣:ひげを　そる	慣:ひげを　そる
1713	ソ	そんけいする	そんけいする	サ変	あの　先生は　学生たちに　そんけいされて　います。	24	214	サレル、シテイル		《人》が《人》を　そんけいする	《人》が《人》を　そんけいする
1714	ゾ	ぞんずる	ぞんずる	サ変	朝夕　だいぶ　すずしく　なって　まいりましたが、お元気の　ことと　ぞんじます。	Y10	283		敬譲	《人》が《内容》と　ぞんずる	《内容》と　ぞんずる
1715	タ	たおれる	たおれる	下一	だから、じしんが　あっても　たてものが　たおれる　ことは　あまりないのである。	Y6	271			《物》が　たおれる	《物:建物》が　たおれる
1716	タ	たおれる	たおれる	下一	お寺や　大仏など、むかしの　古い　物も　たおれずに、たくさんのこって　いる。	Y6	271	セズニ		〃	《物:建物》が　たおれる
1717	タ	たおれる	たおれる	下一	家が　たおれるより　火事に　なる　方が　危険なのである。	Y6	271			〃	《物:建物》が　たおれる
1718	タ	たおれる	たおれる	下一	風が　つよく　ふいたので、木が　たおれそうに　なりました。	23	205		シソウダ	〃	《物》が　たおれる
1719	タ	たおれる	たおれる	下一	家に　帰る　途中で、野原の　雪の　中に　つるが　たおれて　いるのを　見つけました。	Y9	277	シテイル		〃	《物:動物》が　たおれる
1720	ダ	だす	だす	五	あなたは　どこから　カードを　だしましたか。	12	101			《人》が《物》を《場所》から《場所》に／へ　出す	《人》は《場所》から《物》を　出す
1721	ダ	だす	だす	五	わたしは　あの　黒い　はこから　カードを　だしました。	12	101			〃	《人》は《場所》から《物》を　出す
1722	ダ	だす	だす	五	中から　だして　ください。	12	98		シテクダサイ	〃	《場所》から　出す
1723	ダ	だす	だす	五	まだ　れいぞうこから　ビールを　ださないで　ください。	12	101		シナイデクダサイ	〃	《場所》から《物》を　出す
1724	ダ	だす	出す	五	水よう日までに　宿題を　出さなければ　なりません。	26	233		シナケレバナラナイ	《人》が《人》に《物》を　出す	《物:宿題》を　出す
1725	ダ	だす	出す	五	わたしは、大きい　声を　出して、友だちを　びっくりさせました。	27	240	シテ		《人》が《現象》を　出す	《人》が《現象:声》を　出す
1726	ダ	だす	だす	五	わたしは　母に　てがみを　だしました。	8	66			慣:手紙を　だす	慣:手紙を　だす
1727	タ	たすける	助ける	下一	友だちは　わたしを　助けて　くれました。	22	196	シテクレル		《人》が《人》を　助ける	《人》は《人》を　助ける
1728	タ	たすける	助ける	下一	マナさんは　友だちに　助けて　もらいました。	22	197	シテモラウ		〃	《人》は《人》を　助ける
1729	タ	たすける	助ける	下一	あなたに　助けて　いただいたので、いい　生活が　できました。	Y7	273	シテイタダク		〃	《人》が　助ける
1730	タ	たすける	助ける	下一	外国でも、しんせつに　して　もらった　時や　助けて　もらった　時に、	Y7	274	シテモラウ		〃	助ける
1731	タ	たすける	助ける	下一	若者は、けがを　した　ところを　川の　水で　洗ったり、薬を　つけたり　して、助けて　やりました。	Y9	277	シテヤル		〃	《人》は　助ける
1732	タ	たすける	助ける	下一	私は　前に　助けて　いただいた　つるなのです。	Y9	280	シテイタダク		〃	《人:動物》を　助ける

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1733	タ	たたかう	戦う	五	昔から、雪国の　人たちは　雪と　戦って　きたのです。	25	221	シテクル		《人》が　《事》と　戦う	《人》は　《事：雪》と　戦う
1734	タ	たたかう	戦う	五	人々は　昔から　自然と　戦って　きました。	25	226	シテクル		〃	《人》は　《事：自然》と　戦う
1735	タ	たたく	たたく	五	弟は　兄に　かたを　たたかれました。	24	214	サレル		《人》が　《物》を　たたく	《人》が　《物：身体部位》を　たたく
1736	タ	たたく	たたく	五	戸を　たたく　音が　聞こえました。	Y9	277			〃	《物：戸》を　たたく
1737	タ	たつ	たつ	五	バスの　中で　たったり　すわったり　しないで　ください。	12	102	シタリ	シナイデクダサイ	《人》が　立つ	立つ
1738	タ	たつ	立つ	五	長い間　ずっと　立った　ままでした。	24	211	シタママ		〃	立つ
1739	タ	たつ	立つ	五	立った　まま、（すわらずに）ご飯を　食べて　います。	24	216	シタママ		〃	立つ
1740	タ	たつ	立つ	五	先生は　生徒を　立たせました。	27	240	サセル		〃	《人》が　立つ
1741	タ	たつ	立つ	五	あそこに　立って　いる　人です。	13	109	シテイル		《人》が　《場所》に　立つ	《人》が　《場所》に　立つ
1742	タ	たつ	立つ	五	そこには　一人の　美しい　娘が　立って　いました。	Y9	277	シテイル		〃	《人》が　《場所》に　立つ
1743	タ	たつ	たつ	五	日本へ　来てから　どのぐらい　たちましたか。	15	124			《時間》が　たつ	《時間》が　たつ
1744	タ	たつ	たつ	五	まだ　三か月しか　たって　いません。	15	124	シテイル		〃	《時間》が　たつ
1745	タ	たつ	たつ	五	国を　出てから、どのぐらい　たちましたか。	15	129			〃	《時間》が　たつ
1746	タ	たつ	たつ	五	1分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫だから、火や　ガスなどが　安全か　どうか、しらべる。	Y6	271	スレバ		〃	《時間》が　たつ
1747	タ	たつ	たつ	五	何分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫ですか。	Y6	272	スレバ		〃	《時間》が　たつ
1748	タ	たつ	たつ	五	それから　二、三日　たった、雪の　降る　夜、	Y9	277			〃	《時間》が　たつ
1749	タ	たつ	たつ	五	日本へ　来てから、もう　一年も　たちました。	15	129			〃	《時間》も　たつ
1750	タ	たてる	建てる	下一	三百年ぐらい　前に　その　神社が　建てられました。	24	215	サレル		《人》が　《物》を　建てる	《物：建物》を　建てる
1751	タ	たてる	たてる	下一	お寺を　たくさん　たてました。	Y2	261			〃	《物：建物》を　建てる
1752	タ	たのむ	たのむ	五	あの　子の　お母さんに　たのんで　みて　ください。	14	116	シテミル		《人》が　《人》に　《事》を　頼む	《人》に　頼む
1753	タ	たのむ	たのむ	五	知って　いる　書店に　たのんで　みましょう。	21	185	シテミル		〃	《人：店》に　頼む
1754	タ	たのむ	たのむ	五	小林さんは　ジョンさんに　仕事を　たのまれました。	24	214	サレル		〃	《人》は　《人》に　《事：仕事》を頼む
1755	タ	たのむ	頼む	五	マリアさんは、国の　お母さんに　どんな　ことを　頼まれましたか。	Y10	284	サレル		〃	《人》は　《人》に　《事》を　頼む
1756	タ	たのむ	頼む	五	マリアさんは、お母さんに　頼まれた　とおりに　しましたか。	Y10	284	サレル		〃	《人》は　《人》に　頼む
1757	タ	たのむ	頼む	五	わたしは　友だちに　荷物を　運ぶように(と)　頼みました。	26	232			《人》が　《人》に　《内容》と　頼む	《人》は　《人》に　《内容》と　頼む
1758	タ	たべる	たべる	下一	はい、しょくどうで　ごはんを　たべます。	3	17			《人》が　《物》を　食べる	《物》を　食べる
1759	タ	たべる	たべる	下一	それから、ハじごろ　ごはんを　たべました。	5	39			〃	《物》を　食べる
1760	タ	たべる	たべる	下一	あの　木の　下で　ひるごはんを　たべましょう。	7	56		シマショウ(誘いかけ)	〃	《物》を　食べる
1761	タ	たべる	たべる	下一	それから、どこで　ひるごはんを　たべましたか。	7	57			〃	《物》を　食べる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1762	タ	たべる	たべる	下一	バナナを　たべませんか。	9	76		(シマセンカ:単なる質問)	〃	《物》を　食べる
1763	タ	たべる	たべる	下一	はい、バナナは　たべません。	9	76			〃	《物》を　食べる
1764	タ	たべる	たべる	下一	りんごも　たべませんか。	9	76		(シマセンカ:単なる質問)	〃	《物》を　食べる
1765	タ	たべる	たべる	下一	いいえ、りんごは　たべます。	9	76			〃	《物》を　食べる
1766	タ	たべる	たべる	下一	ばんごはんを　たべてから、行きましたか。	11	92			〃	《物》を　食べる
1767	タ	たべる	たべる	下一	ばんごはんを　たべる　前に、行きましたか。	11	92			〃	《物》を　食べる
1768	タ	たべる	食べる	下一	いいえ、まだ　パンを　食べて　いません。	15	130	シテイル		〃	《物》を　食べる
1769	タ	たべる	食べる	下一	何か　わるい　物を　食べませんでしたか。	18	152			〃	《物》を　食べる
1770	タ	たべる	食べる	下一	あ、きのうの　ひる、サンドイッチを　食べました。	18	152			〃	《物》を　食べる
1771	タ	たべる	食べる	下一	では、固い　ご飯を　やめて、やわらかい　おかゆを　食べた　方が　いいですね。	18	153			〃	《物》を　食べる
1772	タ	たべる	食べる	下一	あまい　物は　食べない　方が　いいでしょう。	18	158			〃	《物》を　食べる
1773	タ	たべる	食べる	下一	あまり　おかしを　食べませんね。	18	159			〃	《物》を　食べる
1774	タ	たべる	食べる	下一	はしや　スプーンは、ご飯を　食べる　ために、使います。	20	177	スルタメニ		〃	《物》を　食べる
1775	タ	たべる	食べる	下一	病気の　時は、おかゆの　ような　やわらかい　物を　食べて　ください。	20	178		シテクダサイ	〃	《物》を　食べる
1776	タ	たべる	食べる	下一	今晩　パーティーが　あるから、昼ご飯は　あまり　食べないで　おきましょう。	22	197	シナイデオク		〃	《物》を　食べる
1777	タ	たべる	食べる	下一	立った　まま、(すわらずに)　ご飯を　食べて　います。	24	216	シテイル		〃	《物》を　食べる
1778	タ	たべる	食べる	下一	皮の　まま、豆を　食べましょう。	24	216		シマショウ(誘いかけ)	〃	《物》を　食べる
1779	タ	たべる	食べる	下一	心配で、ご飯が　食べられませんでした。	24	217	デキル		〃	《物》を　食べる
1780	タ	たべる	食べる	下一	さあ、火の　そばへ　来て、あたたかい　物を　食べて　ください。	Y9	278		シテクダサイ	〃	《物》を　食べる
1781	タ	たべる	たべる	下一	がくせいは　まいにち　りょうの　しょくどうで　ごはんを　たべますか。	3	17			〃	《人》は《物》を　食べる
1782	タ	たべる	たべる	下一	ジョンさんは　ごはんを　たくさん　たべました。	5	38			〃	《人》は《物》を　食べる
1783	タ	たべる	たべる	下一	アリさんは　ごはんを　すこし　たべました。	5	38			〃	《人》は《物》を　食べる
1784	タ	たべる	食べる	下一	アリさんは　もう　パンを　食べましたか。	15	130			〃	《人》は《物》を　食べる
1785	タ	たべる	食べる	下一	わたしたちは　二人とも　生の　魚は　食べられません。	16	133	デキル		〃	《人》は《物》を　食べる
1786	タ	たべる	食べる	下一	アリさんたちは　生の　魚が　食べられますか。	16	134	デキル		〃	《人》は《物》を　食べる
1787	タ	たべる	食べる	下一	アリさんは　さしみを　食べる　ことが　できますか。	16	135	コトガデキル		〃	《人》は《物》を　食べる
1788	タ	たべる	食べる	下一	アリさんは　さしみが　食べられますか。	16	135	デキル		〃	《人》は《物》を　食べる
1789	タ	たべる	食べる	下一	タンさんは　ときどき　朝ご飯を　食べない　ことが　あります。	19	165			〃	《人》は《物》を　食べる
1790	タ	たべる	食べる	下一	あの　病人は、もう（肉でも　やさいでも）何でも　食べられます。	26	232	デキル		〃	《人》は《物》を　食べる
1791	タ	たべる	たべる	下一	わたしたちは、まいにち、しょくどうで、いっしょに　ごはんを　たべます。	Y1	259			〃	《人》は《物》を　食べる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1792	タ	たべる	食べる	下一	マナさんが きのう 食べた サンドイッチは、どんな 味が しましたか。	18	154			〃	《人》が 《物》を 食べる
1793	タ	たべる	食べる	下一	わたしは さしみを 食べた ことが あります。	19	165			〃	《人》が 《物》を 食べる
1794	タ	たべる	食べる	下一	ええ。来た 人に 料理を 食べて もらったり、作品を 買って もらったり して、サークル活動の お金を 作るのです。	22	194	シテモラウ		〃	《人》が 《物》を 食べる
1795	タ	たべる	食べる	下一	毎日 しょくどうで 食べて います。	15	124	シテイル		〃	食べる
1796	タ	たべる	食べる	下一	にたり、やいたり したら、食べられますが。	16	133	デキル		〃	食べる
1797	タ	たべる	食べる	下一	さあ、早く 食べましょう。	17	144		シマショウ(誘いかけ)	〃	食べる
1798	タ	たべる	食べる	下一	料理が できたら、すぐ 食べましょう。	21	188		シマショウ(誘いかけ)	〃	食べる
1799	タ	たべる	食べる	下一	一つ 食べて みませんか。	25	225	シテミル		〃	食べる
1800	タ	たべる	食べる	下一	むかしから、動物が うるさく 鳴いたり、ものを 食べなく なったり すれば、じしんが おきると いう 話も ある。	Y6	272			〃	《人:動物》が 《物》を 食べる
1801	タ	たりる	足りる	上一	これから パーティーを したいのですが、いすが 足りません。	21	189			《物》が 足りる	《物》が 足りる
1802	チ	ちがう	ちがう	五	日本の りょうりは フィリピンの りょうりと ちがいますか。	8	64			Nが Nと ちがう	《N:事:料理》が 《N:事》と ちがう
1803	チ	ちがう	ちがう	五	日本の しゅうかんは あなたの 国と だいぶ ちがいますか。	15	125			〃	《N:事:習慣》が 《N:事》と ちがう
1804	チ	ちがう	ちがう	五	マリアさんは、日本へ 来たばかりの 時と 今とでは、どのように ちがいますか。	28	248			〃	《N:事:来たばかりの時》が 《N:事:今》と ちがう
1805	チ	ちがう	ちがう	五	「気」も 「き」と よみますが、いみが ちがいます。	Y3	263			〃	《N:事:意味》が ちがう
1806	チ	ちがう	ちがう	五	かんじは、かなと ちがって、いみも あらわします。	Y3	263	シテ		〃	《N:物:文字》が 《N:物》と ちがう
1807	チ	ちがう	ちがう	五	だいぶ ちがいます。	8	64			〃	ちがう
1808	チ	ちゅういする	ちゅういする	サ変	いつも けんこうに ちゅういしなければ なりません。	15	127		シナケレバナラナイ	《人》が 《事》に 注意する	《事:健康》に 注意する
1809	チ	ちゅういする	注意する	サ変	子どもたちが さくらの えだを おらないように、注意して ください。	22	198		シテクダサイ	〃	《事:V-しないよう》に 注意する
1810	チ	ちゅういする	ちゅういする	サ変	マナさんも けんこうに ちゅういして ください。	15	125		シテクダサイ	〃	《人》が 《事:健康》に 注意する
1811	チ	ちゅういする	ちゅういする	サ変	あぶないから、ボールや バットに ちゅういして ください。	10	82		シテクダサイ	〃	《事:物(に当たる事)》に 注意する
1812	チ	ちゅういする	注意する	サ変	先生は 学生に 授業を 欠席しないように(と) 注意しました。	26	232			《人》が 《人》に 《内容》と 注意する	《人》が 《人》に 《内容:V-しないように》(と) 注意する
1813	ツ	つかう	つかう	五	この バットを つかいますか。	10	82			《人》が 《物》を 使う	《物》を 使う
1814	ツ	つかう	つかう	五	どうぞ わたしの じしょを つかって ください。	10	84		シテクダサイ	〃	《物》を 使う
1815	ツ	つかう	使う	五	今、使って いる カメラは どんな カメラですか。	14	115	シテイル		〃	《物》を 使う
1816	ツ	つかう	使う	五	この でんわを 使っても いいです。	14	120		シテモイイ	〃	《物》を 使う

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1817	ツ	つかう	使う	五	この　でんわを　使っても　かまいません。	14	120		シテモカマワナイ	〃	《物》を　使う
1818	ツ	つかう	使う	五	あのう、これを　使っても　いいでしょうか。	14	121		シテモイイ	〃	《物》を　使う
1819	ツ	つかう	使う	五	では、どんな　時、学生証を　使いますか。	15	126			〃	《物》を　使う
1820	ツ	つかう	使う	五	どんな　時、学生証を　使いますか。	15	126			〃	《物》を　使う
1821	ツ	つかう	使う	五	きょうしつで　使う　テープは　あたらしく　なければ　なりませんか。	15	127			〃	《物》を　使う
1822	ツ	つかう	使う	五	きょうしつで　使う　テープは　あたらしくても　あたらしく　なくても(どちらでも)　いいです。	15	128			〃	《物》を　使う
1823	ツ	つかう	使う	五	録音する　時、いつも　この　テープレコーダーを　使います。	15	128			〃	《物》を　使う
1824	ツ	つかう	使う	五	コンピュータを　使って　どんな　ことを　するのですか。	20	173	シテ		〃	《物》を　使う
1825	ツ	つかう	使う	五	今、この　パソコンを　使って　論文の　資料を　作って　います。	20	173	シテ		〃	《物》を　使う
1826	ツ	つかう	使う	五	コンピュータを　使わないで　資料を　作ると、とても　大変なのです。	20	173	シナイデ		〃	《物》を　使う
1827	ツ	つかう	使う	五	ナイフと　フォークを　使って　肉を　切って　ください。	20	177	シテ		〃	《物》を　使う
1828	ツ	つかう	使う	五	この　のりを　使って　カードに　絵を　はりなさい。	20	177	シテ		〃	《物》を　使う
1829	ツ	つかう	使う	五	この　マッチを　使って　火を　つけましょう。	20	177	シテ		〃	《物》を　使う
1830	ツ	つかう	使う	五	かみと　糸を　使って　にんぎょうを　作りました。	20	178	シテ		〃	《物》を　使う
1831	ツ	つかう	使う	五	もっと　大きい　じしょを　使ったら　いいでしょう。	21	185	シタラ		〃	《物》を　使う
1832	ツ	つかう	使う	五	この　ひもは　短すぎて、使えません。	24	217	デキル		〃	《物》を　使う
1833	ツ	つかう	使う	五	この　電話を　使わせて　ください。	27	240	サセル	シテクダサイ	〃	《物》を　使う
1834	ツ	つかう	使う	五	どうぞ　この　電話を　お使いください。	28	250		オ-クダサイ	〃	《物》を　使う
1835	ツ	つかう	使う	五	今、日本では、せかいの　ロボットの、やく　70パーセントを　使って　います。	Y4	266	シテイル		〃	《物》を　使う
1836	ツ	つかう	使う	五	日本では、せかいの　ロボットの　何パーセントぐらいを　使っていますか。	Y4	267	シテイル		〃	《物》を　使う
1837	ツ	つかう	つかう	五	どうぞ　この　百円玉を　つかって　ください。	10	83		シテクダサイ	〃	《物:お金》を　使う
1838	ツ	つかう	使う	五	独身だと、自由に　お金が　使えます。	19	166	デキル		〃	《物:お金》を　使う
1839	ツ	つかう	使う	五	しかし、宇宙開発に　使うのと　同じぐらいの　お金を　使って　海洋開発を　すれば、できる　だろう。	Y8	276			〃	《物:お金》を　使う
1840	ツ	つかう	使う	五	火を　使って　いれば、すぐ　その　火を　けさなければ　ならない。	Y6	271	シテイル		〃	《物:火》を　使う
1841	ツ	つかう	使う	五	じしんが　おきた　時、火を　使って　いれば、どう　しなければ　なりませんか。	Y6	272	シテイル		〃	《物:火》を　使う
1842	ツ	つかう	つかう	五	かなを　つくって、つかいました。	Y3	264			〃	《物:文字》を　使う
1843	ツ	つかう	使う	五	しかし、宇宙開発に　使うのと　同じぐらいの　お金を　使って　海洋開発を　すれば、できる　だろう。	Y8	276			〃	使う
1844	ツ	つかう	つかう	五	だから、つかわないで　ください。	10	82		シナイデクダサイ	〃	使う

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1845	ツ	つかう	つかう	五	だから、つかわないで ください。	10	86		シナイデクダサイ	〃	使う
1846	ツ	つかう	つかう	五	どうぞ、つかって ください。	10	86		シテクダサイ	〃	使う
1847	ツ	つかう	使う	五	ていきけんを 買ったり する 時、使います。	15	126			〃	使う
1848	ツ	つかう	使う	五	将来、大学でも 使うなら、くわしいのが いいですね。	21	185	スルナラ		〃	使う
1849	ツ	つかう	つかう	五	ローマ字も ありますが、文の 中では あまり つかいません。	Y3	263			〃	使う
1850	ツ	つかう	使う	五	13パーセントは、アメリカで 使って います。	Y4	266	シテイル		〃	使う
1851	ツ	つかう	使う	五	田中さんは わたしに 電話を 使わせて くれました。	27	240	サセル、シテクレル		〃	《人》が 《物》を 使う
1852	ツ	つかう	つかう	五	日本人が 毎日 つかって いる 文字には、かんじと、ひらがなと、かたかなが あります。	Y3	263	シテイル		〃	《人》が 《物：文字》を 使う
1853	ツ	つかう	使う	五	割れそうな、古い 茶わんは 使わない 方が いいでしょう。	23	205			〃	《物》は 使う
1854	ツ	つかう	使う	五	サングラスは、目を まもる ために、使います。	20	177			《人》が 《物》を 《事》に 使う	《物》は 《事：V-するため》に 使う
1855	ツ	つかう	使う	五	はさみは、かみを 切る ために、使います。	20	177			〃	《物》は 《事：V-するため》に 使う
1856	ツ	つかう	使う	五	けしゴムは、字を けす ために、使います。	20	177			〃	《物》は 《事：V-するため》に 使う
1857	ツ	つかう	使う	五	はしや スプーンは、ご飯を 食べる ために、使います。	20	177			〃	《物》は 《事：V-するため》に 使う
1858	ツ	つかう	使う	五	統計の 資料を 作る ために、使うのです。	20	173			〃	《物》を 《事：V-するため》に 使う
1859	ツ	つかう	使う	五	この 料理を 作るのに 油を たくさん 使います。	23	206			〃	《物》を 《事：V-するの》に 使う
1860	ツ	つかう	使う	五	花を かざるのに 使うのです。	23	202			〃	《物》を 《事：V-するの》に 使う
1861	ツ	つかう	使う	五	この テープは 録音するのに 使います。	23	206			〃	《物》は 《事：V-するの》に 使う
1862	ツ	つかう	使う	五	それは 何に 使う 物ですか。	23	203			〃	《物》は 《事》に 使う
1863	ツ	つかう	使う	五	この テープは 録音に 使います。	23	206			〃	《物》は 《事》に 使う
1864	ツ	つかう	使う	五	これは、はこの ような 物ですが、何に 使うのですか。	23	202			〃	《事》に 使う
1865	ツ	つかれる	つかれる	下一	つかれましたね。	7	56			《人》が つかれる	つかれる
1866	ツ	つかれる	つかれる	下一	つかれましたね。	10	83			〃	つかれる
1867	ツ	つかれる	つかれる	下一	道に まよって しまいました。（つかれました。）	24	215			〃	つかれる
1868	ツ	つかれる	つかれる	下一	わたしは、つかれたので、へやの 中を かたづけないで、ねました。	20	178			〃	《人》は つかれる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1869	ッ	つかれる	つかれる	下一	わたしは、つかれたので、へやの　中を　かたづけずに、ねました。	20	178			〃	《人》は　つかれる
1870	ッ	つく	つく	五	かまくら駅には　なん時ごろ　つきますか。	11	90			《人／乗り物》が《場所》に　着く	《場所》に　着く
1871	ッ	つく	着く	五	もうすぐ　京都に　着きますよ。	23	201			〃	《場所》に　着く
1872	ッ	つく	着く	五	京都駅に　着いた　時、荷物は　どう　しましたか。	23	203			〃	《場所》に　着く
1873	ッ	つく	着く	五	十二時までに　駅に　着けますか。	26	233	デキル		〃	《場所》に　着く
1874	ッ	つく	つく	五	電車は、なん時に　駅を　でて、なんじごろ　かまくら駅に　つきましたか。	11	92			〃	《乗り物》は《場所》に　着く
1875	ッ	つく	つく	五	この　電車は、一時に　駅を　でますから、二時半ごろ　つくでしょう。	11	90		～デショウ	〃	《乗り物》は　着く
1876	ッ	つく	つく	五	この　電気は　ついたり　きえたり　します。	12	102	シタリ		《物》が　つく	《物:機器:電気》は　つく
1877	ッ	つく	つく	五	自習室で　勉強して　いたので、雪には　全然　気が　つきませんでした。	25	221			慣:気が　つく	慣:気が　つく
1878	ッ	つくる	作る	五	コンピュータを　使わないで　資料を　作ると、とても　大変なのです。	20	173	スルト		《人》が《物》を　作る	《物:資料》を　作る
1879	ッ	つくる	作る	五	今、この　パソコンを　使って　論文の　資料を　作って　います。	20	173	シテイル		〃	《物:資料》を　作る
1880	ッ	つくる	作る	五	統計の　資料を　作る　ために、使うのです。	20	173	スルタメニ		〃	《物:資料》を　作る
1881	ッ	つくる	作る	五	統計の　資料を　作る　ために、買いました。	20	176	スルタメニ		〃	《物:資料》を　作る
1882	ッ	つくる	つくる	五	何か　おいしい　りょうりを　つくって　ください。	13	112		シテクダサイ	〃	《物:料理》を　作る
1883	ッ	つくる	作る	五	この　料理を　作るのに　油を　たくさん　使います。	23	206	スルノニ		〃	《物:料理》を　作る
1884	ッ	つくる	作る	五	りょうの　食堂が　休みの　場合は、自分の　部屋で　食事を　作ります。	27	242			〃	《物:食事》を　作る
1885	ッ	つくる	作る	五	サークル活動の　お金を　作るのです。	22	194			〃	《物:お金》を　作る
1886	ッ	つくる	つくる	五	かたかなは、かんじの　いちぶを　とって、つくりました。	Y3	264			〃	《物:文字》を　作る
1887	ッ	つくる	つくる	五	しかし、この　やり方は、あまり　良くありませんでしたから、あとで、かなを　つくって、つかいました。	Y3	264	シテ		〃	《物:文字》を　作る
1888	ッ	つくる	つくる	五	ひらがなは、かんじの　ぜんたいの　かたちを　かえて、つくりました。	Y3	264			〃	《物:文字》を　作る
1889	ッ	つくる	作る	五	とうろん会の　記念の　Tシャツを　作りましたから、	22	195			〃	《物》を　作る
1890	ッ	つくる	作る	五	人間が　する　時間の　二分の　一か、三分の　一で、いろいろな物を　作る　ことも　できます。	Y4	267	コトガデキル		〃	《物》を　作る
1891	ッ	つくる	作る	五	そして、陸より　ずっと　広い　海は、魚を　取ったり、しおを　作ったり　するぐらいで、あまり　利用しなかった。	Y8	275	シタリ		〃	《物》を　作る
1892	ッ	つくる	作る	五	それに、食べ物を　作る　農地も　足りなく　なって　きた。	Y8	275			〃	《物》を　作る
1893	ッ	つくる	作る	五	若者の　喜ぶ　顔が　見たくて、布を　作り続けました。	Y9	279			〃	《物》を　作る
1894	ッ	つくる	つくる	五	マリアさんは　日よう日に　りょうで　しょくじを　つくりますか。	3	18			〃	《人》は《物:食事》を　作る
1895	ッ	つくる	作る	五	マナさんたちは、今、自分で　食事を　作らなければ　なりませんか。	15	126		シナケレバナラナイ	〃	《人》は《物:食事》を　作る
1896	ッ	つくる	作る	五	わたしは　友だちに　国の　料理を　作って　あげました。	22	196	シテアゲル		〃	《人》は《物:料理》を　作る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1897	ツ	つくる	作る	五	父は 新聞を 読んでるし、母は 料理を 作ってます。	28	253	シテイル		〃	《人》は《物:料理》を 作る
1898	ツ	つくる	作る	五	おぼんの 日が 近く なると、人びとは、家の 中に たなを 作って、その 上に、花や おかしや やさいを のせます。	Y5	268	シテ		〃	《人》は《物》を 作る
1899	ツ	つくる	作る	五	娘は、若者の ために、どんな 物を 作りましたか。	Y9	281			〃	《人》は《物》を 作る
1900	ツ	つくる	作る	五	女の 子たちが かわいい にんぎょうを 作りました。	17	146			〃	《人》が《物》を 作る
1901	ツ	つくる	作る	五	ほら、近所の 子どもたちが 雪だるまを 作り始めましたよ。	25	223			〃	《人》が《物》を 作る
1902	ツ	つくる	作る	五	いとう先生の お宅で マリアさんたちが いただいた 料理は、どなたが 作りましたか。	28	248			〃	《人》が《物:料理》を 作る
1903	ツ	つくる	作る	五	さんぎょう ロボットと いうのは・・・・・・いろいろな 物を 作る ロボットの ことです。	Y4	266			〃	《人:ロボット》が《物》を 作る
1904	ツ	つくる	作る	五	いいえ、食事は 作らなくても いいです。	15	124		シナクテモイイ	〃	《物:食事》は 作る
1905	ツ	つくる	作る	五	食事も 自分で 作らなければ なりませんか。	15	124		シナケレバナラナイ	〃	《物:食事》も 作る
1906	ツ	つくる	作る	五	こんなに たくさん、おく様が お作りになったんですか。	28	247		オ-ニナル	〃	《人》が 作る
1907	ツ	つくる	つくる	五	いいえ、つくりません。	3	18			〃	作る
1908	ツ	つくる	作る	五	牛乳から チーズや バターを 作ります。	23	206			《人》が《物》から《物》を 作る	《物》から《物》を 作る
1909	ツ	つくる	作る	五	石油から プラスチックを 作ります。	23	206			〃	《物》から《物》を 作る
1910	ツ	つくる	作る	五	麦から ビールを 作ります。	23	206			〃	《物》から《物》を 作る
1911	ツ	つくる	作る	五	この 植物の 実から ジャムを 作ります。	23	206			〃	《物》から《物》を 作る
1912	ツ	つくる	作る	五	豆から みそや しょうゆを 作ります。	23	206			〃	《物》から《物》を 作る
1913	ツ	つくる	作る	五	和紙は 何から 作りますか。	23	203			〃	《物》は《物》から 作る
1914	ツ	つくる	つくる	五	「テ」は、どんな かんじから つくりましたか。	Y3	265			〃	《物》は《物》から 作る
1915	ツ	つくる	つくる	五	「め」は、どんな かんじから つくりましたか。	Y3	265			〃	《物》は《物》から 作る
1916	ツ	つくる	作る	五	和紙と いうのは 何から 作りますか。	23	203			〃	《物》から 作る
1917	ツ	つくる	作る	五	特別な 木の 皮から 作ります。	23	203			〃	《物》から 作る
1918	ツ	つくる	作る	五	鉄で 刀を 作ります。	23	206			《人》が《物》で《物》を 作る	《物》で《物》を 作る
1919	ツ	つくる	作る	五	鳥の 羽で ふとんを 作ります。	23	206			〃	《物》で《物》を 作る
1920	ツ	つくる	作る	五	金や 銀で 茶わんや お皿を 作ります。	23	206			〃	《物》で《物》を 作る
1921	ツ	つくる	作る	五	ナイロンで くつ下を 作ります。	23	206			〃	《物》で《物》を 作る
1922	ツ	つくる	作る	五	ガラスで びんを 作ります。	23	206			〃	《物》で《物》を 作る
1923	ツ	つくる	作る	五	馬は きゅうりで、牛は なすで 作ります。	Y5	268			〃	《物》は《物》で 作る
1924	ツ	つくる	作る	五	かみと 糸を 使って にんぎょうを 作りました。	20	178			〃	《物》を 作る
1925	ツ	つくる	作る	五	私は これから 特別の 糸で 布を 作ります。	Y9	278			〃	《人》は《物》で《物》を 作る
1926	ツ	つくる	作る	五	部屋の 中では、やせた つるが 自分の 羽を 一本 一本 取り、それで 布を 作って いたのです。	Y9	279	シテイル		〃	《人:動物》が《物》で《物》を 作る
1927	ツ	つくる	つくる	五	東日本に、あたらしい せいじの ちゅうしんを つくりました。	Y2	261			《人》が《場所》に《物》を 作る	《場所》に《物:政治の中心》を 作る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1928	ツ	つける	つける	下一	すみませんが、電気を　つけて　ください。	10	84		シテクダサイ	《人》が　《物》を　つける	《物：機器：電気》を　つける
1929	ツ	つける	つける	下一	ガスストーブや　電灯を　つけました。	24	216		〃	《物：機器：ガスストーブや電灯》をつける
1930	ツ	つける	つける	下一	ガスストーブや　電灯を　つけた　まま、ねました。	24	216	シタママ	〃	《物：機器：ガスストーブや電灯》をつける
1931	ツ	つける	つける	下一	では、火を　つけて、肉を　やきましょう。	17	144	シテ	《人》が　《物》に　《現象》を　つける	《現象：火》を　つける
1932	ツ	つける	つける	下一	この　マッチを　使って　火を　つけましょう。	20	177	シマショウ(誘いかけ)	〃	《現象：火》を　つける
1933	ツ	つける	つける	下一	この　時、ろうそくに　火を　つけて、花などと　いっしょに　流すことも　あります。	Y5	269	シテ	〃	《物》に　《現象：火》を　つける
1934	ツ	つける	つける	下一	若者は、けがを　した　ところを　川の　水で　洗ったり、薬を　つけたり　して、助けて　やりました。	Y9	277	シタリ	《人》が　《物》に　《物》を　つける	《物》を　つける
1935	ツ	つける	つける	下一	表の　通りは　危ないから、車に　気を　つけて　帰って　ください。	20	175	シテ	慣：気を　つける	慣：気を　つける
1936	ツ	つける	つける	下一	この　ような　町では　車に　気を　つけなければ　なりません。	20	178	シナケレバナラナイ	〃	慣：気を　つける
1937	ツ	つける	つける	下一	外に　いる　時、じしんが　おきたら、どんな　ことに　気を　つけなければ　なりませんか。	Y6	272	シナケレバナラナイ	〃	慣：気を　つける
1938	ツ	つける	つける	下一	この　かみを　やぶらないように、気を　つけて　ください。	22	198	シテクダサイ	〃	慣：気を　つける
1939	ツ	つける	つける	下一	ボールに　当たらないように、気を　つけた　方が　いいです。	22	198		〃	慣：気を　つける
1940	ツ	つける	つける	下一	先生は　生徒に　日記を　つけさせました。	27	240	サセル	慣：日記を　つける	慣：日記を　つける
1941	ツ	つづく	続く	五	1分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫だから、火や　ガスなどが　安全か　どうか、しらべる。	Y6	271	シテイル	《現象》が　続く	《現象：地震》が　続く
1942	ツ	つづく	続く	五	何分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫ですか。	Y6	272	シテイル	〃	《現象：地震》が　続く
1943	ツ	つづく	続く	五	毎日　暑い　日が　続いて　おりますが、皆様、お元気で　いらっしゃいますか。	Y10	282	シテオル	〃	《現象：暑い日》が　続く
1944	ツ	つづける	続ける	下一	でも、少しでも、毎日　書く　練習を　続ければ、覚えられますよ。	21	185	スレバ	《人》が　《事》を　続ける	《事：練習》を　続ける
1945	ツ	つづける	続ける	下一	わたしは　将来も　ずっと　この　研究を　続けて　いく　つもりです。	25	226	シテイク	〃	《事：研究》を　続ける
1946	ツ	つとめる	つとめる	下一	その　店には　わたしの　友だちが　つとめて　います。	13	108	シテイル	《人》が　《組織》に　つとめる	《人》が　《組織》に　つとめる
1947	ツ	つとめる	つとめる	下一	ぎんざに　ある　店には　だれの　友だちが　つとめて　いますか。	13	110	シテイル	〃	《人》が　《組織》に　つとめる
1948	ツ	つとめる	つとめる	下一	アリさんは、どんな　所に　つとめようと　思って　いますか。	20	175	シヨウト	〃	《人》は　《組織》に　つとめる
1949	ツ	つとめる	つとめる	下一	大学院には　進まずに、帰国して、商社の　ような　所に　つとめようと　思って　います。	20	174	シヨウト	〃	《組織》に　つとめる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1950	ツ	つとめる	つとめる	下一	いい　条件なら(ば)、その　会社に　つとめます。	21	187			〃	《組織》に　つとめる
1951	ツ	つとめる	つとめる	下一	いい　条件で　なければ、その　会社に　つとめません。	21	187			〃	《組織》に　つとめる
1952	ツ	つもる	積もる	五	屋根の　上に　積もった　雪を　下ろす　仕事です。	25	222			《場所》に《物》が　積もる	《場所》に《物:雪》が　積もる
1953	ツ	つもる	積もる	五	普通の　家の　屋根に　雪が　一メートル　積もると、三十トンぐらいに　なるのです。	25	222	スルト		〃	《場所》に《物:雪》が　積もる
1954	ツ	つもる	積もる	五	ずいぶん　雪が　積もりましたね。	25	223			〃	《物:雪》が　積もる
1955	ツ	つもる	積もる	五	雪が　積もると、子どもたちは、どんな　ことを　して　あそびますか。	25	223	スルト		〃	《物:雪》が　積もる
1956	ツ	つれる	つれる	下一	つれて　行って　ください。	14	116	シテイク		《人》が《人》を《場所》に　連れて　行く	連れて　行く
1957	ツ	つれる	連れる	下一	わたしも　去年は　親類の　子どもたちを　連れて　行きました。	24	210	シテイク		〃	《人》も《人》を　連れて　行く
1958	デ	できる	できる	上一	図書室は　しずかです。それで、よく　べんきょうが　できます。	17	148			《人》は《事》が　できる	《事》が　できる
1959	デ	できる	できる	上一	図書室は　しずかなので、よく　べんきょうが　できます。	17	148			〃	《事》が　できる
1960	デ	できる	できる	上一	体が　弱いと、仕事が　できません。	19	166			〃	《事》が　できる
1961	デ	できる	できる	上一	眠くて、べんきょうが　できません。	24	217			〃	《事》が　できる
1962	デ	できる	できる	上一	日本では、二十才に　なると、どんな　ことが　できるように　なりますか。	26	230	スルヨウニナル		〃	《事》が　できる
1963	デ	できる	できる	上一	せんきょが　できるように　なります。	26	230	スルヨウニナル		〃	《事》が　できる
1964	デ	できる	できる	上一	日本では　二十才に　なると、どんな　ことが　できるように　なりますか。	26	231	スルヨウニナル		〃	《事》が　できる
1965	デ	できる	できる	上一	あなたに　助けて　いただいたので、いい　生活が　できました。	Y7	273			〃	《事》が　できる
1966	デ	できる	できる	上一	話が　できる　ロボットが　多く　なりました。	Y4	266			〃	《事》が　できる
1967	デ	できる	できる	上一	話が　できる　ロボットが　ありますか。	Y4	267			〃	《事》が　できる
1968	デ	できる	できる	上一	あまり　話せませんが、かんたんな　会話だったら、できます。	16	132			〃	《事》が　できる
1969	デ	できる	できる	上一	かんたんな　けいさんも　できるように　なりました。	16	136	スルヨウニナル		〃	《事》も　できる
1970	デ	できる	できる	上一	それに、冬の　間、外は　雪ばかりで、田や　畑では　仕事も　できません。	25	222			〃	《事》も　できる
1971	デ	できる	できる	上一	マリアさん、スピーチの　じゅんびは　できましたか。	22	194			〃	《事》は　できる
1972	デ	できる	できる	上一	いもうとは　ワープロが　できます。	16	135			〃	《人》は《事》が　できる
1973	デ	できる	できる	上一	アリさんは　運転が　できますか。	16	132			〃	《人》は《事》が　できる
1974	デ	できる	できる	上一	アリさんは　運転が　できますか。	16	134			〃	《人》は《事》が　できる
1975	デ	できる	できる	上一	わたしは　車の　運転が　できます。	16	135			〃	《人》は《事》が　できる
1976	デ	できる	できる	上一	ジョンさんは　中国語が　できます。	16	135			〃	《人》は《事:言語》が　できる
1977	デ	できる	できる	上一	わたしは　スキーや　スケートが　できます。	16	135			〃	《人》は《事:スポーツ》が　できる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
1978	デ	できる	できる	上一	りゅう学生は この りょうに 入る ことが できます。	16	135			〃	《人》は 《事:V-すること》が できる
1979	デ	できる	できる	上一	アリさんは さしみを 食べる ことが できますか。	16	135			〃	《人》は 《事:V-すること》が できる
1980	デ	できる	できる	上一	わたしは けさ 五時に おきる ことが できませんでした。	16	135			〃	《人》は 《事:V-すること》が できる
1981	デ	できる	できる	上一	わたしは 車を 運転する ことが できます。	16	135			〃	《人》は 《事:V-すること》が できる
1982	デ	できる	できる	上一	ロボットは、ながい 時間、仕事を する ことが できます。	Y4	266			〃	《人:ロボット》は 《事:V-すること》が できる
1983	デ	できる	できる	上一	鳥は 空を とぶ ことが できます。	17	147			〃	《人:動物》は 《事:V-すること》が できる
1984	デ	できる	できる	上一	人間が する 時間の 二分の 一か、三分の 一で、いろいろな物を 作る ことも できます。	Y4	267			〃	《人》が 《事:V-すること》も できる
1985	デ	できる	できる	上一	しけんの 時、こたえを 思い出す ことが できませんでした。	16	135			〃	《事:V-すること》が できる
1986	デ	できる	できる	上一	もう いちど 日本へ 来る ことが できますか。	16	135			〃	《事:V-すること》が できる
1987	デ	できる	できる	上一	でも、あなたが 約束を 守らなかったので、もう いっしょに いることが できません。	Y9	280			〃	《事:V-すること》が できる
1988	デ	できる	できる	上一	そして、人間の 行けない 所へも、行く ことが できます。	Y4	266			〃	《事:V-すること》が できる
1989	デ	できる	できる	上一	海の 中でも、ふくざつで、あぶない 仕事を やる ことが できます。	Y4	266			〃	《事:V-すること》が できる
1990	デ	できる	できる	上一	車で 行く ことも できますよ。	16	132			〃	《事:V-すること》も できる
1991	デ	できる	できる	上一	ええ、できます。	16	132			〃	できる
1992	デ	できる	できる	上一	あの 時は、あがって しまって、うまく できませんでした。	28	247			〃	できる
1993	デ	できる	できる	上一	しかし、宇宙開発に 使うのと 同じぐらいの お金を 使って 海洋開発を すれば、できる だろう。	Y8	276		～ダロウ	〃	できる
1994	デ	できる	できる	上一	かわいい にんぎょうが できました。	17	146			《物》が できる	《物》が できる
1995	デ	できる	できる	上一	料理が できたら、すぐ 食べましょう。	21	188	シタラ		〃	《物》が できる
1996	デ	できる	できる	上一	ちょうど おかしが できた ところです。	25	225	シタトコロ		〃	《物》が できる
1997	デ	できる	できる	上一	その 布が できたら、町へ 売りに 行って ください。	Y9	278	シタラ		〃	《物》が できる
1998	デ	できる	できる	上一	どうして、あんな 美しい 布が できるのだろう。	Y9	279		～ダロウ	〃	《物》が できる
1999	デ	できる	できる	上一	月の 上を 歩ける 宇宙服は できたが、ふかい 海の 中を歩ける 服は まだ できて いない。	Y8	275			〃	《物》は できる
2000	デ	できる	できる	上一	月の 上を 歩ける 宇宙服は できたが、ふかい 海の 中を歩ける 服は まだ できて いない。	Y8	275	シテイル		〃	《物》は できる
2001	デ	できる	できる	上一	ご飯も できましたよ。	17	144			〃	《物》も できる
2002	デ	できる	できる	上一	できたら、将来も 日本に かんけいの ある 仕事を する つもりです。	20	174	シタラ		できたら	できたら
2003	テ	てつだう	てつだう	五	わたしは 毎日 母の 仕事を てつだって います。	15	129	シテイル		《人》が 《事》を てつだう	《人》は 《事》を てつだう

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2004	テ	てつだう	てつだう	五	あの　人は　ひまなのに、この　仕事を　てつだって　くれません。	25	226	シテクレル		〃	《人》は《事》を　てつだう
2005	テ	てつだう	てつだう	五	この間、さとうさんに　てつだって　もらって、練習しました。	22	194	シテモラウ		〃	《人》が　てつだう
2006	テ	てつだう	てつだう	五	生徒に　てつだわせますから、そんなに　大変ではありません。	27	238	サセル		〃	《人》が　てつだう
2007	テ	てつだう	てつだう	五	日本語の　ことなら、喜んで　おてつだいしますよ。	22	194		オ-スル	〃	てつだう
2008	テ	てつだう	てつだう	五	むすめにも　少し　てつだわせましたけど．．．。	28	247	サセル		〃	てつだう
2009	テ	てつだう	てつだう	五	兄は、母が　あみだなから　荷物を　降ろすのを　てつだいました。	23	205			〃	《人》は《事：V-するの》を　てつだう
2010	テ	てつだう	てつだう	五	すみませんが、あみだなから　荷物を　降ろすのを　てつだってください。	23	201		シテクダサイ	〃	《事：V-するの》を　てつだう
2011	テ	てつだう	てつだう	五	あの　人は　ひまです。それなのに、この　仕事を　てつだって　くれません。	25	226	シテクレル		〃	《事》を　てつだう
2012	デ	でる	出る	下一	パジャマの　まま、外へ　出ては　いけません。	24	216		シテハイケナイ	《人》が《場所》から《場所》に／へ　出る	《場所》へ　出る
2013	デ	でる	出る	下一	しかし、じしんが　おきても、すぐ　外へ　出ない　方が　安全である。	Y6	271			〃	《場所》へ　出る
2014	デ	でる	出る	下一	それから、戸や　まどを　開けて、外へ　出る　用意を　した　方がいい。	Y6	271			〃	《場所》へ　出る
2015	デ	でる	出る	下一	じしんが　おきたら、すぐ　外へ　出た　方が　いいですか。	Y6	272			〃	《場所》へ　出る
2016	デ	でる	出る	下一	今日は　しょくどうに　出て　来せんでしたね。	18	151	シテクル		〃	《場所》に　出る
2017	デ	でる	出る	下一	この　道を　まっすぐ　行って、二番目の　角を　左へ　曲がると、広場に　出ます。	19	163			〃	《場所》に　出る
2018	デ	でる	出る	下一	この　坂を　下りて、はしを　渡ると、海岸に　出ます。	19	166			〃	《場所》に　出る
2019	デ	でる	出る	下一	地方から　出て　来た　若者は、国へは　帰りたがらない　ようですね。	25	222	シテクル		〃	《人》は《場所》から　出る
2020	デ	でる	出る	下一	地方から　出て　来た　若者は、なぜ、国へ　帰りたがらないのですか。	25	223	シテクル		〃	《人》は《場所》から　出る
2021	デ	でる	出る	下一	若者に　見られたのを　知った　娘は、部屋から　出て　来て、静かに　言いました。	Y9	279	シテクル		〃	《人》は《場所》から　出る
2022	デ	でる	出る	下一	人が　わたしの　いる　へやから　外へ　出て　行きました。	17	148	シテイク		〃	《人》が《場所》から《場所》へ　出る
2023	デ	でる	出る	下一	人が　へやの　中から　こちらへ　出て　来ました。	17	148	シテクル		〃	《人》が《場所》から《場所》へ　出る
2024	デ	でる	出る	下一	弟は、へやに　入った　まま、外へ　出て　来ません。	24	216	シテクル		〃	《人》は《場所》へ　出る
2025	デ	でる	出る	下一	娘は、泣きながら、外へ　出て　行きました。	Y9	280	シテイク		〃	《人》は《場所》へ　出る
2026	デ	でる	出る	下一	若者が　娘を　追いかけて　外へ　出た　時、鳥の　鳴く　声が　しました。	Y9	280			〃	《人》が《場所》へ　出る
2027	デ	でる	出る	下一	わたしたちも　外へ　出て　みませんか。	25	223	シテミル		〃	《人》も《場所》へ　出る
2028	デ	でる	出る	下一	美しい　布を　持って、出て　来ました。	Y9	278	シテクル		〃	出る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2029	デ	でる	でる	下一	はい、へやを でる 前に 閉めました。	11	91			《人／乗り物》が 《場所》を 出る	《場所》を 出る
2030	デ	でる	出る	下一	駅を 出る 時、駅員に きっぷを わたします。	15	128			〃	《場所》を 出る
2031	デ	でる	出る	下一	国を 出てから、どのぐらい たちましたか。	15	129			〃	《場所》を 出る
2032	デ	でる	出る	下一	ニ、三日 早く 東京を 出ましょう。	19	163		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》を 出る
2033	デ	でる	出る	下一	会議に おくれないように、早く 家を 出ましょう。	22	198		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》を 出る
2034	デ	でる	出る	下一	おぼんが おわって、家を 出て 行く 時は、足の おそい 牛に乗ります。	Y5	268	シテイク		〃	《場所》を 出る
2035	デ	でる	出る	下一	家を 出て 行く 時、どうして 牛に 乗って 行くのですか。	Y5	270	シテイク		〃	《場所》を 出る
2036	デ	でる	でる	下一	わたしは 毎あさ 九時ごろ 家を でます。	11	93			〃	《人》は 《場所》を 出る
2037	デ	でる	でる	下一	あしたは 十時ごろ ホテルを でて、ちかくの みせで かいものを して、車で 駅まで 行きましょう。	11	94	シテ		〃	《人》は 《場所》を 出る
2038	デ	でる	出る	下一	娘は、どうして 若者の 家を 出て 行って しまったのですか。	Y9	281	シテイク		〃	《人》は 《場所》を 出る
2039	デ	でる	出る	下一	たなかさんと マナさんが 二、三日 早く 東京を 出るのは どうしてですか。	19	164			〃	《人》が 《場所》を 出る
2040	デ	でる	でる	下一	この 電車は、一時に 駅を でますから、	11	90			〃	《乗り物》は 《場所》を 出る
2041	デ	でる	でる	下一	電車は、なん時に 駅を でて、なんじごろ かまくら駅に つきましたか。	11	92	シテ		〃	《乗り物》は 《場所》を 出る
2042	デ	でる	出る	下一	じゅぎょうに 出たら、後で よく 復習しなさい。	21	188	シタラ		《人》が 《イベント》に 出る	《イベント:授業》に 出る
2043	デ	でる	出る	下一	外国人でも 成人式に 出られるのですか。	26	229	デキル		〃	《イベント:成人式》に 出る
2044	デ	でる	出る	下一	ぜひ 式に 出た 方が いいですよ。	26	229			〃	《イベント:成人式》に 出る
2045	デ	でる	出る	下一	成人式に 出る 人は、どこから れんらくが ありますか。	26	231			〃	《人》が 《イベント:成人式》に 出る
2046	デ	でる	出る	下一	外国人でも 成人式に 出られますか。	26	231	デキル		〃	《人》でも 《イベント:成人式》に 出る
2047	デ	でる	出る	下一	Aクラスは、しあいに 出る 度に、一位に なります。	28	252			〃	《人》が 《イベント:試合》に 出る
2048	デ	でる	出る	下一	ええ、二十才に なった 人は、だれでも 出られます。	26	229	デキル		〃	《人》でも 出る
2049	デ	でる	出る	下一	東の 空には もう ほしが 出て います。	17	145	シテイル		《場所》に 《物》が 出る	《場所》には 《物:自然物:星》が 出る
2050	デ	でる	出る	下一	山の 上に 月が 出て います。	17	147	シテイル		〃	《場所》に 《物:自然物:月》が 出る
2051	デ	でる	出る	下一	日が 出ると、あつく なります。	19	166	スルト		〃	《物:自然物:日》が 出る
2052	デ	でる	でる	下一	いもうとは、きょねん ちゅうがっこうを でて、こうとうがっこうに 入りました。	11	94	シテ		《人》が 《組織》を 出る	《人》は 《組織:学校》を 出る
2053	デ	でる	出る	下一	入学と いうのは 学校に 入る ことで、そつぎょうと いうのは 学校を 出る ことです。	16	138			〃	《組織:学校》を 出る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2054	ト	とおる	通る	五	あんぜんな　道を　通りましょう。	17	147		シマショウ(誘いかけ)	《人／乗り物》が　《場所》を　通る	《場所》を　通る
2055	ト	とおる	通る	五	さがみ湖の　そばを　通って　います。	17	143	シテイル		〃	《場所》を　通る
2056	ト	とおる	通る	五	その　道が　安全なら(ば)、通ります。	21	187			〃	通る
2057	ト	とおる	通る	五	その　道が　安全で　なければ、通りません。	21	187			〃	通る
2058	ト	とおる	通る	五	車は　さがみ湖の　そばを　通りましたか。	17	145			〃	《乗り物》は　《場所》を　通る
2059	ト	とおる	通る	五	うらの　通りは、工事中だから、車も　人も　通れません。	20	179	デキル		〃	《乗り物》も　《場所》を　通る
2060	ト	とじる	閉じる	上一	この　にんぎょうは　目や　口を　開けたり　閉じたり　します。	12	102	シタリ		《人》が　《物》を　閉じる	《人:にんぎょう》は　《物:身体部位:目・口》を　閉じる
2061	ト	とびあがる	とび上がる	五	元気に　なった　つるは、何度も　おじぎを　して、空へ　とび上がりました。	Y9	277			《動物》が　《場所》から　《場所》に／へ　とび上がる	《動物》は　《場所:空》へ　とび上がる
2062	ト	とぶ	とぶ	五	鳥が　たくさん　とんで　いますね。	11	91	シテイル		《動物》が　《場所》を　とぶ	《動物》が　とぶ
2063	ト	とぶ	とぶ	五	小鳥が　とんで　います。	11	93	シテイル		〃	《動物》が　とぶ
2064	ト	とぶ	とぶ	五	鳥は　空を　とぶ　ことが　できます。	17	147	コトガデキル		〃	《動物》は　《場所:空》を　とぶ
2065	ト	とぶ	とぶ	五	夕方の　空を　白い　つるが　とんで　いるのが　見えました。	Y9	280	シテイル		〃	《動物》が　《場所:空》を　とぶ
2066	ト	とぶ	とぶ	五	そして、若者の　頭の　上を　ゆっくり　回ってから、山の　向こうへ　とんで　行きました。	Y9	277	シテイク		《動物》が　《場所》から　《場所》に／へ　とぶ	《場所》へ　とぶ
2067	ト	とまる	止まる	五	この　時計は　止まりました。	24	216			《物》が　止まる	《物:時計》は　止まる
2068	ト	とまる	止まる	五	この　時計は　止まった　ままです。	24	216	シタママ		〃	《物:時計》は　止まる
2069	ト	とまる	止まる	五	この　時計は　止まった　まま、ずっと　動きません。	24	216	シタママ		〃	《物:時計》は　止まる
2070	ト	とまる	止まる	五	じしんで　ガスも　水道も　止まって　しまいました。	24	216	シテシマウ		〃	《物:ガス、水道》も　止まる
2071	ト	とまる	とまる	五	急行電車と　いうのは　小さい　駅に　とまらない、はやい　電車の　ことです。	16	138			《乗り物》が　《場所》に　止まる	《乗り物》は　《場所》に　止まる
2072	ト	とまる	止まる	五	向こうに　車が　たくさん　止まって　いますね。	17	143	シテイル		〃	《乗り物》が　《場所》に　止まる
2073	ト	とまる	止まる	五	タクシーが　止まりました。	17	146			〃	《乗り物》が　止まる
2074	ト	とまる	とまる	五	こんばんは　ちかくの　りょかんに　とまって、あした　お寺の　けんぶつに　行きます。	11	90	シテ		《人》が　《場所》に　泊まる	《場所》に　泊まる
2075	ト	とまる	とまる	五	とまる　所は　どこに　しますか。	16	132			〃	《場所》に　泊まる
2076	ト	とまる	とまる	五	では、民宿に　とまる　ことに　します。	16	133			〃	《場所》に　泊まる
2077	ト	とまる	とまる	五	とまる　所は　どこに　しますか。	16	137			〃	《場所》に　泊まる
2078	ト	とまる	とまる	五	とまる　所は　民宿に　します。	16	137			〃	《場所》に　泊まる
2079	ト	とまる	とまる	五	民宿に　とまる　ことに　します。	16	137			〃	《場所》に　泊まる
2080	ト	とまる	とまる	五	民宿には　とまらない　ことに　します。	16	137			〃	《場所》に　泊まる
2081	ト	とまる	とまる	五	京都には　ホテルとか　りょかんとか　とまる　所が　たくさん　あります。	16	138			〃	《場所》に　泊まる
2082	ト	とまる	とまる	五	しかし、まだ　日本人の　家に　とまった　ことは　ありません。	19	165			〃	《場所》に　泊まる
2083	ト	とまる	とまる	五	父は　あした　きょうとの　ホテルに　とまります。	11	93			〃	《人》は　《場所》に　泊まる
2084	ト	とまる	とまる	五	アリさんは　どこに　とまる　ことに　しましたか。	16	134			〃	《人》は　《場所》に　泊まる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2085	ト	とまる	泊まる	五	兄は、京都へ　行く　度に、友だちの　家に　泊まります。	28	252			〃	《人》は《場所》に　泊まる
2086	ト	とまる	泊まる	五	先生は　ここの　ホテルに　泊まってらっしゃいます。	28	253	シテイラッシャル		〃	《人》は《場所》に　泊まる
2087	ト	とまる	とまる	五	このごろは　外国の　人たちも　とまるように　なりました。	16	133	スルヨウニナル		〃	《人》も　泊まる
2088	ト	とめる	とめる	下一	なつの　間など　特別な　時だけ、きゃくを　とめる　家の　ことです。	16	133			《人》が《人》を《場所》に　泊める	《人》を《場所》に　泊める
2089	ト	とめる	とめる	下一	その　夜、親切な　若者は　その　娘を　とめて　あげました。	Y9	278	シテアゲル		〃	《人》は《人》を　泊める
2090	ト	とめる	止める	下一	では、はしを　わたってから、車を　止めましょう。	17	144		シマショウ(誘いかけ)	《人》が《場所》に《乗り物》を止める	《乗り物》を　止める
2091	ト	とめる	止める	下一	男の　人が　タクシーを　止めました。	17	146			〃	《人》が《乗り物》を　止める
2092	ト	とる	とる	五	てがみを　とりに　行きました。	10	81	シニ		《人》が《物／場所》から／の《物》を　取る	《物》を　取る
2093	ト	とる	とる	五	では、へやへ　カメラを　とりに　行きますから、げんかんで　まって　いて　ください。	11	91	シニ		〃	《物》を　取る
2094	ト	とる	とる	五	魚を　とるのに　丈夫な　あみが　要ります。	23	206	スルノニ		〃	《物》を　取る
2095	ト	とる	取る	五	そして、陸より　ずっと　広い　海は、魚を　取ったり、しおを　作ったり　するぐらいで、あまり　利用しなかった。	Y8	275	シタリ		〃	《物》を　取る
2096	ト	とる	取る	五	山へ　木を　取りに　行きました。	Y9	277	シニ		〃	《物》を　取る
2097	ト	とる	とる	五	その　たなから　テープを　とって　ください。	12	101		シテクダサイ	〃	《場所》から《物》を　取る
2098	ト	とる	とる	五	かたかなは、かんじの　いちぶを　とって、つくりました。	Y3	264	シテ		〃	《物》を　取る
2099	ト	とる	取る	五	部屋の　中では、やせた　つるが　自分の　羽を　一本　一本　取り、それで　布を　作って　いたのです。	Y9	279	シ		〃	《人：動物》が《物：身体部位：羽》を　取る
2100	ト	とる	とる	五	あそこで　しゃしんを　とりましょう。	4	26		シマショウ(誘いかけ)	慣：写真を　とる	慣：写真を　とる
2101	ト	とる	とる	五	だいぶつの　前で　しゃしんを　とりましょう。	11	91		シマショウ(誘いかけ)	〃	慣：写真を　とる
2102	ト	とる	とる	五	わたしの　しゅみは　写真を　とる　ことです。	14	115			〃	慣：写真を　とる
2103	ト	とる	とる	五	写真を　とる　ことは　ほんとうに　たのしいですね。	14	115			〃	慣：写真を　とる
2104	ト	とる	とる	五	この　あたらしい　カメラで　小林さんの　写真を　とりたいと　おもいますが、	14	116		シタイ	〃	慣：写真を　とる
2105	ト	とる	とる	五	公園の　しばふに　入って、写真を　とっても　かまいませんか。	14	117		シテモカマワナイ	〃	慣：写真を　とる
2106	ト	とる	とる	五	ちょっと　写真を　とりたいですね。	17	144		シタイ	〃	慣：写真を　とる
2107	ト	とる	とる	五	では、写真を　とって　いもうとに　送って　やります。	22	194	シテ		〃	慣：写真を　とる
2108	ト	とる	とる	五	工場の　中では　写真を　とっては　いけませんが、外で　なら　いいです。	27	241		シテハイケナイ	〃	慣：写真を　とる
2109	ト	とる	とる	五	はい、とりました。	4	26			〃	慣：写真を　とる
2110	ト	とる	とる	五	あとで　とりましょう。	11	91		シマショウ(誘いかけ)	〃	慣：写真を　とる
2111	ト	とる	とる	五	どこで　とりましょうか。	14	116		シマショウカ	〃	慣：写真を　とる
2112	ト	とる	とる	五	じゅぎょうの　時、メモを　とっても　いいです。	14	120		シテモイイ	慣：メモを　とる	慣：メモを　とる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2113	ト	とる	とる	五	学生たちは メモを とりながら、話を 聞いて います。	19	166	シナガラ		〃	慣:メモを とる
2114	ト	とる	とる	五	ビザを とる 時、大使館に 行かなければ なりません。	15	128			慣:ビザを とる	慣:ビザを とる
2115	ト	とる	とる	五	この 村では 年を とった 人たちが 農業を やって います。	23	207			慣:年を とる	慣:年を とる
2116	ト	とれる	取れる	下一	上着の ボタンが 取れそうです。	23	204		シソウダ	《物》から 《物》が 取れる	《物》が 取れる
2117	ナ	なおす	なおす	五	この 作文は みじかいから、十分ぐらいで なおせるでしょう。	16	138	デキル	～デショウ	《人》が 《物／事》を 直す	《物:言語作品:作文》を 直す
2118	ナ	なおす	直す	五	マリアさんは、だれに スピーチを 直して もらいましたか。	22	195	シテモラウ		〃	《人》が 《物:言語作品:スピーチ》を 直す
2119	ナ	なおす	直す	五	ちょっと 直して いただけませんか。	22	193		シテイタダケマセンカ	〃	直す
2120	ナ	ながす	流す	五	人びとは、おかしや 花を 川へ 持って 行って、流します。	Y5	269			《人》が 《物》を 《場所》から 《場所》に／へ 流す	《人》は 《物》を 《場所》へ 流す
2121	ナ	ながす	流す	五	この 時、ろうそくに 火を つけて、花などと いっしょに 流すことも あります。	Y5	269			〃	流す
2122	ナ	ながれる	流れる	下一	この 川は せまい 谷を 流れて います。	17	147	シテイル		《物》が 《場所》を 流れる	《物:川》は 《場所:谷》を 流れる
2123	ナ	なく	鳴く	五	草の 間から 虫の 鳴く 声が きこえます。	17	145			《動物》が 鳴く	《動物》が 鳴く
2124	ナ	なく	鳴く	五	むかしから、動物が うるさく 鳴いたり、ものを 食べなく なったり すれば、じしんが おきると いう 話も ある。	Y6	272	シタリ		〃	《動物》が 鳴く
2125	ナ	なく	鳴く	五	鳥の 鳴く 声が しました。	Y9	280			〃	《動物》が 鳴く
2126	ナ	なく	なく	五	犬は 「ワン」と なきます。	12	102			〃	《動物》は 鳴く
2127	ナ	なく	鳴く	五	つるは、羽に けがを して、苦しそうに 鳴いて いました。	Y9	277	シテイル		〃	《動物》は 鳴く
2128	ナ	なく	鳴く	五	つるは、悲しそうに 高い 声で 鳴きながら、夕やけの 赤い 雲の 中に 消えて 行って しまいました。	Y9	280	シナガラ		〃	《動物》は 鳴く
2129	ナ	なく	なく	五	あの 赤ちゃんは ないたり わらったり して います。	12	102	シタリ		《人》が 泣く	《人》は 泣く
2130	ナ	なく	泣く	五	その 子は 「お母さんが いなく なっちゃった。」と 言って、泣いて います。	28	252	シテイル		〃	《人》は 泣く
2131	ナ	なく	泣く	五	娘は、泣きながら、外へ 出て 行きました。	Y9	280	シナガラ		〃	《人》は 泣く
2132	ナ	なく	泣く	五	子どもたちに 泣かれて、ほんとうに 困って しまいました。	24	211	サレル		〃	《人》が 泣く
2133	ナ	なく	泣く	五	母の 手紙を 読む 度に、よく 泣きました。	28	246			〃	泣く
2134	ナ	なくなる	なくなる	五	コーヒーは もう なくなりました。	15	130			《物》が なくなる	《物》は なくなる
2135	ナ	なくなる	なくなる	五	パンは まだ なくなって いません。	15	130	シテイル		〃	《物》は なくなる
2136	ナ	なくなる	なくなる	五	たてものが なくなりました。	Y2	262			〃	《物》が なくなる
2137	ナ	なくなる	なくなる	五	石油や 石炭も、いつか なくなると 言われて いる。	Y8	275			〃	《物》も なくなる
2138	ナ	なくなる	亡くなる	五	となりの 家の おじいさんが 亡くなって しまいました。	24	216	シテシマウ		《人》が 亡くなる	《人》が 亡くなる
2139	ナ	なくなる	なくなる	五	人びとは、おぼんに なると、なくなった かぞくや 先祖が うちへ かえって 来ると かんがえて います。	Y5	268			〃	《人》が 亡くなる
2140	ナ	なくなる	なくなる	五	なくなった 人たちの ことを 思い出しながら、いろいろな 話をします。	Y5	269			〃	《人》が 亡くなる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2141	ナ	なぐる	なぐる	五	弟は　兄に　顔を　なぐられました。	24	214	サレル		《人》が　《物》を　なぐる	《人》は　《物：身体部位：顔》を　なぐる
2142	ナ	なげる	なげる	下一	石を　なげないで　ください。	10	84		シナイデクダサイ	《人》が　《物》を　《場所》から　《場所》に／へ　なげる	《物》を　なげる
2143	ナ	なさる	なさる	五	先生は　明日は　ここで　テニスを　なさるでしょう。	28	249		～デショウ、敬譲	《人》が　《事》を　なさる	《人》は　《事：スポーツ》を　なさる
2144	ナ	なさる	なさる	五	どうぞ　お体を　大切に　なさって　くださいますように。	Y10	282		シテクダサイ、敬譲	《人》が　《物》を　Adj-に　なさる	《物：体》を　Adj-に　なさる
2145	ナ	なまける	なまける	下一	あの　人は　なまけてばかり　います。	25	224	シテイル		《人》が　なまける	《人》は　なまける
2146	ナ	ならう	ならう	五	マナさんは　山本先生に　日本ごを　ならいました。	8	66			《人》が　《人》から／に　《事》を　習う	《人》は　《人》に　《事：言語》を　習う
2147	ナ	ならう	ならう	五	お母さんに　日本の　りょうりを　ならいました。	8	64			〃	《人》に　《事：料理》を　習う
2148	ナ	ならう	ならう	五	マナさんは　山本先生から　日本ごを　ならいました。	8	66			〃	《人》は　《人》から　《事：言語》を　習う
2149	ナ	ならう	ならう	五	友だちから　にんぎょうの　つくり方を　ならいました。	10	84			〃	《人》から　《事：仕方》を　習う
2150	ナ	ならう	ならう	五	マリアさんは　やまださんの　ところで　りょうりを　ならいました。	8	67			〃	《人》は　《事：料理》を　習う
2151	ナ	ならう	ならう	五	アリさんは　国で　日本語を　ならって　来ました。	17	148	シテクル		〃	《人》は　《事：言語》を　習う
2152	ナ	ならう	習う	五	ローラさんは、今まで　いくつぐらい　漢字を　習いましたか。	21	186			〃	《人》は　《事：文字》を　習う
2153	ナ	ならう	習う	五	今まで　約　五百の　漢字を　習いましたが、新聞は　まだ　読めません。	21	184			〃	《事：文字》を　習う
2154	ナ	ならぶ	並ぶ	五	向こうに　店が　並んで　いますが、大学祭では、商売も　やるのですか。	22	194	シテイル		《場所》に　《物》が　並ぶ	《場所》に　《物：建物》が　並ぶ
2155	ナ	ならぶ	並ぶ	五	ほら、坂の　両側に　店が　並んで　いるのが　見えますね。	23	202	シテイル		〃	《場所》に　《物：建物》が　並ぶ
2156	ナ	ならぶ	並ぶ	五	わあ、おいしそうな　おべんとうが　並んで　いますね。	23	201	シテイル		〃	《物》が　並ぶ
2157	ナ	ならぶ	並ぶ	五	門の　前に　制服を　着た　けいさつかんが　並んで　います。	23	207	シテイル		《人》が　並ぶ	《人》が　並ぶ
2158	ナ	なる	なる	五	すこし　大きく　なりました。	7	58			Nが　Adj-く／に　なる	Adj-く　なる
2159	ナ	なる	なる	五	おそく　なりました。どうも　すみません。	7	55			〃	Adj-く　なる
2160	ナ	なる	なる	五	おそく　なりました。どうも　すみません。	7	60			〃	Adj-く　なる
2161	ナ	なる	なる	五	小林さん、すみません。おそく　なりました。	11	90			〃	Adj-く　なる
2162	ナ	なる	なる	五	たいていの　家は、これから　新年の　じゅんびで　忙しく　なります。	24	210			〃	Adj-く　なる
2163	ナ	なる	なる	五	来年から　忙しく　なります。	26	233			〃	Adj-く　なる
2164	ナ	なる	なる	五	日が　出ると、あつく　なります。	19	166			〃	Adj-く　なる
2165	ナ	なる	なる	五	朝夕　だいぶ　すずしく　なって　まいりましたが、お元気の　ことと　ぞんじます。	Y10	283	シテマイル		〃	Adj-く　なる
2166	ナ	なる	なる	五	おそく　なりましたから、失礼します。	20	174			〃	Adj-く　なる
2167	ナ	なる	なる	五	それで、ぐあいが　わるく　なったのですね。	18	153			〃	《N：側面：具合》が　Adj-く　なる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2168	ナ	なる	なる	五	病気が　わるく　ならないように、医者に　みて　もらいました。	22	198	シナイヨウニ		〃	《N:側面:病気》が　Adj-く　なる
2169	ナ	なる	なる	五	娘は、だんだん　顔色が　わるく　なり、やせて　きましたが、	Y9	279			〃	《N:側面:顔色》が　Adj-く　なる
2170	ナ	なる	なる	五	わたしは、息を　する　度に、むねが　痛く　なります。	28	252			〃	《N:側面:胸》が　Adj-く　なる
2171	ナ	なる	なる	五	頭が　いたく　なりました。	24	217			〃	《N:側面:頭》が　Adj-く　なる
2172	ナ	なる	なる	五	この　ごろは、目で　物を　見て、やり方を　かんがえて、仕事を する　ロボットや、話が　できる　ロボットが　多く　なりました。	Y4	266			〃	《N:人:ロボット》が　Adj-く　なる
2173	ナ	なる	なる	五	どんな　ロボットが　多く　なりましたか。	Y4	267			〃	《N:人:ロボット》が　Adj-く　なる
2174	ナ	なる	なる	五	でも、お医者さんが　良く　なったと　言いましたから、もう　だい じょうぶだと　おもいます。	12	99			〃	《N:人》が　Adj-く　なる
2175	ナ	なる	なる	五	この　時、さむらいたちが　つよく　なって、東日本に、あたらしい せいじの　ちゅうしんを　つくりました。	Y2	261	シテ		〃	《N:人》が　Adj-く　なる
2176	ナ	なる	なる	五	これから、ますます　暑さが　きびしく　なります。	Y10	282			〃	《N:事:暑さ》が　Adj-く　なる
2177	ナ	なる	なる	五	わたしは、小さい　時、父に　死なれました。（生活が　苦しく　なり ました。）	24	215			〃	《N:事:生活》が　Adj-く　なる
2178	ナ	なる	なる	五	けれども、責任も　重く　なりますよ。	26	230			〃	《N:事:責任》も　Adj-く　なる
2179	ナ	なる	なる	五	仕事も　はやく　なりました。	Y4	267			〃	《N:事:仕事》も　Adj-く　なる
2180	ナ	なる	なる	五	人びとの　生活は、もっと　らくに　なるでしょう。	Y4	267		～デショウ	〃	《N:事:生活》は　Adj-に　なる
2181	ナ	なる	なる	五	生活は　全然　楽に　なりませんでした。	Y9	277			〃	《N:事:生活》は　Adj-に　なる
2182	ナ	なる	なる	五	それで、宇宙開発と　同じように、海洋開発も　大切に　なって　き たのである。	Y8	275	シテクル		〃	《N:事:開発》も　Adj-に　なる
2183	ナ	なる	なる	五	今ごろ、北の　地方は、雪で　真っ白に　なって、すばらしいでしょ うね。	25	221	シテ		〃	《N:場所》が　Adj-に　なる
2184	ナ	なる	なる	五	しかし、人間が　どんどん　増えて、住む　所は　せまく　なった。	Y8	275			〃	《N:場所》は　Adj-く　なる
2185	ナ	なる	なる	五	そして、そらが　明るく　なりました。	7	55			〃	《N:場所:空》が　Adj-く　なる
2186	ナ	なる	なる	五	ねだんが　少し　安く　なる　かもしれません。	21	185		～カモシレナイ	〃	《N:物:値段》が　Adj-く　なる
2187	ナ	なる	なる	五	おぼんが　近く　なると、人びとは　どんな　用意を　しますか。	Y5	270	スルト		〃	《N:時期:おぼん》が　Adj-く　なる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2188	ナ	なる	なる	五	日本には、おぼんや 正月が 近く なると、	Y7	273	スルト		〃	《N:時期:おぼんや正月》が Adj-く なる
2189	ナ	なる	なる	五	おぼんの 日が 近く なると、人びとは、家の 中に たなを 作って、	Y5	268	スルト		〃	《N:時期:おぼん》が Adj-く なる
2190	ナ	なる	なる	五	お幸せに なって ください。	28	251		シテクダサイ	〃	Adj-に なる
2191	ナ	なる	なる	五	しかし、けさは しずかに なりました。	7	58			〃	Adj-に なる
2192	ナ	なる	なる	五	大雨で 池の 水が いっぱいに なりました。	24	216			〃	《N:物》が Adj-に なる
2193	ナ	なる	なる	五	ことしは 十九才に なりました。	7	58			《人》が 《状態》に なる	《状態:年齢》に なる
2194	ナ	なる	なる	五	日本では、二十才に なると、どんな ことが できるように なりますか。	26	230			〃	《状態:年齢》に なる
2195	ナ	なる	なる	五	日本では 二十才に なると、どんな ことが できるように なりますか。	26	231			〃	《状態:年齢》に なる
2196	ナ	なる	なる	五	マナさん、げんきに なりましたね。	7	56			〃	《状態:元気》に なる
2197	ナ	なる	なる	五	びょうきに なった 時、あまり お金を 払わなくても いいですよ。	15	125			〃	《状態:病気》に なる
2198	ナ	なる	なる	五	わたしの きぼうは しんぶん記者に なる ことです。	14	119			〃	《状態:職業:新聞記者》に なる
2199	ナ	なる	なる	五	えが 下手だと、画家には なれません。	19	166	デキル		〃	《状態:職業:画家》に なる
2200	ナ	なる	なる	五	日本に 来たばかりの 時は、ホームシックに なりましたけど。	28	246			〃	《状態:ホームシック》に なる
2201	ナ	なる	なる	五	日本に 来たばかりの 時、ホームシックに なって しまいました。	28	251	シテシマウ		〃	《状態:ホームシック》に なる
2202	ナ	なる	なる	五	留学の 目的は、日本と わたしの 国の かけ橋に なる ことです。	20	174			〃	《状態:かけ橋》に なる
2203	ナ	なる	なる	五	ええ、大人に なった ことを お祝いする 日です。	26	229			〃	《状態:大人》に なる
2204	ナ	なる	なる	五	わたしは 外交官に なりたいです。	14	118		シタイ	〃	《人》は 《状態:職業:外交官》になる
2205	ナ	なる	なる	五	外交官に なる 人は 外国語が 下手では いけません。	14	121			〃	《人》は 《状態:職業:外交官》になる
2206	ナ	なる	なる	五	わたしは、英語を べんきょうして いますが、通訳に なろうとは 思って いません。	20	176		シヨウト	〃	《人》は 《状態:職業:通訳》に なる
2207	ナ	なる	なる	五	アリさんは なん才に なりましたか。	7	58			〃	《人》は 《状態:年齢》に なる
2208	ナ	なる	なる	五	ええ、二十才に なった 人は、だれでも 出られます。	26	229			〃	《人》は 《状態:年齢》に なる
2209	ナ	なる	なる	五	兄は びょうきに なりました。	17	148			〃	《人》は 《状態:病気》に なる
2210	ナ	なる	なる	五	兄は びょうきに なったので、学校を 休みました。	17	148			〃	《人》は 《状態:病気》に なる
2211	ナ	なる	なる	五	Aクラスは、しあいに 出る 度に、一位に なります。	28	252			〃	《人》は 《状態:順位》に なる
2212	ナ	なる	なる	五	友だちが びょうきに なった 時、あげました。	15	125			〃	《人》が 《状態:病気》に なる
2213	ナ	なる	なる	五	でも、わたしが 元気に なった 時、母は 安心するでしょう。	15	128			〃	《人》が 《状態:元気》に なる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2214	ナ	なる	なる	五	元気に なった つるは、何度も おじぎを して、空へ とび上がりました。	Y9	277			〃	《人：動物》は 《状態：元気》に なる
2215	ナ	なる	なる	五	もう 十二じに なりましたか。	7	56			《時刻／時期》に なる	《時刻》に なる
2216	ナ	なる	なる	五	四時に なったら、わたしの 所へ 来て ください。	21	188	シタラ		〃	《時刻》に なる
2217	ナ	なる	なる	五	いいえ、まだ なりません。	7	56			〃	なる
2218	ナ	なる	なる	五	おぼんに なると、とても 汽車が こみます。	19	163	スルト		〃	《時期：おぼん》に なる
2219	ナ	なる	なる	五	おぼんに なると、都会の 人は どう しますか。	19	164	スルト		〃	《時期：おぼん》に なる
2220	ナ	なる	なる	五	人びとは、おぼんに なると、なくなった かぞくや 先祖が うちへ かえって 来ると かんがえて います。	Y5	268	スルト		〃	《時期：おぼん》に なる
2221	ナ	なる	なる	五	なつに なると、日本の 町や 村で 「おぼん」の 行事が 見られます。	Y5	268	スルト		〃	《時期：夏》に なる
2222	ナ	なる	なる	五	かんたんな けいさんも できるように なりました。	16	136			《人》が V-するように なる	V-するように なる
2223	ナ	なる	なる	五	日本では、二十才に なると、どんな ことが できるように なりますか。	26	230	スルト		〃	V-するように なる
2224	ナ	なる	なる	五	せんきょが できるように なります。	26	230			〃	V-するように なる
2225	ナ	なる	なる	五	日本では 二十才に なると、どんな ことが できるように なりますか。	26	231	スルト		〃	V-するように なる
2226	ナ	なる	なる	五	このごろは 外国の 人たちも とまるように なりました。	16	133			〃	《人》も V-するように なる
2227	ナ	なる	なる	五	人間が 将来、また 海の 中で 生活するように なる かもしれないと いう ことは、おもしろい ことである。	Y8	276		～カモシレナイ	〃	《人》が V-するように なる
2228	ナ	なる	なる	五	その 日から 娘は ずっと 若者の 家に いるように なりました。	Y9	278			〃	《人》は V-するように なる
2229	ナ	なる	なる	五	日本語の 文は、あたらしい 書き方に なりました。	Y3	264			《物》が 《状態》に なる	《物》は 《状態：新しい書き方》になる
2230	ナ	なる	なる	五	かんじは、ほんとうに 日本語の いちぶに なりました。	Y3	264			〃	《物》は 《状態：日本語の一部》になる
2231	ナ	なる	なる	五	それに、魚や 海草も、私たちの 大切な 食べ物に なって いる。	Y8	275	シテイル		〃	《物》も 《状態》に なる
2232	ナ	なる	なる	五	例えば、普通の 家の 屋根に 雪が 一メートル 積もると、三十トンぐらいに なるのです。	25	222			〃	《物》が 《状態：数量》に なる
2233	ナ	なる	なる	五	それから、大雪で 列車が 不通に なる ことも あります。	25	222			〃	《物：乗り物》が 《状態：不通》になる
2234	ナ	なる	なる	五	教科書に 書いて ある とおりに なりましたね。	27	237			〃	《状態》に なる
2235	ナ	なる	なる	五	せんせい、いい 天気に なりましたね。	7	55			《状態》に なる	《状態：いい天気》に なる
2236	ナ	なる	なる	五	がっこうの ハイキングの 日は いい天気に なりましたか。	7	57			〃	《状態：いい天気》に なる
2237	ナ	なる	なる	五	いい 天気に なりましたね。	7	60			〃	《状態：いい天気》に なる
2238	ナ	なる	なる	五	家が たおれるより 火事に なる 方が 危険なのである。	Y6	271			〃	《状態：火事》に なる
2239	ナ	なる	なる	五	前は 日本語が ききとれませんでしたが、今は ききとれるように なりました。	16	136			《人》が V-できるように なる	V-できるように なる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2240	ナ	なる	なる	五	おとうとは きょねんは かずが かぞえられませんでしたが、今年は かぞえられるように なりました。	16	136			〃	V-できるように なる
2241	ナ	なる	なる	五	それから、お酒も 飲めるように なります。	26	230			〃	V-できるように なる
2242	ナ	なる	なる	五	ことしは どう なりましたか。	7	58			Nが Adv なる	Adv なる
2243	ナ	なる	なる	五	中が どう なって いるのか、くわしい ことは、まだ よく わかって いない。	Y8	275	シテイル		〃	《N:場所》が Adv なる
2244	ナ	なる	なる	五	わたしは マリアさんと ともだちに なりました。	8	66			《人》が 《人》と 《状態》に なる	《人》は 《人》と 《状態:友達》に なる
2245	ナ	なる	なる	五	ほかの くにの 人たちとも ともだちに なりました。	9	71			〃	《人》とも 《状態:友達》に なる
2246	ナ	なる	なる	五	わたしも、統計の べんきょうの ために、こんな パソコンが ほしく なりました。	20	173			《人》が 《物》が ほしく なる	《人》も 《物》が ほしく なる
2247	ナ	なる	なる	五	その 日から 若者は、お金が もっと 欲しく なり、娘を 働かせるように なりました。	Y9	279	シ		〃	《物:お金》が ほしく なる
2248	ナ	なる	なる	五	風が つよく ふいたので、木が たおれそうに なりました。	23	205			《物》が V-しそうに なる	《物》が V-しそうに なる
2249	ナ	なる	なる	五	高い 波が 来たので、船が しずみそうに なりました。	23	205			〃	《物》が V-しそうに なる
2250	ナ	なる	なる	五	いろいろな ことが 法律で 許されるように なるのですね。	26	230			《事》が V-されるように なる	《事》が V-されるように なる
2251	ナ	なる	なる	五	その 子は 「お母さんが いなく なっちゃった。」と 言って、泣いて います。	28	252	シテシマウ		《人》が V-なく なる	《人》は V-なく なる
2252	ナ	なる	なる	五	むかしから、動物が うるさく 鳴いたり、ものを 食べなく なったり すれば、じしんが おきると いう 話も ある。	Y6	272	シタリ		〃	《人:動物》が V-なく なる
2253	ナ	なる	なる	五	それに、食べ物を 作る 農地も 足りなく なって きた。	Y8	275	シテクル		《場所》が V-なく なる	《場所》も V-なく なる
2254	ナ	なる	なる	五	ある 日、若者は 娘の 部屋の 中を 見たく なりました。	Y9	279			《人》が V-たく なる	《人》は V-たく なる
2255	ナ	なる	なる	五	その 日から 若者は、お金が もっと 欲しく なり、娘を 働かせるように なりました。	Y9	279	シ		《人》が 《人》を V-させるように なる	《人》を V-させるように なる
2256	ナ	なる	なる	五	シャツの ボタンを 外して、台の 上に 横に なって ください。	18	152		シテクダサイ	慣:横に なる	慣:横に なる
2257	ナ	なる	なる	五	では、すぐ 横に なった 方が いいですね。	18	158			〃	慣:横に なる
2258	ナ	なる	なる	五	兄は、横に なって おんがくの 放送を 聞いて います。	20	178	シテ		〃	慣:横に なる
2259	ナ	なる	なる	五	世話に なった 人や 目上の 人などに 物を おくる しゅうかんが ある。	Y7	273			慣:世話に なる	慣:世話に なる
2260	ナ	なる	なる	五	世話に なった 人や 目上の 人に あいさつを し、おくり物をしたのが、この 「お中元」や 「おせいぼ」の 始まりである。	Y7	273			〃	慣:世話に なる
2261	ナ	なる	なる	五	いろいろ お世話に なりました。	Y7	273			〃	慣:世話に なる
2262	ナ	なる	鳴る	五	あ、発車の ベルが 鳴って いますよ。	23	201	シテイル		《物》が 鳴る	《物:ベル》が 鳴る
2263	ナ	なれる	なれる	下一	マリアさん、もう こちらの 生活に なれましたか。	28	246			《人》が 《事》に なれる	《事:生活》に なれる
2264	ナ	なれる	なれる	下一	はい、すっかり なれました。	28	246			〃	なれる
2265	ニ	にゅういんする	にゅういんする	サ変	先月 わたしが にゅういんする 時、母は とても 心配しました。	15	128			《人》が 入院する	《人》が 入院する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2266	ニ	にゅういんする	入院する	サ変	わたしたちは　母に　入院されました。（とても　困りました。）	24	215	サレル		〃	《人》が　入院する
2267	ニ	にる	にる	上一	お母さんは　やまださんと　よく　にて　いますね。	8	64	シテイル		Nが　Nと／に　にる	《N:人》は　《N:人》と　にる
2268	ニ	にる	にる	上一	ほかの　いなかの　おぼんも、これと　にて　います。	Y5	268	シテイル		〃	《N:イベント:おぼん》も　《N:事》と　にる
2269	ニ	にる	にる	上一	あなたの　国にも、日本の　おぼんに　にて　いる　行事が　ありますか。	Y5	270	シテイル		〃	《N:イベント:おぼん》に　にる
2270	ニ	にる	にる	上一	にたり、やいたり　したら、食べられますが。	16	133	シタリ		《人》が　《物》を　にる	《物》を　にる
2271	ヌ	ぬぐ	ぬぐ	五	はじめて　りょうへ　来た　時、げんかんで　くつを　ぬがなければなりませんでした。	15	125		シナケレバナラナイ	《人》が　《物》を　ぬぐ	《物:くつ》を　ぬぐ
2272	ヌ	ぬぐ	ぬぐ	五	まだ　上着も　ぬいで　いません。	28	251	シテイル		〃	《物:服》を　ぬぐ
2273	ヌ	ぬすむ	ぬすむ	五	母は　どろぼうに　財布を　ぬすまれました。	24	214	サレル		《人》が　《人》から　《物》を　ぬすむ	《人》が　《物》を　ぬすむ
2274	ネ	ねがう	ねがう	五	カメラの　シャッターを　おねがいします。	4	26		オ-スル	《人》が　《人》に　《事》を　お願いする	《事》を　お願いする
2275	ネ	ねがう	願う	五	先日　お電話で　お願いした　学校見学の　ことですが、九月二十日ごろは　いかがでしょうか。	Y10	283		オ-スル	〃	《事:見学》を　お願いする
2276	ネ	ねがう	願う	五	タンさんは、先生に　電話で　どんな　ことを　お願いしましたか。	Y10	284		オ-スル	〃	《人》は　《人》に　《事》を　お願いする
2277	ネ	ねがう	ねがう	五	ねんれいと　こくせきも　おねがいします。	16	133		オ-スル	〃	《事》も　お願いする
2278	ネ	ねる	ねる	下一	あなたは　きのう　なんじに　ねましたか。	3	21			《人》が　寝る	《人》は　寝る
2279	ネ	ねる	ねる	下一	わたしは　きのう　八じに　ねました。	3	21			〃	《人》は　寝る
2280	ネ	ねる	ねる	下一	父は、いつも　おふろに　入ってから、ねます。	11	94			〃	《人》は　寝る
2281	ネ	ねる	ねる	下一	父は、いつも　ねる　前に、おふろに　入ります。	11	94			〃	《人》は　寝る
2282	ネ	ねる	ねる	下一	マナさんは　おなかが　いたいと　言って、ねて　います。	18	151	シテイル		〃	《人》は　寝る
2283	ネ	ねる	ねる	下一	わたしは　つかれたので、へやの　中を　かたづけないで、ねました。	20	178			〃	《人》は　寝る
2284	ネ	ねる	ねる	下一	わたしは　つかれたので、へやの　中を　かたづけずに、ねました。	20	178			〃	《人》は　寝る
2285	ネ	ねる	ねる	下一	ゆうべ、アリさんは、ねないで、べんきょうしました。	20	178	シナイデ		〃	《人》は　寝る
2286	ネ	ねる	ねる	下一	ゆうべ、アリさんは、ねずに、べんきょうしました。	20	178	セズニ		〃	《人》は　寝る
2287	ネ	ねる	寝る	下一	マナさんは、どうも　ゆうべ　おそく　寝た　ようです。	25	221		～ヨウダ	〃	《人》は　寝る
2288	ネ	ねる	ねる	下一	今日は　天気が　いいです。それなのに、あの　人は　ずっと　家で　ねて　います。	25	225	シテイル		〃	《人》は　寝る
2289	ネ	ねる	ねる	下一	今日は　天気が　いいのに、あの　人は　ずっと　家で　ねて　います。	25	225	シテイル		〃	《人》は　寝る
2290	ネ	ねる	ねる	下一	そして、まいばん　十一じごろ　ねます。	3	21			〃	寝る
2291	ネ	ねる	ねる	下一	ゆうべは　三時間ぐらいしか　ねませんでした。	15	128			〃	寝る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2292	ネ	ねる	ねる	下一	帰って、すぐ ねられるように、へやに ふとんを しいて おきました。	22	198	デキル、スルヨウニ		〃	寝る
2293	ネ	ねる	ねる	下一	ガスストーブや 電灯を つけました。消さずに、そのまま、ねました。	24	216			〃	寝る
2294	ネ	ねる	ねる	下一	ガスストーブや 電灯を つけた まま、ねました。	24	216			〃	寝る
2295	ネ	ねる	寝る	下一	赤ちゃんが 寝て いる 間に、この 辺を かたづけましょう。	26	233	シテイル		〃	《人》が 寝る
2296	ノ	のこる	残る	五	特に 地方には 昔の 行事が そのまま 残って います。	24	210	シテイル		《場所》に 《事》が 残る	《場所》に 《事:行事》が 残る
2297	ノ	のこる	のこる	五	その しゅうかんは、今も のこって いて、食料品を おくる ことが 一番 多い。	Y7	273	シテイル		〃	《事:習慣》は 残る
2298	ノ	のこる	のこる	五	お寺や 大仏など、むかしの 古い 物も たおれずに、たくさん のこって いる。	Y6	271	シテイル		〃	《物:建物》も 残る
2299	ノ	のこる	残る	五	あの 料理は、どうも おいしく ない らしいです。たくさん 残って います。	28	251	シテイル		〃	残る
2300	ノ	のせる	のせる	下一	父は たんすの 上に かばんを のせました。	12	101			《人》が 《場所》に 《物》を のせる	《人》は 《場所》に 《物》を のせる
2301	ノ	のせる	のせる	下一	その 上に、花や おかしや やさいを のせます。	Y5	268			〃	《場所》に 《物》を のせる
2302	ノ	のせる	のせる	下一	マナさん、食料は もう 車に のせましたか。	17	143			《人》が 《乗り物》に 《物》を のせる	《物》は 《乗り物》に のせる
2303	ノ	のせる	のせる	下一	はい、もう のせました。	17	143			〃	のせる
2304	ノ	のぞく	除く	五	でも、最近は、機械で 雪を 除いたり する 方法も 考えられてきました。	25	222	シタリ		《人》が 《物／場所》から／の《物》を 除く	《物》を 除く
2305	ノ	のっくする	ノックする	サ変	さっき 用事が あって、何度も ノックしたのに、返事が ありませんでした。	25	221			《人》が ノックする	ノックする
2306	ノ	のぼる	のぼる	五	兄は なつ休みに ふじさんに のぼります。	11	93			《人》が 《場所》に 登る	《人》は 《場所:山》に 登る
2307	ノ	のぼる	登る	五	わたしは 毎年 ふじさんに 登って います。	15	129	シテイル		〃	《人》は 《場所:山》に 登る
2308	ノ	のぼる	上る	五	マナさんは 坂を 上って います。	17	147	シテイル		《人》が 《場所》を 上る	《人》は 《場所:坂》を 上る
2309	ノ	のむ	のむ	五	やまださん、コーヒーを のみますか、	3	17			《人》が 《物》を 飲む	《物:飲料》を 飲む
2310	ノ	のむ	のむ	五	こうちゃを のみますか。	3	17			〃	《物:飲料》を 飲む
2311	ノ	のむ	のむ	五	コーヒーを のみます。	3	17			〃	《物:飲料》を 飲む
2312	ノ	のむ	のむ	五	つめたい ジュースを のみましょう。	10	83		シマショウ(誘いかけ)	〃	《物:飲料》を 飲む
2313	ノ	のむ	のむ	五	おさけを のまないで ください。	10	84		シナイデクダサイ	〃	《物:飲料》を 飲む
2314	ノ	のむ	のむ	五	ジュースを 五本も のんでは いけません。	15	129		シテハイケナイ	〃	《物:飲料》を 飲む
2315	ノ	のむ	のむ	五	はい、もう コーヒーを のみました。	15	130			〃	《物:飲料》を 飲む
2316	ノ	のむ	のむ	五	日本の おさけを のんだ ことも あります。	19	165			〃	《物:飲料》を 飲む
2317	ノ	のむ	のむ	五	お茶を のみながら、話を しましょう。	19	166	シナガラ		〃	《物:飲料》を 飲む
2318	ノ	のむ	飲む	五	運転中に おさけを 飲んでは いけません。	20	179		シテハイケナイ	〃	《物:飲料》を 飲む
2319	ノ	のむ	のむ	五	やまださんは マリアさんの へやで なにを のみましたか。	3	19			〃	《人》は 《物:飲料》を 飲む

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2320	ノ	のむ	のむ	五	マナさんは　だれの　おちゃを　のみましたか。	7	57			〃	《人》は　《物:飲料》を　飲む
2321	ノ	のむ	のむ	五	あなたは　もう　コーヒーを　のみましたか。	7	58			〃	《人》は　《物:飲料》を　飲む
2322	ノ	のむ	のむ	五	いいえ、わたしは　まだ　コーヒーを　のみません。	7	58			〃	《人》は　《物:飲料》を　飲む
2323	ノ	のむ	のむ	五	あなたは　コーヒーや　こうちゃを　のみますか。	9	75			〃	《人》は　《物:飲料》を　飲む
2324	ノ	のむ	のむ	五	マナさんは　もう　コーヒーを　のみましたか。	15	130			〃	《人》は　《物:飲料》を　飲む
2325	ノ	のむ	のむ	五	わたしは、お酒を　のみすぎたので、頭が　いたく　なりました。	24	217			〃	《人》は　《物:飲料》を　飲む
2326	ノ	のむ	のむ	五	わたしは　コーヒーは　のみますが、こうちゃは　のみません。	9	75			〃	《人》は　《物:飲料》は　飲む
2327	ノ	のむ	のむ	五	わたしは　コーヒーは　のみますが、こうちゃは　のみません。	9	75			〃	《人》は　《物:飲料》は　飲む
2328	ノ	のむ	のむ	五	この　お茶は　熱すぎるから、のめません。	24	217	デキル		〃	《物:飲料》は　飲む
2329	ノ	のむ	飲む	五	ジュースは　全部　飲んじゃいました。	28	252	シテシマウ		〃	《物:飲料》は　飲む
2330	ノ	のむ	のむ	五	お茶が　のみたいから、おゆを　わかして　おいて　ください。	22	197		シタイ	〃	《物:飲料》が　飲む
2331	ノ	のむ	飲む	五	それから、お酒も　飲めるように　なります。	26	230	デキル、スルヨウニナル		〃	《物:飲料》も　飲む
2332	ノ	のむ	飲む	五	お茶でも　飲みませんか。	28	252		シマセンカ	〃	《物:飲料》でも　飲む
2333	ノ	のむ	のむ	五	この　くすりを　のんで　ください。	10	84		シテクダサイ	慣:薬を　飲む	慣:薬を　飲む
2334	ノ	のむ	のむ	五	毎日　くすりを　のんだり、ちゅうしゃを　したり　しました。	12	99	シタリ		〃	慣:薬を　飲む
2335	ノ	のむ	のむ	五	しょくじを　した　あとで、この　くすりを　のんで　ください。	12	101		シテクダサイ	〃	慣:薬を　飲む
2336	ノ	のむ	のむ	五	しょくじの　あとで、この　くすりを　のんで　ください。	12	101		シテクダサイ	〃	慣:薬を　飲む
2337	ノ	のむ	のむ	五	マナさん、この　くすりを　一日に　三回　のんで　ください。	18	153		シテクダサイ	〃	慣:薬を　飲む
2338	ノ	のむ	のむ	五	食前に　のむのですか。	18	153			〃	慣:薬を　飲む
2339	ノ	のむ	のむ	五	いいえ、食前に　のむのでは　ありません。	18	153			〃	慣:薬を　飲む
2340	ノ	のむ	のむ	五	しょくごに　のむのです。	18	153			〃	慣:薬を　飲む
2341	ノ	のむ	のむ	五	マナさんは　病院から　もらった　くすりを　いつ　のみますか。	18	154			〃	慣:薬を　飲む
2342	ノ	のむ	のむ	五	弟は、薬を　のまなければ　ならないので、いやそうな　顔を　しています。	23	204		シナケレバナラナイ	〃	慣:薬を　飲む
2343	ノ	のむ	飲む	五	薬を　飲んでも、だめな　場合は、医者に　みて　もらった　方が　いいでしょう。	27	242	シテモ		〃	慣:薬を　飲む
2344	ノ	のりかえる	のりかえる	下一	父は　しんじゅく駅で　ちかてつから　バスに　のりかえます。	11	93			《人》が　《乗り物》から　《乗り物》に　のりかえる	《人》は　《乗り物》から　《乗り物》に　のりかえる
2345	ノ	のりかえる	のりかえる	下一	父は　ぎんざ駅で　バスから　でんしゃに　のりかえます。	11	93			〃	《人》は　《乗り物》から　《乗り物》に　のりかえる
2346	ノ	のりかえる	のりかえる	下一	かまくら駅で　電車から　バスに　のりかえて、だいぶつの　前の　ていりゅうじょで　バスを　おります。	11	90	シテ		〃	《乗り物》から　《乗り物》に　のりかえる
2347	ノ	のる	のる	五	この　電車に　のって、かまくら駅まで　行きます。	11	90	シテ		《人》が　《乗り物》に　乗る	《乗り物》に　乗る
2348	ノ	のる	のる	五	この　きしゃに　のって、きょうと駅で　おりて、タクシーで　家まで　行きます。	11	94	シテ		〃	《乗り物》に　乗る
2349	ノ	のる	乗る	五	どうぞ　この　車に　お乗りください。	28	250		オ-クダサイ	〃	《乗り物》に　乗る
2350	ノ	のる	乗る	五	家へ　かえって　来る　時は、足の　速い　馬に　乗ります。	Y5	268			〃	《乗り物:馬》に　乗る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2351	ノ	のる	乗る	五	おぼんが おわって、家を 出て 行く 時は、足の おそい 牛に 乗ります。	Y5	268			〃	《乗り物：牛》に 乗る
2352	ノ	のる	乗る	五	家を 出て 行く 時、どうして 牛に 乗って 行くのですか。	Y5	270	シテイク		〃	《乗り物：牛》に 乗る
2353	ノ	のる	乗る	五	では、となりの 席に 乗って ください。	17	143		シテクダサイ	〃	《乗り物：席》に 乗る
2354	ノ	のる	乗る	五	先祖は、どんな 乗り物に 乗って、かえって 来ますか。	Y5	270	シテ		〃	《人》は 《乗り物》に 乗る
2355	ノ	のる	のる	五	わたしは しんじゅく駅で 電車に のります。	11	93			〃	《人》は 《乗り物》に 乗る
2356	ノ	のる	乗る	五	わたしたちの 乗った 船は、世界一周旅行の 途中で、神戸の港に 寄りました。	26	233			〃	《人》が 《乗り物》に 乗る
2357	ハ	はいる	入る	五	公園の しばふに 入って、写真を とっても かまいませんか。	14	117	シテ		《人》が 《場所》に 入る	《場所》に 入る
2358	ハ	はいる	入る	五	しばふに 入っても いいですか。	14	116		シテモイイ	〃	《場所》に 入る
2359	ハ	はいる	入る	五	くつの まま、へやに 入らないで ください。	24	216		シナイデクダサイ	〃	《場所》に 入る
2360	ハ	はいる	入る	五	マナさん、女の 人の 方ばかり 見て いないで、中に 入りましょう。	26	231		シマショウ(誘いかけ)	〃	《場所》に 入る
2361	ハ	はいる	入る	五	もし、上から 何か おちて 来たら、危ないから、つくえや ベットなどの 下に 入る。	Y6	271			〃	《場所》に 入る
2362	ハ	はいる	入る	五	どうぞ 中に 入って、休んで 行って ください。	Y9	278	シテ		〃	《場所》に 入る
2363	ハ	はいる	入る	五	弟は、へやに 入った まま、外へ 出て 来ません。	24	216	シタママ		〃	《人》は 《場所》に 入る
2364	ハ	はいる	入る	五	娘は、部屋に 入った まま、ずっと 中で 仕事を して いました。	Y9	278	シタママ		〃	《人》は 《場所》に 入る
2365	ハ	はいる	入る	五	人間が 火の 中に 入って 行ったら、あぶないですが、ロボットは 入って 行けます。	Y4	266	シテイク		〃	《人》が 《場所》に 入る
2366	ハ	はいる	入る	五	人間が 火の 中に 入って 行ったら、あぶないですが、ロボットは 入って 行けます。	Y4	266	シテイク		〃	《人：ロボット》は 入る
2367	ハ	はいる	入る	五	ええ、入っても いいです。	14	116		シテモイイ	〃	入る
2368	ハ	はいる	入る	五	こうとうがっこうに 入りました。	11	94			《人》が 《組織》に 入る	《組織：学校》に 入る
2369	ハ	はいる	入る	五	入学と いうのは 学校に 入る ことで、そつぎょうと いうのは 学校を 出る ことです。	16	138			〃	《組織：学校》に 入る
2370	ハ	はいる	入る	五	漢字は、大学に 入っても、勉強しなければ なりませんか。	21	185	シテモ		〃	《組織：学校》に 入る
2371	ハ	はいる	入る	五	大学に 入るのに 高校の 卒業証明書が 必要です。	23	206	スルノニ		〃	《組織：学校》に 入る
2372	ハ	はいる	入る	五	国立大学に 入ったら、お金が そんなに かからない はずです。	27	241	シタラ		〃	《組織：学校》に 入る
2373	ハ	はいる	入る	五	私立大学に 入ったら、お金が かかる はずです。	27	241	シタラ		〃	《組織：学校》に 入る
2374	ハ	はいる	入る	五	りゅう学生は この りょうに 入る ことが できます。	16	135	コトガデキル		〃	《人》は 《組織：寮》に 入る
2375	ハ	はいる	入る	五	りゅう学生は この りょうに 入れます。	16	135	デキル		〃	《人》は 《組織：寮》に 入る
2376	ハ	はいる	入る	五	おとうとは 来年 しょうがっこうに 入ります。	11	93			〃	《人》は 《組織：学校》に 入る
2377	ハ	はいる	入る	五	もし、あなたが 商社に 入ったら、また 日本へ 来る ことがあるでしょうね。	20	174	シタラ		〃	《人》が 《組織：会社》に 入る
2378	ハ	はいる	入る	五	それは 大きいから、入らないでしょう。	17	143		～デショウ	《物》が 《場所》に 入る	《物》は 入る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2379	ハ	はいる	入る	五	ほけんに　入る　人は　日本人で　なければ　ならないでしょう。	15	125			慣:保険に　入る	慣:保険に　入る
2380	ハ	はいる	入る	五	マナさんは　けんこうほけんに　入って　いますか。	15	125	シテイル		〃	慣:保険に　入る
2381	ハ	はいる	入る	五	マナさんは　けんこうほけんに　入って　いますか。	15	126			〃	慣:保険に　入る
2382	ハ	はいる	入る	五	日本の　ほけんに　入る　人は　日本人で　なければ　なりませんか。	15	126	シテイル		〃	慣:保険に　入る
2383	ハ	はいる	入る	五	学生は　けんこうほけんに　入っても　入らなくても（どちらでも）いいです。	15	127		シテモイイ	〃	慣:保険に　入る
2384	ハ	はいる	入る	五	学生は　けんこうほけんに　入っても　入らなくても（どちらでも）いいです。	15	127		シナクテモイイ	〃	慣:保険に　入る
2385	ハ	はいる	入る	五	学生は　けんこうほけんに　入らなければ　なりませんか。	15	127		シナケレバナラナイ	〃	慣:保険に　入る
2386	ハ	はいる	入る	五	いいえ、入って　いません。	15	125	シテイル		〃	慣:保険に　入る
2387	ハ	はいる	入る	五	いいえ、入らなくても　かまいません。	15	127		シナクテモカマワナイ	〃	慣:保険に　入る
2388	ハ	はいる	入る	五	いいえ、入らなくても　いいです。	15	127		シナクテモイイ	〃	慣:保険に　入る
2389	ハ	はいる	入る	五	父は、いつも　おふろに　入ってから、ねます。	11	94			慣:お風呂に　入る	慣:お風呂に　入る
2390	ハ	はいる	入る	五	父は、いつも　ねる　前に、おふろに　入ります。	11	94			〃	慣:お風呂に　入る
2391	ハ	はえる	生える	下一	運動場に　草が　生えて　います。	17	147	シテイル		《場所》に《物》が　生える	《場所》に《物:植物》が　生える
2392	ハ	はかる	計る	五	てがみの　重さを　計ります。	11	95			《人》が《数量》を　計る	《数量:重さ》を　計る
2393	ハ	はかる	計る	五	てがみの　たてと　よこの　ながさを　計ります。	11	95			〃	《数量:長さ》を　計る
2394	ハ	はかる	計る	五	熱を　計りましたか。	18	151			〃	《数量:熱》を　計る
2395	ハ	はかる	計る	五	はい。さっき　計りましたが、三十八度　五分も　ありました。	18	151			〃	計る
2396	ハ	はく	はく	五	マリアさんは　ピンクの　スカートを　はいて、黄色い　ハンドバックを　もって　います。	13	111	シテ		《人》が《物》を　はく	《人》は《物:服》を　はく
2397	ハ	はく	はく	五	くつを　かう　前に、ちょっと　はいて　みました。	14	121	シテミル		〃	《物:くつ》を　はく
2398	ハ	はこぶ	運ぶ	五	一人で　この　にもつを　運ばなければ　なりません。	15	127		シナケレバナラナイ	《人》が《物》を《場所》から《場所》に／へ　運ぶ	《物》を　運ぶ
2399	ハ	はこぶ	運ぶ	五	この　にもつは　軽いから、一人で　運べます。	16	138	デキル		〃	《物》を　運ぶ
2400	ハ	はこぶ	運ぶ	五	わたしは　友だちに　荷物を　運ぶように(と)　頼みました。	26	232	スルヨウニ命ジル		〃	《人》は《物》を　運ぶ
2401	ハ	はじまる	はじまる	五	しょくどうは　よる　なんじに　はじまりますか。	3	17			《事／イベント》が　始まる	《事:食堂(の営業)》は　始まる
2402	ハ	はじまる	はじまる	五	りょうの　しょくどうは　なんじに　はじまりますか。	3	19			〃	《事:食堂(の営業)》は　始まる
2403	ハ	はじまる	はじまる	五	がっこうは、八時半に　はじまって、四時に　おわります。	11	94	シテ		〃	《事:学校(の授業)》は　始まる
2404	ハ	はじまる	はじまる	五	仕事が　はじまりました。	17	146			〃	《事:仕事》が　始まる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2405	ハ	はじまる	はじまる	五	いまから　800年ぐらい　前に、ここで　さむらいの　せいじが　はじまりました。	Y2	261			〃	《事：さむらいの政治》が　始まる
2406	ハ	はじまる	はじまる	五	いまから　800年ぐらい　前に、東日本で　なにが　はじまりましたか。	Y2	262			〃	《事》が　始まる
2407	ハ	はじまる	はじまる	五	よる　六じに　はじまります。	3	17			〃	始まる
2408	ハ	はじまる	始まる	五	そろそろ　式が　始まりそうですよ。	26	231		シソウダ	〃	《イベント：式》が　始まる
2409	ハ	はじまる	はじまる	五	なにが　はじまりましたか。	7	59			〃	《イベント》が　始まる
2410	ハ	はじまる	はじまる	五	たんじょう日の　パーティーが　はじまりました。	7	59			〃	《イベント：パーティー》が　始まる
2411	ハ	はじまる	始まる	五	広場で　ぼんおどりが　始まりましたよ。	19	163			〃	《イベント：ぼんおどり》が　始まる
2412	ハ	はじまる	始まる	五	でも、もうすぐ　とうろん会が　始まりますよ。	22	194			〃	《イベント：とうろん会》が　始まる
2413	ハ	はじまる	はじまる	五	パーティーは　きのうの　ゆうがた　四じに　はじまりました。	3	21			〃	《イベント：パーティー》は　始まる
2414	ハ	はじまる	はじまる	五	パーティーは　何時に　はじまるか、（時間を）　おしえて　ください。	13	111			〃	《イベント：パーティー》は　始まる
2415	ハ	はじめる	はじめる	下一	これから　じゅぎょうを　はじめます。	10	81			《人》が　《事／イベント》を　はじめる	《事：授業》を　はじめる
2416	ハ	はじめる	はじめる	下一	さあ、夕食の　用意を　はじめましょう。	17	144		シマショウ（誘いかけ）	〃	《事：用意》を　はじめる
2417	ハ	はじめる	はじめる	下一	工場の　人たちが　仕事を　はじめました。	17	146			〃	《人》が　《事》を　はじめる
2418	ハ	はしる	はしる	五	じどうしゃが　たくさん　はしって　います。	11	93	シテイル		《人／乗り物》が　《場所》を　《場所》から　《場所》に／へ／まで　走る	《乗り物》が　走る
2419	ハ	はしる	はしる	五	道の　方から　自動車の　はしる　音が　きこえます。	17	146			〃	《乗り物》が　走る
2420	ハ	はしる	はしる	五	車は、今、どの　へんを　はしって　いますか。	17	143	シテイル		〃	《乗り物》は　《場所》を　走る
2421	ハ	はしる	はしる	五	特急電車は　この　せんろを　はしります。	17	147			〃	《乗り物》は　《場所》を　走る
2422	ハ	はしる	はしる	五	犬が　こちらへ　はしって　来ます。	17	147	シテクル		〃	《動物》が　《場所：こちら》へ　走る
2423	ハ	はしる	はしる	五	犬が　あちらへ　はしって　行きます。	17	147	シテイク		〃	《動物》が　《場所：あちら》へ　走る
2424	ハ	はしる	はしる	五	マナさんは　小林さんと　同じぐらい　速く　はしれますか。	18	157	デキル		〃	《人》は　走る
2425	ハ	はしる	はしる	五	いいえ、マナさんは　小林さんほど　速く　はしれません。	18	157	デキル		〃	《人》は　走る
2426	ハ	はしる	はしる	五	川を　わたってから、西の　方へ　はしって　来ましたね。	17	143	シテクル		〃	《場所：西の方》へ　走る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2427	ハ	はしる	走る	五	じゅぎょうに 間に合うように、教室まで 走って 行きました。	22	198	シテイク		〃	《場所》まで 走る
2428	ハ	はしる	はしる	五	ふつうの 日だったら、もっと 速く はしれますが. . . 。	17	143	デキル		〃	走る
2429	ハ	はずす	外す	五	シャツの ボタンを 外して、台の 上に 横に なって ください。	18	152	シテ		《人》が 《物》を 外す	《物：ボタン》を 外す
2430	ハ	はたらく	はたらく	五	留学生は、帰国後、民間の 会社で はたらく 人が 多いのですか。	20	174			《人》が 働く	《人》は 《組織》で 働く
2431	ハ	はたらく	はたらく	五	アリさんの 国の 留学生は、将来 どんな 所で はたらきますか。	20	175			〃	《人》は 《組織》で 働く
2432	ハ	はたらく	はたらく	五	わたしは、帰国後、新聞社か 放送局で はたらく つもりです。	20	176		～ツモリダ	〃	《人》は 《組織》で 働く
2433	ハ	はたらく	働く	五	それで、人々は、しかたなく 都会へ 働きに 行くのです。	25	222	シニ		〃	《人》は 働く
2434	ハ	はたらく	働く	五	若者は、お金が もっと 欲しく なり、娘を 働かせるように なりました。	Y9	279	サセル、スルヨウニナル		〃	《人》は 働く
2435	ハ	はたらく	働く	五	冬の 間、雪国の 人々が 都会へ 働きに 行くのは どうしてですか。	25	223	シニ		〃	《人》が 働く
2436	ハ	はたらく	働く	五	娘の 働いて いる 部屋へ 行って みました。	Y9	279	シテイル		〃	《人》が 働く
2437	ハ	はたらく	働く	五	しかし、ふかい 海の 中で 働くのは、月の 上で 働くのと 同じように 大変である。	Y8	275			〃	《場所》で 働く
2438	ハ	はたらく	働く	五	しかし、ふかい 海の 中で 働くのは、月の 上で 働くのと 同じように 大変である。	Y8	275			〃	《場所》で 働く
2439	ハ	はたらく	働く	五	いつも まじめに 働いて いましたが、	Y9	277	シテイル		〃	働く
2440	ハ	はたらく	働く	五	あなたの ために、働こうと 思って、この 家に 来ました。	Y9	280		シヨウト	〃	働く
2441	ハ	はたらく	はたらく	五	でも、政府の 仕事を したり、国の 研究所で はたらいたり する 人も おおぜい います。	20	174	シタリ		〃	《組織》で 働く
2442	ハ	はっぴょうする	発表する	サ変	せんしゅう、会議で 新しい 予定が 発表されました。	24	215	サレル		《人》が 《人》に 《事》を 発表する	《事》を 発表する
2443	ハ	はっぴょうする	発表する	サ変	渡辺さん、実験の 結果を 発表して ください。	27	237		シテクダサイ	〃	《事》を 発表する
2444	ハ	はつばいする	発売する	サ変	きのう 記念切手が 発売されました。	24	215	サレル		《人》が 《物》を 発売する	《物》を 発売する
2445	ハ	はなす	はなす	五	日本の 文学に ついて いろいろ はなしましょう。	12	99		シマショウ(誘いかけ)	《人》が 《人》に／と 《事》を 話す	《事：文学》について 話す
2446	ハ	はなす	はなす	五	あなたの 国の けいざいに ついて はなして ください。	12	103		シテクダサイ	〃	《事》について 話す
2447	ハ	はなす	話す	五	たなかさんの かぞくに ついて 話して ください。	19	164		シテクダサイ	〃	《事》について 話す
2448	ハ	はなす	話す	五	雪国の 生活の きびしさに ついて 話して ください。	25	223		シテクダサイ	〃	《事》について 話す
2449	ハ	はなす	話す	五	ゆっくり 話せば、わかります。	21	187	スレバ		〃	話す
2450	ハ	はなす	話す	五	ゆっくり 話さなければ、わかりません。	21	187	スレバ		〃	話す
2451	ハ	はなす	話す	五	先生方は あの 部屋で 話して いらっしゃいます。	28	249	シテイラッシャル		〃	《人》は 話す
2452	ハ	はなす	はなす	五	先生は クラスで 学生に はなしました。	8	67			〃	《人》は 《人》に 話す
2453	ハ	はなす	はなす	五	先生に はなす ことばは ていねいで なければ なりません。	15	127			〃	《人》に 話す

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2454	ハ	はなす	話す	五	日本の 若者に あなたの 意見を いろいろ 話して 来て ください。	22	193	シテクル		〃	《人》に 《事:意見》を 話す
2455	ハ	はなす	はなす	五	おとうとは でんわで 兄と はなしました。	8	67			〃	《人》は 《人》と 話す
2456	ハ	はなす	話す	五	その 人は 日本語が 話せますか。	16	132	デキル		《人》が 《事》を 話す	《人》は 《事:言語》を 話す
2457	ハ	はなす	話す	五	アリさんの 友だちは 日本語が 話せますか。	16	134	デキル		〃	《人》は 《事:言語》を 話す
2458	ハ	はなす	話す	五	わたしは、小林さんのように 上手に 外国語を 話したいです。	20	178		シタイ	〃	《人》は 《事:言語》を 話す
2459	ハ	はなす	話す	五	あまり 話せませんが、かんたんな 会話だったら、できます。	16	132	デキル		〃	話す
2460	ハ	はらう	払う	五	びょうきに なった 時、あまり お金を 払わなくても いいですよ。	15	125		シナクテモイイ	《人》が 《人》に 《物》を 払う	《物:お金》を 払う
2461	ハ	はる	はる	五	食堂に 大学祭の プログラムが はって ありますね。	22	193	シテアル		《人》が 《場所／物》に 《物》を はる	《場所》に 《物》を はる
2462	ハ	はる	はる	五	りょうの 食堂には 何が はって ありますか。	22	195	シテアル		〃	《場所》に 《物》を はる
2463	ハ	はる	はる	五	かべには かんじの 表が はって あります。	22	198	シテアル		〃	《場所》に 《物》を はる
2464	ハ	はる	はる	五	外側に はって あるのは 紙ですね。	23	202	シテアル		〃	《場所》に 《物》を はる
2465	ハ	はる	はる	五	この のりを 使って カードに 絵を はりなさい。	20	177		シナサイ	〃	《物》に 《物》を はる
2466	ハ	はる	はる	五	あれは、わたしが はって おいたのです。	22	193	シテオク		〃	《人》が 《物》を はる
2467	ハ	はれる	晴れる	下一	けさは 空が 晴れて います。	17	147	シテイル		《場所》が 晴れる	《場所:空》が 晴れる
2468	ハ	はんたいする	反対する	サ変	わたしは、留学したいと 思いましたが、両親に 反対されました。	24	214	サレル		《人》が 《事》に 反対する	《人》が 反対する
2469	ヒ	ひかる	光る	五	星が 光って いるのが 見えます。	23	205	シテイル		《物》が 光る	《物:星》が 光る
2470	ヒ	ひく	ひく	五	マナさんは ギターを ひきますか。	3	18			《人》が 《物》を ひく	《人》は 《物:弦楽器》を ひく
2471	ヒ	ひく	ひく	五	マナさんは パーティーで ギターを ひきました。	3	18			〃	《人》は 《物:弦楽器》を ひく
2472	ヒ	ひく	ひく	五	学生たちは いま ギターを ひいたり、うたったり して います。	12	101	シタリ		〃	《人》は 《物:弦楽器》を ひく
2473	ヒ	ひく	ひく	五	マナさんは わたしより 上手に ギターが ひけます。	18	156	デキル		〃	《人》は 《物:弦楽器》を ひく
2474	ヒ	ひく	ひく	五	あなたも ギターを ひきましたか。	3	18			〃	《人》も 《物:弦楽器》を ひく
2475	ヒ	ひく	ひく	五	はい、ひきます。	3	18			〃	ひく
2476	ヒ	ひく	ひく	五	いいえ、ひきませんでした。	3	18			〃	ひく
2477	ヒ	ひく	ひく	五	そして、ピアノも ひきました。	3	18			〃	《物:弦楽器》も ひく
2478	ヒ	ひく	ひく	五	わたしは ときどき かぜを ひく ことが あります。	19	165			慣:風邪を ひく	慣:風邪を ひく
2479	ヒ	ひく	ひく	五	かぜを ひいたから、学校を 休んだのです。	19	167			〃	慣:風邪を ひく
2480	ヒ	ひく	ひく	五	かぜを ひいたからです。	19	167			〃	慣:風邪を ひく
2481	ヒ	ひく	ひく	五	学校を 休んだのは かぜを ひいたからです。	19	168			〃	慣:風邪を ひく
2482	ヒ	ひく	ひく	五	わたしたちは 雨に 降られました。（かぜを ひきました。）	24	215			〃	慣:風邪を ひく
2483	ヒ	ひく	ひく	五	どうも かぜを ひいて しまった ようです。	25	224	シテシマウ		〃	慣:風邪を ひく
2484	ヒ	ひく	引く	五	ときどき じしょを 引きましたが、だいたい わかりました。	12	99			慣:辞書を 引く	慣:辞書を 引く
2485	ビ	びっくりする	びっくりする	サ変	わたしは、大きい 声を 出して、友だちを びっくりさせました。	27	240	サセル		《人》が Nに びっくりする	《人》は びっくりする

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2486	ビ	びっくりする	びっくりする	サ変	この　回数を　聞くと、外国人は　たいてい　びっくりする。	Y6	271			〃	《人》は　びっくりする
2487	ビ	びっくりする	びっくりする	サ変	若者は　中を　見て、びっくりして　しまいました。	Y9	279	シテシマウ		〃	《人》は　びっくりする
2488	ビ	びっくりする	びっくりする	サ変	わたしたち　教師を　びっくりさせる　ことも　あります。	27	238	サセル		〃	びっくりする
2489	ヒ	ひやす	冷やす	五	まず、試験管の　水を　氷で　冷やしなさい。	27	237		シナサイ	《人》が　《物》を　冷やす	《物》を　冷やす
2490	ヒ	ひらく	開く	五	昭和39年(1964年)に　東京で　オリンピックが　開かれました。	24	215	サレル		《人》が　《イベント》を　開く	《イベント:オリンピック》を　開く
2491	ヒ	ひろう	ひろう	五	公園の　ごみを　ひろいなさい。	14	121		シナサイ	《人》が　《物》を　ひろう	《物》を　ひろう
2492	フ	ふえる	増える	下一	ニュースに　よると、未成年者の　交通事故が　増えて　きた　そうです。	26	232	シテクル		Nが　増える	《N:事故》が　増える
2493	フ	ふえる	増える	下一	氷が　こおると、体積が　1.1倍に　増える　ことが　わかりました。	27	237			〃	《N:体積》が　増える
2494	フ	ふえる	増える	下一	しかし、人間が　どんどん　増えて、住む　所は　せまく　なった。	Y8	275	シテ		〃	《N:人口》が　増える
2495	フ	ふえる	増える	下一	新聞で　読みましたが、去年　東京の　人口は　あまり　増えなかった　ようです。	25	224		～ヨウダ	〃	《N:人口》は　増える
2496	フ	ふく	ふく	五	よる　かぜが　ふきました。	7	59			《現象》が　ふく	《現象:風》が　ふく
2497	フ	ふく	ふく	五	かぜが　ふいて　います。	11	93	シテイル		〃	《現象:風》が　ふく
2498	フ	ふく	ふく	五	風が　ふいて、戸が　開きました。今、戸が　開いて　います。	22	198	シテ		〃	《現象:風》が　ふく
2499	フ	ふく	ふく	五	風が　ふいて、火が　消えました。今、火が　消えて　います。	22	198	シテ		〃	《現象:風》が　ふく
2500	フ	ふく	ふく	五	風が　つよく　ふいたので、木が　たおれそうに　なりました。	23	205			〃	《現象:風》が　ふく
2501	フ	ふく	ふく	五	かぜも　ふきましたね。	7	55			〃	《現象:風》も　ふく
2502	フ	ふくしゅうする	復習する	サ変	じゅぎょうに　出たら、後で　よく　復習しなさい。	21	188		シナサイ	《人》が　《事》を　復習する	復習する
2503	フ	ふとる	太る	五	いいえ、マナさんは　小林さんほど　太って　いません。	18	156	シテイル		《人》が　太る	《人》が　太る
2504	フ	ふとる	太る	五	マナさんは　小林さんと　同じぐらい　太って　いますか。	18	156	シテイル		〃	《人》が　太る
2505	フ	ふとる	太る	五	わたしは　兄弟の　中で　太って　いる　方です。	27	242	シテイル		〃	《人》が　太る
2506	フ	ふむ	ふむ	五	帰り道では　背中を　押されたり、足を　ふまれたり　しました。	24	211	サレル、シタリ		《人》が　《物》を　ふむ	《人》が　《物》を　ふむ
2507	フ	ふる	ふる	五	一日じゅう　雨が　ふりました。	7	55			《現象》が　降る	《現象:雨》が　降る
2508	フ	ふる	ふる	五	その　日は　雨や　ゆきが　ふりましたか。	7	57			〃	《現象:雨・雪》が　降る
2509	フ	ふる	ふる	五	あした　雨が　ふるか　ふらないか、わかりません。	9	74			〃	《現象:雨》が　降る
2510	フ	ふる	ふる	五	あした　雨が　ふるか　ふらないか、わかりません。	9	74			〃	《現象:雨》が　降る
2511	フ	ふる	ふる	五	あした　雨が　ふるか　どうか、わかりません。	9	74			〃	《現象:雨》が　降る
2512	フ	ふる	ふる	五	いま、雨が　ふって　います。	11	93	シテイル		〃	《現象:雨》が　降る
2513	フ	ふる	ふる	五	もし、あした　雨が　ふったら、ハイキングに　行きません。	16	136	シタラ		〃	《現象:雨》が　降る
2514	フ	ふる	ふる	五	(もし、)あした　雨が　ふらなかったら、ハイキングに　行きます。	16	136	シタラ		〃	《現象:雨》が　降る
2515	フ	ふる	降る	五	雨が　降りそうだから、かさは　持って　行きましょう。	23	202		シソウダ	〃	《現象:雨》が　降る
2516	フ	ふる	降る	五	わたしたちは　雨に　降られました。(かぜを　ひきました。)	24	215	サレル		〃	《現象:雨》が　降る
2517	フ	ふる	降る	五	毎日　雨ばかり　降って　います。	25	224	シテイル		〃	《現象:雨》が　降る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2518	フ	ふる	降る	五	雨が　降って　きました。	25	226	シテクル		〃	《現象:雨》が　降る
2519	フ	ふる	ふる	五	けさ　雪が　ふりました。	7	59			〃	《現象:雪》が　降る
2520	フ	ふる	降る	五	タンさん、雪が　降って　きましたよ。	25	221	シテクル		〃	《現象:雪》が　降る
2521	フ	ふる	降る	五	雪の　降る　夜、若者が　家の　中で　仕事を　して　いる　時、戸を　たたく　音が　聞こえました。	Y9	277			〃	《現象:雪》が　降る
2522	フ	ふる	降る	五	今、ちょうど　降り始めた　ところですよ。	25	221	シタトコロ		〃	降る
2523	ヘ	へる	減る	五	ニュースで　聞きましたが、最近　交通事故が　減った　ようです。	25	224		～ヨウダ	Nが　減る	《N:事故》が　減る
2524	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは　日本の　大学で　電気工学を　べんきょうします。	10	85			《人》が《事》を　勉強する	《人》は《事:学問》を　勉強する
2525	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは　日本へ　文学を　べんきょうしに　来ました。	10	85	シニ		〃	《人》は《事:学問》を　勉強する
2526	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは、あまり　数学を　べんきょうせずに、日本へ　来たので、今　ちょっと　こまって　います。	20	174	セズニ		〃	《人》は《事:学問》を　勉強する
2527	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	アリさんは、数学を　よく　べんきょうしてから、日本へ　来ましたか。	20	175			〃	《人》は《事:学問》を　勉強する
2528	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	アリさんは、日本で　何を　専門に　べんきょうする　つもりですか。	20	175		～ツモリダ	〃	《人》は《事:学問》を　勉強する
2529	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは　大学院で　東洋史を　専門に　べんきょうする　つもりです。	20	176		～ツモリダ	〃	《人》は《事:学問》を　勉強する
2530	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	(わたしは)大学院で　西洋史を　専門に　べんきょうしようと　思って　います。	20	176		シヨウト	〃	《人》は《事:学問》を　勉強する
2531	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは、父の　会社を　経営する　ために、経営学を　べんきょうしなければ　なりません。	20	177		シナケレバナラナイ	〃	《人》は《事:学問》を　勉強する
2532	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは、この　がっこうで　1年かん　日本ごや　すうがくなどを　べんきょうします。	Y1	260			〃	《人》は《事:学問》を　勉強する
2533	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	あなたは　おととい　えいごを　べんきょうしましたか。	3	20			〃	《人》は《事:言語》を　勉強する
2534	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	いいえ、わたしは　おととい　えいごを　べんきょうしませんでした。	3	20			〃	《人》は《事:言語》を　勉強する
2535	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	マナさんは、一年間　日本ごを　べんきょうしてから、日本へ　来ました。	11	94			〃	《人》は《事:言語》を　勉強する
2536	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	マナさんは、日本へ　来る　前に、一年間　日本ごを　べんきょうしました。	11	94			〃	《人》は《事:言語》を　勉強する
2537	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは、英語を　べんきょうして　いますが、通訳に　なろうとは思って　いません。	20	176	シテイル		〃	《人》は《事:言語》を　勉強する
2538	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは、タイで　10か月ぐらい　日本ごを　べんきょうしました。	Y1	259			〃	《人》は《事:言語》を　勉強する
2539	ベ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	マナさんは、タイで　どのぐらい　日本ごを　べんきょうしましたか。	Y1	260			〃	《人》は《事:言語》を　勉強する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2540	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	ジョンさんは　ひらがなを　べんきょうしました。	3	21			〃	《人》は《事:文字》を　勉強する
2541	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	ジョンさんは　ひらがなを　べんきょうしました。	3	21			〃	《人》は《事:文字》を　勉強する
2542	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	ジョンさんは　あした　かんじを　べんきょうします。	3	21			〃	《人》は《事:文字》を　勉強する
2543	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	ジョンさんは　あさっても　かんじを　べんきょうします。	3	21			〃	《人》は《事:文字》を　勉強する
2544	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	アリさんは、特に　どんな　ことを　べんきょうする　つもりですか。	20	174		～ツモリダ	〃	《人》は《事》を　勉強する
2545	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	ジョンさんは　かたかなも　べんきょうしました。	3	21			〃	《人》は《事:文字》も　勉強する
2546	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	マリアさんも　ひらがなを　べんきょうしました。	3	21			〃	《人》も《事:文字》を　勉強する
2547	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは　まいにち　としょしつで　べんきょうします。	3	21			〃	《人》は　勉強する
2548	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	マナさんは　ときどき　としょしつで　べんきょうします。	3	21			〃	《人》は　勉強する
2549	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	アリさんは　やすみの　日に　どのぐらい　べんきょうしましたか。	5	35			〃	《人》は　勉強する
2550	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	おとうとは　外国の　大学で　べんきょうしたいと　言って　います。	14	118		シタイ	〃	《人》は　勉強する
2551	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは　きのう　八時間も　べんきょうしました。	15	129			〃	《人》は　勉強する
2552	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	弟は　いつも　音楽を　聞きながら、べんきょうします。	19	166			〃	《人》は　勉強する
2553	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	留学生は、国の　ために、べんきょうして　います。	20	177	シテイル		〃	《人》は　勉強する
2554	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	ゆうべ、アリさんは、ねないで、べんきょうしました。	20	178			〃	《人》は　勉強する
2555	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	ゆうべ、アリさんは、ねずに、べんきょうしました。	20	178			〃	《人》は　勉強する
2556	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	弟は、勉強せずに、遊んでばかり　います。	25	224	セズニ		〃	《人》は　勉強する
2557	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	弟は　よく　勉強しました。それなのに、せいせきが　上がりませんでした。	25	225			〃	《人》は　勉強する
2558	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	弟は、よく　勉強したのに、せいせきが　上がりませんでした。	25	225			〃	《人》は　勉強する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2559	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	わたしは、夏休みの　間に、ずっと　町の　図書館で　勉強するつもりです。	26	233		～ツモリダ	〃	《人》は　勉強する
2560	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	生徒も、先生の　言う　とおりに、熱心に　勉強して　いた。	27	239	シテイル		〃	《人》は　勉強する
2561	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	中村先生は　生徒に　たくさん　勉強させる　方ですか。	27	239	サセル		〃	《人》は　勉強する
2562	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	なんじかんぐらい　べんきょうしましたか。	5	33			〃	勉強する
2563	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	五じかんぐらい　べんきょうしました。	5	33			〃	勉強する
2564	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	きょうと　あした　べんきょうします。	6	48			〃	勉強する
2565	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	りょうで　べんきょうします。	9	72			〃	勉強する
2566	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	漢字は、大学に　入っても、勉強しなければ　なりませんか。	21	185		シナケレバナラナイ	〃	勉強する
2567	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	べんきょうしても、せいせきが　上がらないでしょう。	21	187	シテモ		〃	勉強する
2568	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	べんきょうしなくても、せいせきが　上がるでしょう。	21	187	シナクテモ		〃	勉強する
2569	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	わたしは　母に「べんきょうしなさい。」と　いつも　言われます。	24	214		シナサイ	〃	勉強する
2570	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	自習室で　勉強して　いたので、雪には　全然　気が　つきませんでした。	25	221	シテイル		〃	勉強する
2571	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	まいにち、あさから　ばんまで　べんきょうします。	Y1	259			〃	勉強する
2572	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	経営学を　専門に　べんきょうする　つもりです。	20	174		～ツモリダ	〃	《事：学問》を　勉強する
2573	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	そして、大学で　すうがくを　べんきょうします。	Y1	260			〃	《事：学問》を　勉強する
2574	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	きょうは　日本ごを　べんきょうします。	6	48			〃	《事：言語》を　勉強する
2575	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	あしたは　えいごを　べんきょうします。	6	48			〃	《事：言語》を　勉強する
2576	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	大学では　日本ごや　えいごを　べんきょうしますか。	9	71			〃	《事：言語》を　勉強する
2577	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	大学では　日本ごや　えいごを　べんきょうしますか。	9	73			〃	《事：言語》を　勉強する

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2578	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	はい、その　つもりで、外国語を　べんきょうして　います。	20	176	シテイル		〃	《事：言語》を　勉強する
2579	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	英語を　べんきょうする　ために、この　じしょを　買いました。	20	177	スルタメニ		〃	《事：言語》を　勉強する
2580	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	日本ごは　べんきょうしますが、えいごは　べんきょうしません。	9	71			〃	《事：言語》は　勉強する
2581	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	日本ごは　べんきょうしますが、えいごは　べんきょうしません。	9	71			〃	《事：言語》は　勉強する
2582	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	ちゅうごくごも　べんきょうしませんか。	9	71		（シマセンカ：単なる質問）	〃	《事：言語》も　勉強する
2583	べ	べんきょうする	べんきょうする	サ変	はい、ちゅうごくごも　べんきょうしません。	9	71			〃	《事：言語》も　勉強する
2584	べ	べんきょうする	勉強する	サ変	今日は、水の　温度と　体積の　関係に　ついて　勉強します。	27	237			〃	《事》について　勉強する
2585	ホ	ほうそうする	放送する	サ変	夜、テレビの　番組で　各地の　様子が　放送されました。	24	212	サレル		《人》が　《事／物》を　放送する	《事：様子》を　放送する
2586	ホ	ほうそうする	放送する	サ変	元旦の　夜、マナさんの　見て　いた　テレビでは　どんな　番組が　放送されましたか。	24	213	サレル		〃	《物：映像作品》を　放送する
2587	ホ	ほうそうする	放送する	サ変	大きい　じしんが　あった　時は、ラジオや　テレビで　放送するから、よく　聞いて、正しい　ニュースを　知る　ことが　大切で　ある。	Y6	271			〃	放送する
2588	ホ	ほめる	ほめる	下一	先生は　まだ　一度しか　わたしを　ほめた　ことが　ありません。	19	165			《人》が　《人》を　ほめる	《人》は　《人》を　ほめる
2589	ホ	ほめる	ほめる	下一	わたしは　弟を　ほめて　やりました。	22	196	シテヤル		〃	《人》は　《人》を　ほめる
2590	ホ	ほめる	ほめる	下一	わたしは　先生に　ほめられました。	24	214	サレル		〃	《人》は　《人》を　ほめる
2591	ホ	ほめる	ほめる	下一	みんな　ほめてらっしゃいました。	28	246	シテイラッシャル		〃	《人：みんな》　ほめる
2592	ホ	ほんやくする	ほんやくする	サ変	この　えいごの　文を　日本語に　ほんやくしなさい。	14	121		シナサイ	《人》が　《言語》を　《言語》に　ほんやくする	《言語：英語の文》を　《言語：日本語》に　ほんやくする
2593	マ	まいる	まいる	五	東京の　ような　都会にも、お宮や　お寺に　おまいりする　しゅうかんが　ありますか。	24	210		オ-スル	《人》が　《場所》に　おまいりする	《場所：お宮やお寺》に　おまいりする
2594	マ	まいる	まいる	五	今度は、近くの　小さな　お寺に　おまいりする　つもりです。	24	211		オ-スル、～ツモリダ	〃	《場所：お寺》に　おまいりする
2595	マ	まいる	まいる	五	おおぜいの　人が　おまいりします。	24	210		オ-スル	〃	《人》が　おまいりする
2596	マ	まいる	まいる	五	お正月に　いっしょに　おまいりできて、楽しかったですね。	26	229	デキル	オ-スル	〃	おまいりする
2597	マ	まいる	参る	五	すぐ　そちらへ　参ります。	28	250		敬譲	《人》が　《場所》に／へ　参る	《場所：そちら》へ　参る
2598	マ	まいる	参る	五	さっき　こちらへ　参りました。	28	250		敬譲	〃	《場所：こちら》へ　参る
2599	マ	まがる	曲がる	五	あの　二番目の　かどを　曲がって　ください。	17	147		シテクダサイ	《人／乗り物》が　《場所》を　曲がる	《場所》を　曲がる
2600	マ	まがる	曲がる	五	バスが　角を　曲がる　度に、ゆれます。	28	252			〃	《乗り物》が　《場所》を　曲がる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2601	マ	まがる	曲がる	五	この 道を まっすぐ 行って、二番目の 角を 左へ 曲がると、広場に 出ます。	19	163	スルト		《人》が 《場所》を 《方向》へ 曲がる	《場所》を 《方向:左》へ 曲がる
2602	マ	まける	負ける	下一	わたしは、けんかを する 度に、兄に 負けました。	28	252			《人》が 《人》に 負ける	《人》は 《人》に 負ける
2603	マ	まぜる	まぜる	下一	つぎに、氷の 中に、食塩を 三分の一 ほど まぜて みなさい。	27	237	シテミル		《人》が 《物》に 《物》を まぜる	《物》に 《物》を まぜる
2604	マ	まちがえる	まちがえる	下一	まちがえないように、スピーチの 練習を して おきたいのです。	22	193	シナイヨウニ		《人》が 《事》を まちがえる	まちがえる
2605	マ	まちがえる	まちがえる	下一	マナさんは、じゅぎょうの 時、まちがえてばかり います。	25	225	シテイル		〃	《人》は まちがえる
2606	マ	まつ	まつ	五	ちょっと まって ください。	10	84		シテクダサイ	《人》が 《事／人》を 待つ	待つ
2607	マ	まつ	まつ	五	ながい 間 まちましたか。	11	90			〃	待つ
2608	マ	まつ	まつ	五	あ、ちょっと まって ください。	11	91		シテクダサイ	〃	待つ
2609	マ	まつ	まつ	五	げんかんで まって いて ください。	11	91	シテイル		〃	待つ
2610	マ	まつ	待つ	五	それまで りょうで 待って いて ください。	21	184	シテイル		〃	待つ
2611	マ	まつ	待つ	五	ここで 待ってて ください。	28	253	シテイル		〃	待つ
2612	マ	まつ	待つ	五	学生たちは、家族から 手紙が 来るのを 待って います。	23	205	シテイル		〃	《人》は 《事:V-するの》を 待つ
2613	マ	まつ	待つ	五	母が 買い物を して いる 間、父は 車の 中で 待って いました。	26	233	シテイル		〃	《人》が 待つ
2614	マ	まにあう	間に合う	五	じゅぎょうに 間に合うように、教室まで 走って 行きました。	22	198	スルヨウニ		《人》が 《イベント》に 間に合う	《イベント:授業》に 間に合う
2615	マ	まにあう	間に合う	五	大雨で 電車が おくれたので、じゅぎょうに 間に合いませんでした。	24	217			〃	《イベント:授業》に 間に合う
2616	マ	まにあう	間に合う	五	今、ちょうど 十時ですよ。間に合って よかったですね。	26	231	シテ		〃	間に合う
2617	マ	まねく	招く	五	こんな すばらしい とうろん会に 招いて いただいて、ありがとう ございました。	22	195	シテイタダク		《人》が 《人》を 《イベント》に 招く	《イベント:とうろん会》に 招く
2618	マ	まもる	守る	五	社長は 社員に 規則を 守るように(と) 命令しました。	26	232	スルヨウニ命ジル		《人》が 《事》を 守る	《人》は 《事:規則》を 守る
2619	マ	まもる	守る	五	(子どもでも 大人でも)だれでも 法律を 守らなければ なりません。	26	232		シナケレバナラナイ	〃	《人》でも 《事:法律》を 守る
2620	マ	まもる	守る	五	でも、あなたが 約束を 守らなかったので、もう いっしょに いることが できません。	Y9	280			〃	《人》が 《事:約束》を 守る
2621	マ	まもる	まもる	五	サングラスは、目を まもる ために、使います。	20	177	スルタメニ		《物》が 《物》を 《事》から 守る	《物》は 《物》を 守る
2622	マ	まもる	守る	五	わたしも、「アジアの みどりを 守ろう」と いう 題で 話を する予定です。	22	193		シヨウ	〃	《物》を 守る
2623	マ	まよう	まよう	五	道に まよって しまいました。(つかれました。)	24	215	シテシマウ		《人》が 《場所》に まよう	《場所:道》に まよう
2624	マ	まよう	まよう	五	私は、しんるいの 家へ 行く ところですが、途中で、道に まよって しまいました。	Y9	278	シテシマウ		〃	《人》は 《場所:道》に まよう
2625	マ	まわる	回る	五	あの 犬は 木の まわりを 回って います。	17	147	シテイル		《動物》が 《場所》を 回る	《動物》は 《場所》を 回る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2626	マ	まわる	回る	五	そして、若者の 頭の 上を ゆっくり 回ってから、山の 向こうへ とんで 行きました。	Y9	277			〃	《場所》を 回る
2627	ミ	みえる	見える	下一	山の 上から 海が 見えます。	17	146			《場所》から 《物／事》が 見える	《場所》から 《物：海》が 見える
2628	ミ	みえる	見える	下一	きょうしつから 運動場が 見えます。	17	146			〃	《場所》から 《物：運動場》が 見える
2629	ミ	みえる	見える	下一	また、月の 表面は 望遠鏡で 見えるが、ふかい 海中は 見えないので、中が どう なって いるのか、くわしい ことは、まだ よく わかって いない。	Y8	275			〃	《物：月の表面》は 見える
2630	ミ	みえる	見える	下一	また、月の 表面は 望遠鏡で 見えるが、ふかい 海中は 見えないので、中が どう なって いるのか、くわしい ことは、まだ よく わかって いない。	Y8	275			〃	《物：海中》は 見える
2631	ミ	みえる	見える	下一	清水寺の 坂の ところで 何が 見えましたか。	23	203			〃	《場所：坂のところ》で 《物》が 見える
2632	ミ	みえる	見える	下一	あ、見えました。	17	144			〃	見える
2633	ミ	みえる	見える	下一	星が 光って いるのが 見えます。	23	205			〃	《事：V-しているの》が 見える
2634	ミ	みえる	見える	下一	夕方の 空を 白い つるが とんで いるのが 見えました。	Y9	280			〃	《事：V-しているの》が 見える
2635	ミ	みえる	見える	下一	あの へんから ふじさんが きれいに 見えますよ。	17	143			《物／現象》が Adj-く／に 見える	《物：山》が Adj-に 見える
2636	ミ	みえる	見える	下一	今日は ふじさんが きれいに 見えます。	17	148			〃	《物：山》が Adj-に 見える
2637	ミ	みえる	見える	下一	その 日は 夕やけが きれいに 見えましたか。	17	145			〃	《現象：夕焼け》が Adj-に 見える
2638	ミ	みえる	見える	下一	夕日が 大きく 見えますよ。	17	144			〃	《物：夕日》が Adj-く 見える
2639	ミ	みえる	見える	下一	天気が いいと、この へんから ふじさんが よく 見えます。	19	166			〃	《物：山》が Adj-く 見える
2640	ミ	みえる	見える	下一	ほら、坂の 両側に 店が 並んで いるのが 見えますね。	23	202			《場所》に 《事》が 見える	《場所》に 《事：V-しているの》が 見える
2641	ミ	みおくる	みおくる	五	わたしは あした ていりゅうじょうへ 友だちを みおくりに 行きます。	10	85	シニ		《人》が 《人》を みおくる	《人》は 《人》を みおくる
2642	ミ	みがく	みがく	五	父は、毎あさ 七時ごろ おきて、かおを あらって、はを みがいて、ひげを そって、シャワーを あびます。	11	94	シテ		《人》が 《物》を みがく	《人》は 《物：身体部位》を みがく
2643	ミ	みがく	みがく	五	かわいた 布で ガラスを みがいて ください。	23	207		シテクダサイ	〃	《物》で 《物》を みがく
2644	ミ	みせる	みせる	下一	やまださんは マリアさんに なにを みせましたか。	8	65			《人》が 《人》に 《物》を 見せる	《人》は 《人》に 《物》を 見せる
2645	ミ	みせる	見せる	下一	小林さんは ローラさんに 何を 見せましたか。	14	117			〃	《人》は 《人》に 《物》を 見せる
2646	ミ	みせる	見せる	下一	山本先生は、ローラさんに どんな じしょを 見せましたか。	21	186			〃	《人》は 《人》に 《物》を 見せる
2647	ミ	みせる	見せる	下一	友だちは わたしたちに 写真を 見せて くれました。	22	196	シテクレル		〃	《人》は 《人》に 《物》を 見せる
2648	ミ	みせる	見せる	下一	わたしは 友だちに 写真を 見せて もらいました。	22	197	シテモラウ		〃	《人》は 《人》に 《物》を 見せる
2649	ミ	みせる	みせる	下一	マリアさんに しゃしんを みせましょう。	8	63		シマショウ(誘いかけ)	〃	《人》に 《物》を 見せる
2650	ミ	みせる	みせる	下一	みなさんに かぞくの しゃしんを みせましょう。	8	68		シマショウ(意図)	〃	《人》に 《物》を 見せる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2651	ミ	みせる	みせる	下一	だれかに この しゃしんを みせましたか。	9	77			〃	《人》に 《物》を 見せる
2652	ミ	みせる	見せる	下一	書いた あとで、見せて ください。	12	98		シテクダサイ	〃	見せる
2653	ミ	みせる	見せる	下一	その 記念切手を 見せて いただけませんか。はい、お見せしましょう。	22	197		オ-スル、シマショウ(意図)	〃	見せる
2654	ミ	みせる	みせる	下一	いいえ、だれにも みせませんでした。	9	77			〃	《人》にも 見せる
2655	ミ	みせる	見せる	下一	その 記念切手を 見せて いただけませんか。はい、お見せしましょう。	22	197		シテイタダケマセンカ	〃	《物》を 見せる
2656	ミ	みせる	見せる	下一	授業や クラブ活動などを 見せて いただけたらと 思って おります。	Y10	283	シテイタダク		《人》が 《人》に 《イベント》を 見せる	《イベント:授業やクラブ活動》を 見せる
2657	ミ	みつける	見つける	下一	ときどき、おもしろい テーマを 見つけて、わたしたち 教師を びっくりさせる ことも あります。	27	238	シテ		《人》が 《事／物》を 見つける	《事:テーマ》を 見つける
2658	ミ	みつける	見つける	下一	家に 帰る 途中で、野原の 雪の 中に つるが たおれて いるのを 見つけました。	Y9	277			〃	《事》を 見つける
2659	ミ	みつける	見つける	下一	若者は 野原で 何を 見つけましたか。	Y9	281			〃	《人》は 《物》を 見つける
2660	ミ	みる	みる	上一	古い お寺などを みました。	5	34			《人》が 《人／物／場所》を 見る	《物:建物》を 見る
2661	ミ	みる	みる	上一	あぶない(です)から、右と 左を よく みて ください。	10	86		シテクダサイ	〃	《物:右と左》を 見る
2662	ミ	みる	みる	上一	だいぶつを みてから どう しますか。	11	90			〃	《物》を 見る
2663	ミ	みる	見る	上一	おねえさんの 方を 見なさい。	14	117		シナサイ	〃	《物:人の方》を 見る
2664	ミ	みる	見る	上一	それで、前から 日本の 農家が 見たかったのです。	19	163		シタイ	〃	《物:建物》を 見る
2665	ミ	みる	見る	上一	食事を しながら、テレビを 見ては いけません。	19	166		シテハイケナイ	〃	《物:機器:テレビ》を 見る
2666	ミ	みる	見る	上一	いっしょに 映画を 見に 行きませんか。	19	168	シニ		〃	《物:映像作品》を 見る
2667	ミ	みる	見る	上一	じゅぎょうが ないなら、いっしょに 映画を 見に 行きましょう。	21	188	シニ		〃	《物:映像作品》を 見る
2668	ミ	みる	見る	上一	それなら、いっしょに 映画を 見に 行きましょう。	21	188	シニ		〃	《物:映像作品》を 見る
2669	ミ	みる	見る	上一	今の 季節は 美しい もみじが 見られるでしょう。	23	202	デキル	～デショウ	〃	《物:紅葉》を 見る
2670	ミ	みる	見る	上一	いつも 雪を 見たがって いたのに、起きて 来ませんね。	25	221	シテイル	シタガル	〃	《物:雪》を 見る
2671	ミ	みる	見る	上一	この ごろは、目で 物を 見て、やり方を かんがえて、仕事を する ロボットや、話が できる ロボットが 多く なりました。	Y4	266	シテ		〃	《物》を 見る
2672	ミ	みる	見る	上一	あの 時の 写真を 見る 度に、楽しかった ことを いろいろ 思い出して おります。	Y10	282			〃	《物:写真》を 見る
2673	ミ	みる	見る	上一	弟は、おかしを 見ると、いつも 欲しがります。	25	225	スルト		〃	《人》は 《物》を 見る
2674	ミ	みる	みる	上一	あなたは どこで えいがを みましたか。	3	20			〃	《人》は 《物:映像作品》を 見る
2675	ミ	みる	みる	上一	わたしは ぎんざの えいがかんで えいがを みました。	3	20			〃	《人》は 《物:映像作品》を 見る
2676	ミ	みる	見る	上一	マナさんは、その 番組を 見て、どんな ことが わかりましたか。	24	213	シテ		〃	《人》は 《物:映像作品》を 見る
2677	ミ	みる	みる	上一	二人は、だいぶつを みてから、どう しましたか。	11	92			〃	《人》は 《物》を 見る

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2678	ミ	みる	見る	上一	祖父は、めがねを かけないで、テレビの 画面の 小さい 字を 見て います。	20	178	シテイル		〃	《人》は 《物:字》を 見る
2679	ミ	みる	見る	上一	祖父は、めがねを かけずに、テレビの 画面の 小さい 字を 見て います。	20	178	シテイル		〃	《人》は 《物:字》を 見る
2680	ミ	みる	見る	上一	元旦の 夜、マナさんの 見て いた テレビでは どんな 番組が 放送されましたか。	24	213	シテイル		〃	《人》が 《物:機器:テレビ》を 見る
2681	ミ	みる	見る	上一	テレビでは 何度も 見た ことが ありますが、まだ 一度も 行った ことが ありません。	19	163			〃	見る
2682	ミ	みる	見る	上一	あ、見ましたか。	22	193			〃	見る
2683	ミ	みる	見る	上一	見てばかり いるのは つまらないから. . . 。	25	223	シテイル		〃	見る
2684	ミ	みる	見る	上一	ある 日、若者は 娘の 部屋の 中を 見たく なりました。	Y9	279		シタイ	〃	《人》は 《場所》を 見る
2685	ミ	みる	見る	上一	若者は 中を 見て、びっくりして しまいました。	Y9	279	シテ		〃	《人》は 《場所》を 見る
2686	ミ	みる	見る	上一	あなたは、私の 部屋の 中を 見ないと 約束したのに、見て しまいましたね。	Y9	280			〃	《人》は 《場所》を 見る
2687	ミ	みる	見る	上一	あなたは、私の 部屋の 中を 見ないと 約束したのに、見て しまいましたね。	Y9	280	シテシマウ		〃	《人》は 《場所》を 見る
2688	ミ	みる	見る	上一	マナさんが 日本の いなかを 見たいのは なぜですか。	19	164		シタイ	〃	《人》が 《場所》を 見る
2689	ミ	みる	見る	上一	でも、私が 仕事を して いる 時は、部屋の 中を 見ないで ください。	Y9	278		シナイデクダサイ	〃	《場所》を 見る
2690	ミ	みる	見る	上一	マナさん、女の 人の 方ばかり 見て いないで、中に 入りましょう。	26	231	シテイル		〃	《人:人の方》を 見る
2691	ミ	みる	見る	上一	若者の 喜ぶ 顔が 見たくて、布を 作り続けました。	Y9	279	シテ	シタイ	〃	《人》を 見る
2692	ミ	みる	見る	上一	いもうとは、こわそうに 大きい 犬を 見て います。	23	204	シテイル		〃	《人》は 《人:動物》を 見る
2693	ミ	みる	見る	上一	おぼんの 行事が 見られますよ。	19	163	デキル		《人》が 《イベント／事／現象》を 見る	《イベント:行事》を 見る
2694	ミ	みる	見る	上一	主に 理科の 授業を 見た。	27	239			〃	《イベント:授業》を 見る
2695	ミ	みる	見る	上一	なつに なると、日本の 町や 村で 「おぼん」の 行事が 見られます。	Y5	268	デキル		〃	《イベント:授業》を 見る
2696	ミ	みる	見る	上一	あんな 美しい 花火は 初めて 見ました。	Y10	282			〃	《イベント:花火》は 見る
2697	ミ	みる	見る	上一	若者に 見られたのを 知った 娘は、部屋から 出て 来て、静かに 言いました。	Y9	279	サレル		〃	《人》が 見る
2698	ミ	みる	見る	上一	ちょっとだけなら 見ても かまわないだろう。	Y9	279		シテモカマワナイ、～ダロウ	〃	見る
2699	ミ	みる	見る	上一	学生たちは、夕日が しずむのを 見て いました。	23	205	シテイル		〃	《人》は 《現象:V-するの》を 見る
2700	ミ	みる	みる	上一	病気が わるく ならないように、医者に みて もらいました。	22	198	シテモラウ		《人》が 《人／事》を みる	《人:医者》が みる
2701	ミ	みる	みる	上一	薬を 飲んでも、だめな 場合は、医者に みて もらった 方が いいでしょう。	27	242	シテモラウ		〃	《人:医者》が みる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2702	ミ	みる	見る	上一	見た　ことも　聞いた　ことも　ない　めずらしい　布だ。	Y9	279			慣:見た　ことも　聞いた　ことも　ない	慣:見た　ことも　聞いた　ことも　ない
2703	ム	むかえる	むかえる	下一	ひこうじょうへ　友だちを　むかえに　行きますから、休みます。	10	85	シニ		《人》が　《人》を　むかえる	《人》を　むかえる
2704	ム	むかえる	むかえる	下一	なりたまで　友だちを　むかえに　行って　いるのです。	18	159	シニ		〃	《人》を　むかえる
2705	ム	むかえる	むかえる	下一	わたしは　あした　ひこうじょうへ　友だちを　むかえに　行きます。	10	85	シニ		〃	《人》は　《人》を　むかえる
2706	ム	むかえる	迎える	下一	ニュースに　よると、今年、成人式を　迎える　人は、全国で　百七十万人ぐらいだ　そうです。	26	229			《人》が　《イベント》を　迎える	《人》は　《イベント:成人式》を　迎える
2707	ム	むかえる	迎える	下一	今年、成人式を　迎える　人は、全国で　どのくらい　いますか。	26	231			〃	《人》は　《イベント:成人式》を　迎える
2708	ム	むかえる	むかえる	下一	人びとは　食べ物などを　用意して、先祖を　うちに　むかえるのです。	Y5	268			《人》が　《人》を　《場所》に　むかえる	《人》は　《人》を　《場所》に　むかえる
2709	ム	むかえる	むかえる	下一	いまも、だいぶつは、たてものの　中には　ありません。雨の　日も、かぜの　日も、天気の　いい　日も、外で　人びとを　むかえています。	Y2	262	シテイル		《物》が　《人》を　むかえる	《物:大仏》が　《人》を　むかえる
2710	ム	むく	向く	五	はい、こちらを　向いて．．．。	14	117			《人》が　《方向》を　向く	《方向》を　向く
2711	メ	めいれいする	命令する	サ変	社長は　社員に　規則を　守るように(と)　命令しました。	26	232			《人》が　《人》に　《内容》と　命令する	《人》は　《人》に　《内容》と　命令する
2712	メ	めしあがる	召し上がる	五	おく様は　コーヒーや　おかしを　召し上がりました。	28	249		敬譲	《人》が　《物》を　召し上がる	《人》は　《物》を　召し上がる
2713	メ	めしあがる	召し上がる	五	何も　ありませんが、召し上がって　ください。	28	247		シテクダサイ、敬譲	〃	召し上がる
2714	モ	もうす	申す	五	私は　田中と　申します。	28	250		敬譲	《人》は　《名称》と　申す	《人》は　《名称》と　申す
2715	モ	もつ	もつ	五	小林さんは　なにを　もって　来ましたか。	11	92	シテクル		《人》が　《物》を　持つ	《人》は　《物》を　持つ
2716	モ	もつ	もつ	五	わたしは　りょこうの　時、いつも　地図を　もって　行きます。	11	95	シテイク		〃	《人》は　《物》を　持つ
2717	モ	もつ	もつ	五	わたしは　日本へ　かぞくの　しゃしんを　もって　来ました。	11	95	シテクル		〃	《人》は　《物》を　持つ
2718	モ	もつ	もつ	五	マリアさんは　ピンクの　スカートを　はいて、黄色い　ハンドバックを　もって　います。	13	111	シテイル		〃	《人》は　《物》を　持つ
2719	モ	もつ	持つ	五	わたしは　母が　くれた　くすりを　日本に　持って　来ました。	15	124	シテクル		〃	《人》は　《物》を　持つ
2720	モ	もつ	もつ	五	外国人は、外出する　時、何を　もって　いなければ　なりませんか。	15	126	シテイル		〃	《人》は　《物》を　持つ
2721	モ	もつ	持つ	五	小林さんは　キャンプ場へ　どんな　物を　持って　行きましたか。	17	145	シテイク		〃	《人》は　《物》を　持つ
2722	モ	もつ	持つ	五	父は　妹に　新聞を　持って　来させました。	27	240	シテクル		〃	《人》は　《物》を　持つ
2723	モ	もつ	持つ	五	先生は　ここへ　新聞を　持って　いらっしゃいました。	28	249	シテイラッシャル		〃	《人》は　《物》を　持つ
2724	モ	もつ	持つ	五	人びとは、おかしや　花を　川へ　持って　行って、流します。	Y5	269	シテイク		〃	《人》は　《物》を　持つ
2725	モ	もつ	持つ	五	若者は、その　布を　町へ　持って　行って、売りました。	Y9	278	シテイク		〃	《人》は　《物》を　持つ
2726	モ	もつ	もつ	五	だれか　じしょを　もって　いる　人は　いませんか。	13	112	シテイル		〃	《人》が　《物》を　持つ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2727	モ	もつ	持つ	五	あの　黒い　かばんを　持った　人は　小林さんです。	23	207			〃	《人》が《物》を　持つ
2728	モ	もつ	持つ	五	若者が　お金を　たくさん　持って、喜んで　帰って　来たので、娘も　うれしそうな　顔を　しました。	Y9	279	シテ		〃	《人》が《物》を　持つ
2729	モ	もつ	もつ	五	かまくらの　地図を　もって　来ましたか。	11	90	シテクル		〃	《物》を　持つ
2730	モ	もつ	もつ	五	りょこうに　もって　行く　カメラは　小さくても　いいです。	14	120	シテイク		〃	《物》を　持つ
2731	モ	もつ	もつ	五	ハイキングの　時は、何か　食べ物を　もって　行きなさい。	14	121	シテイク		〃	《物》を　持つ
2732	モ	もつ	もつ	五	外出する　時、これを　もって　いなければ　なりませんか。	15	126	シテイル		〃	《物》を　持つ
2733	モ	もつ	もつ	五	外国人登録証明書は　もって　いなければ　なりません。	15	126	シテイル		〃	《物》を　持つ
2734	モ	もつ	もつ	五	でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。	15	126	シテイル		〃	《物》を　持つ
2735	モ	もつ	もつ	五	外国りょこうの　時、パスポートを　もって　行かなければ　なりません。	15	127	シテイク		〃	《物》を　持つ
2736	モ	もつ	持つ	五	雨が　降りそうだから、かさは　持って　行きましょう。	23	202	シテイク		〃	《物》を　持つ
2737	モ	もつ	持つ	五	お荷物を　お持ちしましょう。	28	250		オ-スル、シマショウ(意図)	〃	《物》を　持つ
2738	モ	もつ	持つ	五	地図を　持って　まいりました。	28	250	シテマイル		〃	《物》を　持つ
2739	モ	もつ	持つ	五	そして、一週間後に　美しい　布を　持って、出て　来ました。	Y9	278	シテ		〃	《物》を　持つ
2740	モ	もつ	持つ	五	国の　絵はがきを　持って　まいりましたが、お渡しするのを　忘れて　しまいました。	Y10	282	シテマイル		〃	《物》を　持つ
2741	モ	もつ	持つ	五	シャツが　かわくように、火の　そばへ　持って　行きました。	22	198	シテイク		〃	持つ
2742	モ	もつ	もつ	五	はい、もって　来ました。	11	90	シテクル		〃	持つ
2743	モ	もつ	もつ	五	わたしは　来年　国へ　日本の　にんぎょうを　もって　かえります。	11	95	シテカエル		〃	《人》は《物》を　持つ
2744	モ	もつ	持つ	五	これからは　何でも　責任を　持って　やるように　言われました。	26	230	シテ		《人》が《事》を　持つ	《事：責任》を　持つ
2745	モ	もつ	もつ	五	たとえば、「木」は「き」と　いう音を　もって　いますが、「・・・」という　いみも　あります。	Y3	263	シテイル		《物》が《側面》を　持つ	《物：文字》が　Nという《側面：音》を　持つ
2746	モ	もらう	もらう	五	わたしは　やまださんに　プレゼントを　もらいました。	8	65			《人》が《人》から／に《物》をもらう	《人》は《人》に《物》を　もらう
2747	モ	もらう	もらう	五	マリアさんは　やまださんに　どんな　プレゼントを　もらいましたか。	8	65			〃	《人》は《人》に《物》を　もらう
2748	モ	もらう	もらう	五	マリアさんは　だれに　はなを　もらいましたか。	8	66			〃	《人》は《人》に《物》を　もらう
2749	モ	もらう	もらう	五	マリアさんは　小林さんに　はなを　もらいました。	8	66			〃	《人》は《人》に《物》を　もらう
2750	モ	もらう	もらう	五	マナさんは　友だちに　本を　もらいました。	22	196			〃	《人》は《人》に《物》を　もらう
2751	モ	もらう	もらう	五	マリアさんは　だれから　はなを　もらいましたか。	8	66			〃	《人》は《人》から《物》を　もらう
2752	モ	もらう	もらう	五	マリアさんは　小林さんから　はなを　もらいました。	8	66			〃	《人》は《人》から《物》を　もらう
2753	モ	もらう	もらう	五	マナさんは　病院から　もらった　くすりを　いつ　のみますか。	18	154			〃	《人》は《人》から《物》を　もらう

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2754	モ	もらう	もらう	五	マナさんは　友だちから　本を　もらいました。	22	196			〃	《人》は《人》から《物》を　もらう
2755	モ	もらう	もらう	五	外国人の　中には、「日本人は、物を　あげたり、もらったり　するのが　好きな　国民だ。」と　言う　人も　いる。	Y7	273	シタリ		〃	《人》は《物》を　もらう
2756	モ	もらう	もらう	五	マリアさんは、スピーチの　後で、何を　もらいましたか。	22	195			〃	《人》は《物》を　もらう
2757	モ	もらう	もらう	五	田中さんは、奨学金が　もらえなかったので、残念がって　います。	25	225	デキル		〃	《人》は《物》を　もらう
2758	モ	もらう	もらう	五	どんな　ものを　もらいましたか。	8	65			〃	《物》を　もらう
2759	モ	もらう	もらう	五	この　にんぎょうを　もらいました。	8	65			〃	《物》を　もらう
2760	ヤ	やく	やく	五	にたり、やいたり　したら、食べられますが。	16	133			《人》が《物》を　adj-く／に　やく	やく
2761	ヤ	やく	やく	五	では、火を　つけて、肉を　やきましょう。	17	144	シタリ	シマショウ(誘いかけ)	〃	《物：食べ物》を　やく
2762	ヤ	やくそくする	約束する	サ変	あなたは、私の　部屋の　中を　見ないと　約束したのに、見て　しまいましたね。	Y9	280			《人》が《人》に《内容》と　約束する	《人》が《内容》と　約束する
2763	ヤ	やける	やける	下一	さあ、肉が　やけました。	17	144			《物》が　Adj-く／に　やける	《物：食べ物》が　やける
2764	ヤ	やける	やける	下一	火事で　たくさんの　旅館が　やけました。	24	217			《物》が　やける	《物：建物》が　やける
2765	ヤ	やすむ	休む	五	あした　がっこうを　休みます。	10	85			《人》が《組織／イベント》を　休む	《組織：学校》を　休む
2766	ヤ	やすむ	休む	五	でも、国では　よく　学校を　休みました。	15	124			〃	《組織：学校》を　休む
2767	ヤ	やすむ	休む	五	兄は　びょうきに　なりました。それで、学校を　休みました。	17	148			〃	《組織：学校》を　休む
2768	ヤ	やすむ	休む	五	どうして　学校を　休んだのですか。	19	167			〃	《組織：学校》を　休む
2769	ヤ	やすむ	休む	五	かぜを　ひいたから、学校を　休んだのです。	19	167			〃	《組織：学校》を　休む
2770	ヤ	やすむ	休む	五	どうして　学校を　休んだのですか。	19	168			〃	《組織：学校》を　休む
2771	ヤ	やすむ	休む	五	学校を　休んだのは　どうして　ですか。	19	168			〃	《組織：学校》を　休む
2772	ヤ	やすむ	休む	五	学校を　休んだのは　かぜを　ひいたからです。	19	168			〃	《組織：学校》を　休む
2773	ヤ	やすむ	休む	五	会社を　休む　場合は、理由を　言って　ください。	27	242			〃	《組織：会社》を　休む
2774	ヤ	やすむ	休む	五	ひこうじょうへ　友だちを　むかえに　行きますから、休みます。	10	85			〃	休む
2775	ヤ	やすむ	休む	五	ええ、休んだ　方が　いいですね。	18	153			〃	休む
2776	ヤ	やすむ	休む	五	あしたは　休ませて　くださいませんか。	27	240	サセル	シテクダサイマセンカ	〃	休む
2777	ヤ	やすむ	休む	五	明日は　休んだって　いいんです。	28	253		シタッテイイ	〃	休む
2778	ヤ	やすむ	休む	五	わたしは　きのう　小林さんは　がっこうを　休んだと　おもいます。	12	103			〃	《人》は《組織：学校》を　休む
2779	ヤ	やすむ	休む	五	兄は　びょうきに　なったので、学校を　休みました。	17	148			〃	《人》は《組織：学校》を　休む
2780	ヤ	やすむ	休む	五	先生は　わたしを　休ませて　くださいました。	27	240	サセル、シテクダサル		〃	《人》が　休む
2781	ヤ	やすむ	休む	五	小林さんは　あした　たぶん　じゅぎょうを　休むでしょう。	9	74		～デショウ	〃	《人》は《イベント：授業》を　休む

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2782	ヤ	やすむ	休む	五	わたしは きょうは じゅぎょうを 休みます。	10	81			〃	《人》は 《イベント:授業》を 休む
2783	ヤ	やすむ	休む	五	マナさんは じゅぎょうを 休みました。	10	83			〃	《人》は 《イベント:授業》を 休む
2784	ヤ	やすむ	やすむ	五	あの こうえんで やすみましょう。	6	45		シマショウ(誘いかけ)	《人》が 休む	休む
2785	ヤ	やすむ	やすむ	五	この 川の そばで やすみましょう。	7	56		シマショウ(誘いかけ)	〃	休む
2786	ヤ	やすむ	休む	五	どうぞ わたしの へやで 休んで ください。	10	84		シテクダサイ	〃	休む
2787	ヤ	やすむ	休む	五	すみませんが、ちょっと 休ませて くださいませんか。	Y9	278	サセル	シテクダサイマセンカ	〃	休む
2788	ヤ	やすむ	休む	五	どうぞ 中に 入って、休んで 行って ください。	Y9	278	シテイク		〃	休む
2789	ヤ	やすむ	やすむ	五	アリさんと さとうさんは どこで やすみましたか。	6	46			〃	《人》は 休む
2790	ヤ	やすむ	やすむ	五	マナさんと タンさんは どこで やすみましたか。	7	57			〃	《人》は 休む
2791	ヤ	やせる	やせる	下一	マナさんは 小林さんより 少し やせて います。	18	156	シテイル		《人》が やせる	《人》は やせる
2792	ヤ	やせる	やせる	下一	娘は、だんだん 顔色が わるく なり、やせて きましたが、	Y9	279	シテクル		〃	《人》は やせる
2793	ヤ	やせる	やせる	下一	部屋の 中では、やせた つるが 自分の 羽を 一本 一本 取り、それで 布を 作って いたのです。	Y9	279			〃	《人:動物》が やせる
2794	ヤ	やぶる	やぶる	五	この かみを やぶらないように、気を つけて ください。	22	198	シナイヨウニ		《人》が 《物》を やぶる	《物:紙》を やぶる
2795	ヤ	やぶれる	破れる	下一	切れそうな ひもや 破れそうな 布は すてて ください。	23	205		シソウダ	《物》が 破れる	《物:紐》が 破れる
2796	ヤ	やむ	やむ	五	しかし、けさは 雨も かぜも やみました。	7	55			《現象》が やむ	《現象:雨・風》も やむ
2797	ヤ	やむ	やむ	五	夕方 雨が やみました。	7	59			〃	《現象:雨》が やむ
2798	ヤ	やめる	やめる	下一	では、固い ご飯を やめて、やわらかい おかゆを 食べた 方が いいですね。	18	153	シテ		《人》が 《事》を やめる	《事》を やめる
2799	ヤ	やめる	やめる	下一	風が 強い 場合は、工事を やめる かもしれません。	27	242		～カモシレナイ	〃	《事:工事》を やめる
2800	ヤ	やめる	やめる	下一	たばこを 吸って、医者に しかられたから、やめなければ なりません。	24	217		シナケレバナラナイ	〃	やめる
2801	ヤ	やる	やる	五	ここでは いろいろな ことを 自分で やらなければ なりませんから、こまりました。	15	124		シナケレバナラナイ	《人》が 《事／イベント》を やる	《事》を やる
2802	ヤ	やる	やる	五	この 仕事は、らくでも、やりたく ありません。	21	187		シタイ	〃	《事》を やる
2803	ヤ	やる	やる	五	この 仕事は、らくで なくても、やりたいです。	21	187		シタイ	〃	《事》を やる
2804	ヤ	やる	やる	五	これからは 何でも 責任を 持って やるように 言われました。	26	230	スルヨウニ命ジル		〃	《事》を やる
2805	ヤ	やる	やる	五	あぶない 仕事を やる ことが できます。	Y4	266	コトガデキル		〃	《事》を やる
2806	ヤ	やる	やる	五	人間の 将来の ために、海洋開発は、やらなければ ならないのである。	Y8	276		シナケレバナラナイ	〃	《事》を やる
2807	ヤ	やる	やる	五	ほかの スポーツは やりませんが、テニスなら やります。	27	241			〃	《事:スポーツ》を やる
2808	ヤ	やる	やる	五	ほかの スポーツは やりませんが、テニスなら やります。	27	241			〃	《事:スポーツ》を やる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2809	ヤ	やる	やる	五	これから、いっしょうけんめいに　やろうと　思って　います。	20	174		シヨウト	〃	やる
2810	ヤ	やる	やる	五	この　学校の　科学クラブは、市内では　小さい　方ですが、放課後も、皆　熱心に　やって　います。	27	238	シテイル		〃	やる
2811	ヤ	やる	やる	五	わたしが　やる　とおりに、やって　ください。	27	241			〃	やる
2812	ヤ	やる	やる	五	みんな　やりたがりません。	28	251		シタガル	〃	やる
2813	ヤ	やる	やる	五	子どもたちが　やきゅうを　やって　います。	11	93	シテイル		〃	《人》が《事：スポーツ》を　やる
2814	ヤ	やる	やる	五	この　村では　年を　とった　人たちが　農業を　やって　います。	23	207	シテイル		〃	《人》が《事：農業》を　やる
2815	ヤ	やる	やる	五	りょうしんは　いなかで　農業を　やって　います。	19	162	シテイル		〃	《人》は《事：農業》を　やる
2816	ヤ	やる	やる	五	わたしが　やる　とおりに、やって　ください。	27	241		シテクダサイ	〃	《人》が　やる
2817	ヤ	やる	やる	五	向こうに　店が　並んで　いますが、大学祭では、商売も　やるのですか。	22	194			〃	《事：商売》も　やる
2818	ヤ	やる	やる	五	実験などは、クラブ活動でも　やる　そうですが、	27	238		～ソウダ	〃	《事》でも　やる
2819	ヤ	やる	やる	五	パーティーは　どこで　やるか、（場所を）知って　います。	13	111			〃	《イベント：パーティー》を　やる
2820	ヤ	やる	やる	五	わたしは　弟に　Tシャツを　やりました。	22	196			《人》が《人》に《物》を　やる	《人》は《人》に《物》を　やる
2821	ヤ	やる	やる	五	この　本は　弟にでも　やろうかと　思って　います。	28	252		シヨウト	〃	《物》は《人》にでも　やる
2822	ユ	ゆるす	許す	五	いろいろな　ことが　法律で　許されるように　なるのですね。	26	230	サレル、スルヨウニナル		《組織》が《事》を　許す	《事》を　許す
2823	ユ	ゆるす	許す	五	わたしが　わるかった。許して　くれ。	Y9	280		シテクレ	《人》が《人》を　許す	許す
2824	ユ	ゆれる	ゆれる	下一	バスが　角を　曲がる　度に、ゆれます。	28	252			《物》が　ゆれる	ゆれる
2825	ヨ	ようういする	用意する	サ変	パーティーの　ために、おいしい　料理が　用意して　あります。	22	197	シテアル		《人》が《物》を　用意する	《物：料理》を　用意する
2826	ヨ	ようういする	用意する	サ変	13日の　夕方、門の　ところで　火を　用意して、家の　前を　明るく　します。	Y5	268	シテ		〃	《物：火》を　用意する
2827	ヨ	ようういする	用意する	サ変	人びとは　食べ物などを　用意して、先祖を　うちに　むかえるのです。	Y5	268	シテ		〃	《人》は《物：料理》を　用意する
2828	ヨ	ようういする	用意する	サ変	先祖が　家へ　かえって　来る　時は、乗り物が　いるから、用意しなければ　なりません。	Y5	268		シナケレバナラナイ	〃	用意する
2829	ヨ	よしゅうする	予習する	サ変	予習するのに　一時間　かかりました。	23	206	スルノニ		《人》が《事》を　予習する	予習する
2830	ヨ	よぶ	呼ぶ	五	アリさんは　先生に　呼ばれました。	24	214	サレル		《人》が《人》を　呼ぶ	《人》が《人》を　呼ぶ
2831	ヨ	よぶ	呼ぶ	五	わたしは、去年、成人の日に　父に　呼ばれて、これからは　何でも　責任を　持って　やるように　言われました。	26	230	サレル、シテ		〃	《人》が《人》を　呼ぶ
2832	ヨ	よぶ	呼ぶ	五	それでは、会議が　終わったら、すぐ　呼びます。	21	184			〃	呼ぶ
2833	ヨ	よぶ	よぶ	五	なまえを　よびますから、へんじをしてください。	10	81			《人》が《名称》を　呼ぶ	《名称：名前》を　呼ぶ
2834	ヨ	よむ	よむ	五	あなたは　なにを　よみますか。	3	20			《人》が《物》を　読む	《人》は《物：言語作品》を　読む
2835	ヨ	よむ	よむ	五	わたしは　ざっしを　よみます。	3	20			〃	《人》は《物：言語作品》を　読む

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2836	ヨ	よむ	よむ	五	アリさんは　けさ　七じごろ　しんぶんを　よみました。	5	39			〃	《人》は《物:言語作品》を　読む
2837	ヨ	よむ	よむ	五	わたしは　その　本を　よみましたが、よく　わかりませんでした。	9	75			〃	《人》は《物:言語作品》を　読む
2838	ヨ	よむ	読む	五	ローラさんは、新聞を　読むために、これから　何字ぐらい　覚えなければ　なりませんか。	21	186	スルタメニ		〃	《人》は《物:言語作品》を　読む
2839	ヨ	よむ	読む	五	マナさんは、やまださんに　かりた　本を　何日で　読んで　しまいましたか。	24	213	シテシマウ		〃	《人》は《物:言語作品》を　読む
2840	ヨ	よむ	読む	五	父は　新聞を　読んでるし、母は　料理を　作って　います。	28	253	シテイル		〃	《人》は《物:言語作品》を　読む
2841	ヨ	よむ	読む	五	この　本は、写真が　多くて、おもしろいので、日本の　若い　人たちにも　よく　読まれて　います。	24	210	サレル、シテイル		〃	《人》が《物:言語作品》を　読む
2842	ヨ	よむ	読む	五	その　本は、どうして　日本の　若者に　よく　読まれて　いるのですか。	24	213	サレル、シテイル		〃	《人》が《物:言語作品》を　読む
2843	ヨ	よむ	読む	五	この　新聞は　地方の　人たちに　読まれて　います。	24	215	サレル、シテイル		〃	《人》が《物:言語作品》を　読む
2844	ヨ	よむ	よむ	五	七じごろまで　しんぶんや　ざっしなどを　よみました。	5	33			〃	《物:言語作品》を　読む
2845	ヨ	よむ	よむ	五	本を　よんだり　します。	12	101	シタリ		〃	《物:言語作品》を　読む
2846	ヨ	よむ	読む	五	今まで　約　五百の　漢字を　習いましたが、新聞は　まだ　読めません。	21	184	デキル		〃	《物:言語作品》を　読む
2847	ヨ	よむ	読む	五	専門書が　読めなければ、困りますよ。	21	185	デキル、スレバ		〃	《物:言語作品》を　読む
2848	ヨ	よむ	読む	五	大学では　専門書が　読めなくても、困りませんか。	21	186	デキル、シテモ		〃	《物:言語作品》を　読む
2849	ヨ	よむ	読む	五	これを　読んで、日本の　社会や　文化の　ことが　少し　わかりました。	24	210	シテ		〃	《物:言語作品》を　読む
2850	ヨ	よむ	読む	五	あした　この　本を　読んで　しまう　つもりです。	24	215	シテシマウ		〃	《物:言語作品》を　読む
2851	ヨ	よむ	読む	五	母の　手紙を　読む　度に、よく　泣きました。	28	246			〃	《物:言語作品》を　読む
2852	ヨ	よむ	読む	五	この　手紙は、受け取ったばかりですから、まだ　読んで　いません。	28	251	シテイル		〃	《物:言語作品》を　読む
2853	ヨ	よむ	読む	五	前に　本で　読んだのですが、地方から　出て　きた　若者は、国へは　帰りたがらない　ようです。	25	222			〃	《物:言語作品》で　読む
2854	ヨ	よむ	読む	五	新聞で　読みましたが、去年　東京の　人口は　あまり　増えなかった　ようです。	25	224			〃	《物:言語作品》で　読む
2855	ヨ	よむ	読む	五	本で　読みましたが、この　新しい　薬は　安全では　ない　らしいです。	28	251			〃	《物:言語作品》で　読む
2856	ヨ	よむ	読む	五	何日ぐらいで　読みましたか。	24	210			〃	読む
2857	ヨ	よむ	読む	五	一日で　全部　読んで　しまいました。	24	210	シテシマウ		〃	読む
2858	ヨ	よむ	よむ	五	日本人は、中国語の　はつおんに　ちかい　よみ方で、かんじをよみました。	Y3	263			〃	《人》は《物:文字》を　よむ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2859	ヨ	よむ	よむ	五	この　字は、くんよみでは　「明るい、暗い」と　よみますが、	12	98			《人》が　《物》を　Nと　よむ	《物:字》を　《N:音:明るい、暗い》と　よむ
2860	ヨ	よむ	よむ	五	この　字は・・・・・・音よみでは　「めいあん」と　よみます。	12	98			〃	《物:字》を　《N:音:めいあん》と　よむ
2861	ヨ	よむ	よむ	五	この　本の　名前は　なんと　よみますか。	12	98			〃	《物:本の名前》を　《N:音》と　よむ
2862	ヨ	よむ	よむ	五	この　字は　なんと　よみますか。	12	103			〃	《物:字》を　《N:音》と　よむ
2863	ヨ	よむ	よむ	五	「気」も　「き」と　よみますが、いみが　ちがいます。	Y3	263			〃	《物:字》を　《N:音:き》と　よむ
2864	ヨ	よむ	よむ	五	この　字は　くんよみでは　「みず」と　よみます。	12	103			〃	《物:字》は　《N:音:みず》と　よむ
2865	ヨ	よむ	よむ	五	たとえば、「水」は　「すい」と　よみました。	Y3	263			〃	《物:字》は　《N:音:すい》と　よむ
2866	ヨ	よむ	よむ	五	音よみでは　「すい」と　よみます。	12	103			〃	《N:音:すい》と　よむ
2867	ヨ	よむ	よむ	五	「めいあん(明暗)」と　よみます。	12	98			〃	《N:音:めいあん》と　よむ
2868	ヨ	よる	寄る	五	駅へ　行く　途中で、店に　寄って、フィルムを　買いたいのですが. . . 。	26	230	シテ		《人／乗り物》が　《場所》に　寄る	《場所》に　寄る
2869	ヨ	よる	寄る	五	その　途中で、銀行に　寄ります。	26	233			〃	《場所》に　寄る
2870	ヨ	よる	寄る	五	駅へ　行く　途中で、銀行に　寄ります。	26	233			〃	《場所》に　寄る
2871	ヨ	よる	寄る	五	わたしたちの　乗った　船は、世界一周旅行の　途中で、神戸の港に　寄りました。	26	233			〃	《乗り物》は　《場所》に　寄る
2872	ヨ	よる	よる	五	ニュースに　よると、今年、成人式を　迎える　人は、全国で　百七十万人ぐらいだ　そうです。	26	229			《物》に　よると	《物:ニュース》に　よると
2873	ヨ	よる	よる	五	ニュースに　よると、未成年者の　交通事故が　増えて　きた　そうです。	26	232			〃	《物:ニュース》に　よると
2874	ヨ	よる	よる	五	新聞に　よると、去年、海外旅行を　した　人は　全国で　約九百万人だ　そうです。	26	232			〃	《物:新聞》に　よると
2875	ヨ	よる	よる	五	母の　手紙に　よると、今、父の　仕事は　あまり　忙しく　ない　そうです。	26	232			〃	《物:手紙》に　よると
2876	ヨ	よる	よる	五	統計に　よると、最近、男性の　人口は　女性の　人口より　多いそうです。	26	232			〃	《物:統計》に　よると
2877	ヨ	よろこぶ	喜ぶ	五	日本語の　ことなら、喜んで　おてつだいしますよ。	22	194	シテ		《人》が　喜ぶ	喜ぶ
2878	ヨ	よろこぶ	喜ぶ	五	喜んで　います。	28	251	シテイル		〃	喜ぶ
2879	ヨ	よろこぶ	喜ぶ	五	あの　方は　お喜びになるでしょう。	28	249		オ-ニナル、～デショウ	〃	《人》は　喜ぶ
2880	ヨ	よろこぶ	喜ぶ	五	あの　方は　喜ばれるでしょう。	28	249		サレル(敬譲)、～デショウ	〃	《人》は　喜ぶ
2881	ヨ	よろこぶ	喜ぶ	五	若者が　お金を　たくさん　持って、喜んで　帰って　来たので、娘も　うれしそうな　顔を　しました。	Y9	279	シテカエル		〃	《人》が　喜ぶ
2882	ヨ	よろこぶ	喜ぶ	五	若者の　喜ぶ　顔が　見たくて、布を　作り続けました。	Y9	279			〃	《人》が　喜ぶ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2883	ヨ	よろこぶ	喜ぶ	五	いもうとも 大学生ですから、日本の 大学の ことを 知ったら、喜ぶでしょう。	22	194		～デショウ	〃	《人》も 喜ぶ
2884	ラ	らいにちする	来日する	サ変	アリさんは、人口もんだいに ついて 研究する ために、来日しました。	20	177			《人》が 来日する	《人》は 来日する
2885	リ	りかいする	りかいする	サ変	外国の人に 日本人の この しゅうかんを、りかいして もらうのは、むずかしいかもしれない。	Y7	273	シテモラウ		《人》が 《事》を りかいする	《人》が 《事：習慣》を りかいする
2886	リ	りゅうがくする	留学する	サ変	あなたは 外国に 留学する つもりですか。	20	176		～ツモリダ	《人》が 《場所》に 留学する	《人》は 《場所》に 留学する
2887	リ	りゅうがくする	留学する	サ変	わたしは、留学したいと 思いましたが、	24	214		シタイ	〃	《人》は 留学する
2888	リ	りようする	利用する	サ変	そして、陸より ずっと 広い 海は、魚を 取ったり、しおを 作ったり するぐらいで、あまり 利用しなかった。	Y8	275			《人》が 《物》を 利用する	《物：海》は 利用する
2889	リ	りょこうする	りょこうする	サ変	わたしは 三日かん りょこうしました。	5	33			《人》が 旅行する	《人》は 旅行する
2890	リ	りょこうする	りょこうする	サ変	ゴーさんは なつ休みに りょこうしますか。	9	72			〃	《人》は 旅行する
2891	リ	りょこうする	りょこうする	サ変	ゴーさんは なつ休みに りょこうしますか。	9	73			〃	《人》は 旅行する
2892	リ	りょこうする	りょこうする	サ変	わたしは 友だちと りょこうしたいです。	14	118		シタイ	〃	《人》は 旅行する
2893	リ	りょこうする	りょこうする	サ変	りょこうするか どうか、まだ わかりません。	9	72			〃	旅行する
2894	リ	りょこうする	旅行する	サ変	みんなで いっしょに 旅行するのは 初めてですね。	23	201			〃	旅行する
2895	レ	れんしゅうする	れんしゅうする	サ変	学生たちは きょうしつで はつおんを れんしゅうします。	10	85			《人》が 《事》を 練習する	《人》は 《事：発音》を 練習する
2896	レ	れんしゅうする	れんしゅうする	サ変	発音を れんしゅうする ために、テープレコーダーを 買う つもりです。	20	177	スルタメニ		〃	《事：発音》を 練習する
2897	レ	れんしゅうする	練習する	サ変	この間、さとうさんに てつだって もらって、練習しました。	22	194			〃	練習する
2898	レ	れんらくする	れんらくする	サ変	すぐ 結果を 御れんらくします。	28	250		御-スル	《人》が 《人》に 《事》を れんらくする	《事：結果》を れんらくする
2899	レ	れんらくする	れんらくする	サ変	すぐ 御れんらくください。	28	250		御-クダサイ	〃	れんらくする
2900	ロ	ろくおんする	録音する	サ変	この テープを 録音するのに 使います。	23	206	スルノニ		《人》が 《事》を 録音する	《事：テープ》を 録音する
2901	ロ	ろくおんする	録音する	サ変	録音する 時、いつも この テープレコーダーを 使います。	15	128			〃	録音する
2902	ワ	わかす	わかす	五	お茶が のみたいから、おゆを わかして おいて ください。	22	197	シテオク		《人》が 《物》を わかす	《物：お湯》を わかす

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2903	ワ	わかる	わかる	五	わかりました。	4	26			《人》は 《事》が わかる	わかる
2904	ワ	わかる	わかる	五	わたしは その 本を よみましたが、よく わかりませんでした。	9	75			〃	わかる
2905	ワ	わかる	わかる	五	はい、わかりました。	10	81			〃	わかる
2906	ワ	わかる	わかる	五	よく わかりませんから、もう いちど 先生に ききましょう。	10	86			〃	わかる
2907	ワ	わかる	わかる	五	はい、わかりました。	10	86			〃	わかる
2908	ワ	わかる	わかる	五	だいたい わかりました。	12	99			〃	わかる
2909	ワ	わかる	わかる	五	わたしは 先生に 「よく わかりました。」と 言いました。	12	102			〃	わかる
2910	ワ	わかる	わかる	五	そうですか。わかりました。	15	125			〃	わかる
2911	ワ	わかる	わかる	五	わかりました。	17	144			〃	わかる
2912	ワ	わかる	わかる	五	わかりました。	21	185			〃	わかる
2913	ワ	わかる	わかる	五	ゆっくり 話せば、わかります。	21	187			〃	わかる
2914	ワ	わかる	わかる	五	ゆっくり 話さなければ、わかりません。	21	187			〃	わかる
2915	ワ	わかる	わかる	五	家の 前が 明るいと、どこに あるか、よく わかって、先祖が まっすぐ かえって 来られるのです。	Y5	268	シテ		〃	わかる
2916	ワ	わかる	わかる	五	しかし、ほんとうか どうか 研究しなければ、わからない ことが たくさん ある。	Y6	272			〃	わかる
2917	ワ	わかる	わかる	五	中が どう なって いるのか、くわしい ことは、まだ よく わかって いない。	Y8	275	シテイル		〃	わかる
2918	ワ	わかる	わかる	五	りょこうするか どうか、まだ わかりません。	9	72			〃	《事：～か》 わかる
2919	ワ	わかる	わかる	五	あした 雨が ふるか ふらないか、わかりません。	9	74			〃	《事：～か》 わかる
2920	ワ	わかる	わかる	五	あした 雨が ふるか どうか、わかりません。	9	74			〃	《事：～か》 わかる
2921	ワ	わかる	わかる	五	らいしゅう しけんが あるか ないか、わかりません。	9	74			〃	《事：～か》 わかる
2922	ワ	わかる	わかる	五	らいしゅう しけんが あるか どうか、わかりません。	9	74			〃	《事：～か》 わかる
2923	ワ	わかる	わかる	五	この こたえは 正しいか、正しく ないか、わかりません。	9	74			〃	《事：～か》 わかる
2924	ワ	わかる	わかる	五	この こたえは 正しいか どうか、わかりません。	9	74			〃	《事：～か》 わかる
2925	ワ	わかる	わかる	五	この てがみは たいせつか たいせつでは ないか、わかりません。	9	74			〃	《事：～か》 わかる
2926	ワ	わかる	わかる	五	この てがみは たいせつか どうか、わかりません。	9	74			〃	《事：～か》 わかる
2927	ワ	わかる	わかる	五	でも、道が よく わからないから、電車で 行きたいですね。	16	132			〃	《事：道》が わかる
2928	ワ	わかる	わかる	五	これを 読んで、日本の 社会や 文化の ことが 少し わかりました。	24	210			〃	《事》が わかる
2929	ワ	わかる	わかる	五	日本は・・・・・・古い 文化も 大切に されて いる ことが わかりました。	24	212			〃	《事》が わかる
2930	ワ	わかる	わかる	五	氷が こおると、体積が 1.1倍に 増える ことが わかりました。	27	237			〃	《事》が わかる
2931	ワ	わかる	わかる	五	人間の ことばが わかったり する ロボットは ありませんでした。	Y4	266	シタリ		〃	《事：ことば》が わかる
2932	ワ	わかる	わかる	五	ジョンさんは 中国語が わかります。	16	136			〃	《人》は 《事：言語》が わかる
2933	ワ	わかる	わかる	五	わたしは この 字の よみ方が わかりません。	16	136			〃	《人》は 《事：よみ方》が わかる

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I	J（基本的な文型）	K（教科書中の文型）
2934	ワ	わかる	わかる	五	マナさんは、その　番組を　見て、どんな　ことが　わかりましたか。	24	213			〃	《人》は《事》が　わかる
2935	ワ	わかる	わかる	五	学生が　わかるように、れいを　あげて、説明しました。	22	198	スルヨウニ		〃	《人》が　わかる
2936	ワ	わかれる	別れる	下一	わたしは　四月に　かぞくと　別れました。	8	66			《人》が《人》と　別れる	《人》は《人》と　別れる
2937	ワ	わかれる	別れる	下一	おぼんは、別れて　いる　かぞくが　集まる　大切な　時なのです。	19	163	シテイル		〃	《人》が　別れる
2938	ワ	わすれる	わすれる	下一	わたしの　たんじょう日を　わすれないで　ください。	10	84		シナイデクダサイ	《人》が《事》を　忘れる	《事：誕生日》を　忘れる
2939	ワ	わすれる	わすれる	下一	むずかしい　ことばを　わすれないように、メモを　して　おきました。	22	194	シナイヨウニ		〃	《事：ことば》を　忘れる
2940	ワ	わすれる	忘れる	下一	おもしろくて、食事を　するのも　忘れて　しまいました。	24	210	シテシマウ		〃	《事：V-するの》も　忘れる
2941	ワ	わすれる	忘れる	下一	お渡しするのを　忘れて　しまいました。	Y10	282	シテシマウ		〃	《事：V-するの》を　忘れる
2942	ワ	わすれる	忘れる	下一	いつまでも　忘れられないだろうと　思います。	Y10	282	デキル	～ダロウ	〃	忘れる
2943	ワ	わたす	渡す	五	お渡しするのを　忘れて　しまいました。	Y10	282		オ-スル	《人》が《人》に《物》を　渡す	渡す
2944	ワ	わたす	渡す	五	お渡ししようと　思って　おります。	Y10	282		オ-スル、シヨウト	〃	渡す
2945	ワ	わたす	わたす	五	駅を　出る　時、駅員に　きっぷを　わたします。	15	128			〃	《人》に《物》を　渡す
2946	ワ	わたる	わたる	五	川を　わたってから、西の　方へ　はしって　来ましたね。	17	143			《人》が《場所》を　渡る	《場所：川》を　渡る
2947	ワ	わたる	わたる	五	では、はしを　わたってから、車を　止めましょう。	17	144			〃	《場所：橋》を　渡る
2948	ワ	わたる	渡る	五	この　坂を　下りて、はしを　渡ると、海岸に　出ます。	19	166	スルト		〃	《場所：橋》を　渡る
2949	ワ	わたる	わたる	五	車道を　わたっては　いけません。	17	147		シテハイケナイ	〃	《場所：車道》を　渡る
2950	ワ	わらう	わらう	五	あの　赤ちゃんは　ないたり　わらったり　して　います。	12	102	シタリ		《人》が　わらう	《人》は　わらう
2951	ワ	わらう	わらう	五	田中さんは、じょうだんを　言って、みんなを　わらわせました。	27	240	サセル		〃	《人》は　わらう
2952	ワ	わる	わる	五	ガラスを　わっては　いけません。	14	120		シテハイケナイ	《人》が《物》を　わる	《物：ガラス》を　わる
2953	ワ	わる	わる	五	この　氷を　わって、半分に　して　ください。	15	128	シテ		〃	《物：氷》を　わる
2954	ワ	われる	割れる	下一	割れそうな、古い　茶わんは　使わない　方が　いいでしょう。	23	205		シソウダ	《物》が　割れる	《物：茶わん》が　割れる
2955	ワ	われる	われる	下一	まどの　ガラスが　われて、おちて　来る　ことが　多いからで　ある。	Y6	272	シテ		〃	《物：ガラス》が　割れる

資料 3　補助動詞の文法的な意味分析データ

＜資料 3＞の欄の説明
（＜資料 2＞の A 欄～I 欄の内容と同様）

A 欄　:動詞の語頭音(カタカナ)

B 欄　:動詞の辞書形(ひらがな)

C 欄　:教科書本文での表記(辞書形)

当該の動詞が教科書本文で漢字表記されている場合は C 欄に漢字で記してある。

D 欄　:活用の種類

活用の種類は以下のとおりである(丸括弧内は表中での略号)。

五段活用(五)、上一段活用(上一)、下一段活用(下一)、カ行変格活用(カ変)、サ行変格活用(サ変)

E 欄　:当該の動詞が使われている文

E 欄には当該の動詞が使われている文を原則としてそのまま抜き出しているが、文が非常に長い場合は、一部を省略し「……」で示している。なお、教科書では後半の 1／3 の課は分かち書きにしていないが、この欄ではすべて分かち書きにした。

F 欄　:課

当該の動詞が提示されている課を示している。「Y」は「読み物」を指す。

G 欄　:ページ数

当該の動詞が提示されているページ数を示している。

H 欄　:ヴォイス、アスペクト、条件などを表わす形態論的な形

当該の動詞が、「ヴォイス」、「アスペクト」、「条件」などを表わす形態論的な形である場合、その形を示す。2 つ以上の形がある場合もすべて記する。

I 欄　:モーダルな意味(希求、許容など)、謙譲を表わす形態論的な形

当該の動詞が、モーダルな意味(希求、許容など)、謙譲を表わす形態論的な形である場合、その形を示す。H 欄と同様、2 つ以上の形がある場合もすべて記する。

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
1	ア	あげる※	あげる	下一	「とうろんかいの　後で、大学の　中を　案内して　あげましょう。」と　書いて　ありました。	22	193		シマショウ(意図)
2	ア	あげる※	あげる	下一	マナさんは　友だちを　音楽会に　さそって　あげました。	22	196		
3	ア	あげる※	あげる	下一	わたしは　友だちに　国の　料理を　作って　あげました。	22	196		
4	ア	あげる※	あげる	下一	その　夜、親切な　若者は　その　娘を　とめて　あげました。	Y9	278		
5	ア	ある※	ある	五	パーティーの　ために、おいしい　料理が　用意して　あります。	22	197		
6	ア	ある※	ある	五	友だちの　ために、きれいな　花が　かざって　あります。	22	197		
7	ア	ある※	ある	五	食堂に　大学祭の　プログラムが　はって　ありますね。	22	193		
8	ア	ある※	ある	五	りょうの　食堂には　何が　はって　ありますか。	22	195		
9	ア	ある※	ある	五	かべには　かんじの　表が　はって　あります。	22	198		
10	ア	ある※	ある	五	外側に　はって　あるのは　紙ですね。	23	202		
11	ア	ある※	ある	五	へやには　新しい　たたみが　しいて　あります。	22	198		
12	ア	ある※	ある	五	「とうろんかいの　後で、大学の　中を　案内して　あげましょう。」と　書いて　ありました。	22	193		
13	ア	ある※	ある	五	小林さんの　てがみには　何と　書いて　ありましたか。	22	195		
14	ア	ある※	ある	五	この　本には　正月が　大切な　行事だと　書いて　ありますね。	24	210		
15	ア	ある※	ある	五	暑いから、マナさんは　戸を　開けました。今、戸が　開けて　あります。	22	198		
16	ア	ある※	ある	五	危ないから、わたしは　火を　消しました。今、火が　消して　あります。	22	198		
17	ア	ある※	ある	五	教科書に　書いて　ある　とおりに　なりましたね。	27	237		
18	ア	ある※	ある	五	地図に　書いて　ある　とおりに、歩きましょう。	27	241		
19	ア	ある※	ある	五	料理の　本に　書いて　ある　とおりに、塩や　さとうを　入れなさい。	27	242		
20	イ	いく※	いく	五	アリさんは　うちから　えきまで　あるいて　いきます。	5	37		
21	イ	いく※	行く	五	わたしは　りょこうの　時、いつも　地図を　もって　行きます。	11	95		
22	イ	いく※	行く	五	りょこうに　もって　行く　カメラは　小さくても　いいです。	14	120		
23	イ	いく※	行く	五	ハイキングの　時は、何か　食べ物を　もって　行きなさい。	14	121		シナサイ
24	イ	いく※	行く	五	外国旅行の　時、パスポートを　もって　行かなければ　なりません。	15	127		シナケレバナラナイ
25	イ	いく※	行く	五	小林さんは　キャンプ場へ　どんな　物を　持って　行きましたか。	17	145		
26	イ	いく※	行く	五	シャツが　かわくように、火の　そばへ　持って　行きました。	22	198		
27	イ	いく※	行く	五	雨が　降りそうだから、かさは　持って　行きましょう。	23	202		シマショウ(誘いかけ)
28	イ	いく※	行く	五	人びとは、おかしや　花を　川へ　持って　行って、流します。	Y5	269	シテ	
29	イ	いく※	行く	五	若者は、その　布を　町へ　持って　行って、売りました。	Y9	278	シテ	
30	イ	いく※	行く	五	おいて　行きます。	17	143		
31	イ	いく※	行く	五	ここに　にもつを　おいて　行きましょう。	17	148		シマショウ(誘いかけ)
32	イ	いく※	行く	五	つれて　行って　ください。	14	116		シテクダサイ
33	イ	いく※	行く	五	わたしも　去年は　親類の　子どもたちを　連れて　行きました。	24	210		
34	イ	いく※	行く	五	おぼんが　おわって、家を　出て　行く　時は、足の　おそい　牛に　乗ります。	Y5	268		
35	イ	いく※	行く	五	家を　出て　行く　時、どうして　牛に　乗って　行くのですか。	Y5	270		
36	イ	いく※	行く	五	家を　出て　行く　時、どうして　牛に　乗って　行くのですか。	Y5	270		
37	イ	いく※	行く	五	娘は、どうして　若者の　家を　出て　行って　しまったのですか。	Y9	281	シテシマウ	
38	イ	いく※	行く	五	犬が　あちらへ　はしって　行きます。	17	147		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
39	イ	いく※	行く	五	人が　わたしの　いる　へやから　外へ　出て　行きました。	17	148		
40	イ	いく※	行く	五	娘は、泣きながら、外へ　出て　行きました。	Y9	280		
41	イ	いく※	行く	五	じゅぎょうに　間に合うように、教室まで　走って　行きました。	22	198		
42	イ	いく※	行く	五	山の　向こうへ　とんで　行きました。	Y9	277		
43	イ	いく※	行く	五	どうぞ　中に　入って、休んで　行って　ください。	Y9	278		シテクダサイ
44	イ	いく※	行く	五	人間が　火の　中に　入って　行ったら、あぶないですが、ロボットは　入って　行けます。	Y4	266	シタラ	
45	イ	いく※	行く	五	ロボットは　入って　行けます。	Y4	266	デキル	
46	イ	いく※	いく	五	これからは、雪国の　生活も　だんだん　変わって　いくでしょう。	25	222		～デショウ
47	イ	いく※	いく	五	科学は　これからも　どんどん　進歩して　いくでしょう。	25	226		～デショウ
48	イ	いく※	いく	五	わたしは　将来も　ずっと　この　研究を　続けて　いく　つもりです。	25	226		～ツモリダ
49	イ	いく※	いく	五	・・・・・・この　海を　開発して　いかなければ　ならない。	Y8	275		シナケレバナラナイ
50	イ	いく※	行く	五	つるは、悲しそうに　高い　声で　鳴きながら、夕やけの　赤い　雲の　中に　消えて　行って　しまいました。	Y9	280	シテシマウ	
51	イ	いただく※	いただく	五	わたしたちは　先生に　案内して　いただきました。	22	197		
52	イ	いただく※	いただく	五	わたしは　先生に　本を　かして　いただきました。	22	197		
53	イ	いただく※	いただく	五	あなたに　助けて　いただいたので、いい　生活が　できました。	Y7	273		
54	イ	いただく※	いただく	五	私は　前に　助けて　いただいた　つるなのです。	Y9	280		
55	イ	いただく※	いただく	五	こちらこそ、こんな　すばらしい　とうろん会に　招いて　いただいて、ありがとう　ございました。	22	195	シテ	
56	イ	いただく※	いただく	五	本を　かして　いただいて、ありがとう　ございました。	24	210	シテ	
57	イ	いただく※	いただく	五	御親切に　して　いただきまして、ありがとう　ございました。	28	251	シテ	
58	イ	いただく※	いただく	五	授業や　クラブ活動などを　見せて　いただけたらと　思って　おります。	Y10	283	デキル、シタラ	
59	イ	いただく※	いただく	五	ちょっと　直して　いただけませんか。	22	193	デキル	シテイタダケマセンカ
60	イ	いただく※	いただく	五	その　記念切手を　見せて　いただけませんか。はい、お見せしましょう。	22	197	デキル	シテイタダケマセンカ
61	イ	いただく※	いただく	五	この　にもつを　送って　いただきたいのですが。はい、お送りしましょう。	22	197		シタイ
62	イ	いらっしゃる※	いらっしゃる	五	先生方は　あの　部屋で　話して　いらっしゃいます。	28	249		敬譲
63	イ	いらっしゃる※	いらっしゃる	五	みんな　ほめてらっしゃいました。	28	246		敬譲
64	イ	いらっしゃる※	いらっしゃる	五	先生は　ここの　ホテルに　泊まってらっしゃいます。	28	253		敬譲
65	イ	いらっしゃる※	いらっしゃる	五	先生は　ここへ　新聞を　持って　いらっしゃいました。	28	249		敬譲
66	イ	いる※	いる	上一	いま、子どもたちが　だいぶつの　前で　えを　かいて　います。	11	91		
67	イ	いる※	いる	上一	鳥が　たくさん　とんで　いますね。	11	91		
68	イ	いる※	いる	上一	げんかんで　まって　いて　ください。	11	91		シテクダサイ
69	イ	いる※	いる	上一	ここは　岩が　多いから、だれも　泳いで　いませんね。	11	92		
70	イ	いる※	いる	上一	海では　だれか　およいで　いましたか。	11	92		
71	イ	いる※	いる	上一	あの　とおくの　岩の　上で　だれか　つりを　して　います。	11	92		
72	イ	いる※	いる	上一	だいぶつの　前で　子どもたちが　なにを　して　いましたか。	11	92		
73	イ	いる※	いる	上一	人が　おおぜい　あるいて　います。	11	93		
74	イ	いる※	いる	上一	ジョンさんは　いま　きょうとに　すんで　います。	11	93		
75	イ	いる※	いる	上一	大学で　れきしの　べんきょうを　して　います。	11	93		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
76	イ	いる※	いる	上一	小鳥が とんで います。	11	93		
77	イ	いる※	いる	上一	じどうしゃが たくさん はしって います。	11	93		
78	イ	いる※	いる	上一	いま、雨が ふって います。	11	93		
79	イ	いる※	いる	上一	かぜが ふいて います。	11	93		
80	イ	いる※	いる	上一	子どもたちが やきゅうを やって います。	11	93		
81	イ	いる※	いる	上一	学生たちは いま ギターを ひいたり、うたったり して います。	12	101		
82	イ	いる※	いる	上一	あの 赤ちゃんは ないたり わらったり して います。	12	102		
83	イ	いる※	いる	上一	わたしは いま この まちの れきしに ついて しらべて います。	12	103		
84	イ	いる※	いる	上一	今、友だちに あげる 物を さがして います。	13	108		
85	イ	いる※	いる	上一	その 店には わたしの 友だちが つとめて います。	13	108		
86	イ	いる※	いる	上一	安くて、いい 時計を 売って いる 店を 知って いますか。	13	108		
87	イ	いる※	いる	上一	安くて、いい 時計を 売って いる 店を 知って いますか。	13	108		
88	イ	いる※	いる	上一	せんもんの 店は 知りませんが、デパートは 知って います。	13	108		
89	イ	いる※	いる	上一	タンさんは、今、何を さがして いますか。	13	110		
90	イ	いる※	いる	上一	ぎんざに ある 店には だれの 友だちが つとめて いますか。	13	110		
91	イ	いる※	いる	上一	パーティーは どこで やるか、(場所を) 知って います。	13	111		
92	イ	いる※	いる	上一	あなたは ジョンさんの じゅうしょを 知って いますか。いいえ、知りません。	13	111		
93	イ	いる※	いる	上一	「さようなら。」と いう 日本語の ことばを 知って いますか。	13	112		
94	イ	いる※	いる	上一	兄は すみよし町 五丁目 十番地と いう 所に すんで います。	13	112		
95	イ	いる※	いる	上一	今、あたらしい カメラを かいたいと おもって います。	14	115		
96	イ	いる※	いる	上一	今、使って いる カメラは どんな カメラですか。	14	115		
97	イ	いる※	いる	上一	お子さんの 写真を 写したいと 言って います。	14	117		
98	イ	いる※	いる	上一	おとうとは 外国の 大学で べんきょうしたいと 言って います。	14	118		
99	イ	いる※	いる	上一	あの 男の 子は 何か つめたい のみ物が ほしいと 言って います。	14	118		
100	イ	いる※	いる	上一	ジョンさんは 国へ かえりたいと 言って います。	14	118		
101	イ	いる※	いる	上一	ジョンさんは じゆうな 時間が ほしいと 言って います。	14	118		
102	イ	いる※	いる	上一	毎日 しょくどうで 食べて います。	15	124		
103	イ	いる※	いる	上一	ええ、わたしも もっと 体を じょうぶに しなければ ならないと おもって います。	15	125		
104	イ	いる※	いる	上一	その 時は、ちょっと へんだと おもいましたが、今は いい しゅうかんだと おもって います。	15	125		
105	イ	いる※	いる	上一	JRも ほかの 私鉄も 学生の ていきの りょうきんを 四十パーセントも 安く して います。	15	126		
106	イ	いる※	いる	上一	学生は 毎しゅう 発音の テストを 受けて います。	15	129		
107	イ	いる※	いる	上一	わたしは 毎日 母の 仕事を てつだって います。	15	129		
108	イ	いる※	いる	上一	わたしは 毎年 ふじさんに 登って います。	15	129		
109	イ	いる※	いる	上一	いいえ、まだ パンを 食べて いません。	15	130		
110	イ	いる※	いる	上一	いいえ、まだ きめて いません。	16	132		
111	イ	いる※	いる	上一	まだ きめて いませんが、もし りょうきんが 安かったら、りょかんに します。	16	133		
112	イ	いる※	いる	上一	その 家の 人は、ふつうは、のうぎょうとか 漁業とか ほかの 仕事を して います。	16	133		
113	イ	いる※	いる	上一	車は、今、どのへんを はしって いますか。	17	143		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
114	イ	いる※	いる	上一	マナさんは 坂を 上って います。	17	147		
115	イ	いる※	いる	上一	マナさんは かいだんを 下りて います。	17	147		
116	イ	いる※	いる	上一	子どもたちは 野原を さんぽ して います。	17	147		
117	イ	いる※	いる	上一	あの 犬は 木の まわりを 回って います。	17	147		
118	イ	いる※	いる	上一	学生たちは 自由に 好きな ことを して います。	17	148		
119	イ	いる※	いる	上一	マナさんは おなかが いたいと 言って、ねて います。	18	151		
120	イ	いる※	いる	上一	あねは となりの 村に 住んで います。	19	162		
121	イ	いる※	いる	上一	兄は まだ 独身で、横浜で 先生を して います。	19	162		
122	イ	いる※	いる	上一	りょうしんは いなかで 農業を やって います。	19	162		
123	イ	いる※	いる	上一	ほら、あそこで うたを うたいながら、おどって います。	19	164		
124	イ	いる※	いる	上一	お兄さんと おねえさんは 何を して いますか。	19	164		
125	イ	いる※	いる	上一	ごりょうしんは どこで 何を して いますか。	19	164		
126	イ	いる※	いる	上一	学生たちは メモを とりながら、話を 聞いて います。	19	166		
127	イ	いる※	いる	上一	今、この パソコンを 使って 論文の 資料を 作って います。	20	173		
128	イ	いる※	いる	上一	大学院には 進まずに、帰国して、商社の ような 所に つとめようと 思って います。	20	174		
129	イ	いる※	いる	上一	これから、いっしょうけんめいに やろうと 思って います。	20	174		
130	イ	いる※	いる	上一	アリさんは、どんな 所に つとめようと 思って いますか。	20	175		
131	イ	いる※	いる	上一	(わたしは)あした 母に こくさい電話を かけようと 思って います。	20	176		
132	イ	いる※	いる	上一	(わたしは)大学院で 西洋史を 専門に べんきょうしようと 思って います。	20	176		
133	イ	いる※	いる	上一	(わたしは)来年 また 日本へ 来ようと 思って います。	20	176		
134	イ	いる※	いる	上一	わたしは、マリアさんが 好きですが、結婚しようとは 思って いません。	20	176		
135	イ	いる※	いる	上一	わたしは、英語を べんきょうして いますが、通訳に なろうとは 思って いません。	20	176		
136	イ	いる※	いる	上一	わたしは、英語を べんきょうして いますが、通訳に なろうとは 思って いません。	20	176		
137	イ	いる※	いる	上一	わたしは、こくさいもんだいに ついて 論文を 書こうと 思って います。	20	176		
138	イ	いる※	いる	上一	はい、その つもりで、外国語を べんきょうして います。	20	176		
139	イ	いる※	いる	上一	留学生は、国の ために、べんきょうして います。	20	177		
140	イ	いる※	いる	上一	あの 人は、かさを ささずに 歩いて います。	20	178		
141	イ	いる※	いる	上一	あの 人は、かさを ささないで 歩いて います。	20	178		
142	イ	いる※	いる	上一	弟は、うでを 組んで かんがえて います。	20	178		
143	イ	いる※	いる	上一	兄は、横に なって おんがくの 放送を 聞いて います。	20	178		
144	イ	いる※	いる	上一	祖父は、めがねを かけないで、テレビの 画面の 小さい 字を 見て います。	20	178		
145	イ	いる※	いる	上一	祖父は、めがねを かけずに、テレビの 画面の 小さい 字を 見て います。	20	178		
146	イ	いる※	いる	上一	それまで りょうで 待って いて ください。	21	184		シテクダサイ
147	イ	いる※	いる	上一	知って いる 書店に たのんで みましょう。	21	185		
148	イ	いる※	いる	上一	らいしゅう、北海道へ 行きたいと 思って います。	21	188		
149	イ	いる※	いる	上一	まるで 子どものように さわいで いますね。	23	201		
150	イ	いる※	いる	上一	ほら、アリさんたちも、楽しそうに ゲームを して いますよ。	23	201		
151	イ	いる※	いる	上一	あ、発車の ベルが 鳴って いますよ。	23	201		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
152	イ	いる※	いる	上一	制服を 着た 学生たちが おみやげを 買って いますね。	23	202		
153	イ	いる※	いる	上一	学生たちは 眠そうに 先生の 話を 聞いて います。	23	204		
154	イ	いる※	いる	上一	母は 心配そうに 医者の 話を 聞いて います。	23	204		
155	イ	いる※	いる	上一	いもうとは、こわそうに 大きい 犬を 見て います。	23	204		
156	イ	いる※	いる	上一	子どもたちが さわいで いるのが 聞こえました。	23	205		
157	イ	いる※	いる	上一	学生たちは、家族から 手紙が 来るのを 待って います。	23	205		
158	イ	いる※	いる	上一	学生たちは、夕日が しずむのを 見て いました。	23	205		
159	イ	いる※	いる	上一	この 村では 年を とった 人たちが 農業を やって います。	23	207		
160	イ	いる※	いる	上一	この 本は、・・・・・・、日本の 若い 人たちにも よく 読まれて います。	24	210		
161	イ	いる※	いる	上一	日本は・・・・・・古い 文化も 大切に されて いる ことが わかりました。	24	212		
162	イ	いる※	いる	上一	日本は 工業国だと 言われて いますが、	24	212		
163	イ	いる※	いる	上一	元旦の 夜、マナさんの 見て いた テレビでは どんな 番組が 放送されましたか。	24	213		
164	イ	いる※	いる	上一	その 本は、どうして 日本の 若者に よく 読まれて いるのですか。	24	213		
165	イ	いる※	いる	上一	あの 先生は 学生たちに そんけいされて います。	24	214		
166	イ	いる※	いる	上一	この 新聞は 地方の 人たちに 読まれて います。	24	215		
167	イ	いる※	いる	上一	この 歌は 若い 人たちに 愛されて います。	24	215		
168	イ	いる※	いる	上一	その 国の 古い 文化は 国民に 大切に されて います。	24	215		
169	イ	いる※	いる	上一	地方では 毎年 いろいろな 古い 行事が 行われて います。	24	215		
170	イ	いる※	いる	上一	立った まま、（すわらずに） ご飯を 食べて います。	24	216		
171	イ	いる※	いる	上一	いつも 雪を 見たがって いたのに、起きて 来ませんね。	25	221		
172	イ	いる※	いる	上一	わたしは、雪国で 生まれたから、その きびしさを よく 知って います。	25	221		
173	イ	いる※	いる	上一	自習室で 勉強して いたので、雪には 全然 気が つきませんでした。	25	221		
174	イ	いる※	いる	上一	見てばかり いるのは つまらないから. . . 。	25	223		
175	イ	いる※	いる	上一	あの 人は いつも 人の まねばかり して います。	25	224		
176	イ	いる※	いる	上一	あの 人は なまけてばかり います。	25	224		
177	イ	いる※	いる	上一	弟は、勉強せずに、遊んでばかり います。	25	224		
178	イ	いる※	いる	上一	マナさんは どうも 勉強が きらいな ようです。いつも 外で 遊んで います。	25	224		
179	イ	いる※	いる	上一	あの 人の 言って いる ことは うそばかりです。	25	224		
180	イ	いる※	いる	上一	ニュースで 言って いましたが、きのうは 地下鉄が 不通だった ようです。	25	224		
181	イ	いる※	いる	上一	毎日 雨ばかり 降って います。	25	224		
182	イ	いる※	いる	上一	兄は 外国へ 行きたがって います。	25	225		
183	イ	いる※	いる	上一	タンさんは、家族から 手紙が 来ないので、さびしがって います。	25	225		
184	イ	いる※	いる	上一	田中さんは、奨学金が もらえなかったので、残念がって います。	25	225		
185	イ	いる※	いる	上一	マナさんは、じゅぎょうの 時、まちがえてばかり います。	25	225		
186	イ	いる※	いる	上一	わたしは、いつも 母に しかられてばかり います。	25	225		
187	イ	いる※	いる	上一	学生たちは 部屋で 自習して いる ところです。	25	225	シテイルトコロ	
188	イ	いる※	いる	上一	わたしは、今、食事を して いる ところです。	25	225	シテイルトコロ	
189	イ	いる※	いる	上一	今日は 天気が いいです。それなのに、あの 人は ずっと 家で ねて います。	25	225		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
190	イ	いる※	いる	上一	今日は　天気が　いいのに、あの　人は　ずっと　家で　ねて　います。	25	225		
191	イ	いる※	いる	上一	わたしも、去年、行って　よかったと　思って　います。	26	229		
192	イ	いる※	いる	上一	マナさん、女の　人の　方ばかり　見て　いないで、中に　入りましょう。	26	231		
193	イ	いる※	いる	上一	赤ちゃんが　寝て　いる　間に、この　辺を　かたづけましょう。	26	233		
194	イ	いる※	いる	上一	わたしは、話を　聞いて　いる　間、とても　眠かったです。	26	233		
195	イ	いる※	いる	上一	母が　買い物を　して　いる　間、父は　車の　中で　待って　いました。	26	233		
196	イ	いる※	いる	上一	父は　車の　中で　待って　いました。	26	233		
197	イ	いる※	いる	上一	友だちの　中村くんが　母校で　教えて　います。	27	237		
198	イ	いる※	いる	上一	あまり　させて　いません。	27	238		
199	イ	いる※	いる	上一	宿題は　毎日　させて　いますか。	27	238		
200	イ	いる※	いる	上一	皆　熱心に　やって　います。	27	238		
201	イ	いる※	いる	上一	タンさんが　見学に　行った　時、生徒たちは　どんな　実験を　して　いましたか。	27	239		
202	イ	いる※	いる	上一	生徒も、先生の　言う　とおりに、熱心に　勉強して　いた。	27	239		
203	イ	いる※	いる	上一	兄は　母校の　東京大学で　教えて　います。	27	242		
204	イ	いる※	いる	上一	いとう先生は、なぜ、マリアさんの　話を　聞きたがって　いたのですか。	28	248		
205	イ	いる※	いる	上一	この　手紙は、受け取ったばかりですから、まだ　読んで　いません。	28	251		
206	イ	いる※	いる	上一	中村さんは、しあいで　友だちに　勝った　らしいです。喜んで　います。	28	251		
207	イ	いる※	いる	上一	この　本は　弟にでも　やろうかと　思って　います。	28	252		
208	イ	いる※	いる	上一	その　子は「お母さんが　いなく　なっちゃった。」と　言って、泣いて　います。	28	252		
209	イ	いる※	いる	上一	先生は・・・・・マリアさんの　話を　聞きたいって　おっしゃってましたよ。	28	246		
210	イ	いる※	いる	上一	でも、今は　みんな　いい　経験だったと　思ってます。	28	246		
211	イ	いる※	いる	上一	ここで　待ってて　ください。	28	253		シテクダサイ
212	イ	いる※	いる	上一	父は　新聞を　読んでるし、母は　料理を　作ってます。	28	253		
213	イ	いる※	いる	上一	父は　新聞を　読んでるし、母は　料理を　作ってます。	28	253		
214	イ	いる※	いる	上一	外で　人びとを　むかえて　います。	Y2	262		
215	イ	いる※	いる	上一	日本人が　毎日　つかって　いる　文字には、	Y3	263		
216	イ	いる※	いる	上一	13パーセントは、アメリカで　使って　います。	Y4	266		
217	イ	いる※	いる	上一	今、日本では、せかいの　ロボットの、やく　70パーセントを　使って　います。	Y4	266		
218	イ	いる※	いる	上一	日本では、せかいの　ロボットの　何パーセントぐらいを　使って　いますか。	Y4	267		
219	イ	いる※	いる	上一	なくなった　かぞくや　先祖が　うちへ　かえって　来ると　かんがえて　います。	Y5	268		
220	イ	いる※	いる	上一	日本では　じしんの　研究が　進んで　いるので、丈夫な　たてものが　多い。	Y6	271		
221	イ	いる※	いる	上一	火を　使って　いれば、すぐ　その　火を　けさなければ　ならない。	Y6	271	スレバ	
222	イ	いる※	いる	上一	1分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫だから、火や　ガスなどが　安全か　どうか、しらべる。	Y6	271	シテモ	
223	イ	いる※	いる	上一	じしんが　おきた　時、火を　使って　いれば、どう　しなければ　なりませんか。	Y6	272	スレバ	
224	イ	いる※	いる	上一	何分ぐらい　たてば、じしんが　続いて　いても、大丈夫ですか。	Y6	272	シテモ	
225	イ	いる※	いる	上一	くわしい　ことは、まだ　よく　わかって　いない。	Y8	275		
226	イ	いる※	いる	上一	中が　どう　なって　いるのか、くわしい　ことは、まだ　よく　わかって　いない。	Y8	275		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
227	イ	いる※	いる	上一	石油や　石炭も、いつか　なくなると　言われて　いる。	Y8	275		
228	イ	いる※	いる	上一	陸に　ある　物の　3ばいぐらい　あると　かんがえられて　いる。	Y8	275		
229	イ	いる※	いる	上一	遠い　昔、人間は　海の　中に　いた　動物から　進化したと　言われて　いる。	Y8	276		
230	イ	いる※	いる	上一	昔、ある　村に　一人の　びんぼうな　若者が　住んで　いました。	Y9	277		
231	イ	いる※	いる	上一	雪の　降る　夜、若者が　家の　中で　仕事を　して　いる　時、	Y9	277		
232	イ	いる※	いる	上一	つるは、羽に　けがを　して、苦しそうに　鳴いて　いました。	Y9	277		
233	イ	いる※	いる	上一	いつも　まじめに　働いて　いましたが、生活は　全然　楽に　なりませんでした。	Y9	277		
234	イ	いる※	いる	上一	でも、私が　仕事を　して　いる　時は、部屋の　中を　見ないで　ください。	Y9	278		
235	イ	いる※	いる	上一	娘は、部屋に　入った　まま、ずっと　中で　仕事を　して　いました。	Y9	278		
236	イ	いる※	いる	上一	部屋の　中では、やせた　つるが　自分の　羽を　一本　一本　取り、それで　布を　作って　いたのです。	Y9	279		
237	イ	いる※	いる	上一	娘の　働いて　いる　部屋へ　行って　みました。	Y9	279		
238	イ	いる※	いる	上一	夕方の　空を　白い　つるが　とんで　いるのが　見えました。	Y9	280		
239	イ	いる※	いる	上一	タンさんは、いつ　先生の　学校へ　行きたいと　言って　いますか。	Y10	284		
240	イ	いる※	いる	上一	タンさんは、学校で　どんな　ことを　見学したいと　言って　いますか。	Y10	284		
241	イ	いる※	いる	上一	せんしゅうから　友だちが　日本に　来て　います。	13	108		
242	イ	いる※	いる	上一	兄は　タイに　行って　います。今、タイに　います。	13	111		
243	イ	いる※	いる	上一	マナさんは　日本に　来て　います。今、日本に　います。	13	111		
244	イ	いる※	いる	上一	ジョンさんは　国に　かえって　います。	13	111		
245	イ	いる※	いる	上一	いいえ、まだ　来て　いません。	15	129		
246	イ	いる※	いる	上一	いいえ、まだ　送って　いません。	15	129		
247	イ	いる※	いる	上一	なりたまで　友だちを　むかえに　行って　いるのです。	18	159		
248	イ	いる※	いる	上一	あそこに　立って　いる　人です。	13	109		
249	イ	いる※	いる	上一	まだ　三か月しか　たって　いません。	15	124		
250	イ	いる※	いる	上一	森の　中に　えだが　たくさん　おちて　いました。	17	144		
251	イ	いる※	いる	上一	森の　中に　えだが　おちて　いましたか。	17	145		
252	イ	いる※	いる	上一	道に　さいふが　おちて　います。	17	147		
253	イ	いる※	いる	上一	わたしは、あまり　数学を　べんきょうせずに、日本へ　来たので、今、ちょっと　こまって　います。	20	174		
254	イ	いる※	いる	上一	風が　ふいて、戸が　開きました。今、戸が　開いて　います。	22	198		
255	イ	いる※	いる	上一	今、火が　消えて　います。	22	198		
256	イ	いる※	いる	上一	部屋の　電気が　消えて　います。	25	224		
257	イ	いる※	いる	上一	電気が　消えて　います。	28	251		
258	イ	いる※	いる	上一	あの　人は、さびしそうに　一人で　すわって　います。	23	204		
259	イ	いる※	いる	上一	家に　帰る　途中で、野原の　雪の　中に　つるが　たおれて　いるのを　見つけました。	Y9	277		
260	イ	いる※	いる	上一	そこには　一人の　美しい　娘が　立って　いました。	Y9	277		
261	イ	いる※	いる	上一	茶色の　上着を　着て　いる　方ですか。	13	109		
262	イ	いる※	いる	上一	よしださんは　どんな　ふくを　着て　いましたか。	13	110		
263	イ	いる※	いる	上一	よしださんは　めがねを　かけて　いますか。	13	110		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
264	イ	いる※	いる	上一	タンさんは　何色の　ぼうしを　かぶって　いますか。	13	111		
265	イ	いる※	いる	上一	タンさんは　みどり色の　ぼうしを　かぶって　います。	13	111		
266	イ	いる※	いる	上一	マリアさんは　ピンクの　スカートを　はいて、黄色い　ハンドバックを　もって　います。	13	111		
267	イ	いる※	いる	上一	だれか　じしょを　もって　いる　人は　いませんか。	13	112		
268	イ	いる※	いる	上一	きれいな　ようふくを　着て　いますね。	18	158		
269	イ	いる※	いる	上一	まだ　上着も　ぬいで　いません。	28	251		
270	イ	いる※	いる	上一	ふかい　海の　中を　歩ける　服は　まだ　できて　いない。	Y8	275		
271	イ	いる※	いる	上一	もう　けっこんして　いて、子どもが　あります。	19	162	シテ	
272	イ	いる※	いる	上一	お兄さんも　けっこんして　いますか。	19	162		
273	イ	いる※	いる	上一	二人は　けっこんして　いますか。	19	164		
274	イ	いる※	いる	上一	おぼんは、別れて　いる　かぞくが　集まる　大切な　時なのです。	19	163		
275	イ	いる※	いる	上一	わたしは、マリアさんを　パーティーに　さそう　度に、ことわられて　います。	28	252		
276	イ	いる※	いる	上一	パンは　まだ　なくなって　いません。	15	130		
277	イ	いる※	いる	上一	さがみ湖の　そばを　通って　います。	17	143		
278	イ	いる※	いる	上一	向こうに　車が　たくさん　止まって　いますね。	17	143		
279	イ	いる※	いる	上一	東の　空には　もう　ほしが　出て　います。	17	145		
280	イ	いる※	いる	上一	今日は　空が　くもって　います。	17	147		
281	イ	いる※	いる	上一	山の　上に　月が　出て　います。	17	147		
282	イ	いる※	いる	上一	この　川は　せまい　谷を　流れて　います。	17	147		
283	イ	いる※	いる	上一	向こうに　店が　並んで　いますが、大学祭では、商売も　やるのですか。	22	194		
284	イ	いる※	いる	上一	わあ、おいしそうな　おべんとうが　並んで　いますね。	23	201		
285	イ	いる※	いる	上一	ほら、坂の　両側に　店が　並んで　いるのが　見えますね。	23	202		
286	イ	いる※	いる	上一	門の　前に　制服を　着た　けいさつかんが　並んで　います。	23	207		
287	イ	いる※	いる	上一	それに、魚や　海草も、私たちの　大切な　食べ物に　なって　いる。	Y8	275		
288	イ	いる※	いる	上一	マナさんは　けんこうほけんに　入って　いますか。	15	125		
289	イ	いる※	いる	上一	いいえ、入って　いません。	15	125		
290	イ	いる※	いる	上一	マナさんは　けんこうほけんに　入って　いますか。	15	126		
291	イ	いる※	いる	上一	でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。	15	126	シテモ	シテモカマワナイ
295	イ	いる※	いる	上一	でも、学生証は　もって　いても、いなくても　かまいません。	15	126	シナクテモ	シナクテモカマワナイ
292	イ	いる※	いる	上一	外出する　時、これを　もって　いなければ　なりませんか。	15	126		シナケレバナラナイ
293	イ	いる※	いる	上一	外国人登録証明書は　もって　いなければ　なりません。	15	126		シナケレバナラナイ
294	イ	いる※	いる	上一	外国人は、外出する　時、何を　もって　いなければ　なりませんか。	15	126		シナケレバナラナイ
296	イ	いる※	いる	上一	マナさんは　小林さんより　少し　やせて　います。	18	156		
297	イ	いる※	いる	上一	いいえ、マナさんは　小林さんほど　太って　いません。	18	156		
298	イ	いる※	いる	上一	マナさんは　小林さんと　同じぐらい　太って　いますか。	18	156		
299	イ	いる※	いる	上一	特に　地方には　昔の　行事が　そのまま　残って　います。	24	210		
300	イ	いる※	いる	上一	わたしは　兄弟の　中で　太って　いる　方です。	27	242		
301	イ	いる※	いる	上一	たくさん　残って　います。	28	251		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
302	イ	いる※	いる	上一	「木」は 「き」と いう 音を もって いますが、	Y3	263		
303	イ	いる※	いる	上一	お寺や 大仏など、むかしの 古い 物も たおれずに、たくさん のこって いる。	Y6	271		
304	イ	いる※	いる	上一	その しゅうかんは、今も のこって いて、食料品を おくる ことが 一番 多い。	Y7	273	シテ	
305	イ	いる※	いる	上一	お母さんは やまださんと よく にて いますね。	8	64		
306	イ	いる※	いる	上一	ほかの いなかの おぼんも、これと にて います。	Y5	268		
307	イ	いる※	いる	上一	あなたの 国にも、日本の おぼんに にて いる 行事が ありますか。	Y5	270		
308	イ	いる※	いる	上一	運動場に 草が 生えて います。	17	147		
309	イ	いる※	いる	上一	けさは 空が 晴れて います。	17	147		
310	イ	いる※	いる	上一	庭に 青い 花が さいて います。	17	147		
311	イ	いる※	いる	上一	ほかの 人たちも、うれしそうな 顔を して いますね。	23	201		
312	イ	いる※	いる	上一	もみじの葉は 赤い 色を して います。	23	204		
313	イ	いる※	いる	上一	あの 人は、はずかしそうな 顔を して います。	23	204		
314	イ	いる※	いる	上一	弟は、薬を のまなければ ならないので、いやそうな 顔を して います。	23	204		
315	イ	いる※	いる	上一	マリアさんは 青い 顔を して います。	23	204		
316	イ	いる※	いる	上一	この お皿は 丸い 形を して います。	23	204		
317	イ	いる※	いる	上一	星が 光って いるのが 見えます。	23	205		
318	イ	いる※	いる	上一	あの 雲は おかしの ような 形を して います。	23	205		
319	オ	おく※	おく	五	あれは、わたしが はって おいたのです。	22	193		
320	オ	おく※	おく	五	むずかしい ことばを わすれないように、メモを して おきました。	22	194		
321	オ	おく※	おく	五	友だちが 来るから、へやに 花を かざって おきました。	22	197		
322	オ	おく※	おく	五	財布や パスポートは、いつも 引き出しに しまって おきます。	22	197		
323	オ	おく※	おく	五	旅行の ために、新しい かばんを 買って おきました。	22	197		
324	オ	おく※	おく	五	帰って、すぐ ねられるように、へやに ふとんを しいて おきました。	22	198		
325	オ	おく※	おく	五	まちがえないように、スピーチの 練習を して おきたいのです。	22	193		シタイ
326	オ	おく※	おく	五	お茶が のみたいから、おゆを わかして おいて ください。	22	197		シテクダサイ
327	オ	おく※	おく	五	荷物は ロッカーに 入れて おきましょう。	23	202		シマショウ(誘いかけ)
328	オ	おく※	おく	五	あの 方は 花を かざって おかれました。	28	249		サレル(敬譲)
329	オ	おく※	おく	五	いもうとたちが 心配するから、父の 病気の ことは 言わないで おきます。	22	197		
330	オ	おく※	おく	五	今晩 パーティーが あるから、昼ご飯は あまり 食べないで おきましょう。	22	197		シマショウ(誘いかけ)
331	オ	おる※	おる	五	両親は 東京に 住んで おります。	28	250		敬譲
332	オ	おる※	おる	五	あの 時の 写真を 見る 度に、楽しかった ことを いろいろ 思い出して おります。	Y10	282		敬譲
333	オ	おる※	おる	五	毎日 暑い 日が 続いて おりますが、皆様、お元気で いらっしゃいますか。	Y10	282		敬譲
334	オ	おる※	おる	五	お渡ししようと 思って おります。	Y10	282		敬譲
335	オ	おる※	おる	五	授業や クラブ活動などを 見せて いただけたらと 思って おります。	Y10	283		敬譲
336	オ	おる※	おる	五	もし、よろしければ、いっしょに うかがいたいと 思って おります。	Y10	283		敬譲
337	カ	かえる※	かえる	五	わたしは 来年 国へ 日本の にんぎょうを もって かえります。	11	95		
338	カ	かえる※	かえる	五	わたしは 日本で おみやげを 買って かえります。	17	148		
339	ク	くださる※	くださる	五	すみませんが、先生に 言って ください。	10	81		シテクダサイ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
340	ク	くださる※	くださる	五	へんじを して ください。	10	81		シテクダサイ
341	ク	くださる※	くださる	五	だから、つかわないで ください。	10	82		シテクダサイ
342	ク	くださる※	くださる	五	あ、まだ、かえらないで ください。	10	82		シテクダサイ
343	ク	くださる※	くださる	五	みんなで うんどうじょうの そうじを して ください。	10	82		シテクダサイ
344	ク	くださる※	くださる	五	あぶないから、ボールや バットに ちゅういして ください。	10	82		シテクダサイ
345	ク	くださる※	くださる	五	すみませんが、かして ください。	10	83		シテクダサイ
346	ク	くださる※	くださる	五	どうぞ この 百円玉を つかって ください。	10	83		シテクダサイ
351	ク	くださる※	くださる	五	この くすりを のんで ください。	10	84		シテクダサイ
349	ク	くださる※	くださる	五	ちょっと まって ください。	10	84		シテクダサイ
354	ク	くださる※	くださる	五	すみませんが、戸を 開けて ください。	10	84		シテクダサイ
353	ク	くださる※	くださる	五	すみませんが、電気を つけて ください。	10	84		シテクダサイ
356	ク	くださる※	くださる	五	どうぞ わたしの じしょを つかって ください。	10	84		シテクダサイ
358	ク	くださる※	くださる	五	どうぞ わたしの へやで 休んで ください。	10	84		シテクダサイ
347	ク	くださる※	くださる	五	わたしの たんじょう日を わすれないで ください。	10	84		シテクダサイ
357	ク	くださる※	くださる	五	石を なげないで ください。	10	84		シテクダサイ
355	ク	くださる※	くださる	五	まどを 閉めないで ください。	10	84		シテクダサイ
352	ク	くださる※	くださる	五	まだ、電気を けさないで ください。	10	84		シテクダサイ
350	ク	くださる※	くださる	五	おさけを のまないで ください。	10	84		シテクダサイ
348	ク	くださる※	くださる	五	この じしょの つかい方を おしえて ください。	10	84		シテクダサイ
363	ク	くださる※	くださる	五	あぶない(です)から、右と 左を よく みて ください。	10	86		シテクダサイ
364	ク	くださる※	くださる	五	この かんじは たいせつですから、おぼえて ください。	10	86		シテクダサイ
361	ク	くださる※	くださる	五	だから、たばこを すわないで ください。	10	86		シテクダサイ
360	ク	くださる※	くださる	五	だから、つかわないで ください。	10	86		シテクダサイ
362	ク	くださる※	くださる	五	すみませんが、先生に 言って ください。—はい、わかりました。	10	86		シテクダサイ
365	ク	くださる※	くださる	五	すみませんが、これを かして ください。	10	86		シテクダサイ
359	ク	くださる※	くださる	五	どうぞ、つかって ください。	10	86		シテクダサイ
367	ク	くださる※	くださる	五	あ、ちょっと まって ください。	11	91		シテクダサイ
366	ク	くださる※	くださる	五	げんかんで まって いて ください。	11	91		シテクダサイ
368	ク	くださる※	くださる	五	しょくじの 前に、手を あらって ください。	11	94		シテクダサイ
369	ク	くださる※	くださる	五	中から だして ください。	12	98		シテクダサイ
370	ク	くださる※	くださる	五	この カードに 名前と へやの 番号を 書いて ください。	12	98		シテクダサイ
371	ク	くださる※	くださる	五	書いた あとで、見せて ください。	12	98		シテクダサイ
372	ク	くださる※	くださる	五	その はこの 中に 入れて ください。	12	99		シテクダサイ
373	ク	くださる※	くださる	五	本は らいしゅう かえして くださいね。	12	99		シテクダサイ
377	ク	くださる※	くださる	五	まだ れいぞうこから ビールを ださないで ください。	12	101		シテクダサイ
374	ク	くださる※	くださる	五	その たなから テープを とって ください。	12	101		シテクダサイ
376	ク	くださる※	くださる	五	しょくじを した あとで、この くすりを のんで ください。	12	101		シテクダサイ
375	ク	くださる※	くださる	五	しょくじの あとで、この くすりを のんで ください。	12	101		シテクダサイ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
378	ク	くださる※	くださる	五	バスの　中で　たったり　すわったり　しないで　ください。	12	102		シテクダサイ
379	ク	くださる※	くださる	五	あなたの　国の　けいざいに　ついて　はなして　ください。	12	103		シテクダサイ
380	ク	くださる※	くださる	五	その　店は　どこに　あるか、場所を　おしえて　ください。	13	108		シテクダサイ
381	ク	くださる※	くださる	五	パーティーは　何時に　はじまるか、(時間を)　おしえて　ください。	13	111		シテクダサイ
382	ク	くださる※	くださる	五	何か　おいしい　りょうりを　つくって　ください。	13	112		シテクダサイ
383	ク	くださる※	くださる	五	つれて　行って　ください。	14	116		シテクダサイ
384	ク	くださる※	くださる	五	あの　子の　お母さんに　たのんで　みて　ください。	14	116		シテクダサイ
385	ク	くださる※	くださる	五	マナさんも　けんこうに　ちゅういして　ください。	15	125		シテクダサイ
386	ク	くださる※	くださる	五	この　氷を　わって、半分に　して　ください。	15	128		シテクダサイ
388	ク	くださる※	くださる	五	(もし、)あした　天気が　良かったら、買い物に　行って　ください。	16	136		シテクダサイ
387	ク	くださる※	くださる	五	(もし、)あした　天気が　良く　なかったら、買い物に　行かないで　ください。	16	136		シテクダサイ
389	ク	くださる※	くださる	五	工業とか　商業とか　日本の　産業に　ついて　書いて　ください。	16	138		シテクダサイ
390	ク	くださる※	くださる	五	では、となりの　席に　乗って　ください。	17	143		シテクダサイ
391	ク	くださる※	くださる	五	マナさんは　森へ　行って、木の　えだを　あつめて　来て　ください。	17	144		シテクダサイ
392	ク	くださる※	くださる	五	歩道を　歩いて　ください。	17	147		シテクダサイ
393	ク	くださる※	くださる	五	あの　二番目の　かどを　まがって　ください。	17	147		シテクダサイ
394	ク	くださる※	くださる	五	もっと　速く　歩いて　ください。	17	148		シテクダサイ
395	ク	くださる※	くださる	五	ゆっくり　歩かないで　ください。	17	148		シテクダサイ
396	ク	くださる※	くださる	五	シャツの　ボタンを　外して、台の　上に　横に　なって　ください。	18	152		シテクダサイ
397	ク	くださる※	くださる	五	マナさん、この　くすりを　一日に　三回　のんで　ください。	18	153		シテクダサイ
398	ク	くださる※	くださる	五	たなかさんの　かぞくに　ついて　話して　ください。	19	164		シテクダサイ
399	ク	くださる※	くださる	五	どうぞ　また　あそびに　来て　ください。	20	175		シテクダサイ
400	ク	くださる※	くださる	五	表の　通りは　危ないから、車に　気を　つけて　帰って　ください。	20	175		シテクダサイ
401	ク	くださる※	くださる	五	ナイフと　フォークを　使って　肉を　切って　ください。	20	177		シテクダサイ
402	ク	くださる※	くださる	五	病気の　時は、おかゆの　ような　やわらかい　物を　食べて　ください。	20	178		シテクダサイ
404	ク	くださる※	くださる	五	使用中の　コンピュータに　さわらないで　ください。	20	179		シテクダサイ
403	ク	くださる※	くださる	五	心配しないで　ください。	20	179		シテクダサイ
405	ク	くださる※	くださる	五	それまで　りょうで　待って　いて　ください。	21	184		シテクダサイ
406	ク	くださる※	くださる	五	どうぞ　そこに　かけて　ください。	21	184		シテクダサイ
408	ク	くださる※	くださる	五	苦しくても、がんばって　ください。	21	185		シテクダサイ
407	ク	くださる※	くださる	五	教えて　ください。	21	185		シテクダサイ
409	ク	くださる※	くださる	五	国へ　帰らないなら、わたしの　家へ　あそびに　来て　ください。	21	188		シテクダサイ
410	ク	くださる※	くださる	五	それなら、わたしの　家へ　あそびに　来て　ください。	21	188		シテクダサイ
411	ク	くださる※	くださる	五	四時に　なったら、わたしの　所へ　来て　ください。	21	188		シテクダサイ
412	ク	くださる※	くださる	五	小林先生に　相談して　みて　ください。	21	189		シテクダサイ
413	ク	くださる※	くださる	五	日本の　若者に　あなたの　意見を　いろいろ　話して　来て　ください。	22	193		シテクダサイ
414	ク	くださる※	くださる	五	お茶が　のみたいから、おゆを　わかして　おいて　ください。	22	197		シテクダサイ
415	ク	くださる※	くださる	五	この　かみを　やぶらないように、気を　つけて　ください。	22	198		シテクダサイ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
417	ク	くださる※	くださる	五	子どもたちが さくらの えだを おらないように、注意して ください。	22	198		シテクダサイ
416	ク	くださる※	くださる	五	心配しないで ください。	22	198		シテクダサイ
418	ク	くださる※	くださる	五	すみませんが、あみだなから 荷物を 降ろすのを てつだって ください。	23	201		シテクダサイ
419	ク	くださる※	くださる	五	切れそうな ひもや 破れそうな 布は すてて ください。	23	205		シテクダサイ
421	ク	くださる※	くださる	五	かわいた 布で ガラスを みがいて ください。	23	207		シテクダサイ
420	ク	くださる※	くださる	五	作文は 四百字以上 六百字以内で 書いて ください。	23	207		シテクダサイ
422	ク	くださる※	くださる	五	ぜひ さそって ください。	24	211		シテクダサイ
423	ク	くださる※	くださる	五	この ごみを 全部 すてて しまって ください。	24	215		シテクダサイ
424	ク	くださる※	くださる	五	くつの まま、へやに 入らないで ください。	24	216		シテクダサイ
425	ク	くださる※	くださる	五	雪国の 生活の きびしさに ついて 話して ください。	25	223		シテクダサイ
426	ク	くださる※	くださる	五	学生たちは 部屋で 自習して いる ところです。静かに して ください。	25	225		シテクダサイ
427	ク	くださる※	くださる	五	今月の 末までに とうろん会の 委員を 決めて ください。	26	233		シテクダサイ
428	ク	くださる※	くださる	五	渡辺さん、実験の 結果を 発表して ください。	27	237		シテクダサイ
429	ク	くださる※	くださる	五	順番に 実験して ください。	27	237		シテクダサイ
430	ク	くださる※	くださる	五	この 電話を 使わせて ください。	27	240		シテクダサイ
431	ク	くださる※	くださる	五	わたしが やる とおりに、やって ください。	27	241		シテクダサイ
433	ク	くださる※	くださる	五	会社を 休む 場合は、理由を 言って ください。	27	242		シテクダサイ
434	ク	くださる※	くださる	五	お金が 必要な 場合は、知らせて ください。	27	242		シテクダサイ
432	ク	くださる※	くださる	五	欠席の 場合は、早く 返事を して ください。	27	242		シテクダサイ
435	ク	くださる※	くださる	五	何も ありませんが、召し上がって ください。	28	247		シテクダサイ
436	ク	くださる※	くださる	五	お幸せに なって ください。	28	251		シテクダサイ
437	ク	くださる※	くださる	五	ここで 待ってて ください。	28	253		シテクダサイ
441	ク	くださる※	くださる	五	どうぞ 中に 入って、休んで 行って ください。	Y9	278		シテクダサイ
440	ク	くださる※	くださる	五	さあ、火の そばへ 来て、あたたかい 物を 食べて ください。	Y9	278		シテクダサイ
438	ク	くださる※	くださる	五	その 布が できたら、町へ 売りに 行って ください。	Y9	278		シテクダサイ
439	ク	くださる※	くださる	五	でも、私が 仕事を して いる 時は、部屋の 中を 見ないで ください。	Y9	278		シテクダサイ
442	ク	くださる※	くださる	五	どうぞ お体を 大切に なさって くださいますように。	Y10	282	スルヨウニ命ジル	シテクダサイ
446	ク	くださる※	くださる	五	この ノートに おきゃくさんの じゅうしょと 氏名を 記入して くださいませんか。	16	133		シテクダサイマセンカ
443	ク	くださる※	くださる	五	日本の 小学校を 見学したいのですが、どこか 紹介して くださいませんか。	27	237		シテクダサイマセンカ
444	ク	くださる※	くださる	五	あしたは 休ませて くださいませんか。	27	240		シテクダサイマセンカ
445	ク	くださる※	くださる	五	すみませんが、ちょっと 休ませて くださいませんか。	Y9	278		シテクダサイマセンカ
447	ク	くださる※	くださる	五	先生は わたしに 本を かして くださいました。	22	196		
448	ク	くださる※	くださる	五	先生は わたしたちを 案内して くださいました。	22	196		
450	ク	くださる※	くださる	五	今日は 見学させて くださって、ありがとう ございました。	27	238	シテ	
449	ク	くださる※	くださる	五	先生は わたしを 休ませて くださいました。	27	240		
451	ク	くださる※	くださる	五	しんせつに して くださって、ありがとう ございました。	Y7	273	シテ	
452	ク	くる※	来る	カ変	かまくらの 地図を もって 来ましたか。	11	90		
453	ク	くる※	来る	カ変	はい、もって 来ました。	11	90		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
454	ク	くる※	来る	カ変	小林さんは なにを もって 来ましたか。	11	92		
455	ク	くる※	来る	カ変	わたしは 日本へ かぞくの しゃしんを もって 来ました。	11	95		
456	ク	くる※	来る	カ変	わたしは 母が くれた くすりを 日本に 持って 来ました。	15	124		
457	ク	くる※	来る	カ変	父は 妹に 新聞を 持って 来させました。	27	240	サセル	
458	ク	くる※	来る	カ変	家へ かえって 来る 時は、足の 速い 馬に 乗ります。	Y5	268		
459	ク	くる※	来る	カ変	先祖が 家へ かえって 来る 時は、乗り物が いるから、用意しなければ なりません。	Y5	268		
460	ク	くる※	来る	カ変	家の 前が 明るいと、どこに あるか、よく わかって、先祖が まっすぐ かえって 来られるのです。	Y5	268	デキル	
461	ク	くる※	来る	カ変	人びとは、おぼんに なると、なくなった かぞくや 先祖が うちへ かえって 来ると かんがえています。	Y5	268		
462	ク	くる※	来る	カ変	先祖は、どんな 乗り物に 乗って、かえって 来ますか。	Y5	270		
463	ク	くる※	来る	カ変	若者が お金を たくさん 持って、喜んで 帰って 来たので、娘も うれしそうな 顔を しました。	Y9	279		
464	ク	くる※	来る	カ変	わたしは、今、家へ 帰って 来たばかりです。	28	251	シタバカリ	
465	ク	くる※	来る	カ変	川を わたってから、西の 方へ はしって 来ましたね。	17	143		
466	ク	くる※	来る	カ変	犬が こちらへ はしって 来ます。	17	147		
467	ク	くる※	来る	カ変	人が へやの 中から こちらへ 出て 来ました。	17	148		
468	ク	くる※	来る	カ変	弟は、へやに 入った まま、外へ 出て 来ません。	24	216		
469	ク	くる※	来る	カ変	今日は しょくどうに 出て 来せんでしたね。	18	151		
470	ク	くる※	来る	カ変	マナさんは 森へ 行って、木の えだを あつめて 来て ください。	17	144		シテクダサイ
471	ク	くる※	来る	カ変	では、行って 来ます。	17	144		
472	ク	くる※	来る	カ変	マナさんは 森へ 行って、何を して 来ましたか。	17	145		
473	ク	くる※	来る	カ変	おまいりに 行って 来ました。	24	212		
474	ク	くる※	来る	カ変	わたしは、昼休みの 間に、銀行へ 行って 来ました。	26	233		
475	ク	くる※	来る	カ変	美しい 布を 持って、出て 来ました。	Y9	278		
476	ク	くる※	来る	カ変	若者に 見られたのを 知った 娘は、部屋から 出て 来て、静かに 言いました。	Y9	279	シテ	
477	ク	くる※	来る	カ変	地方から 出て 来た 若者は、なぜ、国へ 帰りたがらないのですか。	25	223		
478	ク	くる※	来る	カ変	地方から 出て 来た 若者は、国へは 帰りたがらない ようですね。	25	222		
479	ク	くる※	来る	カ変	もし、上から 何か おちて 来たら、危ないから、つくえや ベットなどの 下に 入る。	Y6	271	シタラ	
480	ク	くる※	来る	カ変	まどの ガラスが われて、おちて 来る ことが 多いからで ある。	Y6	272		
481	ク	くる※	来る	カ変	日本の 若者に あなたの 意見を いろいろ 話して 来て ください。	22	193		シテクダサイ
482	ク	くる※	来る	カ変	国の 母から、さしあげるようにと 送って 来た ものですので、	Y10	282		
483	ク	くる※	来る	カ変	父は 外国で おみやげを 買って 来ました。	17	148		
484	ク	くる※	来る	カ変	アリさんは 国で 日本語を ならって 来ました。	17	148		
485	ク	くる※	来る	カ変	いつも 雪を 見たがって いたのに、起きて 来ませんね。	25	221		
486	ク	くる※	くる	カ変	カメラの 技術は ずいぶん 進んで きました。	25	226		
487	ク	くる※	くる	カ変	わたしたちの 生活は だんだん 向上して きました。	25	226		
488	ク	くる※	くる	カ変	最近は、機械で 雪を 除いたり する 方法も 考えられて きました。	25	222		
489	ク	くる※	くる	カ変	ニュースに よると、未成年者の 交通事故が 増えて きた そうです。	26	232		～ソウダ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
490	ク	くる※	くる	カ変	それに、食べ物を 作る 農地も 足りなく なって きた。	Y8	275		
491	ク	くる※	くる	カ変	娘は、だんだん 顔色が わるく なり、やせて きましたが、	Y9	279		
492	ク	くる※	くる	カ変	昔から、雪国の 人たちは 雪と 戦って きたのです。	25	221		
493	ク	くる※	くる	カ変	人々は 昔から 自然と 戦って きました。	25	226		
494	ク	くる※	くる	カ変	人間は 陸の 上だけで 生活して きた。	Y8	275		
495	ク	くる※	くる	カ変	それで、宇宙開発と 同じように、海洋開発も 大切に なって きたのである。	Y8	275		
496	ク	くる※	くる	カ変	タンさん、雪が 降って きましたよ。	25	221		
497	ク	くる※	くる	カ変	雨が 降って きました。	25	226		
498	ク	くる※	くる	カ変	いい においが して きました。	25	226		
499	ク	くる※	くる	カ変	寒気が して きました。	25	226		
500	ク	くれる※	くれる	下一	小林さんが 送って くれたのです。	22	193		
501	ク	くれる※	くれる	下一	だれが 送って くれたのですか。	22	193		
502	ク	くれる※	くれる	下一	それは、だれが 送って くれたのですか。	22	195		
503	ク	くれる※	くれる	下一	友だちは わたしたちに 写真を 見せて くれました。	22	196		
504	ク	くれる※	くれる	下一	祖母は わたしを 育てて くれました。	22	196		
505	ク	くれる※	くれる	下一	友だちは わたしを 助けて くれました。	22	196		
506	ク	くれる※	くれる	下一	田中さんは わたしに 電話を 使わせて くれました。	27	240		
507	ク	くれる※	くれる	下一	小林さんは、お金を 借りた まま、返して くれません。	24	216		
508	ク	くれる※	くれる	下一	あに 人は ひまです。それなのに、この 仕事を てつだって くれません。	25	226		
509	ク	くれる※	くれる	下一	あの 人は ひまなのに、この 仕事を てつだって くれません。	25	226		
510	ク	くれる※	くれる	下一	町の 人々は、めずらしがって、高く 買って くれる はずです。	Y9	278		～ハズダ
511	ク	くれる※	くれる	下一	わたしの そばに いて くれ。	Y9	280		シテクレ
512	ク	くれる※	くれる	下一	わたしが わるかった。許して くれ。	Y9	280		シテクレ
513	シ	しまう※	しまう	五	一日で 全部 読んで しまいました。	24	210		
514	シ	しまう※	しまう	五	論文を 全部 書いて しまいました。	24	215		
515	シ	しまう※	しまう	五	この ごみを 全部 すてて しまって ください。	24	215		シテクダサイ
516	シ	しまう※	しまう	五	早く 二階の へやを かたづけて しまいましょう。	24	215		シマショウ(誘いかけ)
517	シ	しまう※	しまう	五	マナさんは、やまださんに かりた 本を 何日で 読んで しまいましたか。	24	213		
518	シ	しまう※	しまう	五	あした この 本を 読んで しまう つもりです。	24	215		～ツモリダ
519	シ	しまう※	しまう	五	先生は もう 論文を 書いて しまわれました。	28	249		サレル(敬譲)
520	シ	しまう※	しまう	五	ほんとうに 困って しまいました。	24	211		
521	シ	しまう※	しまう	五	タクシーの 後ろの 席に 忘れ物を して しまいました。(困りました。)	24	215		
522	シ	しまう※	しまう	五	道に まよって しまいました。(疲れました。)	24	215		
523	シ	しまう※	しまう	五	テレビが こわれて しまいました。(ざんねんです。)	24	216		
524	シ	しまう※	しまう	五	となりの 家の おじいさんが 亡くなって しまいました。(悲しいです。)	24	216		
525	シ	しまう※	しまう	五	ええ、少し 寒気が します。どうも かぜを ひいて しまった ようです。	25	224		～ヨウダ
526	シ	しまう※	しまう	五	おもしろくて、食事を するのも 忘れて しまいました。	24	210		
527	シ	しまう※	しまう	五	買ったばかりの 家具が こわれて しまいました。	28	251		

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
528	シ	しまう※	しまう	五	あの　時は、あがって　しまって、うまく　できませんでした。	28	247	シテ	
529	シ	しまう※	しまう	五	私は、しんるいの　家へ　行く　ところですが、途中で、道に　まよって　しまいました。	Y9	278		
530	シ	しまう※	しまう	五	若者は　中を　見て、びっくりして　しまいました。	Y9	279		
531	シ	しまう※	しまう	五	あなたは、私の　部屋の　中を　見ないと　約束したのに、見て　しまいましたね。	Y9	280		
532	シ	しまう※	しまう	五	つるは、悲しそうに　高い　声で　鳴きながら、夕やけの　赤い　雲の　中に　消えて　行って　しまいました。	Y9	280		
533	シ	しまう※	しまう	五	娘は、どうして　若者の　家を　出て　行って　しまったのですか。	Y9	281		
534	シ	しまう※	しまう	五	お渡しするのを　忘れて　しまいました。	Y10	282		
535	シ	しまう※	しまう	五	交通事故で　けがを　して　しまいました。	24	216		
536	シ	しまう※	しまう	五	じしんで　ガスも　水道も　止まって　しまいました。	24	216		
537	シ	しまう※	しまう	五	大きな　神社へ　行ったのですが、ひどい　目に　あって　しまいました。	24	210		
538	シ	しまう※	しまう	五	日本に　来たばかりの　時、ホームシックに　なって　しまいました。	28	251		
539	シ	しまう※	しまう	五	その　子は「お母さんが　いなく　なっちゃった。」と　言って、	28	252		
540	シ	しまう※	しまう	五	ジュースは　全部　飲んじゃいました。	28	252		
541	ス	すぎる※	すぎる	上一	わたしは、お酒を　のみすぎたので、頭が　いたく　なりました。	24	217		
542	ス	すぎる※	すぎる	上一	この　お茶は　熱すぎるから、のめません。	24	217		
543	ス	すぎる※	すぎる	上一	この　ひもは　短すぎて、使えません。	24	217	シテ	
544	ス	すぎる※	すぎる	上一	この　問題は　ふくざつすぎます。	24	217		
545	マ	まいる※	まいる	五	地図を　持って　まいりました。	28	250		敬譲
546	マ	まいる※	まいる	五	国の　絵はがきを　持って　まいりましたが、お渡しするのを　忘れて　しまいました。	Y10	282		敬譲
547	マ	まいる※	まいる	五	朝夕　だいぶ　すずしく　なって　まいりましたが、	Y10	283		敬譲
548	ミ	みる※	みる	上一	先生に　きいて　みましょう。	14	121		シマショウ(誘いかけ)
549	ミ	みる※	みる	上一	では、ほかの　りょうりを　かんがえて　みましょう。	16	134		シマショウ(誘いかけ)
550	ミ	みる※	みる	上一	おきられたら、行って　みましょう。	16	134		シマショウ(誘いかけ)
551	ミ	みる※	みる	上一	行って　みましょう。	16	138		シマショウ(誘いかけ)
552	ミ	みる※	みる	上一	ちょっと　湖の　方へ　行って　みましょう。	17	144		シマショウ(誘いかけ)
553	ミ	みる※	みる	上一	東京と　北海道を　比べて　みましょう。	18	157		シマショウ(誘いかけ)
554	ミ	みる※	みる	上一	知って　いる　書店に　たのんで　みましょう。	21	185		シマショウ(誘いかけ)
555	ミ	みる※	みる	上一	わたしたちも　行って　みましょう。	23	202		シマショウ(誘いかけ)
556	ミ	みる※	みる	上一	もう　一度　マナさんを　起こして　みましょう。	25	223		シマショウ(誘いかけ)
557	ミ	みる※	みる	上一	明日でも　小林さんの　家に　電話を　かけて　みましょう。	28	252		シマショウ(誘いかけ)
558	ミ	みる※	みる	上一	では、中村くんに　都合を　聞いて　みましょう。	27	237		シマショウ(意図)
559	ミ	みる※	みる	上一	行って　みたいですね。	14	116		シタイ
560	ミ	みる※	みる	上一	いつか　外国へ　行って　みたいです。	14	121		シタイ
561	ミ	みる※	みる	上一	わたしは、京都の　ような　古い　町に　住んで　みたいです。	20	178		シタイ
562	ミ	みる※	みる	上一	あの　子の　お母さんに　たのんで　みて　ください。	14	116		シテクダサイ
563	ミ	みる※	みる	上一	小林先生に　相談して　みて　ください。	21	189		シテクダサイ
564	ミ	みる※	みる	上一	わたしたちも　外へ　出て　みませんか。	25	223		シマセンカ

No.	A	B	C	D	E（当該の動詞が使われている文）	F	G	H	I
565	ミ	みる※	みる	上一	一つ　食べて　みませんか。	25	225		シマセンカ
566	ミ	みる※	みる	上一	つぎに、氷の　中に、食塩を　三分の一　ほど　まぜて　みなさい。	27	237		シナサイ
567	ミ	みる※	みる	上一	ちかくに　いい　店が　ありますが、行って　みますか。	14	115		
568	ミ	みる※	みる	上一	くつを　かう　前に、ちょっと　はいて　みました。	14	121		
569	ミ	みる※	みる	上一	そう　思いながら、若者は　戸を　開けて　みました。	Y9	277		
570	ミ	みる※	みる	上一	娘の　働いて　いる　部屋へ　行って　みました。	Y9	279		
571	モ	もらう※	もらう	五	この間、さとうさんに　てつだって　もらって、練習しました。	22	194	シテ	
572	モ	もらう※	もらう	五	ええ。来た　人に　料理を　食べて　もらったり、作品を　買って　もらったり　して、サークル活動の お金を　作るのです。	22	194	シタリ	
573	モ	もらう※	もらう	五	ええ。来た　人に　料理を　食べて　もらったり、作品を　買って　もらったり　して、サークル活動の お金を　作るのです。	22	194	シタリ	
574	モ	もらう※	もらう	五	マリアさんは、だれに　スピーチを　直して　もらいましたか。	22	195		
575	モ	もらう※	もらう	五	マナさんは　友だちに　助けて　もらいました。	22	197		
576	モ	もらう※	もらう	五	わたしは　祖母に　育てて　もらいました。	22	197		
577	モ	もらう※	もらう	五	わたしは　友だちに　写真を　見せて　もらいました。	22	197		
578	モ	もらう※	もらう	五	病気が　わるく　ならないように、医者に　みて　もらいました。	22	198		
579	モ	もらう※	もらう	五	お金が　無い　場合は、友だちに　かして　もらいます。	27	242		
580	モ	もらう※	もらう	五	薬を　飲んでも、だめな　場合は、医者に　みて　もらった　方が　いいでしょう。	27	242		
581	モ	もらう※	もらう	五	この　次には、うちにも　来て　もらおうね。	28	248		シヨウ
582	モ	もらう※	もらう	五	外国の人に　日本人の　この　しゅうかんを、りかいして　もらうのは、むずかしいかもしれない。	Y7	273		
583	モ	もらう※	もらう	五	外国でも、しんせつに　して　もらった　時や　助けて　もらった　時に、	Y7	274		
584	モ	もらう※	もらう	五	外国でも、しんせつに　して　もらった　時や　助けて　もらった　時に、	Y7	274		
585	モ	もらう※	もらう	五	しんせつに　して　もらった　時だけで　なく、	Y7	274		
586	ヤ	やる※	やる	五	では、写真を　とって　いもうとに　送って　やります。	22	194		
587	ヤ	やる※	やる	五	わたしは　弟に　テニスを　教えて　やりました。	22	196		
588	ヤ	やる※	やる	五	わたしは　弟を　ほめて　やりました。	22	196		
589	ヤ	やる※	やる	五	若者は、けがを　した　ところを　川の　水で　洗ったり、薬を　つけたり　して、助けて　やりました。	Y9	277		

東京外国語大学大学院総合国際学研究院

グローバルCOE「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」出版物

研究論文集

コーパスに基づく言語学教育研究論集　Ⅰ

International Symposium: Corpus and Variation in Linguistic Description and Language Education

Edited by Yuji KAWAGUCHI, Makoto MINEGISHI and Jacques DURAND
2009年 3 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究論集　Ⅱ

Proceedings of the Chulalongkorn-Japan Linguistics Symposium

Edited by Makoto MINEGISHI, Kingkarn THEPKANJANA, Wirote AROONMANAKUN and Mitsuaki ENDO
2009年 3 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究論集　Ⅲ

Geographical Typology and Linguistic Area —With Special Reference to Africa—

Edited by
Osamu HIEDA,
Christa KÖNIG and Hirosi NAKAGAWA
2010年 10月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究論集　Ⅳ

International Symposium
Corpus Analysis and Diachronic Linguistics

Edited by
Yuji KAWAGUCHI, Wolfgang VIERECK,
And Makoto MINEGISHI
2011年 7月 発行

研究報告集

コーパスに基づく言語学教育研究報告　1

コーパスを用いた言語研究の可能性

富盛 伸夫，峰岸 真琴，川口 裕司（編）
2009年 3 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究報告　2

言語記述から言語分析の応用へ

稗田　乃，峰岸 真琴，川口 裕司（編）
2009年 3 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究報告　3

フィールド調査，言語コーパス，言語情報学

峰岸 真琴，川口 裕司（編）
2009年 5 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究報告　4

コーパスを用いた言語研究の可能性Ⅱ

峰岸 真琴，稗田　乃，早津 恵美子，川口 裕司（編）
2010年 3 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究報告　5

フィールド調査，言語コーパス，言語情報学Ⅱ

峰岸 真琴，稗田　乃，早津 恵美子，川口 裕司（編）
2010年 6 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究報告　6

コーパスを用いた言語研究の可能性Ⅲ

峰岸 真琴，稗田　乃，早津 恵美子，川口 裕司（編）
2011年３月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究報告　7

フィールド調査，言語コーパス，言語情報学Ⅲ

峰岸 真琴，稗田　乃，早津 恵美子，川口 裕司（編）
2011年６月 発行

論文執筆支援集

論文執筆支援シリーズ　Ⅱ

外大生のための日本語研究ガイドブック

早津 恵美子（監修）
中山 健一　（編）
2009年３月 発行

論文執筆支援シリーズ　Ⅲ

ドイツ語コーパスハンドブック 2009

成田　節（監修）
カン・ミンギョン，時田 伊津子，
高橋 美穂，信國　萌（編）
2009年 5 月 発行

論文執筆支援シリーズ　Ⅳ

外大生のための日本語研究ガイドブック
―増補改訂版　2010―

早津 恵美子（監修）
中山 健一　（編）
2010年 10月 発行

論文執筆支援シリーズ　Ⅴ

Praat を用いた音響音声学的分析の初歩

中川　裕　（監修）
青井 隼人（著者）
言語音声学研究会（LPC）（編集協力）
2011年 2 月 発行

論文執筆支援シリーズ　Ⅵ

『太陽コーパス』の入門とケーススタディ

早津 恵美子（監修）
佐藤　佑　　（編）
2011年 3 月 発行

論文執筆支援シリーズ　Ⅶ

Praat を用いた音響音声学的分析の初歩
—増補改訂版

中川　裕　（監修）
青井 隼人（著）
言語音声学研究会（LPC）（編集協力）
2011年 9 月 発行

研究資料集

コーパスに基づく言語学教育研究資料　1

罗泊河苗语词汇集
A Vocabulary of Luobohe Miao

著者　田口 善久
2008年 3 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究資料　2

初級教科書の語彙分析
―動詞編(1) 語彙的な性質―

早津 恵美子（監修）
アクマタリエワ ジャクシルク，金 俸呈，辺 純影（編著）
2010年 2 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究資料　3

初級教科書の語彙分析
―動詞編(2) 文法的な性質―

早津 恵美子(HAYATSU Emiko)(監修)
アクマタリエワ ジャクシルク(AKMATALIEVA Jakshylyk),
金 俸呈(KIM Bongjung), 辺 純影(BYUN Soonyoung)(著者)
2012年 2 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究資料　4

大学生のための語彙論入門

早津 恵美子，佐藤　佑，茶谷 恭代，中山 健一，
福原 聡美（著）
2011年 12 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究資料　5

コーパスに基づく日本語受動文の実態

早津 恵美子（監修）
志波 彩子（著）
2012年 2 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究資料　6

コーパスに基づく日本語使役文・他動詞文の実態

早津 恵美子，高 京美（著）
2012年 2 月 発行

コーパスに基づく言語学教育研究資料 3　2012 年 2 月 14 日発行
初級教科書の語彙分析—動詞編(2) 文法的な性質—

発　　行：東京外国語大学 大学院総合国際学研究院
グローバルCOEプログラム
「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
〒183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1

監　　修：早津 恵美子 (HAYATSU Emiko)
著　　者：アクマタリエワ ジャクシルク (AKMATALIEVA Jakshylyk),
金 俸呈 (KIM Bongjung), 辺 純影 (BYUN Soonyoung)
印　　刷：日本ルート印刷出版株式会社